I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 1-(1) 収蔵品

1-(1)-(1) 収蔵品一覧表

平成23年3月31日現在

1-(1	一① 収慮品	月 見衣											干乃	人23年3	月oi c	15亿江
		国	Ė	東京	国立博物	物館	京都	国立博	物館	奈良	国立博	物館	九州	国立博	物館	
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
	合計	122, 102	130	943	113, 258	87	629	6, 584	27	177	1, 827	13	109	433	3	28
	絵画	13, 411	34	200	11, 089	20	100	1, 965	9	54	287	4	42	70	1	4
	書跡	3, 206	35	165	1, 720	14	57	1, 310	15	76	139	5	26	37	1	6
	彫刻	1, 406	1	45	1, 102	0	22	143	0	1	143	1	16	18	0	6
	建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
	金工	16, 378	3	54	15, 831	1	17	} 377	} 2	} 24	158	0	11	12	0	2
	刀剣	3, 419	20	57	3, 396	19	57	J	J	J	16	0	0	7	1	0
	陶磁	3, 755	0	17	2, 931	0	11	712	0	2	81	0	0	31	0	4
	漆工	4, 156	6	30	3, 735	4	20	192	0	2	74	2	5	155	0	3
	染織	4, 640	2	25	3, 627	0	18	895	1	6	92	1	1	26	0	0
	考古	29, 955	4	74	28, 529	4	55	659	0	10	731	0	8	36	0	1
J	民族資料	1, 300	0	0	1, 190	0	0	0	0	0	101	0	0	9	0	0
E	歷史資料	4, 188	0	6	3, 880	0	4	282	0	1	0	0	0	26	0	1
	和書	17, 562	0	1	17, 562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
	絵画	684	4	31	684	4	31									
	書跡	1, 648	10	12	1, 648	10	12									
	彫刻	798	0	20	798	0	20									
_	金工	986	0	0	986	0	0		,	/			/			/
東洋	陶磁	3, 006	0	10	3, 006	0	10		/			/			/	
	漆工	524	0	4	524	0	4									
	染織	585	0	1	585	0	1									
	考古	5, 809	0	3	5, 809	0	3	/	/		/	/		,	/	
	民族	3, 468	0	0	3, 468	0	0	/			/			/		
法隆	寺献納宝物	321	11	182	321	11	182	/						/		
黒田	記念館収蔵品	814	0	2	814	0	2	/			/			/		
準歴史	史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2	/			/			/		

^{*}東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

^{*}列品に編入されていない資料については「準歴史資料(含和書)」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示。

^{*}東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした(このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある)。

(参考) 【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要(主なもの) 保管及び所蔵文化財・資料名	数
株官及び別職文化財・資料石 「文化遺産部]	奴
国宝·重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝·重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,000枚
北浦定政関係資料(重要文化財)	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
一	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
4川喜幸関係資料	2.927点
十川苦羊闵怵貝科	2,927 景
[都城発掘調査部(平城地区)]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡(重要文化財)	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡(重要文化財)	1,785点
<u> </u>	
平城宮・京出土土器・土製品	-
<u> </u>	29,623箱
	32,047点
平城宮・京出土瓦類	623,116点
平城宮•京出土木簡	209,000点
[如此及恒讯本如/永良 苯医亚克汀	
[都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区)]	+
軒丸瓦•軒平瓦	軒丸瓦•軒平瓦
丸瓦・平瓦 土嚢袋	丸瓦·平瓦 土嚢袋
丸瓦・平瓦 整理箱	丸瓦·平瓦 整理箱
整理箱	土器 整理箱
土製品	土製品
木器·木製品	木器·木製品
木簡	木簡
建築部材	建築部材
金属製品	金属製品
石器·石製品	石器•石製品
漏刻復原模型	漏刻復原模型
幢幡復原模型(台付き)	幢幡復原模型(台付き)
飛鳥大仏頭部複製(模刻)	飛鳥大仏頭部複製(模刻)
藤ノ木古墳鞍復原模型	藤ノ木古墳鞍復原模型
富本銭枝銭復原模型	富本銭枝銭復原模型
碁盤復原模型	碁盤復原模型
鉄釜鋳造土坑復原模型	鉄釜鋳造土坑復原模型
「亦 点 次 心 允」	
[飛鳥資料館]	_+
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	<u>一式</u> 1点
	一
石人像 飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	1点 一式
	元一 五一
飛鳥寺出土瓦類	
	_ +1
山田寺跡出土品(重要文化財)	
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属)	1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚	1点 2点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石	1点 2点 8点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類	1点 2点 8点 一式
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏	1点 2点 8点 一式 2点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷	1点 2点 8点 一式 2点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等)	1点 2点 8点 一式 2点 1点 3面
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥·藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺黒山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装	1点 2点 8点 一式 2点 1点 1点 一式
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ	1点 2点 8点 一式 2点 1点 1点 一式
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型	1点 2点 8点 一式 2点 1点 0 3面 一式
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型	1点 2点 8点 一式 2点 1点 3面 一式点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳大物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻	1点 2点 8点 7式 2点 1点 3面 一式 1点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳大物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻	1点 2点 8点 7式 2点 1点 3面 一式 1点 1点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻 石人像復元模刻	1点 2点 8点 7式 2点 1点 3面 一式 1点 1点 1点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 亀石模刻 電子模刻 石人像復元模刻 日人像復元模刻	1点 2点 8点 一式 2点 3面 一式 1点 1点 1点 1点 1点 2点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 鬼石模刻 電所以五復元模刻 石人像復元模刻 出水酒船石模刻 四武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型	1点 2点 8点 一式 2点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 2点 33 1点 1点 23 33
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺県山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻 石人像復元模刻 出水酒船石模刻 阿武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型 川原寺伽藍1/50模型	1点 2点 8点 一式 2点 1点 3面式 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 鬼石模刻 電所以五復元模刻 石人像復元模刻 出水酒船石模刻 四武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型	1点 2点 8点 一式 2点 1点 3面式 1点 1点 1点 1点 2点 3点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻 石人像復元模刻 出水酒船石模刻 四武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型 川原寺伽藍1/50模型 山田寺金堂復原	1点 2点 8点 7点 2点 1点 3面 1点 1点 1点 1点 2点 3点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺黒山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻 五人像復元模刻 出水酒船石模刻 四武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型 川原寺伽藍1/50模型	1点 2点 8点 7式 2点 1点 3面 1点 1点 1点 1点 1点 2点 3点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点
山田寺跡出土品(重要文化財) 和田廃寺鴟尾(都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区所属) 川原寺出土水波紋土磚 岡出土車石 飛鳥各地出土瓦類 川原寺裏山出土三尊磚仏 飛鳥川原宮出土唐居敷 高松塚古墳壁画模写(前田青邨、平山郁夫等) 高松塚古墳人物復元衣装 石上神宮七枝刀レプリカ 水落遺跡遺構1/20模型 猿石模刻 亀石模刻 須弥山石復元模刻 石人像復元模刻 出水酒船石模刻 四武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型 川原寺伽藍1/50模型 山田寺金堂復原	一括 1点 2点 8点 一式点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点

平月	23年3月31日現在
保管及び所蔵文化財・資料名	数
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レブリカ銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	1点 4点
	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
│ 八釣マキト5号古墳石室 │ 十二支拓本(表装済み・収納箱あり)	1点
〒一文和本(衣表)の・収納相のり) キトラ古墳模型	<u>一式</u> 1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺 青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	一式
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
<u> 壬申の乱ジオラマ</u>	一式
 「埋蔵文化センター]	
□ 生成又化センター」 □ 埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料(15遺跡)	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
│ 東京都小豆沢貝塚資料 │ 茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	<u>大一</u> 大一
	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
<u>茨城県浮島貝塚資料</u>	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料 - 神奈川県保土・公民協会地	一式
□ 神奈川県保土ヶ谷貝塚資料 ・ 千葉県姥山貝塚資料	一式
丁朱宗兆山兵塚貞科 宮城県川下り・響き資料	<u>一</u> 一 <u> 一</u>
大木囲貝塚	10
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
│ 北海道資料 │ 発見地不詳縄文資料	一式 一式
<u> </u>	一五 一式
<u> </u>	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
<u>愛知県西滋賀貝塚資料</u> 	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料 関東地方埴輪資料	一式
	一式
加州水五日达州共和	1 1

1-(1)-② 平成22年度新収品一覧表

平成23	年3月31	1日現在

	(1/ 😉 1/3	~ <u>~~</u>			元汉									(20 + 0		
			立博物	館		国立博	物館		国立博	物館		国立博	物館		国立博	物館
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
	合計		591			482			58			15			36	
	計	65	70	456	4	23	455	23	35	0	7	8	0	31	4	1
	絵画	12	16	0	0	2	0	6	14	0	2	0	0	4	0	0
	書跡	9	12	1	1	3	1	2	8	0	1	1	0	5	0	0
	彫刻	1	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0
	建築	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	金工	13	4	0	0	0	0	13	4	0	0	0	0	0	0	0
	刀剣	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	陶磁	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
	漆工	5	11	0	2	2	0	1	4	0	1	5	0	1	0	0
	染織	13	7	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	13	2	0
	考古	3	2	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0
	民族資料	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	歴史資料	6	2	453	0	0	453	0	2	0	0	0	0	6	0	0
	和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵画	0	0	0	0	0	0									
	書跡	0	0	0	0	0	0									
	彫刻	0	0	0	0	0	0									/
車	金工	0	0	0	0	0	0			/			/			/
東洋	陶磁	0	2	0	0	2	0									
'	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	1	0	0	1	0		•			•				
11.7	民族	0	10	0	0	10	0									
	全寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田	l記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

- *東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
 *16年度より、15年度以前「歴史資料」と分類していたのものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
 *平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

	1H1 V V I W X		<u>平成1</u>	8年度		平	成19年	度	平	成20年	度	平	成21年	度	平	成22年	度
		購入	寄贈	編入	除却	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
	合計		23	38			972			168			390			591	
	小計	53	173	13	1	93	68	811	52	113	3	46	148	196	65	70	456
	絵画	8	16	1	0	21	16	0	15	5	0	14	66	0	12	16	0
	書跡	3	24	0	0	5	2	0	12	25	0	5	11	0	9	12	1
	彫刻	0	8	0	0	1	9	0	4	0	0	2	12	0	1	2	1
	建築	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	金工	0	48	0	0	3	11	0	1	0	2	1	0	0	13	4	0
	刀剣	0	5	0	0	1	2	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0
	陶磁	4	3	0	0	14	1	0	1	2	0	7	16	0	2	0	0
	漆工	23	1	1	0	20	1	0	3	11	0	8	2	0	5	11	0
	染織	8	7	0	0	19	4	0	10	14	0	0	2	0	13	7	0
	考古	2	14	4	0	7	2	1	4	11	1	3	29	0	3	2	0
	民族資料	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	歴史資料	0	5	5	0	0	1	0	2	1	0	4	0	196	6	2	453
	和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵画	0	6	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0
	書跡	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	彫刻	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
東	金工	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	0	0	0	0	0	12	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0
' '	漆工	1	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	考古	3	4	0	0	1	3	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0
	民族	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	& 寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田	記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	809	0	0	0	0	5	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成22年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計482件)

(1) 購入(4件)

<書跡>(1件)

1 〇名 一休宗純墨跡 (いっきゅうそうじゅんぼくせき)

-休宗純(1394~1481)筆 〇作 者 等

室町時代・15世紀 〇時 代

〇品 紙本墨書

〇寸 法 等 1幅 本紙 縦 27.6 cm 横 67.2 cm ○作品概要 「峯松」及び七言四句の偈を記す。

(釈文)

峯松

萬年大樹摠無倫 葉々枚々翠色新

琴瑟不知誰氏曲

雲和天外奏陽春

一休子宗純老衲「一休」(朱方印)

『続禅林墨晴』所収。

<刀剣>(1件)

〇名 (重要文化財) 刀 (かたな)

〇作 者 等 伝当麻

代. 鎌倉時代・13世紀 ○時

〇品 鉄製

〇寸 法 等 1口 刃長 65.0 cm 反り 2.2 cm

形状 鎬造、庵棟、鎬幅広く、鎬高く、磨上げて反り浅くなり、中鋒。 〇作品概要 地鉄 板目に柾目が交ってやや肌立ち、地沸厚くつき、地景入る。

刃文 直刃調の小乱刃となり、沸よくつき、砂流かかり、金筋・稲妻よく入る。

帽子 表は焼詰め、裏は乱れごころとなり、先掃きかける。

苯 大磨上、先入山形、鑢目勝手下り、目釘孔2、指表に「ゆきふかき 山もかすみて ほのぼのと あけ行春の たきまちのそら 一翁」 と金象嵌銘がある。

<漆工>(2件)

菊螺鈿鞍 (きくらでんくら) 〇名 称

〇時 什 鎌倉時代・13~14世紀

〇品 質 木製漆塗

〇寸 法 等 1 背 前輪高 30.5 cm 後輪高 30.0 cm 居木長 43.0 cm

前輪と後輪の外側に、海・磯と称する段差をもうけた海有鞍。前輪の両肩に一段の手形を刳る。前輪と後輪の表面は黒漆塗として、螺鈿によっ 〇作品概要 て埋めつくすように菊の花枝・蜻蛉・蝶などを描いている。また両輪の内側にも、螺鈿によって菊の折枝を表わす。居木の上面は梨子地に仕立

てられており、裏面に墨書があり、居木そのものが後補と判明する。

〇名 称 源氏物語蒔絵源氏箪笥 (げんじものがたりまきえげんじたんす)

江戸時代・17~18世紀 〇時 代

木製漆塗 〇品 質

〇寸 法 等 1基 幅 42.7 cm 奥行 29.1 cm 高 33.1 cm

〇作品概要 前面に 1 枚の扉をつけた倹飩式の箪笥で、内に棚板を 2 枚設け、3 段 6 個の抽斗を収める。6 個の抽斗に、源氏物語の冊子を合計 53 冊(「行幸」 巻を欠失)収めている。表面は全体を梨子地として、扉外側と天面・側面・背面にかけて、高蒔絵と平蒔絵に金貝・切金・付描をまじえ、源氏 物語の諸場面を描いている。また箪笥の外側各面には、金貝と付描で表わした葵紋と梅鉢紋を散らす。さらに抽斗の前面に、平蒔絵・薄肉高蒔

絵に金貝・切金・付描を交え、源氏物語の諸帖を象徴する図柄を描いている。

(2) 寄贈 (23件)

<絵画>(2件)

〇名 風俗東之錦・萩見 (ふうぞくあずまのにしき・はぎみ)

〇作 者 等 鳥居清長 (1752~1815) 筆

代 江戸時代·18世紀 〇時

大判錦絵 O品 質

〇寸 法 等 1枚 縦38.6 cm 横25.2 cm

「風俗東之錦」は、全 20 図からなる鳥居清長を代表する揃物で、20 図の内、「萩見」と「春の野遊び」と題された 2 図のみ、2 枚続きで制作され 〇作品概要

ている。本図は、シリーズ中でも名品として知られる「萩見」のうちの左側の図である。

2 〇名 称 渡唐天神像 (ととうてんじんぞう)

室町時代・15世紀 〇時 代

〇品 質 紙本着色

〇寸 法 等 1幅 縦89.8cm 横34.5cm

〇作品概要 掛幅装 牙軸。正面を向いて立つ渡唐天神の全身を描く。本紙上部に賛があり、賛末に「澹居叟」の款と白文方印一顆、朱文重廓方印一顆があ

渡唐天神像は、室町時代・14世紀末の禅宗寺院に発生した渡唐天神説話(天神が中国に渡り、南宋時代の禅の名僧、無準師範に参禅して法衣 を授けられたという説話)に伴い描き始められ、室町時代の作例も数多く現存する。

<書跡>(3 件)

〇名 折手本蘭亭詩並後序 (おりてほんらんていしならびにこうじょ) 称

〇作 者 等 市河米庵 (1779~1858) 筆

〇時 代 江戸時代·嘉永2年(1849)

〇品 質 紙本墨書

〇寸 法 等 7帖 縦18.2cm 横9.5cm

折本装。王羲之父子等が詠じた「蘭亭詩並後序」を書し、また及び王羲之の「十七帖」の第一通を臨書する。落款から嘉永二年(1849)、米庵七 〇作品概要

十一歳の書であることが明らかである。

〇名 七言二句「丹楓落日」 (しちごんにく たんぷうらくじつ) 称

〇作 者 等 中林梧竹 (1827~1913) 筆

〇時 代 明治時代・20世紀

〇品 質 紙本墨書

〇寸 法 等 1幅 縦132 4 cm 35 0 cm

〇作品概要 宋の陸游の七言詩から「丹楓落日野橋晩、断鴈湿雲江路秋」の2句を記す。明治44年(1911)梧竹85歳の書という。

〇名 千字文 (せんじもん) 称

> 〇作 者 等 朱舜水 (1600~1682) 筆 〇時 代 江戸時代・寛文3年(1663)

OB質 紙本墨書

〇寸 法 等 1巻 本紙 縦23.8 横505.0

千字文全文を草書で書する。朱舜水が筑後柳川に居留していた寛文3年(1663)8月に、柳川藩士安藤省蕃(守約)のために書いた旨の奥書があ ○作品概要

る。安藤(安東)省菴は長崎滞在中の朱舜水に師事した後、柳川に招き、数年にわたってその亡命生活を援助した。

<漆工>(2件)

草取蒔絵螺鈿硯蓋 (くさとりまきえらでんすずりぶた) 〇名 称

○時 代. 江戸時代・18世紀

木製漆塗 〇品 啠

〇寸 法 等 1枚 縦24.5 cm 横23.0 cm 高4.0 cm

方形・丸角の硯蓋。表面は全体を黒漆塗として、口縁を金地とする。見込から立ち上がりの内側にかけて、金平蒔絵に螺鈿、鉛平文を交え、田 ○作品概要

に入って草取りをする人物を表わす。

〇名 称 現代根付 (げんだいねつけ)

昭和~平成時代・20~21世紀 〇時 代.

〇寸 法等 40 件

〇作品概要 象牙・鹿角・黄楊・黒檀・琥珀などの伝統的素材のほか、マンモス牙やセイウチ牙の化石、マホガニーやタグアナッツ、マカデミアナッツなど

様々な新しい材料を用い、自由な主題が表現される現代根付のコレクション。1980年代から殿下が薨去された2002年までに制作された作品が 多い。

<染織>(3件) 〇名 袱紗 紺繻子地長寿三老模様 (ふくさ こんしゅすじちょうじゅさんろうもよう) 称

〇時 代 江戸時代・19世紀

繻子に刺繍 質

〇寸 法 等 1枚 縦66 cm 横67.5 cm

○作品概要 紺繻子地に刺繍のみで「長寿三老」を表わした袱紗である。また、裏地には淡紅の繻子が用いられる。「長寿三老」とは、西王母から不老不死

の桃を盗んだ東方朔、浦島太郎、三浦大助の三人のことで、江戸時代には厄払いの門付などにも唱えられるようになった。それに鶴亀を合わせ た模様はまさに長寿を願う吉祥模様である。刺繍には唐繍に好まれる強撚糸が用いられ、平繍のほか、刺し繍、駒繍などを用い、立体感がある。 刺繍の上からさらに上刺しして衣服の模様や素材の質感を表現する技法は、江戸時代後期の技巧的な繍技の特徴である。毛髪の生え際、衣服の

陰影など、刺繍で表現が難しい部分には墨で補筆される。

振袖 鶸色縮緬地秋草几帳模様 (ふりそで ひわいろちりめんじあきくさきちょうもよう) ○名 称

〇時 代 江戸時代・19世紀

〇品 晳 縮緬地に友禅染と刺繍

1 領 身丈 174.5 cm 裄 63.0 cm 〇寸 法 等

〇作品概要 縮緬地を鶸色に染め、近景(腰下)に菊・萩・藤袴といった秋草模様を、遠景(腰上)に松に桜の模様を白上げにして、藍で色挿しを施し、紅・

紫の釜糸、撚金糸などで刺繍を加える。武家女性が好んだ四季折々の草花の中に几帳や檜扇といった王朝風の景物を配した模様はいわゆる御所 解模様と称し、江戸時代後期における武家女性が用いた様式化されたデザインである。

御所解模様には、総模様・腰模様・裾模様の別があり、本品は上臈以上が用いた総模様である。形状は振袖で、成人前の未婚女性が着用した ものである。裏地には紅絹を用い、中綿が入るほか、裾には厚めに綿が入る。

10 〇名 称 袱紗 鶸色縮緬地松梅鴛鴦模様 (ふくさ ひわいろちりめんじしょうばいえんおうもよう)

〇時 江戸時代·19世紀 代.

啠 縮緬地に友禅塾と刺繍

〇寸 法 等 1枚 縦64.0 cm 横64.5 cm

縮緬を鶸色に染め、模様の部分を白く染め残す白上げの技法を用いて、刺繍を加えて、雪が降り積もる松梅、橋がかかる流水、つがいの鴛鴦模 〇作品概要

様を表わす。刺繍は釜糸で平繍や刺し繍を施し、撚金糸による駒繍を加えて華やかさを添えた古典的な和刺繍であるが、一部片撚糸を用いたり 内部に詰め物を施して肉厚にしたりなど、立体的な表現も見られる。また、流水の部分には幕末に輸入されたプルシアンブルーが用いられて染 められている。松葉・菊の葉など、一部墨による上絵が施される。尚、裏地には淡紅繻子が用いられる。

<東洋陶磁>(2 件)

飴釉面取壺 (あめゆうめんとりつぼ) 11 〇名 称

〇時 代. 朝鮮時代 • 19c

〇寸 法 等 1口 高 17.6 cm 口径 10.7 cm 高台径 10.4 cm

白色磁質胎、轆轤成形による筒形の胴に十一の面取りを施した壺。高台を除き内外総体に飴釉を施す。釉面にはむらが生じている。高台に粗い ○作品概要

砂粒が付着している。

12 〇名 称 白釉蓮弁文鉢 (はくゆうれんべんもんはち)

〇作 者 等 磁州室

北宋時代·11 世紀 〇時 代

〇品 陶製

〇寸 法 等 1口 高 12.0 cm 口径 11.8 cm 高台径 6.9 cm

〇作品概要 胎は夾雑物の混じった淡褐色の陶質。

やや下膨れの深鉢で、外面に刀で粗く削りだした細長い蓮弁文が一周する。見込み中央には3つの目跡と焼成前についたと思われる疵が一筋

みられる。高台は削り出しており、周辺に爪跡がいくつかみとめられる。

外面の裾部分まで白土で化粧をし、透明釉を掛けている。高台は露胎。内面は口縁の下 2~3cm 程度まで化粧を施しているが、見込みは透明

釉のみ掛けている。

<東洋考古>(1件)

土偶 馬 (どぐう うま) 〇名 称

三国時代 (新羅)・6 世紀 〇時 代

O品 質

〇寸 法 等 1基 全長15.3 cm 高12.5 cm 幅10.4 cm

〇作品概要 中空に形作られた馬2頭の体躯に、面繋・胸繋・尻繋・障泥・鞍などの馬具を粘土で表現して貼り付けている。 たてがみの毛並みや、鞍・障泥の文様は線刻によって表現されている。

<東洋民族>(10件)

14 〇名 ワヤン・クリ ダストロストロ (わやん・くり だすとろすとろ) 称

○時 代. 21 世紀

〇品 質 水牛の革、角、骨製、彩色

〇寸 法 等 1体 全長 64.7 cm 像高 43.5 cm

〇作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物ダストロストロを表す。

15 〇名 ワヤン・クリ エムバン (わやん・くり えむばん)

〇時 代 20 世紀

水牛の革、角、骨製、彩色 OB皙

2体 各全長53.3 cm 像高32.7 cm 〇寸 法 等

〇作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタに登場する双子の官女エムバンを表す。

16 〇名 ワヤン・クリ ドゥルユドノ (わやん・くり どぅるゆどの) 称

21 世紀 ○時 代

質 水牛の革、角、骨製、彩色

〇寸 法 等 1体 全長 90.8 cm 像高 66.5 cm

〇作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物ドゥルユドノを表す。

17 〇名 称 ワヤン・クリ ドゥルソソノ (わやん・くり どぅるそその)

21 世紀 〇時 代

水牛の革、角、骨製、彩色 〇品 質

〇寸 法 等 1体 全長86.4 cm 俊高63.8 cm

〇作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物ドゥルソソノを表す。

18 〇名 ワヤン・クリ スンクニ (わやん・くり すんくに)

〇時 代. 21 世紀

質 水牛の革、角、骨、および竹製、彩色

〇寸 法 等 1体 全長 69.7 cm 像高 48.3 cm

○作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物スンクニを表す。

ワヤン・クリ ドゥルノ (わやん・くり どぅるの) 19 〇名 称

〇時 代 21 世紀

水牛の革、角、骨製、彩色 OB質

1体 全長 66.8 cm 像高 46.7 cm 〇寸 法 等

インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物ドゥルノを表す。 ○作品概要

20 〇名 称 ワヤン・クリ アスウォトモ (わやん・くり あすうぉとも)

21 世紀 〇時 代.

水牛の革、角、骨製、彩色 〇品 啠

〇寸 法等 1体 全長 71.2 cm 像高 47.7 cm

インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物アスウォトモを表す。 〇作品概要

21 〇名 ワヤン・クリ サルヨ (わやん・くり さるよ) 称

〇時 代 21 世紀

〇品 質 水牛の革、角、骨、および竹製、彩色

1体 全長 69.3 像高 49.9 〇寸 法 等

○作品概要 インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物サルヨを表す。

22 〇名 ワヤン・クリ カルノ (わやん・くり かるの)

〇時 代 21 世紀

水牛の革、角、骨、および竹製、彩色 啠

〇寸 法 等 1体 全長 68.7 cm 像高 49.3 cm

インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物カルノを表す。 〇作品概要

23 〇名 ワヤン・クリ ジュンクンマルデオ (わやん・くり じゅんくんまるでお) 称

〇時 代 21 世紀

水牛の革、角、骨および竹製、彩色

〇寸 法 等 1体 全長 69.4 cm 像高 49.4 cm

インドネシアの伝統的な影絵芝居ワヤン・クリに用いられる人形で、マハーバーラタの登場人物ジュンクンマルデオを表す。 〇作品概要

(3) 編入 (455件)

<書跡>(1件)

額字「春草廬」 (がくじ しゅんそうろ) ○名 称

〇作 者 等 良尚法親王(1622~1693)筆

〇時 代 江戸時代·17世紀

〇品 質 紙本墨書

〇寸 法等 1幅 本紙:縦22.0cm 横60.5cm

料紙に「春草蘆」と墨書する。江戸時代、河村瑞賢(1618~1699)が摂津淀川改修工事の際に建てた休憩所で、三渓園・柳瀬荘を経て昭和 34 〇作品概要 年に当館に移築された庭園内茶室「春草廬」の扁額の草稿と推測される。この扁額も曼殊院門跡良尚法親王(1622~1693)の筆で、三渓が耳庵 に贈ったもの。字は扁額と一致する。端に長方朱印(陽刻), 奥に方朱印(陰刻・陽刻)の計3か所の押印がある。

<彫刻>(1件)

〇名 称 女 (おんな)

〇作 者 等 荻原守衛(1879~1910)作

平成 22 年(2010) 〇時 代.

O品 質 ブロンズ製

〇寸 法 等 1 躯 像高 98.2 cm

〇作品概要 両手を後ろで組み、膝をついて上を向く裸婦像。目を閉じて眉を寄せる。本作品は、当館所蔵の荻原守衛「女」石膏原型(C-1593、重要文化財) を3D計測し、そのデータから原型を作成、それをもとに鋳型を製作し、本作品を鋳造した。

<歴史資料>(453件)

※準歴史資料からの編入は 454 件であったが、このうち 1 件は準歴史資料数を減じ収蔵品総数に影響しないため、編入件数としては 453 件を計上。

(歴史資料) 〇名 称

> 〇時 代. 江戸~大正時代・18~20世紀

卷子、掛軸、折仕立等/紙本墨画、紙本著色等 OB質

〇作品概要 いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和13年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属せなかった資料群である。 構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。平成 13 年度から、歴史資料を列品に編入する作業を行っており、本年度は 454 件を列品に編入する。その内容は種々多様で、今回編入にかかる中には

重要文化財「今井八九郎関係資料」をはじめ、即位儀礼関係の器物類の模写、全国各地の金石文の拓本などが含まれる。

【京都国立博物館】(計58件)

(1) 購入(23件)

<絵画>(6件)

〇名 柿本人麿像(かきのもとひとまろぞう)

〇作 者 等 狩野探幽筆・中院通村賛

江戸時代初期(1647年·正保4年) 〇時 代

〇品 質 紙本墨画

〇員 数 1幅

O4 法 縦 93.0cm 横 26.6cm

「歌聖」として崇拝された柿本人麿の像。直衣の衣紋線の流麗な描線、ぼかしを効かせた水墨描は絶妙で、身体のボリュウムが的確にあらわさ ○作品概要 れている。狩野探幽(1602~1674)の優品で、抜群の技量がしめされている。

和歌の賛者、中院通村(1588-1653)は、後水尾院歌壇で指導的な立場をつとめた堂上歌人で、款記の「内大臣」から正保4年(1647)通村60 歳時の書と分かる。探幽の落款の書風からみても、絵と書は同時期、探幽 46 歳の作とみてよい。

探幽のやまと絵の魅力をよくしめす作品であるとともに、中院通村という堂上人と探幽の直接的な交流をしめす貴重な作品であり、制作年が明 確な点でも基準作といえる。

〇名 やすらい祭絵巻・牛祭絵巻 (やすらいまつりえまき・うしまつりえまき) 称

(やすらい祭絵巻) 松村景文画 上田秋成書 (牛祭絵巻)河村文鳳画 上田秋成書 ○作 者 等

文化二年 (1805) 〇時 代 紙本墨画淡彩 〇品 質

〇員 数 2巻

(やすらい祭) 28 0×324 0cm (生祭) 28 0×261 0cm 04法

〇作品概要

やすらい祭は、今宮神社で 4 月、都の疫病退散を祈って行われる祭。画を担当する松村景文(1779-1843)は、兄の呉春のあとを継ぎ、四条派 の確立に貢献した。唱歌などを記す詞書は、大徳寺長老の獨菴宗譲、伴高蹊の養子で国学者の伴資規(?-1810)、上田秋成(1734-1809)の三 者によるもの。

牛祭は、太秦の広隆寺で10月の夜に行われる祭。画を担当する河村文鳳(1779-1821)は、岸駒に学んだ京の絵師。巻頭に天龍寺長老の峻堂 元機が祭の由来を書き、巻末に秋成が和歌を記す。

「没後 200 年記念 特別展観 上田秋成」で初公開となった作品であり、郷土の祭を描いた本作は、今後様々な角度からの展示活用が 期待される。伴資規筆 「也須羅比花祭古謡考」(一冊)が附属。

3 〇名 観音図 (かんのんず)

〇作 者 等 陳賢筆 即非賛

絖本墨画淡彩 〇品 啠

O 数 1幅

04 法 本紙 縦 31.5cm 横 47.4cm

〇作品概要 本紙の中央右よりに縱方向に折れ目の跡が見え、元来帖仕立てのものを掛け幅に改装したものと推測できる。

重要文化財に指定される萬福寺蔵有の陳賢筆「観音画帖」(崇禎九年〈1636)) は全 18 図であるが、一般に応化観音は三十三観音を通例とす るので、当初は33図を一具のものとして陳賢が描いたのではないかと推定されている。

この画帖の図とほぼ同様の体裁の本図は、「観音画帖」の元初体裁の帖から分かれたものかと推定される。

即非が賛を加えた丁酉臘月は、明永暦 11 年 (明暦 3、1657) の陰暦 12 月であるが、この年の 2 月 16 日に、即非は長崎に渡来し、崇福寺に入 っており、この賛文は、『即非禅師全録』に、「題大士影寄湛禅座」として採られている。

鍾馗図 (しょうきず) 〇名

〇作 者 等 曾我蕭白筆 松波酊斎賛

江戸時代中期(1772年・安永元年) 〇時 代

O_B 紙本墨画 質

〇員 数 1幅

Оq 法 縦 127.3cm 横 54.2cm

鍾馗は民間伝承、道教系の神で、邪気をはらう力があると信じられた。下方奥に剣がのぞく。太い濃墨線をざっくりと引いて身体を表わし、濃 〇作品概要 淡のぼかしによって若干の立体感を表わす。帽子や靴は、すばやいタッチの面と線で形づくられ、靴に濃墨を用いることによって下方に重心を 置き、安定感を生んでいる。顔の表情は、何とも卑俗で暗い。

江戸中期、18世紀の絵画界でとりわけ個性的な画風をしめした曾我蕭白(1730~81)の新出作品で、上部の賛は、松波酊斎(1718~93)による。 酊斎は、京都の漢学者、伊藤東涯門の儒者で、文学をもって知られた。酊斎 55 歳、蕭白 43 歳のときの作で、蕭白と京都の儒者との交流をしめ す貴重な一作である。

5 〇名 聖賢図押絵貼屏風 (せいけんずおしえばりびょうぶ)

〇作 者 等 狩野山雪筆 林羅山・堀杏庵賛 〇時 代 江戸時代初期(17世紀前半)

紙本墨画淡彩 OB晳

〇員 数 6曲1隻

04 法 各図 縦 74.7cm 横 33.7cm 総寸 縦 121.0cm 横 276.0cm

張良、呂尚、李勣など中国の聖賢を各扇に描く。身体は抑揚のある中太の濃墨線で簡潔に、顔は極細の墨線によって精細に描き出される。いく 〇作品概要 ぶん無表情で端正な顔立ち、吊り上った切れ長の眼など、他の山雪の人物画と同じ特徴をしめす。

> 狩野山雪(1590~1651)は、京狩野第2代で、初代山楽のあとを継いで江戸初期に活躍。同時に、きわめて個性的な絵師として、若冲や蕭白ら とともに注目を集めている。上部の賛は、林羅山 (1582~1657)・堀杏庵 (1585~1642) による。羅山は江戸初期の徳川幕府の儒官。杏庵も儒

者で羅山の相談役であった。新出の優品であり、羅山・杏庵と山雪との関わりをしめす貴重な作例である。

6 〇名 称 伊勢物語絵巻 (いせものがたりえまき)

〇時 代 江戸時代初期 〇品 質 紙本著色

〇員 数 2巻

〇寸 法 縱 31.5cm 長 (上) 2430.0cm (下) 3025.0cm

〇作品概要 『伊勢物語』の全文を書写し、物語性のある章段を絵画化した「伊勢物語絵」の近世写本で、二巻からなる。この絵巻は、これまで紹介されることのなかった新出資料で、構成は完存する最古の写本として知られる小野家本と同じく、詞書は『伊勢物語』のいわゆる定家本系の百二十五段と一致し、このうち四十五段が絵をともなっている。本作品は江戸初期の制作であるが、近世には広く流布する「嵯峨本伊勢物語絵」(慶長13年・1608初版)の図様に影響されない古体を示し、物語の基本モチーフに加え、人物、植物、室内調度等、多くの景物が付加され、絵画的

な豊かさをもつ点に特色がある。

<書跡>(2件)

7 〇名 称 李清照「怨王孫」詞(りせいしょう「えんおうそん」し)

 〇作 者 等
 沈尹黙筆

 〇品
 質
 絖本墨書

〇員 数 1幅

〇寸 法 本紙 縦 121.8cm 横 18.4cm

〇作品概要 沈尹黙 (1883—1971) は、浙江呉興の人。新文化運動の推進者として知られ、北京大学教授の時に、李大釗や陳独秀らを大学に迎い入れ、自らも雑誌「新青年」の編集者として活躍、のち学長を務めた。また詩詞と書法の分野でも優れ、上海に移居してからは、専ら書家として名を成した。

本作は宋の李清照(号は易安居士)の「怨王孫」詞を行草書体で書す。

早年に碑を学び、中年以後、帖を学び、晩年は、遍く北魏、隋唐の碑版を臨摸したという沈尹黙は、碑学派全盛の近代にあって、帖学派の中 興者と近年とみに注目されている。本作の清秀円潤な書風はまさにこうした評価を裏付ける。

8 〇名 称 玉篇巻第九残巻(自嗣字至勲字) 紙背金剛界私記(ぎょくへんまきだいきゅうざんかん(しじよりきょうじにいたる)

しはいこんごうかいしき)

〇時 代 唐時代 7~8世紀(紙背 金剛界私記 平安時代中期 治安元年<1021>書写)

〇品 質 紙本墨書

〇員 数 3紙

〇寸 法 縦 27.1cm 全長 (3 紙) 168.7cm

〇作品概要 『玉篇』は、中国の漢字字書で、南朝梁の大同年間(535—46)、顧野王によって著され、もと三十巻からなるもの。この残巻は、現在、早稲田 大学の所蔵である国宝『玉篇』巻第九から遅くとも江戸時代に離れたものであり、「冊部第一百八 凡四字」の最初の「冊」の字釈の途中から 「欠部第一百十二 凡一百三字」の第四十字目の「躭」字までである。書写年代は唐時代7世紀から8世紀と見られる所謂「唐鈔本」であり、

紙背は治安元年(1021)八月に書写された『金剛界私記』の一部であることがわかる。中国では既に散逸してしまい、なお且つわが国にのみ伝存している写本で、「原本玉篇」と云われ、頗る貴重かつ重要な写本となっている。

<金工>(13件)

9 〇名 称 (重要文化財) 金銅錫杖頭(こんどうしゃくじょうとう)

〇時 代 鎌倉時代 〇品 質 銅・鋳造、鍍金

O員 数 1柄

〇寸 法 高 19.8cm 輪径 8.6cm

〇作品概要 左右各二か所に括りをつけた、鎌倉時代の典型的な形状の輪をもつ錫杖。輪頂には蕨手の間に宝珠を戴き、上段の括りに層塔を立て、下段の括り近くに三日月形(金剛牙)を表す。輪の下端の蕨手間に五輪塔、蕨手上に浄瓶を置く。穂部は蓮弁を二条隆帯で約した四節からなり、各々の表現をまったく違える点が個性的である。また左右各二個を遺す遊鐶も、木瓜形の独特の形状を呈している。注目すべきことに、細部までほとんど形制を同じくした錫杖が存在し(世界救世教蔵、重要文化財)、両者が同一工房で製作されたものと考えられる。精緻をきわめた鋳出と彫

金の作行きで、鎌倉時代の仏具製作の具体的な状況まで想像させしめる重要作品である。

10 〇名 称 金銅五鈷杵(こんどうごこしょ)

〇時 代 鎌倉時代 (13 世紀)

〇品 質 銅·鋳造、鍍金

〇員 数 1口

〇寸 法 全長 17.7cm 把長 5.7cm 鈷張 5.5cm

〇作品概要 密教修法で、行者が修行を妨げる煩悩等を砕破し、本尊と同体となって修法を完成させるために、掌中に握るべき法具。脇鈷基部に鬼面を彫り 出し、また逆刺を禽獣の嘴形とするという特異な造形は鎌倉時代の新機軸の表現で、同種の作例はきわめて少ない。また把の二本の約条に綾杉 状の刻線を施し、蓮弁を子弁のない素弁とするという表現は、細見美術館蔵の請来様の金銅五鈷杵(重美)を踏襲している。添状によると明治

状の刻線を施し、連升を子弁のない素弁とするという表現は、細見美術距慮の請米様の金輌五転件(里美)を踏装している。添択によると明定 初年まで比叡山横川の松禅院に伝来し、「弘法大師将来」といわれてきたもので、これは前述の形態的特色とも符合し、密教法具の「将来様」 という形制の一端が天台宗側でも伝承されてきたことを窺わせ興味深い。

という形制の一端が大台示側でも伝承されてさたことを規わせ興味深い。

11 〇名 称 金銅種子五鈷鈴(こんどうしゅじごこれい)

〇時 代 鎌倉時代(14世紀)

〇品 質 銅·鋳造、鍍金

〇員 数 1口

〇寸 法 高 19.4cm 把長 11.5cm 鈷張 6.5cm

〇作品概要 密教修法で、諸仏を驚覚させ道場へ勧請するため、行者が実際に振り鳴らす鈴。把中の鬼目を大きく膨らむ鬼面とし、脇鈷の基部にも鬼面を現す。脇鈷の張りは強いものの、把と鈴身の蓮弁表現に硬さを認め、鎌倉時代後期の製作とみられる。鈴身には、円相内にカーン(不動)、バク(釈迦)、マン(文殊)、アン(普賢)、バン(金剛界大日)の種子を表す。通例は金剛界もしくは胎蔵界の四仏ないし五仏を表し、本品のごと

(釈迦)、マン (文殊)、アン (普賢)、パン (金剛界大日) の種子を表す。通例は金剛界もしくは胎蔵界の四仏ないし五仏を表し、本品のごとく釈迦如来と両脇侍という顕教の仏菩薩を表すのは全くの異例に属す。一つの解釈として、これを十三仏のうちの初七日、二七日、二七日、四七日と十三回忌の追善を司る仏とも考えられる。中陰・年忌に十三仏を導入したのが真言宗で、鎌倉時代に変質をきたしつつあった真言密教の事情を物語る重要作例ということもできる。

事情を物語る重要作例といっこともできる

12 〇名 称 線刻水分女神鏡像(せんこくみくまりじょしんきょうぞう)

〇時 代 平安時代(12世紀)

〇品 質 銅·鋳造、彫金

O員 数 1面

〇寸 法 径 8.8cm 縁高 0.2cm

〇作品概要 素鈕、山形鈕で断面台形の周縁がめぐり、界圏をもたないいわゆる宋鏡式鏡を鏡胎とし、鏡面に女神の姿をごく細い毛彫で表す。近い図像の女神が男神二柱を従えた姿を描いた鏡像が金峯山経塚から出土しており(重文・東京国立博物館蔵)、それには、「子守三所」との神名も線刻されるので、本鏡像も金峯山経塚から出土した品で、子守明神、すなわち吉野水分神を表したものである可能性がきわめて高い。なお鏡胎は、12

世紀前半に製作された楓枝蝶鳥鏡であり、線刻はその特徴から、これより遅れる平安時代末期、12 世紀後半に施されたものと考えてよい。

13 〇名 銅巻龍獣面文花瓶 (どうまきりゅうじゅうめんもんけびょう) 称

〇時 代 室町時代 (15~16 世紀)

〇品 質 銅•鋳浩

O 数 1 🗆

0寸 法 高 28.4cm 口径 12.3cm 高台径 13.3cm

中国の古代銅器、尊に由来する形の花瓶。下膨れの胴から、やや長く太めの頸がゆるやかに口を広げながら立ち上がる。頸の獣面以外を素文と 〇作品概要 する代わりに、頸に巻きつくように写実的な龍を耳とする。このような巻龍形の耳は中国銅器に見出すことができず、中国から舶載された唐物 銅器を元に、日本で製作された擬唐物銅器とみなされる。巻龍を飾った仏具として知られる聖衆来迎寺や唐招提寺の三具足がいずれも室町時代 後半には伝来していたことから推して、本品の製作時期も室町時代とみて差し支えない。

銅獣面文管耳瓶 (どうじゅうめんもんくだみみへい) 14 〇名

〇時 代 南宋~元時代(13世紀)

〇品 質 銅·鋳造 〇員 勬 1 П

O4法 高 20.9cm 口径(長径) 6.8cm 胴径(長径) 11.5cm 耳間幅 10.0cm

〇作品概要 扁平で下の胴からゆるやかに立ち上がった頸のくびれ部に管状の耳を付けた瓶。南宋~元時代の窖蔵遺跡から出土する倣古銅器群にしばしば含 まれる器形で、中国の銅器研究では貫耳瓶と呼ばれる。本品は全面に5段の文様帯を設け、上より雨龍文、獣面文(饕餮文)、変形龍文、S字渦 巻四菱文、波文を表している。類品中でも、頸が太く全面に細密な文様を表すという古様をみせており、南宋から元時代前期に遡る品と思われ る。表面に黒漆を塗っており、日本へ舶載されてから、書院飾あるいは茶の湯の花生や杓立などとして、相当に長期間用いられてきたものとみ られる。

15 〇名 銅鏡 (どうきょう) 称

> 1. 金または元時代 (11~14 世紀) 2. 高麗時代 (11~13 世紀) 3. 遼~金時代 (10~11 世紀) 4. 高麗または金時代 (11~13 世紀) 5. 高 〇時 代 麗または金時代(11~13 世紀) 6. 南宋時代(12~13 世紀) 7. 元~明時代(14~15 世紀)

〇品 啠 銅•鋳浩

7 面 〇目 数

1. 径 14.5cm 縁高 0.15cm 2. 径 13.4cm 縁高 0.25cm 3. 径 19.1cm 縁高 1.0cm 4. 径 21.5cm 縁高 0.6cm 04法

5. 径 23.6cm 縁高 0.7cm 6. 径 18.2cm 縁高 0.3cm 7. 径 15.3cm 縁高 0.8cm

中国、朝鮮の銅鏡、7面からなる収集品。 〇作品概要

1. 四童花枝七花鏡 2. 菊花唐草鏡 3. 花唐草四龍鏡 4. 龍樹殿閣鏡 5. 双龍鏡 6. 湖州六花鏡 7. 「喜生貴子」鏡

16 〇名 銅牡丹文香炉 (どうぼたんもんこうろ)

〇時 代 元~明時代 (14~15 世紀)

O品 銅•鋳造

晳

〇員 数 1 🗆

04 法 高 21.3cm 口径 28.2cm

大型の円形香炉で、胴には規則的に展開する牡丹唐草を陽鋳する。三脚は丸みを帯び丈の短い逆瓢箪形をなす。口は断面箱形の縁帯をなし、そ 〇作品概要 の直下に雲文と五弁花文を交互に表している。

南宋~元時代の龍泉窯青磁にこれときわめて近い香炉がいくつも知られ、とくに韓国中央博物館所蔵品は、葉の形が酷似する。元時代ないし明 時代初期頃に製作されたものとみられる。なお底には篆字で「官所」と陽鋳銘がある。明治二年の箱書に、明の帰化人で尾張御深井窯で活動し た陳元贇(1587-1671)が来日に際に明から持ち来たったとの将来譚が記される。そのまま信を置く訳にはいかないが、近世以前の舶載であるこ とは間違いない。

銅蟠螭文管耳瓶 (どうばんちもんくだみみへい) 17 〇名 称

元時代 (13~14世紀) 〇時 代

O_B 銅・鋳造 質

1 🗆 O 数

O寸 法 高 22.0cm 口径(長径) 6.6cm 同径(長径) 11.1cm 耳間幅 9.8cm

〇作品概要 下膨れの胴からゆるやかに立ち上がった頸のやや下寄りに管状の耳を付けた瓶。上・下2段の文様帯を設け、上段に獣面文(饕餮文)、下段に 蟠螭文(絡み合う龍文)を表し、脚に巴文(周代銅器の円渦文に由来)と井桁文(同じく夔文に由来)を表す。管耳瓶は、1323年頃に中国江南 の慶元 (寧波) を出港し博多へ向かう途中、朝鮮半島南西部、新安沖で沈没したジャンク船の積載銅器群の中にみられ、本品はそれよりも形態、 文様ともに古い時期のもの。日本へ舶載された管耳瓶は、中世には書院飾、近世には茶の湯の花生や杓立などとして珍重された。本品もその外 観の古色から、相当の長期間、茶の湯で用いられてきたものらしい。

銅雷文菱文管耳瓶 (どうらいもんひしもんくだみみへい) 18 〇名 称

〇時 代 元時代 (13~14世紀)

〇品 質 銅·鋳造

〇員 数 1 🗆

高 18.6cm 口径(長径) 4.9cm 胴径(長径) 8.3cm 耳間幅 7.6cm 04法

扁平な下膨れの胴からやや長く立ち上がった頸のくびれ部に沿って管状の耳を付けた瓶。3段の文様帯を設け、上から獣面文(饕餮文)、雷文 〇作品概要 菱文、脚に巴文(周代銅器の円渦文に由来)と井桁文(同じく夔文に由来)を表す。管耳瓶は、1323 年頃に中国江南の慶元(寧波)を出港し博 多へ向かう途中、朝鮮半島南西部、新安沖で沈没したジャンク船の積載銅器群の中にみられる。本品は頸上半を素文とする点で新安船出土品と 近いが、形態はそれより先行する。江戸時代と思しい共箱が添い、蕎表に「古銅杓立 椿圓形」、蕎裏に「から物茶杓立 くた耳地紋」と墨書 があって、茶杓立として用いられたことが判明する点でも貴重である。

〇名 称 銅牡丹文鉢 (どうぼたんもんはち)

明時代 (16~17世紀) ○時 代

銅·鍛造、彫金 OB質

〇員 数 1 🗆

O4 法 高 7.4cm 口径 12.9cm 胴径 14.6cm

口がすぼまり、球形に膨らむ平底鉢で、口縁直下に雷文帯、胴に牡丹唐草文を粗い蹴彫りで表す。唐草に細かい網目状の表現があり、文様の間 〇作品概要 地には中国彫金独特の石目状鏨を打つ。底には如意頭文をめぐらし、「宣」字を刻む。牡丹花は獣面に近い表現になるが、類似した獣面文が明 代の倣古銅器にみられる。また牡丹唐草の図様の細部表現は、明時代の漆工の沈金表現と共通する。以上から、本品の製作年代は明時代後期ま で遡ると考えうる。表面に塗布された黒漆が残り、日本で長期間用いられたことを窺わせる。共箱の蓋に「唐もの 沈金彫 古保志」とあるこ とから、日本に舶載されて以降、建水として用いられたことがわかる。

20 〇名 称 銅唐草文鉢 (どうからくさもんはち)

〇時 代 明時代(17世紀)

銅・鍛造、彫金 OB晳

O員 数 1口

〇寸 法 高 7.4cm 口径 15.3cm 底径 9.0cm

〇作品概要 銅牡丹文鉢に比べ、口が垂直に立つ半球形をなし、やや後出的な器形。口縁直下に羽状鋸歯文を連ね、胴に唐草文をやや粗い蹴彫りする。唐草の網目状表現や、間地の布目状鏨は明時代金工品の特色である。茎に円形鏨を打ち連ねた唐草表現は、京都上賀茂神社蔵の寛永五年(1628)奉納の釣灯籠火袋の透彫り唐草や、同年造営の増上寺崇源院霊廟唐門(現鎌倉・建長寺唐門)の唐草透彫り飾金具にみられる。これは江戸初期の飾金具ではきわめて珍しい彫金表現で、本品のような同時期の中国金工の彫金図様と何らかの影響関係があった可能性が高い。以上から、本品

は明時代後期、17世紀前半頃に製作されたものと想定される。

21 〇名 称 銅稜胴双耳壺 (どうりょうどうそうじつぼ)

〇時 代 ベトナム (16~18世紀)

O品 質 銅・鋳造 ○員 数 1 □

〇寸 法 高 10.2cm 口径 13.8cm 胴径 18.9cm

○作品概要 扁平で算盤珠形の胴に、やや上広がりの長い口が立ち上がり、断面方形の環状耳を付ける。肩には2条の細い隆帯をめぐらし、間に七曜文風の珠文を表す。製作技法も独特で、縦2分割鋳型を組み合わせた鋳造品で、表面に鋳皺が細かく残る。以上のごとく特異な形をみせる本品は、ベトナムの少数民族が用いた炊飯用の釜で、今日でも同地の骨董店などで時折みられる。本品は表面に黒漆が塗られ、また箱の蓋表貼紙に「唐物古銅みゝ附建水」、身貼紙に「唐物耳付建水」と記されるように、おそらく近世前半を前後する時期に日本に舶載され、南蛮物の建水として長

く用いられてきたものと推測される。

<漆エ>(1件)

22 〇名 称 花唐草蒔絵交椅(はなからくさまきえこうい)

○時 代 江戸時代 17世紀半ば ○品 質 木製、蒔絵、螺鈿

〇員 数 1基

〇寸 法 高 66.6cm 巾 37.5cm 奥行 52.5cm

〇作品概要 折畳式の椅子。背もたれに挽物製の壺形列柱と連続アーチを組み合わせ、背もたれの上端左右に楯をもつ獅子の彫刻をつけるのは、17 世紀前半のオランダの様式であり、西洋製の木地を京都へ持ち込み、蒔絵と螺鈿で飾った異色の家具である。精緻な石畳文、七宝花菱、花唐草などをあしらい、脚部の側面には薄肉高蒔絵もまじえて華やかな鳳凰を描く。蒔絵螺鈿の様式から、1640 年代のオランダ東インド会社関係者による特注

品と思われる。

<考古>(1件)

23 〇名 称 銅板押出三尊仏(どうばんおしだしさんぞんぶつ)

 ○時
 代
 飛鳥時代
 7世紀

 ○品
 質
 銅鍛造・金貼

 ○員
 数
 1面

〇寸 法 縦 27.7cm、横 19.3cm

〇作品概要 この押出仏は飛鳥時代末頃に大和地域で製作されたもの。薄い銅板を原型となる半肉彫の銅製仏像に押し当てて叩き、三尊仏を浮き立たせたものである。全体は不整形な長方形の銅板で、厚さは 0.3 c mほどの非常に薄いもの。銅銹に覆われ、暗緑色を呈するが、一部には金箔 (あるいは鍍金)の露出が見られる。銅板の四隅と短辺長辺の縁辺部には合計 14 個の小円孔を持っており本体を木製光背に固定した釘跡と推定される。この作品は奈良県御所市當麻寺奥院に伝来する重要文化財の「押出銅造三尊仏」と原型を同じくする兄弟の作品である。その関係から製作時期

や作られた地域、その技法なども推定できる。新出作品ながらきわめて重要な作品である。

(2) 寄贈(35 件) <絵画>(14 件)

1 〇名 称 紅葉双鹿図(もみじそうろくず)

 〇作者等
 酒井抱一筆

 〇時代
 江戸時代後期

 〇品質紙本着色
 〇員数1幅

○寸 法 縦 71.1cm 横 34.9cm○作品概要 姫路御典医梅田家伝来

2 〇名 称 竹雀図(ちくじゃくず)

〇作 者 等 酒井抱一筆 〇時 代 江戸時代後期 〇品 質 紙本墨画 〇員 数 1幅

 〇寸
 法
 縱 85.2cm
 横 26.2cm

 〇作品概要
 姫路御典医梅田家伝来

3 〇名 称 富士山寿老人図(ふじさんじゅろうじんず)

4 〇名 称 正月飾りに白梅・箒に橙図(しょうがつかざりにはくばい・ほうきにだいだいず)

 O貝
 数
 2 階

 〇寸
 法
 各 縦 98.1cm
 横 29.1cm

 〇作品概要
 姫路御典医梅田家伝来

5 O名 称 山水図(さんすいず)

〇作 者 等 胡遠筆

〇時 代 中国・清時代(19世紀)

〇品 質 紙本墨画淡彩

O員 数 1幅

O4法 縦 105.8cm 横 30.0cm

清末の文人画家の胡遠 (1823-1866) が画いた淡彩の山水図で、森田皆山なる人物に贈ったもの。胡遠は、字を公寿、号を痩鶴、または横雲山 ○作品概要 民といい、華亭(現上海・松江)の人。売画で生計をたてていたが、幕末以降、上海に居住した日本人をとおして、日本での人気は高かった。 住友総本社常務理事にして歌人の川田順(1882-1966)の旧蔵品。

〇名 雪中椿図 (せっちゅうつばきず)

〇作 者 等 谷道霞嶂筆 昭和 17 年 (1942) 代 〇時 〇品 質 紙本墨画淡彩 〇員 数 1幅

縦 33.5cm 横 39.0cm 04 法

筆者である谷道霞嶂の経歴は詳らかではないが、川田順とは交流が深く、しばしば川田の日記などにその名がみえる。『塔影』昭和8年(1933) ○作品概要 11 月号には、谷道の個展開催の記事が載る。それによると山水花鳥を得意とした文人画家らしく、本図も雪を冠る椿を、滲みをいかした淡彩で

簡略に画く。川田順旧蔵品。

7 ○名 聴雨図(光悦所作赤楽雲紋銘曰山乃尾) (ちょううず(こうえつがつくるところのあからくうんもんめいにいわくやまのお))

〇作 者 等 谷道霞嶂筆 近代 (20 世紀) ○時 代 〇品 質 紙本淡彩 O 数 1幅

04 法 縦 31 2cm 横 36 0cm

「しめやかに、しくれふりくる、おとせまり」で始まる「石斎」による和歌に、「山乃尾」の銘を有する本阿弥光悦作の赤楽雲紋の茶碗の図を 〇作品概要 添えた一幅。楽焼茶碗の「山乃尾」という銘は、大正 14 年 (1925) に金沢で料亭「山の尾」を開いていた太田多吉が、星岡茶寮の開店祝いと して北大路魯山人に譲ったことに因む。本図は川田順旧蔵品で、おそらくは筆者の谷道霞嶂と川田は、星岡茶寮で魯山人との交流を深めたので

あろう。

8 〇名 称 墨葡萄図 (すみぶどうず)

○作 者 等 天龍道人筆 〇時 代 江戸時代(19世紀) 〇品 質 紙本墨画

〇員 数 1幅 O4 法 縦 129.6cm 横 41.0cm

墨一色で葡萄を画く。筆者の天龍道人(1718-1810)は、肥前(佐賀県)鹿島の出身で、熊代熊斐に師事。後半生は信州(長野県)諏訪湖のほ 〇作品概要 とりに居をかまえ、諏訪湖に端を発する天龍川に因んで自号とした。墨葡萄は宋末元初の画僧・温日観が創始した文人画の主題で、天龍道人は その名手として知られていた。本図は川田順の旧蔵品で、川田は宗良親王の事績を調査するために度々、長野・伊那の大河原(現大鹿村)を訪

れていた。

9 〇名 木蓮に牡丹図 (もくれんにぼたんず) 称

〇作 者 等 杉山琴筆 杉山三郊賛 代 大正9年 (1920) ○時 質 組本著色 〇員 数 1幅

O₄ 法 縦 132.8cm 横 40.8cm

本図の筆者である杉山琴は幕末明治期の儒者・川田甕江 (1830-1896) の長女で、甕江門下の漢学者・杉山令吉 (1855-1945 号は三郊) に嫁いだ。 〇作品概要 画業においては、明治・大正期の女流南画家・野口小蘋(1847-1917)に師事し、「湘碧女史」の号を用いて花鳥をよくした。琴の異母弟にあた

る川田順の旧蔵品。

10 〇名 四君子書画合作(しくんししょががっさく) 称

野口小蘋、野口小蕙、杉山琴、竹軒閑人筆 杉山三郊賛 〇作 者等

〇時 代 大正2年(1913) 〇品 質 絖本墨画 〇員 数 1幅

縦 122 7cm 構 35 8cm 04法

〇作品概要 大正2年(1913)に北大路魯山人が主宰する星岡茶寮で、野口小蘋、小蕙の親子、杉山三郊、琴夫婦に「竹軒閑人」が会合した際の作品。小蘋 は梅、小蕙は石、琴は蘭、「竹軒閑人」は竹をそれぞれ画き、三郊が着賛する。四君子とは、蘭、竹、菊、梅の四種の草木を指すが、本作では

菊は石に替えある。「竹軒閑人」なる人物は未詳だが、大正期の師弟とその家族による文人雅集の一端を示す作品として興味深い。

11 〇名 称 水仙に仏手柑図 (すいせんにぶっしゅかんず)

〇作 者 等 野口小蘋筆 〇時 代 近代 (20 世紀) 紙本墨画淡彩 OB晳 〇員 数 1幅

縦 27.5cm 横 35.7cm 04 法

〇作品概要 野口小蘋による花籠図。水仙と仏手柑を盛った籠を草略な筆致で画く。本紙左下の白文方印「親印」と朱文方印「小蘋」が鈴されている。川田

順旧蔵品。

12 〇名 称 雪中花鳥図(せっちゅうかちょうず)

〇作 者 等 幕田誠雲筆 代 大正4年 (1915) ○時 OB質 紙本墨画淡彩 〇員 数 1幅

O4 法 縦 138.3cm 横 41.4cm

雪降るなかで椿が咲く断崖に集う二羽のオナガの姿を画く。「豊年献瑞」との題から、「雪は豊年の瑞」を絵画化した作であることがわかる。幕 〇作品概要 田誠雲(1864-1937)は、栃木県宇都宮の出身の南画家。小室翠雲に師事した。

13 〇名 川田順関係文芸資料 (かわだじゅんかんけいぶんげいしりょう) 称

○時 代 昭和時代(20世紀)

〇品 質 紙本墨画淡彩、紙本墨画、紙本墨書等

〇員 数 一括

O4 法 (1) 縦 33.0cm 横 24.3cm (2) 縦 27.0cm 横 24.0cm (3) 縦 27.0cm 横 24.0cm (4) 縦 24.0cm 横 27.0cm

(5)各 縦 24.0cm 横 35.7cm (6) 縦 27.0cm 横 24.0cm (7) 縦 27.0cm 横 24.0cm (8) 縦 21.0cm 横 18.0cm

(9) 縦 30.0cm 横 42.0cm

戦前から戦後にかけて、歌人・川田順が北海道の川湯温泉や鹿児島県の野間嶽など日本各地に旅行した際に贈答した書画色紙などを中心とする 〇作品概要 資料群。その内訳は以下の通り。(1) 川田順氏肖像めくり 昭和31年(1956) 1枚、(2)色紙「川湯温泉の高山植物」「暁堂」落款 1枚、(3)

色紙「川湯温泉」「暁堂」落款 1枚、(4) 色紙「野間嶽」「尚義」落款 昭和一八年(1943) 1枚、(5) 書画帖 「景信」等落款 1帖、(6) 色紙「偈頌」「昌光」落款 1枚、(7)色紙「かきてなほ」(蛸壺)「孤蝶」落款 1枚、(8)色紙「ころころと」(ひきのこゑ) 1枚、(9)俳句

「菜の花の」「松杉を」めくり 1枚。

二十四孝図屏風(にじゅうしこうずびょうぶ) 14 〇名

〇時 代 江戸時代前期(17世紀)

〇品 紙本墨画着色 質

O 数 6曲1隻

各図 縦 96.2cm 横 38.6cm 総寸 縦 121.5cm 横 282.0cm 04法

中国の親孝行の話を二十四話あつめた「二十四孝」のうち、各扇の上下に二図ずつ、董永・元覚、王褒・黄香、蔡順・ぜん子、ゆ黔婁・呉猛、 〇作品概要

張孝張禮兄弟・郭巨、陸績・丁蘭の十二話が絵画化されている。残念ながら、保存状態は悪い。もう一隻あって、一双で二十四孝がそろってい

たのだろう。画風から、狩野派を学んだ画家による作品とみられるが、特定は難しい。桂宮家旧蔵品。

<書跡>(8件)

李白「聞王昌齢左遷龍標遙有此寄」詩書(りはく「おうしょうれいのりゅうひょうにさせんせらるるをききはるかにこのきあり」ししょ) 15 〇名

〇作 者 等 干震筆

代 中国・民国時代(20世紀) ○時

質 紙本黒書

〇員 数 1幅

O4 法 縦 134.5cm 横 39.5cm

近代上海の実業家にして書画家としても著名な王震(1867-1938)の行書幅。李白の七言絶句「聞王昌齢左遷龍標谣有此寄」を書写する。王震 〇作品概要 は、字を一亭、号を白龍山人といい、浙江呉興の人。日清汽船社長などを経て上海の実業界を取り仕切る一方、親日家でもあった。本作は呉昌

碩を継ぐ海上派の文人書画家にふさわしく、流麗で筆力のある書体をみせる。年記を欠くものの、「川田先生属」との為書からは、ともに実業

と芸術に長けた者どうし、肝胆相照らす交友の様を彷彿させよう。

16 〇名 称 詩書(琵琶湖)(ししょ(びわこ))

〇作 者 等 鄭孝胥筆

中国・近代(20世紀) 〇時 代.

 O^{H} 質 紙本墨書

O 数 1幅

O寸 縦 39.6cm 横 36.4cm 法

○作品概要 筆者の鄭孝胥(1860-1938)は清末の官僚で、晩年は満州国の国務院総理(首相)をつとめた。書家としても知られた。字は太夷、号は蘇戡、

蘇盦など。本作は年記を欠くが、川田順の神戸・御影の邸宅「山海居」での宴席の後に、鄭が滋賀の琵琶湖の景観を織り込んで詠んだ七言律詩

を書したもの。酔後の筆ゆえに、鄭の字体にある本来の力強さをうかがわせながらも、筆勢が和らいだ書となっている。

17 〇名 芳山七絶書 (ほうざんしちぜつしょ)

片口江東筆 ○作 者 等

昭和時代 (20 世紀) ○時 代

〇品 質 紙本墨書

〇員 数 1幅

04法 縦 137.2cm 横 31.2cm

吉野山にまつわる七言絶句を書写する。吉野山は、川田順が歌人としての足跡に関心を寄せていた後醍醐天皇が崩御した地であり、歌中にもそ 〇作品概要

の陵墓・延元陵を詠みこむ。本作を書した片口江東(1872-1967)は、富山県小杉出身の漢詩人・政治家。本名安太郎。小杉の味噌・醤油醸造

業を営む名家で、小杉町長、県議会議長などを歴任。木蘇岐山の漢詩結社の月三吟社に参加した。

18 〇名 山部赤人歌書 (やまべあかひとのかしょ)

〇作 者 等 山岸荷葉筆

〇時 代. 昭和時代(20世紀)

絖本墨書 OB晳

〇員 歘 1幅

O寸 法 縦 135.5cm 横 37.5cm

〇作品概要 山部赤人の「不尽の山を望る歌」を万葉仮名で書写した一幅。筆者の山岸荷葉(1876-1945)は近代の小説家。本名惣次郎。早稲田大学文学科

卒。坪内逍遥、そして尾崎紅葉に師事した硯友社の同人で、代表作に『紺暖簾』。書もよくした。

19 〇名 称 和歌短冊(梅) (わかたんざく (うめ))

〇作 者 等 伝山本梅逸筆

〇時 代 江戸時代(19世紀)

紙本墨書 OB晳

〇員 数 1幅

(本紙) 縦 35.6cm 横 5.5cm (全体) 縦 126.0cm 横 15.2cm 04 法

「梅」と題した和歌一首を書した短冊。江戸後期に活動した尾張の文人画家で花鳥画を得意とした山本梅逸(1783-1856)の落款があるが、そ 〇作品概要

の筆跡は他の基準作とはやや趣を異にしており、伝称作の可能性がある。

20 〇名 三十六歌仙和歌色紙貼交屏風(さんじゅうろっかせんわかしきしはりまぜびょうぶ) 称

〇時 代 江戸時代 (18 世紀)

 \bigcirc R 彩牌墨書 質

〇員 数 6曲1隻

O寸 法 縦 133.1 cm 横 362.8 cm (色紙は各縦 20.1 cm 横 18.1 cmで計 36 枚)

柿本人麻呂や紀貫之など、のちに三十六歌仙と称された歌人たちの詠歌を歌合形式とし、色紙一枚ずつに書いたもの。色紙はそれぞれ別の筆者 〇作品概要 による寄合書きで、右上に塗布する札に記された人名を特定してゆくと、享保年間 (1716~1735) の制作と考えられる。全体に破損が多く、ま

た歌仙絵のように肖像はないものの、藤原元真のように本文系統の推移を知るうえで興味ぶかい歌もふくまれている。

新三十六歌仙和歌色紙貼交屏風 (しんさんじゅうろっかせんわかしきしはりまぜびょうぶ) 21 〇名

○時 代 江戸時代(17世紀)

彩牋墨書 〇品 質

〇員 数 6曲1隻

縦 132.9 cm 横cm 363.3 cm (色紙は各縦 18.4 cm×横 16.9 cmで計 36 枚) O4 法

後鳥羽院や式子内親王など、のちに新三十六歌仙と称された歌人たちの詠歌を歌合形式とし、色紙一枚ずつに書いたもの。色紙はそれぞれ別の 〇作品概要

筆者による寄合書きで、右上に塗布する札に記された人名を特定してゆくと、延宝3年(1675)から同7年の間に制作されたと考えられる。全 体に破損が多いものの、フェリス女学院大学附属図書館の所蔵する画帖のように、歌合左右の組み合わせが異なるものも存在し、対比検討する うえで意義深い。

22 〇名 古活字版日本書紀神代巻 下(慶長勅版)(こかつじばんにほんしょきじんだいのまき げ(けいちょうちょくはん))

〇時 桃山時代 慶長4年 (1599)

O品 紙本木版 晳

1 ## 〇員 数

Оq 法 縦 28.9 cm 横 21.9 cm

〇作品概要 文禄から寛永年間(1592~1644)にかけて刊行された、いわゆる古活字版のうち、この『日本書記神代巻』は後陽成天皇(1571~1617)の命に より慶長4年(1599)に刊行された勅版である。見返しの「日本書紀/慶長己亥/季春新刊」という巨大な木記は本来、券上にあったもので、 いつのころか巻下に移されたのであろう。完本ではないが、発行部数は百部程度といわれており、じつに貴重な文化財が博物館の収蔵品に加わ

ったといえる。

<金工>(4件)

23 〇名 刀 銘 帝室技藝員月山貞一七十八歳作(花押) 大正二年七月吉日 以相州鎌倉古傳 為永田兵太郎君 附 軍刀拵 称

(かたな めい ていしつぎげいいんがっさんさだいちななじゅうはっさいさく(かおう) たいしょうにねんしちがつきちじつ そうしゅう かまくらこでんをもってす ながたへいたろうくんのため つけたり ぐんとうこしらえ)

〇時 代 大正時代

鉄 • 鍛诰 \bigcirc R 啠

O 数 1 🗆

長さ 68.4cm 反り 1.5cm 拵長 95.5cm 04法

〇作品概要 鎬造、庵棟。小鋒。鍛えは小板目、地沸厚い。刃文は互の目に丁子交じる。拵は銀装。

刀 銘 帝室技藝員月山貞一七十八歳謹作(花押) 大正二年十一月日 以鎌倉古傳 為永田敏夫君守護 24 〇名

(かたな めい ていしつぎげいいんがっさんさだいちななじゅうはっさいきんさく(かおう) たいしょうにねんじゅういちがつひ かまく

らこでんをもってす ながたとしおくんしゅごのため)

○時 代 大正時代

〇品 質 鉄 • 鍛诰

○員 数 1 🗆

O₄ 法 長さ67.3cm 反り1.5cm

〇作品概要 鎬造、庵棟。小鋒。鍛えは小板目、地沸厚い。刃文は互の目に丁子交じる。

25 〇名 刀 銘 帝室技藝員月山貞一七十八歳謹作(花押) 大正二年十二月日 以備前一文字傳 為永田亀雄君守護

(とう めい ていしつぎげいいんがっさんさだいちななじゅうはっさいきんさく(かおう) たいしょうにねんじゅうにがつひ びぜんいち

もんじでんをもってす ながたかめおくんしゅごのため)

〇時 代 大正時代

質 鉄•鍛造 〇品

1 🗆 〇員 数

長さ68 2cm 反り1 5cm 04法

〇作品概要 鎬造、庵棟。小鋒。鍛えは小板目、地沸厚い。刃文は小丁子乱れ。

26 〇名 称 薙刀 銘 越前守源信吉作(なぎなた めい えちぜんのかみみなもとののぶよしさく)

江戸時代 〇時 代

鉄・鍛造 〇品 皙

〇員 数 1 🗆

04法 (現状) 長さ 45.5cm 反り 2.8cm

〇作品概要 鎬造、庵棟。鋒は弱く反る。錆と後世の荒研により、鍛え、刃文等不明。鋒の先端が折れる。

<漆工>(4件)

籬菊蒔絵小鼓胴 (まがきにきくまきえこつづみどう) 〇名 称

江戸時代中期 〇時 代

换物型 啠

〇員 数 1 挺

口径 10.2cm 長 25.4cm 04 法

〇作品概要 黒漆地に金平蒔絵・絵梨地・描割・付描で籬に菊を表す。請に花押(墨書)あり。

28 〇名 称 川田家伝来美濃屋製漆器(かわだけでんらいみのやせいしっき)

大正~昭和時代 つ時 代.

〇品 質 1. 指物製 2. 桐製

数 2 件 〇員

1. 膳: 縦25.6cm 横26.1cm 高8.9cm/椀1 径10.5cm 高6.6cm/椀2 径9.9cm 高3.9cm/椀3 径9.3cm 高2.8cm/椀4 径8.6cm 0寸 法 高 1.6cm/2. 縦 38.6cm 横 8.4cm 高 7.1cm

〇作品概要 1. 隅切長方形、縁付、蝶足の膳1基と、挽物製、高台付の四つ椀。黒漆塗に朱漆で片喰紋。内朱。2. 長方形、身底と蓋甲板を橋のように微 かに反らせた被蓋造の箱。蓋に浅い手掛け。拭き漆に、金平蒔絵、黒漆で忍草を描く。川田順筆短冊 77 葉と川田周雄筆短冊 2 葉を収める。

29 〇名 ハングル版木朱塗箱(はんぐるはんぎしゅぬりばこ) 称

〇品 質 指物製

O 数 1 合

04 法 縦 9.0cm 横 14.5cm 高 4.0cm

〇作品概要 長方形、合口造、上げ底、側面下端に四足を刳り出す。蓋口縁に身の立上がりが組み合う段差を作る(外面に版木を貼る造りのためか)。外面 に反転したハングルを浮彫する。黒漆の中塗りの上に朱漆を塗り、これを研いで凸部(文字部分)を黒漆とする。楷書体の文字列は上下を切ら れ判読できないが小説らしい。庶民層を対象とした完板(完州の木版古代小説)か。

30 〇名 黒漆唐草蒔絵衣桁 (くろうるしからくさまきえいこう) 称

木製、組立式 〇品 質

○員 数 1 基

04 法 幅 180.5cm 奥行 44.0cm 高 155.7cm

〇作品概要 組み立て式の大型の衣桁。基台の外側に桟の続きとなる先端部分を別材で装着するのが珍しい。総体黒漆塗りとし、基台外側の部材、丸柱の付 け根、上の桟の両端に、消粉平蒔絵で唐草文様の描金具を表す。葉脈は黒漆で補筆し、上の桟の両小口には十六弁菊花紋を蒔絵で線描する。中 の桟は大きく破損しており、破損部を黒いゴムテープで補修している。そのほか塗膜面の欠失多数。要修理。

<染織>(2件)

31 〇名 花卉鳥獣文様刺繡見送(祇園祭函谷鉾旧見送) 松坂屋コレクション(かきちょうじゅうもんようししゅうみおくり(ぎおんまつりかんこぼこ きゅうみおくり) まつざかやこれくしょん)

〇時 代 天保十年 (1839) 寄淮

中央:絹地(平織) 刺繡 四周:赤羅紗、上部のみ白木綿を付す 裏地:白木綿 啠 天地に木材を入れる

O員 数

総丈 347.5 cm (赤羅紗までは 330.0 cm) 総幅 164.5 cm 刺繡裂: 丈 204.0 cm 幅 118.0 cm O4法

本来は中国で欧州向けにベッドカバーとして製作された刺繍裂で、十七世紀頃の作例と考えられる。下から五分の一は、最下端に大地を示す岩 〇作品概要 を配し、虎、蓮鷺、馬を置く。残りの五分の四は、中央に大きな円内に、牡丹を取り巻くように二羽の鳳凰をめぐらし、円外の四隅には、右上 と左下に尾長鳥、左上と右下には孔雀を配し、隙間を牡丹で埋める。刺繍の技法は、渡し繍あるいは平繍、刺し繍、駒繍を主体とする。下地を 見せることなく、文様以外の部分には燃金糸を纏い詰める。刺繍糸には平糸と燃糸の二種を用いる。留繍の糸がかなり切れており修理を要する。 祇園祭の函谷鉾の祭礼幕として用いられていた。

刺繍三昧耶形幡 多武峯寺伝来 松坂屋コレクション(ししゅうさんまやぎょうばん とうのみねでらでんらい まつざかやこれくしょん)

称 ○時 什 江戸時代

OB晳 幡頭・幡身:絹地(綾) 刺繡 幡足:絹地(平織) 染

〇員 数 2 旒

O4 法 ①総長 120.0 cm 幡身長 62.5 cm 幡足長 37.0 cm 幡頭幅 37.5 cm 幡身幅 25.0 cm

②総長 120.0 cm 幡身長 61.0 cm 幡足長 37.5 cm 幡頭幅 36.0 cm 幡身幅 25.0 cm

○作品概要 幡頭は白綾地、蓮華文様刺繡。幡身は白綾地、片面のみ文様があらわされ、三坪ある各坪とも、円相内にそれぞれ輪宝・羯磨・蓮華を刺繍し、 円相の外区は割り付け文様を刺繍。縁および堤は紅綾地、蓮華唐草文様刺繍。刺繍は平繡あるいは渡し繍と留繡を主体とし、刺繍糸の色は白・ 黄・濃淡萌葱・濃淡浅葱・紺・濃淡紅・紫など。幡足は白・萌黄・紺の段に染め分けられた平絹の周囲を、紅白で染め分けた平絹で覆輪。幡手 は欠失。先端に金銅製蓮華唐草彫の吊金具を付す。箱貼札に多武峯寺(現在の談山神社)伝来とあり。折れがあるものの、保存状態は比較的良

<考古>(1件)

32 〇名

33 〇名 花脊別所経塚出土品(はなせべっしょきょうづかしゅつどひん)

平安~鎌倉時代 (12~14世紀) 〇時 代

〇品 質 金銅・青銅・鉄・土

〇員 数

O₄ 法 古瀬戸灰釉瓶子一口は高 28.5 cm

本品は、京都市左京区花脊別所村に所在した福田寺が所有していた、重要文化財の花脊別所経塚出土品一括(文化庁買上済)に附属したもので 〇作品概要 未指定の遺物である。鎌倉時代の懸仏の一部とみられる金銅製御正体二件、経筒あるいは六器の破片とみられる青銅破片 17 点一件、短刀の残 片とみられる鉄片一括一件、古瀬戸灰釉瓶子一件、青磁破片など陶磁器片三件の合計8件である。12世紀の経塚およびそれに関連する遺物とし て貴重である。

<歴史>(2件)

井口家伝来 幕末・明治期歴史資料(いぐちけでんらい ばくまつ・めいじきれきししりょう) 34 〇名

〇時 代 江戸末期~明治時代

O 数 一坛

O寸 法 「坂本中岡両氏遺墨記念帖」1 冊は縦 22.7cm 横 14.5cm

〇作品概要 坂本龍馬が慶応三年十一月十五日に暗殺された場所として有名な京都河原町通の蛸薬師下ルに所在した醤油商近江屋井口家に伝来した幕末か ら明治期にかけての多様な歴史資料の一括である。その主なものは慶応四年前後の書簡文書類、坂本龍馬顕彰に関わる図書類、井口家および中 井弘に関わる古写真、中井弘宛の書簡や中井がもらった勲章などである。永く井口家で伝来し、近年は京都国立博物館に寄託されていたものを 一括で寄贈していただいた。幕末維新期の貴重な情報を含んでいる。

35 〇名 天皇系図 (てんのうけいず) 称

○時 代 江戸時代

〇品 質 紙本 墨書・朱書

〇員 数 1枚

縦 180 cm 横 345 cm O4 法

大きな継紙に袖代から当今までの歴代天皇系図および縁氏・小野氏・栢武平氏・清和源氏などの諸氏系図を書き込んだ巨大な系図、当今天皇が ○作品概要 第 107 代の後陽成天皇と見られることから、系図本体の製作年代は後陽成天皇の在位期間である天正 14 年から慶長 16 年、すなわち 1586 年か ら 1611 年の間とすることができる。しかし本作品は紙質や筆跡から江戸時代の後期頃と写しと推定される。公家の子弟の学習参考資料か。作 品には紙の破れ、汚れなどがあり保存状態はやや悪い。

【奈良国立博物館】(計 15 件)

(1) 購入(7件)

<絵画>(2件)

〇名 絹本著色春日地蔵曼荼羅(けんぽんちゃくしょくかすがじぞうまんだら) 称

〇作 者 等

〇時 代 鎌倉時代 14世紀 〇品 質 絹本著色 掛幅装 〇員 数 1幅

〇寸 法 等

〇作品概要

本品は、画面上部に御蓁山および春日山、下縁に春日野を表すとみられる樹木や雌雄の神鹿を配し、向かって左上から春日三宮の本地仏である 地蔵菩薩が涌雲に乗って飛来し、地獄から衆生を救済するために来迎する姿を描いている。また、地蔵菩薩の右下には烏帽子直衣姿で座る人物 が描かれるが暗色の顔料で塗りつぶされ、その上から頭光の光芒を表す截金線が置かれる。地蔵の端正な顔立ちは鎌倉後期の作例に描かれるも のにきわめて近似するとともに、着衣に施される精緻な截金文様や金泥の彫塗りによって金属製の荘厳具を表す点にも、鎌倉後期仏画の技法的 特色が顕著にみられる。現在知られる春日地蔵曼荼羅のなかでも最古の作例と見ることができる。

〇名 称 絹本著色千手観音影向図(けんぽんちゃくしょくせんじゅかんのんようごうず)

〇作 者 等

鎌倉時代 13世紀

〇時 代 絹本著色 掛幅装 OB質

〇員 1幅 数

〇寸 法 等

本品は、補陀落山中の千手観音と千手観音に帰依する人物の対面を描いたものである。画面向かって左にやや下を向く十一面多臂の千手観音が 〇作品概要 斜め向きに立ち、その先には截金線で縁取られた円相があり、なかには烏帽子に白い装束を身につけた人物が干手観音を拝する様子が描かれる。

干手観音の造形や表現技法および俗体の貴人を描く似絵表現から、13世紀中頃の制作とみられる。なお、画面右上に四行ほどの墨書が残り、そ の最終行に禅僧が署名で多用する「叟」の字が確認できることから、禅僧による着賛と思われる。補陀落山に立つ千手観音と俗体の貴人が対面 するという他例をみない図像の絵画として、日本仏教絵画史上貴重な存在である。

<書跡>(1件)

法華経(建治二年東大寺僧宗性発願経)(ほけきょう/けんじにねんとうだいじそうそうしょうほつがんきょう) 〇名

〇作 者 等 宗性 (1202-78) ほか 12 名 什

鎌倉時代 建治2年 (1276) 〇時

〇員 数 8 巻

紙本墨書 巻子装 OB晳

〇寸 法 等 (巻第一) 26.3×985.4 cm (巻第二) 26.3×1115.2 cm (巻第三) 26.3×1050.1 cm (巻第四) 26.4×916.1 cm

(巻第七) 26.4×900.5 cm (巻第六) 26 4×962 1 cm (巻筆五) 26 2×996 4 cm (巻第八) 26.4×807.7 cm

本品は、表裏ともに雲母を引いた楮の打紙に銀泥で界線を引き、『法華経』8巻を墨書する。表紙は紺紙を用い銀泥で霞文を描き金截箔を、見返 〇作品概要 しは染色のない紙に金銀の截箔を散らして装飾する。各巻の巻末に写経の目的・経緯を記した奥書があり、鎌倉時代を代表する東大寺学僧の一 人である宗性とその周辺の僧が稚児・力命丸の供養のために書写したことが知られる。巻第一は経文から奥書に至るまで宗性の自筆であるが、 巻第二以降は周辺の僧が分担書写し奥書のみ宗性が執筆した(但し巻第八は宗性以外の僧が奥書の大半を記す)。書写の背景が判明する点にお

いて貴重な鎌倉時代写経であり、中世南都寺院社会の実態を知る上で注目に値する史料である。

<彫刻>(1件)

○名 木造僧形立像(もくぞうそうぎょうりゅうぞう)

〇作 者 等

鎌倉時代 13 世紀 〇時 代.

〇品 質 ヒノキ材 一木割矧造か 内刳 彩色 截金 玉眼

1 軀 〇員 数

〇寸 法 等 総高 54.5 cm 像高 28.9 cm 頂一顎 5. 2 cm 面幅 3.3 cm 面奥 4.3 cm

且張 4.1 cm 胸奥(左) 4.1 cm 胸奥(右) 4.2 cm 腹奥 4.9 cm 臂張 8.5 cm 袖先張 8 7 cm 裾張 6 2 cm 足先開(外)5.0 cm 足先開(内)2.3 cm 台座高 18 4 cm

台座框幅 21 8 cm 台座框奥行 17 1 cm 光背高 36.7 cm 光背幅 19 0 cm

剃髪形で、腕前で合掌し左足先を少し前に踏み出して立つ像である。髪際は彫り表さず薄彩色で髪を描き、白毫を嵌めて、耳朶は紐状で貫通す 〇作品概要 る。着衣は両肩を覆う衣(但し左方では袖を作らないので肩にかかるのみか)の上に左肩から袈裟をかけ、裙をはく。なお台座は七重蓮華座で、

光背は周縁に雲唐草をめぐらせる二重円相光である。写実性に富んだ表情や着衣の襞の彫法および精緻な文様などから、鎌倉時代とりわけ 13 世紀の制作と推定される。若干彩色の微細な部分が不明であるものの、截金文様まで確認しうる保存良好な作品である。現段階では、地蔵菩薩 像か、もしくは十大弟子ないし釈迦三尊の脇侍としての阿難像である可能性が考えられる。

<漆エ>(1件)

〇名 黒漆宝塔 (くろうるしほうとう) 称

〇作 者 等

〇時 代 室町時代 16世紀

〇員 数 1 基

木製 \bigcirc R 里漆漆 金銅装 皙

宝塔総高 88.4 cm 礼盤一辺長 54.6 cm 基壇 47.9×47.3 cm (階段含む) 〇寸 法 等 総高 100 5 cm (礼盤含む)

〇作品概要 本品は、文永7年(1270)に興正菩薩叡尊によって造立された金銅宝塔(奈良・西大寺所蔵)を模したと推定される宝塔である。宝塔は天板四

隅に猫脚を付けた形式の礼盤上に載る。基壇には四方に階段を設け、上面に高欄をめぐらせている。相輪や宝鎖は金銅製であるが、それ以外は 木製で布被せずに黒漆を塗り、基壇内部など外から見えない箇所は素地とする。多少の違いはあるものの、総高をはじめ細部表現、全体のプロ ポーションに至るまで西大寺の金銅宝塔を忠実に模している。なかでも西大寺愛染堂宝塔(木製漆箔)は本品と近似することから、本品は西大

寺に伝来した可能性が高く、近世における西大寺の舎利信仰を考える上で貴重な作例である。

<考古>(2件)

〇名 三彩小壺 [筑前早良郡出土] 附 ガラス小玉 (さんさいこつぼ・ちくぜんさわらぐんしゅつど/つけたり がらすこだま) 称

〇作 者 等

〇時 代. 奈良時代 8世紀

〇員 1 ロ ガラス小玉は 20 点 (破片含む) 数 (三彩小壺) 陶製 施釉 (ガラス小玉) ガラス製 啠

〇寸 法 等 (三彩小壶) 身:器高 4.2 cm (残存值) 口径 3.7 cm (現状値)

最大径 6.3 cm 直径 4.7 cm つまみ径 1.4 cm 蓋:器高1.1 cm

(ガラス小玉) 直径(最大) 0.7 cm 厚さ(最大) 0.2 cm 孔径(最大) 0.3 cm

三彩小壺は身と蓋からなり、胴の中位に最大径をもちながら横方向に強く張り出しており、蓋は上面に僅かな甲盛をもち、扁平化した宝珠つま 〇作品概要

みが中央に取り付けられている。また、ガラス小玉はかなり扁平でドーナツ形を呈している。器表面に著しい剥離や口縁部の欠損があり、本来 の奈良三彩の美しさが損なわれているものの、身・蓋かつ内容物(ガラス小玉)が附属するのは希有なことであり、考古資料的には大いに注目 される。なお出土地とされる「筑前早良郡」(現福岡市西区周辺) は、古代の鴻臚館の西方で、姪浜から背振山地まで陸海の両方に通じ、同時

代の官道や寺院、郡衙推定地が存在する北部九州の重要拠点である。

〇名 瀬戸 灰釉櫛目文瓶子 [和歌山県新宮市丹鶴山出土] (せと かいゆうくしめもんへいじ/わかやまけんしんぐうしたんかくざんしゅつど)

〇作 者 等

○時 代 鎌倉時代 13 世紀後半

〇員 数 1 🗆

質 陶製 〇品

〇寸 法等 器高 27.9 cm 口径 4.5 cm 口縁最大径 5.5 cm 胴最大径 18.4 cm 底径 10.1 cm

〇作品概要 本品は、戦後間もない時期に丹鶴山南面の天理教教会正門付近から白磁四耳壺(元代・景徳鎮産)などとともに出土したと伝えられる。肩を強

く張り、腰は引き締めずに直線的に延びて広めの底に至る。また、口は細く引き絞り三角形に折り返した口縁をもち、胴部中央に九つの波頭を もった櫛描波文をめぐらせている。数ある瀬戸の瓶子の中でも、櫛描文様を器面全周にわたって施す作例は珍しく、瀬戸の瓶子の秀作の一つに 数えあげられる。製作時期は古瀬戸中期初頭およそ 14 世紀の早い段階に位置づけられる。なお、出土地である丹鶴山は熊野速玉大社の東に隣 接し、中世陶器の優品が出土することで知られている。

(2) 寄贈(8件)

<書跡>(1件)

公盛書状 (こうじょうしょじょう) ○名 称

〇作 者 等 公盛 (1689-1724)

〇時 代 江戸時代 正徳 5 年 (1715)

〇員 数 1巻

紙本墨書 OB皙

〇寸 法等 18.2×174.0 cm

本品は、江戸時代の東大寺僧で、現在の大仏殿の再建に功績を残した公盛の書状である。年代は明記されないが、『龍松院公盛・公俊・庸訓代々 〇作品概要 諸興隆略記』(京都・勧修寺所蔵) に、正徳 5 年 2 月・3 月と二度にわたる霊元法皇の東大寺宝物の叡覧、以来法皇の命による東大寺での月例の 祈祷や巻数加持・香水献上が記されており、それが本書状の内容と一致することから、正徳5年と推定される。書状は、その4ヶ月後の7月に 霊元法皇との間を取り持った円照寺門跡(文応女王)に感謝を述べ、引き続き東大寺復興への協力を求めたものと思われる。公盛の文書はほか に島津家文書の中にわずかに知られる程度であり、違例の少ない公盛書状として貴重である。

<彫刻>(1件)

〇名 木造菩薩立像 (もくぞうぼさつりゅうぞう) 称

〇作 者 等

〇時 代 平安時代 11~12 世紀 1 軀

○員 数

〇品 質 ヒノキ材 一木造 内刳なし 彩色 彫眼

〇寸 法 等 像高 100.5 cm 髮際高 86.6 cm 頂一顎 25.1 cm 面長 10.4 cm 面幅 10.5 cm

面奥 15.5 cm 耳張 13.5 cm 胸厚 (左) 15.2 cm 腹厚 16.6 cm 肘張 30.6 cm

勢を重視すれば、同時代における作例の多さからみて、観音菩薩である可能性が高い。

最大幅(天衣垂下部) 39.0 cm 台座幅 40.4 cm 台座高 21.0 cm

髻(後補)を結って宝冠をかぶる。両耳上を鬢髪がわたる。右手は垂下して第一・二指を軽く捻じ、左手は屈臂して胸前に挙げて軽く握り、持 〇作品概要 物(亡失)を執る形とする。また、上半身に条帛、下半身に腰布と裙を着用し、天衣をまとって蓮台に立っている。内刳のない一木彫像で、古 い時代の要素を残すものの、比較的浅い彫り口などの特徴から、平安時代後期の作と判断される。面部がほぼ制作当初の彫りを残している点が 評価され、柔らかみのある肉づけや伏し目がちの表情などにこの時代らしい穏健な作風がうかがえる。なお、尊名は確定できないが、現在の手

<漆工>(5件)

黒漆塗鼓胴形花器 北村久齋作(くろうるしぬりこどうがたかき/きたむらきゅうさいさく) 〇名 称

〇作 者等 北村久齋 (1875-1959)

代 近代 明治~昭和時代 (1945 年以前) 〇時

〇員 数 1 🗆

 \bigcirc R 木製 里漆涂 皙

〇寸 法 等 長 41.9 cm 口径 14.5 cm 胴径 9.0 cm

〇作品概要 正倉院宝物の漆鼓(南倉 115)を模した鼓胴形の花器。金銅製の落としを受け口に掛けて使用する。広葉樹の一材を肉厚に刳り抜き、轆轤挽き 成形した上に黒漆を塗って仕上げている。原宝物の本来の用途を離れ、器体の形状に着目して花器に仕立てたものであるが、寸法も概ね一致し ており、宝物をよく写している。明治8年(1875)に初回の行われた奈良博覧会を契機とし、正倉院宝物や古美術を模したり、翻案したりした 意匠が広く採り入れられたいわゆる奈良漆器の典型で、類品も少なからず存在するが、本品は箱書や作風から奈良の漆芸家・北村久齋(1875~ 1959) の作と目される。奈良漆器の歴史や文化を考える上で好適な一例である。

〇名 **倶利伽羅龍蒔絵経箱復元模造手板 北村昭斎作(くりからりゅうまきぇきょうばこふくげんもぞうていた/きたむらしょうさいさく)** 称

〇作 者 等 北村昭斎 (1938-)

〇時 代 現代 平成7年 (1995)

〇員 数 1 面

木製 布被 漆漆 蒔絵 皙

〇寸 法 等 縦8.0 cm 横70.0 cm 厚1.0 cm

〇作品概要 本品は、平成4・5年度における文化庁の事業によって制作された倶利伽羅龍蒔絵経箱(原品は奈良・當麻寺奥院所蔵)の復元模造(奈良国立 博物館蔵)の製作工程を記録としてまとめた手板である。長方形の板の表面に、2 センチメートル幅で 35 の区画を設け、木地固めから完成に至 る 35 工程を、経箱の蓋甲の倶利伽羅龍剣および矜羯羅・制吒迦の二童子部分の意匠を使用して示している。復元模造の制作過程が具体的にわ かる点で有意義であるとともに、原品の制作工程を考察する上でも参考になる一品である。

〇名 玳瑁螺鈿花形盤 北村昭斎作(たいまいらでんはながたばん/きたむらしょうさいさく)

〇作 者 等 北村昭斎 (1938-)

代 現代 平成 15 年 (2003) ○時

〇員 数 1 面

〇品 質 木製 漆塗 蒔絵 螺鈿 玳瑁

〇寸 法 等 最大径 58.5 cm 高 12.5 cm

〇作品概要 平成 11 年に重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けた漆芸家・北村昭斎氏(1938~)の作品で、器形を探求する昭斎氏の 1990 年代以 降の傾向を如実に示す品の一つである。大輪の花を思わせる大胆なフォルムに正倉院宝物を思わせる花形の螺鈿装飾を合わせた造形は古典と斬 新さを兼ね備えたもので、正倉院宝物の修理などを手掛けてきた氏ならではの作風が示されている。古稀を前にした氏の芸術の一つの到達点を 示す作であり、その作風を回顧する上で重要な位置を占めることは疑いない。また奈良の漆芸文化の今日的水準を示すものとしても大変重要で ある。第50回日本伝統工芸展入選作。

〇名 蒔絵螺鈿乱箱 北村大通作(まきえらでんみだればこ/きたむらだいつうさく)

北村大通 (1910-92) 〇作 者 等

代 近代 明治~昭和時代(1945年以前) 〇時

〇員 数 1 🗆

漆塗 蒔絵 螺鈿

〇寸 法 等 縦 42.4 cm 横 36.4 cm 高 6.6 cm

角を円く作った長方形の蕎を伴わない浅い箱で、木胎に漆を塗って仕上げている。奈良の漆芸家・北村大通(1910~92)の遺作で、色漆を巧み ○作品概要 に用いた大らかな作風から大通初期の作品と思われる。外側面には黒漆地に黄白色の梅花文を、内側面と底面には黄白色の地に黒色の梅花文を 散らしており、底面に腹巻の大袖を多彩な色漆で表している。大袖の金具に当たる部分は乾漆粉を用いた蒔絵で表しており、金属粉の使用が制 限された戦時下の状況を反映すると考えられる。主題からは古典や日本文化への興味がうかがわれるが、これは戦後第3回日展に出品された「漆 手筥 春日のほとり」などに通ずるもので、大通の作風展開を考える上でも注意される。

〇名 二月堂食堂机 模造 (にがつどうじきどうづくえ もぞう) 7

北村久齋 (1875-1959) か 〇作 者 等

近代·昭和 20 年 (1945) 以前 代 〇時

〇員 数 1 基

〇品 質 木製 黒漆塗

〇寸 法等 縦 34.2 cm 横 57.5 cm 高 26.5 cm

○作品概要 東大寺二月堂で行われる修二会に参籠する練行衆が、食堂にて行う食堂作法に用いる小さな机を模したもので、伝来などから北村久齋の作と推 察される。大きさや端喰の入れ方、あるいは天板裏や側板に記された銘文の記し方に至るまで実際の二月堂食堂机と概ね一致しており、現物の 観察に基づいて製作された可能性が想起される。いわゆる奈良漆器の生産では奈良にゆかりのある正倉院宝物や玉虫厨子など上代の美術に加え、 二月堂練行衆盤のような実用的な器物も模造されており、特に二月堂食堂机は久齋得意の一つだったと伝えられている。奈良漆器の好適な一例 であるとともに、その展開を考える上でも興味深い遺例である。

<考古>(1件)

8 〇名 称 甕(かめ)

〇作 者 等

〇時 代 弥生時代後期 2世紀

○員 数 1口 ○品 質 ±製

〇寸 法 等 高 22.7 cm 口径 14.8 cm 底径 3.8 cm

〇作品概要 :

本品は、奈良県田原本町唐古から出土したと伝える弥生時代の甕である。いわゆるイチジク形の甕で、最大径を胴部中位にもち、口縁部をハ字に大きく開く。また、底部はごく小さく絞られている。唐古は弥生時代の環濠集落として考古学史的にも重要な唐古・鍵遺跡(国指定史跡)の所在する土地である。唐古周辺の典型的な土器と比べて本品はやや暗めの色調を呈するが、完形で遺存する甕は数が少なく、大和の弥生土器の標本的資料として活用が期待される。製作時期は「機内第収様式」、およそ2世紀に位置づけられる。

【九州国立博物館】(計36件)

(1) 購入(31件)

<絵画> (4件)

1 〇名 称 絹本著色仏涅槃図 命尊筆(けんぽんちゃくしょくぶつねはんず みょうそんひつ)

〇作 者 等 命尊筆

○時 代 鎌倉時代・元亨3年(1323) ○品 質 絹本著色。掛幅装。画絹一副一舗。

O員 数 1幅

〇寸 法 等 縦 270.0 横 212.4cm

〇作品概要

拘尸那掲羅における釈迦の入滅、涅槃の様子を、鎌倉時代以降主流となる縦長画面に描く。釈迦が目を開け、錫杖の周りに蜂が飛び、釈迦の足元に尼僧が侍するなど、特徴的な図様がみられる。四周には蓮華文の描表装が巡る。

紙背に貼付された供養銘から、元亨3年(1323)、法華寺比丘尼行施が願主となり、命尊によって描かれたことが分かる。尊は南都を中心に活躍した絵仏師で、大幅ながら細部まで意を尽くした入念な描写は現在確認されている命尊の作例のなかでも出色の出来栄えを示している。鎌倉時代を代表する完成度の高い優品であるとともに、制作年代、筆者、願主まで明らかな基準作として極めて貴重である。

画面全体の折れや断裂も一部あるが、後補はきわめて少ない。

〇来 歴 奈良・法華寺伝来

2 〇名 称 紙本著色物語図 二曲屏風 伝俵屋宗達筆

(しほんちゃくしょくものがたりず にきょくびょうぶ でんたわらやそうたつひつ)

〇作 者 等 伝俵屋宗達(生没年不詳)筆

〇時 代 江戸時代・17世紀

○品 質 紙本著色○員 数 1 隻

〇寸法等 縦 122.5 横 271.1 c

O作品概要 基壇に建つ入母屋造の建物と、桧皮葺の四脚門の周辺を行く貴人と従者の姿を描く。主題は明らかでないが、俵屋宗達筆「西行物語絵」(重文、個人蔵、渡辺家本)や、同じく宗達筆「西行物語絵」(重文、諸家分蔵、旧毛利家本)と同形の人物やモチーフが認められる。落款や印章はないが、人物表現の特徴、樹木へのいわゆる「たらしこみ」技法の使用、および金箔や金銀泥、金切箔、金野毛、金砂子など多様な金銀の組み合わせ方法を鑑みると、江戸時代初頭に活躍した絵師・俵屋宗達の周辺で制作された可能性が高い。ただし一部に宗達の真筆と認めがたい部分が見られることから、宗達の活動年の下限頃にその強い影響下において制作されたものと考えられる。

3 〇名 称 紙本著色病草紙断簡(せむしの乞食法師)

(しほんちゃくしょく やまいのそうし だんかん せむしのこつじきほうし)

〇時 代 平安-鎌倉時代·12世紀

〇品 質 紙本著色。掛幅装。(詞書2紙と絵1紙)

〇員 数 1幅

〇寸 法 等 縦 26.0cm 横 38.0cm

〇作品概要 珍しい病や症例を描く「病草紙」のうち、首から背を大きく曲げ、錫杖を手に画面左方へ歩く乞食(こつじき)法師の様子を描いたもの(名称は詞書による)。この法師は首の骨が硬く、頭を上げられないため、常に俯いて歩いたという。周りには法師を嘲笑する人々が表現されている。「病草紙」は、仏教の経典に説かれる前世の因果による奇病を示したものと考えられている。作風が「地獄草紙」(国宝、東京国立博物館)や「餓鬼草紙」(国宝、京都国立博物館)など、12世紀末に後白河法皇の下で活躍した絵師・常盤光長に近似することから、本図もその周辺で制作された可能性が高い。当初は京都国立博物館所蔵の「病草紙」10面(国宝)などと共に一巻の巻子として名古屋の関戸家に伝来していたが、その後現在の掛幅装に改変された。

〇来 歴 大館高門、関戸家旧蔵。

4 〇名 称 絹本著色仏涅槃図(けんぽんちゃくしょくぶつねはんず)

〇時 代 鎌倉時代・13世紀

〇品 質 絹本著色。掛幅装。画絹四副一舗。軸首と鐶(3ヶ所)は銅製鍍金。

〇員 数 1幅

〇寸 法 等 縦 202. 5 横 160. 3cm

〇作品概要 縦長の画面に右手を枕に

縦長の画面に右手を枕にして横たわる釈迦を多数の菩薩や動物が囲むという、鎌倉時代以降の涅槃図の典型的な図様をもつ。その一方で、釈迦が目を開ける点、釈迦の足下に尼僧を描く点、黒いテナガザルを描く点など特徴的な図様もみえる。表現に着目すると、伝統的な仏画の描法を拠りどころとしながら、諧調のある墨で巧みにとらえた湧雲や小刻みに蛇行する衣文線など宋画に由来する表現が散見される点も興味深い。金泥を多用する点、寒色系の彩色が支配的である点などから、鎌倉時代後半 13 世紀の制作とみなされる。剥落や小欠損部の補絹が一部にみられるものの、補筆は少なく全体として当初の全容を保っている。

<書跡> (5 件)

5 O名 称 紙本墨書興福寺関係文書 (しほんぼくしょこうふくじかんけいもんじょ)

〇時 代 鎌倉時代・文治 5 年 (1189) 頃-建久 9 年 (1198)

〇品 質 紙本墨書。巻子装。

O員 数 1巻

〇寸 法 等 31.9cm (軸含む)、横 1862.9cm、表紙 縦 29.5cm 横 29.3cm

〇作品概要 興福寺別当覚憲 (1131~1213) が受け取った院宣・八条院令旨・摂関家長者御教書等の古文書 34 通を貼り継ぎ、その紙背に覚憲の弟子・信憲 (1145~1225) が建久 9 年 (1198) に文軌撰『因明入正理論疏』巻第一 を隆昌に書写させたもの。本来は、経典を内側にして巻いていたもの と思われるが、現状では古文書を内側にして巻いている。本文料紙数は 34 紙。1 紙長は 52.0~55.0 程度。第 2 紙での計測では、経典は 1 行 20 字から 25 字詰め、1 紙 24 行、界高 24.3、界幅 22.0、上欄 2.9、下欄 2.3。縦の長さを合わせるため、古文書はみな下端を切断されている。表 紙と軸は後補。軸に接続する紙が新補されている。虫損や破損はあるが、補修されている。全体に保存状態は良好。経文に脱落なし。

6 〇名 称 紙本墨書伊達政宗自筆書状(しほんぼくしょだてまさむねじひつしょじょう)

〇作 者 等 伊達政宗

〇時 代 江戸時代・17世紀

〇品 質 紙本墨書

O員 数 1幅

〇寸 法 等 (本紙) 縦 33.1 横 48.7 cm

〇作品概要 掛幅装。

本文全 12 行。行草体の漢字と仮名交り文で揮毫する。保存状態は、本紙・表装とも良好。筆者の伊達政宗(1567~1636)は、室町時代末期から江戸時代初期にかけての武将、仙台藩祖。

本書状は、家臣の青木忠五郎友重 (1605~36) に宛てたもので、年未詳ながら、書風と花押から晩年の江戸時代寛永年間前半(1624~35)の 11月22日の執筆と推定される。内容は、明日の茶会へ招かれることを楽しみにしていること、沢山持っているだろうが香木一包と鶴の羽を貴殿に進上すること、明日の準備でせわしいだろうからこの礼は無用であることを、晩年期の闊達自在な筆致で記す。

7 〇名 称 紙本墨書惟堂守一墨蹟 与無夢一清偈

(しほんぼくしょいどうしゅいちぼくせき むむいっせいにあたうるげ)

〇作 者 等 惟堂守一

〇時 代 中国・元時代・至順4年(1333)

〇品 質 紙本墨書

〇寸 法 等 (本紙) 縦 32.5 横 71.4cm

〇作品概要 掛幅装 (一文字なし)。

本文全 18 行。楷書体と行書体を交えて謹直に墨書する。角軸。

筆者の惟堂守一(?~1333~?) は、中国・元時代の破庵派の臨済僧・虚谷希陵の法嗣。本作品は、東陽徳輝の下で修行していた日本からの入元僧・無夢一清(1294~1368)の旅立ちに贈った餞別偈で、禅僧としての大成を期待するもの。円爾(1202~80)の法孫にあたる無夢は、嘉元年間(1303~05)に入元し、観応元年(1350)博多に帰着、その後、東福寺30世などをつとめ、応安元年(1368)同寺天得庵に75歳で示寂した。本作品は、日中の禅の交流を物語る重要な史料であるばかりか、惟堂の遺墨として唯一のもので大変貴重である。のち、元和5年(1619)に江月宗玩(1574~1643)が鑑定したことがその著『墨蹟之写』に見え、その後、仙台藩四代藩主伊達綱村が収集し、同家に伝わった。

〇来 歴 仙台伊達家伝来

8 〇名 称 紺紙金字三昧水懺法 (こんしきんじざんまいすいぜんほう)

〇作 者 等 照明

〇時 代 中国・明~清時代・15~17世紀

〇品 質 紺紙金字

〇員 数 3帖

〇寸 法 等 (巻上) 表紙 縦 33.9 横 12.1 本紙 縦 33.9 全長 1088.6

(巻中) 表紙 縦 33.9 横 12.1 本紙 縦 33.9 全長 1014.3

(巻下) 表紙 縦 33.9 横 12.1 本紙 縦 33.9 全長 1041.1 cm

〇作品概要 紺紙金字。折本装。上・下巻の表裏表紙は当初と推定される。上巻巻頭に金泥で描かれた見返し絵は、三昧水懺起縁の内容に拠った唐の悟達国師知玄の物語である。続いて、金泥にて龍牌、三昧水懺起縁、本文と続く。下巻巻末には牌に願文を記し、最末には合掌して立つ韋駄天像を描く。本文は 1 行 15 字詰め、半葉 5 行。文中には金泥で句点を施す。料紙は、法華経が印刷された紙を転用したもので、藍染めされた後も版本の文字が透けて確認できる。版本も 1 行 15 字詰めで句点がある。見返し絵と龍牌は墨で下絵を描き金泥でなぞっているが、かならずしも下絵に忠実ではない。紺または薄茶の紙で裏打ちされている。裏打ち後に料紙を貼り継いでいるので、当初からの裏打ちの可能性がある。巻首・巻末や紙背に朱筆で記された文字がある。

9 〇名 称 彩箋墨書詩歌色紙帖 近衛信尹筆 (さいせんぼくしょしいかしきしじょう このえのぶただひつ)

〇作 者 等 近衛信尹

〇時 代 安土桃山~江戸時代·17世紀

〇品 質 彩箋墨書 〇員 数 2帖

〇寸 法 等 (各帖) 縦 29.9 横 24.3 高さ 5.7 (色紙) 縦 20.8 横 17.9 cm

〇作品概要 彩箋墨書。両面折帖仕立。

筆者の近衛信尹(1565~1614)は、安土桃山時代から江戸時代の公卿。その書は、はじめ室町時代の持明院流に学び、しだいに藤原定家の書などの家蔵の古筆・古典籍を研究して、近衛流(または三藐院流)と呼ばれる独自の書法をうちたてた。この時代の代表的能書である「寛永の三筆」の一人として、日本書道史上に名高い。本作品は、萌黄、深緑、白、白茶、縹、薄縹、茜の各色の料紙に、金銀の箔と泥を用いて山水や草花等を描いた料紙に、四季の順に『和漢朗詠集』と『新撰朗詠集』所収の漢詩と和歌を1首1葉に揮毫し、2帖で合計72枚の色紙を収める。筆致は、濃淡、緩急、太細といった変化に富み、雄渾かつ華麗に書法の妙を披歴し、完成度が高い優品である。

<陶磁> (2件)

10 〇名 称 黄清香茶壺 (きせいごうちゃつぼ)

〇作 者 等 中国

〇時 代 南宋-元・13-14世紀

〇品 質 陶器。紐輪積、轆轤・叩き調整。

〇員 数 1口

〇寸 法 等 高 43.6cm 口径 12.3cm 胴径 15.2cm 底径 35.8cm

〇作品概要 底部からやや斜めに開きながら立ち上がる。腰部辺りでゆるやかに上方へと伸び、長胴形となり肩部から丸く頸部へとすぼめていく。頸部は内 湾しながら立ち上がり、玉縁状の口縁とする。肩上部に二条の凹線と波状文を巡らす。肩と口頸部の付け根の間に四つの耳を貼り付ける。腰部 から頸部内側までやや緑がかった黄褐色釉を施す。底部中央に貼札「黄清香御壺/仙臺伊達家傳來」(墨書)あり。貼札左に花押状の墨書あり。 釉調から「黄清香」と呼ばれるもので、入が入る部分はあるものの完形である。長持ち状の外箱と内箱が添う。外箱、内箱の墨書、貼札、底部 の貼札は仙台伊達家伝来と伝える。南北朝以来賞翫されてきた唐物茶壺の姿をよく伝える作品である。

〇来 歴 伝 仙台伊達家伝来

11 〇名 称 耳付水指 高取(みみつきみずさし たかとり)

〇作 者 等 高取

〇時 代 江戸時代・17世紀

〇品 質 陶器の耳付水指。

〇寸 法 等 高 19.5cm 口径 11.3cm 底径 15.0cm

○作品概要 鉄分を含んだ暗褐色の細かな胎土を轆轤で成形する。平底から腰と肩をふくらませ、口縁はくっきりと開く。肩の側面二方には塊状の耳を付け、胴部は三方からゆったりと撓める。肩上部には太くゆらぎのある凹線を一重巡らし、耳横に一ヶ所△状の彫りを入れる。肩と腰の間は凹線で区画し、「\」、「/」、「/」、「/」、「/」、「/」と太い凹線で飾る。底部を除いた外面と内面底部、内側面の一部に暗緑褐色の釉を施す。

本作品はかつて唐津と考えられていたが、近年の発掘調査により高取の内ヶ磯窯の作であることが明らかになったもの。その大胆な造形は、同時期の美濃、伊賀、備前などの水指とも共通しており、畿内で隆盛する茶の湯の需要を背景に作られたものであることがわかる。

<漆工> (1 件)

12 〇名 称 葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙硯箱 (ぶどうりすらでんはくえりょうしすずりばこ)

〇時 代 琉球·第二尚氏時代·18~19世紀

〇品 質 木製漆塗。 〇昌 数 1旦

〇寸 法 等 (硯箱) 縦 26.4 cm 横 21.3 cm 高 6.0 cm (料紙箱) 縦 45.1 cm 横 36.2 cm 高 12.5 cm

〇作 品 概 要 現箱、料紙箱ともに、長方形、被蓋造とし、蓋鬘の下端は波形に形を整え、玉縁に仕立てている。器表は潤塗、身内と底は黒漆塗とし、玉縁の部分を朱塗とする。文様は、蓋表、蓋鬘および身の側面に葡萄栗鼠を密に配したもので、葡萄と栗鼠は夜光貝を貼り付けてあらわし、栗鼠

の面貌や毛の流れ、葉脈などの細部を付描で描く。また、蔓や一部の葉は箔絵で表現し、葉脈には針描を用いる。

蓋鬘下端を波形に刳った特殊な形の料紙硯箱で、後世修理が見られるものの保存状態は良好である。多産を意味する葡萄栗鼠文様は、アジア 諸国の工芸品に見られる吉祥文であり、このように螺鈿と箔絵技法を併用して器表全体を埋め尽くす文様構成は、琉球漆器の典型作の一つとなっている。

\$ 2 C 0 ...

<染織> (13件)

13 〇名 称 縞藍布切伏白糸縫取上衣(しまあいぬのきりぶせしろいとぬいとりうわぎ)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 大正時代・20 世紀

〇品 質 木綿

O員 数 1領

〇寸 法 等 丈 129.0、裄 61.5cm

〇作品概要 和人との交易などによって得られた木綿衣にアイヌ文様を木綿で切り伏せ、刺繍を施している。アイヌ文様は母方の系譜にしたがって伝承され

ていく。木綿の上衣はアイヌの装いを示すだけでなく、重要な交易品の一つとして交流を示す資料としても貴重である。

〇来 歴 山形の庄内地方に伝わった

14 〇名 称 縞藍布切伏浅葱糸縫取上衣(しまあいぬのきりぶせあさぎいとぬいとりうわぎ)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 アイヌ文化期-明治時代・19世紀

○品 質 木綿○員 数 1 領

〇寸 法 等 丈 112.4、裄 61.5 cm

〇作品概要 和人との交易などによって得られた木綿衣にアイヌ文様を木綿で切り伏せ、刺繍を施している。アイヌ文様は母方の系譜にしたがって伝承される。

ていく。木綿の上衣はアイヌの装いを示すだけでなく、重要な交易品の一つとして交流を示す資料としても貴重である。

〇来 歴 山形の庄内地方に伝わった

15 〇名 称 藍・浅葱布切伏萌葱・白糸縫取アットゥシ(あい・あさぎぬのきりぶせもえぎ・しろいとぬいとりあっとぅし)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 明治時代·19世紀

〇品 質 オヒョウ、木綿

O員 数 1領

〇寸 法 等 丈 130.3、 裄 68.0 cm

〇作品概要 アットゥシは、オヒョウなどの木の外皮と木質部の間にある繊維質の内皮を糸に加工し、アットゥシ織機で織った反物から作る。無地にアイヌ

文様の切布や刺繍がある。

〇来 歴 山形の庄内地方に伝わった

16 〇名 称 格子縞草皮衣 (こうしじまそうひい)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 アイヌ文化期~明治時代・19世紀

〇品 質 イラクサ、木綿

O員 数 1領

〇寸 法 等 丈 126.0、裄 63.5 cm

〇作品概要 草皮衣はイラクサという草を加工して織った反物から作る。アットゥシより柔らかく、白っぽい仕上がりになる。襟、袖口、裾に木綿を付ける。

使い込まれた使用痕がのこる。補修された箇所もある。

〇来 歴 北海道の収集家のコレクションであった。

7 〇名 称 格子縞草皮衣 (子供着) (こうしじまそうひい (こどもぎ))

〇作 者 等 北海道または下北

〇時 代 アイヌ文化期-明治時代・19世紀

〇品 質 イラクサ、木綿

O員 数 1領

〇作品概要 草皮衣はイラクサという草を加工して織った反物から作る。アットゥシより柔らかく、白っぽい仕上がりになる。襟、袖口、裾に木綿を付ける。

やや小さめで子供用に作られたと推測される。かなり使い込まれた使用痕がある。

〇来 歴 北海道の収集家のコレクションであった。

18 〇名 称 縞藍布切伏萌葱糸縫取アットゥシ(しまあいぬのきりぶせもえぎいとぬいとりあっとぅし)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 アイヌ文化期-明治時代・19世紀

〇品 質 オヒョウ、木綿

〇員 数 1領

〇寸 法 等 丈 106.5、 裄 62.5 cm

〇作品概要 アットゥシは、オヒョウなどの木の外皮と木質部の間にある繊維質の内皮を糸に加工し、アットゥシ織機で織った反物から作る。縞地にアイヌ

文様の切布や刺繍がある。かなり使い込まれた使用痕がある。

〇来 歴 青森のやん衆(漁師)が使っていた。

19 〇名 称 縞藍布切伏萌葱糸縫取アットゥシ(しまあいぬのきりぶせもえぎいとぬいとりあっとっし)

〇作 者 等 北海道

〇時 代 アイヌ文化期-明治時代・19世紀

〇品 質 オヒョウ、木綿

O員 数 1領

〇寸 法 等 丈 126.0、裄 66.0 cm

〇作品概要 アットゥシは、オヒョウなどの木の外皮と木質部の間にある繊維質の内皮を糸に加工し、アットゥシ織機で織った反物から作る。縞地に切布や刺繍がある。

〇来 歴 青森のやん衆(漁師)が使っていた。

20 〇名 称 縞アットゥシ (子供着) (しまあっとぅし (こどもぎ))

〇作 者 等 北海道

〇時 代 アイヌ文化期-明治時代・19世紀

〇品 質 オヒョウ、木綿

O員 数 1領

〇寸 法 等 丈 107.5、 裄 60.0 cm

O作品概要 アットゥシは、オヒョウなどの木の外皮と木質部の間にある繊維質の内皮を糸に加工し、アットゥシ織機で織った反物から作る。襟、袖口、裾に木綿を付ける。やや小さめで子供用に作られたと推測される。

〇来 歴 青森のやん衆(漁師)が使っていた。

21 〇名 称 浅葱地牡丹松梅桜散し文紅型衣裳(あさぎじぼたんまつうめさくらちらしもんびんがたいしょう)

〇作 者 等 沖縄·首里

〇時 代 琉球 第二尚氏時代-明治時代初期·19世紀

〇品 質 苧麻。数カ所に小さな虫喰いが認められるが状態は総じて良好である。

苧麻単糸平織(経:撚無し、25 本/cm 緯:撚無し、28 本/cm)。紅型両面染め。文様は牡丹、松、梅、桜文の小文様で、それぞれ2 つから3 つの花数にまとまり、蔦文をあわせ、地間には単体の桜文を散らしている。型紙は細模様(奉書紙の全紙約四分の一)を繰り返し用い、総柄に仕上げている。花文は紅色、あずき色、黄色、牡丹葉は緑色が色差しされ、梅文には隈取りが施されている。文様を色差しした後に花文のみ糊防染し、藍の引き染めで地色を染めている。

形態は、単衣仕立て。衿は布を贅沢に使った広衿で、内側に折り返している。衿肩明きが短く、後身頃への繰越はつくらず、衿丈が長く、衿下が短い。袖は付けづめで、身八つ口や振りはなく、袖口下を縫いふさがない広袖である。脇にはマチ(ワチスビ)をつけない。

袖口の始末はせずに耳のままである。衿端は折伏せ縫いにしている。後ろ身頃の身幅に対して、前身頃は衽付けの際に縫い代を大きくとり(縫い代 8.0cm)、身幅を調整している。裾始末は、背縫いと衽付けの後、三つ折縫いしている。縫い糸は背縫い、脇、衽付けに白の木綿糸を、それ以外には水色の木綿糸を使用している。現在の縫い糸の他に、腰上げ跡や、前身頃の端に 1.5cm の縫い代痕が見られる。

〇員 数

〇寸 法 等 丈 128.5cm 裄 64.3cm 織幅 35.0cm

〇作品概要 文様は牡丹、松、梅、桜文の小文様で、蔦文をあわせ、地間には単体の桜文を散らす。型紙は細模様(奉書紙の全紙約四分の一)を繰り返し用い、総柄に仕上げる。単衣仕立て。数カ所に小さな虫喰いが認められるが総じて良好である。

苧麻地の表裏に文様をあわせた両面染めの紅型で、①広衿、②衿丈が長く、衿下が短い、③広袖の付けづめ、④衿肩明きが小さい、⑤衽下がりが短い、⑥衿肩明きを肩山より後ろ身頃側へずらす繰越がない、⑦後幅は布幅いっぱいを使うなど琉装の特徴を保っている。一部縫い直されており、打掛として仕立てられた琉装を帯をしめる和装着物として用いていたと思われる。布地は極細の苧麻糸で織られた一級の上布であり、もともとは首里の上級士族向けの紅型衣裳であった可能性が高い。

22 〇名 称 黄地竹垣薔薇文紅型裂(きじたけがきばらもんびんがたきれ)

〇作 者 等 沖縄・首里

〇時 代 琉球 第二尚氏時代-大正時代·19-20 世紀

〇品 質 絹。絹単糸平織(経:撚無し、52 本/cm 緯:撚無し、34 本/cm)。紅型片面染め。織幅を残し、上下は断ち切られた裂で、下辺の一部にほつれを 防ぐためのまつり縫いが残る。下辺に小さな裂けが認められるが、大きな汚れ、切れは認められない。

鮮やかな黄地に表された文様は、垣根の手前と後ろに、大輪の花文を表したものである。大模様の型紙(奉書紙全紙大)を連続して用い、裂地の上下に同模様が二段認められる。花文は、細く鋭角的な枝葉をもった薔薇文で、楕円形と側面形の大輪と、蕾を描く。薔薇の花、葉の表現は二種類あり、ひとつは紅色、薄紫色、緑色を差し、隈取りをほどこし、ひとつは輪郭のみ残し内を格子縞で表す。竹垣は屏風状に屈曲して表され、青色の垣根は不揃いな竪縞をつくる。薔薇の根元から龍の髭状の細長い草が曲線を描いて伸び、竹垣による竪縞と相反する。

O員 数 1枚

〇寸 法 等 縦 84.6cm 横 43.2cm (織幅 43.2cm)

〇作品概要 織幅を残し、上下は断ち切られた裂で、下辺の一部にほつれを防ぐためのまつり縫いが残る。鮮やかな黄地で、屏風状に屈曲した竹垣根の手前と後ろに、細く鋭角的な枝葉をもった大輪の薔薇文を表す。大模様の型紙(奉書紙全紙大)を連続して用いており、裂地の上下に同模様が二段認められる。

紅型は文様を型紙や筒描きによって糊防染し、その上から顔料や染料で染めを施すもので、琉球時代から続く沖縄の染技法である。王家の衣裳の色である黄地の裂だが、意匠構成や染めは幾分雑駁であることから、踊り衣裳としてつくられた可能性もある。

本作の文様は、鎌倉芳太郎蒐集の紅型型紙資料のうち「垣根薔薇模様白地型紙」(沖縄県立芸術大学附属図書・資料館 収蔵番号 1117) に大変よく似ている。

23 〇名 称 茜地山水松鶴文更紗 (あかねじさんすいまつつるもんさらさ)

〇作 者 等 インド・コロマンデル海岸

〇時 代 17-18 世紀

〇品 質 木綿。

インド更紗。木綿単糸平織(経:2・34 本/cm 緯:2・28 本/cm)。片面染め、描き染め、蠟防染。広幅の布一面を濃い茜色に染め、山水模様を描き染めと蠟防染にて表す。矩形をいくつも重ねて表した岩山に沿って滝が表され、流れ出した水流は池となり、水辺には太い松の樹、苔むした岩、2 羽の鶴、さらに続く川と見られる水流には、もう1 羽の鶴が着水する様が描かれる。上記の図様を布一面に繰り返す。ひとつひとつの文様は極めて細緻で、カラムカリという手描きのための筆記用具を用いて輪郭線だけでなく陰影、植物の葉脈や襞も極細線で描き込んでいる。鶴の胴体には花唐草、池の水文は蠟防染で渦巻文を描くなどいたる所を細線で装飾する。縁回しは華やかな大輪の花の唐草文で、しっかりと太い唐草が途切れることなく巡らされている。

全体に擦れや穴が多く、インドネシアで補修されたと見られる接ぎあて(インド更紗)が多数認められる。

O員 数 1枚

〇寸 法 等 縦 312.0 横 224.0cm

○作品概要 スマトラ島ランプンに伝世した広幅の大更紗。文様のパターンを繰り返すが、すべて手描きで、ひとつひとつの文様は極めて細緻である。山水 モチーフはヨーロッパにおける中国趣味に応じて用いられており、本品は本来ヨーロッパ向け輸出品として制作されたと考えられる。類似品と しては、京都の祇園祭、南観音山の前掛として使用されている更紗、ニューヨーク・クーパーヒューイット博物館蔵の更紗が知られる。後者は もとオランダの古渡りで、第二次世界大戦後にニューヨークに運ばれたという。彦根藩井伊家に伝来した彦根更紗の中にも本更紗の松鳥文に近 い更紗の裂が伝わっている。日本の古渡更紗と同類の更紗がインドネシアに渡り、当初の姿をそのまま残して今に伝わっていたという点で、真に価値が高い。

〇来 歴 インドネシア・スマトラ島ランプン伝世。1980年代に現地で入手。

24 〇名 称 茜地花卉鳥獣文更紗(あかねじかきちょうじょうもんさらさ)

〇作 者 等 インド

〇時 代 17-18 世紀

〇品 質 インド更紗。生地は木綿単糸平織(経:Z・23 本/cm 緯:Z・22 本/cm)。一部両面染め、描き染め、蠟防染。

やや厚めの木綿生地に鮮やかな茜色が地色として染められ、文様はすべて描き染めで表される。茜染めは両端の部分のみ両面に染められ、他は

すべて片面染めである。淡い藍色が使われているが裏面には色が抜けていない。意匠構成は中央の矩形と両端の鋸歯文からなり、それぞれの区 画の間には黄色地に茜色の縄目文を配した帯が表される。中央の矩形内には蠟防染で立湧様に枠線を引き、枠線内部には側面形の花文を描く。 矩形の周りにはこげ茶地に兎文の枠を巡らせ、さらに外側に花弁形の縁をまわし、中は茜色のゴマ手の地文に蹲踞する半人半獣を描く。布地の 四分の一位置に接ぎ目が認められる。矩形を囲む茶地兎文の枠の一片が切られ、接ぎあわされた箇所には他の三辺と異なる花弁形の縁まわしが 配される。両端に描かれた鋸歯形は直線的ではなく花房の輪郭をとったような曲線を描き、内側は花唐草を中心に両側に猿、鳥がそれぞれ一対 で描かれる。両端の左右に帯形区画を設け、中心から外に向かってゴマ手地文に花入りの三角形の区画、こげ茶地に花入りの立湧形の区画を配 する。両端の鋸歯文は同じ意匠だが、側面縁の模様は両端で若干異なる。上記のことから、本品は似通った意匠の兄弟裂2枚を接ぎあわせたも のとみなされる.

裏面の端2筒所に「4」の字を載せたハート形 VEIC 印が捺される。

〇員 数

〇寸 法 等 縦 239.0 横 112.0cm

南スマトラで儀礼用の布として使用されていたインド更紗。中央の矩形と両端に鋸歯文で構成され、文様はすべて描き染めである。本品の裏に ○作品概要 はイギリス東インド会社が 18 世紀末まで商標として使用していた。「VEIC(United East India Company 連合東インド会社)」の印が捺されて おり、イギリス東インド会社によって南スマトラにもたらされたことが考えられる。本品のように端に鋸歯状の模様をともなったデザインのも のは、腰巻として着用した際に裏地が見えやすいため、端の部分のみを両面染めにしている。一方、藍色が裏に抜けていないことから本品の藍

染めは浸染ではなく藍泥を直接描き染めしていることが考えられる。

○来 歴 インドネシア・南スマトラ伝世

25 〇名 称 クリシュナ物語図金更紗 (くりしゅなものがたりずきんさらさ)

〇作 者 等 インド・ラージャスターン州

〇時 代 18-19 世紀

インド更紗。木綿単糸平織(経:Z・28本/cm 緯:Z・27本/cm)。片面染め、描き染め、蠟防染、印金。 質

生地は2枚(幅64.5 cmと56.5 cm) からなり、中心より右よりで接ぎ合わせている。両端には縫い穴が認められる。クリシュナ神の物語を描き 染めで描く。中心は3段に区切られ上段は鮮やかな藍地で中心軸に向かいあう形で天界の有翼天人が左右5人、合計10人描かれる。中心の天 人は5弁の花を散華し、ほかの天人はそれぞれ竪琴、パカーワジュ(両面太鼓)、ヴィーナー(共鳴体のついた弦楽器)、タンブーラー(弦楽器) を手に音楽を奏でる。中段は淡藍地に染められる。笛を吹くクリシュナ神を中心に左右に 6 人ずつ 12 人のゴーピー(牧女)を配する。クリシ ュナは正面形でカチニと呼ばれるスカート、孔雀の羽飾りの冠、足まで届く豪華な瓔珞をつけている。ゴーピーはそれぞれ片手に供物を、もう 一方に団扇、孔雀の羽、払子などを手にする。下段は緑地に染められ主文の背景には山岳模様を表す。左側には樹下のクリシュナと乳搾りのた めの器を頭上運搬するゴーピー、右側には美しい設えの家屋がふたつ並び、クリシュナと貴族風の人物が描かれる。それらを囲うように召使風 の男性や牛の群れが配される。下段の地面にあたる最下段は白地に細い罫線が引かれ、茜地の区画を4つ配し、中に東屋を描く。これら3段の 物語図を囲む縁模様の四隅に茜地にハンサ(鵞鳥)を、四辺の縁模様は白地に花唐草を描く。模様の輪郭線のほぼすべてに印金がほどこされた 金更紗である。

生地、染め、印金ともに状態は良好である。

〇員 数 1枚

〇寸 法 等 縦 93 0 構 121 0cm

○作品概要 本品は模様の輪郭線のほぼすべてに印金がほどこされた豪華な金更紗である。クリシュナはヒンドゥー教のヴィシュヌ神の八番目の化身。15世 紀末に現在のウッタルプラデーシュ州マトゥラー近郊でクリシュナ信仰のヴァッラバ派が組織され、その信徒たちは 17 世紀にはインド北部ラ ージャスターン州にも広がった。クリシュナを画題とした裂はヴァッラバ派の寺院装飾として用いられており、本品も本来は寺院装飾のうちピ チャヴァイと呼ばれる壁掛として仕立てられたと考えられる。なお、本品のように正面形のクリシュナの図様はラージャスターン州ナタドワラ

の描き更紗やミニアチュールの図様と同様であることが指摘されている。

<歴史資料>(6件)

26 〇名 紙本著色稲富流砲術奥義秘伝図巻(しほんちゃくしょくいなとみりゅうほうじゅつおうぎひでんずかん)

〇時 代. 江戸時代·寛永 6 年 (1629)

紙本著色。巻子装。表紙は茶地亀甲繋文牡丹文金襴で、白無地に茶の縁を廻す貼題箋をつけるが文字は無い。見返しは白無地。紐は紫の無地で 〇品 皙 先に骨製の小ハゼをつける。軸首は木造印可軸(直径 1.9)。

○旨 1 巻

表紙縦 24.5 横 22.8。本紙縦 24.3 全長 1112.0(第1紙 90.3、第2紙 95.0、第3紙 91.8、第4紙 96.0、第5紙 62.5、第6紙 94.7、第7紙 94.4、 〇寸 法 等 第 8 紙 95. 9、第 9 紙 46. 2、第 10 紙 96. 6、第 11 紙 94. 7、第 12 紙 71. 9、第 13 紙 82. 0) cm

〇作品概要 過去の修理で不適切な紙継ぎが行われたと推測される。鉄砲で動物や人を狙う際に、距離や方向によって変わる目当とすべき位置を図と文字で 示す。鳥類、蜻蛉、長刀や弓、騎馬武者、的、笹などを描く。奥書の「右此一流一篇拾壱巻之書」から、慶長 12 年(1607)の稲富一夢(1552~1611) 自筆の伝書(3種類25巻)のうち『一流一返之書』の「目当定書」と推測される。

稲富流は、が創設した我が国を代表する砲術流派。一夢は丹後国の出身で初め細川忠興、のち松平忠吉、徳川家康に仕えた。

本書は一夢の没後に近い江戸時代初期の写本であり、当時の砲術の実態を示す好史料である。本書は、慶長 19 年(1614)に澤村角右衛門が稲富 一夢から伝授された書を、さらに寛永 6 年(1629)に佐倉久間儀太夫が写して越前一伯(松平忠直(1580~1607))へ伝えたものとみられる。

27 ○名 長崎阿蘭陀诵詞西吉兵衛家関係文書(ながさきおらんだつうじにしきちべえけかんけいもんじょ) 称

〇時 代 江戸時代・18-19 世紀

〇品 質 (1~5,7~10,13,14,18,22)紙本ペン書、(6)紙本銅版、(11,12,15~17)紙本ペン書和訳文は墨書、(23,25~35)紙本墨書、(24)紙本ペン書カ

〇員 数

(4) 縦 21. 2 横 16. 5 (2) 縦 23. 7 横 37. 2 (3) 縦 23. 1 横 18. 8 (4) 縦 32. 8 横 42. 4 (5) 縦 23. 0 横 37. 0 (6) 縦 9. 7 横 19. 6 (7) 縦 24. 8 横 21. 4 (8) 縦 17. 6 横 12. 3 (9) 縦 15. 5 横 19. 2 (10) 縦 13. 5 横 8. 7 (11) 縦 17. 8 横 11. 5 (12) 縦 11. 2 横 18. 1 (13) 縦 18. 1 横 22. 8 (14) 縦 15. 7 横 〇寸 法 等 (6) 縦 9. 7 横 19. 6 (7) 縦 24. 8 横 21. 4 13.7 (15)縦18.0横11.4 (16)縦10.0横14.2 (17)縦6.6横18.5 (18)縦12.0横20.9 (19)縦12.6横15.1 (20)縦22.5横17.8 (21)縦 27.4 横 21.2 (22) 縦 9.1 横 13.9 (23) 縦 18.0 横 16.6 (24) 縦 18.5 横 20.0 (25) 縦 15.4 横 15.3 (26) 縦 10.7 横 17.0 (27) 縦 13.3 横 16.2 (28) 縦 16.2 横 24.6 (29) 縦 27.2 横 19.3 (30) 縦 26.8 横 19.2 (31) 縦 24.6 横 17.1 (32) 縦 24.6 横 16.9 (33) 縦 24.5 横 16.1 (34) 縦 25.5

横 20.6 (35) 縦 16.1 横 14.3 cm

〇作品概要 阿蘭陀通詞はオランダとの貿易・外交・文化交渉の事務に当たった通訳官兼商務官。三十数家を数える阿蘭陀通詞のうち西家は元和2年(1616) に南蛮大通詞、後に阿蘭陀大通詞となった吉兵衛を初代とする。オランダ商館はオランダ東インド会社の日本支店で、寛永 18 年(1641)に平戸 から長崎出島への移転を命じられた。

(1) ~ (5) は、長崎商館長や商館員の書簡。インドのベンガル長官ティツィングやドゥーフの書簡を含む。

(7)~(22)は開国以降のもので、オランダ人だけでなく、米・英・仏・独人による蘭文と英文による書簡類を含む。多くは貿易に関する簡易な 内容。

(23)~(35)は涌詞がオランダ語で書いた書簡類。同僚の诵詞宛のものが多く、自宅への訪問を欠うなどの簡単な内容。

内容から長崎阿蘭陀通詞西吉兵衛家に伝来したものと考えられる。 ○来 歴

28 〇名 紙本墨書大内氏家臣安富氏関係文書(しほんぼくしょおおうちしかしんやすとみしかんけいもんじょ)

○時 代 室町-江戸時代・15-18 世紀

質 紙本墨書

〇員 数 1巻

〇寸 法 等 (1) 縦 25.5 横 34.0 (2) 縦 15.0 横 19.9 (3) 縦 25.7 横 34.2 (4) 縦 10.5 横 26.9 (5) 縦 25.8 横 38.2 (6) 縦 15.7 横 42.8 (7) 縦 26.6 横 37.7 (8) 縦 14.9 横 41.0 (9) 縦 17.1 横 29.9 (10) 縦 15.2 横 38.8 (11) 縦 24.6 横 35.2 (12) 縦 15.1 横 35.8 (13) 縦 22.8 横 35.4 (14) 縦 15.6 横 40.1cm

〇作品概要

大内氏は周防・長門を中心に勢力を伸ばし、義弘(1356~99)以降は筑前・豊前の守護職を兼ねた時期もあり、大友氏や少弐氏・菊池氏と争いな がら北部九州地域にも勢力をはった。また、朝鮮や明とも盛んに交易を行った。 安富氏は大内氏の重臣で、元寿(ゲンジュ)は在京雑掌として活 躍した。行恒(ユキツネ)などは大内氏奉行人奉書の奉者として名を連ねている。本文書は、大内持世(モチョ)(1394~1441)代の15世紀前半から義興(ヨ シオオ) (1477~1528) 代までの室町時代の文書 13 通(1~8、10~14) と、江戸時代・延享 5 年(1748) に大内政弘(マサヒロ) (1446~95) 感状を一族の安富 五右衛門に与えることを記した安富栄誠(ヒデノブ)置文1通(9)から成る。明治時代には山口県士族安富氏に伝来していた。

29 〇名 称 紙本墨書大内義降袖判安堵状并大内義長袖判下文

(しほんぼくしょおおうちよしたかそではんあんどじょうならびにおおうちよしながそではんくだしぶみ)

〇時 代 室町時代・天文 20 年(1551)(大内義隆袖判安堵状)、天文 22 年(1553)(大内義長袖判下文)

〇品 質 紙本墨書

O 数 2 诵

縱 31.6 横 47.2(大内義隆袖判安堵状)、縱 31.8 横 48.6(大内義長袖判下文) cm 〇寸 法 等

〇作品概要

大内義隆 (1507~51) は六カ国の守護を兼ね、大宰大弐にも任官した。重臣陶隆房 (スエタカフサ) (1521~55) らの叛乱により天文 20 年(1551) 9 月、自 害した。大内義隆袖判安堵状は、一宮武成(イチノミヤタケナリ)に対して父清成(キヨナリ)所帯の相続を安堵したもの。文書の袖に大振りな花押を記す義隆 最晩年のもの。大内義長(?~1557)は陶隆房に擁立されて天文 21 年 2 月に大内氏を継いだ。大内義長袖判下文は一宮修理進武成に対して豊前国 田河郡田原村(現福岡県田川郡川崎町田原)のうち 15 町の領知を認めたもので、下文の様式をとっている。書体から大内義隆袖判安堵状と同じ 右筆の手になるものと推定される。

30 〇名 称 紙本墨書徳川家康交趾渡海朱印状(しほんぼくしょとくがわいえやすこうちとかいしゅいんじょう)

江戸時代・慶長 19 年(1614) ○時 代

紙本墨書 質

〇員 数 1幅

〇寸 法 等 (本紙) 縦 43.4 横 60.0 cm

〇作品概要

掛幅装。紙表具。本文は「自日本到/交趾國舟也/右/慶長十九年甲寅正月十一日(/は改行を示す)」。料紙は箐の目の太い檀紙と推定される が、相剥ぎされて薄くなっている。

朱印船制度は、幕府の公許により異国へ渡海する船に朱印状を与えて相手国から航路の安全保障を求めたもの。慶長 19 年(1614)には金地院崇 伝(1569~1633) が発給を担当していた。この頃には下付の日付にとらわれず吉日を記入しており、慶長19年正月11日付けの交趾国への渡海 朱印状は7通が発給されていて、受給者は舟本弥七、唐人三ほかの7名であるが、なお記載にもれた受給者がいる可能性もある。交趾国は現在 のベトナム中部から南部にあたり、ホイアンが朱印船の主な渡航先となっていた。

31 〇名 福州沿海図 (ふくしゅうえんかいず)

〇作 者 等 Aucke Pietersz. Jonk もしくは Jan Hendricksz. Tim

オランダ王国・ネーデルラント連邦共和国時代・1663年 〇時 代

〇品 質 羊皮紙著色。

〇員 数 1枚

〇寸 法等 縦 79.0 横 92.0 cm

〇作品概要

オランダ製の海図。オランダ人地図製作者 Aucke Pietersz. Jonk もしくは Jan Hendricksz. Tim が、1662 年の中国福建省(福州)近海における 海戦でオランダ艦隊が鄭成功(1624~62)のジャンク船団を撃破した場面を描いたものである。本図の原本とみられる海図(1662年8月~9月成 立) がオランダ国立公文書館に所蔵されており、本図は1663年の年紀をもつことから、同図の副本であると考えられる。

本図は南方を上向きに配し、彩色には4色がもちいられ、海上にはオランダ艦隊と鄭成功のジャンク船団、港湾には城塞都市が描かれており、 黒インクのペン書きもある。本図の左上には「北緯 26 度 5 分福州の川の手前にある停泊地と港」とあり、計 11 地点 (A~K) についての個別的 な解説もあり海洋知識がもりこまれる。オランダ艦隊が鄭成功のジャンク船団を撃破・拿捕した様子がこまかく記されている。

(2) 寄贈(4件)

<彫刻>(1件)

〇名 称 十一面観音菩薩立像 (じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう)

〇作 者 等 日本

〇時 代 江戸時代・17世紀

木造 (針葉樹材)、彫眼。頂上面より両足に至るまで一材より彫成する。左前臂、水瓶、右足先、両肘後ろで 質

輪を描く天衣部分は別材製とする。

髻頂に如来相の仏面、天冠台上の周囲に変化面 10 面を巡らす。宝冠、冠繒を着ける。白毫相、三道相をあらわす。条帛、裙、腰布、帯状布を 着け、天衣を掛ける。装身具は胸飾、瓔珞、臂釧を着ける。左腕は屈臂し、蓮華を差した水瓶を持ち、右腕は垂下して掌を前に向けて五指を伸 ばす。右足を軽く踏み出して蓮華座上に立つ。台座は蓮華十重座。光背は頭光、挙身光、周縁部から成る。宝冠、胸飾、瓔珞は銅板製・鍍金。 彩色は眉・瞳に墨、唇に朱、髪際線・天冠台に金泥線。頭髪部は墨(もしくは群青)。

O 数

〇寸 法 等 像高 27.0cm 総高 (光背-台座) 49.3cm 光背:高 33.8cm 最大幅 16.2cm 台座:高 15.5cm 下框最大張 18.3cm

下框最大率 18 0cm

〇作品概要 白檀をはじめとする香木を彫刻して作られる檀像は、インドに生まれ、中国で盛んに作られた。平安時代後期以降日本的な洗練が加えられ、素 地仕上げの像表面に切金で加飾するなど、典雅で繊細な檀像風の作例が多く生み出された。

本像は、穏やかで繊細な顔つき、現実的な衣端の処理、控え目な衣文の襞、丁重な作柄などの特徴から、江戸時代、17世紀の制作と考えられ、 檀像風彫像の近世における展開を示す佳作といえる。なお、台座・光背は本躰と一具のものではないが、同時代の制作と思われる。

<染織> (2 件)

〇名 久留米絣着物 (くるめがすりきもの)

〇作 者 等 井上ナカ (1897-1952)・福岡県広川町

昭和時代 • 1930 年代 〇時 代

〇品 質 木綿単糸平織 (経:S・22本/cm 緯:S・20本/cm)。括絣。

〇員 数

〇寸 法等 丈 135.0 裄 61.5 (縦 142.0 横 123.0) cm

〇作品概要 久留米絣の着物。生地の織りは稠密かつ均等である。仕立てもしっかりしているが、後身頃の縫い合わせ部分に一部ほつれがみられる。表地に は損傷はみられない。左袖下端に若干のヨゴレが認められる。

絣模様については、経絣は約 8mm 間隔に約 3mm 幅の括り、緯絣は約 3mm 間隔に約 3mm 幅の括りを施しており、これらが極小柄の井桁模様を構成 している。

久留米絣は 19 世紀初め、井上伝によって編み出されたとされ、幕末以降久留米を中心に筑後地方特産品として全国に知られた。本作は井上ナ カ氏(明治30年-昭和27年)が、息子重男氏のために1930年代半ばまでに自ら製織し、仕立てた着物である。昭和初期に生産された久留米 絣の特徴は主として小柄模様の男物が主流であり、本作は当該時期の作品の特徴をよく表している。

〇名 3 称 久留米絣羽織 (くるめがすりはおり)

〇作 者 等 井上ナカ (1897-1952)・福岡県広川町

〇時 代 昭和時代 • 1930 年代

木綿単糸平織 (経:S・22 本/cm 緯:S・20 本/cm)。括絣。 OB皙

〇員 数

〇寸 法 等 丈 98.7 裄 64.0 (縦 105.0 横 125.0) cm

久留米絣の着物。生地の織りは稠密かつ均等で、仕立てもしっかりしている。表地には損傷はなく、裏地は仕立て時のものではない可能性があ 〇作品概要

絣模様については、経絣は約 8mm 間隔に約 3mm 幅の括り、緯絣は約 3mm 間隔に約 3mm 幅の括りを施しており、これらが極小柄の井桁模様を構成

久留米絣は 19 世紀初め、井上伝によって編み出されたとされ、幕末以降久留米を中心に筑後地方特産品として全国に知られた。本作は井上ナ カ氏 (明治 30 年 - 昭和 27 年) が、息子重男氏のために 1930 年代半ばまでに自ら製織し、仕立てた着物である。昭和初期に生産された久留米 絣の特徴は主として小柄模様の男物が主流であり、本作は当該時期の作品の特徴をよく表している。

<民族資料>(1件)

. 黒地草花文刺繍上着(くろじそうかもんししゅううわぎ) ○名

〇作 者 等 中国貴州省台江県

〇時 代 20 世紀

〇品 質 木綿単糸平織(経:S・20本/cm 緯:S・18本/cm)、編帯繍、堆繍、シュウ(糸+芻)繍。

〇員 勬 1 領

〇寸 法 等 縦 82.5 横 125.7 cm

〇作品概要

中国貴州省台江県に居住する苗族女性の盛装用衣装上衣。前あき。和服と同じく羽織り着用する。本作では草花文などの大部分に編帯繍(テー プ状の組紐を平面的に縫いつける技法)が、草花文を埋める部分の一部にシュウ繍(絹製組紐を襞をつくりながら縫いつけていく技法で立体的 な厚みを持つ)と、衿や袖の鋸歯文の部分に堆繍(小さく切った絹布や紙片などを三角に折り、重ねるように縫いつける技法)が用いられてい る。状態はたいへん良好で、ほつれ、破れ、褪色などはみられない。刺繍、蝋防染、砧布など、多彩な染織の技法を駆使して精緻かつ華やかな 衣装を制作することでよく知られる貴州省東部の台江県に居住する「台江苗族」の衣装の特徴を備えている。

(3) 編入(1件)

<建築> (1 件)

〇名 称 多宝千仏石幢 幢身拓本 (たほうせんぶつせきとう とうしんたくほん)

〇時 代 昭和

OB啠 拓本。軸装。

〇員 数 2幅

〇寸 法 等 242.3 × 108.5cm 241.6 × 109.0cm

〇作品概要 この石幢は、中国東北部で 11 世紀頃に栄えた契丹国で造られた高さ 5.54m の石灰岩製建築物で、その表面には多数の陀羅尼や銘文などが刻ま

れる。本拓本はその八角形幢身に刻まれた各種陀羅尼を4面ずつ2枚の紙に拓出・軸装したものである。

○来 柸 京都国立博物館からの無期管理換品

1-(2) 寄託品

1-(2)-① 寄託品一覧表

平成23年3月31日現在

		Ξ	立博物館	馆	東京	国立博物	物館	京者	邓国立博物	物館	奈島	夏国立博物	勿館	九州	国立博特	勿館
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
	合計	11, 975	185	1, 185	2, 726	50	257	6, 005	83	612	1, 947	52	314	1, 297	0	2
á	会画	3, 225	54	408	412	12	64	2, 018	27	243	579	15	101	216	0	0
1	書跡	1, 859	64	267	480	12	30	952	40	201	306	12	35	121	0	1
J	彫刻	772	11	203	140	1	41	247	1	59	360	9	103	25	0	0
3	建築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
- 3	全工	1, 032	12	88	170	4	18	<u>}</u> 526] 1] 40	241	7	30	95	0	0
	刀剣	260	10	70	225	8	57	J	J	J	34	2	13	1	0	0
	甸磁	1, 355	1	6	139	0	2	790	1	3	11	0	0	415	0	1
_	泰工	764	10	53	136	3	16	470	4	15	104	3	22	54	0	0
-	む おおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おおり おお	763	7	34	73	2	4	514	3	29	47	2	1	129	0	0
3	考古	939	12	34	157	4	12	446	6	13	230	2	9	106	0	0
民	族資料	121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴	史資料	93	0	9	1	0	0	38	0	9	29	0	0	25	0	0
7	中書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ	の他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵画	149	2	9	149	2	9									
	書跡	28	1	1	28	1	1									
	彫刻	11	0	0	11	0	0					,				/
東	金工	1	0	1	1	0	1									
洋	陶磁	77	1	0	77	1	0									
	漆工	26	0	2	26	0	2							,		
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	487	0	0	487	0	0									
	民族	0 立	0	0	0	0 洋の寄託	0	/ 本」に								

^{*}京都国立博物館・奈良国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。

1-(2)-② 寄託品増減表

平成23年3月31日現在

			射立国	博物館			東京国式	Z博物館			京都国国	5博物館			奈良国立	5博物館			九州国式	Z博物館	
		21年度		22年度		21年度		22年度		21年度		22年度		21年度		22年度		21年度		22年度	
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
	合計	11, 904	168	97	11, 975	2, 734	5	13	2, 726	5, 957	107	59	6, 005	1, 957	6	16	1, 947	1, 256	50	9	1, 297
_	絵画	3, 189	52	16		416	0	4	412	1, 977	50	9	2018	580	0	1	579	216	2	2	216
	書跡	1, 861	24	26	-,,	485	0	5	480	945	23	16	952	308	1	3	306	123	0	2	121
_	彫刻	773	3	4	772	141	0	1	140	248	0	1	247	359	3	2	360		0	0	25
_	建築	4	0	0		0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
-	金工	1, 045	10	23		170	0	0	170] 530	10	14	- 526	249	0	8	241	96	0	1	95
	刀剣	261	1	2		226	1	2	225	,	1	,	,	34	0	0	34	1	0	0	1
	陶磁	1, 303	60	8	.,	138	1	0	139	784	11	5	790	11	0	0	11	370	48	3	415
_	漆工	761	9	6		135	1	0	136	468	6	4	470	103	2	1	104	55	0	1	54
	染織	764	2	3		73	0	0	73	515	2	3	514	47	0	0	47	129	0	0	129
_	考古	939	3	3		156	1	0	157	446	2	2	446	231	0	1	230	106	0	0	106
_	族資料		0	0		5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6		0	0	110
	史資料	95	3	5		1	0	0	1	40	3	5	38	29	0	0	29	25	0	0	25
_	和書	0	0	0	_ •	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	その他	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵画	150	0	1	149	150	0	1	149												
	書跡	28	0	0		28	0	0	28												
	彫刻	11	0	0		11	0	0	11			/					•				
東	金工	1	0	0		1	0	0	1												
洋	岡磁	77	0	0		77	0	0	77		/								/		
	漆工	26	0	0		26	0	0	26												
	染織	8	1	0		8	1	0	9	_								/			
	考古	487	0	0		487	0	0	487												
	民族	0	0	0	0	0	0	0	0												

^{*}東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(2)-③ 登録美術品一覧表

平成23年3月31日現在

	Ξ	国立博物館	官	東京	医国立博特	勿館	京者	邓国立博特	勿館	奈良	2国立博物	勿館	九小	州国立博特	勿館
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	8	0	5	3	0	3	3	0	0	2	0	2	0	0	0
絵画	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	3	0	2	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0
染織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

^{*}東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

1-(3) 収蔵品の管理・保存

1-(3)-① 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

۵	:場等	空調実施時間		温度		湿度(年間)
	物守	<u> </u>	冬	夏	中	业及(十间)
- - - - - - - - - -	展覧会場	09:00~17:00	12 ~ 25°C	20 ~ 30°C	16 ~ 30°C	15~90%
本館	収蔵庫	09:00~17:00	18 ~ 25°C	18 ~ 30°C	18 ~ 28°C	42~72%
亚式硷	展覧会場	09 : 00~17 : 00	18 ~ 26℃	20~29°C	16 ~ 28°C	30~72%
平成館	収蔵庫	09 : 30~17 : 00	22~24°C	23 ~ 30°C	24~27°C	40~61%
市学校	展覧会場	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中
東洋館	収蔵庫	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中
	展覧会場	24時間運転	21~23°C	22~27°C	23~26°C	32~67%
宝物館	収蔵庫	24時間運転	22~24°C	21~23°C	22~24°C	52~57%
表慶館	展覧会場	09 : 00~17 : 00	9~22°C	19 ~ 28°C	14~27°C	20~82%
衣 愛貼	(仮)収蔵庫	09 : 00~17 : 00	10~22°C	21~27°C	12 ~ 25°C	36~75%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	20~24°C	21~24°C	22~27°C	50~60%
二 二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	収蔵庫	24時間運転	22~24°C	23~25°C	24~26°C	38~66%

【京都国立博物館】

Z-1	I to Innertial			
	会場等	空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
特別	展覧会場	09 : 00~18 : 00	18°C~25°C	57%~60%
展示館	収蔵庫	09 : 00~17 : 30	18°C~22°C	55%~60%
平常	展覧会場			
展示館	収蔵庫			
	北収蔵庫			
	東収蔵庫	09 : 00~17 : 30	18°C~22°C	55%~60%
Ż	化財保存修理所	09 : 00~17 : 30	22°C~24°C	57%~60%

【奈良国立博物館】

	会場等	空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
	云 物守	上 聊天心时间	冬	夏	业及(十间)
本館	展覧会場	24時間運転	21°C±1°C	25°C±1°C	60%±2%
西新館	展覧会場	24時間運転	21°C±1°C	25°C±1°C	60%±2%
東新館	展覧会場	24時間運転	21°C±1°C	25°C±1°C	60%±2%
果 利旺	収蔵庫	24時間運転	21°C±1°C	25°C±1°C	60%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	21°C±1°C	25°C±1°C	60%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
3階展覧会場	24時間運転	22°C~26°C	55%±5%
4階展覧会場	7:00~21:00	22°C~26°C	55%±5%
			材質別に50%±2%、
収蔵庫	8:30~21:30	22°C~24°C	55%±2%、
			60%±2%

1-(3)-② 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

	合計	2, 368				
		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時		
	計	1, 285	79	1, 004		
絵画 書跡 彫刻 建築		191	3	422		
		34	2	32		
		118	0	0		
		1	0	0		
金工		75	0	0		
刀剣		20	4	0		
陶磁		93	4	0		
漆工		48	2	0		
染織		40	2	22		
考古		207	32	0		
歴	E 史資料	38	0	5		
艮	是族資料	9	0	22		
和書		4	0	98		
	絵画	27	9	4		
	書跡	20	5	2		
	彫刻	2	0	0		
由	金工	0	0	0		
東洋	陶磁	91	2	0		
/+	漆工	2	1	0		
	染織	2	1	2		
	考古	53	0	0		
	民族	0	0	22		
法隆	寺献納宝物	8	12	1		
その	他(黒田含)	202	0	372		

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

1 <u> HP II II II MA</u>	**************************************				
	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館		
計	108	218	101		
絵画	33	88	20		
書跡	21	19	7		
彫刻	2	55	6		
建築	0	0	1		
金工	} 1	6	0		
刀剣	J	0	0		
陶磁	8	0	1		
漆工	7	6	3		
染織	23	1	55		
考古	13	43	2		
民族資料	0	0	0		
歴史資料	0	0	6		
和書	0	0	0		
その他	0	0	0		

1-(4) 修理

1-(4)-① 本格修理件数

平成23年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	合 計	176	139 (29) [3]	9	9	19
	絵 画	22	9	4	2	7
	書跡	18	9 [3]	3	1	5
	彫 刻	3	1	1	0	1
	建築	0	0	0	0	0
	金 工	8	8	0	0	0
	刀 剣	2	2	0	0	0
	陶磁	2	2	0	0	0
	漆工	3	0	1	1	1
	染 織	14	14	0	0	0
	考 古	62	56 (29)	0	5	1
	歴史資料	24	20	0	0	4
	和書	2	2	0	0	0
	民族資料	0	0	0	0	0
	絵 画	1	1	/	/	/
	書跡	2	2	/	/	/
	彫 刻	6	6	/	/	/
_	金エ	0	0	/		/
東洋	陶磁	2	2	/	/	/
`	漆工	2	2	/	/	/
	染 織	0	0	/		/
	考 古	2	2	/	/	/
	民 族	0	0	/		/
法队	逢寺献納宝物	0	0	/		/
	記念館収蔵品	0	0	/		/
館史	資料(収蔵品外)	1	1	/	/	/

[※]東京国立博物館()内は考古相互貸借経費、[]内は九博経費で、内数。

1-(4)-② 修理概況

```
【東京国立博物館】
                   (139件)
(絵画) (9件)
  〇列品番号
           阿弥陀如来像 (あみだにょらいぞう)
  〇名
  〇時
       代.
           鎌倉
  〇年代世紀
           14c
  組本着色
       質
       数
  O員
           1幅
  O寸 法等
            128. 0 × 54. 4cm
           株式会社岡墨光堂
  〇施工会社
  〇修理内容
                    2. クリーニングする。 3. 裏打ちなど補強を施す。 4. 補彩する。 5. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、
            包裂、布貼帙などを新調する。 (平成22年度は2まで)
  〇列品番号
           A-110
  〇名
           観音三十三応身図(かんのんさんじゅうさんおうしんず)
      称
  〇時
           室町
  〇年代世紀
           15c
  〇品
       質
           絹本着色
           1幅
128.7×185.4cm
  O
       数
  O寸 法等
           株式会社文化財保存
  〇施工会社
           1. 絵具層に剥落止めを施し、表打ちで画面を保護した後、旧裏打ちを除去する。 2. 欠失部に補絹を施し、新たに裏打ちを行う。 3. 補絹部分に補彩を施す。 4.
  〇修理内容
            軸首を再使用し、裂を新調し、元の掛幅装に仕立てる。 5. 桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。
3 〇列品番号
           花鳥図(かちょうず)
  〇名
       称
       代.
  〇時
           明治
           明治 14 年(1881)
  〇年代世紀
  O品
       質
           絹本着色
  O員
  O寸 法等
           102.8 \times 71.2cm
  〇施工会社
           株式会社半田九清堂
            1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを行い、本紙を洗浄する。 3. 本格的な剥落止めを行う。 4. 本紙を表打ちして保護したうえで、旧裏打紙を除ち、折れ伏せを施す。 6. 表装裂・軸首は再利用し、掛幅装に仕立てる。 7. 太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。 (平成22 年度は5から)
  ○修理内容
                                                                   4. 本紙を表打ちして保護したうえで、旧裏打紙を除去する。 5. 裏打
           1. 表装を解体する。
  ○列品番号
          A-1155
  〇名
           扇面雑画(せんめんざつが)
  〇時
       代
           江戸
  〇年代世紀
           19c
  〇品
           紙本着色 • 紙本墨画
       質
           10面(60面のうち)
       数
  〇昌
            (上弦/下弦/高) (cm) No. 9 「藤」 50. 9/20. 0/20. 1、No. 13 「河骨と太蘭」 50. 2/19. 8/20. 0、 No. 20 「山帰来」 51. 0/19. 9/20. 0、No. 29 「水仙」 50. 7/19. 8/20. 0、 No. 31
  O寸 法等
            「瓜に飛蝗」51.3/19.8/20.2、No.35「豆と藁苞」50.8/20.1/20.0、No.50「山水」50.8/20.0/19.8、No.55「盆栽」50.7/20.3/19.5、No.57「玩具」50.5/19.1/20.2、
            No. 60「布袋」50. 3/19. 2/20. 1
  〇施工会社
           株式会社半田九清堂
           1.台紙を剥がし、本紙を分離する。 2.剥落止めを行う。 3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4.新調した収納箱に収納する。 (平
  〇修理内容
            成22年度は3から)
  〇列品番号
           A-1155
           扇面雑画(せんめんざつが)
  O名
称
           江戸
  〇年代世紀
           19c
           紙本着色·紙本墨画
  O<sub>B</sub>
       質
           10面(60面のうち)
  ○員
       数
  O寸 法等
            (上弦/下弦/高)(cm)
                        No. 2「桜」49. 8/20. 2/19. 7、No. 3「桃」49. 8/20. 2/19. 8、 No. 5「早蕨」50. 1/20. 1/19. 7、No. 7「菜の花に蝶」50. 9/21. 1/20. 0、 No. 10「鉄
            線」49 9/19 5/19 8
  〇施工会社
           株式会社半田九清堂
  〇修理内容
           1. 台紙を剥がし、本紙を分離する。 2. 剥落止めを行う。 3. 中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。 4. 新調した収納箱に収納する。
            成22年度は2まで)
  〇列品番号
           A-10171
           舞楽図屏風(ぶがくずびょうぶ)
  〇名
       称
  〇時
       代
           江戸
  〇年代世紀
            19c
  〇品
           紙本着色
  〇員
       数
           6曲1双
           各 157. 4×363. 0 cm
  〇寸 法 等
  〇施工会社
           株式会社松鶴堂
           1. 絵具層の剥落止を行う。 2. 本紙を保護したうえで、屏風を解体し、本紙を下地からめくる。 3. 濾過水を使用し洗浄する。 4. 本格的な剥落止めを行う。
  〇修理内容
                          6. 本紙欠失部分に補紙、亀裂箇所に折伏を施し、裏打ちを行う。絵具層の剥落止、補彩を行う。 7. 下地、襲木、表装裂、裏紙は新調し、
            旧裏打紙を除去する。
            金具は再利用(欠失部は新調)し、屏風に仕立てる。
                                            (平成22年度は6から)
  ○列品番号
           応挙館障壁画(雁図)(おうきょかんしょうへきが・かりず)
  〇名
       称
  〇時
           江戸
       代
  〇年代世紀
           天明 4 年(1784)
  〇品
           紙本墨画
       質
           3面(54面のうち)
  O寸 法等
           各 90.0×180.0 cm
```

○列品番号

○施工会社

〇修理内容

3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。 5.裏打ちを行い、欠損部に補 上外、展示用椽木を新調して取り付ける。 (平成22年度は5から) 1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。 2.洗浄する。 3.剥落止めを施す。 4.本紙に表打ちる 彩する。 6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。

〇名 称 応挙館障壁画(松に岩図)(おうきょかんしょうへきが・まつにいわず)

〇時 代 汀戸 〇年代世紀

天明 4 年(1784) 紙本墨画 皙

株式会社半田九清堂

```
O員
           1面(54面のうち)
       数
  O寸 法等
           各 90.0×180.0 cm
  〇施工会社
            株式会社半田九清堂
            14. 加美紅ンルの日裏打紙を除去する。 2. 洗浄する。 3. 剥落止めを施す。 4. 本紙に表打ちを施して保護し、加裏紙を除去する。 5. 裏打ちを行い、欠損部に補
彩する。 6. 下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用椽木を新調して取り付ける。 (平成 22 年度は 4 まで)
  〇修理内容
  〇列品番号
             宇治橋図屛風(柳橋水車図屛風)(うじばしずびょうぶ・りょうきょうすいしゃずびょうぶ)
  〇名
            重美
  〇指
        定
            昭和23年(1948)4月27日
  〇指定年月
  〇時
            安土桃山~江戸
  〇年代世紀
            16-17c
  O品
       質
            紙本金地着色
  O員
        数
            6曲1双
           各 154. 9×326. 7 cm
  〇寸 法等
  〇施工会社
            アソシエイト・フェロー、国宝修理装こう師連盟
            1. 修理前の状態を調査し、記録する。 2. 屏風装を解体し、本紙を下地から取り外す。解体の前後に剥落止めを施す。 3. ろ過水を表面から噴霧し、下に敷いた吸い取り紙に汚れを吸収させる。 4. 表打ちを施して画面を保護し、旧裏打紙と旧補紙を除去する。 5. 補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行う。 6. 仮張りをし、補紙に補彩を施す。 7. 骨下地を新調し、下張りを施し、蝶番を付ける。本紙を仮張りから外し、新調した下地に貼り込み、裏面には裏張紙を張り込む。 8. 新
  〇修理内容
            調した表装裂、尾背、縁木、金具を取り付け、屏風装に仕立てる。 9.旧裏打紙、旧下地、旧金具などのための保存箱を作成する。 (平成 22 年度は 5 の途中ま
〈東洋絵画〉(1件)
  〇列品番号
           TA-535
       称
            驢図(ろず)
  〇名
  〇時
            中華民国
  〇年代世紀
            20c
  O品
      質
            紙本着色
  O員数
O寸法等
            1幅
            126. 7 × 73. 8 cm
  O施工会社
            株式会社岡墨光堂
  〇修理内容
                    2. クリーニングする。
                                  3. 裏打ちなど補強を施す。 4. 補彩する。 5. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、
            包裂、布貼帙などを新調する。 (平成22年度は2まで)
(書跡) (9件)
  〇列品番号
           B-12
  O名 称
            桂切(風葉和歌集断簡)(かつらぎれ・ふうようわかしゅうだんかん)
  〇時
            鎌倉
            14c
  〇年代世紀
      質
  〇品
            紙本墨書
           1枚
21.1×16.4cm
  O員
        数
  O寸 法等
  〇施工会社
            アソシエイト・フェロー
            〇修理内容
            添軸、包裂、桐製保存箱などを新調する
  〇列品番号
12
           B-118
  O名
           詩巻(しかん)
  O時
       代
            江戸
  〇年代世紀
            17-18c
  O品
            紙本墨書
       質
  〇員
        数
            1巻
           30.6×788.7cm
国宝修理装こう師連盟九州支部
  〇寸 法等
  ○施工会社
            1. 巻子装を解体する。 2. 補修紙を製作する。 3. 欠失箇所に補紙を施す。 4. 表装裂、軸首などを新調し、巻子装に仕立てる。 5. 包裂、桐製保存箱などを新調
  ○修理内容
13 〇列品番号
            B-1648
            大毘盧遮那成佛神變加持經疏玄記 巻1(だいびるしゃなじょうぶつしんぺんかじきょうしょげんき まきいち)
  O名
称
  〇時
        代.
            鎌倉
  〇年代世紀
            13c
  O品
            紙本黒書
       質
       数
  O員
            1帖
  O寸 法等
            25.3 \times 16.2cm
  O施工会社
  〇修理内容
             朱字に剥落止めを施す。 2. 折本装を解体する。 3. 本紙を洗浄する。 4. 虫損箇所に補紙を施す。 5. 表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。
            (平成22年度は4の途中まで)
14 〇列品番号
           B-1649
            毘盧遮那別行経(びるしゃなべつぎょうきょう)
  O名 称
  〇時
  〇年代世紀
            永禄9年(1566)
  質
            紙本墨書
  O員 数
O寸 法 等
            1帖
            26.4×13.6 cm
  〇施工会社
            清申堂
  〇修理内容
            1. 朱字に剥落止めを施す。
                             2. 折本装を解体する。 3. 本紙を洗浄する。 4. 虫損箇所に補紙を施す。 5. 表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。
            (平成22年度は4の途中から)
           B-1705
蹴鞠聞書(しゅうぎくききがき)
 ○列品番号
15
  〇名 称
  O時
       代
            室町
  〇年代世紀
            大永8年(1528)
  O品
            紙本墨書
       質
  〇員
        数
            1巻
  O寸 法等
            32. 4 \times 739. 3 cm
  〇施工会社
            清中堂
            7011年
1. 朱字に剥落止めを施す。 2. 巻子装を解体する。 3. 部分的に施されている裏打紙を除去する。 4.
裏打ちを施す。 7. 表紙、軸首を新調し、元の巻子装に仕立てる。 8. 太巻、桐製保存箱を新調する。
  ○修理内容

 4. ろ過水で洗浄する。

                                                                                         5. 虫損箇所に補紙を施す。 6.
                                                                            (平成22年度は6から)
```

16 〇列品番号

B-1986

```
額字(がくじ)
     〇名
             称
     ○時
                        汀戸
      〇年代世紀
                        19c
     O品
                        紙本墨書
               質
     〇員
               数
                        2巻
      O寸 法等
                        31.6 \times 869.9, 32.1 \times 951.0 cm
                       国宝修理装こう師連盟九州支部
     〇施工会社
                        1.巻子装を解体する。 2.補修紙を製作する。 3.欠失箇所に補紙を施す。 4.表装裂、軸首などを新調し、巻子装に仕立てる。 5.包裂、桐製保存箱などを新調
     〇修理内容
                        する (平成22年度は3の途中まで)
     〇列品番号
                       B-2372
                       扇面(せんめん)
      〇名 称
     〇時
                代
                        江戸
     〇年代世紀
                        19c
     〇品
                        紙本墨書
              晳
               数
                        1幅
     O
     O寸 法等
                        15. 5 \times 50. 0 cm
                        国宝修理装こう師連盟九州支部
      〇施工会社
                       1. 掛幅装を解体する。 2. 裏打紙を除去する。 3. 補修紙を作製し、補紙を施す。 4. 裏打ち、折れ伏せを施す。 5. 軸首、一文字、中廻し風帯は再利用し、上下
の表装裂は新調し、元の掛幅装に仕立てる。 6. 太巻、桐製保存箱を新調し、収納する。
      〇修理内容
    〇列品番号
                       B-2558
18
                        歌合切(うたあわせぎれ)
     O名 称
     O時
                代
                        鎌倉
     〇年代世紀
                        12~13c
      〇品
            質
                        紙本墨書
     O員
                数
                        1幅
     O寸 法等
                       23 3×27 8 cm
                        株式会社岡墨光堂
     ○施工会社
                        1. 表装を解体する。 2. 裏打紙を除去する。 3. 補修紙を作製し、補紙を施す。 4. 裏打ち、折れ伏せを施す。 5. 軸首
表装裂は新調し、元の掛幅装に仕立てる。 6. 太巻、桐製保存箱を新調し、収納する。 (平成 22 年度は4 の途中から)
     〇修理内容
                                                                                                                                                           5. 軸首、一文字、中廻し風帯は再利用し、上下の
                        1. 表装を解体する。
19
    ○列品番号
                       B-3161
                       偈頌(げじゅ)
     〇名 称
     ○時
                代
                        汀戸
     〇年代世紀
                        寛永 20 年(1643)
     O品
O品
               質
                        紙本墨書
     〇員
               数
                        1幅
      O寸 法等
                       33. 2 \times 51. 9cm
      〇施工会社
                       株式会社が出土。
1. 軸装を解体する。 2. クリーニンソッシ。
た新聞する。 (平成 22 年度は3 の途中まで)
                                                                             3 裏打ちなど補強を施す。 4 表装裂などを新調し、掛幅装に仕立てる。 5 桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂など
     〇修理内容
 〈東洋書跡〉(2件)
     〇列品番号
                       TB-1332
      O名
               称
                        篆書八言聯(てんしょはちごんれん)
     〇時
               代
                        清
     〇年代世紀
                        19c
            質
                       紙本墨書
     \bigcircH
               数
                       2幅
     O
     O寸 法等
                        179.0 \times 31.5 \text{ cm}
                        株式会社文化財保存
      〇施工会社
      〇修理内容
                                               2. 裏打紙を除去する。 3. 濾過水を使用し洗浄する。 4. 墨、朱印に剥落止めを施す。 5. 本紙欠失部に補紙を施す。 6. 裏打ちを施す。 7.
                        補紙箇所に補彩を行う。 8.表装裂、軸首などを新調し、元の掛幅装に仕立てる。 9.太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。 (平成22年度は7から)
21 〇列品番号
                       TB-1546
                        楷書七言聯(かいしょしちごんれん)
     O名
称
     〇時
                        清~民国
      〇年代世紀
                        20c
      〇品
                        蝋箋墨書
     〇員
                数
                       2幅
                        各 137. 7×27. 3 cm
     〇寸 法等
                       株式会社文化財保存
      ○施工会社
                        1.軸装を解体する。 2.クリーニングする。 3.裏打ちなど補強を施す。 4.表装裂地を新調し、掛幅装に仕立てる。 5.桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼
      〇修理内容
                        帙などを新調する。
                                                 (平成22年度は2まで)
 (彫刻) (1件)
22 〇列品番号
                       C - 306
                       千手観音菩薩坐像(せんじゅかんのんぼさつざぞう)
            称
     〇名
     O時
                代
                        鹿北南
     〇年代世紀
                        14c
     O品
                        ヒノキ材
               質
     〇員
                数
                        1躯
                       像高 83.7 cm
     〇寸 法等
     〇施工会社
                        有限会社楽浪文化財修理所
                        1.清掃及び材質の強化を行う(本体・光背・台座)。 2.彩色層に影響が及ばない範囲で解体を行う(本体・光背・台座)。ただし、台座は蓮肉部のみの解体とする。
     ○修理内容
                        1. 何前級の利息の活化され、八年 日上 3. エルラーニック (1) はある 報道 (1) 本体 1. 日 日本 3. (2) 日上 3. (3) 日本 3. (4) 日本 4. (4) 日本 5. (4) 日本 5. (5) 日本 5. (6) 日本 5. (7) 日本 5. (7)
 〈東洋彫刻〉(6件)
     〇列品番号
                       TC-375
     ○指
               定
                        重文
     O指定年月
                        昭和53年(1978)6月15日(彫第3328号)
                       菩薩立像(ぼさつりゅうぞう)
     〇名
               称
                        北斉時代
     〇時
                代
      〇年代世紀
                        天保3年(552)
     〇品
               質
                        石灰岩
     O員
                数
                        1 躯
     O寸 法等
                       高 257. 5 cm
                        文化財修復工房明舎
     〇施工会社
```

埃などのクリーニングを行う。 4.分解部分の強化・再接合を行う。 5.補填・補彩を行う。 6.免震台に設置する(免震台は別途作製)。

1.X線撮影などにより内部の心材など内部構造を確認する。 2.検査の結果に基づき、必要に応じて心材の除去、接合箇所の解体、旧補填箇所の除去を行う。 3.

〇修理内容

```
24 ○列品番号
             TC-381
             男神立像(だんしんりゅうぞう)
   〇名
        称
   〇時
             アンコール
   〇年代世紀
             12c
   O
品
             砂岩
   O員
        数
             1 躯
   O寸 法等
             高 100.0 cm
   〇施工会社
             文化財修復工房明舎
             7.11 (1974) 1. 解体する。 2. 接など表面の汚れを除去する。 3. 接合部に設置する補強用ステンレス棒および固定台を作製する。 4. エポキシ系接着剤を用いて接合・組み立てを行う。 5. 必要な箇所に充填を施す。 (平成 22 年度は 4 から)
   〇修理内容
25
  ○列品番号
             TC-382
             ヴィシュヌ立像(ヴィシュヌりゅうぞう)
アンコール
      称
   〇名
   〇時
        代
   〇年代世紀
             12c
   O品
             砂石彩色
        質
   〇員
             1躯(11片)
   O寸 法等
             総高 125 cm
   〇施工会社
             文化財修復工房明舎
   〇修理内容
             1. 心棒の抜き取り。 2. 埃の洗浄。 3. 分解部分の再接合。 4. 充填及び補彩。 5. 安定台の製作。 (平成22 年度は2まで)
  〇列品番号
26
             TC-468
   O名
             菩薩頭部(ぼさつとうぶ)
   〇年代世紀
   〇品 質
             塑造、彩色
   O員
        数
             1個
   O寸 法等
             高28 0cm
             高 26. USII
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
1 裏前調査 (X 線 CT スキャナーなど) を行う。 2. 表面を養生して、展示台から分離する。 3. 表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。 4. 彩色
   ○施工会社
             祖近打政法へ国立とには別域所示な人に対しています。

1. 事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。 2. 表面を養生して、展示台から分離する。 3. 表面の養生を除去した後、最小限のクリーニン層の剥落止めを行う。 5. 塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。 6. 展示台及び保存箱を作製する。 (平成22 年度は2 から)
   〇修理内容
27 〇列品番号
             TC-471
             供養者頭部(くようしゃとうぶ)
   〇名 称
〇年代世紀
             7~8c
   O品 質
             塑造、彩色
   O員
        数
             1個
   O寸 法等
             面長 10cm
   〇施工会社
             独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
             1. 事前調査 ( 線に 7 スキャナーなど) を行う。 2. 表面を養生して、展示台から分離する。 3. 表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。 4. 彩色
層の剥落止めを行う。 5. 塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。 6. 展示台及び保存箱を作製する。 (平成 22 年度は1まで)
   〇修理内容
  〇列品番号
             TC-497-7
   O名
        称
             仮面(かめん)
   〇年代世紀
             前 2000~前 1000 年
   O品
        質
             木、漆、皮革
             1個
   O員
        数
   〇寸 法等
             高 10.8 cm
   〇施工会社
             山下好彦
             1. 表面の汚れを毛棒を用いて除去する。 2. 彩色層はセルロース誘導体を含浸させた後、膠と布海苔を用いて剥落止めを行う。 また、皮革には膠を用いる。 3. 外れた骨材の歯は膠などで接着する。 4. 皮革の空隙部分を接着剤で強化する。 5. 保管展示台および保存箱を作製する。 (平成22 年度は4から)
   〇修理内容
 〈金工〉(8件)
29 〇列品番号
             E-14413
   〇名
             青白磁合子(せいはくじごうす)
        称
        代
   〇時
             鎌倉
   〇年代世紀
             建久7年(1196)
   〇品
        質
             磁製
   〇員
        数
             1合
   O寸 法等
             蓋高1.5、口径8 身高1.7、口径8 cm
   〇施工会社
             繭山隆司
                       2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。 5. アクリ
   〇修理内容

    解体する。

             ル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成22年度は2まで)
30
  ○列品番号
             E-14924
             光背残欠(こうはいざんけつ)
   〇名
   〇時
        代.
             平安
   〇年代世紀
             12c
   質数
             銅板製、鍍金
   O員
             1枚
   O寸 法等
             高 20.5 (現状)、幅 19.0 cm
   〇施工会社
             株式会社東都文化財保存研究所
   〇修理内容
             1. 頭頂部の欠失を透明の部材で補填し、強化する。 2. 折れや強度の足りない部分を補強する。 3. 全体をクリーニングする。 (平成 22 年度は3 から)
31 〇列品番号
             F-14942
             蓮台(れんだい)
   O名 称
        代
   〇時
             平安
   〇年代世紀
             12c
   O品
        質
             蓮肉:銅製鋳造鍍金 蓮弁:銅板製鍍金
   〇員
        数
             1基
             総高 6.2 (現状)、蓮肉径 15.1 cm
株式会社東都文化財保存研究所
   〇寸 法等
   ○施工会社
             1.蓮座をすべて解体する。 2.台座を別材で作り直す。 3.蓮弁をクリーニングし、強化をはかる。 4.蓮弁を再接着する。
                                                                                              (平成22年度は4から)
   〇修理内容
32 〇列品番号
   O名
             青白磁合子(せいはくじごうす)
   〇時
        代
             平安
   〇年代世紀
             12c
      質
   磁制
        数
   O
             1合
```

- 31 -

蓋高1.5、口径9.5 身高1.7、口径9.5 cm

O寸 法等

〇施工会社

繭山降司

```
〇修理内容 1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。 5. アクリ
           ル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。
                                           (平成22年度は2まで)
  〇列品番号
          E-15013-1
          青白磁合子(身)(せいはくじごうす・み)
  O名
称
  〇時
           平安
  〇年代世紀
           12c
  質
           磁製
  O
           1個
       数
  O寸 法等
           高1.7、口径8cm
  〇施工会社
           繭山隆司
           1. 解体する。
                   2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。 5. アクリ
           ル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。
34 〇列品番号
          E-15013-2
           青白磁合子(せいはくじごうす)
  O名
称
           平安
  〇時
       代
  〇年代世紀
           12c
  〇品
           磁製
  〇員
       数
           1個
  O寸 法等
           高2、口径6.5cm
           繭山隆司
  ○施工会社
           1. 解体する。
                   2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。 5. アクリ
  〇修理内容
           ル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。
35 〇列品番号
           E-15168
           陶製経筒蓋(とうせいきょうづつふた)
  O名 称
  ○時
       代
           平安
  〇年代世紀
           12c
  O品
           陶製
       晳
  〇員
       数
           1個
  〇寸 法 等
           高10、口径31.5 cm
  〇施工会社
           繭山隆司
                   2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. 硬石膏やポキシ系樹脂、各種粘土粉末などで補填・復元する。 5.
  〇修理内容
           1. 解体する。
           アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成22年度は4から)
  〇列品番号
           E-15320
           青白磁合子(身)(せいはくじごうす・み)
  O名 称
  〇時
       代
           平安
  〇年代世紀
           12c
  質
           磁製
  〇員
       数
           1個
  〇寸 法等
           高2、口径5.5 cm
  〇施工会社
           繭山隆司
           | 「解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。 5. アクリ

ル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成22年度は4から)
  〇修理内容
〈刀剣〉(2件)
37 ○列母来早
  O列品番号
O指 定
          F-20166
           重文
  〇指定年月
           昭和16年(1941)7月3日(工芸第1383号)
           太刀 銘・正恒(たち めい・まさつね)
  〇名
  〇時
       代
           鎌倉
  〇年代世紀
           13c
           鍛鉄製
  \bigcircR
      質
  〇目
       数
           1 🗆
  O寸 法等
           刃長 69.9、反り 2.0 cm
  〇施工会社
           本阿彌道弘
  〇修理内容
           1. 全身を研磨する。 2. 白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。 (平成22年度は1まで)
38 〇列品番号
          F-20200
  〇指
           重美
  〇指定年月
           昭和 12 年(1937) 5 月 27 日
           太刀 銘・備州長船住景光(たち めい・びしゅうおさふねじゅうかげみつ)
  O名 称
  〇時
  〇年代世紀
           延慶2年(1309)
  O
品
      質
           鍛鉄製
  〇員
       数
           1 🗆
           刃長 73.0、反り 2.1 cm
  〇寸 法等
  〇施工会社
           小野 博
           1.全身を研磨する。 2.白鞘を新調する。金着太刀鎺の作製。 (平成22年度は1まで)
 (陶磁) (2件)
  ○列品番号
          G - 23
     称
  〇名
           色絵波に三日月文碗(いろえなみにみかづきもんわん)
       代.
           江戸
  〇時
  〇年代世紀
           17c
  O品
     質
           陶製
  O員
  O寸 法等
           高8.8 口径6.2×6.2 高台径5.0 cm
  〇施工会社
           繭山降司
           1.旧修理の塗料を取り除き、新しく補強し、色合わせをする。 2.全体をクリーニングする。
  ○修理内容
  ○列品番号
           G-4832
           志野草花文向付(しのそうかもんむこうづけ)
  O名 称
  〇時
           安土桃山~江戸
  〇年代世紀
           16-17c
  〇品
      質
           陶製
  ○員
           5 □
       数
  O寸 法等
           高9.0 口径6.6 底径5.0 cm/まか
```

〇施工会社

繭山隆司

1. 金継ぎを外して補強する。 2. 欠損箇所は樹脂等を充填して補彩を施す。

```
〈東洋陶磁〉(2件)
           TG-1360
  〇列品番号
           白磁瓜形水注(はくじうりがたすいちゅう)
  〇名
       称
  〇時
           北宋
  〇年代世紀
           11~12c
           磁器
  質
  O員
       数
           1 🗆
           高24.0 口径11.2 底径9.9 cm
  O寸 法等
  〇施工会社
           ますぶち工房
  〇修理内容
           1. 旧修理の塗料を除去する。損傷部分があれば、必要に応じて欠損部分をアクリル樹脂等で接合・補填する。 2. 補填部分を補彩する。
42 〇列品番号
           TG-2909
  O名
称
           加彩馬(かさいうま)
  〇時
       代.
           唐
  〇年代世紀
           8c
  O品
           陶器
       質
  〇員
           1躯
  O寸 法等
           高32.0、幅29.0 cm
  〇施工会社
           陶磁器修復たま工房
  〇修理内容
           1. 欠落した部材を接合する。
〈東洋漆工〉(2件)
  〇列品番号
           TH-354
           楼閣人物螺鈿料紙硯箱(ろうかくじんぶつらでんりょうしすずりばこ)
  〇名
  〇時
  〇年代世紀
           17c
  質
           木製漆塗
  〇員 数
〇寸 法等
           2合1旦
           料紙箱: 縦 41.6、横 24.9、高 8.0 硯箱: 縦 26.5、横 19.8、高 5.7 cm
  〇施工会社
  〇修理内容
           1. 浮いている螺鈿をおさえる。 2. 剥落した破片を接着する。 3. 螺鈿の欠失部分は、周囲と色あわせをする。 4. 全体に漆固めをして強化する。
           度は4から)
  ○列品番号
44
           TH-442
           朱漆十二角却付膳(しゅうるしじゅうにかくきゃくつきぜん)
  〇名
       称
  〇時
           朝鮮
       代.
  〇年代世紀
           19-20c
  〇品
           木製漆塗
  〇員
           1脚
           高25.9. 径40.22合1 具
  〇寸 法等
  〇施工会社
           株式会社小西美術工藝社
           1. クリーニングする。 2. ひび、割れを漆で接着する。 3. 欠失部分を補填する。 4. 旧修理の塗料は取り除き、色あわせをする。 (平成22 年度は2 まで)
  ○修理内容
〈染織〉(14件)
  〇列品番号
           I-336-23 (F-211)
  〇名 称
           黄地変り甃文綾幡足(きじかわりいしだたみもんあやばんそく)
  〇時
       代
           飛鳥-奈良
  〇年代世紀
           7-8c
  O品
O品
           絹製、綾
       質
  O員
       数
           1条
  O寸 法等
           26. 4 × 11. 0 cm
  〇施工会社
           澤田むつ代、アソシエイト・フェロー
  〇修理内容
           1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れ等を除去する。 3. 糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.
            マット装に仕立てる。
  ○列品番号
           I-336-27 (F-250)
46
  〇名
       称
           赤地双鳳連珠唐草円文綾幡足(あかじそうほうれんじゅからくさえんもんあやばんそく)
  〇時
           飛鳥-奈
  〇年代世紀
           7-8c
  〇品
       質
           絹製、綾
  〇員
       数
           1条
  O寸 法等
           30.5 \times 11.5 \text{ cm}
  〇施工会社
           澤田むつ代、アソシエイト・フェロー
  〇修理内容
           1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。
            マット装に仕立てる。
47 〇列品番号
           I-336-29 (F-256)
           濃黄緑地大双竜唐草四弁花円文綾幡足(こいきみどりじだいひうりゅうからくさしべんかえんもんあやばんそく)
  〇名
       称代
  〇時
           飛鳥-奈良
  〇年代世紀
           7-8c
  O品
       質
           絹製、綾
  〇員
           1条
  〇寸 法等
           29.3 \times 16.8 \text{ cm}
           澤田むつ代、アソシエイト・フェロー
1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.
  〇施工会社
  ○修理内容
            マット装に仕立てる。
48
  ○列品番号
           I-336-33 (F-259)
  O名
      称
           白地葡萄唐草文綾幡足(しろじぶどうからくさもんあやばんそく)
  〇時
       代
           飛鳥-奈良
  〇年代世紀
           7-8c
           絹製、綾
  OH
       質
  O員
       数
           1条
  O寸 法等
           28.5 \times 16.0 \text{ cm}
  〇施工会社
           澤田むつ代、アソシエイト・フェロー
  〇修理内容
           1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れ等を除去する。 3. 糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4. 小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5.
            マット装に仕立てる。
  〇列品番号
           I-336-36 (F-270)
```

- 33 -

黄地亀・唐花入亀甲繋文綾幡足(きじかめ・からはないりきっこうつなぎもんあやばんそく)

称

代.

飛鳥-奈良

〇名

〇年代世紀 7-8c 絹製、綾 質数 〇員 1条 O寸 法等 $28.5 \times 15.7 \text{ cm}$ 〇施工会社 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 〇修理内容 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 マット装に仕立てる。 ○列品番号 I-336-37 (F-273) 50 黄地並び菱入連珠円文綾幡足(きじならびひしいりれんじゅえんもんあやばんそく) 〇名 称 〇時 飛鳥-奈良 〇年代世紀 O品 質 絹製、綾 1条 28.2×14.5 cm O員 数 〇寸 法等 〇施工会社 〇修理内容 マット装に仕立てる。 51 〇列品番号 I-336-40 (F-282) 紺地双鳥連珠円文綾幡足(こんじそうちょうれんじゅえんもんあやばんそく) O名 称 ○時 代 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c O品 絹製、綾 質 数 1条 O員 $31.5 \times 15.3 \text{ cm}$ O寸 法等 〇施工会社 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 〇修理内容 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. マット装に仕立てる。 52 〇列品番号 I-336-41 (F-283) O名 黄地双鳥二重連珠円文綾(きじそうちょうにじゅうれんじゅえんもんあや) 〇時 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c \bigcirc E 質数 絹製、綾 〇員 1枚 O寸 法等 29. 5×9 . 2 cm 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 〇施工会社 〇修理内容 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. 53 〇列品番号 I-336-58 (F-322) 〇名 称 茶地双鳳連珠円文錦(ちゃじそうほうれんじゅえんもんにしき) 〇時 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c O品 絹製、錦 O員 数 1枚 21.0×22.5 cm 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. 〇寸 法等 〇施工会社 〇修理内容 マット装に仕立てる。 54 〇列品番号 I-336-60 (F-325) O名 称 茶紫地亀甲繋花葉文錦(ちゃむらさきじきっこうつなぎかようもんにしき) ○時 什 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c O品 絹製、錦 質 〇員 1枚 〇寸 法 等 $8.7 \times 25.0 \text{ cm}$ 〇施工会社 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. 〇修理内容 マット装に仕立てる。 〇列品番号 I-336-67 (F-332) O名 称 緑青地六弁花鳥文錦(みどりあおじろくべんかちょうもんにしき) 〇時 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c OH. 質 絹製、錦 O員 数 1枚 O寸 法等 $28.8 \times 8.2 \text{ cm}$ 〇施工会社 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. 〇修理内容 マット装に仕立てる。 〇列品番号 56 I-336-68 (F-338) 淡緑地輪繋文錦(うすみどりじわつなぎもんにしき) 〇名 称 〇時 代 飛鳥-奈良 〇年代世紀 7-8c O品 絹製、錦 〇員 ①6.0×9.8 cm、②14.8×8.0 cm、③28.0×4.2 cm 澤田むつ代、アソシエイト・フェロー 1.ガラスを外して裂を取り出す。 2.汚れ等を除去する。 3.糸目を揃えながら文様を合わせて形を整える。 4.小麦粉澱粉糊を用いて和紙で裏打ちする。 5. 〇寸 法 等 ○施工会社 〇修理内容 マット装に仕立てる。 57 〇列品番号 I-3865 重文 O指 〇指定年月日 昭和 40 年(1965) 5 月 29 日(染織第 2192 号) 小袖 白練緯地松皮菱竹模様(こそで しろねりたてじまつかわびしたけもよう) 〇名 称 〇時 代 安土桃山

〇年代世紀

〇品

16~17c 絹(練緯)製

```
O員
     数
          1領
 O寸 法等
          寸 142 0. 約 67 0 cm
 〇施工会社
          株式会社染技連
          1. 表と裏に分ける。 2. 表裂は解体する。 3. 旧補修糸を外す。 4. 補修用の練緯を製織する。 5. 全面に補修裂をあてて縫い止める。 6. 裏地と真綿は元使いするが、真綿が不足する場合は補う。 7. 元の状態に仕立てる。 8. 絹の包み裂を新調して納める。 (平成 22 年度は5 の途中から)
 〇修理内容
          1. 表と裏に分ける。
 ○列品番号
          1-4288
          小袖 白綸子地桐樹模様(こそで しろりんずじとうじゅもよう)
 〇名 称
 〇時
      代
          江戸
          17~18c
 〇年代世紀
 O品
          絹製
      質
 O員
          1領
 〇寸 法 等
          丈 154.0、 裄 65.0 cm
 〇施工会社
          女子美術大学
          1. 解体する。 2. 刺繍糸のほつれを補強し、弱っている部分も補強する。 3. 前身頃の一部と襟の欠失部分に、同種の裂を補足して補修する。 4. 裏地(紅平絹)
 ○修理内容
          を新調する。 5. 薄く真綿を入れて元の状態に仕立てる。 6. 絹の畳裂を新調する。
〈考古〉(56件)
 ○列品番号
          J-592
 〇名 称
          鉄刀(てっとう)
 〇時
      什
          古墳
 〇年代世紀
          6с
     質
          鉄製
 O品
 O員
      数
          1本
 O寸 法等
          長88.9、身幅3.2cm
 〇施工会社
          株式会社東都文化財保存研究所
          7.544 ELA BIOLOMATI MOUTI
1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系
絵具で補彩する。 (平成 22 年度は 3 から)
 〇修理内容
 〇列品番号
          J-1548
          鉢形土器(はちがたどき)
 O名 称
 〇時
          前2000~前1000年
 〇年代世紀
 〇品
     質
          土製
 O員 数
O寸 法 等
          1個
          高13、口径23.5 cm
 〇施工会社
          有限会社武蔵野文化財修復研究所
          1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. セルロース系樹脂で接合する。 3. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 4. アクリル系絵具で補彩する。 (平成
 〇修理内容
          22年度は1まで)
 ○列品番号
          J-2882
 O名
      称
          鉄刀(てっとう)
 ○時
      代
          古墳
 〇年代世紀
          6c
 O品
          鉄製
     質
 O員
          1本
 O寸 法等
          長90.6、身幅3.5cm
 〇施工会社
          株式会社東都文化財保存研究所
          〇修理内容
 ○列品番号
          須恵器 脚付短頸壺(すえき きゃくつきたんけいこ)
 O名
称
 〇時
      代
          古墳
 〇年代世紀
          6 c
陶製
 O品
      質
      数
          1個
 O
 O寸 法等
          高36.3、口径9cm
 〇施工会社
          有限会社武蔵野文化財修復研究所
 〇修理内容
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 4. アクリル系絵具で補彩する。 (平成 22 年度は 3 の途中
 ○列品番号
          J-3232
          須恵器 坏(すえき つき)
 O名 称
 〇時
      代
          奈良
 〇年代世紀
 〇品
      質
          陶製
 〇員
      数
          1個
          高4.5、口径13.5 cm
 O寸 法等
 〇施工会社
          有限会社武蔵野文化財修復研究所
          1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
 〇修理内容
 ○列品番号
          J-3282
          須恵器 平瓶(すえき ひらべ)
 〇名 称
 〇時
      代
          古墳
 〇年代世紀
          7с
          陶製
 〇品
      質
 O員
      数
          1個
 O寸 法等
          高16、胴部径15.5 cm
 〇施工会社
          有限会社武蔵野文化財修復研究所
 〇修理内容
          1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. セルロース系樹脂で接合する。 3. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 4. アクリル系絵具で補彩する。
 〇列品番号
          J-3285
          須恵器 ハソウ(すえき はそう)
 〇名 称
 〇時
      代
          古墳
 〇年代世紀
          7с
 O品
質
          陈刬
 O員
      数
          1個
```

58

61

63

O寸 法等

〇施工会社 〇修理内容 高13.5、胴部径9.5 cm 有限会社武蔵野文化財修復研究所

1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. セルロース系樹脂で接合する。 3. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 4. アクリル系絵具で補彩する。

```
66 〇列品番号
           J-3396
  O名
           須恵器 提瓶(すえき ていへい)
       称
  〇時
       代
           古墳
  〇年代世紀
            6-7c
  O品
質
            陶製
  O員
            1個
  O寸 法等
            高18.5、口径9.5 cm
            有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇施工会社
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  ○修理内容
67 〇列品番号
           J-3717
  O名 称
           須恵器 壺(すえき つぼ)
  〇時
       代
            古墳
  〇年代世紀
            6c
  O品
O品
      質
           陶製
       数
  O員
           1個
  O寸 法等
            高21、口径11 cm
  〇施工会社
            有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇修理内容
           1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
68 〇列品番号
           J-5656
  O名 称
O時 代
           須恵器 子持脚付長頸壺(すえき こもちきゃくつきちょうけいこ)
           古墳
  〇年代世紀
            6с
  O品
質
           陶製
  O員
       数
           1個
  O寸 法等
           高36. 口径17.5 cm
            株式会社東都文化財保存研究所
  ○施工会社
           14.14天社(米田)人に別様(オーリスカリ)
1. 解体する。 2. 接着前(や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
彩する。 なお、J-22895 は接合する可能性があるので、共に供与し、接合関係を確認する。 (平成 22 年度は 4 から)
  〇修理内容
           1. 解体する。
           J-5659
69 〇列品番号
           須恵器 甕(すえき かめ)
  〇名 称
  ○時
            古墳
  〇年代世紀
            6c
      質
  O品
           陶製
  〇員
       数
           1個
  O寸 法等
            高20.5、口径14.5 cm
  〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
           2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇修理内容
  ○列品番号
           J-6330
           鉄剣残欠(てっけんざんけつ)
  O名 称
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
  O品
      質
           鉄製
  〇員
       数
           1本
  O寸 法等
           長24.9、身幅3.6cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
           1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂に
           より補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
71 〇列品番号
           J-6331
           鉄剣残欠(てっけんざんけつ)
  O名 称
  〇時
       代
           古墳
  〇年代世紀
  〇品
      質
           鉄製
  〇員
           1本
  O寸 法等
           長17.2、身幅2.9 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
           1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
  ○修理内容
  〇列品番号
           J-6332
  O名
           鉄剣残欠(てっけんざんけつ)
  〇時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           5с
           鉄製
  \bigcircH
       皙
       数
  O員
           1本
  O寸 法等
           長5.8、12.7、身幅2.1、2.3 cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
           1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
  〇修理内容
           より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
73
  ○列品番号
           J-6333
  O名
称
           鉄刀子(てつとうす)
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
  O品
      質
           鉄製
  〇員
       勬
           1本
  O寸 法等
           長12.6、身幅1.6 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
           1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
74 〇列品番号
           J-6334
  O名 称
O時 代
           鉄刀子(てつとうす)
           古墳
```

〇年代世紀

O品 質

鉄製

```
O員
       数
   O寸 法等
            長9.5、身幅1.5 cm
   〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
            14-45年末前人に別れて初月7日
1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
   〇修理内容
75 〇列品番号
            .1 - 6335
   O名
称
            鉄斧(てっぷ)
   〇時
            古墳
        代.
   〇年代世紀
            5c
   O品
            鉄製
        質
   O員
        数
   〇寸 法 等
            長8.8、幅3.3 cm
   〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
            14. 近れている。 1. ボルマリーニングに、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
   ○修理内容
  ○列品番号
   O名 称
            鉄斧(てっぷ)
   〇時
        代
            古墳
   〇年代世紀
   O品 質
            鉄製
        数
   O
            1個
   O寸 法等
            長5.3、幅3.1 cm
            株式会社東都文化財保存研究所
   〇施工会社
   〇修理内容
            1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
            より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
77 〇列品番号
            J-6337
            鉄斧(てっぷ)
   O名 称
   〇時
        代
            古墳
   〇年代世紀
   O品 質
            鉄製
   O員
        数
            1個
   O寸 法等
            長7.9、幅2.0 cm
            は、小型にもの。
株式会社理解文化財保存研究所
1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
   〇施工会社
   〇修理内容
78 〇列品番号
            J-6338
   O名
称
            鉄鏃(てつぞく)
   〇時
        代
            古墳
   〇年代世紀
            6c
      質
   O品
            鉄製
        数
   O員
            1本
   O寸 法等
            長4.2、身幅1.8 cm
   〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
            1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
   〇修理内容
  ○列品番号
            J-6339
            鉄鏃(てつぞく)
   O名 称
   〇時
        代
            古墳
   〇年代世紀
            6с
      質
            盆地
   \bigcircR
        数
   〇目
            6本
   O寸 法等
            長3.8~8.5、身幅2.0~3.3 cm
   〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
            1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂に
   〇修理内容
            より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
80 〇列品番号
            J-6340
   O名 称
O時 代
            鉄鏃(てつぞく)
            古墳
   〇年代世紀
   〇品 質
            鉄製
   〇員
        数
            1本
   O寸 法等
            長3.0、身幅1.8cm
            株式会社東都文化財保存研究所
1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
   ○施工会社
   〇修理内容
  ○列品番号
            J-6341
   O名
称
            鉄鏃(てつぞく)
            古墳
4-5c
   〇時
        代
   〇年代世紀
   O品
            鉄製
        質
   O員
        数
            1本
   O寸 法等
            長6.5、身幅1.0 cm
   〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
            1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
   〇修理内容
  ○列品番号
            J-6342
   O名
O時
代
            鉄鏃(てつぞく)
            古墳
   〇年代世紀
            鉄製
   〇品 質
   ○員
            1本
長3.5、身幅2.9cm
        数
   O寸 法等
```

1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。

〇施工会社

株式会社東都文化財保存研究所

5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。

```
○列品番号
           J-6343
  O名 称
           鉄鏃(てつぞく)
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
     質
  O品
           鉄製
           4本
長4.2~8.7、身幅1.1~1.8cm
  O員
       数
  O寸 法等
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
           1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4.セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂に
  〇修理内容
           より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
84 〇列品番号
           J - 6344
           鉄鏃(てつぞく)
  O名
称
  O時
           古墳
       代
  〇年代世紀
           5c
  O品
           鉄製
       質
  O員
           1本
  〇寸 法 等
           長7.5、身幅1.5 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
  〇施工会社
  〇修理内容
           より補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
85
 ○列品番号
           J-7260-1
           土師器 坏(はじき つき)
  O名

称
  〇時
       代.
           古墳
  〇年代世紀
           6с
  O品
質
           土製
  O員
       数
           1個
  O寸 法等
           高5.8、口径13.9 cm
  〇施工会社
           有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇修理内容
           1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
  〇列品番号
86
           J-7260-3
           土師器 坏(はじき つき)
  O名 称
  ○時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6с
  〇品
           土製
  O員
           1個
  〇寸 法等
           高5.4、口径12.7cm
           有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇施工会社
           1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
  〇修理内容
 〇列品番号
           J-7260-4
           土師器 坏(はじき つき)
  O名 称
  〇時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6с
           土製
  \bigcircH
     質
数
  O
           1個
  O寸 法等
           高5.3、口径13.2cm
  〇施工会社
           有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇修理内容
           1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
  ○列品番号
           J-7260-5
88
           土師器 坏(はじき つき)
  O名 称
O時 代
           古墳
  〇年代世紀
           6c
  〇品
     質
           土製
  〇員
           1個
  O寸 法等
           高5.5、口径12.7cm
           有限会社武蔵野文化財修復研究所
  ○施工会社
           1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
  ○修理内容
  ○列品番号
           J-7358
           埴輪 靫(はにわ ゆぎ)
  O名
称
  〇時
       代.
           古墳
  〇年代世紀
           6с
  質
数
           十製
  O員
           1個
  O寸 法等
           残存高 67.5、鰭部幅 37.5 cm
  〇施工会社
           有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇修理内容
                    2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
           彩する。 6. 安定台(各種樹脂による矢筒部に合わせて作った脱着可能の差し込み式のもの)を新調する。 (平成22年度は4から)
 ○列品番号
           J-7880
  O名
O時
代
           鉄刀(てつとう)
           古墳
  〇年代世紀
           鉄製
  〇品
           1本
長76.5、刀身長67.7、刀身幅3.0 cm
  O員
       数
  O寸 法等
           後 10.3、1797後 10.7、7797曜 3.00日
株式会社東都文化財保存研究所
1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。 (平成 22 年度は 2 まで)
  〇施工会社
  〇修理内容
91 〇列品番号
           J-7880
           鍔(つば)
  O名
称
  ○時
       什
           古墳
```

〇年代世紀

質

数

O品

〇員

6c

鉄製

1個

```
O寸 法等
           長径 6.7、短径 5.5 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  ○施工会社
           1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱
より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
                                      2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
  〇修理内容
  ○列品番号
           J-7880
           刀装具(とうそうぐ)
  O名
称
  ○時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           鉄製
  O品
       質
  O員
       数
           4個
  O寸 法等
           輪尻長 4.7、幅 4.0 cm/まか
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
           1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
  〇修理内容
           より補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
  ○列品番号
           J-11623
  O名
O時
代
           深鉢形土器(ふかばちがたどき)
  〇年代世紀
             前 2000~前 1000 年
      質
            土製
1個
  \bigcircR
       数
  〇昌
  O寸 法等
             高14.5、口径17 cm
             有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇施工会社
  〇修理内容
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
           彩する。 (平成22年度は2まで)
  ○列品番号
           J-14252
           鉄刀子(てつとうす)
  O名
称
  O時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6-7c
  〇品
       質
           鉄製
  〇員
       数
           1本
           長13.8、身幅1.5cm
  O寸 法等
           株式会社東都文化財保存研究所
1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2.脱塩処理を行う。 3.アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5.エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。
  ○施工会社
  ○修理内容
  ○列品番号
           J-14253-1. 2
  〇名 称
           鉄鏃(てつぞく)
  ○時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6-7c
  O品 質
           鉄製
  O員
       数
           2本
  O寸 法等
           長8.6、身幅0.8、長5.0、身幅1.0 cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
           1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に
           より補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。
  ○列品番号
           J-20194
           壺(つぼ)
  O名
称
  〇時
            弥生
  〇年代世紀
            1-3 с
     質
  〇品
            土製

  〇員
  数

  〇寸 法等

            1個
            高22.5、口径10.5 cm
  〇施工会社
            有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇修理内容
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
           彩する。 (平成22年度は2まで)
97 〇列品番号
           J-22891
           須恵器 甕(すえき かめ)
  O名
称
  〇時
            古墳
  〇年代世紀
            6с
  O品
       質
            陶製
  O員数
O寸法等
            1個
            高21、口径15cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
           休込み.....
1. 解体する。 2. 接着用いっこ
彩する。 (平成22年度は4から)
  〇修理内容
                    2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇列品番号
           J-22892
  〇名 称
           須恵器 長頸壺(すえき ちょうけいこ)
  ○時
       代
           古墳
  〇年代世紀
            陶製
      質
  OB
       数
            1個
  O
  O寸 法等
            高25、胴部径17.5 cm
  〇施工会社
            株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
                    2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
           彩する。
                 (平成22年度は2まで)
  ○列品番号
           J-22893
           土師器 壺(はじき つぼ)
  O名
称
       代
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
  〇品
           土製
  O員
       数
           1個
  O寸 法等
           高24、口径17 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
```

1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補

〇修理内容

彩する。 (平成22年度は2まで)

```
100 〇列品番号
          J-22896-1
  O名 称
          須恵器 坏蓋(すえき つきふた)
  ○時
           古墳
  〇年代世紀
  O
品
           陶製
  O員
       数
           1個
           高4、口径15cm
  O寸 法等
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容

    解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補

101 ○列品番号
          J-22896-8
          須恵器 坏蓋(すえき つきふた)
  O名
称
  〇時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6c
           陶製
  〇品
      質
  O員
  O寸 法等
           高4.5、口径15.5cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
           .解体する。 2.接着剤や汚れをクリーニングする。 3.セルロース系樹脂で接合する。 4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5.アクリル系絵具で補
  〇修理内容
           彩する
102 〇列品番号
          J-22896-9
          須恵器 坏蓋(すえき つきふた)
  〇名 称
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
           6c
陶製
     質
  O品
  O員 数
O寸 法 等
           1個
           高3.5、口径14cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
          1. 接着剤や汚れをクリーニングする。 2. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 3. アクリル系絵具で補彩する。
103 〇列品番号
          J-22896-10
  O名 称
O時 代
          須恵器 坏蓋(すえき つきふた)
           古墳
  〇年代世紀
           6с
  O品
質
           陶製
  O員
       数
           1個
  〇寸 法 等
           高4、口径14cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  ○施工会社
  〇修理内容
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
           彩する
104 〇列品番号
          J-22896-11
          須恵器 坏蓋(すえき つきふた)
  O名 称
  〇時
      代
           古墳
  〇年代世紀
     質
           陶製
  \bigcircH
      数
           1個
  O
  O寸 法等
           高4、口径14cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
          彩する
105 〇列品番号
          J-22896-12
          須恵器 坏身(すえき つきみ)
  O名
称
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
  〇品
      質
           陶製
  O員
       数
           1個
           高4、口径14.5cm
  〇寸 法等
           株式会社東都文化財保存研究所
  ○施工会社
  〇修理内容
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
106 ○列品番号
          J-22896-14
          須恵器 坏身(すえき つきみ)
  O名
称
  ○時
       代
           古墳
  〇年代世紀
           6c
  O品
O品
     質
           陶製
       数
           1個
  〇員
  〇寸 法 等
           高4、口径14.5 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇修理内容
           彩する
107 〇列品番号
          J-22896-17
          須恵器 坏身(すえき つきみ)
  O名
  〇時
           古墳
  〇年代世紀
     質
           陈刬
  数
  O
           1個
  O寸 法等
           高4、口径15.5cm
  〇施工会社
           株式会社東都文化財保存研究所
  〇修理内容
          1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
          彩する
108 〇列品番号
          J-22896-18
          須恵器 坏身(すえき つきみ)
  O名
称
  O時
       代
           古墳
```

〇年代世紀

6с

```
〇品 質
            陈刬
  〇員 数
〇寸 法等
            1個
            高5、口径15.5cm
            株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇修理内容
109 〇列品番号
           J-22896-19
           須恵器 坏身(すえき つきみ)
  〇名 称
       代
  〇時
            古墳
  〇年代世紀
            6с
  O品 質
            陶製
  O員
       数
            1個
  O寸 法等
            高4.5、口径15cm
            株式会社東都文化財保存研究所
  〇施工会社
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇修理内容
           J-34881
110 〇列品番号
  O名
称
           深鉢形土器(ふかばちがたどき)
  〇時
       代.
            縄文
  〇年代世紀
            前2000~前1000年
      質
  O品
            土製
  O員
       数
            1個
  O寸 法等
            高15、口径15 cm
  〇施工会社
            有限会社武蔵野文化財修復研究所
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
彩する。 (平成22 年度は4から)
  〇修理内容
            彩する。
111 〇列品番号
           J-34966
            瓢形壺(ひょうけいこ)
  O名 称
  〇時
            弥生
  〇年代世紀
            前2~前1c
  〇品
      質
            土製
  O員 数
O寸 法 等
            1個
            高23.5、口径4.5 cm
  〇施工会社
            繭山隆司
                    2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. 硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。 5.
  〇修理内容
           1. 解体する。
            アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成22年度は4から)
112 〇列品番号
           J = 34967
            瓢形壺(ひょうけいこ)
  O名 称
  〇時
       代
            弥牛
  〇年代世紀
            前2~前1c
  O品 質
            土製
  O員
            1個
  O寸 法等
            高22.5、口径5cm
  〇施工会社
            繭山隆司
           間に降い了。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. エポキシ系樹脂で接合する。 4. 硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。 5.
アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。 (平成22年度は4から)
  〇修理内容
           1. 解体する。
113 〇列品番号
           J-36903-1
  〇名 称
           銀象嵌鉄刀(ぎんぞうがんてつとう)
  〇時
       代
            古墳
  〇年代世紀
            6c
            鉄·銀製
  質
       数
            1本
  O
  O寸 法等
            長75.9、身幅3.1 cm
  〇施工会社
            飛鳥工房
           7.15れをクリーニングする。 2. 脱塩処理を行う。 3. 表面を覆うさびの除去、全体の強化および象嵌部分の研出しを行う。 4. エポキシ系樹脂により補填・
復元する。 5. アクリル系絵具で補彩する。(平成22年度は3の途中から)
  〇修理内容
114 〇列品番号
           J-36907
           注口土器(ちゅうこうどき)
  O名
称
  〇時
            前2000~前1000年
  〇年代世紀
  〇品
            土製
  〇員
       数
            1個
            高 17、最大幅 21.5 cm
  〇寸 法等
            有限会社武蔵野文化財修復研究所
  〇施工会社
           1. 解体する。 2. 接着剤や汚れをクリーニングする。 3. セルロース系樹脂で接合する。 4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 5. アクリル系絵具で補
  〇修理内容
                  (平成22年度は4から)
            彩する。
  〈東洋考古〉(2件)
115 〇列品番号
           TJ-2216
           環頭大刀(かんとうたち)
  O名
称
       代
  〇時
  〇年代世紀
           前2-後2c
  O品
       質
  〇員
           1本
  O寸 法等
           長 116.7 環頭幅 3.0 cm
           株式会社東都文化財保存研究所
  ○施工会社
           14. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 2. 脱塩処理を行う。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂により補填・復元する。 6. アクリル系絵具で補彩する。 (平成 22 年度は 2 まで)
  〇修理内容
116 〇列品番号
           TJ-5719
  O名
称
           銅戈(どうか)
  〇時
       代
           戦国~前漢
  〇年代世紀
           前3-前2c
```

- 41 -

青銅製

長 25.7cm、最大幅 7.2cm

1個

O品 質

O員

O寸 法等

数

株式会社東都文化財保存研究所 ○施工会社 1. 汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。 3. アクリル系樹脂で強化する。 4. セルロース系樹脂で接合する。 5. エポキシ系樹脂に 2. 脱塩処理を行う。 ○修理内容 より補填・復元する。 6.アクリル系絵具で補彩する。 (平成22年度は2まで) 〈歴史資料〉(20件) 117 〇列品番号 P-4028 中央階段《上野博物館 正面中央階段断面詳細》(ちゅうおうかいだん うえのはくぶつかん しょうめんちゅうおうかいだんだんめんしょうさい) 〇名 称 ○時 代 明治 〇年代世紀 19c O品 紙本墨画、彩色 質 O員 数 1枚 O寸 法等 42. 3×45 . 4 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 . 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 成22年度は3から) 118 〇列品番号 《上野博物館 正側面1階窓詳細》(うえのはくぶつかん しょうそくめんいっかいまどしょうさい) 〇名 〇時 明治 〇年代世紀 19c 質 紙本墨画、彩色 数 1枚 〇昌 O寸 法等 79. 6 × 51. 8 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水 分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 119 ○列品番号 P-4031 INFNO MUSEUM DETAIL 《上野博物館 背面1階小窓詳細》(うえのはくぶつかん、はいめんいっかいこまどしょうさい) O名 称 〇時 代 明治 〇年代世紀 〇品 紙本墨画、彩色 質 1枚 59.2×46.8cm 〇員 〇寸 法等 有限会社山領絵画修復工房 ○施工会社 1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水 ○修理内容 (平成22年度は3から) 分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 120 〇列品番号 O名 称 本家小屋組《上野博物館 母屋小屋組》(ほんけこやぐみ) うえのはくぶつかん おもやこやぐみ) ○時 代 明治 〇年代世紀 19c 紙本墨画、彩色 \bigcirc R 晳 O員 数 1枚 O寸 法等 60.4×74.5 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 〇修理内容 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水 121 〇列品番号 P-4038 O名 《上野博物館 木製建具断面詳細》(うえのはくぶつかん もくせいたてぐだんめんしょうさい) 称 〇時 代 明治 〇年代世紀 19c 〇品 質 紙本墨画、彩色 〇員 数 1枚 O寸 法等 48. 4 × 95. 2 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 ○修理内容 裏打ち紙、足し紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に 均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 122 〇列品番号 P-4039 《上野博物館 主屋2階展示室床伏、床組詳細》(うえのはくぶつかん おもやにかいてんじしつゆかふせ、ゆかぐみしょうさい) 〇名 称 〇時 代 明治 〇年代世紀 19c 〇品 質 紙本墨画、彩色 O員 1枚 〇寸 法等 $60.0 \times 88.8 \text{ cm}$ 有限会社山領絵画修復工房 ○施工会社 1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は 3. 濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を 〇修理内容 (平成22年度は4から) 123 〇列品番号 《上野博物館 背面2階窓詳細》(うえのはくぶつかん はいめんにかいまどしょうさい) 〇名 ○時 代 明治 〇年代世紀 19c 紙本墨画、彩色 \bigcirc R 皙 数 1枚 O O寸 法等 62.6 × 81.3 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。 4. 本紙の裂けや穴の部分には裏面から和紙で 補強する。 5. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は4から) 124 〇列品番号 上野博物館背面二階窓下操形之精密図(うえのはくぶつかんはいめんにかいまどしたくりがたのせいみつず) 〇名 称 〇時 代 明治 〇年代世紀 19c 〇品 紙本墨画、彩色 O員 数 1枚 62. 0 × 90. 8 cm

(平成22年度は4から)

1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は4から)

〇寸 法等

〇施工会社

〇修理内容

有限会社山領絵画修復工房

```
125 ○列品番号
           P-4042
            《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》(うえのはくぶつかん よくやかいだんしついっかいゆかふせ)
  〇名
       称
  〇時
       代
            明治
  〇年代世紀
  〇品
            紙本墨画、彩色
  O員
       数
           1枚
           59.0 \times 84.3 \text{ cm}
  〇寸 法等
  〇施工会社
            有限会社山領絵画修復工房
           有限芸代山頂称四門をは上げ。
1. 裏打ち紙および足し紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 源過水を用いて小米ののよりでは「エルル」によって、
部分には東面から和紙で補強する。 5. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。
                                  2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 濾過水を用いて水染みおよび褐色斑点を洗浄し、軽減する。
                                                                                               4 本紙が折れた
  〇修理内容
                                                                                       (平成22年度は4から)
126 〇列品番号
           《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》(うえのはくぶつかん よくやかいだんしついっかいゆかふせ)
  〇名
  〇時
       代.
            明治
  〇年代世紀
            19c
  O品
            紙本墨画、彩色
       質
  〇員
           1枚
  O寸 法等
           58.7 \times 88.3 \text{ cm}
  〇施工会社
            有限会社山領絵画修復工房
             裏打ち紙および足し紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正
  ○修理内容
                  (平成22年度は3から)
           を行う。
127 〇列品番号
            《上野博物館 正面玄関柱脚、柱頭詳細》(うえのはくぶつかん しょうめんげんかんちゅうきゃく、ちゅうとうしょうさい)
  〇名
  〇時
            明治
  〇年代世紀
            19c
  OR.
       質
            紙本墨画、彩色
  O員数
O寸法等
           1枚
           62. 8 × 97. 0 cm
  〇施工会社
            有限会社山領絵画修復工房
  〇修理内容
                               2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に
             裏打ち紙、足し紙を除去する。
           均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。
                                               (平成22年度は4から)
128 〇列品番号
            《上野博物館 正面2階ベランダ手摺親柱詳細》(うえのはくぶつかん しょうめんにかいべらんだてすりおやばしらしょうさい)
  ○名
  〇時
       代
            明治
  〇年代世紀
            19c
  〇品
            紙本墨画、彩色
  〇員
           1枚
  〇寸 法等
           59 6 × 88 7 cm
            有限会社山領絵画修復工房
  〇施工会社
           1、裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 部分的に濾過水などを用いて水染みを洗浄し、軽減する。 4. ゴアテックスを用いて全体に
均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成21年度は4から)
  ○修理内容
129 〇列品番号
            《上野博物館 翼屋階段詳細》(うえのはくぶつかん よくやかいだんしょうさい)
  〇名 称
  〇時
       代
            明治
  〇年代世紀
            19c
            紙本、鉛筆
  OH
       質
  O員
       数
           1枚
  O寸 法等
            93. 5 \times 56. 7 cm
  〇施工会社
            有限会社山領絵画修復工房
  〇修理内容
             裏打ち紙、足し紙を除去する。
                               2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行
                (平成22年度は3から)
130 〇列品番号
           P-4050
  〇名
       称
            《上野博物館 翼屋階段手摺詳細図》(うえのはくぶつかん よくやかいだんてすりしょうさいず)
  〇時
  〇年代世紀
            19c
  〇品
       質
            紙本、鉛筆
  〇員
       数
           1枚
  O寸 法等
           55.1 \times 66.4 \text{ cm}
  〇施工会社
            有限会社山領絵画修復工房
           1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れ分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。
                                                3. 本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水
  〇修理内容
                           2. 表面に付着した汚れを除去する。
                                         (平成22年度は3から)
131 〇列品番号
           P-4051
            上野博物館内側壁基礎仕替方之図 Uyeno Museum(うえのはくぶつかんうちがわかべきそしかえかたのず)
  O名
       称代
  〇時
            明治
  〇年代世紀
            19c
  O品
       質
            紙本墨画
  〇員
           1枚
  〇寸 法等
           57 5 × 97 7 cm
            有限会社山領絵画修復工房
  ○施工会社
           1. 裏打ち紙を除去する。 2. かけ乾燥し、変形修正を行う。
                          2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 足し紙を付け直して補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しを
  ○修理内容
                               (平成22年度は3から)
132 〇列品番号
  O名
       称
            《上野博物館 木製建具鏡板詳細》(うえのはくぶつかん もくせいたてぐかがみいたしょうさい)
  〇時
       代
            明治
  〇年代世紀
            19c
            紙本墨画
  OH
       質
  O員
       数
           1枚
  O寸 法等
            62. 4 \times 86. 0 cm
            有限会社山領絵画修復工房
  〇施工会社
  〇修理内容
             裏打ち紙、足し紙を除去する。
                                2. 表面に付着した汚れを除去する。
                                                      3. 本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。 4. ゴアテックスを用いて全体に
           均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。
                                               (平成22年度は3から)
133 〇列品番号
```

- 43 -

称

代

〇名 〇時 Uyeno Exhibition《上野博物館 翼屋1階壁基部詳細》(うえのはくぶつかん よくやいっかいかべきぶしょうさい)

〇年代世紀 19c 紙本墨画、彩色 質数 〇員 1枚 O寸 法等 62. 0 × 46. 4 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 134 〇列品番号 P-4054 上野博物館中真セリモチ外側石細工原寸之図(うえのはくぶつかんちゅうしんせりもちそとがわいしざいくげんすんのず) 〇名 称 〇時 代 明治 〇年代世紀 〇品 質 紙本墨画、彩色 1枚 57.8×53.4cm O員 数 〇寸 法等 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 1. 裏打ち紙、足し紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 張り手を付け、仮張りに張り込み、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 〇修理内容 135 〇列品番号 P-4055 O名 《上野博物館 煉瓦壁隅部詳細》(うえのはくぶつかん れんがかべすみぶしょうさい) ○時 什 明治 〇年代世紀 19c 紙本墨画、彩色 O品 質 O員 数 1枚 O寸 法等 53.0×40.7 cm 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) 136 〇列品番号 O名 《上野博物館 正面中央2階化粧柱下部詳細》(うえのはくぶつかん しょうめんちゅうおうにかいけしょうばしらかぶしょうさい) 〇時 〇年代世紀 19c 紙本墨画、彩色 O_B 質 〇員 数 1枚 〇寸 法等 $57.4 \times 48.3 \text{ cm}$ 〇施工会社 有限会社山領絵画修復工房 〇修理内容 1. 裏打ち紙を除去する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。 (平成22年度は3から) (和書) (2件) 137 〇列品番号 QA-4118 佐渡国図(さどのくにず) 〇名 称 〇時 江戸 代 〇年代世紀 19c O品 紙本着色、折仕立 O員 数 1鋪 〇寸 法等 73 2 × 112 3 cm 〇施工会社 株式会社墨仁堂 1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙 〇修理内容 は補修して再使用する。 5. もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。 138 〇列品番号 QA-4176 O名 称 上野国図(こうづけのくにず) ○時 什 汀戸 〇年代世紀 19c 紙本着色、折仕立 O品 質 〇員 数 1鋪 O寸 法等 202. 5×179.0 cm 〇施工会社 株式会社墨仁堂 1. 本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3. 美濃紙にて裏打ちを行う。 4. 表紙 は補修して再使用する。 5. もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。 ○修理内容 館史資料(収蔵品外) (1件) 139 〇列品番号 館資 678 重要雑録(明治26年)(じゅうようざつろく) 〇名 〇時 代 明治 〇年代世紀 明治 26 年(1893) O_B 質 紙本墨書(一部インク) 〇員 数 1 # O寸 法等 $27.8 \times 19.5 \times 7.6$ cm 〇施工会社 有限会社東京修復保存センター 1. 冊子本を解装する。 2. 各頁ごとに折れや皺をのばす。 3. 劣化が著しい箇所に両面より典具帖による補強を行う。 4. 欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 ま紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 6. 封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。 7. 冊子本に仕立てる。 (平成 22 年度は 2 まで) 〇修理内容 【京都国立博物館】(9件) <絵画> (4件) O名 仙人図団扇(せんにんずだんせん) 〇作 絹本墨画淡彩 〇品 質 〇員 数 1幀 O寸 法等 $26.0 \times 24.5 \text{cm}$ 有限会社 漢和堂 ○施工会社

2 〇名 称 飛鳥遊羊図めくり(ひちょうゆうようずめくり)〇作 者 藻皇

すること。

〇品 質 総本墨画

○修理内容

| 本紙の色留作業を行う。2 本紙の染みと汚れを取ること。3 本紙の旧裏打紙を除去すること。4 染みを取った所に天然絵具で補色を行うこと。5 新たに天 然絵具で適切に染めた美濃紙で肌裏打をすること。6 生宣紙にて増し裏を入れる。7 表装裂地と寸法について担当者と相談の上決めること。8 本紙と似合う裂 地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。9 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。10 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。11 生 宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。12 中国式台紙表装掛軸を仕立てすること。13 布で作品を包み、桐箱に入れ保存収納

O員 数

O寸 法等 101 0 x 39 0 cm 有限会社 漢和堂

〇施工会社

1 肌裏紙を固定する。2 剥落止めを行う。3 染み抜きと汚れの除去。4 絹の欠損部分の補填。5 中増裏打紙の染め。6 中増裏打ち。7 折れ伏世による折れ 〇修理内容 目の補強。8 欠損部分の補色。9 表装裂の調整。10 付け廻し。11 総裏打ち。12 裏張り。13 中国式二色表装掛軸に仕立てる。14 裂で包み、桐箱に納入。

〇名 山水図扇面(さんすいずせんめん)

〇作 者 姜筠 紙本墨画 OH質 数 1 幀 O

O寸 法等 上弦 66.4cm 下弦 30.0cm 辺 21.6cm

〇施工会社 有限会社 漢和堂 〇修理内容

1 本紙の色留作業を行う。2 所々にある白い粉状のカビのようなものは再検査の上適切な措置を取ること。3 本紙の染みと汚れを取ること。4 本紙の旧裏打 紙を除去すること。5 染みを取った所に天然絵具で補色を行うこと。6 新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。7 生宣紙にて増し裏を入れる。8 表装裂地と寸法について担当者と相談の上決めること。9 本紙と似合う裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。10 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。11 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。12 生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。13 中国式台紙表装を仕立てすること、作品の保存を考え作品の上に厚いかぶせ紙を入れること。14 布で包んで、詩書扇面 姜筠筆と同じ帙箱に入れ保存収納するこ

〇名 詩書扇面(ししょせんめん)

〇作 〇品 者質 姜筠 余笺思書

数 O 1幀

O寸 法等 上弦 67.2cm 下弦 29.7cm 辺 22.0 cm

有限会社 漢和堂 〇施工会社 〇修理内容

「別な社」、操作量 1 本紙の色留作業を行う。2 本紙の染みと汚れを取ること。3 本紙の旧裏打紙を除去すること。4 染みを取った所に天然絵具で補を行うこと。5 新たに天然 絵具で適切に染めた紙で即裏打をすること。6 生宣紙にて増し裏を入れる。7 表装裂地と寸法について担当者と相談の上決めること。8 本紙と似合う裂地を用 い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。9 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。10 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。11 生宣紙に て中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。12 中国式台紙表装を仕立てすること、作品の保存を考え作品の上に厚いかぶせ紙を入れるこ と。13 布で包んで、山水図扇面 姜筠筆と同じ帙箱に入れ保存収納すること。

<書跡> (3件)

〇員

〇名 述書賦扇面(じゅつしょふせんめん)

O作 者 鄭老胥 O品 質 紙本墨書 数

O寸 法等 上弦53.8cm 下弦20.6cm 辺20.0cm

1幀 〇施工会社

〇修理内容 本紙の色留作業を行う。2 本紙の染みと汚れを取ること。3 本紙の旧裏打紙を除去すること。4 虫穴を古紙で補修すること。5 染みを取った所及び虫穴を 補修した部分に天然絵具で補色を行うこと。6 新たに天然絵具で適切に染めた紙で削裏打を声すること。7 生宣紙にて間り裏を入れる。8 素がきなうだが遠について担当者と相談の上決めること。9 本紙と似合う裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。10 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。11 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。12 生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。13 中国式台紙表装を仕立てすること、作品の保存を考え作品の上に厚いかぶせ紙を入れること。14 布で包んで、帙箱に入れ保存収納すること。

〇名 詩書めくり(ししょめくり)

O作 者 〇品 質 紙本墨書

4枚 (5枚のうち) O員 数

〇寸 法等 各 129.5cm x 32.4cm

有限会社 漢和堂 〇施工会社

1 染みと汚れを取ること。2 天然絵具で補色をすること。3 天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。4 生宣紙にて増し裏を入れる。5 表装裂地について本紙と似合う特製裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。6 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。7 本紙と表装裂地の付き 〇修理内容 まわしを行なう。8 生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。9 中国式軸装を仕立てすること。10 布で作品を包み、四幅の 軸を一つの桐箱に入れ保存収納すること。

○名 華厳経券第三十三残券(二月堂焼経)(けごんきょうかんだい33 ざんかん(にがつどうしょうきょう)) 7 称

〇時 代 奈良時代 O品 · 質 紺紙銀字

数 〇員 1巻

O寸 法等 縦 23.0cm 総横 394.5cm

〇施工会社 株式会社 光影堂 〇修理内容

1 料紙の浮き箇所等に糊挿を施す。2 巻子装を解体し、銀字箇所に膠水溶液にて剥落止を行う。3 浄化水を用い汚れの除去を行い、再度剥落止めを行う。4 適 度の湿り気をもって旧補修紙及び肌裏紙を除去する。5 料紙の繊維組成検査を行い、それに応じた紺紙補修紙を作製し、欠失箇所に削繕補修を行う。6 染色した薄美濃紙・新糊で肌裏打を行い、一時仮張する。7 折損箇所に対し折れ伏せによる補強補修を行う。8 紺に染色した混合紙・新糊で再度裏打を行い、表裏仮 張する。9 表紙を新調し、本紙と接合させる。 軸木・八双竹・紐・包裂も新調する。軸首は黒塗撥軸を新調する。10 旧軸木、軸首、旧表紙は、旧箱に保存す る。保存箱は、桐材木口詰太軸巻、桐材屋郎中箱1合を新調する。11 中箱蓋部分に紙製覆いを新調する。

<彫刻> (1件)

木造菩薩坐像(もくぞうぼさつざぞう) 中国 元~明14~15世紀 〇名 〇時

代

〇品 質 木造 〇員 数 1躯

O寸 法等 総高 約60cm

〇施工会社 株式会社 京都科学 〇修理内容

本体 1 修理前写真・X 線写真撮影。2 クリーニングを行って、埃や汚れを除去する。3 部分的に解体(背板、左前腕、左右上腕から肘外側にかけての薄い材、 膝前)を行い、構造的な強度が不足している箇所を一旦取り外す。 尚、胸の部分のように瓔珞が矧ぎ目にかかっており解体が必ずしも最優先事項とならない箇所 や、現状で強度が不足していないかあるいは解体することで外観に著しく干渉する箇所などは基本的に解体しないこととする。錆び釘、接着剤、矧目の充填材等 の除去は解体と同時に行う。4 材質補強・虫蝕孔の充填 パラロイド B-72 を塗布し、材質的に強化する。 パラロイドに砥の粉を加えた充填材で充填する。5 パラロイドに砥の粉を加 えた充填材で充填する。3 欠損部の新補。 構造上問題のある背面は、新たに作り補う。 像の安定のため台座の枘を利用し桟を取り付ける。4 矧目箇所等に アクリル絵の具で補彩を行い、全体との調和を図る。5 框座を新補し像の安定を図る。

<漆エ> (1件)

O名 蜻蛉蒔絵鞍・鐙(とんぼまきえくら・あぶみ)

〇時 代 江戸時代(万延元年 1860年)

〇品 木製および鉄製 漆塗 蒔絵

O員 数 1具

〇寸法等

〇施工会社 北村繁

〇修理内容

1 一体になっている下鞍や馬氈などを鞍本体から取り外す。 2 修理前に写真撮影と調査を行い、修理計画を立てる。3 毛先の柔らかい筆などを用いて埃を掃 った後、精製水やエタノール水溶液等を用いて可能な範囲でクリーニングを行う。4 鞍に生じた漆塗膜の亀裂には生上味漆を割れ目から流しこんで木地を強化し

施した漆下地は形状を整えた後、違和感なく周囲と調和するように仕上げる。9 修理後の写真撮影を行う。10 木製外箱の蓋の欠損した横桟を新たに補い、接合 部を接着して補強する。11 修理前に取り外した下鞍など一式を組み立てる。

```
【奈良国立博物館】(9件)
< 絵画>(2件)
  O名
          絹本著色春日文殊曼荼羅 (けんぽんちゃくしょくかすがもんじゅまんだら)
  O員
      数
  〇時
          鎌倉時代
      代
  〇品
          絹本著色
  〇寸 法 等
          縦93.6cm 横34.5cm
  ○施工会社
          株式会社
               文化財保存
          解体修理。表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。修理実施前に光学機器等を用いた材料などの分析調査を当館研究員と共同で行い、その成果を
  ○修理内容
          随時当館研究員に報告して修理方針を確認する。濾過水を用いて汚れを除去し、膠などの接着剤を用いて剥落止めを施す。旧肌裏紙の取り替えに際しては乾式肌
          上げ法を採用する。本紙料絹欠失箇所に電子線劣化絹を用いて補絹を施す。表具は二段仏表具に改装し、新調する裂の文様や色調については当館研究員と協議し
          決定する。桐材太巻添軸、桐材印籠箱、裂貼り帙を新調する。
 〇名
          紙本墨画淡彩山水図 伝周文筆(しほんぼくがたんさいさんすいず)
  ○員
      数
          1幅
          室町時代
  〇時
      代.
                文安二年(1445)
          紙本墨画淡彩
  〇品
      質
  O寸 法等
          縦108.0 cm 横32.7cm
          株式会社 文化財保存
  〇施工会社
          解体修理。表面の水溶性の汚れが修理中に移動しないようクリーニングを施す。乾式肌上げ法により古い裏打紙を全て除去し、新しい裏打紙に取り替える。墨と
淡彩については、その定着状況に応じて剥落止めを行う。旧補彩については、本紙と大変よく馴染んでいることから基本的に再使用する。表装裂は全て再使用す
  〇修理内容
          る。(継続2年事業のうちの第1年)
<書跡>(1件)
  〇名
          紺紙金銀交書 大方広如来不思議境界経(こんしきんぎんこうしょだいほうこうにょらいふしぎきょうがいきょう)
  〇員
      数
          1巻
  〇時
      代
          平安時代
                12 世紀
          紺紙金銀交書
  啠
          縦 25.7cm 横 529.4cm
  O寸 法等
          株式会社 文化財保存
  〇施工会社
          欠損・破損部分を補修紙で整形し、強い折れと亀裂は折れ伏せで補強する。必要な箇所は金銀泥に剥落止めを施す。紙継ぎを外し不適切な継直しを修正し、表紙
          には巻緒を新たに付す。修理に伴い、光学調査機器等を用いた紙質調査を行う。また収納箱(桐製)を新調する。
<漆工>(1件)
          経櫃(きょうびつ)
 〇名
      称
  ○昌
      数
          1合
  〇時
      代
          平安時代
                12 世紀
          木製黒漆塗
  〇品
      質
  O寸 法等
          蓋縦 36.5cm 同横 49.5cm 総高 26.6 cm
  〇施工会社
          北村繁
          剥離部は漆塗膜の割目に希釈した漆を浸透させて強化する。虫食いや露出した木地は生漆を浸透させ、木地接合部には麦漆で補強し、漆下地等で形状を整え、表
  〇修理内容
          <考古>(5件)
 〇名
      称
          二塚古墳出土遺物(ふたつかこふんしゅつどいぶつ)
          金属製品 24件、琥珀製棗玉 1件
金属製品:一括、琥珀製棗玉:一括
  O員
      数
          古墳時代後期
                  6世紀中ごろ
      代.
  〇時
          金属製品:鉄製および青銅製、琥珀製棗玉:琥珀製
  〇品
      皙
  〇施工会社
          財団法人 元興寺文化財研究所
          金属製品:処理前調査、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、接合、樹脂塗布による強化、防錆処理、一部復元、仕上げ、処理後調査。
  〇修理内容
          琥珀製棗玉:処理前調査、クリーニング、接合、アクリル樹脂含浸、仕上げ、処理後調査。(継続3ヶ年事業のうちの第2年)
 〇名
         鉄製大刀 北和城南古墳出土 (てつせいたち ほくわじょうなんこふんしゅつど)
  O員
      数
          2振
  〇時
          古墳時代
      代
  〇品
          鉄製
  O寸 法等
          長約77 cm、約78 cm
          財団法人 元興寺文化財研究所
処理前調査(X線撮影)、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第1次樹脂塗布、接合・復原、第2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
  〇施工会社
  ○修理内容
 〇名
         珠城山1号墳出土遺物(たまきやま1ごうふんしゅつどいぶつ)
      称
           雲珠、辻金具、杏葉
  O員
          雲珠:2点、辻金具:一括、杏葉:3個
  〇時
          古墳時代後期
                  6 世紀
          雲珠:金銅製、辻金具:金銅製、杏葉:金銅製
  〇品
          雲珠: ①縦12.7 横13.5 高4.3 ②縦7.5 横7.5 高1.8、辻金具: 最大片 縦9.8 cm 横9.8 cm、杏葉: ①縦9.5 横8.8 ②縦8.8 横8.6 ③縦9.0 横8.7
  〇寸 法等
  〇施工会社
          財団法人 元興寺文化財研究所
  〇修理内容
          処理前調査(X線撮影)、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第 1次樹脂塗布、接合・復原、第 2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。
           (継続2ヶ年事業のうちの第1年)
 〇名
          鉄製大刀 珠城山3号墳出土(てつせいたち たまきやま3ごうふんしゅつど)
  O員
      数
          一括
      代
  ○時
          古墳時代後期
                   6 世紀
  O品
O品
      質
          鉄製
```

処理前調査(X線撮影)、クリーニング、脱塩処理、樹脂含浸、第 1 次樹脂塗布、接合・復原、第 2 次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。

-46-

〇名 鉄製大刀 佐味田出土(てつせいたち さみたしゅつど) 〇員 数 -括

(継続2ヶ年事業のうちの第1年)

最大約110cm 最小約70cm 財団法人 元興寺文化財研究所

〇時 代 古墳時代

O寸 法等

〇施工会社 〇修理内容

8

2

質 鉄製

○施工会社 財団法人 元興寺文化財研究所

処理前調査(X線撮影)、クリー ニング、脱塩処理、樹脂含浸、第1次樹脂塗布、接合・復原、第2次樹脂塗布、仕上げ、処理後調査。 ○修理内容

(継続2ヶ年事業のうちの第1年)

【九州国立博物館】(19件)

<絵画> (7件)

〇名 旧円満院宸殿障壁画(きゅうえんまんいんしんでんしょうへきが) 8面 (54面11枚のうち) (19年度より継続・6ヵ年計画)

O所 蔵 者 〇時 代

O品 紙本金地著色、襲木:黒漆塗。引手:木瓜金鍍金

No. 11) 縦177.3 cm 横138.0 cm No. 12) 縦176.2 cm 横137.9 cm No. 13) 縦176.5 cm 横137.9 cm No. 14) 縦174.3 cm 横138.1 cm O寸 法等

〇施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟

RRYLUIGACNELIE 1964年8月8日12日 1. 京都国立博物館内以て「連搬の為の仮剥落止を行なう(平成19年度「上施工済)。 2. 九州国立博物館にて写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。 3. 解体前の絵具層の剥落止を行なう。 4. 襖装を解体する。 5. 精製水にて表面の汚れ等を除去する。 6. 布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行なう。 7. 本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。 8. 本紙欠失箇所には結婚総知にて補紙を施す。 9. 本紙の色合いに合わせて、染薄美細にて削まを打つ。 ○修理内容 終的な絵具層の剥落止を行なう。 17. 引手は元のものを修理し用いる。 18. 漆塗襲木を新調し、襖に仕立てる。

〇名 浄土曼荼羅図(じょうどまんだらず) 1幅(20年度より継続・3ヶ年計画)

O所 蔵 者 九州国立博物館 〇時 代 鎌倉時代・13世紀

O品 質 絹本著色、掛軸装、中廻:藍菱金地大牡丹唐草文金襴、総縁:丹地牡丹唐草文銀欄

〇寸 法 等 本紙) 縦 128.5cm 横 123.6cm

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 〇施工会社

2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ○修理内容 3. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出 1. 与具版彩を行い、本紙の状態を調宜する。 2. 本紙の旧義引紙を制度紙を残じて味去する。 3. 浄化水を表面から頃霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4. 布海苔を用い、養生紙こて表打を行う。 5. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹こて補絹を行う。 7. 本紙の色合い「合わせて、染薄美濃紙」で肌裏を打つ。 8. 表打の養生紙を除去する。 9. 表装裂地は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。 10. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 11. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 13. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 14. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 15. 補絹の箇所に補彩をする。 16. 軸首は元のものを使用し、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。 17. 桐太巻添軸1本、桐屋郎箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

春日宮曼荼羅図(かすがみやまんだらず) 1幅 〇名

O所 蔵 者 九州国立博物館 〇時 代 鎌倉時代・13-14世紀

絹本著色、掛軸装、総縁:紺地菱金地小牡丹唐草文金襴、中廻風帯:紫地牡丹唐草文印金、軸:蓮華文金軸、箱:桐二重箱 〇品 質

O寸 法等 本紙) 縦 68.6cm 横 29.7cm

〇施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○修理内容

一般行団法人国玉修理袋 東町 単部 7.州文部 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 3. 浄化水を表面から噴霧し,浸透させる方法で汚れを出来 る限り除去する。 4. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 5. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行 う。 7. 本紙の色合いに合わせて,染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8. 表打の養生紙を除去する。 9. 表装裂地は支給の裂地を調整し,肌裏を打つ。 10. 美栖紙にて増裏打を行い,仮張りをする。 11. 折れ伏せを入れ,折れを直す。 12. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 13. 美 栖紙にて中裏打を行い,仮張りをする。 14. 宇陀紙にて総裏打を行い,仮張りし充分な乾燥期間をおく。 15. 補絹の箇所に補彩をする。 16. 軸首,軸 木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。 17. 桐太巻添軸 桐屋郎箱を新調し,羽二重の包裂に包み納入する。

〇名 束帯天神像(そくたいてんじんぞう) 1幅

O所 蔵 者 九州国立博物館

〇時 代 南北朝-室町時代·14-15世紀

絹本著色、掛軸装、総縁:茶地大牡丹唐草文緞子、中廻風帯:紫地小花文綾 〇品

-文字:萌黄唐花唐草文金襴、軸:象牙軸、箱:桐屋郎箱

〇寸 法等 本紙) 縦90.8cm 横40.6cm

〇 施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○修理内容

一般化団法人国玉修理装潢剛啤電パ研文部 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 3. 浄化水を表面から噴霧し,浸透させる方法で汚れを出来 る限り除去する。 4. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 5. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行 う。 7. 本紙の色合いに合わせて,染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8. 表打の養生紙を除去する。 9. 表装裂地は支給の裂地を調整し,肌裏を打つ。 10. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 11. 折れ伏せを入れ,折れを直す。 12. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 13. 美 栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 14. 宇陀紙にて終裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 15. 補絹の箇所に補彩をする。 16. 軸首は無 地金軸を新調、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。 17. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

〇名 霊照女像(れいしょうじょぞう) 1幅

O所 蔵 者 奈良国立博物館

〇時 代 室町時代・16世紀、永禄10年(1567)

O品 紙本著色、掛軸装、総縁:薄茶地笹蔓文綾、中廻:茶地鳳凰文金襴、一文字:茶地牡丹唐草文金襴、軸:象牙軸、箱:桐屋郎箱

〇寸 法 等 本紙) 縦97.2cm 横38.0cm

〇施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○修理内容

一般社団法人国宝修理接演師喚昭九州文部
1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 軸装を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。 3. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 5. 本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。 6. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 7. 別に決定する仕様に基づき表装裂地の調整を行い、肌裏を打つ。 8. 美極紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 9. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 10. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 11. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 12. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 13. 補紙の箇所に補彩をする。 14. 軸首は元のものを調整、軸木、発装、啄木等を新調し軸接に仕立てる。 15. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

諸宗祖師像(しょしゅうそしぞう) 1幅(22年度より2ヶ年計画) 〇名

O所 蔵 者 奈良国立博物館

代 中国 南宋時代・13世紀 〇時

絹本著色、掛軸装、総縁:茶地唐草文海気、中廻風帯:菱金地牡丹文金襴 〇品 -文字:紺地縹菱金地桐文金襴、軸:蓮華唐草文金軸、箱:漆塗屋郎箱

O寸 法等 本紙) 縦111.8cm 横55.0cm

〇施工会社 一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○修理内容

1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 3. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 5. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6. 本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 7. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8. 表打の養生紙を除去する。 9. 表装裂地は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。 10. 美極紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 11. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 13. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 14. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りとする。 15. 補絹の箇所に補彩をする。 16. 軸首,軸 木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。 17. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

仏涅槃図(ぶつねはんず) 1幅(22年度より4ヶ年計画) 〇名

O所 蔵 者 九州国立博物館

代 鎌倉時代・元亨3年 (1323) 〇時

絹本著色、書表装、軸:蓮華唐草文金軸、箱:樅桟蓋箱

〇寸 法等 本紙) 縦 261.0cm 横 212.6cm

-般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○施工会社

一版代10/3人国生物学表演的理論2077文部
1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 表装の解体を行う。 3. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを除去する。 4. 本紙表面より料綿欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 5. 布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 6. 旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 7. 本紙裏面より料綿欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 8. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 9. 表打の養生紙を除去する。 10. 美極紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 11. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12. 本紙両端に金箔押し紙にて覆輪を施す。 13. 美極紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 14. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 15. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りとするな。 16. 補絹の箇所に補診をする。 17. 新調した 〇修理内容

軸木、発装、啄木等と軸首・座鐶を取り付け軸装に仕立てる。 18. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

<書跡> (5件)

大燈国師墨蹟(だいとうこくしぼくせき) 1巻(21年度より継続・2ヶ年計画)

O名 称 O所 蔵 者 代 鎌倉時代・14世紀

紙本墨書、掛軸装、上下:浅葱地無地裂、中縁:白茶地小牡丹唐草文金襴 一文字風帯:茶地二重蔓大牡丹唐草文金襴、軸:黒檀頭切軸 O_B 質

箱:(1)引蓋差込み箱(外箱) (2)屋郎箱(中箱) (3) 革帙付漆塗被蓋箱(内箱)

O寸 法等 本紙) 縦 30.4cm 横 87.2cm

-般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部

2. 軸装を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。 3. 本紙の旧補修紙を除去する。 4. 本紙繊維 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 〇修理内容

に類似した補修紙を製作する。 5、本紙欠失箇所に、上記補修紙こて神紙を行う。 6、本紙の色合いに合わせ、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 7、表装裂地は元のものを調整し、肌裏を打つ。 8、美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 9、折れ伏せを入れ折れを防ぐ。 10、仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 11、美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 12、宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 13、軸首は元のものを使用、中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。 14、元の中箱(2)に収まるように桐太巻添軸及び軸受を新調する。 15、修理完了の本紙を羽二重の包裂に包み元の中箱(2)及び外箱(1)に納入する。 16、元の内箱(3)は本体の損傷箇所及び革帙を補修し、紙帙で覆い別置する。

徐葆光墨跡(じょほこうぼくせき) 1幅 9 〇名

O所 蔵 者 九州国立博物館

中国 清時代·1719 年 (康熙 58) O時 代

紙本著色、掛軸装、総縁:茶地石榴唐草文緞子、一文字:縹地鶴松喰雲文金襴、明朝:白茶地無地裂、軸:黒壇軸。箱:桐屋郎箱 質

O寸 法等 本紙) 縦 93.5cm 横 43.0cm

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 〇施工会社

2. 軸装を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。 〇修理内容 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 3. 修理前調査により決定した方針に基づき、

1. 与具地原で行い、本細いの心態を調宜する。 2. 難様を呼呼やし、本紙の必要表現の川金打紙を除去する。 3. 16年間 同間により次足しに万町に基プさ、本紙が高力を出来る限り除去する。 4. 本紙の日補修紙を除去する。 5. 本紙線性 1類似した補修紙を製作する。 6. 本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。 7. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8. 表装裂地は総縁・明朝は支給の裂地を調整・一文字は元のものを調整し、肌裏を打つ。 9. 美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 10. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 11. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 12. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 13. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 14. 補紙の箇所に補料をする。 15. 計画では、岩田によって、の名明報、計画、多様、原本で変を記述。 軸首及び座・鐶は元のものを調整、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。 16. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

10 〇名 詩巻(しかん) 1幅

O所 蔵 者 東京国立博物館

琉球・第二尚氏時代・18~19 世紀 ○時 代 紙本墨書、巻子装、表紙:更紗模様唐紙、見返:朱色唐紙、軸:中軸に裂を巻く、箱:無 \bigcirc H 質

〇寸 法等 本紙) 縦 30.6cm 横 788.7cm

〇施工会社 般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部

〇修理内容

一阪社団広へ当主隊・母表の即印産血ブの「スロリー 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 巻子装を解体し、本紙の旧裏打紙を除去する。 3. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 4. 本紙欠失 箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。 5. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて1層の裏打ちを行う。 6. 必要に応じて表紙、見返の剥落止を行う。 7. 表紙、見返繊維に類似した補修紙を作製する。 8. 表紙、見返欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。 9. 表紙、見返の色合いに合わせて、染薄美濃 紙にて1層の裏打ちを行う。 10. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 11. 仮張りし充分な乾燥期間をおく。 12. 表紙、見返の補紙箇所に補彩をする。 13. 仮張りされた本紙、表紙、見返を継ぐ。 14. 軸巻紙、軸首、軸木、発装、紐等を新調し巻子装に仕立てる。(軸首、紐は九州国立博物館が用意) 15. 桐屋 郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

〇名 額字(がくじ) 2巻(22年度より2ヶ年計画)

O所 蔵 者 東京国立博物館

代 〇時 江戸時代・19世紀

紙本墨書、巻子装、表紙:藍染紙、見返:金野毛散装飾紙、軸:木軸頭切、箱:被箱2巻入 皙

第2巻) 縦32.1cm 横951.0cm (22 紙合計) O寸 法等 第1巻) 縦31 6cm 横869 9cm (20 紙合計)

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 〇施工会社

○修理内容 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 巻子装を解体し、本紙の旧裏打紙を除去する。 3. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。 5. 本紙の色らいに合わせて、染薄美濃紙にて1層の裏打ちを行う。 6. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 7. 仮張り し充分な乾燥期間をおく。 8. 表紙 見返は新たに作製しそれぞれ裏打ちを行い充分な乾燥期間をおく。 9. 仮張りされた本紙 表紙、見返を継ぐ。 10. 軸巻紙、軸首、軸木、八双、紐等を新調し巻子装に仕立てる。 11. 桐屋郎箱を新調し、旧箱甲板は新箱底に納入する。本紙はそれぞれ羽二重の包製に包み 納入する。

O名 扇面(せんめん) 1幅

O所 蔵 者 東京国立博物館

〇時 江戸時代・文政 10 年(1827)

〇品 質 紙本墨書、掛軸装、総縁:薄茶地一重蔓菊花文緞子、中廻:萌黄地一重蔓唐花文緞、明朝:白地無地裂、軸:黒檀軸、箱:桐屋郎箱

〇寸 法等 本紙) 縦 15.5cm 横 50.0cm

一般社团法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○施工会社 ○修理内容

ルタブログスクロット・エネス (東川) (近日) (17) という。 「写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 軸装を解体し,本紙の旧裏打紙を除去する。 3. 浄化水を表面から噴霧し,浸透させる方法で汚れを出来 る限り除去する。 4. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 5. 本紙欠失箇所に,上記補修紙にて補紙を行う。 6. 本紙の色合いに合わせて,染薄美濃 7. 表装裂地及び合紙の調整を行い、肌裏を打つ。 8. 美極紙にて竹裏打を行い、仮張りをする。 9. 折れ伏せを入れ、折れを直す。 紙と台紙、表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 11. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 12. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮 10. 仮張りされた本紙と台紙 表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 11. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 12. 宇陀紙にて総裏張りし充分な乾燥期間をおく。 13. 補紙の箇所に補彩をする。 14. 軸首は元のものを調整、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。添軸、桐屋郎箱を新調し、旧箱の甲板及びラベルを新箱底に納入、 羽二重の包裂に包み納入する。 12. 宇陀紙にて総裏打を行い, 仮

<彫刻> (1件)

O名 称 O所 蔵 者 O名 木造面(もくぞうめん) 90面

九州国立博物館

〇時 代 平安時代・12世紀

木造一材製彩色ほか No. 1) 長さ 19.3cm 幅 14.6cm 奥行 4.8cm ほか 〇品 質 〇寸 法 等

〇施工会社 〇修理内容

1. 面90面中73面を修理対象とする。(非対象は、No. 8、9、19、25、35、36、45、46、47、51、52、65、67、68、69、71、80の17面) 2. クリーニングのみは15面である。他58面についても、クリーニングは行う。①刷毛・筆等で埃の除去を行う。②精製水・アルカリイオン水・メチルセルロース(水溶液)等で、クリーニングを行う。 3. 近世の古色仕上げの除去を行う。 4. 彩色及び漆層の剥落止めは、水溶性アクリル樹脂・アクリル樹脂エマルション・メチ ルセルロース・ふのり・膠等を用い、状況に応じ接着剤を選択する。 5. 材質強化にはメチルセルロース、あるいはメチルセルロース+パラロイドB72等を状況に応じ濃度を変えて用い、濡れ色に留意して行う。 6. 割損部あるいは矧ぎ目の接合は、麦漆・膠・エポキシ系樹脂・シアノアクリレートで状況に応じ接合する。 7. カビは、エチルアルコール(70~100%液)を用い除去する。 8. 虫蝕の処置は、虫穴詰めを要する場合はブチラール樹脂を用い充填す

<漆工> (1件)

〇修理内容

亀甲地螺鈿鞍(きっこうじらでんくら) 1背 O名 称

O所 蔵 者 九州国立博物館 O時 代 平安時代・12世紀 木製漆塗、螺鈿 〇品 質

O寸 法等 後輪) 高 30.3cm 居木) 長39.0cm 前輪) 高 29.0cm

株式会社目白漆芸文化財研究所 ○施工会社

1. 解体・付着物除去:前輪・送輪・居木を結んである紐を外して解体を行い、4 つの部材に分ける。過去の修理の際に螺鈿部分に被った付着物を除去する。 2. クリーニング:螺鈿の貝がかなり浮き上がり、今にも剥落しそうな状態であるため、危険な箇所に薄い雁皮紙を細かく切り糊で仮止めを行い、剥落を防止しながらクリーニング作業を行う。 3. 接合・組立;麦漆で木地の亀裂接着および安定処理を行う。最後に解体した部材を紐で結び、組み立てる。 4. 強 化・整形;螺鈿がほぼ全面にわたり剥落が進み、不安定な状態であるため、前輪・後輪・居木の各部が安定するような受け台をそれぞれ製作した上で、接着 16・金形: | 紫細かはは主国にイバミり約洛が進み、 不安定は仏徳であるにめ、 前標・店木の各首が安定り るような受けるどそれにてれ場官した上で、 接着 作業を行う。接着は原則として膠を使用する。 鞍の形状ははとんどが曲面なので、 一度に接着作業が行えないため、順次行うこととする。 螺鈿が安定した後、 一枚一枚の貝の際に鯖を施し、 貝裏に漆が浸み込まないように養生を行う。 塗膜の剥離および亀裂部に順次麦漆を含浸し、接着を行う。 5. 補填:居木の左 右の裏面がそれぞれ欠失しているため、 同部の欠失した形に合わせ、 木材を削り加工した材を嵌め込み、 形態の復元を行う。 この欠失部は安定の悪い箇所の ため、接着は麦漆で行い、後補材との隙間には、 刻苧により形態の復元を行う。 そして居木と共に下地を施し、 後補箇所が特定できるように仕上げつつ、 展 示上違和感のないようにする。 接着した塗膜に際錆を施す。 塗膜の劣化を防ぐため、 全体に漆固めを行う。

<考古> (1件)

O名 単鳳環頭大刀(たんほうかんとうたち)・雲珠(うず)・辻金具(つじかなぐ)(箕田丸山古墳出土遺物のうち) 6点

O所 蔵 者 九州国立博物館 代 古墳時代 • 6 世紀 〇時 鉄地金銅張 \bigcirc E 質

O寸 法等 単鳳環頭大刀)残存長37.5cm 幅3.5cm 雲珠 A)径4.5cm 高3.5cm B)径4.5cm 高3.0cm 辻金具 A)長9.5cm 幅7.5cm B)長6.5cm 幅6.5cm

長6.0cm 幅6.0cm 〇施工会社

1. 観察・記録: 修理前の状態を撮影し記録する、必要があればX線写真を撮影する。 2. クリーニング(一次);対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。 3. 脱塩処理: 純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し、Oppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。 4. 防錆処理: ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。 5. クリーニング(二次);仕上げの錆取り作業をおこなう。 6. 樹脂含浸: アクリル樹脂を含浸させる。 7. 接合・樹脂強化;接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。 8. 補彩;修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。 9. 観察・記録;修理後の状態を撮影し記録する。 〇修理内容

<歴史資料>(4件)

O名 称 O所 蔵 者 対馬宗家関係資料(つしまそうけかんけいしりょう)(対馬宗家関係資料のうち) 21 箱 19 巻、4 幅、16 点 (20 年度より継続 6 ヶ年計画)

九州国立博物館

対馬宗家関係資料) 室町時代・16世紀 和歌「君か代は」) 江戸時代・18-19世紀

O時 代 O品 質 紙本墨書、巻子装、掛軸装ほか

O寸 法等 対馬宗家関係資料) 縦 20.0cm 横 54.3cm ほか 和歌「君か代は」) 本紙縦 31.1cm 横 44.2cm

〇施工会社 -般社団法人国宝修理装潢師連開九州支部

〇修理内容

1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 巻子装を解体する。 3. 本紙の汚れ等を取り去る。 4. 本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。 5. 本紙と類似した補修紙を作成する。 6. 本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。 7. 旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。 8. 将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。 9. 混合紙にて総裏打を施す。 10. 仮張りし、充分な乾燥期間をおく。 11. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。 12. 紐は支給のものを使用、表紙、軸首、中軸、八双は元のものを用い、巻子装に仕立てる。 13. 支給の包み裂に包み納入する 14. 桐太巻添軸を施工巻数分製作する。 15. 施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。 ※平成 22年度は巻8~10を施工

1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 軸接を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。 3. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 4. 本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。 5. 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 6. 表装裂地は一文字は元のものを調整、その他は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。 7. 美極紙にて増裏打を行い、仮張りをする。 8. 折れ伏せを入れ折れを防ぐ。 9. 仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。 10. 美極紙にて中裏打を行い、仮張りをする。 11. 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。 12. 補紙の箇所に補彩をする。 13. 軸首、中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。 14. 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

17 〇名 ベトナム村落関係文書(べとなむそんらくかんけいもんじょ) 30点 (21年度より継続・2ヶ年計画)

O所 蔵 者 九州国立博物館 〇時

代 桃山時代・17世紀

紙本墨書 質

O寸 法等 縦 152.7cm 横 359.0cm ほか

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 〇施工会社

1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 本紙に付着した埃等の汚れを可能な限り除去する。 3. セロハンテープによる仮補修跡を除去する。 〇修理内容 部分的に軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。 5.破損箇所に対して補強を行う。 6.仮巻及び仮表紙を製作する。 7.2 段式桐屋郎箱を 3 合製作し、羽二重の包裂に包み 10 点ずつ納入する。 8.上記の桐屋郎箱を納入する裂四方帙を 3 箇製作する。

○名 宝満山絵図(ほうまんざんえず) 2舗 18

O所 蔵 者 九州国立博物館

〇時 代 江戸時代・17世紀

〇品

O寸 法等 東図:縦82cm 横138cm 西図:縦80cm 横132cm

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 〇施工会社 〇修理内容

写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 3. 浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り 除去する。 4. 旧裏打紙を除去する。 5. 本紙繊維に類似した補修紙を製作する。 6. 本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。 7. 美濃紙にて肌裏 E打つ。 8. 美栖紙にて増裏を打ち,仮張りをする。 9. 混合紙にて総裏を打ち,仮張りし充分な乾燥期間をおく。 10. 中性紙製の巻芯及び仮表紙を作 除去する。 4. 旧裏打紙を除去する。 5. 本紙繊維にを打つ。 8. 美栖紙にて増裏を打ち、仮張りをする。 11. 2舗入の桐保存箱を新調し、納入する。

19 〇名 交易船図巻(こうえきせんずかん) 1巻(21年度より継続・2ヶ年計画

O所 蔵 者 九州国立博物館 〇時 代 江戸時代・18世紀

〇品 質

紙本著色、表紙: 萌黄地小牡丹唐草文緞子、見返: 金箔紙、軸首: 木製印可軸第1紙) 縦32.0cm 横92.1cm 第2紙) 縦32.0cm 横92.5cm 第3紙) 糸 O寸 法等 第3紙) 縦32.0cm 横92.5 cm 第4紙) 縦32.0cm 横92.1cm 第5紙) 縦32.0cm 横93.1cm 第6紙) 縦32.0cm 横92.3 cm 第7紙) 縦32.0cm 横91.2cm 第8紙) 縦32.0cm 横93.0cm 第9紙) 縦32.0cm 横92.7 cm 第10紙) 縦32.0cm 横92.5cm 第11紙) 縦32.0cm 横92.0cm 第12紙) 縦32.0cm 横74.0cm

一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部 ○施工会社 〇修理内容

2. 表紙を取り外し,本紙の継ぎを外す。 3. 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 4. 浄化水を表面から噴 まする。 5. 本紙の旧裏打紙を除去する。 6. 補修紙を作成する。 7. 本紙欠失箇所に,上記補修紙にて補紙 1. 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 素し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 5. 本紙の旧裏打紙を除去する。 6. 補修紙を作成する。 7. 本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補修を施す。 8. 本紙天地の端口を保護するために、生漉和紙にて細い縁をつける。 9. 染色した楮紙にて肌裏を打つ。 10. 美栖紙にて増裏を打つ。 11. 楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち、仮張りする。 12. 補紙を施した箇所に補彩を施す。 13. 表紙、見返、紐を新調する。軸首は元のものを使用する。 14. 軸巻、中軸、八双を新調し、充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し、全紙を継ぎ合わせ、巻子装に仕立てる。 15.桐太巻添軸 桐屋郎箱を各新調し、 羽二重の包裂に包み納入する。

1-(4)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

平成23年3月31日現在

			国立博物館	東京国立博物館	京都国立博物館
	合 i	+	431	98	333 (106)
	絵画	<u> </u>	144	7	137 (44)
	書路	亦	92	6	86 (32)
	彫 亥	[]	90	1	89 (24)
	建	紀	1	0	1 (0)
	金二	L	11	11	0 (0)
	刀 剣		1	1	0 (0)
	陶品	兹	2	2	0 (0)
	漆	Г	3	2	1 (0)
	染綿	韱	11	1	10 (4)
	考古	4	33	33	0 (0)
	歴史資	料	31	20	11 (2)
	和		0	0	0 (0)
	民族資	料	0	0	0 (0)
	その他	<u> </u>	5	2	3 (0)
	絵	画	0	0	
	書	跡	1	1	
	彫	刻	4	4	
_	金	エ	0	0	
東洋	陶	磁	2	2	
	漆	エ	1	1	
	染	織	0	0	
	考	古	4	4	
	民	族	0	0	
法队	隆寺献絲	内宝物	0	0	
黒田	記念館	収蔵品	0	0	
館史	資料(収	蔵品外)	0	0	/

[※] 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

[※] 京都国立博物館の()内は新規入力件数で内数。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 入館者数推移(入館料別)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-①

2-(1)-② 入館者数推移 (展覧会別)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成23年3月31日現在

1件(外国語)/2件(日本語)

東京国立博物館	東京国立博物館 京都国立博物館		九州国立博物館
96%	-%	84%	83%
130件(外国語)	一件(外国語)	21件(外国語)	40件(外国語)
135件(日本語)	一件(日本語)	25件(日本語)	48件(日本語)

パネル等(パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む)

【東京国立博物館】

・平常展(23年1月2日から総合文化展) 77件(外国語) / 77件(日本語) 含国宝室・表慶館

·特集陳列 53件(外国語) / 53件(日本語)

• 黒田記念館

平常展(23年1月2日から総合文化展) 0件(外国語) / 5件(日本語)

※参考 本館2階陳列"日本美術の流れ"案内・解説パンフレット

36件(外国語)/36件(日本語)

【京都国立博物館】

(平常展示館建て替え工事に伴い平常展示休止中)

【奈良国立博物館】

・名品展(なら仏像館) 16件(外国語) / 16件(日本語) ・名品展(西新館) 0件(外国語) / 4件(日本語) ・特集展示(西新館) 0件(外国語) / 0件(日本語) ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 3件(外国語) / 3件(日本語) ・特別陳列「お水取り」 2件(外国語) / 2件(日本語)

【九州国立博物館】

・文化交流展示 (トピック展示をのぞく)27件(外国語)/33件(日本語)・文化交流展示 音声ガイド3件(外国語)/0件(日本語)・文化交流展示 トピック展示 「白磁を飾る青ー朝鮮時代の青花―」1件(外国語)/3件(日本語)

「国宝琉球国王尚家関係資料修理完成記念展示」 0件(外国語)/0件(日本語) 「南蛮 津久見市所蔵の屏風と漆器」 1件(外国語)/1件(日本語)

「湖の国の名宝展」

「館蔵仏教美術名品展」 1件(外国語)/1件(日本語) 「名品でたどる室町から桃山の茶 茶の湯を楽しむ皿」 1件(外国語)/3件(日本語)

「九州国立博物館開館 5 周年 2005~2010 文化交流展示室の 5 年間」 0 件(外国語)/0 件(日本語)

「能面と能装束」 1件(外国語)/1件(日本語)

「螺鈿 美しき貝と漆の芸術」 1件(外国語)/1件(日本語) 1件(外国語)/1件(日本語) 1件(外国語)/1件(日本語) 1件(外国語)/1件(日本語) 1件(外国語)/1件(日本語)

「日本の建築をめぐって」 1件(外国語)/1件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-④

2-(1)-⑥ 広報刊行物一覧 【東京国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
東京国立博物館ニュース695号~ 700号	隔月刊年6回発行 各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者 2,369件 寄贈 国内1308件 海外93件(国内外の美術館・博物館・ 大学・研究所等) 賛助会 235件、友の会 1412件 (2011年3月末現在)
本館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 (22年12月末、22年度1月版に改訂)	日本語版 22.12 改訂 20,000部 英語版 22.12 改訂 15,000部 中国語版 22.12 改訂 3,000部 韓国語版 22.12 改訂 3,000部	館内で来館者に無償配布
(23年3月、23年度4月版に改訂)	日本語版 23.3 改訂 70,000部 英語版 23.3 改訂 50,000部 中国語版 23.3 改訂 18,000部 韓国語版 23.3 改訂 18,000部	
東洋館フロアガイド	日本語版	休館中のため配布せず
日本語版・英語版	英語版	
中国語版・韓国語版 (休館中のため増刷・改訂なし)	中国語版 韓国語版	
東京国立博物館パンフレット多言語版	中国語版 22.10 増刷 3,000部	 館内で来館者に無償配布
(22年10月 増刷)	韓国語版 22.10 増刷 3,000部	大使館等に送付
東京国立博物館マップ	日本語版 22.8 制作 50,000部	館内で来館者に無償配布
(22年8月末 制作)	英語版 22.8 制作 5,000部	マスコミ媒体、学校等に送付
(22年10月末 増刷)	英語版 22.10 増刷 5,000部	
(22年12月 改訂)	日本語版 22.12 改訂 45,000部 英語版 22.12 改訂 12,000部	
東京国立博物館マップ日本語版 (23年3月 制作)	23.3 制作 100,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、学校等に送付
東京国立博物館パンフレット多言語版 (23年3月 制作)	英語版 23.3 制作 84,000部	館内で来館者に無償配布 大使館等に送付 特記事項:中国、韓国、仏、独、西の各言語版に関しては、 東芝国際交流財団の一部助成を申請中。23年4月に制作予定
東京国立博物館 展示・催しのご案内	23.3 23年春版制作 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送 付
法隆寺宝物館パンフレット		法隆寺宝物館で配布
庭園ガイド	23.3 増刷 70,000部	館内で配布
応挙館パンフレット		館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

【京都国立博物館】				
刊 行 物 名	発行時期	発 行 部 数		配 布 先
京都国立博物館だより	4、7、10月、1月	166号(4・5・6月) 167号(7・8・9月) 168号(10・11・12月) 169号(1・2・3月)		観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博 物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Newsletter Vol.106∼109	4、7、10月、1月		各3,000部	観覧者
博物館Dictionary No.167	8月		5,000部	観覧者(小学・中学生向け)
平成22年度年間スケジュール	5月	(増刷)	5,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博 物館ほか郵送希望者にも発送
平成23年度年間スケジュール	3月		30,000部	
京都国立博物館案内リーフレット (展 示案内改訂版)	1月	英語版(改訂版) 韓国語版(改訂版) フランス語版(改訂版) スペイン語版(改訂版) 中国語版(改訂版)	5,000部 5,000部 5,000部	
	3月	日本語版(改訂版)		
博物館くらぶ第9回チラシ	4月		1,500部	
特別展観「上田秋成」出品一覧、展示 替予定表	7月		25,000部	
特集陳列「新収品展」リーフレット	7月		20,000部	観覧者
特別展覧会「高僧と袈裟」ワークシー ト	10月		15,000部	
特別展覧会「高僧と袈裟」出品一覧、 展示替予定表	10月		20,000部	
庭園マップ(改訂4版)	1月		5,000部	1
七条周辺絵図	2月		10,000部	
留学生の日ポスター・チラシ	9月		10,500部	
特別展覧会「長谷川等伯」出品一覧、 展示替予定表	4月		50,000部	

【奈良国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
奈良国立博物館だより	春・夏・冬号 各20,000部	美術館・博物館・大学・研究所等 約120件
(年4回)	秋号 40,000部	
奈良国立博物館リーフレット	日本語版 80,000部	館内で来館者に配布
	英語版 11,500部	
	中国語版 3,500部	
	韓国語版 6,000部	
	ドイツ語版 1,000部	
	フランス語版 1,000部	
	スペイン語版 1,000部	
奈良国立博物館展示案内	50,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊 行 物 名	発行部数	配布先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 140,000部	館内で来館者に配布
	中国語版 14,000部	・旅行会社等へ郵送
	韓国語版 20,000部	
	英語版 12,000部	特記事項:外国語版は東芝国際交流財団の助成により一部作成
)	THE TOTAL PROPERTY OF THE PROP
	合計 186,000部	
文化交流展示室案内マップ	日本語版 60,000部	・館内で来館者に配布
		・旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語3,000部	視察者等に配布
70川日立[4]初起[6]文	中国語 300部	次次 日 41CBD 11
	韓国語 300部	
	英語 300部	
 季刊情報誌「アジアージュ」		・館内で来館者に配布
学刊情報誌「アンテーシュ」		
	夏(17)号 50,000部	・美術館・博物館、近隣文化施設、
	秋(18)号 50,000部	近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
	冬(19)号 50,000部	
茶室利用のご案内リーフレット	10,000部	・館内で来館者に配布
		・茶道関係者に配布。
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月 11,800部	・館内で来館者に配布
		・郵便局、学校、病院、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館開館5周年	5,000部	・館内で来館者に配布
2005~2010 文化交流展の5年間		
リーフレット		
		I

2-(2) 歴史・伝統文化の理解促進

2-(2)-① 学習機会の提供(過去5ヵ年)

(2)-① 学習機会の提供(過	法5ヵ年) ┃ 前中期期間(13~17年度)の平均値	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
テャンパスメンバーズ	前中期期间(13~17年度)の平均値					
夏京国立博物館 2018年11日 1987年11日 198	-	16校	22校	29校	35校	35校
京都国立博物館		15校	21校	29校	30校	29校
₹良国立博物館 ι州国立博物館	_	12校 	20校 21校	25校 22校	27校 29校	28校 27校
tm国立時初期	-	_	21 fX	221X	29/10	211X
#漢云寺の回数 夏京国立博物館						
講演会等 実施回数	86回	98回	142回	132回	153回	126回
講演会等参加者数		11,035人	11, 361人	12, 332人	12,546人	13, 319人
①講演会	30回	30回	24回	29回	24回	39回
UIII/KA	7, 339人	6, 542人	4,770人	7. 134人	5.600人	9. 290人
アンケート結果		78. 37%	79%	82%	87%	91%
(内訳)						
・月例講演会等	14回	12回	12回	12回	12回	11回
	2,602人	1,612人	1304人	2,008人	1,887人	1, 637
アンケート結果	81%	73% 11回	82%	82%	87%	89%
・記念講演会	12回	11回	6回	15回	11回	12回
	3,891人	3,519人	1,869人	4, 409人	3,516人	3,467人
アンケート結果	80%	81%	81%	81%	85%	91%
・テーマ別講演会	4回	4回	4回	2回	1回	1回
	846人	958人	908人	717人	197人	180人
アンケート結果	85%	87% 3回	69%	83%	90%	92%
・その他講演会	_	3回	2回	-	_	15回
***	_	453人	689人	_	-	4,006人
アンケート結果	-	80%	_	-	_	_
②列品解説(ギャラリートーク等)	43回	41回	101回	101回	126回	83回
	3, 328人	3, 055人	3, 934人	4, 774人	6, 550人	3,659人
③連続講座	1回(2日)	1回(3日)	1回(3日)	1回 (3日)	1回 (3日)	1回(3日)
	248人	325人	288人	356人	320人	278人
アンケート結果	82%	83%	77%	81%	82%	81%
④公開講座	12回	26回	16回	1回	82% 2回	3回
	_	1, 113人	2,369人	68人	76人	92人
アンケート結果	90%	85%	72%	_	93%	100%
都国立博物館						
講演会等 実施回数		48回	46回	37回	21回	17回
講演会等 参加者数	5, 181人	4, 980人	4, 489人	3,413人	3,002人	2, 313人
①土曜講座	46回	47回	45回	36回	19回	15回
	4, 989人	4,827人	4, 329人	3, 254人	2, 791人	2,076人
アンケート結果	84%	84%	81%	82%	80%	81%
②夏期講座	1回 (3日)	1回(3日)	1回(3日)	1回 (3日)	1回 (3日)	1回 (3日)
	192人	153人	160人	159人	179人	205人
アンケート結果	86%	94%	88%	95%	94%	92%
③社会科教員のための向上講座	_	_	_	-	_	1回
	_	_	_	_	_	32人
長国立博物館						
講演会等 実施回数	33回	25回	28回	32回	33回	28回
講演会等 参加者数	3,542人	2, 743人	2,949人	3, 655人	3, 421人	3,349人
①特別展等講座	16回	12回	15回	19回	16回	15回
	2, 263人	1,586人	1, 943人	2, 706人	2,043人	2, 172人
アンケート結果	85%	86%	87%	90%	96%	93%
②夏期講座	1回(3日)	1回 (3日)	1回(3日)	1回(3日)	1回(3日)	1回(3日)
	328人	486人	358人	362人	391人	556人
アンケート結果	81%	93%	84%	90%	92%	95%
<u> </u>	16回	12回	12回	12回	11回	12回
	951人	671人	648人	587	584人	621人
アンケート結果	_	_	_	_	91%	88%
④大学との合同公開講座	_	ı –	_	ı —	4回	
<u> </u>						
アンケート結果		_	_	_	353人	
②出用生女器の件のなるへの!!	_	<u> </u>	_ 	_ _	353人 86%	
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同			_ _ _ _	_ _ _	353人 86% 1回	_ _ _ _
	——————————————————————————————————————		- - - -		353人 86% 1回 50人	
アンケート結果	— — — —	- - - - -	- - - - -		353人 86% 1回	
アンケート結果		- - - - -		<u> </u>	353人 86% 1回 50人 一	
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数	75回		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	— 56回	353人 86% 1回 50人 — 73回	64回
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数	75回 4,660人	6, 639人	4, 168人	— 56回 5,507人	353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人	64回 3,996人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数	75回 4,660人 2回	6, 639人 12回	4, 168人 7回	ー 56回 5,507人 11回	353 人 86% 1回 50 人 — 73 回 6,806 人	64回 3,996人 9回
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会	75回 4,660人 2回 550人	6, 639人 12回 2, 153人	4, 168人 7回 1, 892人	ー 56回 5,507人 11回 2,670人	353 \(\) 86% 1 \(\extstyle \) 50 \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果	75回 4,660人 2回 550人 - %	6,639人 12回 2,153人 一%	4,168人 7回 1,892人 一%	 56回 5,507人 11回 2,670人	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6,806 \(\) 6 \(\) 1,622 \(\) -9%	64回 3,996人 9回 1,410人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会	75回 4,660人 2回 550人 - % 66回	6,639人 12回 2,153人 一% 47回	4,168人 7回 1,892人 一% 42回	 56回 5,507人 11回 2,670人 % 37回	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6,806 \(\) 6 \(\) 1,622 \(\) -% 42 \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人	6, 639人 12回 2, 153人 — % 47回 1, 806人	4,168人 7回 1,892人 一% 42回 1,320人	 56回 5,507人 11回 2,670人 % 37回 1,096人	353 人 86% 1 回 50 人 — 73 回 6,806 人 6回 1,622 人 — % 42 回 1,285 人	64回 3,996人 9回 1,410人 - % 44回 1,320人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人	6,639人 12回 2,153人 -% 47回 1,806人 6回	4,168人 7回 1,892人 一% 42回 1,320人 1回	 56回 5,507人 11回 2,670人 96 37回 1,096人 6回	353 \(\) 86\(\) 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\) -\(\) 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人 -% 44回 1,320人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム	75回 4,660人 2回 550人 - % 66回 2,411人 4回 1,350人	6,639人 12回 2,153人 一% 47回 1,806人 6回 1,280人	4, 168人 7回 1, 892人 一% 42回 1, 320人 1回 316人	 56回 5,507人 11回 2,670人 96 37回 1,096人 6回 1,555人	353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人 6回 1,622人 — % 42回 1,285人 24回 3,849人	64回 3, 996人 9回 1, 410人 —% 44回 1, 320人 11回 1, 266人
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人	6,639人 12回 2,153人 -% 47回 1,806人 6回 1,280人 -%	4,168人 7回 1,892人 -% 42回 1,320人 1回 316人 -%		353 \(\) 86\(\) 86\(\) 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\)\(\) 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\) 44	64回 3,996人 9回 1,410人 -% 44回 1,320人 11回 1,266人 -%
アンケート結果 州国立博物館	75回 4,660人 2回 550人 % 66回 2,411人 4回 1,350人 % 3回	6,639人 12回 2,153人 — % 47回 1,806人 6回 1,280人 — %	4,168人 7回 1,892人 -% 42回 1,320人 1回 316人 -%	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\)% 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\)% 1 \(\) 1 \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一%
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ)	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人 -% 3回 349人	6, 639 A 12 回 2, 153 A - % 47 回 1, 806 A 6回 1, 280 A - % 11 回 1, 400 A	4,168人 7回 1,892人 - % 42回 1,320人 1回 316人 - % 11回 640人	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回 186人	353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人 6回 1,622人 — % 42回 1,285人 24回 3,849人 — % 1回	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一% 0回
アンケート結果 L州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 実施回数 で 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人 -% 3回 349人	6,639人 12回 2,153人 — % 47回 1,806人 6回 1,280人 — %	4,168人 7回 1,892人 -% 42回 1,320人 1回 316人 -%	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\)% 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\)% 1 \(\) 1 \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一%
アンケート結果 L州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 マジ等との連携事業	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人 -% 3回 349人	6, 639 A 12 回 2, 153 A - % 47 回 1, 806 A 6回 1, 280 A - % 11 回 1, 400 A	4,168人 7回 1,892人 - % 42回 1,320人 1回 316人 - % 11回 640人	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回 186人	353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人 6回 1,622人 — % 42回 1,285人 24回 3,849人 — % 1回	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一% 0回
アンケート結果 L州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 長良国立博物館	75回 4,660人 2回 550人% 66回 2,411人 4回 1,350人% 3回 349人 86,9%	6,639人 12回 2,153人 — % 47回 1,806人 6回 1,280人 — % 11回 1,400人 — 96	4,168人 7回 1,892人 -% 42回 1,320人 1回 316人 -% 11回 640人	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回 186人 -96	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\)% 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\)% 1 \(\) 50 \(\)%	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一% 0回
アンケート結果 L州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 マジ等との連携事業	75回 4,660人 2回 550人 - % 66回 2,411人 4回 1,350人 - % 3回 349人 86,9%	6, 639 A 12 a 2, 153 A - % 47 a 1, 806 A 6 a 1, 280 A - % 11 a 1, 400 A - %	4,168人 7回 1,892人 — % 42回 1,320人 1回 316人 — % 11回 640人 — %	 56回 5,507人 11回 2,670人 -% 37回 1,096人 6回 1,555人 -% 2回 186人 -96	353 \(\) 86\(\) 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\) \(\) 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\) \(\) 1 \(\) 50 \(\) \(\)	64回 3,996人 9回 1,410人 一% 44回 1,320人 11回 1,266人 一% 0回
アンケート結果 L州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンボジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 等良国立博物館 ①放送大学の面接授業	75回 4,660人 2回 550人 —% 66回 2,411人 4回 1,350人 —% 3回 349人 86,9%	6,639人 12回 2,153人 — % 47回 1,806人 6回 1,280人 — % 11回 1,400人 — %	4,168人 7回 1,892人 —% 42回 1,320人 1回 316人 —% 11回 640人 —%	- 56回 5,507人 11回 2,670人 - % 37回 1,096人 6回 1,555人 - % 2回 186人 - 96	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\) \(\) 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\) \(\) \(\) 50 \(\) \(\) \(\) 98 \(\)	64回 3, 996人 9回 1, 410人 -% 44回 1, 320人 11回 1, 266人 -% 0回 0人 -%
アンケート結果 「ハートリート アンケート ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人 -% 3回 349人 86,9%	6,639人 12回 2,153人 一% 47回 1,806人 6回 1,280人 一% 11回 1,400人 —%	4,168人 7回 1,892人 一% 42回 1,320人 1回 316人 一% 11回 640人 一% 2回 150人 216人		353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人 6回 1,622人 — 96 42回 1,285人 24回 3,849人 — 96 1回 50人 — 96	64回 3,996人 9回 1,410人 -% 44回 1,320人 11回 1,266人 -96 0回 0人 -96
アンケート結果 州国立博物館 講演会等 実施回数 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンポジウム アンケート結果 ②ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 学等との連携事業 良国立博物館 ①放送大学の面接授業 ②奈良女子大学との連携講座 ③神戸大学との連携講座 ③神戸大学との連携講座	75回 4,660人 2回 550人 —% 66回 2,411人 4回 1,350人 —% 3回 349人 86,9%	6,639人 12回 2,153人 — % 47回 1,806人 6回 1,280人 — % 11回 1,400人 — %	4,168人 7回 1,892人 —% 42回 1,320人 1回 316人 —% 11回 640人 —%	- 56回 5,507人 11回 2,670人 - % 37回 1,096人 6回 1,555人 - % 2回 186人 - 96	353 \(\) 86% 1 \(\) 50 \(\) 73 \(\) 6, 806 \(\) 6 \(\) 6 \(\) 1, 622 \(\) \(\) 42 \(\) 1, 285 \(\) 24 \(\) 3, 849 \(\) \(\) \(\) 50 \(\) \(\) \(\) 98 \(\)	64回 3, 996入 9回 1, 410入 -% 44回 1, 320入 11回 1, 266入 -% 0回 0人 -%
アンケート結果 「州国立博物館」 講演会等 実施回数 講演会等 実施回数 講演会等 参加者数 ①特別展記念講演会 アンケート結果 ②ミュージアムトーク ③講演及びシンボジウム アンケート結果 ④ミュージアム講座 (教育講座アジアージュ) アンケート結果 学等との連携事業 良国立博物館 ①放送大学の面接授業 ②奈良女子大学との連携講座	75回 4,660人 2回 550人 -% 66回 2,411人 4回 1,350人 -% 3回 349人 86,9%	6,639人 12回 2,153人 一% 47回 1,806人 6回 1,280人 一% 11回 1,400人 —%	4,168人 7回 1,892人 一% 42回 1,320人 1回 316人 一% 11回 640人 一% 2回 150人 216人		353人 86% 1回 50人 — 73回 6,806人 6回 1,622人 — 96 42回 1,285人 24回 3,849人 — 96 1回 50人 — 96	64回 3,996人 9回 1,410人 -% 44回 1,320人 11回 1,266人 -96 0回 0人 -96

2-(2)-② キャンパスメンバーズ

平成23年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
35校	29校(※)	28校(※)	27校

※うち京都・奈良共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数 (35校)

	学校名	対象人数(うち	学生数)	備考(入会日)		
1	桜美林大学	9, 952	(9,001) 人	2008/4/1		
2	武蔵野美術大学	8, 766	(7,822) 人	2008/4/1		
0	文化学園(文化女子大学)文化ファッション大学院大学、文化女子大学短	10.004	(0.444)	0000 /4 /4		
3	期大学部,文化服装学院,文化服装学院広島校,文化外国語専門学校)	10, 364	(9, 444) 人	2008/4/1		
4	東京学芸大学	6, 968	(6, 244) 人	2008/4/1		
5	東京芸術大学	4, 427	(3, 314) 人	2008/4/1		
6	東京大学	34, 333	(28, 666) 人	2008/4/1		
7	お茶の水女子大学	3, 796	(3, 362) 人	2008/4/1		
8	杉野学園(杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院)	1, 847	(1,651) 人	2008/4/1		
9	大正大学	4, 739	(4, 380) 人	2008/4/1		
10	東海大学	33, 202	(29, 915) 人	2008/4/1		
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	23, 098	(21, 325) 人	2008/4/1		
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	968	(847) 人	2008/4/1		
13	成蹊大学(文学部)	2, 084	(2,039) 人	2008/4/1		
14	多摩美術大学	5, 400	(4,834) 人	2008/4/1		
15	立教大学	22, 523	(20, 517) 人	2008/4/1		
16	首都大学東京	9, 875	(9, 161) 人	2008/4/1		
17	女子美術大学	4, 285	(3, 473) 人	2008/4/1		
18	東京造形大学	2, 038	(1,983) 人	2008/4/1		
19	法政大学	40, 902	(37, 895) 人	2008/4/1		
20	筑波大学	20, 342	(17, 205) 人	2008/4/1		
21	昭和女子大学	5, 970	(5, 245) 人	2008/4/1		
22	実践女子大学(文学部)	4, 681	(4,546) 人	2008/5/1		
23	東洋大学	34, 088	(32, 181) 人	2008/6/1		
24	東洋美術学校	1, 195	(952) 人	2008/6/1		
25	日本大学(芸術学部)	4, 584	(4, 422) 人	2008/6/1		
26	文教大学・文教大学女子短期大学部	9, 485	(8,816) 人	2008/7/1		
27	上智学院(上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校)	14, 282	(12, 980) 人	2008/10/1		
28	国際基督教大学	3, 274	(2,966) 人	2009/4/1		
29	了德寺大学	910	(780) 人	2009/4/1		
30	政策研究大学院大学	661	(358) 人	2009/4/1		
31	学習院女子大学	1, 949	(1,731) 人	2009/11/1		
32	尚美学園大学	3, 442	(3, 102) 人	2009/12/1		
33	獨協大学	9, 960	(9, 351) 人	2010/4/1		
34	学習院大学	9, 643	(8,672) 人	2010/4/1		
35	東京工業大学	12, 161	(10, 287) 人	2010/7/1		

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

ピ キャンハスメンハ・	一人で対象とした手来
事業名:キャンパスメンバ	ヾーズ博物館セミナー
期間	8月18・19・25日(各日2回、計6回実施)
開催場所	平成館大講堂
参加者数	266人
担当研究員数	6人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交え た解説を実施。
事業名:キャンパスメンバ	ヾーズ教育連携事業
期間	8月16~20・24~27日(9日間)
開催場所	全館
参加者数	32人
担当研究員数	16人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体 験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①加入校数 (29校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	21, 152人	2007/4/1	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,466人	2006/4/1	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学	1,327人	2008/4/1	奈良博との2館併用	京博	人文科学部のみ
4	学校法人同志社	38, 496人	2007/4/1	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4, 419人	2007/5/1	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む
6	京都ノートルダム女子大学	1,731人	2008/5/1	奈良博との2館併用	京博	
7	実践女子大学	4,546人	2008/5/1	奈良博との2館併用	奈良博	短期大学含む
8	京都伝統工芸大学校	375人	2008/5/1	奈良博との2館併用	奈良博	
9	帝塚山大学	6,309人	2006/6/1	奈良博との2館併用	奈良博	高等学校含む
10	奈良女子大学	2,882人	2006/6/1	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,581人	2006/6/1	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,078人	2007/6/1	奈良博との2館併用	京博	
13	大阪成蹊大学	605人	2007/6/1	奈良博との2館併用	奈良博	芸術学部のみ
14	京都嵯峨芸術大学	1,058人	2006/7/1	奈良博との2館併用	京博	短期大学部含む
15	京都精華大学	4, 334人	2006/7/1	奈良博との2館併用	京博	
16	龍谷大学	19, 208人	2006/7/1	奈良博との2館併用	京博	
17	京都女子大学	7, 559人	2006/7/1	京博のみ	京博	短期大学及び高等学校含む
18	京都橘大学	2,964人	2006/7/1	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
19	京都教育大学	2,559人	2008/7/1	奈良博との2館併用	京博	高等学校含む
20	成安造形大学	1,083人	2006/8/1	京博のみ	京博	正規生のみ
21	京都市立芸術大学	1,059人	2008/8/1	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
22	京都大学	23, 134人	2006/9/1	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムよ り受入の学生を含む
23	近畿大学	2, 402人	2006/9/1	奈良博との2館併用	奈良博	文芸学部のみ(大学院含む)
24	花園大学	2,306人	2006/11/1	京博のみ	京博	
25	奈良先端科学技術大学院大学	1,068人	2007/12/1	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等
26	大谷大学	4,060人	2006/12/1	京博のみ	京博	短期大学含む
27	大阪大学	24, 914人	2008/12/1	奈良博との2館併用	奈良博	
28	京都文教大学	2,900人	2009/6/1	奈良博との2館併用	奈良博	
29	京都外国語大学	4,909人	2009/8/1	奈良博との2館併用	京博	短期大学含む

【奈良国立博物館】

①加入校数 (28校)

	学校名	学生数	備考
1	奈良産業大学 (奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学、奈良学園登美ヶ丘高等学校)	1,869人	当館の1館利用
2	奈良佐保短期大学	312人	"
3	天理大学	3,382人	<i>II</i>
4	奈良県立大学	622人	II .
5	大阪樟蔭女子大学(大阪樟蔭女子大学短期大学部、樟蔭高等学校、樟蔭中学校)	3, 730人	"
6	奈良教育大学	1,466人	京都国立博物館との2館利用
7	帝塚山大学(帝塚山高校)	6,309人	"
8	奈良女子大学	2,882人	"
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	1,058人	"
10	京都精華大学	4, 334人	<i>II</i>
11	京都橘大学	2,964人	"
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19, 208人	"
13	京都大学	23, 134人	"
14	近畿大学 文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2, 402人	"
15	佛教大学	21, 152人	"
16	奈良大学	4, 419人	"
17	京都工芸繊維大学	4, 078人	<i>II</i>
18	学校法人 同志社 (同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社 女子高等学校、同志社国際高等学校)	38, 496人	II .
19	大阪成蹊大学 芸術学部	605人	"
20	奈良先端科学技術大学院大学	1,068人	"
21	就実大学 人文科学部	1,327人	<i>II</i>
22	実践女子大学 実践女子短期大学	4, 564人	"
23	京都伝統工芸大学校	375人	<i>''</i>
24	京都教育大学	2,559人	"
25	京都ノートルダム女子大学	1, 731人	"
26	大阪大学	24, 914人	"
27	京都文教大学、京都文教短期大学	2,900人	"
28	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4, 909人	"

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業	集名	: キャンパスメンバーズカード	

内 容

キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、3回目と6回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施した。 カードと併せて、告知のポスターと、カード立ても作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布した。

【九州国立博物館】

①加入校数 (27校)

	学校名	学生数	備考
1	九州大学	19,036人	
2	九州産業大学	11,651人	
3	久留米大学	7, 726人	
4	サイバー大学	525人	
5	西南学院大学	8, 300人	
6	筑紫女学園大学	2,586人	
7	福岡大学	20,823人	
8	福岡国際大学	489人	
9	放送大学福岡学習センター	1,911人	
10	早稲田大学大学院情報生産システム研究科(北九州キャンパス)	443人	
11	九州情報大学	772人	
12	日本経済大学	2, 496人	
13	崇城大学芸術学部	260人	
14	近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科	440人	
15	九州造形短期大学	326人	
16	筑紫女学園短期大学部	471人	
17	福岡女子短期大学	563人	
18	福岡こども短期大学	465人	
19	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	147人	
20	久留米大学附設高等学校	615人	
21	西南学院高等学校	1, 292人	
22	筑紫女学園高等学校	1,885人	
23	筑紫台高等学校	1,462人	
24	東福岡高等学校	2, 232人	
25	福岡大学附属大濠高等学校	1,915人	
26	福岡大学附属若葉高等学校	1, 116人	

	学校名	学生数	備考
27	九州工業大学	5.963人	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名: 出張講義	
開催日	11月10日
開催場所	筑紫台高等学校
出席校	筑紫台高等学校
参加者数	500人
担当研究員数	1人
内 容	特別展「誕生!中国文明」の講義を実施。

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数 • 人数	126回・13,319人 講演会39回・9,290人 列品解説(ギャラリートーク等)83 回・3,659人 連続講座1回(3日)・278人 公開講座3回・92人	17回・2,313人 土曜講座15回・2,076人 夏期講座1回(3日)・205人 社会科教員のための向上講座1回・ 32人	28回・3,349人 特別展等講座15回・2,172人 (公開講座12回 1,522人、 特別講演会1回 316人、 シンポジウム2回 334人) 夏季講座1回(3日)・556人 サンデートーク12回・621人	64回・3,996人 特別展記念講演会9回・1,410人 ミュージアムトーク44回・1,320人 講演及びシンポジウム11回・1,266 人
	その他展示に関連する事業 15回・ 3,125人	その他展示に関連する事業 5回・466 人	その他展示に関連する事業2回・360人	その他展示に関連する事業76回

【東京国立博物館】

1) **講演会 39回 参加者数9,290人** ①月例講演会 計11回 参加者数1,637人

①月例講演会		(5.1 - who shi		// // A
開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
4月4日	文化財と科学をとりもつ仕事 講師:環境保存室主任研究員 荒木臣紀	95	2	93. 7%
5月15日	国際博物館の日記念事業 東京国立博物館本館 —モザイク装飾を読み解く 講師:坂井編集企画事務所 坂井基樹氏 左官工 久住有生氏 INAXミュージアム活動推進室室長 ものづくり工房室長 後藤泰男氏	133	2	93. 1%
6月5日	蒔絵の歴史と八橋蒔絵螺鈿硯箱 講師:工芸・考古室長 竹内奈美子	122	2	89. 1%
7月24日	友禅 歴史と技法 講師:西陣織物館顧問 藤井健三 氏	97	2	75. 0%
8月21日	梵音具一仏教の鳴器 講師:教育普及室長 伊藤信二	144	2	91. 5%
9月11日	野々江本江寺遺跡出土木製塔婆と国宝餓鬼草紙に描かれた世界 講師:伊藤雅文氏 財団法人石川県埋蔵文化財センター	131	2	76. 7%
10月9日	料紙の加工—日・中・韓の典籍— 講師:京都国立博物館学芸部副部長 赤尾栄慶 氏	133	2	96. 2%
11月20日	一歩近づいて見る 聖徳太子絵伝 講師:文化庁文化財部美術学芸課 朝賀浩氏	178	2	86. 9%
12月4日	思い出の名碗 講師:菊池寛実記念智美術館館長 林屋晴三氏	172	2	95. 5%
23年1月22日	美術のなかの兎 講師:博物館教育課長 今井敦	163	2	91. 5%
23年2月6日	仏像の子どもたち 講師:東京芸術大学美術学部准教授 布施英利氏	269	2	93. 7%

②記念講演会 計12回 参加者数3 467人

②記念講演会	計12回 参加者数3,467人			
開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
4月24日	細川家 美と戦いの700年 講師:永青文庫理事長、細川家18代当主 細川護熙 氏	333	2	94. 2%
5月28日	細川家 美と戦いの700年 講師:永青文庫理事長、細川家18代当主 細川護熙 氏	358	2	97. 4%
5月29日	細川護立と日本の近代美術 講師:東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長 塩谷純 氏	210	2	84. 7%
7月10日	文字の発生と歩み 講師:書家 新井光風 氏	288	2	91.8%
8月7日	美の競演ー中国河南省の文物 講師: 学芸企画部長 松本伸之	226	2	91.5%
10月30日	東大寺大仏と天平彫刻 講師:特任研究員 金子啓明	231	2	86. 8%
11月6日	大仏さまにこめられた思い―一枝の草一把の土― 講師:華厳宗大本山東大寺別当 北河原公敬 師	301	2	87. 9%
11月7日	地面の下の東大寺東塔院を探る 講師:奈良国立文化財研究所埋蔵文化センター主任研究員 金田 明大 氏	200	2	90. 1%
23年1月29日	薬師寺と大唐西域壁画 講師:法相宗大本山薬師寺管主 山田法胤 師	330	2	95. 6%
23年2月8日	薬師寺僧侶が語る大唐西域壁画 講師:法相宗大本山薬師寺長老 松久保秀胤 師	350	2	91. 4%
23年2月19日	仏教伝来の道をたどる 講師: 学芸企画部長 松本伸之	260	2	91. 4%
23年2月22日	薬師寺僧侶が語る大唐西域壁画 講師:法相宗大本山薬師寺管主 山田法胤 師	380	2	95. 6%

③テーマ別講演会 計1回 参加者数180人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
4月2日	桜セミナー「花見で一句」 俳人 正木ゆう子氏	180	2	92. 4%

④その他講演会 計15回 参加者数4,006人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
	文化庁招聘事業 「トルコにおける日本―芸術と日土交流」 イルベル・オルタイル博士 トプカプ宮殿博物館総館長	平成館大講堂	163	2
10月8・19・22・26・29日、 11月9・12・16・19・23・26・30日、 12月7・10日	僧侶によるお話 東大寺僧侶	平成館大講堂	3, 843	2

2) 列品解説 (ギャラリートーク等) 83回 参加者総数 3,659人

○列品解説 43回 参加者総数 2578人

り 別品 解説 開催日	43回	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月6日	温湿度を読む 和田浩 環境保存室主任研究員	45	1
4月7日	鑑賞ガイド 国宝「花下遊楽図屏風」 神辺知加 教育講座室研究員	80	1
4月7日	屏風に咲く桜 瀬谷愛 平常展調整室研究員	80	1
4月13日	駿河国図の修理について 荒木臣紀 環境保存室主任研究員	40	1
4月20日	十六羅漢像の修理について 鈴木晴彦 保存修復課アソシエイトフェロー	42	1
4月23日	やきものの修復について 繭山隆司 修理技術者、三笠景子 保存修復課研究員	40	1
4月27日	古文書から見た中世細川家の領国支配 高梨真行 ボランティア室主任研究員	77	1
5月11日	古筆における伝統と創造(世尊寺家の古筆から) 島谷弘幸 学芸研究部長	68	1
5月18日	"古九谷様式"の位相 今井敦 東洋室長	110	1
5月25日	国宝 十六羅漢像について 沖松健次郎 特別展室主任研究員	78	1
6月1日	因幡堂薬師縁起絵巻をみる 瀬谷愛 平常展調整室研究員	60	1
6月8日	應見泉石像 遠藤楽子 国際交流室研究員	75	1
6月15日	日本を歩く 冨坂賢 国際交流室研究員	52	1
6月29日	清末文物事情〜明治時代の訪中写真 関紀子 絵画・彫刻室研究員	48	1
7月6日	琉球の埋葬―厨子甕の美― 日高慎 保存修復室主任研究員	49	1
7月13日	ミイラについて 後藤健 上席研究員	57	1
7月23日	重文 李白観瀑図 救仁郷秀明 保存修復室長	60	1
7月27日	磁州窯の枕 今井敦 博物館教育課長	70	1
8月3日	古楽器について 伊藤信二 教育普及室長	61	1
8月10日	高麗時代の金鼓 白井克也 平常展調整室長	68	1
8月20日	博物館で音楽会 鈴木みどり 教育普及室主任研究員	25	1
8月27日	中国青銅器鑑賞入門 川村佳男 東洋室研究員	35	1
8月31日	江戸時代の情報流通 田良島哲 書跡・歴史室長	65	1
9月7日	餓鬼草紙について 沖松健次郎 特別展室主任研究員	71	1
9月28日	古墳時代の甲冑 古谷毅 列品情報整備室長	63	1
10月5日	巴形銅器と銅釧 井上洋一 企画課長	72	1
10月19日	平安時代の2体の天王像 丸山士郎 情報管理室長	50	1
10月26日	白糸威二枚胴具足 池田宏 上席研究員	35	1
11月9日	金家作・達磨図鐔について 酒井元樹 工芸・考古室研究員	30	1
11月16日	東京国立博物館所蔵 正倉院の染物 澤田むつ代 特任研究員	99	1
11月30日	葛飾北斎の想像力 田沢裕賀 絵画・彫刻室長	75	1
12月7日	大張子 猪熊兼樹 貸与特別観覧室主任研究員	35	1
12月14日	五彩人物文長方合子 三笠景子 保存修復室研究員	41	1
23年1月18日	香道具の蒔絵 竹内奈美子 工芸・考古室長	84	2
23年1月25日	古代中国の暮らしを伝える明器 谷豊信 列品管理課長	72	2
23年2月1日	鹿児島県広田遺跡の貝製品 品川欣也 工芸・考古室研究員	50	2
23年2月8日	与謝蕪村筆「蘭亭曲水図屏風」について 大橋美織 絵画・張皇室研究員	92	2
23年2月22日	古代九州の経塚 望月幹夫 特任研究員	51	2
23年3月1日	雛人形の歴史 小山弓弦葉 特別展室主任研究員	70	2
23年3月8日	考古資料の保存と修理 日高慎 保存修復室主任研究員	43	2
23年3月29日	拓本とその流転 富田淳 調査研究課長	80	2
23年3月30日	銀賞ガイド「国宝花下遊楽図屏風」 伊藤信二 教育普及室長	55	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
23年3月30日	着物に咲く桜 小山弓弦葉 特別展室主任研究員	25	2

〇東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 40回 参加者総数 1,081人

・平常展示作品ギャラリートーク 36回 参加者総数989人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
8月5・7・11・13・15・18日	6	康円作「四天王眷属立像」―俗なる姿に宿る表現の妙―	山田美季	230
8月12・19・26日、9月1・8・9日	6	今村紫紅筆「熱国之巻」―点描の風景画―	張鈞惠	138
8月25・31日、9月10・16・26日、10月2日	6	仏教における梵音具―祈りの音―	田澤 梓	192
9月3・12・18・24日、10月6・13日	6	法隆寺献納宝物 金銅透彫灌頂幡―天人の舞う荘厳具―	内山美代子	145
9月19・22・29日、10月7・20・23日	6	浅井忠のフランス風景―芸術家たちを魅了した「夕暮れの村」―	山塙菜未	134
10月9・14・19・24・28・30日	6	良全筆「如意輪観音図」―水墨で描かれた観音の世界―	祝迫眞澄	150

・制作工程模型ギャラリートーク 4回 参加者総数 92人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
23年2月2・11・17日、3月2日	4	悉皆金色	武田裕子	92

3) 連続講座「中国文明の誕生」 計1回(3日) 参加者総数278人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
7月17日	中国文明と王朝/ 美の誕生 1 死後の世界を彩る品々 講師:列品管理課長 谷豊信 九州国立博物館学芸部企画課特別展室員 市元塁			
7月18日	美の誕生2 仏教美術の開花/ 技の誕生1 青銅器 祭祀の器の展開 講師:九州国立博物館学芸部企画課長 小泉惠英 東洋室研究員 川村佳男	278	2	81%
7月19日	技の誕生 2 陶磁器 白い器を求めて/ まとめと質疑応答 講師:保存修復室研究員 三笠景子 列品管理課長 谷豊信 九州国立博物館学芸部企画課長 小泉惠英 東洋室研究員 川村佳男			

4) 公開講座 計3回 参加者総数 92人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
23年2月24日、 3月10・11日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師:保存修復課長 神庭信幸、保存修復室長 冨坂賢、保存修復室主任研究員 土屋裕子、 保存修復室主任研究員 日高慎、環境保存室主任研究員 荒木臣紀、環境保存室研究員 和田 浩、特任研究員 澤田むつ代	u 2	2	100%

5) その他展示に関連する事業 計15回 参加者総数 3,125人

の での心体がに対定する子木 町で四 多加合物外 5,125人				
実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
4月2・3・9・10 日	桜コンサート「東京藝術大学打楽器専攻生と教員によるマリンパアンサンブル 藤本隆文 東京藝術大学音楽部器楽科准教授、久米彩音、牧野美沙	法隆寺宝物館 エントランス	770	2
4月4日	応挙館茶会「花見で一服」	応挙館	300	2
5月16日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でツルめぐり 恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	恩賜上野動物 園・国立科学博 物館・東京国立 博物館	30	2
7月23日	中国展記念公演 チェンミンスペシャルコンサート チェンミン 二胡アーティスト、中国伝統楽器奏者	平成館大講堂	556	2
7月30日	中国展記念公演「京劇のタベー見方・楽しみ方」 張紹成 京劇俳優 ほか	平成館大講堂	365	2
8月22日	夏休みファミリー音楽会「貴族に伝わった音楽 雅楽を聞いてみよう」	平成館大講堂	327	2
8月27日	教育イベント タすずみ能 演者:金春流シテ方・本田光洋師ほか	平成館大講堂	356	2
11月10・17・24 日、12月1・7日	芸大ギャラリートーク「月光菩薩について」 東京芸術大学大学院生	平成館ガイダ ンスルーム	145	2
11月13日	長老講和とこどもによる新作「善財童子」公演	平成館大講堂	276	2

【京都国立博物館】

1) 土曜講座 15回 参加者総数 2,076人

全て特別展覧会関連講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月10日	長谷川等伯の生涯	山本英男(美術室長)	155
4月24日	狩野永徳にとっての長谷川等伯像	狩野博幸(同志社大学教授)	165
5月1日	等伯画の魅力あれこれ	脇坂淳(京都教育大学名誉教授)	145
7月24日	上田秋成をめぐる京の画家たち	狩野博幸(同志社大学教授)	139
7月31日	秋成のつづら箱ー知られざる名作の数々ー	稲田篤信(首都大学東京教授)	109
8月21日	秋成と『胆大小心録』の画家たち	水谷亜希(研究員)	130
8月28日	新収品展にちなんで	呉孟晋(研究員)	62
10月9日	糞掃衣と金襴袈裟にみる袈裟の変遷	松村薫子(大和ミュージアム学芸員)	112
10月16日	袈裟からたどる東アジアの染織史	山川曉(主任研究員)	106
11月6日	袈裟の紡ぐ物語―智泉聖通尼の生涯と袈裟―	モニカ・ベーテ(大谷大学教授)	90
23年1月8日	写本と法帖—文字を観賞する文化—	赤尾栄慶(上席研究員)	175
23年1月22日	上野コレクションと内藤湖南	礪波護(京都大学名誉教授)	166
23年2月5日	明清の文人書画	西上実(学芸部長)	173
23年2月12日	わが師 湖城を語る	水野恵(篆刻家)	185
23年3月26日	法然信仰の美術―絵伝と肖像画―	若杉準治 (列品管理室長)	164

2) 夏期講座 1回 (3日)

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
	第1講「美しいキリスト、醜いキリスト―宗教文学と図像の中のキリス		
7月27日	└ ト像―」	岡田温司(京都大学教授)	
1,7,2,1,0	第2講「文学と絵画の交響 ―住吉物語絵の変容―」	若杉準治(列品管理室長)	
	第3講「古典に遊ぶ蒔絵の世界」	永島明子(主任研究員)	1
	第1講「漢鏡の図像と銘文―鏡に鋳こまれた人びとのこころ―」	岡村秀典(京都大学教授)	205
7月28日	第2講「平安時代の考古遺物にみられる装飾文様―王朝文学と文様の和		200
7月20日	様化—」	宮川禎一(考古室長)	
	第3講「詩画軸の世界」	山本英男(美術室長)	
7月29日	第1講「上田秋成の画賛」	長島弘明(東京大学教授)	
7月29日	特別展観「没後200年記念 上田秋成」見学会		

3) 社会科教員のための向上講座 1回 32人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月26日	講演「本物にふれる大切さ」 館内実地研修「高僧と袈裟」展	山下善也(連携協力室長) 山川暁(主任研究員)	32

4) その他展示に関連する事業 5回 466人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
5月8日	共催記念ギャラリートーク(講師:山川曉主任研究員)	金沢能楽美術館2階展示室	不明
6月9日	「京都きものサローネ」研修会「高僧と袈裟展の魅力~中世織物の世界	㈱千總本社ビルホール	97
	~」(講師:山川曉主任研究員)		
7月27日	特別展観「上田秋成」列品解説(講師:水谷研究員)	京都国立博物館特別展示館	30
7月30日	特別展観「上田秋成」開催記念 映画「雨月物語」映画鑑賞会(第1回)	京都国立博物館丸池付近	154
8月6日	特別展観「上田秋成」開催記念 映画「雨月物語」映画鑑賞会(第2回)	京都国立博物館丸池付近	163
10月22日	特別展覧会「高僧と袈裟」特別鑑賞会列品解説	京都国立博物館特別展示館	22
	(講師:山川曉主任研究員)		

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座 15回 参加者総数 2,172人

開催日	テーマ	講師	参加者数
4月10日	「仏教美術の東伝と遣唐使」	当館学芸部企画室長 稲本泰生	101人
5月8日	「吉備大臣入唐絵巻-奇観無双の絵巻-」	学習院大学教授 佐野みどり	180人
5月15日	「遣唐使の時代ー倭から日本へー」	奈良大学教授 東野治之	316人
5月29日	「平城京と遣唐使」	当館学芸部研究員 野尻忠	180人
	「遣唐使の時代における東アジアの建築」	ペンシルバニア大学教授 ナンシー・S・スタインハ ルト	
	「東アジア絵画史における唐代絵画の位置」	東京大学東洋文化研究所准教授 板倉聖哲	
6月5日	[檀像の請来と日本的展開」	当館学芸部上席研究員 鈴木喜博	148人
	「遣唐使のもたらした技術――三彩を中心として」	当館学芸部教育室長 吉澤悟	
	パネル・ディスカッション	ナンシー・S・スタインハルト、板倉聖哲、 鈴木 喜博、吉澤悟	
6月19日	「空海の舎利信仰-法門寺から東寺へ-」	当館学芸部長補佐 内藤栄	180人
7月31日	「仏像修理100年よもやま話ー修理にかかわって50年-」	財団法人美術院常務理事 小野寺久幸	125人
9月11日	「解説 仏像修理100年」	当館学芸部上席研究員 鈴木喜博	147人
10月23日	「獅子面の模造をめぐって」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室員 山片唯華子	55人
	基調講演「正倉院宝物を考える 一舶載品と国産品の視点から一」	宮内庁正倉院事務所保存課長 成瀬正和	
	研究報告「法隆寺献納宝物の製作地について一金工品を中心にして一」	大正大学教授 加島 勝	
10月24日	研究報告「工芸技法からみた国産宝物の特徴」	当館学芸部長補佐 内藤 栄	186人
	パネル・ディスカッション	成瀬正和・加島勝・内藤栄・王維坤(中国・西北大学 教授)	
10月30日	「正倉院の紙」	奈良国立博物館長 湯山賢一	139人
11月6日	「五絃琵琶と紫檀工芸」	帝塚山大学教授 関根俊一	151人
12月11日	「若宮おん祭と大和猿楽ー猿楽の座の年初めー」	法政大学准教授 宮本 圭造	53人
23年2月12日	「修二会-不退の行法」	東大寺上院院主 筒井寛昭	103人
	修復完成記念特別講演会「ウクライナ クリミア半島出土漢代漆器の保存修	復」	
23年2月13日	「ウクライナのスキタイ墳墓について」	プレスティア ログライナ国立科学アカデミー附属考古学研究所 Dr. Valentina Mordvintseva	108人
	「ウクライナ出土漢代漆器の保存科学的処理について」 「ウクライナ出土漢代漆器の伝統的漆工技術による修復について」	京都造形芸術大学教授 岡田文夫 漆芸家・漆工修理技術者 北村昭斎	

2) 夏季講座 第39回「仏像修理100年と仏像研究の現在」 1回 (3日間)

開講日	テーマ	講師	参加者数
	「彫刻史研究と仏像の保存修理」	財団法人美術院理事長 西川杏太郎	
8月24日	「滋賀の仏像の保存修理の思い出」	元滋賀県立琵琶湖文化館長 宮本忠雄	
	「仏像修理の現在」	文化庁主任文化財調査官 奥健夫	
	「回想:東大寺南大門の仁王像の修理」	当館学芸部上席研究員 鈴木喜博	
8月25日	「清涼寺釈迦如来像をめぐって」	同志社大学教授 井上一稔	毎日556人
0HZ3D	「仏像-研究と鑑賞のあいだで」	大正大学教授 副島弘道	
	「肖像彫刻研究とその課題」	京都大学大学院教授 根立研介	
8月26日	「運慶と霊験仏」	神奈川県立金沢文庫学芸員 瀬谷貴之	
0月20日	「奈良国立博物館保管の仏像に関する二、三の知見」	当館学芸部長補佐 岩田茂樹	

3) サンデートーク 12回 参加者総数 621人

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数
4月18日	「古代の建物と屋根」	当館学芸部研究員 岩戸晶子	68人
5月23日	「舎利の話」	当館学芸部長補佐 内藤栄	37人
6月20日	「日本仏画史入門」	当館学芸部研究員 北澤菜月	39人

実施日	テーマ	解説者	参加者数
7月25日	「病と仏教-平安貴族の疾病観-」	当館学芸部研究員 斎木涼子	71人
8月22日	「梵鐘銘と私」	当館学芸部主任研究員 野尻忠	43人
9月19日	「法隆寺金堂、三組の四天王像とその謎」	当館学芸部長補佐 岩田茂樹	94人
10月17日	「天馬Part2-正倉院宝物に描かれた天馬-」	当館学芸部教育室長 吉澤悟	21人
11月21日	「装飾文様の話」	当館学芸部研究員 永井洋之	26人
12月19日	「春日曼荼羅と春日若宮の文殊信仰」	当館保存修理指導室長 谷口耕生	30人
23年1月16日	「阿育王塔の本生図」	当館学芸部企画室長稲本泰生	42人
23年2月20日	「蓬莱の玉の枝ー作り物閑話」	当館学芸部研究員清水健	32人
23年3月20日	「奈良の仏像」	当館学芸部上席研究員 鈴木喜博	118人

4) その他展示に関連するイベント

トークイベント「大遣唐使展」関連 2回 360人

実施日	内容	会場	参加者数
4月17日	「大遣唐使展の楽しみ方」 出演:はな(モデル)、内藤栄(当館学芸部長補佐)	当館講堂	180人
6月6日	「大遣唐使展で仏像に合おう!」 出演:仏像ガール(仏像ナビゲーター)、 西山厚(当館学芸部長)	当館講堂	180人

【九州国立博物館】

1) 特別展記念護演会 9回 参加者総数 1,410人

開催日	が時次去 3回 参加日本数 1,110人 テーマ	講師	参加者数(人)
5月8日	「古伊万里の華」展関連 14代酒井田柿右衛門氏講演会	人間国宝「色絵磁器」 14代酒井田柿右衛門	300
5月22日	「古伊万里の華」展関連 大橋康二氏講演会「海を渡った古伊万里」	前佐賀県立九州陶磁器文化館館長 大橋康二	200
7月31日	「馬 アジアを駆けた二千年」展関連 講演会 「日本の馬文化 - 人と馬の歴史から - 」 「九州の在来馬」	馬の博物館理事 末崎真澄 東京農業大学農学部講師 川嶋舟	120
10月5日	「誕生!中国文明」展関連 記念講演会「三国志をめぐる謎」	小説家 三好徹	150
10月24日	「誕生!中国文明」展関連記念講演会 「王朝、技、美の誕生 —中国河南省が生み出した芸術と文化—」	当館企画課長 小泉惠英 当館企画課特別展室 市元塁	60
11月7日	「誕生!中国文明」展関連講演会 「中国古代王朝の興亡」	小説家 塚本靑史	150
11月14日	「誕生!中国文明」展関連記念講演会「文字の発生と歩み」	書家 新井光風	230
23年1月15日	「ゴッホ展」関連 講演会「<アルルの寝室>形見として描かれたレプリカ ―ファン・ゴッホと家族 遺族とファン・ゴッホ―」	大阪大学文学研究科教授 圀府寺司	120
23年1月29日	海外展「日本とタイ―ふたつの国の巧と美」関連 記念講演会「久留米絣」	絣制作作家 松枝哲哉	80

2) ミュージアムトーク 44回 参加者総数 1,320人

- ・担当研究員数 延べ44人
- ・事業内容 文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

(原則として毎週火曜日の午後3時より15~30分間)

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
P 400		展示課研究員 坂元雄紀	30
	東南アジアの工芸 身を守る装い	文化財課研究員 原田あゆみ	30
	広開土王碑文	企画課研究員 市元 塁	30
	CTによる考古資料の調査	博物館科学課主任研究員 鳥越俊行	30
	遺跡出土の木製品について	展示課研究員 進村真之	30
	南蛮漆器について	企画課研究員 川畑憲子	30
	中国のアショカ王塔	企画課長 小泉惠英	30
	甕棺墓の中の色	博物館科学課長 本田光子	30
	色絵って何?	学芸部長 伊藤嘉章	30
6月15日	将軍様の宝物	企画課主任研究員 畑 靖紀	30
6月22日	大宰府の公文書	展示課研究員 酒井芳司	30
6月29日	湖の国の仏たち	展示課主任研究員 楠井隆志	30
7月6日	書跡をたどる 一世尊寺流の書一	文化財課主任研究員 丸山猶計	30
7月13日	遼の石塔	文化財課長 臺信祐爾	30
7月27日	湖の国の名宝	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	30
8月3日	シャーマン衣装の謎 I	文化財課資料登録室長 小林公治	30
8月10日	博多チャイナタウン	展示課長 赤司善彦	30
8月17日	日本の馬ことはじめ〜馬展へのいざない〜	企画課文化交流展室長 河野一隆	30
8月24日	蕭白の叡山図について	企画課研究員 金井裕子	30
8月31日	弥生のお墓の色	博物館科学課研究員 志賀智史	30
9月7日	病草紙にみる平安貴族の趣味嗜好	企画課研究員 森實久美子	30
9月14日	大宰府木簡にみる日本語文章表記法の成立	展示課研究員 酒井芳司	30
9月28日	触れて感じる神々の青銅器	博物館科学課環境保全室長 今津節生	30
10月5日	名品でたどる室町から桃山の茶	学芸部長 伊藤嘉章	30
10月19日	琉球の風俗	文化財課研究員 原田あゆみ	30
10月26日	甕棺の製作と地域性	展示課研究員 坂元雄紀	30
11月2日	ガンダーラの菩薩立像	企画課長 小泉惠英	30
11月9日	蒙古襲来と秀吉の朝鮮侵略	文化財課保存修復室長 藤田励夫	30
	雪舟、中国へ行く	企画課研究員 川畑憲子	30
	長崎・興福寺の韋駄天像	企画課主任研究員 畑 靖紀	30
	中国青銅器の謎に迫る!	博物館科学課主任研究員 鳥越俊行	30
12月14日	弥生の赤	博物館科学課長 本田光子	30
12月21日	ガラス小玉の製作について	展示課研究員 進村真之	30
23年1月4日	新春 邪馬台国放談	企画課文化交流展室長 河野一隆	30

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
23年1月18日	姫君の香道具	企画課研究員 川畑憲子	30
23年1月25日	出土遺物からみた邪馬台国問題	展示課長 赤司善彦	30
23年2月1日	陳賢筆白衣観音図と黄檗宗	博物館科学課研究員 森實久美子	30
23年2月8日	朝鮮時代の絵画	企画課研究員 金井裕子	30
23年2月15日	大型鏡が照らす邪馬台国	博物館科学課環境保全室長 今津節生	30
23年2月22日	シャーマン衣装の謎Ⅱ	文化財課資料登録室長 小林公治	30
23年3月1日	漢代の漆	企画課研究員 市元 塁	30
23年3月8日	日本の建築について	文化財課長 臺信祐爾	30
23年3月15日	土偶について	博物館科学課研究員 志賀智史	30
23年3月29日	書跡をたどる - 幕末の書と九州	文化財課主任研究員 丸山猶計	30

	ンポジウム 11回 参加者数 1,266人		★ + + * * * / /
開催日	テーマ トピック展示「湖の国の名宝展」関連	講師	参加者数(人)
7月4日	講演会「最澄がつないだ近江と太宰府」 「最澄と比叡山」	比叡山延暦寺副執行(管理部長)	50
	「太宰府と近江の仏教美術―彫刻を中心に―」 「比叡山をめぐる仏教美術―近江路の彫像を中心に―」	誉田玄光 元別府大学文学部教授 八尋和泉 元滋賀県立琵琶湖文化館長 宮本忠雄	
	トピック展示「湖の国の名宝展」関連 講演会「近江の仏教美術」		
7月10日	大道絵の世界 近江の仏像について 延暦寺所蔵木活字174,261点の世界 — 日本初の一切経印刷事業 — 近江の金工品	滋賀県立琵琶湖文化館 上野良信 就実大学教授 土井通弘 当館保存修復室長 藤田励夫 滋賀県立琵琶湖文化館 井上ひろ美	30
7月18日	「馬 アジアを駆けた二千年」展関連 シンポジウム「藤ノ木古墳の馬具」 【基調講演】 「藤ノ木古墳の金銅製馬具」 「藤ノ木古墳の金五技術」 「藤ノ木古墳にみる古代の金工技術」 「藤ノ木古墳にみるデザインの系譜」 【パネルディスカッション】	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館主幹 千賀久 工芸文化研究所理事長 鈴木勉 当館展示課長 赤司善彦 司会/当館企画課 河野一隆 パネリスト/鈴木勉、千賀久、赤司善彦	113
7月25日	「馬 アジアを駆けた二千年」展関連 ミュージアム「馬」セミナー!「日本人と馬」	JRA競走馬総合研究所次長 楠瀬良	45
8月1日	「馬 アジアを駆けた二千年」展関連 ミュージアム「馬」セミナー!「馬の進化と日本在来馬のルーツ」	JRA競走馬総合研究所上席調査役 石田信繁	45
8月21日	トピック展示「湖の国の名宝展」関連 館長と滋賀県知事のミュージアムトーク 「地域の文化を守る・活かす・つなぐ」	滋賀県知事 嘉田由紀子 当館長 三輪嘉六	90
8月21日	平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム I PM」第1部 市民報告会 「愛知県美術館友の会サポート部会活動と I PM」 「岐阜県美術館サポーター活動と虫パトロール隊」	愛知県美術館美術課長 古田浩俊 愛知県美術館友の会サポート部会 武藤和子・伊藤淳子 岐阜県美術館学芸部課長補佐 谷口輝己 岐阜県美術館サポーター 伊藤武郎・吉村仁禅 当館交流課 上野知彦	
	「九州国立博物館のボランティア活動」 「環境ボランティアの活動〜 '五感'で見守る喜び〜」 「IPMウオッチングデータの集計結果報告〜活動の継続〜」 地域のNPO法人によるIPM活動 「市民によるIPM活動—IPMメンテナンスを中心とした活動報告 一」	当館環境ボランティア 内田祥乃 同 立山左絵子・佐藤哲也 NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター 新原茂 春 NPO法人文化財保存活用支援センター 小島理美 NPO法人文化財保存活用支援センター・(株)タクト 下川可容子	236
8月22日	「NPO法人による市民活動から会社化したIPM活動へ」	当館長 三輪嘉六 (財)文化財虫害研究所理事長 三浦定俊	
0,722.П	第2部 講演会 基調講演「市民の力」 「IPMの担い手としての市民活動への期待と課題」	イカリ消毒(株)技術研究所顧問 川越和四 司会/当館博物館科学課長 本田光子 古田浩俊、福岡県立美術館 川浪千鶴、谷口輝己、 筑紫野市歴史博物館 奥村俊久、上野印彦、久留米 大学野村 大田東京 海野原 大田東京大会第十	
	「IPM市民活動への期待と課題」	大学比較文化研究所 狩野啓子、太宰府市教育委員会・太宰府市文化ふれあい館 中島恒次郎、同 井上理香、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター	
	第3部 意見交換会 「美術館・博物館等のIPMと市民活動の現状、期待と課 題」	井上誠男、NPO法人文化財保存活用支援センター 森田レイ子、(財)文化財虫害研究所 三浦定俊、イカリ消毒(株) 川越和四	
10月30日	九州歴史資料館開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催記念 講演会「展望・大宰府研究 —蔵司跡の調査から—」 記念講演「大宰府の機能と律令国家」 研究報告「蔵司跡の最新調査研究成果」 研究報告「大宰府史跡出土の付札木簡」 研究報告「大宰府史跡出土の武器・武具」	東京大学大学院教授·大宰府史跡調査研究指導委員会委員 佐藤信 九州歴史資料館 岡寺良 当館展示課 酒井芳司 九州歴史資料館 小嶋篤	300

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
11月18日	文化庁 第8回国際文化フォーラム 福岡セッション「文化観光の可能性」 発表① 発表② 発表② 発表② 発表② 発表② 発表③ 発表④ 発表④	前九州観光推進機構会長・九州旅客鉄道(株)相談役田中浩二 中国文物交流中心主任 王軍公州博物館長 ユ・ビョンハタイ サイアム大学教養学部ホテル・観光学科講師高田知仁スミソニアン協会フリーア・ギャラリー、アーサー・M・サックラー・ギャラリー日本美術シニアキュレータージェームス・トーマス・ユーラック当館長 三輪嘉六座長/三輪嘉六パネリスト/田中浩二、王軍、ユ・ビョンハ、高田知仁、ジェームス・トーマス・ユーラック	100
12月18日	国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と文化」 発表 1 「遼王朝の美術と文化」 発表 2 「金銀器をめぐって」 発表 3 「遼金時期の缸瓦窯」 発表 4 「トルキ山遼墓木製彩棺の保存修復」 パネルディスカッション	中国・内蒙古博物院 塔拉 中国・内蒙古自治区文物考古研究所 孫建華 中国・赤峰博物館 劉冰 当館環境保全室長 今津節生 司会/当館文化財課長 臺信祐爾 パネリスト/中国・内蒙古博物院 塔拉、中国・内 蒙古自治区文物考古研究所 孫建華、中国・赤峰博 物館 劉冰、 当館環境保全室 今津節生、当館企画課 市元塁	117
23年1月16日	「ゴッホ展」関連 解説会「ゴッホとゴーギャン」	名古屋市美術館学芸課長 深谷克典	140

4) その他展示に関連するイベント 76回

	展示に関連するイベント		V18	↔ += → * + / 1 \
展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
文展化	6月20日~7月3日	トピック展示「湖の国の名宝展」関連イベント 写真展「水と仏の近江」	ミュージアムホ ール	9, 000
化 展交流	6月20日~7月4日	トピック展示「湖の国の名宝展」関連イベント 「浅井三姉妹『江』のふるさと」滋賀県観光パネル展	エントランス	19, 600
	4月13日~4月25日	有田焼400年祭プレイベント「匠の蔵」特別展	エントランス	32, 900
パ	4月17日~4月18日	コンサート~ヴェルサイユのしらベ+α~	特別展示室	50
l îi	4月24日~4月25日	福岡女子短期大学音楽科演奏「ヨーロッパ宮廷の香り」	特別展示室	50
に咲	4月24日~4月25日	映画「マリー・アントワネット」の上映会	ミュージアムホ ール	50
い	5月1日	親子で楽しむワークショップ「えをかこう、いろをぬろう」挑戦・古伊万里の技!	和室	9
古母	5月2日	親子で楽しむワークショップ「金ピカにかざっちゃえ」大変身!古伊万里ビフォー アフター	和室	4
リに咲いた古伊万里の華展	5月9日	ヨーロッパの宮廷音楽~「パリに咲いた古伊万里の華」開催記念演奏会~	ミュージアムホ ール	200
の 華 屋	5月22日~23日	現代に受け継がれる伊万里焼	エントランス/ 研修室	7, 700
茂	5月30日	松嶋啓介 太宰府凱旋記念トークショー	ミュージアムホ ール	30
	7月13日~9月5日	CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み 常設展示 けいばの広場	エントランス/ 屋外	128, 819
	7月17日・7月18日 7月24日・7月25日 7月31日・8月1日 8月7日・8月8日(8回)	CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み ワークショップ 馬のスケッチ大会	屋外	241
アジアを駆けた二千年展	7月17日 - 7月18日 - 7月17日 - 7月18日 - 7月19日 - 7月24日 - 7月25日 - 7月29日 - 7月31日 - 8月1日 - 8月5日 - 8月12日 - 8月14日 - 8月15日 - 8月19日 - 8月22日 - 8月26日 8月28日 - 8月29日 - 9月4日 - 9月5日 (22回)	CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み ポニーとのふれあいイベント	屋外	1, 536
	7月17日 · 7月18日 · 7月24日 · 7月25日 · 7月31日 · 8月1日 · 8月7日 · 8月8日 · 8月14日 · 8月15日 · 8月21日 · 8月22日 · 8月28日 · 8月29日(14回)	CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み 1着当てゲームにチャレンジ!	エントランス	2, 221
	7月19日	ミュージアムトーク AKB48 篠田麻里子が九州国立博物館にやってくる!	ミュージアムホ ール	560
	7月29日 8月5日 8月12日 8月19日 8月26日(5回)	CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み ワークショップ 馬のくつ(蹄鉄)でコースターを作ってみよう	エントランス	300
誕生!中国文明展	10月9日	『王朝・技・美の祭典』 特別公演 胡弓演奏家・趙国良 「中国王朝への旅 ―胡弓の調べにのせて―」	特別展示室	50
中国	10月30日	『王朝・技・美の祭典』 中国雑技ミニ公演 ドリームサーカス	エントランス	60
ニニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニュニ	11月2日~11月7日	日立100年展(日立創業100年記念「街と人と日立」)	エントランス	19, 600
開	11月6日	『王朝・技・美の祭典』	ミュージアムホ	80
	,,,,,	ミュージアムコンサート「中国伝統音楽からクラシックまで」	ール	00

展覧会名	期間	内容	会場	参加者数(人)
		聖福寺「栄西禅師八百年遠諱大法要」に向けて		
	11月21日	写経・禅画の体験教室	和室	20
	117210	聖福寺・献茶口切りの儀	エントランス	80
		八女茶煎茶会/立礼	エントランス	50
	23年1月1日~1月7日	福岡在住の日展作家による作品展「情熱」	ミュージアムホ ール	7, 000
ゴ	23年1月1日~1月16日	自画像コンクール「見てみて!〇〇しているぼく・わたし」入選作品展示	エントランス	127, 300
ーッ ホ 展	23年1月1日~2月13日	ヒマワリの種でゴッホの自画像モザイクアート 「美の種ひまわりプロジェクト」	エントランス	452, 000
展	23年1月10日	映画上映会 「There is no blue without yellow and orange ゴッホの足跡をたどるヨーロッ パの旅と日本の印象」	ミュージアムホ ール	250
	23年3月15日~3月31日 (23年5月22日迄)	巡照朝課(じゅんしょうちょうか)	特別展示室	200
黄 檗 展	23年3月21日	獅子舞	エントランス	200
栄 展	23年3月26日	光風流茶席	茶室	125
110	23年3月27日	講座「肥前鹿島藩の黄檗僧達」 講師:井上敏幸	研修室	44
	23年3月27日	厄よけストラップ手作り数室	エントランス	14

2-(2)-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日~平成23年3月11日
開催場所	本館20室
入場者数	98,891人 (※本館20室で実施した体験型ブログラム参加者数を計数)
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。 博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育 普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート3種を制作し、通年配布した。

2)「親と子のギャラリー」

7 .420 C 1 42 1 1 2 2 1	
「日本美術のつくり方 2」	
開催期間	6月15日~7月25日(36日間)
開催場所	本館特別2室
入場者数	46, 031人
担当研究員数	5人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、平常展鑑賞の一助となることを目的に、伝統的な日本美術の制作工程に焦点をあてた 教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。技術見本、工程見本を用い、作品ができるまでをわかりやすく紹介した。今回 取り上げたジャンルは、料紙装飾、仏像の玉眼と寄木造、友禅染、線彫(金工)の4つ。これらの技法を駆使して作られ た「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさを伝える。ハンズオン・コーナ 一を特別2室内および本館20室に設けた。
関連事業	・ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦!」 7月17日 ・おとなのためのワークショップ「友禅染:色挿し体験!」 7月17日 ※ともに詳細は 、3)③ワークショップ を参照。
「博物館の音楽会」	
開催期間	8月3日~9月5日(36日間)
開催場所	本館特別2室
入場者数	47, 302人
担当研究員数	5人
事業内容	日本美術にみる音楽と楽器を題材に、主として小中学生を対象とした教育普及的展示。楽器そのものだけでなく、埴輪・ 仏画・人形・漆工・金工・陶磁器・図譜などに表された楽器に注目し、管・弦・打など演奏法ごとに分けて展示する。さらに楽器の種類や演奏の方法をわかりやすく解説したパネルや映像を示し、古楽器についての知識を深めてもらうような 補助的展示を行う。関連イベントとして、楽器に触れるハンズオン・アクティビティや、宮内庁式部職楽部による演奏会 を開催した。
関連事業	・夏休みファミリー音楽会「貴族に伝わった音楽 雅楽を聞いてみよう」 8月22日 ※詳細は、2-(2)-③ 5)その他展示に関連する事業 を参照。 ・ハンズ・オン アクティビティ「楽器に挑戦!」 8月8日、15日、21日、22日 ※詳細は 、3)①平常展示関連体験型プログラム を参照。

3) 体験型プログラムの実施 参加者数計 101,622人、 観覧者数計 98,891人 ① 平常展示関連体験型プログラム 参加者数計 101,207人

U I HIJAKITINA	エレ-4×エ ~ 一	
	平常陳列「暮	らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」
ハンズオン	期間	4月1日~23年3月11日
体験型展示	開催場所	本館20室
	参加者数	90, 274人
	本館リニュー	アル記念特別公開「冨嶽三十六景」(本館10室)関連「北斎の冨士を作ろう!」
ハンズオン	期間	1月5日~1月16日
体験型展示	開催場所	本館20室
	参加者数	4, 103人
	特集陳列「美術	析のなかのうさぎと国々のお祝い切手」(本館特別2室)関連「東博ウサギめぐり&掛軸ふうカレンダー」
ハンズオン	期間	22年1月2日~1月3日
体験型展示	開催場所	本館20室
	参加者数	4, 514人
ハンズオン 体験型展示	ハンズ・オン	アクティビティ「楽器に挑戦!」
	期間	①8月8日、②8月15日、③8月21日、④8月22日
	開催場所	本館玄関
	参加者数	①688名、②659名、③505名、④464名

② 制作工程模型展示 観覧者数計 98,891人 (※本館20室にて実施した体験型プログラム参加者数と一体化してカウント)

		56 日 37 日
	「国宝・孔雀	明王像ができるまで」
ハンズオン	期間	22年1月13日~22年4月18日
体験型展示	開催場所	本館20室
	観覧者数	6,533人(人数は4月1日~4月18日)
		隠れた色彩の効果ー」
ハンズオン	期間	4月20日~6月13日
体験型展示	開催場所	本館20室
	観覧者数	13, 351人
	「一木造がで	きるまで」
ハンズオン	期間	6月15日~10月3日
体験型展示	開催場所	本館20室
	観覧者数	34, 768人
	「押出仏がで	きるまで」
ハンズオン	期間	10月5日~12月26日
体験型展示	開催場所	本館20室
	観覧者数	20, 452人
	「悉皆金色	阿弥陀如来像ができるまで」
ハンズオン	期間	1月2日~3月11日
体験型展示	開催場所	本館20室
	観覧者数	23, 787人

③ ワークショップ 参加者数計 254人

<u>③ リークション</u>		可数計 254人
		図譜-桜を中心に-」関連企画(本館16室)関連
		クショップ「家族で作る博物図譜(昔の図鑑)」(事前申込制)
ワークショップ及	期間	①4月24日、②4月25日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①27人、②20人
	担当研究員数	3人
	親と子のギャラ	リー「日本美術のつくり方 2」(本館特別2室)関連
		クショップ「友禅染に挑戦!」(事前申込制)
ワークショップ及	期間	7月17日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
OIXIX	参加者数	14人
	担当研究員	3人
	数	
		リー「日本美術のつくり方 2」(本館特別2室)関連
		ワークショップ「友禅染:色挿し体験」(事前申込制)
ワークショップ及	期間	7月17日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	17A
	担当研究員数	3人 (7 0 111 日 - (-) (
		経の世界」(本館特別2室)関連
		ワークショップ「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」(事前申込制)
ワークショップ及	期間	①10月8日、②10月9日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	①18人、②13人
	担当研究員数	3人 経の世界」(本館特別2室)関連
		栓の世界」(本期特別/全)関連 クショップ「きらきら光る唐紙(からかみ)を作ってみよう」(事前申込制)
 ワークショップ及	期間	プンヨップ「さらさら元の居私(からかみ)をTFO(みより」(事則中込制) 10月10日
ソークショッフ及 び関連事業	開催場所	下成館小講堂
の財建事業	参加者数	18人(6組)
	担当研究員数	3人
		「暮らしの調度」(本館8室)関連
		「春らしの嗣友」 (本師0至) 関連 ワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」 (事前申込制)
ワークショップ及	期間	①10月29日、②10月30日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
UNAETA	参加者数	①18人、②14人
	担当研究員数	2人
		「暮らしの調度」(本館8室)関連
		・春うこの/angは、(本語の生) 房屋 クショップ「貝合せを作って貝合せに挑戦」(事前申込制)
ワークショップ及	期間	[①10月30日、②11月3日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
O以是于木	参加者数	①10人(4組)、②28人(9組)
	担当研究員数	3.4
		ー」、(不)は「と) 肉(煙) タン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン
ワークショップ及	期間	①1月29日、②1月30日
び関連事業	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	1730人(9組)、②27人(9組)
	担当研究員数	3\(\)

④ 特別展関連体験型プログラム 参加者数計 161人

ワークショップ及 び関連事業	特別展「細川家の	の至宝」関連 ワークショップ「キミも武将だ!甲冑をまなぼう」
	期間	5月5日
	開催場所	平成館ラウンジ
	参加者数	105人
	特別展「誕生!	中国文明」関連 ワークショップ「動物紋飾板をつくろう!」
ワークショップ及 び関連事業	期間	8月5日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	56人

4) 東博スクールプログラム

., 5 4 40	
期間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校 12校 944人/中学校 72校 3405人/高校 37校 1114人/中高一貫 2校 30人 計123校 5,493人
担当研究員数	5人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

5) 職場体験の受入

期間		年間
開催場所		全館対象
参加者数		33校131人
担当研究	員数	3名
事業内容		学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6) 高等学校との連携教育実施

期間	9月4日、9月25日、10月2日
開催場所	全館対象
参加者数	13人(連携校10人、一般公募3人)
担当研究員数	2人
事業内容	単位制の都立高等学校との連携プログラム。 広く一般の高校からも受講者を募集し、日本の四季をテーマとした展示鑑賞、ワークショップ、生徒による発表を行う全3回の連続 講座を実施した。

7) 教員を対象とした事業の実施

〇 教員鑑賞会の実施

期間	①4月23日(特別展「細川家の至宝」)、②7月9日(特別展「誕生!中国文明」)、③10月15日(特別展「東大寺大仏」)
開催場所	①②③平成館大講堂、本平成館2階特別展会場及び平成館1階ガイダンスルーム
参加者数	①61人、②98人、③297人 計456人
担当研究員数	4人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施し、指導要領と関連した授業案を配布した。

○ 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施(共催:東京藝術大学)

期間	7月28日~7月30日
開催場所	本館展示室、会議室/東京藝術大学
参加者数	46人
担当研究員数	4人
事業内容	│ 全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めてもらう。今年度
争未内谷	│ は第6回目として「日本の彫刻」をテーマに博物館では歴史と鑑賞を、大学では実技を実施した。

○ 盲学校のためのスクールプログラム教員研修会

期間	3月5日
開催場所	本館展示室
参加者数	36人
担当研究員数	4人
事業内容	全国の盲学校教員を対象とした研修会。盲学校の児童・生徒に向けたスクールプログラムの解説および実際にプログラムを体験して もらった。

【京都国立博物館】

1) 少年少女博物館くらぶ

• /	2 1 2 MAINMAN CO.		
事業名:博物館 庭園探検隊!~豊臣秀吉ってだれ?~			
	実施日	7月24日	
Π	対象	小学生から中学生	
	参加者数	19人 (うち子ども8人)	

2) 博物館Dictionaryの発行 1回

- 発行部数 5,000部
- ・配 布 先 館内観覧者等

3) 特別展観 没後200年記念「上田秋成」小中学生の入場料を無料

4) 特別展覧会「高僧と袈裟 ころもを伝えこころを繋ぐ」小中学生向けワークシート作成

- 発行部数 15,000部
- ・配 布 先 館内観覧者

5) 京都市内の小中学校への訪問授業

/ V// V// V// V// V// V// V// V// V// V	/ WILHITA
事業名: 文化財に親しむ授業	「風神雷神図屏風」
実施日	6月29日 8:50~14:30 45分授業を5回
場所	京都市立金閣小学校(京都市北区平野上柳61-1)
対象	京都市立金閣小学校 6年生4クラス および保護者
参加者数	140名
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。プリントへのセリフの書き込みや、構図を自分たちで考えるなどの作業を通じて、注意深く作品を観察し、特徴や魅力を発見することを目指した。講師は、文化財ソムリエ(京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師)ならびに当館研究員が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名: 文化財に親しむ授業	「風神雷神図屏風」
実施日	10月5日 8:50~12:20 45分授業を4回
場所	京都市立嵯峨小学校(京都市右京区嵯峨釈迦堂大門町35-1)
対象	京都市立嵯峨小学校 6年生3クラス および保護者
参加者数	130人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。社会科の授業時間を利用し、「風神雷神図屏風を手掛かりに、江戸時代の京都の暮らしに触れよう」をテーマに行った。講師は、文化財ソムリエ(京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師)ならびに当館研究員が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名: 文化財に親しむ授業	「八橋図屏風」
実施日	11月12日 10:00~10:50 50分授業
場所	京都市立蜂ヶ岡中学校 (京都市右京区嵯峨野開町1-1)
対象	京都市立蜂ヶ岡中学校 1年2組

参加者数	36人
	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。尾形光琳筆「八橋図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業
事業内容	を行った。道徳研究の近畿大会にあわせ、公開授業として行った。授業の前半の作品解説を当館研究員が担当し、後半部
	分を担任教師が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名:建仁寺「綴プロジェクト	
実施日	11月20日、23日、27日、12月4日 9:00~10:00
場所	大本山 建仁寺(京都市東山区大和大路通四条下る小松町)
対象	小・中学生とその保護者
参加者数	30人
	NPO法人京都文化協会との連携事業。建仁寺で行われた「綴プロジェクト作品展」にて、会期中の土曜日・祝日の4日間、
 事業内容	9時から10時までを子ども用に貸し切り、小中学生を対象に対話型の鑑賞プログラムを行った。俵屋宗達筆「松島図屏風」
7 7 7 1	と、海北友松筆「雲龍図」の2点を中心に解説。講師は、文化財ソムリエ(京都国立博物館小中学生学習支援プログラム
N MI	講師)ならびに当館研究員が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名: 文化財に親しむ授業	「松鷹図」
実施日	1月28日 9:40~11:30 45分授業を2回
場所	京都市立石田小学校(京都市伏見区石田森西24)
対象	京都市立石田小学校 5・6年生 2クラス
参加者数	70人
	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。二条城大広間四の間「松鷹図」の高精細複製を教材として訪問
事業内容	授業を行った。「松鷹図」鑑賞ののち、二条城の障壁画の配置について、各部屋にどのような意図でどの画題が選ばれた
770.70	のかを、教材を用いながら考察した。講師は、文化財ソムリエ(京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師)が担
S MI	当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
事業名:建仁寺「綴プロジェクト	
実施日	3月28日 11:00~12:00、14:00~15:00
場所	大本山 建仁寺(京都市東山区大和大路通四条下る小松町)
対象	小・中学生とその保護者
参加者数	32人
	NPO法人京都文化協会との連携事業。建仁寺で行われた「綴プロジェクト作品展」にて、小中学生を対象に対話型の鑑賞
事業内容	プログラムを行った。俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」と、伊藤若冲筆「樹花鳥獣図屏風」の2点を中心に解説。講師は、
- N #11	文化財ソムリエ(京都国立博物館小中学生学習支援プログラム講師)が担当した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会

6) 社会科教員のための向上講座の実施

٠,	エマン エルンと(ヘン・ファン・コーロー)	
	実施日	10月26日
	開催場所	管理棟3階研修室及び特別展示館
	参加者数	32人
	担当研究員数	2人
ſ	事業内容	京都市内の小中学校で社会科を担当している教員を対象とした事業。「本物にふれる大切さ」と題した講義ののち、特別展覧会「高僧と袈裟」を観覧、解説を実施した。

【奈良国立博物館】

1) 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

期間,場所 開館中随時,展示会場・講堂・団体申込数 30件 計1,162名

30件 計1,162名

・凶(キャンス) ・担当研究員数 3人 ・事業内容 解説ボランティアによる展示作品の解説

2) 世界遺産学習への対応

- 期間

4月~21年3月 事前申し込み制 奈良市内の小学校30校 (5年生の全クラスを対象) 計2,221名 対応実績

· 担当研究員数 3人

事業内容 奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重

要性を学んでもらう。

女にとデルという。 解説ポランティアによる「世界遺産学習」プログラム(スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など)を1時間程度で実施する。今年度は工事 等により閉館している期間が長かったため、新たに「仏像コスチューム」授業を追加実施した。

3) 子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第62回正倉院展」で制作、899台の利用があった。

【九州国立博物館】

1) 博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン(体験型展示室「あじっぱ」)で活用する様々な教育キットの開発

S INTERNAL SOLIDAY CHANGE OF CONTRACT C		
体験型キットの開発・展開		
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 ①新規開発キット、プログラム: 「モンゴルの馬具に乗ってみよう」「モンゴルのもようをデザインしよう」「モンゴル・ウズベキスタンの 3D 写真」「きゅうぱっく モンゴルの馬頭琴」「Boo Booペット」「いろんなもようを織ってみよう」「テーブ独楽をまわそう」 ②あじ庵: 「日本の水引」「ワヤン・クリッ」「中国の日常生活」「オランダのくらし」「パンコクの街をつくろう!」 ③あじぎゃら: 「染付」「つくりカタ展」「のぞいてみよう!浮世絵の世界」「ウズベキスタンの細かな手仕事」「針聞書」	
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般	
人数	定員なし	
実施	開館時は常時開放	

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

O 17.	THE STATE OF THE CHAPTER OF THE STATE OF THE
夏休み子ども向けイベント「いこうよ!あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし

実施	8月7日~8月8日の2日間実施、3カ国3コンテンツを運用。参加者約300名(子どものみの数)
ボランティ	アワークショップ「木目込みまり」「ハニワの色付け体験」
内容	ボランティアの創意工夫による工作体験講座を展開することによって、夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場 を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。
対象	を提供することもに、パランディア活動の活性化を図る。 こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	「木目込みまり」8月6日、「ハニワの色付け体験」8月17日、の2日間実施
「絵本でお	Sはなしーはらの なかの はらっぱでー」
内容	あじっぱにて、きゅーはくの絵本④「はらの なかの はらっぱで」の読み聞かせ。
対象	小学生まで
人数	5名程度
実施	4月11日

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示	体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、 用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。平成22年度においては、あじっぱ新規屋台として「モンゴル」「ウズベキスタン」の2カ国 を追加した。	
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般	
人数	最大収容可能人数約80人	
実施	開館時は常時開放	

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり	なりきり学芸員体験	
内容	「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40~50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって 観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。	
	平成22年度より、「なりきり考古学者体験」とあわせて毎月2回、定例化して実施したほか、職場体験・学校団体等の希望者に対して実施した。	
対象	小学校中学年以上	
人数	1回につき最大8名	
実施	ボランティアによる司会進行で実施。毎月第2土曜日「考古学者」、第4土曜「学芸員」、のほか、希望者に対して随時実施(計40回)	

2) 九州大学との共同研究成果に基づき、平常展を利用して来館者ニーズに合った情報提供を行うためのプログラムの研究・開発

文化交流展示室におけるPDA機器	(携帯情報端末)の開発
内容	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。
1.10	・来館者の能動的鑑賞による歴史の魅力の発見を支援する。
	・本研究は次世代型博物館に向けたインタラクティブな自動誘導機能が付加された展示解説コンテンツと、その展示を効率
目的・方針	的に評価できる展示評価支援システムの開発を目的としている。
	・来館者に優しいパーソナル・ミュージアム・コンシェルジュの開発と実証実験を行う。
制作及び運営方法調査	・プロトタイプの展示解説コンテンツと、位置情報取得システムによる運用システムを設置して、事前登録による貸出を行
利作及の連名方法調宜	った。展示評価は来館者のログデータを自動的に読み取るとともに、返却後のアンケート調査も併せて実施した。
導入機種の検討	・操作性や視認性を重視した市販器での活用を考慮し、ipadを用いて実験した。

3) 学校教育との連携事業の実施

① 職場体験(中学生)の受け入れ

中学生	中学生の職場体験	
内容	中学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、 博物館への理解を促進する。	
人数	1回について最大6名まで	
実施	9校に対して実施、体験中学生数46名(実施中学校: 筑紫野市立筑山中学校6名、太宰府市立太宰府西中学校6名、大野城市立大利中学校6名、春日市立春日野中学校5名、小郡市立三国中学校6名、福岡県立輝翔館中等教育学校3名、福岡雙葉中学校4名、筑紫野市立二日市中学校4名、筑紫野市立筑紫野南中学校6名)	

② ジュニア学芸員 (高校生) による教育プログラムの開発

ジュニア学	ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を 提供する。	
人数	7校26名	
実施	12月~3月の日曜日を中心に全8回	

③ 博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置

教師社会体	教師社会体験研修	
内容	学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。	
人数	6名	
実施	10年経験教師社会貢献体験研修4名(8月30日~8月31日、2日間)、初任者研修にかかる体験活動研修2名(8月6日~8月8日、3日間)	

④ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出	学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して学校等に向けて貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。	
対象	学校教育団体、社会教育団体その他	
実施	小学校14件、中学校15件、高等学校3件、その他17件(その他は博物館1件、放送局1件、アジア太平洋フェスティバル事務局2件、全九州中学校教育研究協議会13件)、計49件	

⑤ 出前講座への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。
対象	研究員による出前講座を希望した学校
実施	11月3日、福岡県立修猷館高校にて実施(参加高校生15名)、対応研究員1名 9月21日、太宰府市立太宰府中学校にて実施(参加中学生12名)、対応研究員1名

⑥ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	団体で来館した学校団体のうち、特に希望した学校に対し、体験プログラム等を実施
対象	団体で来館した学校団体のうち、特に体験を希望した学校
実施	福岡県立城南高等学校(4月16日、28名)、福岡県立修猷館高等学校(4月28日、4名)、山口県立宇部高等学校(2月2~3日、39名)、福岡県立太 宰府高等学校(2月24日、37名)

4) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

)又化父流思	長、特別展に関連した教育普及事業の実施
特別展「パリ	に咲いた古伊万里の華」展 「解説パネル」、「体験コーナー」
	輸出磁器の歴史や技法、デザインの特徴をわかりやすく紹介する「解説パネル」、金装飾磁器の用途を伝える「ポプリの香り体験コーナー」を
内容	報告した。これらは巡回先である MOA 美術館、兵庫陶芸美術館へも引き継がれた。
開催場所	
	特別展示室
	に咲いた古伊万里の華」展 親子で楽しむワークショップ
「えをかこう	、いろをぬろう」挑戦・古伊万里の技!
内容	┃ 「染付」と「色絵」の絵付技法に触れ、フォトフレームに絵を描いた。
開催場所	研修室 (和室)
人数	大人8人 、子ども9人(小・中学生)
実施	591B
	に咲いた古伊万里の華」展 親子で楽しむワークショップ
「金ピカにか	ざっちゃえ」大変身!古伊万里ビフォーアフター
内容	☆装飾磁器をまねて湯呑みなどの磁器に装飾を付けて創作し、ヨーロッパの美意識を体感した。
開催場所	研修室 (和室)
人数	大人4人、子ども4人(小・中学生)
実施	5929 5929
特別展「馬	アジアを駆けた二千年」展 「教育普及コーナー」、「解説パネル」
内容	│ グラフィックや模型を用いて馬具をわかりやすく紹介する「教育普及コーナー」を展示室導入部に設置した。また、馬に関する雑学を紹介する
PIE	解説パネル「おしえてギャロップ」も設置した。
開催場所	→ 特別展示室
	マジアを駆けた二千年」 関連イベント CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み ワークショップ
馬のスケッ	
開催場所	館外レストラン前広場
人数	241人
実施	│ 7月17日・18日・24日・25日・31日、8月1日・7日・8日
特別展「馬う	アジアを駆けた二千年」関連イベント CLUB KEIBA馬に楽しむ夏休み ワークショップ
馬のくつ(蹄鉄)でコースターを作ってみよう
開催場所	「エントランスホール
	300人
人数	
実施	7月29日、8月5日・12日・19日・26日
特別展「誕生	!中国文明」展 「解説パネル」、「体験コーナー」
	展示品に因む漢字の成り立ちから、古代中国の生活や工芸技術や考え方を紹介する解説パネル「かんじチャイナ」を作成した。また、玉器加工
内容	┃ の難しさを体感する「玉の原石に錐で穴を開ける体験コーナー」を設置した。これらは巡回先である奈良国立博物館へも引き継がれた。
開催場所	特別展示室
	120年 ゴッホ展」 「ゴッホメモ」
可加及「及区	ゴッホの生涯や手紙、影響をうけた画家等の内容をまとめた「ゴッホメモ」(A7 サイズ)を作成し、展示を見る前に展示内容の理解を促した。
内容	
/ 18	また、エントランスホールで入場を待つ来場者の混雑対策としても活用した。
配布場所	エントランスホール、総合案内、ミュージアムショップ、オープンカフェ、レストラン
配布部数	20万部
開催場所	特別展示室
10.001	「日本とタイ」ふたつの国の巧と美」にかかる伝統工芸ワークショップ
人门川州八阪	1月29日: 重要無形文化財久留米絣技術保持者の松枝哲哉氏による、久留米絣についての講演および実演
内容	
	1月30日:腰機形式による製織体験 同時に8人が体験できるワークショップを4回実施した。
開催場所	バンコク国立博物館
人数	│ 1月29日:約50人 1月30日:32人
実施	1月29日、30日
	室 「ザ・きゅーはく占いペスト 20」
	王 ・ケーとは、はくはいへん」と3 児童生徒が楽しみながら展示品の特徴を知ることをねらいとし、選定した 20点の展示品の特徴や背景を「占い」の形式によって解説した。
内容	
開催場所	文化交流展示室
実施	2009 年 6 月~2011 年 3 月
文化交流展示	室 「絵本でおはなし-じろじろぞろぞろ-」
内容	
開催場所	文化交流展示室
人数	大人12人 、子ども14人 (小学生・未就学児)
実施	5月16日、6月5日、6月6日
	室 「絵本でおはなし-エイサー!ハーリー-」
内容	<u> </u>
開催場所	文化交流展示室
人数	子ども40人(小学生・高校生・未就学児)
	0000 0040
実施	8月3日、8月4日

5) 高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

· > > 1		
ガムランワー	ガムランワークショップ	
	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催	
内容	(筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込のほか当	
	日の参加も可能。)	
実施期間	5月15日、6月19日、7月17日、10月23日、11月13日、12月11日、1月22日、2月19日(全て土曜日)	
開催場所	九州国立博物館1階ミュージアムホール、3階特別展示室前スペース(6月19日)	
参加者数	毎回約20人程度	

2-(2)-⑤ 大学生・大学院生を対象とした教育事業

大学等との連携事業 【京都国立博物館】

内 容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	当館
受入人数	5人
担当研究員数	5人

内 容	保存修復技術を専攻する学生のための研修会
実施期間	9月3日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	16人
担当研究員数	1人

内 容	京都橘大学との教育提携・学術交流
実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18人
担当研究員数	1人

【奈良国立博物館】

内 容	奈良女子大学との連携講座		
実施期間	前期、後期		
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館		
参加者数	前期 4人、後期 3人		
担当研究員数	1人		

内 容	神戸大学大学院文化学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内 容	放送大学の面接授業
実施期間	12月18日~19日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	50人

内 容	筑紫女学園大学文学部アジア文化学科必修科目「ミュージアムで学ぶアジア」 (博物館の概要について講義、博物館展示見学、博物館体験型展示室での異文化体験)
実施期間	4月28日~8月4日
開催場所	筑紫女学園大学、九州国立博物館文化交流展示室、体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	150人

内 容	博物館における文化財保存修復に関する研修
実施期間	8月16日~20日の5日間
開催場所	九州国立博物館保存修復施設
参加者数	4人(吉備国際大学から2人、九州産業大学から1人、別府大学から1人の合計4人が参加した。)

内 容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	7月28日~8月9日の間、延べ10日間実施
参加者数	│ 13大学17名

内 容	カフェコンサート(福岡女子短期大学の学生による演奏)
実施期間	4月16日、4月23日、5月14日、5月28日、6月11日、6月25日、7月16日、7月23日、8月13日、8月27日、9月17日、10月8日、
	10月29日、11月5日、11月26日、12月10日、12月17日、23年1月21日、1月28日、2月25日、3月11日、3月25日(全て金曜日)
開催場所	九州国立博物館1階エントランス(オープンカフェ)
参加者数	毎回80人程度。出演者は毎回8人程度。

2) インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月22日~23年3月31日
受入部署	学芸企画部 デザイン室、教育普及室、ボランティア室、情報資料室、広報室
	学芸研究部 上席研究員(日本工芸)、平常展調整室、東洋室、保存修復課
参加者数	22人(15大学)
担当研究員数	のペ23人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10~30 日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月16日~9月10日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	2人(2大学)
担当研究員数	1人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを受け 入れた。11月27日には事務棟研修室にて2名による報告会を行った。

【奈良国立博物館】

受入期間	8月30日~9月8日
受入部門	総務課
参加者数	1人(1大学)
担当研究員数	総務課職員
事業概要	立命館大学とのインターンシップに関する覚書により受入を行った。

3) 学生ボランティア

【東京国立博物館】

期間	・ギャラリートーク班
	平成22年8月5日~平成22年10月30日(36回)
	・制作工程模型作成班ギャラリートーク
	平成23年2月2·11·17日·3月2日(4回)
開催場所	当館展示室内ほか
参加者数	・ギャラリートーク班
	ボランティア6人、聴講者 計989人
	・制作工程模型作成班ギャラリートーク
	ボランティア1人 聴講者 92人
担当研究員数	4人
事業内容	東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対するギャラリートークを実施。また工程模型作成班により、「悉皆金色-阿
	弥陀如来像ができるまで」の5工程の制作工程模型の制作、それに係るギャラリートーク「悉皆金色」を実施。

【京都国立博物館】

EVALUE IN INVEST	
実施日	4月26日(月)、5月17日(月)、6月21日(月)、8月23日(月)、9月27日(月)、10月/25日(月)、11月8日(月)、1月17日(月)、1月24日(月)
開催場所	京都国立博物館
参加者数	7人
担当研究員数	2人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリング。 参加者は、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生。

4) 見学対応

【東京国立博物館】

期間	年間 (2011年1月31日まで)
開催場所	全館対象
参加者数	10件(大学7件、337人/専門学校3件、148名 計485人)
担当研究員数	2人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績

(後述の資料に記載) ◎共通資料b

2-(2)-(7) 友の会

1) 会員数

友の会 平成23年3月31日現在

区分 館名	友の会会員数	友の会会員 (年会費 10,000 円)	友の会会員 (一般) (年会費 3,000 円)	友の会会員 (学生) (年会費 2,000 円)	友の会会員 (家族) (年会費 6,000 円)
東京国立博物館	1,412 人	1, 412人	_	_	-
京都国立博物館	2, 468 人	_	2,369 人	99 人	_
奈良国立博物館	3, 180 人	_	3,009 人	125 人	46 人
九州国立博物館	144 人	144 人			_

パスポート 平成23年3月31日現在

区分 館名	パスポート会員数	パスポート会員 (一般) (年会費 4,000 円)	パスポート会員 (一般) (年会費 3,000 円)	パスポート会員 (学生) (年会費 2,500 円)	パスポート会員 (学生) (年会費 2,000 円)
東京国立博物館	13, 733 人	12,870 人		863 人	
九州国立博物館	3,318 人	-	1,541 人	-	1,777 人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 東京国立博物館友の会対象旅行会の実施

11月6日~7日

- ・旅行会 平城京遷都1300年記念 第62回正倉院展と薬師寺イベントツアー
- ・旅行先 奈良国立博物館、平城京、薬師寺、など
- ・参加者数 21人
- ② その他

博物館ニュース送付,イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

- ①年1回(4月)、年間催事案内を送付
- ②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館、京都府京都文化博物館、京都市美術館の平常展、特別展を団体料金に割引(共催展の場合は、割引が適用されない場合あり)
- ③財団法人京都古文化保存協会が春・秋に実施する【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引
- ④ 当館ミュージアムショップの商品の10%割引

【奈良国立博物館】

- ①第39回夏季講座「仏像修理100年と仏像研究の現在」
 - ·実施期間 8月24日~26日
 - ·事業内容 奈良女子大学講堂において9講座、展覧会概説を行い、博物館に移動展覧会を見学した。
 - ·参加者数 556人
- ②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館の平常展、特別展を団体料金に割引
- ③ミュージアムショップ及びレストランでの割引特典

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、特別展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-8 賛助会

1) 会員数

平成23年3月31日現在

		京都国立		
館名	東京国立博物館	(社団法人清風会)	(ミュージアム・ パートナー)	奈良国立博物館
件数	235件	391件	1件	64件
内部	維持会員(個人):191件	賛助会員:34件 特別会員:61件 普通会員:296件	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	特別支援会員:4件 特別会員:4件 一般会員(個人):37件 一般会員(団体):19件

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

- ① 各特別展開会式へのご招待
- ② 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

【京都国立博物館】

- ①「京都国立博物館だより」(年4回)の配布
- ②当館平常展、特別展の無料観覧
- ③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
- ④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑤国際シンポジウム (年1回) 案内の発送

【奈良国立博物館】

- ①当館平常展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③展覧会図録の1冊贈呈
- ④「奈良国立博物館だより」(年4回)の配布
- ⑤ 当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ⑥当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
- 4月8日(木) 特別展「大遣唐使展」

特別鑑賞会 参加人数38名

7月28日 (水) なら仏像館開幕記念特別展「至宝の仏像」

特別展「仏像修理 100年」 特別鑑賞会 参加人数36名

10月27日 (水) 特別展「第62回正倉院展」

特別鑑賞会 参加人数61名

2-(2)-9 渉外活動

【東京国立博物館】

1) 会場提供 16件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数(人)
4月5日	懇談会	講談社主催による「GLAMOROUS 5th Anniversary Party」展示鑑賞およびレセ プション	法隆寺宝物館	約 300
5月22日	懇談会	トヨタ自動車(株)主催による「細川家の至宝」展展示鑑賞およびレセプション	平成館	246
7月26日~ 8月2日	展示会	台東区主催によるイベント(伝統工芸職人展)	平成館	_
10月5日・6日	懇談会	Ferrari F1 Party 2010	法隆寺宝物館	300
11月29日	懇談会	野村インベストメントフォーラム 2010	法隆寺宝物館	150
11月30日	展示鑑賞	クラブツーリズム主催「東大寺大仏 - 天平の至宝 - 」展貸切と法話会	平成館	199
23 年 2 月 28 日	懇談会	文化庁主催による「文化交流史活動報告会」レセプション	法隆寺宝物館	約 100
4月10日 5月16日 6月12日 7月31日 8月21日 10月17日	ガイドツア	株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる リレ・アカデミー ガイドツアー	本館等	約 20
4月10日 6月12日 8月21日	講演会	株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる リレ・アカデミー スクーリング	平成館等	約 10

2) 館主催・協力イベント 23件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数(人)	備考		
4月1日	音楽会	東京・春・音楽祭 2010「東博でバッハ vol.5 佐藤俊介」	法隆寺宝物館	107	東京・春・音楽祭実行委員会共 催		
4月2日	音楽会	京・春・音楽祭 2010「ヴィーヴ!サクソフォーンカルテット」	本館	約 300	東京・春・音楽祭実行委員会共 催		
4月4日	音楽会	瀬崎明日香ヴァイオリンコンサート	平成館	235	サロン・ド・ソネット共催		
4月6日	音楽会	東京・春・音楽祭 2010「東博でバッハ vol.6 佐藤俊介」	法隆寺宝物館	112	東京・春・音楽祭実行委員会共 催		
6月20日	音楽会	チェロとハープのコンサート	平成館	245	サロン・ド・ソネット共催		
7月4日	音楽会	長唄 三味線三昧	平成館大講堂	477 (2 回)	音楽の花束共催		
7月11日	イベント	納涼東博寄席	平成館大講堂	378			
8月4日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	279	平常展無料入館の協力		
8月8日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	約 500 (2 回)	東京クラリネット・クワイヤー共催 上野のれん会協力		
9月23日	音楽会	二胡コンサート	平成館大講堂	363	台東区芸術文化財団 共催		
9月26日	音楽会	テノールと尺八のコンサート	平成館	171	サロン・ド・ソネット共同主催		
10月3日	普及 イベント	留学生の日	本館ほか	1065	㈱東京美術協賛		
10月3日	ワーク ショップ	デザイン学科ワークショップ 竹のドームをみんなで作る	柳瀬荘	22	日本大学芸術学部共催		
10月7日~31日	展示会	美術学科絵画コース教職員作品展	柳瀬荘	506	日大学芸術学部共催		
10月17日	ワーク ショップ	写真学科ワークショップ 光で絵を描く	柳瀬荘	10	日大学芸術学部共催		
10月24日	ワーク ショップ	│ 美術学科ワークショップ │ 柳瀬荘 T シャツエ房	柳瀬荘	15	日本大学芸術学部共催		
11月4日~28日	展示会	美術学科彫刻コース教職員作品展	柳瀬荘	711	日本大学芸術学部共催		
11月7日	ワーク ショップ	美術学科ワークショップ 穴・Hole を空間に出現させる	柳瀬荘	4	日本大学芸術学部共催		
12月19日	音楽会	ピアノと二十弦箏のコンサート	平成館	243	サロン・ド・ソネット共同主催		
23 年 1 月 15 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	349			

【京都国立博物館】

1) 会場提供 34件

1/ AMMEN	0111				
期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月2日	研修	研修の開催	研修室	20	装こう師連盟
4月16日	合同講義	合同講義の開催	研修室	25	NHK 文化センター大阪教室
4月21日	茶席	ふれあい茶会	茶室	100	岡田保子
4月25日	講演会	等伯展関連講座	研修室	50	JR 東海京都奈良近江文化情報 事務局
4月28日	研修	研修の開催	茶室	20	赤目自然農塾
5月8日	研修	研修の開催	研修室	20	装こう師連盟
7月8日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
7月9日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
7月10日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
7月19日	茶席	お茶会	茶室	8	山口顕秀
8月22日	茶席	夏のお茶事	茶室	17	田口葉子
8月26日	研修	研修の開催	会議室	20	清風会
8月28日	茶席	茶会	茶室	20	山田幸子
9月25日	研修	研修の開催	研修室及び会議室	15	装こう師連盟
10月11日	茶席	茶会、歌会、書華展	茶室	70	西島真森
10月16日	研修	研修の開催	研修室及び会議室	15	装こう師連盟

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
10月17日	茶席	お茶事	茶室	6	南坊流 中野宗淳
10月30日	茶席	個人撮影会	茶室	8	森野祐子
11月3日	茶席	個人撮影会	茶室	7	川部有紀
11月7日	茶席	茶会	茶室	15	篠塚直子
11月8日	車両の積み 込み	車両の積み込み	駐車場	20	ラリーニッポン
11月13日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
11月14日	茶席	茶会	茶室	20	吉田怜子
11月19日	研修	研修の開催	研修室	4	清風会
11月20日	茶席	茶会	茶室	20	篠塚直子
11月21日	茶席	茶会	茶室	4	菊池原節子
1月9日	茶席	茶会	茶室	30	南坊流 中野宗淳
1月10日	茶席	茶会	茶室	30	南坊流 中野宗淳
2月9日	茶席	高校生伝統文化はぐくみ事業	茶室	33	府立京都すばる高等学校
2月10日	茶席	個人撮影会	茶室	5	北野春菜
2月20日	茶席	卒業記念茶会	茶室	30	林孝哉
3月11日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
3月12日	研修	研修の開催	研修室	15	装こう師連盟
3月27日	茶席	個人撮影会	茶室	7	早川千夏

2) 館主催・協力イベント 6件

期間	種類	タイトル	会場	出席者(人)	備考
4月30日	落語	京都・らくご博物館(春) 〜新緑寄席〜	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	187	米朝事務所共催
7月30日、8月6日	上映会	「雨月物語」映画鑑賞会	庭園	317	
10月15日	音楽会	自転車発電エコライブ	庭園	約 100	自転車活用推進研究会(後援)
8月27日	落語	京都・らくご博物館(夏) 〜納涼寄席〜	ハイアット・リージェ ンシー京都 ドローイングルーム	174	米朝事務所共催
10月22日	落語	京都・らくご博物館(秋) 〜紅葉寄席〜	同上	148	米朝事務所共催
3月19日	音楽会	音燈華~おんとうげ~	庭園	187	京阪電気鉄道株式会社 特別協賛

【奈良国立博物館】 1)会場提供 36件

期間	30 1十 種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月8日	性知 講義	イベント寺の概要 「大遣唐使展」鑑賞のための講義	- 云塚 講堂	20	順名 NHK 文化センター
4月11日	講義	「大遣唐使展」 <u>鯔員のための講義</u> 「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	90	NHK 文化センター 丸八会
					いにしえの奈良八重桜、再発見
4月25日	講演	いにしえの奈良八重桜、再発見の集い	講堂	200	の集い実行委員会
5月16日	公演	和歌劇「ヌカタ」公演	講堂	180	(株) うたまくら
5月21日	研究会	「診断・メンテナンス技術に関する研究会」	講堂	20	川合忠雄
5月25日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	150	(株)JR コミュニケーションズ
5月27日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	40	朝日カルチャーセンター
6月2日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	150	(株) JR コミュニケーションズ
6月4日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	45	浜松市美術館友の会
6月8日~9日	研究集会	全国友の会近畿部高年の集まり	講堂	200	奈良友の会
6月9日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	会議室	25	NPO 法人 檜の会
6月10日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	90	(財)京都 SKY センター
6月15日	講義	「大遣唐使展」鑑賞のための講義	講堂	45	NHK 文化センター
8月27日	研修	奈良市教育委員会主催奈良市教職員研修講座	講堂	180	奈良市教育センター準備室
8月29日	観光 イベント	2010バサラ祭りのメイン会場として、演舞・ コンサートを実施	本館 西側敷地	_	バサラ祭実行委員会
9月4日	講義	「ならの仏たち」の講義	講堂	50	大阪よみうり文化センター
9月4日	観光 イベント	「秦 基博」 TALK&LIVE	本館 西側敷地	360	奈良市平城遷都 1300 年記念市 民連携企画実行委員会
11月6日	講義	「第 62 回正倉院展」鑑賞のための講義	会議室	25	NPO 法人 檜の会
10月23日~11月11日	茶会	野点の茶会	西新館 ピロティー	18, 848	奈良国立博物館特別支援会員 結の会
同上	キャンペー ン	「奈良のうまいもの」紹介パネル展示	地下回廊	_	奈良県農林部マーケティング 課
同上	休憩所	季節の土産物販売	新館西側 敷地	_	株式会社ワールドへリテージ
同上	休憩所	休憩所及び甘味の販売	同上	_	株式会社 鶴屋吉信
同上	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	同上	_	有限会社日本クリーンシステ ムズ
同上	キャンペー ン	「奈良のうまいもの」販売・PR	同上	_	奈良県農林部マーケティング 課
同上	キャンペー ン	奈良県特産品の物販	同上	_	校倉な会
同上	キャンペー ン	記念切手の販売	同上	_	郵政事業株式会社
12月1日	講義	「青丹よし奈良講座」の講義	講堂	35	NPO 法人 エルダーホステル協 会
12月16日	講義	「おん祭と春日信仰の美術展」鑑賞のための講義	講堂	30	朝日カルチャーセンター
1月31日	講義	幼稚園児を対象としたお話	講堂	150	奈良市立六条幼稚園
2月16日	研修	真言宗豊山派布教研究所文化財研修	講堂	10	真言宗豊山派教化センター
2月17日	講義	近畿しんきん経営大学研修	講堂	4	奈良中央信用金庫
3月4日	講義	お水取り展鑑賞のための講義	講堂	17	NHK 文化センター
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					·

期	間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
	3月5日	講義	知れば知るほど奈良はおもしろいツアー	講堂	60	(社)平城遷都 1300 年記念事業 協会
	3月15日	講義	阪神ダイワオーナーズレディース会	講堂	80	│株式会社 信和エージェンシ │一 ツーリスト部
	3月19日	映画上映	なら国際映画祭 NARAtive2010 上映会	講堂		NPO 法人なら国際映画祭実行委員会
	3月26日	講義	美術史学会西支部大会	講堂	120	美術史学会西支部大会事務局

2) 館主催・協力イベント 38 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月6日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	講堂	200	
4月7日 4月8日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	展示室 同上	38	
7700		「大仏開眼(前編)」 上映	同工	30	
4月9日	トークイベント	NHK 古代史ドラマスペシャル「大仏開眼」 ふれあいトーク	講堂	140	主催:NHK 奈良放送局
4月17日	トークイ ベント	「大遣唐使展の楽しみ方」 はな(モデル)、内藤栄(奈良国立博物館学芸部 長補佐)によるトークイベント	講堂	180	
4月23日	鑑賞会	ジュニア記者クラブ 〜高校生のための特別内覧会	講堂、東新館、 なら仏像館	15	主催:NHK 奈良放送局
4月29日	講演会	光明皇后 1250 年大遠忌記念講演 「光明皇后を慕う」	講堂	150	主催:法華寺 奈良国立博物館
5月15日	講演会	特別講演会「遣唐使の時代―倭から日本へ―」 東野治之(奈良大学教授)	奈良県新公会堂 能楽ホール	316	
6月5日	シンポジウム	「東アジアの造形芸術と遺唐使の時代」 講師:ナンシー・S・スタインハルト(米国 ペンシルバニア大学教授)、板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所准教授)、鈴木喜博(奈良国立博物館学芸部上席研究員)、吉澤悟(奈良国立博物館学芸部教育室長)	講堂	148	
6月6日	トークイベ ント	「大遣唐使展で仏像に会おう!」 仏像ガール(仏像ナビゲーター・奈良国立博物館 文化大使)、西山厚(奈良国立博物館学芸部長)	講堂	180	
4月3日 ~6月20日	展示	「海彼」 「大遣唐使展」関連の映像展示	地下回廊	_	協力:NHK 大阪放送局
4月3日 ~6月20日	展示	「吉備大臣入唐絵巻」 高精細ディジタル画像による展示	地下回廊	_	協力:大日本印刷 シャープ
4 月毎月曜日 5 月 2 日 5 月 5 日	体験 イベント	「奈良生まれのブロックおもちゃで遊ぼう!」 「大遣唐使展」オリジナルモデルの組み立てを体 験	地下回廊	_	協力:ヨシリツ(株)
7月17日 ~9月26日	観光 イベント	ライトアッププロムナード・なら	なら仏像館 外観	_	主催 : ライトアッププロムナー ド・なら実行委員会
7月28日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂 展示室	36	7月28日
7月29日、8月3日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	同上	200	
7月21日 ~8月29日	展示	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作 品展覧会	地下回廊	_	主催:日本香堂 後援:朝日学生新聞社
8月1日	落語	「まほろば寄席ー奈良国立博物館落語シリーズ 第 10 回一」 月亭 八天、桂 都んぼ, 笑福亭喬介、桂 小春團 治、による落語会	講堂	167	
8月28日	映画祭	「なら国際映画祭2010」 Roger Hsiao 監督作品「鑑真大和尚」上映	講堂	120	主催:NP0 法人実行委員会
7月31日 ~8月4日	観光 イベント	「全国光とあかり祭」 全国光とあかり祭会場として光のオプジェ等を配置	なら仏像館 西側広場	_	主催:全国光とあかり祭実行委 員会
8月5日~14日	観光 イベント	「なら燈花会」 なら燈花会会場としてカップ、オブジェ等の配置	新館周辺	_	主催:なら燈花会の会
9月6日	研修会	セクシュアル・ハラスメント研修会 「職場におけるセクシュアル・ハラスメントをな くすには?」	講堂	43	
9月8日 9月15日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 「仏像修理 100 年」関連イベントとして、普段は 公開していない修理所を当館研究員の解説付き で見学	講堂 修理所	245	
10月24日	シンポジウ ム	正倉院展学術シンポジウム 「正倉院宝物はどこでつくられたか」	奈良県文化会館 小ホール	186	
10 月 25 日 10 月 26 日	鑑賞会	タクシー乗務員・ホテル関係者特別鑑賞会	講堂 展示室	261	
10月26日	観光 イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布 し「奈良の柿」を PR	新館前 広場		主催:奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月27日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂、展示室	61	<u> </u>
10月16日~11月15日	観光 イベント	│ 「あるくん奈良スタンプラリー」 │ 奈良町を巡るスタンプラリー	│ なら仏像館 │ 観覧券売場前	_	主催:はじまりは正倉院展実行 委員会
10月23日	展示	「いけばな展示」	西新館	_	274
~11 月 11 日 10 月 23 日	展示	法華寺小池御流のいけばな展示 正倉院展作文コンクール入賞作品展示	1 階ロビー 地下回廊		主催:奈良国立博物館
~11月11日	及小		2011日間	_	読売新聞社
11月3日	鑑賞会	第 62 回正倉院展 親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を 解説。展覧会を自由観覧。 講師:西山 厚 (奈良国立博物館学芸部長)	講堂	174	
10月23日~11月11日	展示	NHK 日曜美術館で紹介した正倉院宝物の映像放映	西新館 ピロティー		
1月10日	公演	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」関連イベン ト「金春穂高 能を語る」	講堂	143	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
1月29日	落語	「まほろば寄席ー奈良国立博物館落語シリーズ 第 11 回ー」 桂 都丸、林家 染左、笑福亭 岐代松、桂 小 春團治による落語会	講堂	165	
2月8日 ~2月14日	観光 イベント	なら瑠璃絵の会場として、東新館北側壁面に プロジェクターによる画像を投影	東新館 北側壁面	l	主催:なら瑠璃絵実行委員会
2月6日	講演 体験	お水取り講話と粥の会	講堂、展示室、茶室控 室、二月堂	35	
2月9日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 普段は公開していない修理所を当館研究員の解 説付きで見学	講堂 修理所	第1回 34 第2回 36 第3回 38 計108	
3月1日	講堂	奈良モニターツアー解説	講堂 展示室	22	主催:阪急交通社
3月3日	講演 体験	お水取り展鑑賞とお松明	講堂、展示室、東大寺 本坊、二月堂	131	主催: 奈良国立博物館特別支援 会員 結の会

【九州国立博物館】

1) 会場提供 43 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
4月4日	シンポジウ ム	龍馬ウオーク i n 太宰府(シンポジウム)	ミュージアムホール	270	全国龍馬社中/(社)日本ウオー キング協会/(太宰府市商工会)
4月8日~25日	展示	上海万博パネル展	エントランス	40, 700	中華人民共和国駐福岡総領事館
4月13日~25日	展示	福岡新聞学校プロジェクト	エントランス	32, 900	福岡新聞学校プロジェクト
5月1日~9日	展示	博多の匠工芸展	エントランス	34, 300	博多伝統職の会
5月2日~5日	イベント	博多の匠工芸展ワークショップ	研修室	50	博多伝統職の会
5月18日~23日	展示	「生活の中のデザイン」KCDA 会員選抜展	エントランス	21, 700	九州クラフトデザイン協(KCDA)
5月21日	音楽会	蔚山(ウルサン)男性合唱団 日本招待演奏会	ミュージアムホール	150	JTS(韓国旅行会社)
6月1日~6日	展示	アボリジニアート展	エントランス	22, 200	オーストラリア総領事館
6月5日・6日	講演会	アボリジニアート特別講演会 講師:内田真弓	研修室	70	在福岡オーストラリア総領事館
6月8日~13日	展示	大竹美喜書道展『開』	エントランス	28, 100	甘木歴史資料館
6月13日	展示	大竹美喜書道展『開』 書のデモンストレーション	エントランス	100	甘木歴史資料館
8月21日	イベント	エレキット夏休み工作教室 in 太宰府 2010	研修室	60	(株) イーケイジャパン
9月4日	公演	京築神楽 九州国立博物館公演	ミュージアムホール	550	京築連帯アメニティ都市圏推進 会議/京築神楽の里づくり推進 会議
9月9日	イベント	第 1982 回西日本宝くじ抽せん会	ミュージアムホール	130	(株)みずほ銀行宝くじ部
9月19日	音楽会	「吹奏楽の祭典」	屋外	778	福岡吹奏楽連盟(九州吹奏楽連盟 福岡支部)
9月20日	展示	ソープカービング展示・体験	研修室	75	カービングアトリエ ケ、ベッラ
9月22日~24日	展示	ソープカービング展示・体験	研修室	225	カービングアトリエ ケ、ベッラ
9月25日	イベント	第5回 太宰府古都の光	屋外	100	太宰府市ブランド創造協議会
		太宰府古都の光関連イベント	エントランス/ミュ		
9月25日	イベント	太羊府百部の元関連イベント 浪漫飛行~In The Sky~	ージアムホール/屋	300	太宰府市ブランド創造協議会
		·	外		
10月9日	音楽会	正倉院展の楽しみ方 〜まほろばの集いと音楽の調べ in 福岡〜	ミュージアムホール	200	読売新聞社/NHK 福岡放送局
10月9日~11日	イベント	開館5周年協賛 出前温泉「足湯」 〜お!館外にもあった 至福の時〜	屋外	458	福岡県観光温泉地協会
11月3日	上映会	映画「Tchindon ちんどん」上映会	ミュージアムホール	122	第18回ふくおか県民文化祭 2010 映画「Tchindon ちんどん」上映 実行委員会/ふくおか県民文化 祭福岡県実行委員会/福岡県 福岡県文化団体連合会/福岡県 教育委員会/(財)自治総合セン ター
11月6日	イベント	韓国舞踊の披露	屋外	80	韓国舞踊研究会/国際交流伽耶 舞楽団
11月7日	展示	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	2, 000	(社)筑紫歯科医師会
11月9日~14日	展示	第 32 回読売学生書展(展示)	エントランス	24, 799	読売新聞西部本社
11月13日	イベント	アサヒ緑健スポーツメセナ 第8回ふれあい健康 ウォーク	屋外	500	西日本新聞社
11 月 14 日	展示	第 32 回読売学生書展(書道パフォーマンス)	エントランス	180	読売新聞西部本社
11 月 14 日	イベント	第 32 回読売学生書展 (表彰式)	ミュージアムホール	380	読売新聞西部本社
11月21日	イベント	太宰府茶道文化連盟結成記念 第1回太宰府市民 茶会	茶室/研修室	150	太宰府茶道文化連盟
11月23日~28日	展示	みかわち焼展 (展示・販売)	ミュージアムホール /エントランス	3, 495	三川内陶磁器工業協同組合
11月23日~28日	イベント	みかわち焼展 (透かし彫り・絵付け無料体験)	研修室	243	三川内陶磁器工業協同組合
11月30日~12月5日	展示	西日本能面研究会第 16 回新作能面展	研修室	708	西日本能面研究会
12月3日	音楽会	太宰府市小学校音楽会	ミュージアムホール	679	太宰府市教育委員会/太宰府市 小学校音楽会実行委員会
12月5日	イベント	キャンパスフェスタ' 10	ミュージアムホール /エントランス	2, 533	太宰府キャンパスネットワーク 会議
12月7日~12日	展示	鞠智城ブース展示	エントランス	10, 200	熊本県/熊本県教育委員会
12月19日	講座	萩尾望都の世界—文学とアート、そして共生する ジャンル	ミュージアムホール	210	筑紫女学園大学英語学科
23 年 2 月 22 日	展示	第 5 回福岡県景観大会 「景観文化展作品等展示」	エントランス	8, 700	福岡県/福岡県美しいまちづく り協議会
23 年 2 月 26 日	イベント	第5回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」	ミュージアムホール	200	福岡県/福岡県美しいまちづく り協議会
23年3月8日	展示・ワーク ショップ	博多織プロモーション計画 3 展示会・ワークショップ「博多織に触れよう(仮 称)」	エントランス/研修室	10, 261	九州産業大学芸術学部
-	•	•	•		

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
23 年 3 月 13 日	講演会	博多織プロモーション計画 3 講演会「献上博多織の技と心(仮題)」	ミュージアムホール	100	九州産業大学芸術学部
23年3月19日	コンサート	うたで結ぶ 太宰府~鶴岡コンサート (関雅子)	ミュージアムホール	250	九州国立博物館振興財団
23 年 3 月 26 日	イベント	九博を愛する会 米つくり隊「唐臼式もちつき」	屋外	100	九州国立博物館を愛する会
23年3月26日	イベント	日韓交流茶会	エントランス	350	九州国立博物館振興財団/傳統 禮節振興会

2) 館主催・協力イベント 86件

	カイヘント	80 忻	V 18		/# * /
期間	種類 音楽会	イベント等の概要	会場	出席者(人) 110	備考した場合は特別のと毎日本では大
4月16日	百栄云	きゅーはくカフェコンサート 第 71 回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	110	九州国立博物館/福岡女子短大
4月17日	音楽会	~ヴェルサイユのしらべ~	ミュージアムホール	250	九州国立博物館
4月18日	シンポジウ ム	シンポジウム 文化遺産をもっと知ろう 訪問 しよう	ミュージアムホール	_	NPO 法人世界遺産ネットワーク
4月23日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	九州国立博物館/福岡女子短大
4月27日~5月5日	展示	ボランティア企画イベント 昭和の日 「懐かしいSL機関車と昔のカメラ展」	エントランス	35, 600	九州国立博物館ボランティア
4月29日 5月14日	音楽会 音楽会	弦楽合奏団ムジーク・ルンデ 春のコンサート きゅーはくカフェコンサート	ミュージアムホール エントランス	200 150	弦楽合奏団「ムジーク・ルンデ」 九州国立博物館/福岡女子短大
5月15日	ロ ボム ワークショ ップ	第1回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	15	九州国立博物館
5月16日	落語	第 15 回 九博朝日寄席 「藤兵衛、喜多八 二人会」	ミュージアムホール	231	九州国立博物館/朝日新聞社
5月23日	音楽会	第 72 回 きゅーはくミュージアムコンサート 〜パリの街角〜	エントランス	210	九州国立博物館
5月28日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	110	九州国立博物館/福岡女子短大
6月1日	トークショー	アジア代表日本 2010 田嶋幸三氏×日比野克彦氏トークショー	エントランス	100	「アジア代表日本 2010」実行委員 会
6月1日~7月11 日	展示	アジア代表日本 2010 ASIAN MATCH FLAG PROJECT (マッチフラッグの上 空展示)	エントランス	86, 000	「アジア代表日本 2010」実行委員 会
6月1日~18日	展示	アジア代表日本 2010 日本サッカーミュージアム所蔵ペナント展	ミュージアムホール	27, 700	「アジア代表日本 2010」実行委員 会
6月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	160	九州国立博物館/福岡女子短大
6月12日	音楽会	第 73 回 きゅーはくミュージアムコンサート 〜古楽器による太陽王の時代の音楽〜	エントランス	230	九州国立博物館
6月19日	ワークショ ップ	第2回 ガムランワークショップ	特別展示室前スペース	50	九州国立博物館
6月25日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	九州国立博物館/福岡女子短大
7月6日~11日	イベント	ボランティア企画イベント 七夕	エントランス	_	九州国立博物館ボランティア
7月11日	音楽会	太宰府市民吹奏楽団 第6回まほろばコンサート	ミュージアムホール	460	太宰府市民吹奏楽団/九州国立 博物館
7月13日~25日	展示	筑豊の近代化遺産展	エントランス	25, 000	筑豊文化財行政連絡協議会
7月16日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	九州国立博物館/福岡女子短大
7月17日	ワークショ ップ	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	12	九州国立博物館
7月23日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	九州国立博物館/福岡女子短大
7月24日	音楽会	第 74 回 きゅーはくミュージアムコンサート 〜大草原に響く馬頭琴の調べ〜	ミュージアムホール	140	九州国立博物館
7月27日~8月1 日	展示	〜環(わ)〜いのちのたび博物館・九州国立博物 館	エントランス	12, 500	九州国立博物館∕北九州市立自然史・歴史博物館
8月3日・4日	ワークショ ップ	ハーリー船をつくってみよう	ミュージアムホール	50	九州国立博物館
8月6日	ワークショ ップ	ボランティアワークショップ「木目込みまりづくり」	ミュージアムホール	24	九州国立博物館ボランティア
8月7日・8日	イベント	九博 こども向け夏休みイベント 「いこうよ!あじっぱ夏祭り2010」	ミュージアムホール /エントランス	360	九州国立博物館
8月10日~27日	展示	バードライフ・アジア主催巡回写真展 「藤原幸一・観光写真セレクション」地球の声が きこえる	エントランス	44, 100	NPO 法人バードライフ・アジア
8月13日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	九州国立博物館/福岡女子短大
8月17日	ワークショ ップ	ボランティアワークショップ「ハニワの色付け体 験」	ミュージアムホール	130	九州国立博物館ボランティア
8月21日・22日	シンポジウ ム	平成 22 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備 支援事業 公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」	ミュージアムホール	236	九州国立博物館
8月25日	イベント	飾り山神事「御神入れ(ごしんいれ)」	エントランス	30	西日本新聞社
8月27日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	九州国立博物館/福岡女子短大
8月28日・29日	イベント	吉野ヶ里 Days in 九博	ミュージアムホール	1, 314	佐賀県教育委員会/(財)佐賀県 芸術文化育成基金/国営吉野ヶ 里歴史公園事務所/(財)公園緑 地管理財団吉野ヶ里公園管理セ ンター
8月28日	音楽会	第 75 回 きゅーはくミュージアムコンサート ~音で旅する世界旅行~	エントランス	240	九州国立博物館
9月5日	イベント	つくし御当地検定 〜九州国立博物館と4市1町の魅力再発見〜	ミュージアムホール /研修室	150	(社)つくし青年会議所
9月12日	落語	第 16 回 九博朝日寄席 「鯉昇の落語、三三の落語をきく九月」	ミュージアムホール	215	九州国立博物館/朝日新聞社
9月17日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	九州国立博物館/福岡女子短大
9月18日	音楽会	第76 回 きゅーはくミュージアムコンサート ~情熱の秋~	エントランス	150	九州国立博物館
10月5日~24日	展示	開館 5 周年記念イベント「パネル展 九博のあゆ み」	エントランス	57, 600	九州国立博物館
10月8日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	九州国立博物館/福岡女子短大
				·	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
10月9日~17日、 23日・24日、30日・31日	イベント	開館 5 周年記念イベント「九博大茶会」	茶室/エントランス	1, 962	九州国立博物館
10月11日	音楽会	第77回 きゅーはくミュージアムコンサート 開館5周年記念 博多の伝統芸能~博多芸妓の世 界~	ミュージアムホール	300	九州国立博物館
10月15日~17日	イベント	開館 5 周年記念イベント「九州人形浄瑠璃フェス ティバル」	ミュージアムホール	671	九州国立博物館
10月15日~24日	イベント	第5回九州地域ブランドフォーラム 九州郷土品祭り	エントランス/屋外	30, 000	日本イベントプロデュース協会 九州本部
10月23日	ワークショ ップ	第4回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50	九州国立博物館
10月28日~31日	展示	開館5周年記念ボランティア企画イベント 懐かしの蒸気機関車と昔のカメラ展(九博ボラン	エントランス	12, 700	九州国立博物館ボランティア
10月29日	音楽会	│ ティアフェスタ) │ きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	┃ ┃ 九州国立博物館/福岡女子短大
10月30日	講演会	九州歴史資料館開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」 開催記念講演会「展望・大宰府研究 —蔵司跡の 調査から—」	ミュージアムホール	300	九州歴史資料館/九州国立博物館/(財)太宰府顕彰会/(財) 古都大宰府保存協会
10月31日	イベント	開館 5 周年記念ボランティア企画イベント 「九博ボランティアフェスタ」	エントランス/研修 室	3, 000	九州国立博物館ボランティア
11月3日	イベント	入館者 800 万人達成記念セレモニー	エントランス	800	九州国立博物館
11月3日	イベント	第 78 回 きゅーはくミュージアムコンサート 懐かしき"ちんどん屋の世界"	エントランス	130	九州国立博物館
11月5日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	九州国立博物館/福岡女子短大
11月13日	ワークショ ップ	第5回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	5	九州国立博物館
11月16日~21日	展示	市民建築文化展・九州	エントランス/研修 室/ミュージアムホ ール	24, 201	市民建築文化展・九州実行委員会
11月18日	フォーラム	文化庁 第8回国際文化フォーラム 福岡セッション「文化観光の可能性」	ミュージアムホール	100	文化庁/福岡県/九州国立博物館/日経新聞社/NHK/九州・沖縄文化力推進会議
11月26日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	140	九州国立博物館/福岡女子短大
12月10日	音楽会 ワークショ	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	九州国立博物館/福岡女子短大
12月11日	ップ	第6回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	7	九州国立博物館
12月12日	音楽会	第 79 回 きゅーはくミュージアムコンサート ゴスペルコンサート@ミュージアム	エントランス	180	九州国立博物館
12月17日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	九州国立博物館/福岡女子短大
12月18日	シンポジウ ム	国際シンポジウム「契丹国(遼王朝)の美術と文 化」	ミュージアムホール	117	九州国立博物館
23年1月3日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」	屋外/エントランス	700	九州国立博物館ボランティア
23 年 1 月 18 日~ 30 日	展示	ひなの国九州フェスタ 2011	研修室	10, 000	九州のひなまつり広域振興協議 会
23年1月21日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	九州国立博物館/福岡女子短大
23 年 1 月 22 日	ワークショ ップ	第7回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	5	九州国立博物館
23 年 1 月 23 日	落語	第 17 回 九博朝日寄席 "新春" 菊之丞 菊六 兄弟会	ミュージアムホール	210	九州国立博物館/朝日新聞社
23年1月28日~2月6日	展示	東長寺五重塔展	ミュージアムホール	48, 964	東長寺
23年1月28日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	
23年1月29日	音楽会	第80回 きゅーはくミュージアムコンサート	エントランス	450	九州国立博物館
23 年 1 月 29 日 23 年 2 月 15 日	展示	第1回 親子で茶道体験 筑紫地区小学校児童画展(九博子どもフェスタ同時開催)	茶室 エントランス	13, 600	九州国立博物館
23 年 2 月 19 日	ワークショ ップ	第8回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	26	九州国立博物館
23 年 2 月 20 日	イベント	九博子どもフェスタ「博物館って本当に楽しい よ!」	ミュージアムホール /エントランス/研 修室	1, 000	九州国立博物館/九州国立博物館を愛する会/九州国立博物館 ボランティア
23 年 2 月 20 日	イベント	第2回 親子で茶道体験	茶室	12	九州国立博物館
23 年 2 月 20 日	音楽会	第 81 回 きゅーはくミュージアムコンサート 平成 22 年度筑紫地区文化財写真展	エントランス	300	九州国立博物館
23 年 2 月 22 日 23 年 2 月 25 日	展示 音楽会	「ちくし再発見~文化財の匠と技~」展	エントランス	21, 700	知案地区社会教育振興協議会 九州国立博物館/福岡女子短大
23 年 2 月 25 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート きゅーはくカフェコンサート	エントランス	50	九州国立博物館/福岡女子短大 九州国立博物館/福岡女子短大
23 年 3 月 20 日	イベント	「九博活弁シアター」 明治〜昭和を飾った大衆娯楽史	ミュージアムホール	300	九州国立博物館
23 年 3 月 21 日	音楽会	第82回 きゅーはくミュージアムコンサート ~春うらら~	エントランス	260	九州国立博物館
23年3月21日	イベント	第3回 親子で茶道体験	茶室	16	九州国立博物館
23 年 3 月 25 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	九州国立博物館/福岡女子短大
23 年 3 月 26 日	イベント	第 15 回 九博デー 「筑紫ブランド座談会 私た ちの地場産業は「歴史」だった!?」	ミュージアムホール	50	九州国立博物館を愛する会

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館	〇参加者数 1,065 人《714 人》	・留学生アンケート回答者数 433 人
	留学生 977 人《635 人》	回収率 41%
10月3日(日)	同伴者 88 人《 79 人》	・出身国:中国 38%、台湾 15%、韓国 12%、ド
9:30~18:00	(ALT 7人含む)	イツ 4% 他
	- 平常展のみ無料観覧	・認知経路: ポスター56%(ポスターと回答したう
	・博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」 参	ちの掲示場所: 学校 198 件、地下鉄 18 件)、友
	加者数:90人(2回計)	人から 26%、学校関係者から 12%
	・ボランティアによる茶会	
	参加者数: 156 人(4回計)	・参加したイベント: 観覧のみ 39%、お茶会 23%、
	・ボランティアによる英語ガイド	博物館紹介 18%、浮世絵ガイドツアー13%、英
二	・浮世絵ガイドツアー 〇入館者 184 人《136 人》	語ガイド 11%
京都国立博物館	○八郎有 164 人 《130 人》 留学生 182 人 《132 人》	・留学生アンケート回答者数 71 人 (回収率 38%)
10月23日(土)		(回収率 30%) ・初めて来館した人が 88%
9 : 30~18 : 00	同伴者 2 人《 4 人》 	
3.00 10.00	 ・お茶会(11 時~14 時)	- 23%がポスター·チラシで知り、62%が先生·友 達から聞いて来た
	110 人《 72 人》	・出身国:約8割がアジア
	- 特別展覧会「高僧と袈裟」無料観覧	・約6割がお茶会に参加
	- 何別成見云「同旧C衣衣」無付賦見 	- お茶会の満足度 94%
		・特別展の満足度 92%
		・日本の歴史、美術に興味のある方が多い
		- 日本の歴史、天間に央外ののも万が多い
————————— 奈良国立博物館	○入館者 11,806 人《13,334 人》	・アンケート実施せず
XXIII IXXI	留学生 99 人《 77 人》	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
11月1日(月)		
9:00~18:00	 ・「正倉院展」(特別展)及び平常展の無料観覧	
(正倉院展会期中		
のため 9:00 開館)		
九州国立博物館	〇入館者数	・留学生アンケート回答者数5人
44 = 0 = (1 = 1=)	文化交流展(平常展)1,464人《1,897人》	(回収率 3%)
11月3日(水・祝)	留学生 178 人《316 人》	・出身国:ドイツ 40%、中国 20%、インド 20%、イ
9:30~17:00	工学R 0.2. 無料知能	ンドネシア 20%
	・平常展のみ無料観覧 ・映画「Tchindon(ちんどん)」上映会	- 初めて来館した人 80% - 認知経路: 友達から聞いた 60%、学校関係者か
	・映画 「Ichindon(らんとん)」上映会 ・きゅーはくミュージアムコンサート	・認知経路:及達から聞いた 60%、字校関係者か ら 20%
	・さゆーはくミュージ/ ムコンリート 懐かしき"ちんどん屋の世界"	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	BY OC SWEWEST	博物館を観察することが好きだから 40%
		・参加イベント: どれにも参加していない 40%、
		ちんどん(映画)20%、ちんどん(踊り)20%
		・文化交流展満足度:100%(感想、ご意見より)

* 入館者数:《 》内は平成21年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成23年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者	9か所	4か所	3か所	6 か所
用トイレ	(本館4、平成館2、東洋館1、	(特別展示館1、南門施設1(乳	(東新館1、地下回廊2)	(本体建物)
	法隆寺宝物館1、資料館1)	児ベッド併設)、屋外トイレ1、		
		文化財保存修理所1		
障がい者	8基	昇降装置1基	4基	2基
用エレベ	(本館2、平成館1、東洋館4、	(管理棟1)	(本館1、本館附属棟1、東新	(本体建物)
ータ	法隆寺宝物館1)		館1、西新館1)	
スロープ	4か所	3か所	3か所	
	(本館、東洋館、法隆寺宝	(南門施設1、本館1、文化財保		_
	物館、表慶館)	存修理所1)	館1)	
	0.75	0.4		0 /
ハンディ	2台	3台	_	3 台
キャップ				
優先駐車	10.6	10.6	10.6	
車椅子	13台	16台	10台	21 台
	(本館2台、東洋館1、平成			
	館7、法隆寺宝物館1、表慶			
乳幼児用	館1、正門1) 〇ベビーシート 12か所	Oベビーカー 6台	〇ベビーシート 2か所	Oベビーカー 5台
刊 記備	Oベビーシート 12か所 Oベビーチェア 9か所	〇ベビーシート 6か所		•
記文7月		〇チャイルドシート 2か所		〇ベビーシート 15か所
00左座敷	・東洋館にステップフロアの各	077712F2-F 25F61		〇ベビーチェア 6か所
22年度整	・ 泉洋館にステッププロアの台 - 床に停止するエレベーター			
備事項	を設置した。(平成24年以降			
	開館)			
	・庭園の舗装を改良し、歩行や			
	車椅子に配慮した。			
	・本館13台、平成館4台の和便			
	器を洋便器に変更した。			

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

2-(3)-(2) 目戸ガイド关ル(人)が						
東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館			
・総合文化展	・特別展	・特別展	・文化交流展示			
(ガイド端末) 23年1月17日~	「長谷川等伯」	「大遣唐使展」	8, 587台			
4月17日	(日本語版・一般向け)	(日本語版・一般向け)	(英語版 1,627台)			
(~3/31):2,217台	36, 843台	27, 110台	(中国語版 2,186台)			
	・特別展観		(韓国語版 4,774台)			
• 特別展	「上田秋成」					
「細川家の至宝」	特集陳列	・特別展	・特別展			
33, 507台	「新収品展」	「第62回正倉院展」	「パリに咲いた古伊万里の			
	(日本語版・一般向け)	(日本語版・一般向け)	華」			
• 特別展	1, 493台	40,960台	7, 418台			
「誕生!中国文明」	・特別展	(英語版・一般向け)	・特別展			
15, 291台	「高僧と袈裟」	250台	「馬 アジアを駆けた二千			
	(日本語版・一般向け)	(日本語版・子供向け)	年」			
• 特別展	1, 927台	899台	3, 443台			
「東大寺大仏」	・特別展		・特別展			
46, 596台	「筆墨精神」		「誕生!中国文明」			
	特集陳列		5, 226台			
• 特別展	「園田湖城」		・特別展			
「仏教伝来の道 平山郁夫と文	(日本語版・一般向け)		「没後120年 ゴッホ展」			
化財保護」	5, 734台		57, 043台			
35, 456台	・特別展					
	「法然」(会期は5月8日まで)					
	(日本語版・一般向け)					
	(~3/31):1,671台					

3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

3-(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

(後述の資料に記載) 〇共诵資料c-(3)

3-(1)-② 論文等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

3-(1)-③ 調査研究刊行物一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

3-(1)-4 シンポジウム開催実績一覧

平成23年3月31日現在

合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
9件	1件	2件	2件	4件

【東京国立博物館】

〇ワークショップ 東京国立博物館の臨床保存(科学研究費補助金(基盤(S) (平成20年~24年)) 「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研

究」) 開催日 平成23年1月11日 開催場所 ルーブル美術館会議室

東京国立博物館保存修復課、ルーブル美術館版画素描部門

参加人数

事業内容 東京国立博物館が日常的に実践している臨床保存の理論と具体的な活動内容をルーブル美術館で働く保存修復家に紹介し、臨床保存の普及と内容的な深化を目指し

た討論を行った。討論の結果を、包括的保存システムの構築に反映させる予定である。

【京都国立博物館】

〇文化財保護法60年記念事業 シンポジウム『美を伝える』京都国立博物館 文化財保存修理所三十年の歩み

開催日 5月26日

開催場所 京都テルサホール

京都国立博物館文化財保存修理所設立三十周年記念シンポジウム実行委員会 主 催

参加人数 674 J

文化財保存修理所の設立30周年を記念し、文化財修理に関する講演の第一部と、実際に文化財を修理する現場からの報告の第二部からなるシンポジウムを開催した。 事業内容

○国際シンポジウム『染織品にみる東アジア交流 ―宋・元・明時代の中国とその周辺―』

開催日 11月13日

国立京都国際会館 アネックスホール 開催場所

主 催 京都国立博物館

参加人数 213人

特別展覧会「高僧と袈裟」開催を記念し、国内外の高名な研究者5名をお招きし、中世染織品の各国における研究現状を共有し、東アジア染織史の基準作を把握すべ 事業内容

くディスカッションを行った。研究発表の第一部とパネル・ディスカッションの第二部からなる。

【奈良国立博物館】

○国際学術シンポジウム「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」

6 **月**5 **月** 盟催日

奈良国立博物館講堂 開催場所 奈良国立博物館 主 催

__ 参加人数 150名

特別展「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」の開催を記念し、我が国の歴史上における遣唐使の意義につき、特に造形芸術の視点で議論を行った。第一部は当館研究 事業内容 員2名を含む研究者4名による研究発表を行い、第二部は右の4名に司会者を加えてのパネルディスカッションを行って、当該テーマについての議論を深めた。

〇正倉院学術シンポジウム2010「正倉院宝物はどこで作られたか」

10月24日 開催日

開催場所 奈良県文化会館 小ホール

奈良国立博物館 Ì 催 後 読売新聞社 参加人数

正倉院宝物の製作地をテーマとして、舶載品と国産品の素材研究による製作地の考察や工芸技法に見られる国産品の特徴などを主題として開催した。第一部は当館研 事業内容

【九州国立博物館】

〇特別展「馬 アジアを駆けた二千年」関連 シンポジウム「藤ノ木古墳の馬具」

開催日 7月18日

九州国立博物館ミュージアムホール 開催場所

九州国立博物館 主 催

__ 参加者数 113人

. 事業内容 今回の出品作品のうち最も注目され、古墳時代馬具の最高峰である奈良県藤ノ木古墳出土馬具を中心として、その精巧な技術を自然科学分析から明らかにし、製作 地や時代背景について最新の考古学研究の成果が報告された。

O公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム I PM」

開催日 8月21日~22日

カ州国立博物館ミュージアムホール 開催場所

九州国立博物館(平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業) 催

連携協力機関 福岡県立美術館、九州歴史資料館、太宰府市文化ふれあい館、筑紫野市歴史博物館、久留米大学比較文化研究所、

援 後

NPO法人文化財保存活用支援センター、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター 福岡県教育委員会、太宰府市、大野城市教育委員会、春日市教育委員会、那珂川町教育委員会、 九州文化財国際交流基金、九州国立博物館を愛する会、財団法人文化財虫害研究所、一般社団法人文化財保存修復学会、一般社団法人国宝修理装こう師連盟、西日

本新聞社

参加者数

ミュージアム I PM(総合的有害生物管理)の重要性・必要性を広く社会に発信すると共に、市民活動の成果を照会し、その担い手である支援者からのメッセージを地域社会へ伝える。 事業内容

〇文化庁 第8回国際文化フォーラム福岡セッション「文化観光の可能性」 開催日 11月18日

開催場所 九州国立博物館ミュージアムホール

文化庁、福岡県、日本経済新聞社、NHK、九州・沖縄文化力推進会議、九州国立博物館

参加者数 100人

・ 美術館・博物館・文化財、パフォーミングアーツ、祭り等の伝統文化やポップカルチャー等の現代文化、また、映画やドラマの舞台といった新たな文化資源を活用 した観光促進方策について、関係分野の有識者による論議を行うことにより、観光振興に資する文化発信の在り方について考えるフォーラム。 事業内容

○国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と文化」

九州国立博物館ミュージアムホール 開催場所

主催缓缓

九州国立博物館 中華人民共和国

『注稿日本 (財) 九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、

九州文化財国際交流基金

参加者数 117人

事業内容 遼王朝時代(916~1125年)の美術と文化に焦点を当てて、中国内蒙古自治区で相次ぐ王侯貴族の墓などに関する最新の研究成果や動向、またトルキ山遼墓から発掘

された木製彩棺の保存修復作業について報告するシンポジウム。

3-(2) 海外研究者の招聘

3-(2)-① 研究交流実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-①

3-(3) 公私立博物館等への貸与の推進

3-(3)-(1) 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成23年3月31日現在

<u> </u>	<u>u, u</u>	<u> </u>	<u> 그는 [작]</u>	77 47 7	, ,,,	<u>'12 183</u>	нн	PJ P C F	# 2	了 IT系	<u> </u>		1 1904	<u> 2040,</u>	/]01 =	ラルエ
		国工	と博物館 かんりゅう かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	官計		国立博	物館	京都	国立博	物館		国立博	物館		国立博	物館
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与	-先件数	301	278	23	150	138	12	74	70	4	43	39	4	34	31	3
合	計	1, 936	1, 712	224	1, 315	1, 155	160	297	281	16	159	145	14	165	131	34
ş	絵画	395	301	94	203	137	66	118	105	13	67	54	13	7	5	2
171	書跡	89	88	1	34	34	0	34	34	0	12	12	0	9	8	1
	彫刻	198	186	12	125	116	9	14	13	1	54	53	1	5	4	1
_	建築	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	金工	100	78	22	76	63	13	\ 9	1 7	լ 2	6	6	0	9	2	7
	刀剣	24	14	10	20	14	6	J	J	J	0	0	0	4	0	4
	陶磁	117	103	14	93	80	13	13	13	0	0	0	0	11	10	1
	漆工	92	83	9	48	44	4	31	31	0	5	5	0	8	3	5
	染織	63	58	5	40	35	5	22	22	0	1	1	0	0	0	0
	考古	350	330	20	207	199	8	20	20	0	14	14	0	109	97	12
	族資料	9	9		9	9	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	史資料	95			57	57	0	36	36		0	0	0	2	1	1
7	和書	4	4	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵画	27	4	23	27	4	23									/
	書跡	23		6	23	17	6									
東	彫刻	9	2	7	9	2	7									
> 1<	金工	0	0	0	0	0	0			/			/			/
	陶磁	91	91	0	91	91	0									
洋	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	2	2	0	2	2	0		/			/			/	
	考古	53		0	53	53			7			,		/	,	
_ n/2 =	民族	0	0	0	0	0	0									
	宇献納宝物	8	8		8	8	0	/								
	念館収蔵品	183			183	183	0	/			/			/		

^{*}巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
彰与	先件数	276	279	257	248	301
合	計	1, 991	1, 737	1, 585	1, 729	1, 936
i	絵画	558	449	273	436	395
1	書跡	79	114	81	78	89
J	彫刻	79	127	168	124	198
3	建築	0	2	6	3	2
1	金工	143	113	110	98	100
	刀剣	61	18	76	121	24
[陶磁	223	206	100	103	117
;	泰工	94	52	91	92	92
ž	染織	167	92	403	102	63
- 7	考古	260	275	183	414	350
民	族資料	31	4	0	13	9
歴	史資料	22	13	23	11	95
7	和書	30	15	12	12	4
	絵画	12	18	21	23	27
	書跡	23	23	3	4	23
東	彫刻	5	50	15	8	9
木	金工	2	0	0	0	0
	陶磁	129	141	5	44	91
洋	漆工	8	0	2	0	2
<i>,</i> –	染織	5	0	0	0	2
	考古	58	22	12	21	53
	民族	0	0	0	0	0
	宇献納宝物	2	3	1	0	8
黒田記	念館収蔵品	0	0	0	22	183

^{*}東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(3)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数 ○収蔵品

平成23年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	205	1, 282	129	1, 087	44	142	22	38	10	15
国・国立	24	162	15	142	4	12	3	5	2	3
地方・公立	145	824	88	667	32	115	18	31	7	11
私立団体	36	296	26	278	8	15	1	2	1	1
海外	21	193	12	159	3	10	3	9	3	15

平成23年3月31日現在 ○寄託品

O PI HUHH							1 770== 1 -71 - 1 - 70 =			
	国立博	物館計	東京国立	江博物館	京都国立	は博物館	奈良国国	立博物館	九州国立	5博物館
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	127	430	30	68	46	139	27	107	24	116
国・国立	14	51	4	15	3	6	4	26	3	4
地方・公立	93	343	18	44	36	120	21	72	18	107
私立団体	20	36	8	9	7	13	2	9	3	5
海外	7	31	1	1	3	6	2	5	1	19

3-(3)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】 海外貸与先 12件 海外貸与文化財 160件[うち寄託品 1件]

	:= /#// X 3 /	F & D - N D D D D D D D D D D D D D D D D D D	
展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数(件)
文化庁海外展「日本の美 5000 年 (Enduring Beauty:	東京国立博物館、文化庁、トルコ共和国文化	平成 22 年 5 月 5 日~6 月 28 日	43 件
5000 Years of Japanease Art) J	観光省【トプカプ宮殿博物館(トルコ共和国		(絵画 14、彫刻 6、金工 4、
	イスタンブール)】		刀剣 3、陶磁 5、漆工 3、
			染織 5、考古 3)
上海万国博覧会 万博博物館、都市足跡館展示	上海万博事務局、上海博物館【万博博物館·	平成 22 年 5 月 1 日~11 月 15 日	53 件
	都市足跡館(中華人民共和国上海市)】		(絵画 48、金工 1、陶磁 4)
文化庁海外展「アジアへの道」展	文化庁・ブリュッセル芸術センター【ブリュ	平成 22 年 6 月 25 日~10 月 10 日	4 件
	ッセル芸術宮殿(ベルギー王国ブリュッセル		(金工1、陶磁2、考古1)
	市)】		
「京都-東京―侍からマンガまで―」展	グリマルディ・フォーラム・モナコ【グリマ	平成 22 年 7 月 14 日~9 月 12 日	5 件
	ルディ・フォーラム・モナコ エスパス・ラ		(絵画 2、彫刻 3)
	ベル(モナコ公国モナコ市)】		
海外展 上海万博開催記念「千年丹青ー日本・中国	東京国立博物館、上海博物館 【上海博物館(中	平成 22 年 9 月 28 日~11 月 23 日	東洋絵画 20
珍蔵唐宋元絵画精品展-」	華人民共和国上海市)】		
特別展「百済の冠」	国立公州博物館・2010 世界大百済典推進委員	平成 22 年 9 月 18 日~10 月 17 日	考古 3
	会【国立公州博物館(大韓民国公州市)】		
海外展「高麗仏画大展」	大韓民国 国立中央博物館 【国立中央博物館	平成 22 年 10 月 12 日~11 月 21 日	5[1]
	(大韓民国ソウル市)】		(絵画 2、東洋絵画 3[1])
「南宋芸術文化展」	国立故宮博物院【国立故宮博物院(台湾台北	平成 22 年 10 月 8 日~12 月 25 日	東洋書跡 6
	市)】		
「歴代沈壽官展」	朝日新聞社、歴代沈壽官展実行委員会【パリ・	平成 22 年 10 月 5 日~12 月 11 日	陶磁 1
	三越エトワール (フランス共和国パリ市)】		
文化庁海外展「日本とタイ-ふたつの国の巧と美-」	文化庁、タイ王国文化省芸術局、九州国立博	平成 23 年 1 月 15 日~3 月 13 日	13
展	物館・福岡県【バンコク国立博物館(タイ王		(金工7、刀剣3、陶磁1、
	国バンコク)】		漆工1、考古1)
「東南アジア展示」(長期貸与)	大韓民国 国立中央博物館 【国立中央博物館	平成 22 年 2 月 1 日	東洋彫刻 5
	(大韓民国ソウル市)】	~平成 24 年 3 月 10 日	
常設展示 (長期貸与)	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ	平成14年1月1日	東洋彫刻 2
	美術館 (フランス共和国パリ市)】	~平成 23 年 12 月 31 日	_

【京都国立博物館】 海外貸与先 4件 海外貸与文化財 16件[うち寄託品 6件]

E-1-1	***************************************		
展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数(件)
「南宋的藝術與文化特展」(仮称)	國立故宮博物院	平成 22 年 10 月 2 日	絵画 2[1]
		~平成 23 年 1 月 18 日	
「京都一東京、侍からマンガ」	グリマルディ・フォーラム・モナコ	平成 22 年 6 月 23 日~10 月 4 日	6
			(絵画 3、彫刻 1、金工 2)
「千年丹青—日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」	東京国立博物館・上海博物館【上海博物館】	平成 22 年 9 月 6 日~12 月 12 日	絵画 4[1]
「高麗仏画大展」(仮称)	韓国国立中央博物館	平成 22 年 9 月 13 日~12 月 9 日	絵画 4[4]

【奈良国立博物館】 海外貸与先 4件 海外貸与文化財 14件[うち寄託品 5件]

		A MARCHM ALLT	
展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数(件)
メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館	平成22年 9月10日	絵画1[1]
「クビライ・カーンの世界:元王朝の中国美術」		~平成23年 1月 2日	
東京国立博物館、上海博物館 「千年丹青ー日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」	東京国立博物館、上海博物館 【上海博物館】	平成22年 9月28日~11月23日	絵画2
韓国国立中央博物館「高麗仏画大展」	韓国国立中央博物館	平成22年10月12日~11月21日	絵画10[4]
バンコク国立博物館 文化庁主催「ふたつの国の巧みと美」	バンコク国立博物館	平成22年12月21日~4月上旬	彫刻1

【九州国立博物館】 海外貸与先 3件 海外貸与文化財 34件[うち寄託品 19件]

E		2 - HOMM 1112	
展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数(件)
特別展「フビライ・カーンの世界ー元代の中国美術」	メトロポリタン美術館	平成 22 年 8 月 20 日	漆工 1
		~平成 23 年 1 月 21 日	
「千年丹青一日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展一」	上海博物館	平成 22 年 9 月 1 日~12 月 15 日	絵画 1
文化庁主催「ふたつの国の巧と美」展	文化庁・九州国立博物館・バンコク国立博物館	平成 22 年 12 月 10 日	32
		~平成 23 年 3 月 25 日	(絵画1、書跡1、彫刻1、金
			エ7[7]、刀剣4 [3]、陶磁1
			[1]、漆工4[1]、考古
			12[7]、歴史資料1)

3-(3)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数(件)	借用件数(件)
福岡市博物館	13	18
鹿児島県歴史資料センター黎明館	30	34

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数 (件)	借用件数(件)
うきたむ風土記の丘考古資料館(山形県)	0	21
山形県立博物館(山形県)	1	0
南相馬市博物館(福島県)	139	2

3-(4) 公私立博物館等に対する援助・助言の推進

3-(4)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
319件	84件	123件	35件	77件

【東京国立博物館】84件

		+ -	#n BB	FD V/ FY
	機関	内 容	期間	担当者
1	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部門)	4月1日~23年3月31日	学芸企画部長 松本伸之
2	奈良県立美術館	特別展「花鳥画」中国・朝鮮部分監修	9月28日~11月14日	同上
3	新潟県立近代美術館	ユネスコ無形文化財遺産登録記念 重要無形文化財「小千谷縮・越後上布」展の展示・撤収指導	6月10日、6月28日	企画課特別展室主任研究員 小 山弓弦葉
4	高野山 正智院	正智院所蔵染織(袈裟・打敷・幕等)の調査協力および調書 作成	8月5日~7日	同上
5	京都染織文化協会	「染織祭」に使用された女性歴代服装資料の調査協力および 調書作成	8月9日	同上
6	静岡県教育委員会	江川文庫西蔵文書記録等調査	11月27日~28日	同上
7	東京都江戸東京博物館	江川大岸四城大書記録号師直 2011年大河ドラマ特別展「江 一姫たちの戦国一」展における展示・撤収指導	12月25日、23年1月27日	同上
8	松戸市教育委員会	松戸市小金東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」の市指定にあたっての調査	11月16日	企画課特別展室主任研究員 沖 松健次郎
9	国立民族学博物館	平成22年度「博物館学集中コース」見学研修講師	5月19日	企画課国際交流室長 鬼頭智美
10	ルーブル美術館	来館者数および来館者傾向と分析について	4月13日、5月21日、7月27日、10月15日、23年1月18日	企画理国際交流安研究員 造藤
11	ヴィクトリア・アンド・アルバート 美術館	日本の博物館・美術館来館者および非来館者の傾向について	23年1月13日	同上
12	根津美術館	特別展「南宋の青磁」特別講演会講師	11月6日	博物館教育課長 今井敦
13	フュージョン・ファイヴ協同組合	中国古陶磁研究調査に関する技術指導及び助言	23年1月5日~3月31日	同上
				同上
14	筑波大学	石井コレクション東洋陶磁の調査	23年1月19日	• • -
15	長崎県立対馬歴史民俗資料館	宗家文庫資料絵図類等調査委員会委員	5月29日~30日、23年2月 26日~27日	藤信二
16	兵庫県立歴史博物館	教育普及事業の指導・助言	23年1月2日	博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり
17	韓国国立果川科学館	博物館におけるボランティア活動について、東京国立博物館 の事例発表と指導・助言	9月3日	博物館教育課ボランティア室研究員 藤田千織
18	グラスゴー博物館群	グラスゴー博物館群所蔵1878年東京・グラスゴー交換品に関する調査	23年1月10日~11日	博物館情報課長 高橋祐次、企画課国際交流室研究員 調整室長 子、列品管理課平常展調整室長 白井克也、 明祖 田東
19	国立歴史民俗博物館	- 「武士とは何か」展示プロジェクト委員	4月1日~23年3月31日	博物館情報課長 高橋裕次
13	国立正义氏旧符初品	「武工とは門が」展示プロフェブト安員	4万1日 - 20年0万01日	
20	文化庁文化財部美術学芸課	第6回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーの講師		博物館情報課情報管理室主任研究員 村田良二
21	永青文庫	収蔵品データベース構築に関する助言	7月28日	同上
22	文化庁	メディア芸術デジタルアーカイブ構築事業に関する助言	9月22日	同上
23	総務省	メタデータ情報研究会出席	11月11日	同上
24	文化庁	メディア芸術デジタルアーカイブ (メディアアート分野) 構 築事業 検討委員会 委員	12月17日、23年1月18日	博物館情報課情報管理室長 村田良二
25	日本活断層学会	日本活断層学会、「日本の活断層百景」の専門委員	4月~23年3月	博物館情報課情報管理室 アソシエイトフェロー 原田明夫
26	日本活断層学会	日本活断層学会企画「日本の活断層・フォトコンクール」実 行委員	4月~23年3月	同上
27	東京大学総合博物館	ミュージアムにおける映像活用に関する研修「映像博物学の 挑戦」への参加	11月8日~12日	同上
28	全国美術館会議	美術情報・資料の活用法一展覧会カタログからWebまで一(全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー)第1講「展覧会カタログ」講師	9月9日	博物館情報課情報資料室専門職員 住広昭子
29	スリランカ・シーギリヤ博物館	地域観光振興をテーマとした研修・国際協力機構(JICA)主催のプロジェクト	5月26日	広報室長 小林牧
30	トルコ共和国 トプカピ宮殿博物館	文化庁海外古美術展「日本の美 5000年」展の作品の輸送随 伴、開梱、展示作業	4月23日~5月8日	上席研究員 池田 宏
31	春日大社	赤糸威鎧の修理、保存についての助言	4月1日~23年3月31日	同上
32	三井文庫記念美術館	特別展「徳川家康の遺愛品」展の展示	4月10日、5月17日、6月21 日	同上
33	オーストラリア ヴィクトリア州 国立博物館(ウェイン・クロザース 氏)	日本の武器武具などの展示、保存方法の指導助言	10月18日	同上
34	ポーランド ヴロツワフ国立博物館(ドロタ・ルシ・ミエレツカ氏)	刀剣などの研究調査、展示の指導助言	11月22日	同上
35	文化庁	文化財買取協議員	12月9日	同上
36	文化庁	文化財の選定保存技術 (第4専門調査会) 指定会議の出席	6月25日	特任研究員 澤田むつ代
37	奈良文化財研究所	マ成22年度埋蔵文化財担当者専門研修「有機質遺物の材質と保存ー機維一」 にかかる講師	10月20日	同上
38	文化庁	文化審議会専門委員会(第1専門調査会)指定会議の出席	23年3月1日~3日	同上
39	厚木市史編集委員会	又化番藤宏専門会員宏(第1専門調査会)指定会藤の田席 厚木市史編さん事業に関する調査・助言	5月9日、5月20日、8月29 日、23年3月13日	特任研究員 望月幹夫
40	神奈川県教育委員会	神奈川県文化財保護審議委員会委員(考古分野担当)	5月25日、10月26日、23年 2月8日	同上
			∠ 710 ⊔	

世 別	4
□	
20	
14	
# 第次文化財研究所	
6	
20	≨弘幸
14	
49 京東市	
2 公政市 公立市 公政市 公立市 公政市 公立市 公司市 公立市 公立市 公司市 公立市 公司市 公立市 公司市	
10月1日 別点 第日要身会	
型立歴史長俗博物館	
固立歴史原俗博物館有古研究系	툿
安東大学代演天理参考館 安東を越えて」におけるギャラリートーク 四上 安東 安東 田東 田東 田東 田東 田東 田東	报整備室長
54	
55 演文市当代島公民館	
5日本郵政株式会社 郵政資料館 報政資料館の開放資料を活用した郵政の歴史・文化に関する 10月13日 割金研究課書跡・歴 日食島哲 12国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカ イブ化に関する調査・研究・選定委員 4月14日、6月11日 13世帯の実工芸・考 14月14日、6月11日 13世帯の実工芸・考 14月14日 14	杉刻室長
58 文化庁 1 年本の成株式会社 1 日東島管 1 日東	
50 東京文化財研究所	₹史室長
59	
信 徳川美術館 国宝「初音の譲渡」の総合的研究、(科学研究養補助金(基盤 6月23日~24日、11月14日 内内条美子子	∳古室長
60 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
63 韓	 吉室長
5月20日 調査研究課東洋室長	§古室研究員
65 文化庁 買取評価会 23年1月13日 同上 同上 同上 日本株三越 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月17日~22年4月 同上 日本機正越 作品の展示・保存環境についての調査・指導 21年11月18日~22年5月 同上 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	
66	長 浅見龍介
特別展「誕生!中国文明」展示指導 23年3月30日~4月1日 同上 保存修復課長 神庭 特別展「誕生!中国文明」展示指導 21年8月13日~22年7月12 保存修復課長 神庭 修復課環境保育室 全主任研究員 和田 13日 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	 研究員
作品の展示・保存環境についての調査・指導	
作品の展示・保存環境についての調査・指導	E主任研究員 復課環境保存
70	
72 静岡アートギャラリー(静岡市美術館に変更) 作品の展示・保存環境についての調査・指導	
12 館に変更 作品の展示・保存環境についての調査・指導 日	
74 日本橋三越 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月17日~12月17日 同上 75 九州歴史資料館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月24日~11月11日 同上 76 下関市立美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月30日~12月15日 同上 77 名古屋市秀吉清正記念館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月15日~9月14日 同上 78 常楽寺美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月21日~7月2日 同上 79 大湯ストーンサークル館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月30日~10月4日 同上 80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア ドロ本画の保存修復」講師 6月16日 日上 94 Department of Conservation and of Conservation and of Conservation and conse	
75 九州歴史資料館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月24日~11月11日 同上 76 下関市立美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月30日~12月15日 同上 77 名古屋市秀吉清正記念館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月15日~9月14日 同上 78 常楽寺美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月21日~7月2日 同上 79 大湯ストーンサークル館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月30日~10月4日 同上 80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー 鈴木晴彦 84 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and Department of Conservat	
76 下関市立美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 22年3月30日~12月15日 同上 77 名古屋市秀吉清正記念館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月15日~9月14日 同上 78 常楽寺美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月21日~7月2日 同上 79 大湯ストーンサークル館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月30日~10月4日 同上 80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシェー 鈴木晴彦 94 Department of Conservation and One Part	
77 名古屋市秀吉清正記念館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月15日~9月14日 同上 78 常楽寺美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月21日~7月2日 同上 79 大湯ストーンサークル館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月30日~10月4日 同上 80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー 鈴木晴彦 8 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and Departme	
79 大湯ストーンサークル館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 4月30日~10月4日 同上 80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー ・鈴木晴彦 83 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and Department of Conservation and Department of Conservation and Conservation and Department of Conservation and Conservat	
80 沖縄県立博物館・美術館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月18日~9月1日 同上 81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリア でもしい美術鑑賞講座 日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー 鈴木晴彦 6月16日 日上 6月16日 日上 6月16日 日上 6月16日 日上 6月16日 日上 6月16日 日上 6月1日~10月日 6月1日 6月1日~10月日 6月1日 6月1日~10月日 6月1日~10月日 6月1日~10月日 6月1日~10月日 6月1日 6月	
81 天理大学附属天理参考館 作品の展示・保存環境についての調査・指導 5月28日~7月22日 同上 82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリアの方面 かさしい美術鑑賞講座「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシェーの鈴木晴彦 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and Department of Conservatio	
82 千葉県立房総のむら 作品の展示・保存環境についての調査・指導 7月12日~10月4日 同上 83 川口市立アートギャラリー・アトリ やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー 鈴木晴彦 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and RECRET ORDITION OF CONSERVATION OF CONSERV	
83 川口市立アートギャラリー・アトリ やさしい美術鑑賞講座 「日本画の保存修復」講師 6月16日 保存修復課アソシエー 鈴木晴彦 Smithsonian Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery Department of Conservation and Recに保存の確立に向けた保存技術の日光交流 0月1日~30日 同じ	
ア	エイトフェロ
Scientific Research	

【京都国立博物館】123件

【水	都国立博物館』123件		#n nn	15.00 %
	機関	内容	期間	担当者 学芸部列品管理室 室長
1	株式会社NHKプロモーション	特別展「法然 生涯と美術」出品交渉	4月1日	若杉準治
2	東京文化財研究所	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会	4月14日,5月26日	学芸部 部長 西上 実
3	株式会社NHKプロモーション	特別展「細川家の至宝」東京会場開会式出席	4月19日~20日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
4	株式会社NHKプロモーション	特別展「法然 生涯と美術」出品交渉	4月25日~26日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
5	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため	4月26日~28日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
6	京都教育大学美術科教育研究室	鑑賞教育研究プロジェクト第5回全体会議に出席	4月24日	学芸部企画室 研究員 羽田 聡
7	一般社団法人 文化財保存修復 学会	文化財保存修復学会 平成22年度第 1 回理事会	5月11日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
8	株式会社NHKプロモーション	特別展「法然 生涯と美術」出品交渉	5月14日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
9	九州国立博物館長	平成 2 2 年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会	5月18日~19日	学芸部 部長 西上 実
10	国際仏教学大学院大学 私立大 学戦略的研究基盤形成支援事業 「東アジア仏教写本研究拠点の 形成」	「東アジア仏教写本研究拠点の形成」プロジェクト第 1 回 打合せ会及び公開研究会	5月21日~22日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
11	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	5月23日	同上
12	社団法人清風会	第48回通常総会並びに見学会	5月30日	学芸部連携協力室 室長 山下善也
13	愛知県	愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議に出席	5月31日	学芸部列品管理室 主任研究 員 山川 曉
14	京都織物卸商業組合	「京都きものサローネ」第二回研修会における講義	6月9日	同上
15	東京文化財研究所長 一般社団法人 文化財保存修復	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会	6月11日	学芸部 部長 西上 実 学芸部保存修理指導室 室長
16	一般在団法人 义化射保存修復 学会	文化財保存修復学会 第32回大会実行委員会並びにプレ シンポジウム (研究会) に出席	6月11日	字云部保存修理指導至 至長 村上 隆
17	佐渡市長	佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会	6月1日~3日	同上
18	島根大学法文学部長	出雲鰐淵寺の歴史的・総合的研究 全体会会議	6月19日~20日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
19	国際仏教学大学院大学 私立大 学戦略的研究基盤形成支援事業 「東アジア仏教写本研究拠点の 形成」	韓国:松広寺版本調査、海印寺古写本調査	6月25日~28日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
20	石見銀山資料館	鉱山展示室における展示指導、鉱山遺跡に関する調査指導	6月26日~27日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
21	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究打ち合わせ	6月29日~30日	同上
22	国際仏教学大学院大学 私立大 学戦略的研究基盤形成支援事業 「東アジア仏教写本研究拠点の 形成」	フランス国立図書館BNF・敦煌写本調査	6月6日~13日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
23	株式会社NHKプロモーション	特別展「細川家の至宝」東京会場作品撤収立ち会い	6月6日~7日	学芸部企画室 研究員 羽田 聡
24	財団法人徳川黎明会	国宝「初音の調度」の総合的研究 第7回研究会に出席	6月23日	学芸部企画室 主任研究員 永島明子
25	京都府教育委員会	平成22年度京都府文化財保護審議会第1回	7月1日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
26	幸田町教育委員会	本光寺の文化財調査	7月3日~4日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
27	一般社団法人 国宝修理装潢師 連盟	修理技術者資格制度委員会 第1回試験準備委員会	7月9日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
28	一般社団法人 国宝修理装潢師 連盟	修理技術者資格制度委員会 第1回試験準備委員会	7月9日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
29	大阪府教育委員会事務局	大阪府指定有形文化財の現地調査について 皇室用美術工芸品(三の丸尚蔵館保管)「春日権現験記絵」	7月13日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶 学芸部列品管理室 室長
30	宮内庁皇室経済主管	修理指導	7月29日~30日	若杉準治
31	京都教育大学美術科教育研究室	鑑賞教育研究プロジェクト第6回全体会議に出席	7月31日	学芸部企画室 研究員 羽田聡 学芸部保存修理指導室 室長
32	東京文化財研究所長	保存修復科学センター連絡会議	8月4日	村上 隆
33	東京国立博物館長	収蔵品に関する共同研究(東京国立博物館所蔵文化財「書 跡」特別調査会)	8月4日~6日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
34	岡山大学大学院自然科学研究科 長	バイオセラミックスに関する研究のため	8月5日~7日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
35	財団法人静岡県埋蔵文化財調査 研究所	沼津市辻畑古墳出土金属製遺物の保存処理指導	8月19日~20日	同上
36	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	8月22日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
37	東京国立博物館	法隆寺献納宝物特別調査「聖徳太子絵伝」の調査会	8月23日~25日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
38 39	文化庁文化財部美術学芸課	醍醐寺所蔵の文化財調査 「千年丹青ー日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤	8月24日~25日,27日 8月24日,26日,9月6日,9	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
	上海博物館、東京国立博物館 野﨑家塩業歴史館(財団法人竜王	収など	月13日-14日	学芸部美術室 研究員 呉孟晋
40	会館)	野﨑家塩業歴史館所蔵資料の調査指導 平成22年度沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査にかか	H22.8月26日~27日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
41	沖縄県教育委員会	る現地調査	8月30日~9月1日	学芸部企画室 室長 久保智康
42 43	川西市教育長 一般社団法人 文化財保存修復	川西市文化財審議委員会 文化財保存修復学会 平成22年度第2回理事会	8月25日 8月31日	学芸部 文化財管理監 中村康 学芸部保存修理指導室 室長
44	学会 京都府教育委員会	平成22年度京都府文化財保護審議会第1回	9月1日	村上 隆 学芸部列品管理室 室長 茶水洗浴
45	京都大学人文科学研究所	シンポジウムへの参加及びロシア所蔵敦煌写本の調査	9月2日~9月8日	│ 若杉準治 │ 学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
46	佐賀大学地域学歴史文化研究センター	地域学シンポジウム・講演会「地域学と歴史文化遺産―地域と大学―」において講演	9月4日~5日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
47	浄土宗宗祖法然上人800年	浄土宗宗祖法然上人800年 大遠忌プレス懇談会への出席	9月10日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治

	166 88	± =	Hn 88	10 W 4
48	機 関 一般社団法人 文化財保存修復	内 容 文化財保存修復学会公開シンポジウムに出席	期間 9月11日	担当者 学芸部保存修理指導室 室長
49	<u>学会</u> 株式会社 NHK プロモーション	特別展覧会「法然 生涯と美術」に伴う職員派遣(出品交	9月13日~14日	村上 隆 学芸部企画室 研究員
50	上海博物館、東京国立博物館	渉) 「千年丹青-日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤	9月14日	大原 嘉豊 学芸部 部長 西上 実
51	名古屋大学大学院文学研究科	収など 東山61号窯に関する発掘調査指導	9月23日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
52	京都教育大学美術科教育研究室	鑑賞教育研究プロジェクト第7回全体会議に出席	9月25日	学芸部企画室 研究員 羽田聡
53	株式会社NHKプロモーション	特別展覧会「法然 生涯と美術」に伴う職員派遣(出品交 渉)	9月25日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
54	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物に係る調査指導 特別調査「江戸幕府御用絵師板谷家伝来資料」の開催に伴	9月28日~30日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆 学芸部連携協力室 室長
55	東京国立博物館	う派遣依頼	9月28日~30日	山下善也
56	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	平成22年度財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所主催シンポジウム「平安時代の祈りと願い」への派遣依頼	10月3日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
57 58	島根県教育庁文化財課長 東京国立博物館	石見銀山遺跡調査に伴う調査指導 講演会「料紙の加工―日・中・韓の典籍」の講師として派	10月5日~6日 10月9日	同上 学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
59	成城大学	遣 金剛寺蔵の聖教調査	10月11日	同上
60	野﨑家塩業歴史館 (財団法人竜王	野﨑家塩業歴史館所蔵資料の調査指導	10月19日~20日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
61	会館) 島根県立古代出雲歴史博物館長	第2回古事記1300年記念展3館合同会議への出席	10月21日~23日	学芸部連携協力室 主任研究
62	島根県立古代出雲歴史博物館	第2回古事記1300年記念展3館合同会議への出席	10月21日~23日	│ 員 淺湫 毅 │ 学芸部企画室 室長 久保智康
63	学習院大学文学部	重要文化財「法然上人絵伝」研究報告会への出席	10月23日~24日	学芸部企画室 研究員 大原嘉豊
64	岡山大学大学院自然科学研究科	バイオセラミックスに関する研究のため職員派遣	10月29日~30日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
65	島根県教育委員会	石見銀山遺跡調査活用委員会への出席	10月20日	同上
66	一般社団法人 文化財保存修復 学会	文化財保存修復学会 平成22年度第3回理事会	10月22日	同上
67	島根県教育委員会	第10回神在月古代文化シンポジウム「神々の姿の変遷を 考える」講師	10月31日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
68	中城村教育委員会	中城城跡出土金属製品の鑑定に伴う職員の派遣 特別展覧会「注鉄」と注と業体」に伴う職員の派遣	11月1日~2日	学芸部企画室 室長 久保智康
69	株式会社NHKプロモーション	特別展覧会「法然 生涯と美術」に伴う職員派遣(出品交 渉)	11月4日~6日,14日~15日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
70	一般財団法人 デジタル文化財 創出機構	シンポジウム「進化するミュージアム」への講師派遣	11月5日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
71	宮内庁	皇室用美術工芸品(三の丸尚蔵館保管)「春日権現験記絵」 修理指導	11月11日~12日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
72	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究 (特別調査会「工芸 (陶磁)」) へ の派遣依頼	11月16日~17日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
73	兵庫陶芸美術館	平成22年度兵庫陶芸美術館収集予定作品の価格評価の ための派遣依頼	11月12日	同上
74	財団法人徳川黎明会	国宝「初音の調度」の総合的研究 第8回研究会に出席	11月14日	学芸部企画室 主任研究員 永島明子
75	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣	11月19日	学芸部企画室 室長 久保智康 学芸部列品管理室 主任研究
76	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣	11月19日	子会部列品管理室 工工研究 員 山川 曉 学芸部列品管理室 室長
77	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣	11月19日	若杉 準治
78 79	京都教育大学美術科教育研究室 文化庁	鑑賞教育研究プロジェクト第8回全体会議に出席 文化財の買取協議員の委嘱	11月23日 11月29日	学芸部企画室研究員 羽田聡 学芸部連携協力室 室長
80	九州国立博物館	 九州国立博物館の IPM メンテナンスについての指導	11月30日	山下善也 学芸部保存修理指導室 室長
81	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「工芸(漆工)」)へ	12月2日~3日	村上 隆 学芸部企画室 主任研究員
82	岡山大学大学院自然科学研究科	の派遣依頼 バイオセラミックスに関する研究のため職員派遣	12月2日~4日	永島明子 学芸部保存修理指導室 室長 # L
83	東京国立博物館	「千年丹青一日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤	12月2日-3日,12月11日	村上 隆 学芸部美術室 研究員 呉孟晋
84	株式会社NHKプロモーション	収など 出品交渉、作品撮影会および作品集荷のため	-12日,12月14日-16日 12月3日,17日,24日,27	学芸部列品管理室 室長
85	東京国立博物館	平成22年度第2回法隆寺献納宝物特別調査「聖徳太子絵	日, H23. 1. 19, 27 12月8日~10日	若杉準治 同上
86	財団法人大阪市博物館協会 大	伝」の調査 科学研究費補助金による研究のための職員派遣	12月13日~15日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
87	阪文化財研究所長 文化庁	文化財の買取協議員の委嘱	12月15日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶
88	学習院大学文学部	杭全神社本「聖徳太子絵伝に関する調査・研究会への参加	12月18日~19日	学芸部企画室研究員 大原 嘉豊
89 90	成城大学 大阪市立美術館	金剛寺蔵の聖教調査 作品評価のための職員派遣	12月19日 12月20日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶 学芸部工芸室 室長 尾野善裕
91	野﨑家塩業歴史館 (財団法人竜王会館)	野﨑家塩業歴史館所蔵資料の調査指導	12月21日~22日	同上
92	株式会社NHKプロモーション	作品撮影のため	12月24日	学芸部列品管理室 比嘉飛鳥
93	島根県立古代出雲歴史博物館長	古事記1300年記念 神話のふるさと 古代出雲と出雲大 社展」第1回企画会議への出席	23年1月11日	学芸部企画室 室長 久保智康
94	島根県立古代出雲歴史博物館長	「古事記1300年記念 神話のふるさと 古代出雲と出雲 大社展」第1回企画会議への出席	23年1月11日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
95	株式会社NHKプロモーション	出品依頼のため	23年1月12,13日	学芸部企画室 研究員 大原 嘉豊
96	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会に係る現地調査	23年1月14, 18日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
97	京都大学文学研究科長	市民講座「関西中国書画コレクションと京都大学」への講 師派遣	23年1月15, 29日	学芸部 室長 西上 実
98	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	23年1月16日	学芸部 上席研究員 赤尾栄慶

	機関内容		期間	担当者
99	財団法人大阪市博物館協会 大 阪文化財研究所	科学研究費補助金による研究のための職員派遣	23年1月18日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
100	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会への職員の派遣	23年1月21日	学芸部列品管理室 室長 若杉 準治
101	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会への職員の派遣	23年1月21日	学芸部列品管理室 主任研究 員 山川 曉
102	一般社団法人 文化財保存修復 学会	文化財保存修復学会 理事会	23年1月25日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
103	京都府文化財保護審議会	平成22年度京都府文化財保護審議会第2回	23年1月28日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
104	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会への職員の派遣	23年1月28日	学芸部企画室 室長 久保智康
105	国立大学法人大阪大学	東南アジア考古学会・東南アジア学会関東例会 学際ワー クショップにおける研究発表への派遣	23年1月29日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
106	文化庁	文化財の買取協議員の委嘱	23年1月31日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
107	株式会社NHKプロモーション	特別展覧会「細川家の至宝展」に伴う職員派遣	23年1月31日~2月1日	学芸部連携協力室 主任研究 員 淺湫 毅
108	大垣市教育委員会	桧遺跡の評価に関する派遣	23年2月4日	学芸部工芸室 室長 尾野善裕
109	京都府文化財保護審議会	平成22年度京都府文化財保護審議会(第3回)の開催	23年2月7日	学芸部列品管理室長 若杉準治
110	滋賀県教育委員会教育長	滋賀県文化財保護審議会への職員の派遣	23年2月8日	同上
111	滋賀県教育委員会教育長	滋賀県文化財保護審議会への職員の派遣	23年2月8日	学芸部列品管理室 主任研究 員 山川 曉
112	宮内庁	皇室用美術工芸品(三の丸尚蔵館保管)「春日権現験記絵」 修理指導	23年2月17~18日	学芸部列品管理室 室長 若杉準治
113	山口市教育委員会	大内氏関連町並遺跡出土金属生産遺物に係る調査指導	23年2月17~19日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
114	愛媛県美術館	染織作品の調査	23年2月21日	学芸部列品管理室 主任研究 員 山川 曉
115	元離宮二条城事務所長	元離宮二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会への職 員派遣	23年2月21日	学芸部保存修理指導室長 村上 隆
116	(財) 岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所	岩田東 A・岩田西遺跡出土遺物についての指導	23年2月21日	学芸部工芸室長 尾野善裕
117	野﨑家塩業歴史館 (財団法人竜王 会館)	野﨑家塩業歴史館所蔵資料の調査指導	23年2月22~23日	同上
118	一般社団法人 文化財保存修復 学会	文化財保存修復学会大会プログラム作成委員会への派遣	23年2月23日	学芸部保存修理指導室 室長 村上 隆
119	長野県埋蔵文化財センター	第7回柳沢遺跡調査指導委員会への派遣	23年2月24~25日	同上
120	財団法人大阪市博物館協会 大 阪文化財研究所	科学研究費補助金による研究のための職員派遣	23年2月27~28日	学芸部工芸室長 尾野善裕
121	財団法人大阪市博物館協会 大 阪文化財研究所	科学研究費補助金による研究のための職員派遣	23年2月25~26日	同上
		愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議に出席	23年3月14日	学芸部列品管理室 主任研究 員 山川 曉
123	川西市	川西市文化財審議委員会への派遣	23年3月28日	学芸部 文化財管理監 中村康
123	川西市	川西市文化財番議委員会への派遣	23年3月28日	字芸部 文化財管埋監 中村康

【奈良国立博物館】35件

	【宗及国立博物館】30件							
	機 関	内 容	期間	担当者				
1	東大阪市教育委員会	東大阪市文化財保護審議会出席	4月6日	上席研究員 鈴木喜博				
2	橿原市教育委員会	橿原市文化財保護審議会出席	5月7日	同上				
3	宮内庁	正倉院懇談会出席	6月17日	館長 湯山賢一				
4	常楽寺美術館	常楽寺美術館開館40周年記念特別展文化講座講演	7月22・23日	同上				
5	文化庁	第1回歷史文化基本構想策定技術指針検討会出席	7月25-26日	同上				
6	葛城市歴史博物館	展示指導	7月15日	情報サービス室 北澤菜月				
7	文化庁	醍醐寺所蔵文化財の調査	8月27日	情報サービス室 野尻 忠				
8	文化庁	醍醐寺所蔵文化財の調査	8月27日	列品室 斎木涼子				
9	葛城市歴史博物館	展示指導	8月17日	情報サービス室 北澤菜月				
10	メトロポリタン美術館	輸送同行・展示立ち会い	9月7~13日	同上				
-11	向原寺	仏像調査協力	9月24日	上席研究員 鈴木喜博				
12	日本古文書学会	2010年度日本古文書学会出席	9月24~27日	館長 湯山賢一				
13	慶州博物館	特別講演及び調査	9月28~30日	学芸部長 西山 厚				
14	馬の博物館	馬事博物館資料審査委員会	11月25日	館長 湯山賢一				
15	文化庁	文化財購入評価委員会出席	12月10日	美術室長 岩田茂樹				
16	メトロポリタン美術館	撤収立ち会い等	12月29日~23年1月7日	情報サービス室 北澤菜月				
17	韓国国立中央博物館	出陳交渉(阿弥陀寺)	4月19日	同上				
18	韓国国立中央博物館	出陳交渉(談山神社、長谷寺)	4月20日	同上				
19	奈良市役所	平城遷都1300年記念市民連携企画実行委員会出席	5月13日	副館長 畑中裕良				
20	奈良女子大学	国立大学法人奈良女子大学経営協議会出席	6月10日	館長 湯山賢一				
21	韓国国立中央博物館	出陳交渉(中宮寺)	6月17日	情報サービス室 北澤菜月				
22	韓国国立中央博物館	出陳借用(信貴山朝護孫子寺、中宮寺)	9月15日	同上				
23	文化庁	文化財調査(東大寺)	9月27日	列品室 斎木涼子				
24	文化庁	文化財調査(東大寺)	9月30日	同上				
25	文化庁	文化財調査(東大寺)	10月1日	同上				
26	文化庁	文化財調査(東大寺)	9月27日	同上				
27	文化庁	文化財調査(東大寺)	9月30日	同上				
28	奈良市議会	奈良市議会、総合計画検討特別委員会出席	10月19日	館長 湯山賢一				
29	天理市教育委員会	天理市教育委員会の文化財審議会出席	2月3日	保存修理指導室長 谷口耕生				
30	奈良市	奈良市文化財審議会出席	2月22日	上席研究員 鈴木喜博				
30	奈良市	奈良市平城遷都1300年記念市民連携企画実行委員会出席	3月11日	副館長 畑中裕良				
31	メトロポリタン美術館	モンゴル展撤収立ち会い	12月29日~23年1月7日	情報サービス室 北澤菜月				
32	神戸大学	論文審査	23年1月20日	上席研究員 鈴木喜博				
33	神戸大学	論文審査	23年1月20日	工芸考古室長の内藤栄				
34	神戸大学	客員教授用務	23年2月14日	上席研究員 鈴木喜博				
35	文化庁	醍醐寺所蔵の文化財調査	8月26~27日	館長 湯山賢一				

【九州国立博物館】77件

【九州国立博物館】77件							
1	機 関 福岡市教育委員会埋蔵文化財センター	内 容 X線CTによる木製居木(鞍)の調査の助言	期 間 4月2日	担当者 博物館科学課環境保全室長 今津節生			
2	福津市教育委員会	X線CTによる鏡片・短剣・直刀の調査の助言	4月8日				
3	大野城市教育委員会	X線CTによる鉄剣の調査の助言	4月13日	同上 博物館科学課保存修復室長			
4	滋賀県立琵琶湖文化館、	琵琶湖文化館友の会総会記念講演会での講演	5月11日~12日	藤田励夫			
5	文化庁	高松塚古墳壁画の保存活用に関わる意見交換会	5月24日~25日 5月29日~30日、9月8~9	館長 三輪嘉六 博物館科学課保存修復室長			
6	長崎県立対馬歴史民俗資料館	宗家文庫史料絵図類等調査にかかる助言	日	藤田励夫			
7	仙台市博物館	チベット展の返却前事前展示状態確認作業、作品点検梱包 の指導・助言	5月30日~6月3日	文化財課長 臺信祐爾			
8	奈良県桜井市教育委員会	X線CTと三次元計測による木製仮面の調査の助言	6月8日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
9	山梨県立博物館	X線CTによる馬の顎骨の調査の助言 文化庁海外展「アジアへの道」会場における展示等につい	6月14日	同上			
10	文化庁、ブリュッセル芸術館	ての助言	6月14日~26日	企画課研究員 川畑憲子			
11	太宰府市教育委員会	X線CTによる出土品(金属製品、陶磁器)の調査の助言	7月8日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
12	下関市教育委員会	X線CT、三次元計測による銅杓の調査の助言	7月9日	同上			
13	淡路市埋蔵文化財事務所	五斗長垣内遺跡出土土器付着遺物の分析指導	7月15日~16日	博物館科学課保存修復室 主 任研究員 志賀智史			
14	奈良県立橿原考古学研究所	X線CTによる槍先の調査の助言	7月16日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
15	多良木町教育委員会	X線CTによる経筒の調査の助言	7月21日	同上			
16	壱岐市立一支国博物館	しまごと大学講座〔特別講座〕	7月25日	館長 三輪嘉六			
17	————————————————————— 平戸市教育委員会	重要文化的景観「平戸島の文化的景観」選定記念座談会~	8月7日				
18	福岡市教育委員会	地域文化を活かしたまちづくり~ X線CTによる鞘の調査の助言	8月12日	博物館科学課環境保全室長 今津節牛			
19	内蒙古博物院	学術文化交流協定調印式出席に伴う講演	8月13日	京津即生 館長 三輪嘉六			
20	行橋市教育委員会	X線CTによる短甲の調査の助言	8月17日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
21	広島大学図書館	紙史料の保存についての助言	8月19日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫			
22	柏原市教育委員会	装飾横穴墓の VR データ取得調査についての助言	8月22日	企画課文化交流展室長 河野一隆			
23	一般社団法人文化財保存修復学 会	平成22年度文化財保存修復学会専門家養成実践セミナー特 別講義	8月30日	館長 三輪嘉六			
24	松浦市教育委員会	X線CTによる出土遺物(鉄釘など)の調査の助言	9月7日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
25	一般社団法人文化財保存修復学 会	文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財をまもる みんぞく資料をまもる」	9月11日	館長 三輪嘉六			
26	国立民族学博物館	被災した民族資料の保存修復方法の研究実施のための助言	9月11日~12日	副館長 森田稔			
27	国立民族学博物館	被災した文化財の展示手法および鉄燈籠の修復方法に関す る意見交換	9月11日~12日	博物館科学課長 本田光子			
28	(財)北九州市文化財芸術振興財 団	X線CTによる壁石の調査の助言	9月24日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
29	韓国国立中央博物館	高麗仏画大展の輸送・展示の助言	10月4日~8日	企画課主任研究員 畑靖紀			
30	韓国国立伝統文化学校	2010 International Symposium of Conservation Science for Cultural Propety (文化財のための保存科学国際シンポジウム2010)	10月6日	館長 三輪嘉六			
31	国際会議共同議長 Chan Hee Lee	2010 Great Baekje World Festival International Symposium (韓国・大百済典国際文化シンポジウム)	10月7日	館長 三輪嘉六			
32	松浦市教育委員会	X線CTによる出土遺物(鉄剣など)の調査の助言	10月7日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
33	カラコルム博物館 他 モンゴル内各博物館	博物館の収蔵品管理、展示、広報、運営等に関するワークショップの開催(「博物館総論」、「収蔵品の管理と安全」、「博物館と地域・史跡」、「展示の方法」、「収蔵品の収集」、「博物館教育・広報・出版・マーケッティング・法律」、「総合討論」)、カラコルム博物館開館準備助言およびウランバートル市内各博物館への助言	10月12日~22日	文化財課資料管理室長小林公治			
34	佐賀市教育委員会	装飾横穴墓の VR データの活用についての助言	10月13日	企画課文化交流展室長 河野一隆			
35 36	白石町教育委員会 武雄市教育委員会	同上 同上	同上	同上 同上			
37	壱岐市	<u> </u>	10月26日	向工 博物館科学課保存修復室長 藤田励夫			
38	熊本大学文学部考古研究室	X線CTによ出土資料の調査の助言	11月15日	博物館科学課環境保全室長 今津節生			
39	公益財団法人文化財虫害研究所	公益財団法人文化財虫害研究所評議員会	11月15日	館長 三輪嘉六			
40	文化庁	第8回国際文化フォーラム福岡セッション「文化観光の可 能性」パネルディスカッション	11月18日	同上			
41	南山大学	南山大学人類学博物館オープン・リサーチ・センター南山 学会合同シンポジウム「新・人類学博物館への提言」	11月24日	副館長 森田稔			
42	一般社団法人国宝修理装潢師連 盟	平成22年度第16回 国宝修理装こう師連盟定期研修会	11月26日	館長 三輪嘉六			
43	名古屋市立大学	名古屋市立大学人間文化研究所開設6周年記念講演会・シンポジウム「博物館と大学がつくりだす魅力あるまち一市博物館と市立大学の新しい取り組みー」 基調講演	11月27日	同上			
44	熊本県小学校教育研究会社会科 部会	平成22年度熊本県小学校研究会社会科部会研究発表会(阿蘇大会) 講演	12月2日	同上			
45	財団法人日本航空協会	「航空と宇宙」定例講演会(「日本の航空100年」記念講演 会)	12月14日	同上			

	機関	内容	期間	担当者
46	上海博物館	文化財の科学的調査に関する討議、2010博物館文物保存環 境国際学術検討会において講演、文化財保存環境に関する 討議	12月14日~18日	博物館科学課環境保全室主任 研究員 鳥越俊行
47	一般社団法人国宝修理装潢師連 盟	修理技術者初級講習会講義	12月17日	副館長 森田稔
48	薩摩川内市教育委員会	X線CTによる人骨の調査の助言	12月27日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
49	唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	12月27日	同上
50	一般社団法人文化財保存修復学 会	文化財保存修復学会第33回大会第1回実行委員会	23年1月5日~6日	博物館科学課長 本田光子
51	西日本新聞社	「福岡・京都文化フォーラム」パネルディスカッション	23年1月8日	館長 三輪嘉六
52	鹿児島県歴史資料センター黎明 館	X線CTによる金剛菩薩像の調査の助言	23年1月13日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
53	堺市立博物館 他	文化財の保存および展示の助言	23年1月23日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫
54	名古屋ボストン美術館	「ボストン美術館の至宝展」展示施工打ち合わせ	23年1月24日	博物館科学課長 本田光子
55	臼杵市	臼杵市近世絵図保存修復にかかる助言	23年1月25日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫
56	一般社団法人文化財保存修復学 会	一般社団法人文化財保存修復学会理事会	23年1月25日	副館長 森田稔
57	一般社団法人文化財保存修復学 会	一般社団法人文化財保存修復学会平成22年度第4回理事会 出席、「文化財保存修復学会第33回大会」準備出席	23年1月25日~26日	博物館科学課長 本田光子
58	日光社寺文化財保存会	生物被害調査報告会での講演	23年1月26日~28日	博物館科学課環境保全室主任 研究員 鳥越俊行
59	NHK プロモーション	特別展「大神宝展」作品所蔵先打ち合わせ	23年1月27日	副館長 森田稔
60	NHK プロモーション	同上	23年1月28日	同上
61	筑紫野市歴史博物館	平成22年度古文書保存基礎講座	23年1月29日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫、博物館科学課保存 修復室 主任研究員 志賀智 史
62	名古屋市市民経済局文化観光部 名古屋城総合事務所	名古屋城本丸御殿展示・観覧等計画検討会	23年2月1日	副館長 森田稔
63	「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世 界遺産推進会議	第2回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」国際シンポジウム出席、 第4回「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議	23年2月11日~12日	館長 三輪 嘉六
64	熊本博物館	平成22年度第4回熊本博物館リニューアル検討委員会	23年2月15日	博物館科学課長 本田光子
65	東京大学史料編纂所	紙史料の保存修理についての助言	23年2月17日	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫
66	愛知県美術館	木村定三コレクションM1027の研究会	23年2月17日~19日	博物館科学課保存修復室 主 任研究員 志賀智史
67	愛知県美術館	木村定三コレクションM1027の報告会・研究会	23年2月18日~19日	博物館科学課環境保全室主任 研究員 鳥越俊行
68	長崎歴史文化博物館	「平成22年度長崎県博物館協会職員研修」講師	23年2月18日	博物館科学課長 本田光子
69	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡、福井 県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	第46回福井県朝倉氏遺跡研究協議会	23年2月23日	同上
70	文化庁	文化庁専門調査会	23年3月1日~2日	学芸部長 伊藤嘉章
71	吉備国際大学	平成20年度採択組織的な大学院教育改革推進プログラム 「グローバルな文化財保存修復技能者の実践的養成」平成 22年度(第3期)事業評価委員会	23年3月8日	館長 三輪嘉六
72	別府大学文化財研究所	「経筒のX線CT調査報告」	23年3月10日	博物館科学課環境保全室主任 研究員 鳥越俊行
73	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会	23年3月16日	学芸部長 伊藤嘉章
74	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料 館	第46回福井県朝倉氏遺跡研究協議会	23年3月19日~20日	博物館科学課長 本田光子
75	名古屋市市民経済局文化観光部 名古屋城総合事務所	名古屋城本丸御殿展示・観覧等計画検討会	23年3月24日	副館長 森田稔
76	文化庁	埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委 員会	23年3月29日	博物館科学課長 本田光子
77	唐津市教育委員会	佐賀県唐津市鵜殿石仏群保存対策調査委員会	23年3月30日	博物館科学課環境保全室長 今津節生
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

4 文化財に関する調査研究及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

4-(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載)◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

4-(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマー覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・ 研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (後述の資料に記載)◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑦

5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

5-(1)-① 調査研究テーマー覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

開催件数:2件 参加者総数:303人

開催日	テーマ	講師等	参加者数
7月8日	第24回国際文化財 保存修復研究会「覆 屋保存を考える」	村津信明(文化遺産国際協力センター主任研究員)、アナト・バムルンウォンサ(タイ芸術局第 五地区事務所長)、入佐友一郎(福岡県教育庁文化財保護課)、シン・ウンジョン(韓国国立文 化財研究所研究員)	71人
23年3月3日~5日	アジア文化遺産国際会議「西アジアの文化遺産―その保護の現状と課題―」	亀井伸雄(東京文化財研究所長)、清水真一(文化遺産国際協力センター長)、岡田 健(保存計画研究室長)、松永秀樹(独立行政法人国際協力機構 中東・欧州部中東二課)、岡田保良(国士舘大学)、西秋良宏(東京大学教授)、ロータス・オマル・マハウィ・アブ・カラキ (ヨルダン遺跡観光省観光開発部発展プロジェクト長)、西山徳明(北海道大学教授)、ジアード・ムハンマド・カイード・アル・サード (ヨルダン考古局局長)、藤井純夫(金沢大学教授)、西浦忠輝(国士舘大学)、アッバース・フダイール・アッバース・アル・マフーディ(イラク国立博物館文化復興部局主任)、有村 誠(特別研究員)、フセイン・アリ・ハビーブ(イラク考古局文化協力主任)、大沼克彦(国士舘大学イラク古代文化研究所教授)、アサド・サイフ(レバノン文化省考古総局)、ナーデル・シクラオイ(レバノン文化省考古総局ティール支局)、西山要一(奈良大学教授)、辻村純代(国士舘大学イラク古代文化研究所)、アマル・アブドゥルラマハーン(アル・バーセルセンターセンター長)、西藤清秀(奈良県立橿原考古学研究所)、ジャマル・ハイダール(シリア考古局ラタキア博物館館長)、赤澤 威(高知工科大学教授)、ハーリッド・ムハンマド・イブラヒム・アル・シンディ(バーレーン国立博物館)、後藤 健(東京国立博物館)	のべ 232人

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマー覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-②

5-(2)-② アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】 3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	イラク文化財専門家研修	9月22日~12月9日	81日	イラク国立博物館職員	3人
2	アフガニスタン文化財専門家研修	8月2日~12月17日	138日	アブガニスタン・イスラーム共和国情報文 化省考古学研究所研究員	2人
3	3 アフガニスタン文化財専門家研修 9月27日~10月15日 19日 アブガニスタン・イスラー. 化省考古学研究所研究員		アブガニスタン・イスラーム共和国情報文 化省考古学研究所研究員	1人	

【奈良文化財研究所】 2件

Ī		研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
	- 1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修 2010 (集団研修)	9月7日~10月7日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所 などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復 に携わっているもの。	16人
	'	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修 2010 (個人研修・モンゴル)	11月16日~12月16 日	31日	モンゴル科学アカデミー考古学研究所所属 研修生	3人

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

<u> </u>							
	東京文化則	才研究所	奈良文化財研究所				
	22年度受入件数	総件数	22年度受入件数	総件数			
図書	6, 864 Ⅲ	233, 232冊	8, 450 Ⅲ	310, 872 Ⅲ			

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 調査研究刊行物一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑤

6-(2)-② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧

【東京文化財研究所】

- 公開講演会 1件 (2日) ○公開講演会「平成22年度オープンレクチャー」 ・開催日:10月15日

 - ・開催場所:東京文化財研究所セミナー室 ・主 催:上野の山文化ゾーン連絡協議会 ・参加人数:200人(10月15日、16日の2日間延べ数)

・事業内容:美術史研究の成果を一般に公表すること 「中世における真宗祖師先徳彫像の制作を廻って」 「草花の美- 都久夫須麻神社社殿の空間- 」

- 〇公開講演会「平成22年度オープンレクチャー」
 - •開催日:10月16日
 - ・開催場所:東京文化財研究所セミナー

 - ・主 催:上野の山文化ゾーン連絡協議会 ・参加人数:200人(10月15日、16日の2日間延べ数)
 - ・事業内容:美術史研究の成果を一般に公表すること
 - 「御歌所の歌人と書」
 - 「秋元洒汀と明治の日本画」

- **国際シンポジウム 1件** 〇国際シンポジウム「第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会」 ・開催日 1月19~21日

 - ・開催場所:東京国立博物館大講堂 ・主 催:東京文化財研究所
 - ・参加人数: のべ347人
 - ・事業内容:「「復興」と文化遺産」

【奈良文化財研究所】

- 公開講演会 8件 ○公開講演会「特別講演会(東京会場)」 ・開催日: 5月15日

 - •開催場所:江戸東京博物館 催:奈良文化財研究所
 - •参加人数:409人
 - ・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「平城宮跡のむかしと今」

 - 「大極殿復原」
 - 「木簡が語る平城京の時代」 「講演者にきく」
- 〇公開講演会「飛鳥資料館春期特別展示「キトラ古墳壁画四神」特別公開記念講演会」
 - •開催日:5月30日
 - ・開催場所:明日香村立中央公民館ホール
 - 催:飛鳥資料館

 - ・主 雅 / ハェッシー ・参加人数: 150人 ・事業内容: 「ーキトラ古墳壁画を考えるー」 「ーキトラ古墳のこの一年ー」 一十年~ 四袖ってなに? ~ 「キトラ古墳~四神ってなに?~」
- 〇公開講演会「第106回公開講演会」
 - ・開催日:6月12日
 - 開催場所: 奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
 - 催:奈良文化財研究所
 - •参加人数:222人
 - ・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「平城遷瓦 一都がうつる。瓦もうつる。一」 「古代における日本と新羅の交流」
- 〇公開講演会「特別講演会(東京会場)」
 - •開催日:9月25日
 - ・開催場所:有楽町朝日ホール ・主 催:奈良文化財研究所
 - ·参加人数:526人

```
・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
       「くれないはうつろうものぞ」
「銅鐸―花器として生きる―」
```

「古代人の肉食の忌避という虚構」 「日本庭園のはじまり」

「古代遷都の真実 一飛鳥宮・藤原京・平城京の謎を解き明かすー」

「古代史研究と奈良文化財研究所」

〇公開講演会 「平城宮跡資料館秋期特別展示記念講演会」

- 開催日:10月9日

•開催場所:平城宮跡資料館講堂 催:奈良文化財研究所

·参加人数:202人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「平城宮発掘史と木簡」

「木簡の楽しみ方ー在籍二年の目線からー」 「木簡の楽しみ方ー在籍二十年の目線からー」

「平城宮木簡最新情報」

〇公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展 記念講演会」

·開催日:10月17日 ·開催場所:飛鳥資料館講堂

催:飛鳥資料館 ・主

- 参加人数:47人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「7世紀木簡のおもしろさ」

〇公開講演会「第107回公開講演会」

・開催日:11月13日 ・開催場所:平城宮跡資料館講堂 催:奈良文化財研究所 ・主

•参加人数:206人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「ミニ講演」

「玄奘三蔵の見たバーミヤーン」 「西大寺食堂院跡出土木簡について」

〇公開講演会「平城宮跡資料館冬期特別展示記念講演会」

・開催日:12月19日

• 開催場所: 平城宮跡資料館講堂

・主 催:奈良文化財研究所 ・参加人数: 271人 ・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 「古代の測量をめぐって」

「国土を見つめる測量技術」

「歴史を測る 一新しい技術で掘り下げる考古学ー」

現地説明会 5件 ○現地説明会「平城第466次(平城宮東方官衙地区)発掘調査」

•開催日:4月17日

• 開催場所: 奈良市佐紀町 催:奈良文化財研究所

•参加人数:750人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 発掘調査

〇現地見学会「飛鳥藤原163次(藤原宮朝堂院)」

・開 催 日:7月3日 ・開催場所:橿原市高殿町

催:奈良文化財研究所

·参加人数:423人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。 発掘調査

〇現地見学会「平城第469次(平城宮跡東院地区西北部)発掘調査」

·開催日:7月17日 • 開催場所: 奈良市佐紀町

催:奈良文化財研究所

- 参加人数:950人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。

〇現地説明会「飛鳥藤原第165次(水落遺跡)発掘調査」

• 開 催 日:12月5日

• 開催場所: 高市郡明日香村 催:奈良文化財研究所 • 🛊

·参加人数:1,420人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。

○現地説明会「平城477次(春日東塔院)発掘調査」 ・開 催 日:22年12月17日~21日 ・開催場所:奈良国立博物館なら仏像間<本館>南東部)

催:奈良文化財研究所 ・主

·参加人数:300人

・事業内容:文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。

6-(2)-③ ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

6-(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開

6-(3)-① 入館者数推移(入館料別) (過去5ヵ年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-①

6-(3)-② 入館者数推移(展覧会別) (過去5ヵ年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-②

6-(3)-(3) 入場料収入

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績

(後述の資料に記載) ◎共通資料b

6-(5) 文化財情報・研究成果の公表

6-(5)-① ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

6-(5)-② 収蔵品写真 (フィルム) 等のデジタル化件数

	東京国立博物館		京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国	立博物館
Ī	画像	8,639件	4 E04#	9,501件	画像	1, 391件
	文字	130,000字	4, 594件	9, 50117	文字	0字

6-(5)-③ 収集した情報資料数

	⊕ N ×O/CIB		- 1 + 1 + 1 - 4	- 47 円 -	- 1 + 1 + 1 + 1 + 2	大白园子	- 1 + 1 + 1 - 4	ᆂᄴᄝᅩ	九州国立博物館		
		東京国立		京都国立		奈良国式		ル州国ユ			
		22年度新規	総数	22年度新規	総数	22年度新規	総数	22年度新規	総数		
写真原板(フィルム)		5, 577枚	318,773枚	3379枚	250, 140枚	1,725枚	361, 128枚	1, 357枚	19, 141枚		
	デジタル撮影	5, 537枚	17, 945枚	0枚	0枚	9, 959枚	9, 959枚	36枚	14, 600枚		
	模造	0	0	0	0	0	0	0	0		
資	模写	0	0	0	0	0	0	0	0		
料	その他	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0		
	和書	6, 149 Ⅲ	170, 538 ⊞	4, 262 Ⅲ	69, 985 Ⅲ	758 Ⅲ	60, 710 Ⅲ	5, 792 Ⅲ	62, 072 Ⅲ		
図	漢書	618 Ⅲ	38, 001冊	114 ⊞	19, 177 ⊞	0冊	4, 871⊞	0⊞	0⊞		
書	洋書	578 Ⅲ	11, 988∰	297冊	2, 205冊	19 Ⅲ	1, 575 ⊞	229冊	1, 941⊞		
	計	7, 345 ⊞	220, 527 ⊞	4, 673 Ⅲ	91, 367 ⊞	777 ⊞	67, 156 ⊞	6, 021冊	64, 013 Ⅲ		
	映画フィルム	0	0	0	24巻	0巻	30巻	0	0		
	フニノド	0	0	0	26本	0本	21本	0	12コマ		
	スライド				2,779コマ	0コマ	2,192コマ				
マ	イクロフィルム	2巻	3,656巻	17巻	359巻	0巻	0巻	0巻	515巻		

東京国立博物館資料館の利用者数(過去5年間)

		PJ/			
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利 用 者 数	2, 920人	3, 134人	2, 764人	2,898人	2, 796人
閉架図書 (閲覧)	2,770件	3, 321件	3, 757件	7,527件	3, 138件
マイクロフィルム (閲覧)	1,093件	650件	596件	577件	994件
レファレンスサービス	3,632件	3, 299件	4, 024件	2, 973件	3, 339件
コピーサービス	22, 530枚	23, 287枚	22, 669枚	22, 438枚	26, 210枚

※震災の影響により、23年3月14日~31日は臨時休館

6-(5)-④ 特別観覧件数

申請件数

平成23年3月31日現在

区分		国立	博物	勿 館	東京国立博物館			京都国立博物館		奈良国立博物館		物館	九州国立博物館			
		合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合	計	1, 930	1, 064	866	196	3	193	972	698	274	561	316	245	201	47	154
写真	撮 影	62	7	55	17	2	15	22	1	21	22	4	18	1	0	1
写真原板	モノクロ	211	150	61				173	133	40	38	17	21	0	0	0
使用	カラー	1, 176	791	385		/		731	562	169	288	186	102	157	43	114
写真原板	再使用	187	108	79							181	105	76	6	3	3
映画	撮影							0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ	: 撮影	13	7	6	4	1	3	2	1	1	4	4	0	2	1	1
ビデオ	撮影							0	0	0	0	Ť	0	1	0	1
模	写	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
模	造	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	۷	0	0	0
熟	覧	278	1	277	174	0	174	44	1	43	26	0	26	34	0	34

点数

平成23年3月31日現在 国 立 博 物 館 ┃ 東京国立博物館 ┃ 京都国立博物館 ┃ 奈良国立博物館 九州国立博物館 区 分 合計 有料 無料 合 計 7, 251 2, 935 4, 316 3, 462 1, 908 1, 554 1, 686 1, 185 1,073 写真撮影 写真原板 モノクロ 使用 4, 346 2, 278 2, 068 2, 559 1, 518 1, 041 カラー 1,025 写真原板再使用 映 画 撮 影 テレビ撮影 ビデオ撮影 模 写 模 造 熟 覧. 1, 356 1, 355

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体への協力等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
502件	159件	343件

【東京文化財研究所】159件

	プロジェクト名称	件数
1	無形文化遺産に関する助言	26件
2	文化財の修復及び整備に関する調査・助言(40件) (※I4(2)②文化財の非破壊調査法の研究に係る指導・助言 23件、I4(3)①文化財の	133件
	生物劣化対策の研究に係る指導助言 12件、Ⅰ4(3)②文化財の保存環境の研究に係る指導・助言 58件)	

【奈良文化財研究所】343件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	332件
2	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	5件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	6件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

O 41 MA A A A CONTRACTOR OF THE A CONTRACTOR O									
計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所							
16件	5件	11件							

【東京文化財研究所】 5件

						for 1 minuted	
	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当 学芸員研修	7月12日~23日	9日	博物館・美術館等の文化財 の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸 問題についての講義と実習	33人	100%
2	│保存担当学芸員フォローア │ ップ研修	6月21日	1日	博物館・美術館等の保存担 当学芸員研修修了生	研修修了生に対して最新の保存科学の 知識を講義する	97人	99%
3	国際研修「紙の保存と修復」	8月30日~ 9月17日	15日	海外の博物館・図書館・文 書館などの学芸員、修復技 術者、教員など	日本の紙文化財の保存と修復に関する 講義と実習、研修旅行	10人	100%
4	資料保存地域研修	12月13日	1日	博物館・美術館等の文化施 設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて 講義を行う	76人	98%
5	「博物館資料保存論」対策講 座	3月8日~10日	3日	大学で「博物館資料保存 論」の講義を行う予定の者	平成24年度より学芸員養成課程で必修 となる「博物館資料保存論」の講義内容 に関する情報提供	81人	94%

【奈良文化財研究所】 11件

_ <u>L</u> 77	▼													
	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度							
1	建築遺構調査課程	6月14日~18日	5日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	建築遺構調査	16人	100%							
2	古代・中近世瓦調査課程	9月1日~7日	7日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	古代・中近世瓦調査	18人	100%							
3	三次元計測過程	9月27日~10月 1日	5日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	三次元計測	11人	100%							
4	保存科学 I (無機質遺物)課程	10月6日~15日	10日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	保存科学 I(無機質遺物)	12人	100%							
5	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課 程	10月18日~26日	9日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	保存科学Ⅱ(有機質遺物)	5人	100%							
6	遺跡地図情報課程	11月16日~19日	4日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	遺跡地図情報	5人	100%							
7	自然科学的年代決定法課程	11月29日~ 12月3日	5日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	自然科学的年代決定法	5人	100%							
8	報告書作成課程	12月9日~17日	9日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	報告書作成	26人	100%							
9	出土文字資料調査課程	23年1月17日~ 21日	5日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	出土文字資料調査	15人	100%							
10	中近世城郭調査整備課程	23年1月27日~ 2月3日	8日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	中近世城郭調査整備	18人	100%							
11	生物環境調査課程	23年2月15日~ 23日	9日	地方公共団体の埋蔵文化 財担当職員若しくはこれ に準ずる者	生物環境調査	6人	100%							

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置Ⅱ-1 職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

〇件数

<u> </u>	O件数										
		国立文化			博物館			文	て化財研究 かんしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	听	
		財機構 計	計	東京国立 博物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所	
	総件数	2, 749	1, 064	538	59	146	321	1, 685	196	1, 489	
合計	うち有償	524	407	256	44	31	76	117	12	105	
	うち無償	2, 225	657	282	15	115	245	1, 568	184	1384	
	総件数	164	164	112	32		20				
茶室	うち有償	83	83	45	32		6				
	うち無償	81	81	67	0		14				
講堂等	総件数	2, 261	593	304	15	120	154	1, 668	196	1, 472	
(講堂、会議 室、研修室)	うち有償	286	182	89	1	22	70	104	12	92	
主、切修主	うち無償	1, 975	411	215	14	98	84	1, 564	184	1380	
その他	総件数	205	189	7	10	25	147	16	0	16	
(左記以外の 建物、敷地)	うち有償	38	26	7	10	9	0	12	0	12	
建物、敖地/	うち無償	167	163	0	0	16	147	4	0	4	
	総件数	119	118	115	2	1	0	1	0	1	
撮影利用	うち有償	117	116	115	1	0	0	1	0	1	
	うち無償	2	2	0	1	1	0	0	0	0	

〇有償利用の利用金額

(単位:千円)

2.1 (中位・11)/										
	国立文化	博物館					文化財研究所			
	財機構 計	計		京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所	
合計	32, 756	30, 492	27, 987	722	1, 238	545	2, 264	228	2, 036	
茶室	3, 443	3, 443	3, 046	340		57				
講堂等 (講堂、会議室、研修室)	6, 842	6, 040	5, 074	5	473	488	802	228	574	
その他 (左記以外の建物、敷地)	8, 973	7, 529	6, 396	368	765	0	1, 444	0	1, 444	
撮影利用	13, 498	13, 480	13, 471	9	0	0	18	0	18	

◎共通資料 a 展示

a-(1) /	し 配着	数推	移(入館	料別)		
- U F	年		度	18	19	20
			官者数	3, 645, 023	3, 764, 567	4, 193, 381
围		計	一般	1, 147, 804 634, 662	1, 095, 925 506, 568	1, 041, 212 461, 649
国		有	大学生			
立	平	l ''	高校生	102, 470	99, 428	90, 861
	常	料	小・中生			_
文	展		友の会	68, 557	70, 641	78, 718
化		無	一般 高校生	13, 828	106, 078 15, 270	116, 058 16, 192
16		料	小・中生	189, 496	175, 712	134, 489
財			召待者等	138, 791	122, 228	143, 245
		計		2, 497, 219	2, 668, 642	3, 152, 169
機	44	_	一般	1, 674, 220	1, 769, 987	2, 003, 625
構	特別	有料	高・大生 小・中生	124, 212 55, 681	131, 777 27, 172	116, 329 60, 359
1 173	展	44	友の会	91, 580	86, 194	51, 276
		無料	小・中生	21, 681	65, 033	52, 769
			召待者等	529, 845	588, 479	867, 811
市			官者数	1, 417, 195 361, 773	1, 768, 198 334, 297	2, 171, 942 412, 675
東		計	一般	361, 773 179, 924	334, 297 165, 190	210, 423
京	平	有	大学生	32, 734	28, 514	27, 225
	常	料	小・中・高	_		
围	展		友の会	55, 649	52, 862	65, 232
_		無	高校生	13, 828	15, 270	16, 192
立		料	<u>小・中生</u> 召待者等	31, 540 48, 098	26, 471 45, 990	35, 261 58, 342
博		計	1111111	1, 055, 422	1, 433, 901	1, 759, 267
	特		一般	685, 137	946, 113	1, 162, 200
物	別	有	高・大生	59, 466	80, 862	64, 854
館	展	料	小・中生 友の会	3, 177 60, 958	52, 662	12, 988
品		無料	小・中生	19, 729	52, 662	12, 988 38, 903
			四待者等 四待者等	226, 955	303, 765	480, 322
		総入食	官者数	556, 770	492, 414	416, 001
京		計	Á.	146, 752	165, 080	141, 965
4 0	亚	≠	一般	57, 283 15, 821	67, 586 21, 182	54, 043 17, 631
都	半常	有料	高・大生 小・中生	15, 821	21, 182	17, 631
围	展	1-1	友の会	4, 460	5, 968	3, 915
		無料	小・中生	21, 988	15, 325	13, 674
立			召待者等	47, 200	55, 019	52, 702
140		計	én.	410, 018 249, 037	327, 334 197, 198	274, 036 157, 900
博	特	有	<u>一般</u> 高・大生	249, 037	197, 198 17, 763	16, 264
物	別	料	小・中生	6, 749	4, 279	2, 858
	展		友の会	15, 133	12, 092	11, 348
館		無料	小・中生	1, 952		
			召待者等 官者数	110, 244 477, 638	96, 002 442, 914	85, 666 647, 854
奈		計	5日以	137, 739	131, 336	112, 849
//		н	一般	59, 868	58, 914	47, 099
良	平	有	高・大生	10, 569	9, 919	7, 777
_	常	料	小・中生			_
国	展	無料	友の会	4, 888 39, 852	4, 188	2, 708 35, 209
立			小・中生 	22, 562	48, 069 10, 246	20, 056
		計	1111111	339, 899	311, 578	535, 005
博	特		一般	264, 119	235, 865	370, 001
	別	有	高・大生	13, 786	13, 430	19, 907
物	展	料	小・中生	19, 682	6, 463	12, 393
館		無料	友の会 小・中生	8, 423	9, 790	14, 544
ДB			2. 水·中王 2. 招待者等	33, 889	46, 030	118, 160
			官者数	1, 193, 420	854, 138	756, 918
九		計		501, 540	341, 282	241, 423
,,,,			一般	337, 587	207, 350	142, 538
州	平常	有料	高・大生 小・中生	43, 346	37, 835	36, 858
围	展	11	友の会	3, 560	7, 623	6, 863
_		無料	小・中生	96, 116	81, 707	47, 402
立			召待者等	20, 931	6, 767	7, 762
+ 赤	#±	計	én.	691, 880	512, 856	515, 495
博	特別	有	一般 高・大生	475, 927 24, 057	356, 430 16, 981	285, 004 12, 103
物	展	料料	小・中生	26, 073	16, 430	45, 108
			友の会	7, 066	11, 650	12, 396
館			21待者等	158, 757	111, 365	160, 884
黒 記念館	平常		官者数		13, 707 13, 707	19, 038 19, 038
日とかは	. 10	無料	一般		13, 707	19, 038
平城宮跡			官者数		85, 486	92, 597
資料館	平常	計			85, 486	92, 597
* =		無料			85, 486	92, 597
藤原宮跡 資料室	平常	総入食計	占有奴		6, 885 6, 885	4, 423 4, 423
貝科至	一币	無料	一般		6, 885	4, 423
			官者数		100, 825	84, 608
飛		計			17, 852	16, 242
_	平	有	一般		7, 528	7, 546
鳥	常	料無料	高・大生		1, 978	1, 370
資	展	無料	小・中生 召待者等		4, 140 4, 206	2, 943 4, 383
,,,		計	-12 H T		82, 973	68, 366
料	特	有	一般		34, 381	28, 520
April 1	別	料	高・大生		2, 741	3, 201
館	展	無料			14, 534 31, 317	13, 866 22, 779
品		Τ.	召待者等			22, 779

	年	40. T. Ar	度	21	22
l		総入館計	百 数	5, 156, 358 1, 080, 509	3, 392, 243 947, 439
玉		п	一般	320, 974	344, 070
	平	有	大学生	33, 061	34, 579
立		料	小・中・高生	_	_
	常		友の会	73, 872	67, 151
文	l _	無	一般	49, 813	212, 611
	展	料	小・中・高生	163, 663	156, 236
化		=1	招待者等	439, 126	132, 792
財		計	一般	4, 075, 849 2, 885, 476	2, 444, 804 1, 459, 486
R/I	特	有	高・大生	156, 452	1, 459, 460 88, 515
機	別	料料	小・中生	69, 774	48, 563
1/30	展	71	友の会	53, 074	47, 012
構		無料	小・中生・一般	56, 155	198, 991
			招待者等	854, 918	602, 237
		総入館	含数	2, 416, 281	1, 082, 269
		計	40	330, 536	373, 068
東			一般 大学生	162, 674	196, 312
京	平常	有料	小・中・高生	20, 437	24, 140
不	展	* *	友の会	64, 816	58, 496
玉	1100	無	高校生	13, 499	17, 570
		料	小・中生	25, 890	33, 585
立			招待者等	43, 220	42, 965
		計		2, 085, 745	709, 201
博			一般	1, 505, 088	424, 337
	特	有	高・大生	78, 355	24, 169
物	別	料	小・中生		
&÷	展	Ame steel	友の会	16, 680	9, 867
館	ĺ	無料	小・中生 招待者等	42, 065 443, 557	15, 301 235, 527
	 	総入館		452, 920	331, 131
	-	総人則	1 1 30	402, 920	JJ1, 13
京	ĺ	HI	一般		
	平	有	大学生	_	_
都	常	料	小・中・高生		
	展		友の会	_	_
玉		無	高校生	_	_
		料	小・中生		
立			招待者等	450.000	
100		計	一般	452, 920	331, 131
博	特	有	高・大生	276, 754 28, 127	205, 194 18, 386
物	別	料料	小・中生	7, 297	3, 856
193	展	ተተ	友の会	11, 529	10, 953
館	124	無料	小・中生	1, 103	862
			招待者等	128, 110	91, 880
		総入館	含数	560, 293	649, 878
奈		計		136, 672	71, 566
	_	١.	一般	53, 033	36, 436
良	平	有	大学生	5, 391	2, 417
玉	常展	料	小・中・高生 友の会	3, 168	2, 891
120	/IX	無料	小・中・高生	38, 825	15, 293
立			招待者等	36, 255	14, 529
_		計		423, 621	578, 312
博	ĺ		一般	315, 128	428, 121
	特	有	高・大生	15, 411	24, 411
物	別	料	小・中生	13, 824	19, 106
A-4-	展	A1- 1	友の会	11, 131	15, 358
館	ĺ		小・中生物体表質		6, 107
	-		招待者等	68, 127	85, 209 818, 034
九	-	総人類計	含数	1, 599, 704 544, 661	274, 545
76	ĺ	P.I	一般	98, 600	105, 638
1		有	大学生		7, 560
州	亚			6 737	7, 700
州	平常	料	小・中・高牛	6, 737 —	_
州国			小・中・高生 友の会	6, 737 — 5, 888	5, 764
	常	料無	友の会 高校生	_	35, 990
	常	料無料	友の会 高校生 小・中生	5, 888 27, 907 52, 658	35, 990 50, 295
国立	常	無料料	友の会 高校生	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871	35, 990 50, 295 69, 298
围	展	料無料	友の会 高校生 小・中生 招待者等	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043	35, 990 50, 295 69, 298 543, 489
立博	常展特	料料料	友の会 高校生 小・中生 招待者等	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650	35, 990 50, 295 69, 298 543, 489 343, 079
国立	常展特別	無料計	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大生	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892	35, 990 50, 295 69, 298 543, 489 343, 079 19, 068
国立博物	常展特	料料料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大生 小・中生	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653	35, 990 50, 295 69, 298 543, 489 343, 079 19, 068 25, 601
立博	常展特別	料無料計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大生 小・中生 友の会	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734	35, 990 50, 295 69, 296 543, 485 343, 075 19, 068 25, 601 10, 834
国立博物	常展特別	料無料計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大大生 小・中生 友の会 招待者等	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653	35, 990 50, 295 69, 295 543, 485 343, 075 19, 066 25, 601 10, 834 144, 907
国 立 博 物 館	常展特別	料無料計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大大生 小・中生 友の会 招待者等	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114	35, 990 50, 295 69, 296 543, 486 343, 075 19, 066 25, 601 10, 832 144, 907 18, 458
国立博物館	常展特別展	料無料計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・大生 小・中生 友の会 招待者等		35, 990 50, 295 69, 296 543, 485 343, 075 19, 068 25, 601 10, 834 144, 957 18, 458
国立博物館 黒記城城 田館 跡	常展特別展常	料無料計有料於計無稅	友の会 高校生 小・中生 招待者等 一般 高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		35, 990 50, 291 69, 298 543, 481 343, 079 19, 060 25, 601 10, 832 144, 907 18, 455 18, 456 18, 456 18, 456
国立博物館黒記念田館	常展特別展常	料 無料 計 有料 総計料館 無総無	友の会 高校生 小・中生 招待者等 小・中生 招待者等 高・大生 小・中生 友の会 招待者等 看教 一般 一般 者数 一般	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345	35, 990 50, 291 50, 292 69, 293 543, 486 343, 076 19, 066 25, 601 10, 834 144, 907 18, 456 18, 456 18, 456 354, 344 189, 338
国立博物館 黒記城料 田館 跡館	常展特別展常	料 無料 計 有料 総計料館無総無無	友の会 高校生 小・中生 招待者 一般 高・・・中生 名等 イン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127	35, 990 50, 299 69, 298 543, 488 343, 078 19, 066 25, 600 10, 834 144, 900 18, 455 18, 455 18, 456 354, 344 189, 336
国立博物館 黒記 城科 原宮 電節館 跡館 跡跡	常展特別展常常展展	料 無料 計 有料 総 無無 総 無 ・ ・	友の会 高校生 小・中生 招待者 一般 高・・・中生 名等 イン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5, 883 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341	35, 990 50, 295 69, 298 643, 488 343, 079 19, 066 25, 601 10, 834 144, 907 18, 456 18, 456 354, 344 189, 336 165, 006 4, 816
国立博物館 黒記城料 田館 跡館	常展特別展常	料 無料 計 有料 総計料額 無無 総計 無 総 計 無 総 計 十 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和 和	友の会 高校生 小・中生 招待者等 ー般大生 小・中生 スを者等 名者数 ー般 ー般 を者数 ー般 を者数 ー般 を表表		35, 990 50, 291 59, 293 543, 481 343, 077 19, 066 25, 60 10, 834 144, 907 18, 455 18, 455 18, 456 189, 337 189, 338 185, 000 4, 811 4, 811
国立博物館 黒記 城科 原宮 電節館 跡館 跡跡	常展特別展常常展展	料 無料 計 有料 総 無無 総 無無 総 無無 総 無無 ※ 計料 無 計料	友の会 高校生 小・中生 招待者等 高・・・中生 友者等 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 21, 127 25, 127 4, 341 4, 341	35, 996 50, 299 50, 299 543, 488 343, 079 19, 066 25, 600 10, 834 144, 900 18, 455 18, 455 18, 454 354, 344 189, 334 165, 000 4, 811 4, 811 4, 811 4, 811 4, 811
国 立 博 物 館 黒記 球科 原料 原料 原数 節館 跡館 跡館	常展特別展常常展展	料 無料 計 有料 (2) 無料 (3) 無 (4) 無 (5) 無 (6) 無 (7) 上 (8) 上 (8) 上 (9) 上 (10) 上	友の会 高校生 小・中生 招待者等 高・・・中生 友者等 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」 「一般」	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347	35, 996 50, 291 69, 2995 543, 484 343, 077 19, 066 25, 600 10, 832 144, 900 18, 455 18, 455 18, 456 19, 334, 344 19, 336 4, 811 4, 811 4, 811 4, 811 4, 811
国立博物館 黒記 城科 原宮 電節館 跡館 跡跡	常展 特別展 常 票限 常	料 無料 計 有料 総計料的料類 無総計料的計算 無総計	友の会 高校生 小・中生 招待者 小・中生 招待者 高・・・中生 大をの会 招待数 一般 着数 一般 者数 一般 者数 者数 一般 者数 者数 一般 者数	5, 883 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827	35, 996 50, 299 50, 299 543, 489 343, 079 19, 066 25, 60 10, 834 144, 907 18, 455 18, 455 18, 455 18, 456 48, 11 48, 11 48, 11 48, 11 13, 31; 15, 646
国立博物館 黑記 城科原料 原料 宮宮 宮館 跡館 跡室	常展 特別展 常 寒展 常 平特	料 無 無 計 有 村 () 計 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 () 1 ()	友の会 高校生 小・中生 招待者等 小・中生 招待者等 高・・・中生 大を書等 小・の会 招待数 一般 一般 一般 者数 一般 者数 一般 者数 一般 者数	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 21, 127 25, 127 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667	35, 996 50, 299 50, 299 543, 488 343, 079 19, 066 25, 60 10, 83- 144, 90 18, 456 18, 456 18, 456 353, 344 189, 331 165, 000 4, 811 4, 811 4, 811 133, 312 15, 644 5, 684
国 立 博 物 館 黒記 球科 原料 原料 原数 節館 跡館 跡館	常展 特別展 常 ^{平常} 平常	料 無料 計 有料 総計料的料類 無総計料的計算 無総計	友の会 高校生 小・中生 招待者 高・大生 小・の会 招待数 一般 者数 一般 一般 者数 一般 一般 者数 一般 一般 者数 一般 十五 一般 十五 一般 十五 一般 十五 一般 十五 一般 十五 一般 十五 一般 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五 十五	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667 496	35, 996 50, 291 69, 298 543, 488 343, 079 19, 066 25, 600 10, 832 144, 900 18, 455 18, 455 18, 456 18, 456 4, 811 4, 811 4, 811 4, 811 133, 312 15, 644 5, 688 466
国立博物館 黑記 城科原料 原料 宮宮 宮館 跡館 跡室	常展 特別展 常 寒展 常 平特	料 無料 計 有料 総計無総無無入計 無総計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者 ー般大生 小・中生 招待数 ー般 表の名等 活者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 者数 ー般 もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの もの	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667 496 4, 884	35, 996 50, 291 50, 292 69, 293 543, 481 343, 077 19, 066 25, 60 10, 834 144, 907 18, 455 18, 455 18, 455 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 456 18, 566 48, 811 13, 311 15, 646 15, 686 466 3, 5, 507
国 立 博 物 館 黒記 英科 原料 原料 飛 鳥 節館 跡館 跡室	常展 特別展 常 ^{平常} 平常	料 無料 計 有料 総計無総無無入計 無総計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者 一般 高・・ナ・中会 招待者 一般 高・・ナ・中会 招待数 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667 496	35, 996 50, 299 50, 299 543, 489 343, 079 19, 066 25, 60 10, 834 144, 90 18, 455 18, 456 18, 456 35, 304 4, 811 4, 811 133, 312 15, 644 4, 664 4, 664 4, 676
国 立 博 物 館 黒記 英科 原料 原料 飛 鳥 節館 跡館 跡室	常展 特別展 常 ^{平常} 平常	料 無料 計 有料 総計無総無無入計 無総計有料	友の会 高校生 小・中生 招待者 小・中生 招待者 一般 高・小・女名 高・小・女名 教 一般 人名者 数 一般 名数 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667 496 4, 884 6, 780	35, 990 50, 299 50, 299 543, 488 343, 079 19, 066 25, 600 10, 834 144, 900 18, 455 18, 456 18, 456 354, 348 4, 816 4, 816 4, 816 133, 312 15, 648 4, 62 3, 500 6, 000 117, 666
国 立 博 物 館 黑記 城料 原料 飛 鳥 資 料 田館 跡館 跡室	常展 特別展 平 平等 平常展 特別		友の会 高校生 小・中生 招待者 一般 ・・中生 名・・・中生 名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 4, 341 4, 341 177, 347 18, 827 6, 667 496 4, 884 6, 780 58, 520 30, 856 1, 667	5, 764 35, 994 50, 298 69, 299 69, 299 69, 299 69, 299 10, 834 144, 907 118, 455 18, 455 18, 455 18, 456 189, 333 165, 006 4, 818 4, 818 4, 818 5, 684 466 3, 500 6, 000 117, 666 58, 755 2, 481
国 立 博 物 館 黒記 坪資 藤資 田館 跡館 跡室	常展 特別展 平 平特別 平常展 特	料 無料 計 有料 総計無総無無総計無総計無総計無総計無総計無総計無総計有料料 有	友の会 高校生 小・中生 招待者 一般 高・・大・中生 招待数 一般 者数 一般 本 本 上 と よ <	5, 888 27, 907 52, 658 352, 871 1, 055, 043 757, 650 32, 892 48, 653 13, 734 202, 114 20, 345 20, 345 20, 345 25, 127 25, 127 4, 341 4, 341 77, 347 18, 827 6, 667 496 4, 884 6, 780 58, 520 30, 856	35, 990 50, 299 69, 298 643, 488 343, 078 19, 066 25, 601 10, 834 144, 907 18, 455 18, 458 18, 458 18, 458 18, 334, 344 189, 338 165, 000 4, 818 4, 818 133, 312 15, 644 5, 684 462 3, 503 6, 000 117, 665 58, 755

31,317 ※21年度より、機構内全施設にて高校生以下平常展無料となった ※東京国立博物館パスポートによる特別展入場者数は、19年度まで友の会に含み、20年度より有料に含む ※21年度以降の飛鳥資料館特別展有料大学生入場者数は、春期特別展のみ高校生を含む

a-② 入館者数推移(展覧会別) 1) 国立博物館、国立文化財機構総合計

※1 こわらの特別展は、平 消無料金のため、平常展の みの入館者に計上。	3.392.243 947.439 2,444,804			331,13 331,13 244,34 21,70 21,70 37,53 8,24	649,878 71,566 578,312 202,166 81,342 81,342 294,804	818,034 24,489 543,489 84,738 42,022 53,409 354,31 9,009
★ ★ ★	22年度(国立文化財権機 5156.358 総計 1080.509 常策のみの入館者 4,075.849 特別(共催)展計	総 計 320,536 平常展のみの入館者 2,085,745 特別展 [編川家の至宝] 115,568 特別展 [離土 中国文明] 593,895 特別展 [職土 中国文明] 114,796 特別展 [東本大仏- 天平の音宝-]	447,944 128,285 292,526	総 計 0 平常展のみの人植者 152.920 特別(共催)展計 152.921 特別展「没後400年 長谷川等伯」 25.51 特別展 (没後400年 長谷川等伯」 25.51 特別展 (高値と変装 - 乙名を伝え こころを繋く 147.078 特別展 (電機と変装 - 乙名を伝え こころを繋く 147.078 特別展 (電機と変装 - 石泉を付って) 147.078 特別展 (主法・大きを伝え こころを繋く 147.078 特別展 (主法・大きを行って)	総 計 138.672 平常展のみの入館者 423,621 93,779 特別展「大造庫/展」 30,548 PRII展「大造庫/展」 29,294 特別展「第62回正倉 院展」	1.599.704 総 計 554.665 平常展のみの入館者 1.055.045 特別(共能) 原計 1.105.047 特別展「バリに映いた古伊万里の権」 711.114 特別展「版 エリーロロ文明」 72.711 特別展「版 1 中国文明」 130.231 特別展「後 1 中国文明」 特別展「農業 OBAKU」
22年度			447; 128, 292,	4 4 2	560 136, 423, 30, 299, 299,	
21年度	21年度(国立文化財機機) 4.183.381 総合計 1.0412.12 平常展のみの入館者 3.152.188 特別代権・展計	総 展のみの人館者 特別(実権)展計 展 (STORY OF…) 展 (監女付一艦が終歴展) 展 (対してのおいりにより 展 (対してのおいりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりにより	展「 <u>皇室の名宝</u> 一日本美の華 展「国宝 <u>七偶展</u>] 展「長谷川等伯展」	総 計 平常展のみの入館者 特別展「開山無相大師650年送離記念 炒心等 特別展「アルグロード、文字を辿って」 特別展「THE ハブスブルク」	総 計 展のみの人館者 特別(共催)展計 展[国宝 鑑真和上展] 展[聖地寧茂] 展[第61回正倉院展]	総 計 平常展のみの人間者 特別(基礎)(基礎) 特別展「電生イベントボタ至と天空の寄宝」 特別展 国宝 阿修羅展」 特別展「古代九州の国宝」展 特別展「古代九州の国宝」展
	4,193,381 1,041,212 平開 3,152,169	2,171,942 412,675 平常 1,759,267 742,910 特別 58,342 特別 326,784 特別 80,865 特別	308,213 特別 73,128 特別 151,833 特別 4,915 12,277		647,854 112,849 平常 535,005 31,910 特別 132,919 特別 106,41 263,765	756,918 241,423 平常展 515,446 115,749 特別展 125,420 特別展 174,698 特別展 72,637 特別展
. 20年度	20年度(国立文化財機構) 587 業 合 計 825 平常風のみの入館者 842 特別(共権)限計	平常展。特別展特別展特別展特別展	51,999 特別展 大郷派展 - 継承と変奏 - 1 特別展 未交びらぐ福澤諭吉 展 特別展 [歩込・寺] 上 特別展 [STORY OF・・・・] 特別展 [STORY OF・・・・	22.414	総 計 131,336 平常展のみの入航者 131,578 特別(大協)展計 0.403 韓別展「天馬 -ンルクロードを増ける夢の馬ー 22,696 特別展「国宝 大協寺金媛展」 248,389 特別展「国宝 大協寺金媛展」 248,389 特別展「国宝 大協寺金媛展」	総54,138 341,282 平常膜のみの入間者 512,882 特別膜 国宝大絵巻展 1 50,986 特別膜 周宝 大絵巻展 1 197,687 特別膜 周宝 天神さま 1 171,336 特別膜 L芸のいま 伝統と創造 1 15,487
4 数 数 4	3,764,567 1,095,925 2,668,642	海 海 海	- 非勝		442.91 131.33 111.57 40.49 22.69 248.38	
18年度	19年度(国立文化財権機 3.845,023 総 合 計 1.147,804 平常展のみの入館者 2.491,219	総 計 361,773 平常展のみの入館者 1,055,422	(1(72,720) 特別展「平坡遷都」300年記念 国宝 薬師 106,229	総 計 146,752 平常 膜のみの入植者 140,018 特別 康藤 藤子 梅の大の大田 188,772 特別 藤原道長 一極のた栄華・順のた浄土 188,772 特別 康 発野 大徳 185,283 特別 康 (衛北のヨーロッパ陶磁) 25,283 特別 康 (衛北のヨーロッパ陶磁) 138,683	総 計 1317739 平常限のみの入館者 339,899 特別(共権)展計 41.813 特別展 (神仏習合) 14,571 特別展 (第59回正倉院展) 288,515 特別展 (第59回正倉院展)	総 計 501,540 平常展のみの入館者 501,540 平常展のみの入館者 10,590 特別展「未来への贈りものとなったを 17,478 特別展「未来への贈りもの」 63,560 特別展「本来への贈りもの」 63,560 特別展「本部本社」権の文化と展 789,981 特別展「五年本の報告の表別を表の演 139,981 特別展「国宝 大総参展」
2,400,000 2,400,000 2,200,000 1,800,000 1,200,000 1,200,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000	18年度(国立博物館) 総 合 計 3.6 平常 <u>展のみの人館者</u> 1.1 特別(先催)展計 2.4	エ戸絵画展」 ルン・イン・バー がある の 第名品展 」	楽園の神々」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	総 平常展のみの人間者 1 4 特別展「大絵巻版 特別展「大絵巻版」 特別展「大絵巻版」 特別展「大絵巻版」 特別展「大橋・みやこの意匠と技一」 特別展「京雄 海水電磁画 - 海紫瀬敷と御学問所 - 1	総 計 平常殿のみの大郎者 特別(大郎) 展計 特別展「大衛雄 重源」 特別展「大衛雄 重源」 特別展「第58回正會院展」	総 計 平常展のみの入り 特別展「中国 美の十字路」 特別展「中国 美の十字路」 特別展「今国 美の十字路」 特別展「今国 美の・1年のから、 特別展「南の月のかり、 特別展「南の月のかり、 特別展「南の月のカー本」を表現する開展。 特別展「布の月のカー本」を表現する開展。 特別展「布のオー本」を表現する開展。
	#	整		低	条点	九幕

	━━黒田記念館	→平城宮跡資料館	● 藤原宮跡資料室 料室]
					\		22年度
							21年度
						-	20年度
							19年度
					4		18年度
360,000	300,000	260,000 240,000 220,000	200,000	140,000	80,000 80,000 80,000	40,000	<u> </u>

	18年度(文化財研究所)	19年度(国立文化財機構)	2	20年度(国立文化財機構)		21年度(国立文化財機構)		22年度(国立文化財機構)	
丰	総 合 計 平常展のみの入館者	215,120 119,223	/						
	特別(共催)展計	95,897							
	総	総	13,707		19,038	総計	20,345	総計	18,458
8	平常展のみの入館者	20,975 平常展のみの入館者	13,707 平常	平常展のみの入館者	19,038	19,038 平常展のみの入館者	20,345	20,345 平常展のみの入館者	18,458
张 令 日 信	特別(共催)展計	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	
g S									
	和《樂	42,560 総 計	85,486	岩線	92,597	操	25,127	- 湯	354,346
	平常展のみの入館者	平常展のみの入館	85,486 平常	入館者	92,597	入館書		平常展のみの入館者	189,338
中城河	特別(共催)展計	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	165,008
英海海								人工员 计记录 人 计记录计算程序	00 449
信								企圃展「半城呂跡 今・昔一岡田圧三与具展一」	38,443
								特別展「天平びとの声をきく-地下の正倉院・平城宮木簡のすペピー」	92,394
								企画展 測る、知る、伝える - 平城京と文化財-」 人:	20,282
		2.2						正 回 茂 「 光 塩 茂 報 茂 左 2010]	13,009
	_	4,457 総計	6,885	総	4,423	起	4,341	総計	4,815
藤原四	平常展	4,457 平常展のみの入館者	6,885 平常	,885 平常展のみの入館者	4,423	4,423 平常展のみの入館者	4,341	4,341 平常展のみの入館者	4,815
茶 海 (本)	特別(共催)展計	特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計		特別(共催)展計	
H									
	- 編	112,128 総 計	100,825	岩線	84,608	岩線	77,347	米	133,312
	平常展のみの入館者	16,231 平常展のみの入館者	17,852 平常	平常展のみの入館者	16,242	平常展のみの入館者	18,827	平常展のみの入館者	15,649
	特別(共催)展計	95,897 特別(共催)展計	82,973	特別(共催)展計	998,366	特別(共催)展計	58,520	特別(共催)展計	117,663
物面	Action Tell Carlot Matter 1 we also as the control of the carlot of the	作子民国国籍中十四[天]国旧基 062 32	27 007	the state of the s	E1 171 A	(1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	41 949	1 5/10 年 日 田 年 十 年 田 田 年 1 5/10 日 中 日 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	100 907
143	_		01,001	後 キトフ 占項 壁画 十一文 一十・ 井・寅 一 〕 : 1 団 「飛 鱼 一十 士・"が 対 「	-	特別展「キトプ占填壁画四件一直題・日児一」	41,242	付別後「インロ頃壁回四件」 公面面「ホネシケ昭の十キシ輪話」	100,307
ţ	板「ボ版」が、東上」	治国版ニ2を126度3 =第4年11日 - 本年本年 1	0,044	校 /	3,000	対のシケーケス型」 「新社での地土推験	3,024	正回族「小らふり命ひ入らふ物品」	0,433
	正 画 展 東ノンノの十一 又塚]	3 314 市場 市場 市場 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	9,342 特別展 1 589	特別展「おはつしの別者代有華」 企画展「報真の老士学2008」	11,095	:,093 特別 展 二凞文化の名 白刺 知兄] 549 春画展「 報 島の 孝士学5009	9 448	1,000 特別展「本簡潔明一飛鳥に集っいたしえの文字だち」 9 448 企 面 展 「	10,140
	×	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1,993		77.0.1	L 国次 116.000-3 日子2009」	, i	L. 阿次· //s/my	10161
		月画校 骸 ころらん ロナー 十二合 上 浜 画 好							

a-③ 入場料収入

(単位:円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
国立文化財機構 計	1, 034, 937, 495	1, 081, 301, 672	1, 159, 630, 962	1, 323, 819, 776	891, 598, 757
東京国立博物館	391, 263, 820	514, 039, 330	611, 637, 800	662, 347, 500	268, 900, 600
京都国立博物館	144, 399, 600	130, 218, 030	126, 305, 930	111, 512, 790	93, 829, 670
奈良国立博物館	246, 395, 770	228, 339, 500	265, 576, 036	267, 397, 290	355, 735, 620
九州国立博物館	252, 878, 305	182, 000, 762	134, 177, 251	262, 889, 871	131, 683, 367
飛鳥資料館		24, 975, 310	20, 121, 140	18, 006, 130	41, 449, 500
東京文化財研究所黒田 作品共催展		1, 728, 740	1, 812, 805	1, 666, 195	0

a-④ 平常展·特別展

【東京国立博物館】

(1) 平常展(23年1月2日から総合文化展)

※震災の影響により、23年3月12日~28日まで臨時休館、23年3月29日からは本館・平成館のみ開館(表慶館・法隆寺宝物館は休館)

1)会 場

①本 館 1階、2階

②平成館 1階

③表慶館 1階

④法隆寺宝物館 1階、2階

⑤黒田記念館 2階

※東洋館は耐震工事のため休館中

2) 開館期間

黒田記念館以外 4月1日~23年3月31日(297日間) 平常展のみの開館日数 98日間

黒田記念館 4月1日~23年3月31日(84日間)

3) 陳列品総件数 5,610件(うち国宝78件、重要文化財669件)

①本館・平成館企画展示室 3,562件(うち国宝53件、重要文化財348件)

 ②表慶館
 265件(うち国宝 0件、重要文化財 6件)

 ③法隆寺宝物館
 427件(うち国宝16件、重要文化財283件)

③法隆寺宝物館427件(うち国宝16件、重要文化財283件)④平成館考古展示室1,258件(うち国宝16件、重要文化財108件)

⑤黒田記念館 98件(うち国宝 0件、重要文化財 4件)

4) 陳列替回数 延べ 290 回

5)入場料金

黒田記念館以外 一般600円、大学生400円

黒田記念館 無料

6) 特集陳列 全53件

●国宝 ◎重要文化財 ○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館1階			
18室	農村(田園)へのまなざし	22年2月23日(火)~4月4日(日)	34 (0. 1)
	<主な作品>◎春畝、田舎家、枯れ野原(ク	ブレ一)、栗拾い、案山子	
	平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独	は立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法	よ人国立文化財機構が発足したことを
	記念して行う第4回目の特集陳列であった。	今回の特集陳列では、日本におけるバルビゾン派	(の受容を、農村(田園)を描いた浅井、
	黒田の作品でたどる展示をした。		
本館2階			
9室	歌舞伎衣裳	22年3月9日(火)~5月16日(日)	14 (0. 0)
	<主な作品>振袖 水浅葱繻子地枝垂桜模様	策、振袖 紅縮緬地桜流水模様	
	江戸時代後期大奥で活躍した女性のお狂言	師、坂東三津江が使用していた歌舞伎衣裳および	が道具を展示した。今回の展示では、
	春の季節に合わせて桜の意匠を表わした振	袖や、娘道成寺という演目で使用された襦袢なと	ごを紹介した。併せて、娘道成寺を描
	く浮世絵版画を展覧し、江戸時代の三大娯	楽の1つであった歌舞伎の文化を見る機会とした。	,
本館1階	シリーズ「歴史を伝える」		
16室	博物図譜ー桜を中心にー	22年3月9日(火)~4月25日(日)	24 (0. 0)
	<主な作品>草花写生図巻、本草図説、遠	西舶上画譜	
	日本における博物学は、享保年間(1716~3	5)に江戸幕府が全国的な物産の調査を行ったのを	と契機に流行した。写生によって物の
		流行する以前にも、心覚えのスケッチとして行わ	
		。今回の展示では、季節にちなんだ桜を中心とし	
	探幽(1602~74)の写生図から、明治時代の	実用的な掛図にいたるまでの、生き生きとした楽	い博物図譜を紹介した。
本館1階		00/50/50/50/50/50/50/50/50/50/50/50/50/5	17 (0, 0)
19室	伝統工芸-人間国宝の技と美	22年3月9日(火)~6月6日(日)	17 (0. 0)
	<主な作品>乾漆朱菊花方盤、華菱文玳瑁	螺鈿箱、鸚鵡小禽葡萄文箱、燿彩鉢 心円	
		要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の	
	芸の伝統的な技法を基本として作られたこ	れらの作品の中から、漆工、金工、陶磁の優品を	選んで、その技と美を紹介した。
平成館		20525425 (1) 25425 (5)	454 (0.0)
考古展示室	骨角器一人と動物たちとのかかわり一	22年3月16日(火)~9月12日(日)	151 (0. 0)
	<主な作品>燕形銛頭、釣針、犬歯製垂飾		
		ての骨角器のコレクションは、その量とともに、	
		、これまでに図版目録、研究図録として公表して	
		展示し、当時の人々の生業の実態に迫ると共に、	人間と動物の関わりについてもわか
	りやすく解説した。		
平成階 今兩展二宏	東京国立博物館コレクションの保存と修理	22年3月16日(火)~5月9日(日)	22 (0. 1)
企画展示室			ZZ (U. 1 <i>)</i>
	<主な作品>申文、小袖 黒綸子地遠州模様	聚、色絵柏樹双鳥文大皿	

東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成20年度に修理が完了した作品を中心に、 全19件を展示した。絵画、書跡、工芸、歴史資料、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程およ び修理過程で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待する展示 とした。 本館1階 13室 海を渡った日本の漆器 22年3月24日(水)~6月13日(日) 18(0.0) <主な作品>桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕、楼閣山水蒔絵宝石箱、花鳥螺鈿裁縫机 近世以降ヨーロッパの上流階級の間には東洋趣味が広く浸透しており、日本の漆器は東洋を象徴する室内装飾調度として、彼ら の間で大いに人気を集めた。そのような需要に応えて制作された、安土桃山時代から幕末明治期までの作品をとりあげて輸出漆 器の歴史を概観し、日本の漆器が欧州で愛でられ続けたことを紹介した。 本館1階 特別5室 仏像の道ーインドから日本へ 22年3月24日(水)~23年4月3日(火) 21 (0.4) <主な作品>如来坐像、◎如来三尊立像、◎如来坐像 東洋館、本館、法隆寺宝物館に展示されていた仏像を一堂に会し、紀元2世紀のガンダーラから、中央アジア、中国、朝鮮半島を へて8世紀の奈良に至るまで、600年にわたる仏像の流れを概観した。仏像の誕生、中国への伝来、唐と奈良などのテーマを設け、 それぞれの時代・地域で、どのような仏像が造られ、人々の信仰を集めていたかを紹介した。 本館1階 14室 中国の五彩と日本の初期色絵 22年3月30日(火)~5月30日(日) 23(0 0) <主な作品>五彩丸文平鉢、色絵山水船人物図銅鑼鉢、五彩蓮池図大皿、色絵蝶牡丹文大皿、色絵翡翠図平鉢 色絵とは白磁をいったん高温で焼きあげ、上絵具で絵付けを施したのち、再び窯に入れて焼き付ける技法で、中国では五彩とい う。中国の景徳鎮民窯では、明末清初の時期に天啓赤絵、色絵祥瑞、南京赤絵など多種多彩な五彩が焼かれ、さかんに輸出され た。江戸時代初期に磁器の生産が始まった九州肥前の有田では、17世紀中葉に中国から色絵の技術が導入され、中国のさまざま な五彩磁器の様式をもとに豊かな創意が加えられて、独創的な初期色絵が花開いた。その中には、かつて加賀の九谷で焼かれた と考えられたことにより、古九谷とよばれた一群も含まれる。中国の五彩と日本の初期色絵を比較することにより、相互の影響 関係、そして模倣と創造の不即不離の関係を検証する展示とした。 本館1階 4月6日(火)~7月4日(日) 15室 アイヌの暮らし 40(0 0) <主な作品>船模型、アットゥシ布、アットゥシ、銛(マレク)、盆 アイヌの暮らしをテーマとして展示した。暮らしの中で使われた織機具や漁撈具、船や家の模型などを陳列した。『蝦夷島奇観』 等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。 本館1階 シリーズ「歴史を伝える」 16室 戦国大名と細川家 4月27日(火)~6月6日(月) 20 (0.0) <主な作品>詠歌大概抄、小倉百人一首抄、伊勢物語、土佐家古文書 足利氏の一門として鎌倉時代から現代にまで続く武家細川家の歴史を通覧する展示にした。特に室町幕府の政治を担った細川氏 の姿を今に伝えてくれる古文書、また幽斎・忠興父子を中心に同家が武家における有数の文化人としての立場に関連する数々の 書跡作品・歴史資料の陳列によって、文武両道のイメージを展示での再現を目指した。また幽斎と同時代の戦国大名家伝来の古 文書もあわせて陳列して、細川氏と他大名との違いを観覧者に発見してもらえるような工夫も加えた。 本館2階 特別1・2室 4月27日(火)~5月9日(日) 平成22年新指定国宝·重要文化財 38 (2 36) <主な作品>●越中国射水郡鳴門村墾田図、●伊能忠敬関連資料、◎岩手県平泉遺跡群出土品 文化庁との共催により、平成22年に新たに国宝・重要文化財に指定される美術工芸品のうち、38件を展示した。 平成館 企画展示室 5月11日(火)~5月23日(日) 3(0.0)海外の日本美術品の修復 <主な作品>歌舞放下芸観覧図屏風、和歌浦蒔絵将棋盤、近江八景蒔絵香棚 東京文化財研究所が行ってきた海外所在の日本美術の保存修復事業を紹介した。1991年、文化庁、外務省、国際交流基金、東京 文化財研究所が共同で始めた在外日本古美術品保存修復事業は、当初アメリカ合衆国内の機関が所蔵する日本絵画の修復への協 力として始まった。その後、範囲をヨーロッパ諸国へ拡大し、絵画だけでなく漆芸品や武器・武具なども対象に加えた。今回の 展示では、2009年度に修復の完了した作品3件を展示した。 主催:東京文化財研究所 本館2階 9室 能面・能装束に見る能の表現一鬼の風姿一 5月18日(火)~7月4日(日) 17 (0.1) <主な作品>◎能面 猿飛出、側次 金地石畳宝尽模様 能は鬼能から始まったといわれるように、能舞台における鬼の造形は、能の源流を見る上で重要である。天狗や動物の精霊、あ らぶる神々などを演じる際に用いる鬼面と、それに伴う能装束とを組み合わせ、能舞台における鬼の風姿を見ていく展示とした。 本館2階 特別1・2室 平成21年度新収品展 5月18日(火)~6月13日(日) <主な作品>男衾三郎絵詞断簡、〇太刀 長船景光、〇短刀 銘則重、〇薙刀 前年度の新収品から、48件をえらび、陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく機会と した。 平成館 清朝末期の光景ー小川一眞・早崎稉吉・関野貞が 企画展示室 撮影した中国写真ー 5月25日(火)~7月4日(日) 113 (0.0) <主な作品>太和門、函谷関ノ溝道、八角磚塔及び陀羅尼幢(「支那写真帖」のうち) 清時代末期、日本では中国の美術や考古、建築に対する関心の高まりをみせ、岡倉天心を嚆矢として、伊東忠太や足立喜六、関 野貞らが中国各地で調査を行った。これらの調査の特徴は、写真技術を調査の有効な手段として用いたことにある。本展では明 治34年(1901)、小川一眞が東京帝国大学の紫禁城調査に同行して撮影を行った『北京城写真』を中心に、西安に赴任していた早 崎穂吉が、東京帝室博物館依頼を受け、河南、陝西地方を撮影した写真資料、および関野貞が明治39年~40年に行った河南、陝 西、山東地方の調査で撮影された写真資料を紹介し、日本人がとらえた清時代末期の文物、風景、風俗の情景を窺う展示とした。

本館1階 14宮	中国磁型変の物	6815 (4) - 0805 (5)	25 (0, 0)
14室	中国磁州窯の枕	6月1日(火)~8月8日(日)	25 (0. 0)
	を生産するようになったのは、宋か	ものが、三彩や青磁でつくられるようになる。さまざ ら金時代にかけて、活発な生産をおこなった磁州窯で 描かれ、生に願いを込める当時の人々の思いを表した!	ある。磁州窯の枕は、吉祥をあらわす
本館1階	シリーズ「歴史を伝える」		
6室	日本を歩く一東海編-	6月8日(火)~7月11日(日)	7 (0. 4)
	<主な作品>東海道五十三次図屏風	、◎東海道分間延絵図;三島、沼津、原、吉原富士、蒲	原、由比、奥津
-L Arto Office	などを紀行文や絵図・地図などをもっ 遠江・駿河・三河が該当するが、今 場面を紹介した。また、絵画から寄	21年度まで蝦夷・北海道編、奥羽・東北編、甲信越編の って紹介してきた。今回は東海編として企画するもので 回は重要文化財「五海道分間延絵図並見取絵図」が完 託品「東海道五十三次図屏風」を展示した。	あった。具体的な国名としては伊豆
本館2階	親と子のギャラリー	CB150 (N) 38050 (D)	10 (0, 1)
特別2室	頻伽文華鬘(模造)	6月15日(火)~7月25日(日) R梁行品、平家納経(模本) 妙荘厳王本事品 第二十七、	小袖 白縮緬地衝立鷹模様、金銅迦障
	展示にした。「技法」を知ることは 会も少なく、作品を一見したところ ルを用いることで、わかりやすい展 て、歴史のなかで培われてきた日本	もらうことを目的とした、中高生以上の生徒から一般 、作品理解の重要な手がかりとなる。伝統的な日本美術では想像すらつかないものが多い。そこで、専門家に では想像すらつかないものが多い。そこで、専門家に 示を心がけた。さらに、それらの技法を駆使して作ら 文化のすばらしさを伝えた。取り上げるジャンルは、 他る、簡単な作品をつくるなどのハンズオン・コーナ	術の制作技法は、日常では目にする材制作を依頼した工程見本や技法サンフれた「ほんもの」の作品の鑑賞を通し料紙装飾、仏像の玉眼と寄木造、友神
本館1階		7505(1) 05405(5)	0 (0.7)
12室	二体の大日如来と慶派の彫刻	7月6日(火)~9月12日(日)	9 (0.7)
	慶派仏師は、天平彫刻が残る奈良を として「慶」の字を継承した仏師の 巨匠を輩出し、奈良や京都の貴族や く手がけた。近年発見された、運慶	真如苑)、◎行道面 菩薩、◎大日如来坐像(栃木・光彩中心に活躍した奈良仏師のうち平安時代末から鎌倉時一派を言う。古典を学んで写実的で運動感に富む新鮮 大寺といった旧来の需要層にとどまらず、鎌倉幕府と 作品と考えられる光得寺と真如苑所蔵の二体の大日如 日如来像を陳列するとともに、運慶の作風に近い伝浄 した。	代初頭にかけて活躍した康慶以降、まな作風を創造した。運慶、快慶といる いう新しい勢力の発願による造像も多 来像も御家人の足利義兼発願である。
本館1階 15室	琉球の工芸	7月6日(火)~10月3日(日)	46 (0. 0)
	<主な作品>厨子甕、ドギン、玉ハ	ルド、鼈甲簪、キンカブ	
	第二尚氏時代を中心とした琉球の工	芸作品を展示した。これまでの琉球民俗資料陳列と同れ 的にイメージできるよう工夫をした。	様、『琉球国奇観』等の写真パネルを
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 古写真ー人物を写すー	7月13日(火)~8月1日(日)	48 (0. 1)
10±	<主な作品>第2回江戸幕府遣外使節 特集陳列シリーズ「歴史を伝える」	5団正使・副使・監察役・組頭、◎旧江戸城写真帖、勝では古写真を素材として、記録と記憶、古美術の記録 写真の意義、写真のもつ資料性と記録性、写真師の活	海舟、井上馨夫人 、小川一真と近畿宝物調査と特集陳列
	素材は『東京国立博物館所蔵幕末明	たところである。本年は、このような回顧に立ち被写(治期写真資料目録』掲載のもので、江戸幕府の遣欧使! に立った人々のそれぞれの思いや背景を考えてみるもの	節、明治の元勲たちである。写真が多
平成館 企画展示室	古代エジプトのミイラ	7月13日(火)~9月20日(月)	16 (0. 0)
		ラの包み布、パシェリエンプタハのミイラ	(3. 0)
	明治37年にエジプト考古庁から帝室する作品を展示した。現在、東洋館	ラの己み而、ハシェリエンフッハのミィラ 博物館に寄贈された「パシェリエンプタハのミイラ」 が閉鎖中であるため、その多くは公開を控えているが、 係作品を公開し、来館者の要求に応えるとともに、古	観覧を望む声は多い。この陳列では
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 江戸時代の情報・通信	8月3日(火)~9月5日(日)	26 (0. 1)
	に大量の情報を組織化した目録や索 の展示では、情報を伝えるさまざま	石相撲 活発となり、それにともなって文書や書籍、画像など 引、評価を加えた番付などの新しい形式の媒体が発生 な資料の生の形を示すとともに、情報流通を支えた通信	し、情報化社会の基盤が作られた。こ
本館2階 特別2室	親と子のギャラリー 博物館の音楽会	8月3日(火)~9月5日(日)	25 (0. 1)
	日本美術にみる音楽と楽器を題材に の楽器を演奏している場面を表わし エ・陶磁器・図譜を取り上げ、管・	N塔鈴、集古十種:肖像人物服章:11、◎埴輪 腰かける丞 、主として小中学生を対象とした教育普及的展示であ たもの、楽器を装飾モチーフとしているものという観 弦・打楽器などのジャンルに分けて展示した。さらに 楽器についての知識を深めてもらうような補助的展示	る。日本の古い楽器そのもの、これら 点から、埴輪・仏画・人形・漆エ・st 楽器の種類や演奏の方法をわかりやす

本館1階			
4室	打ち鳴らして音を出す仏具-梵音具-	8月10日(火)~10月3日(日)	23 (1. 4)
	<主な作品>◎銅蝶形磬、◎白銅蓮池文磬、	●金銅蓮華唐草文磬、◎銅鰐口、◎梵鐘	
		を出す仏具、梵音具が用いられる。鐘楼に懸し	ナて打ち鳴らす梵鐘はよく知られるが
	梵音具にはこのほかにも軒下につるされる鰐	口、堂内で用いられる磬、鐃、銅鑼、鉦鼓、	雲版、木魚などさまざまなものがある
	梵音具は名称が独特であるように、その形も	また独特なものが多い。今回は日本の梵音具	の源流になったとみなされる朝鮮半島
		のない、梵音具の独特な造形の世界をご覧い	
★館2階			
)室	絹糸と金箔の和様美-縫箔-	8月31日(火)~10月24日(日)	9 (0. 4)
	<主な作品>◎縫箔 紅白段菊芦水鳥模様、◎	D縫箔 茶地百合御所車模様	
		あるが、安土桃山時代までは、唐織と同様に	女性役の表着として用いられた。桃し
		どり、和刺繍と金箔の効果を生かした能装束	
本館1階	シリーズ「歴史を伝える」	·	
6室	釈奠-孔子さまのお祭り-	9月7日(火)~10月17日(日)	15 (1. 0)
	<主な作品>賢哲肖像、●延喜式 巻第二十、	詩懐紙	
		った。 を祭る行事で、古代の大学寮にはじまり、江	戸時代には湯鳥聖堂 藩校などで春秋
		、行事の具体的な内容や、沿革を伝える釈奠	
本館1階	0) = 0) 0 0 0 0 0 0 0 0 0	K 117 OVI 11 C 117 C INC.	MANUAL CARRAGO
8室	浅井忠のグレー風景-高野コレクション	9月14日(火)~10月24日(日)	6 (0. 0)
	<主な作品>グレー風景、読書		
		家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッ	サン56占 掛軸6占の計72占にもとだ
		多く含んでいる。高野コレクションは、この	
		: 多くさんといる。同野コレクションは、この - 括寄贈されたものである。今回の特集陳列で	
		ン(フランス)で描いた油彩画や水彩画の作品	
	面に光を感じさせる詩情あふれる浅井作品の		「点とこ見いたたと、冷吹子に強いた
k館2階	曲に元を応じてもの時間ののでの次分下中間の		
持別2室	ワヤンーインドネシアの人形芝居-	9月14日(火)~12月5日(日)	41 (0. 0)
		ン・クリ スリカンディ、ワヤン・クリ ドゥル	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	ン・クリ アルジュノ、ワヤン・クリ ガトゥ		
		:用いられる人形を展示した。中部ジャワを中	心として盛んなワヤン・クリは、水
		呼ばれるたった一人の演者の手により夜を徹	
		って上演されるものである。インドの叙事詩	
		演じられるワヤンは、現在もインドネシアで	
		の人形すべてを展示し、それぞれの役柄や、	
 平成館	CION TALLO CITALIAN CONTROL	obstant Celebrate Charles Miller	BIND OF COLOR CATEBOOK
5古展示室室	古墳時代の甲冑	9月14日(火)~12月12日(日)	35 (1. 2)
		陌田, 房田 復元描绘 楼田 ●構剁垢茶怒钴田] 片/復元修理) 区纪広场纸级添角计员
		頃甲·肩甲、復元模造 襟甲、●横矧板革綴短甲 ・朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが	
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、	中期には日本列島独自の帯金式甲冑
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には 成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には 成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と 期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が 革新され、また汎大陸系甲冑であるが 展示では、出品の調査成果を交えて、
区式館	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には 成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と 期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が 革新され、また汎大陸系甲冑であるが 展示では、出品の調査成果を交えて、
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には 成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と 期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな 類例が少ない前期型から中期・後期型までの	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑; 革新され、また汎大陸系甲冑である? 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日)	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が 革新され、また汎大陸系甲冑である行 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0)
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九·三十、●流	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 作南鴻烈兵略間話 第廿(秋萩帖 紙背)、●25	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が 革新され、また汎大陸系甲冑である行展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 法華経巻第六(色紙)
平成館 企画展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九·三十、●沢大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術は	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 住南鴻烈兵略間詁 第廿(秋萩帖 紙背)、●記 、奈良時代の国家的な写経事業などによって	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 法華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九・三十、●流大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 推南鴻烈兵略間詁 第廿(秋萩帖 紙背)、●短 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である。 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 注華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九・三十、●流大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 住南鴻烈兵略間詁 第廿(秋萩帖 紙背)、●記 、奈良時代の国家的な写経事業などによって	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 注華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ
と画展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九・三十、●流大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 推南鴻烈兵略間詁 第廿(秋萩帖 紙背)、●短 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 注華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ
上画展示室 上面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 <主な作品>●王勃集巻第二十九・三十、●活大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 推南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●法 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その
企画展示室 本館1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●光大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 住南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●法 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・ 10月5日(火)~11月28日(日)	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 注華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ
上画展示室 上面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九·三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、● 25 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・ 10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 法華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その 30(0.0)
上画展示室 上面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九·三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 住南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●法 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・ 10月5日(火)~11月28日(日)	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 法華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その 30(0.0)
上画展示室 「 上面展示室 「 上面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器ーわざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、● 25 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・ 10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 生華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。
上画展示室 「 上面展示室 「 上面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器ーわざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 生南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい。 紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 混金といった技法があり、これによって花鳥・記められている。また、無文漆器という色彩	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 生華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。
上画展示室 	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九·三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡それらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味が	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 生南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい。 紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 混金といった技法があり、これによって花鳥・記められている。また、無文漆器という色彩	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 生華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。
上画展示室 K館 1階 4室 K館 1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九·三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡それらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味が	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、 共に、断続的な大陸からの技術伝播によって がら生産が継続するところに特徴がある。本 資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・ 9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、● 法 、奈良時代の国家的な写経事業などによって 、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい 紙がもてはやされた。この展示では、日本・ 10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 混金といった技法があり、これによって花鳥・ 込められている。また、無文漆器という色彩	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 生華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ 中国・韓国の料紙をとりあげ、その製 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。
上画展示室 本館1階 4室 本館1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九·三十、●が大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡それらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識や	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 金といった技法があり、これによって花鳥・窓といった技法があり、これによって花鳥・窓とめられている。また、無文漆器という色彩・文様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日)	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が革新され、また汎大陸系甲冑である行展示では、出品の調査成果を交えて、展開を示した。 18(3.0) 芸華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広い、後曜で書きやすく、繊細な趣のあられ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の料紙をとりあげ、その野田・韓国の対域を表わす。
全面展示室 本館1階 4室 本館1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●沢大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・錦ぞれらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 金といった技法があり、これによって花鳥・窓といった技法があり、これによって花鳥・次様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日)	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑であるでは、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 性華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広いる。 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあい。 中国・韓国の料紙をとりあげ、その認 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものもなる。 40(0.0)
	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●沢大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料節技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡ぞれらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 合金といった技法があり、これによって花鳥・流込められている。また、無文漆器という色彩で検の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑。 革新され、また汎大陸系甲冑である。 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広い 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあい 中国・韓国の料紙をとりあげ、その記 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものも記 40(0.0)
全面展示室 本館1階 4室 本館1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●沢大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鏡それらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。関する作品を多く展示した。本特集陳列では	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 生南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●短、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子配金といった技法があり、これによって花鳥・ジン様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である行展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広い 、優雅で書きやすく、繊細な趣のある 中国・韓国の料紙をとりあげ、その製 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものもる 40(0.0)
全面展示室 本館1階 4室 本館1階 5室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●活大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。 中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・錠・れらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。関する作品を多く展示した。本特集陳列にはとともに展示品の使用された場面がより具体	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 生南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●短、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子配金といった技法があり、これによって花鳥・ジン様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑 革新され、また汎大陸系甲冑である行展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広い 、優雅で書きやすく、繊細な趣のある 中国・韓国の料紙をとりあげ、その製 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものもる 40(0.0)
全面展示室 本館1階 4室 本館1階 本19章	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●沢大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉龍彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・錦ぞれらの文様には皇帝の象徴や吉祥の意識やフイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。関する作品を多く展示した。本特集陳列ではとともに展示品の使用された場面がより具体シリーズ「歴史を伝える」	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●泛、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 金といった技法があり、これによって花鳥・ジン様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が革新され、また汎大陸系甲冑であるる展示では、出品の調査成果を交えて、展開を示した。 18(3.0) 芸華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広語・後曜で書きやすく、繊細な趣のある、中国・韓国の料紙をとりあげ、その製造・と形態に美意識が発揮されたものもなる。と形態に美意識が発揮されたものもなる。といい、「大田・東島・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・東西・
企画展示室 本館1階 4室 本館1階	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●光大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉簡彫彩漆盆、楼閣人物堆黒盆、中国漆工には、彫漆・螺鈿・存と主体の文様には皇帝の象徴や吉祥の意味がる。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。関する作品を多く展示した。本特集陳列ではとともに展下の使用された場面がより具体シリーズ「歴史を伝える」東京国立博物館の模写・模造ー平家納経ー	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 住南鴻烈兵略間詁 第廿(秋萩帖 紙背)、●流、奈良時代の国家的な写経事業などによって、、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい。紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子高といった技法があり、これによって花鳥・近められている。また、無文漆器という色彩文様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑が革新され、また汎大陸系甲冑であるる。 展示では、出品の調査成果を交えて、展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広い、優雅で書きやすく、繊細な趣のある。 中国・韓国の料紙をとりあげ、その数 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものもる 40(0.0)
全面展示室	古墳時代に出現する金属製甲冑は、前期には成立する。帯金式甲冑は攻撃用武器の発達と期型の挂甲が成立しても、形態を変化させな類例が少ない前期型から中期・後期型までの日本・中国・朝鮮の料紙 〈主な作品〉●王勃集巻第二十九・三十、●光大陸より日本にもたらされた紙漉きの技術はった。平安時代には、かなの使用にともない紙が求められ、中国や朝鮮から輸入された料飾技法の特徴などを紹介した。中国の漆器一わざとデザイン 〈主な作品〉前には、彫漆・螺鈿・存とは、がまでは、彫漆・螺鈿・存とでは、の文様には、彫漆・螺鈿・存と直、がある。そのような中国漆工に見られる美意識やアイヌと儀礼 〈主な作品〉酒盃、護符、アイヌ鍬形、熊送「アイヌと儀礼」をテーマとして展示した。関する作品を多く展示した。本特集陳列ではとともに展下のでは、シリーズ「歴史を伝える」東京国立博物館の模写・模造ー平家納経ー〈主な作品〉平家納経(模本)提婆達多品第	朝鮮半島南部に近似した形式が成立するが、共に、断続的な大陸からの技術伝播によってがら生産が継続するところに特徴がある。本資料を比較して、帯金式甲冑の系譜と成立・9月28(火)~10月24日(日) 佐南鴻烈兵略間詰 第廿(秋萩帖 紙背)、●泛、奈良時代の国家的な写経事業などによって、和歌・物語文学や書状の料紙にふさわしい紙がもてはやされた。この展示では、日本・10月5日(火)~11月28日(日) 屈輪長方形盆、松竹梅填漆合子 金といった技法があり、これによって花鳥・ジン様の意味などを紹介した。 10月5日(火)~11月28日(日) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	中期には日本列島独自の帯金式甲冑: 革新され、また汎大陸系甲冑である。 展示では、出品の調査成果を交えて、 展開を示した。 18(3.0) 基華経巻第六(色紙) 発展し、麻紙などの製法が全国に広: 、優雅で書きやすく、繊細な趣のあ。 中国・韓国の料紙をとりあげ、その: 30(0.0) 楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。 と形態に美意識が発揮されたものも。 40(0.0)

	7 の大子 大道を加力することを通じて	て、当時の博物館や社会的状況をうかがうことができた。	る展示とした。
本館2階 特別1室	カ国聿画 特 華、海太海。アキ+ タロ+ +	5~ 10月19日(火)~12月12日(日)	23 (1. 12)
	<主な作品>◎猿図、◎竹鶏図、◎四万	5山水図、◎山水図(唐絵手鑑「筆耕園」の内)、●世説	
	巻、◎禅院額字「釈迦宝殿」、◎保寧寺		マナダナ日フト カロマはナマにん
		D中には、反故紙として紙背が再利用され、今日改め る。また鎌倉時代以降、禅宗とともに数多く舶載され	–
		1親しまれてきた。それらの中にも、本場中国ではす	
		本来の文人趣味を理想とするすぐれた賞鑑家により、	
	された。館蔵品の中から、中国書画の名	呂品を集めた精華展を開催した。	
平成館 公西展二安	東京国立博物館所蔵 正倉院の染物	11 日 2 口 (水) 11 日 20 口 (口)	41 (0, 0)
企画展示室		11月2日(火)~11月28日(日) 赤地草花雲鳥文﨟纈平絹天蓋垂飾、淡茶地花文風夾纈	
	〜主な1Fm/和地位于摩又椒椒十衲、ク 羅	小地早化去局人胸榈十衲人盖垂即、次朱地化人風久榈	十柄幡足、亦衆地呂化化开烏又突和
	·-	こめ、正倉院から頒布された染織品の一群が収蔵され	ている。これらは織物をはじめ、薬
	物、刺繍などがガラス挟みの状態で260	点余りある。昨年度は織物を中心とした展示を行った	ので、今年度は染物を中心とした風
		いが、正倉院に所蔵されている類裂から当初の用途を	
		た羅道場幡の幡足の一部、夾纈羅幡の坪裂や幡足、ヲ	
		また、ほぼ同時代に中国で製作され、西域の敦煌で発	
T - C+ &⇔	示した。また、作品本来の形や色彩など	ぎを後世へ伝えるため、大正時代末に正倉院の染織品を	を模与した作品もあわせて展示した
平成館 企画展示室	古代九州の経塚一北部九州を中心に一	12月7日(火)~23年3月6日(日)	61 (0. 2)
		E 塔形経筒、陶製経筒、滑石製経筒、銅製経筒、滑石	
		こともなって福岡市博物館から借用した経塚出土品を	
	から出土した平安時代の経塚遺物を加え	えて展示を行った。北部九州には、四王寺山、宝満山	、背振山など、山岳信仰で著名な山
	が多く、それらには経塚も数多く築造さ	されている。今回は普段ほとんど展示する機会のない	、◎土製彩絵経筒、◎銅製宝塔形約
		展示し、資料の有効活用をはかるとともに、古代にお	ける北部九州の経塚の実態を明らか
	にしようとするものにした。		
F成館 B古展示室	神秘に満ちた貝製品-鹿児島県広田遺跡	亦一 12月14日(火)~23年3月11日(金)	64 (0. 64)
7 口 灰 小 土			· · ·
		術、◎貝符、◎組み合わせ式貝輪、◎有孔円板状貝製占 『した砂丘上に位置する墓地遺跡である。ここからは数	
		IICに砂圧工に位置する墨地遺跡である。ここからは教 が発見されている。なかでも独特の文様を刻んだ貝符	
		が光光されている。ながても独特の文様を刻んた気持 憂れたものとして注目をあび、一括して重要文化財に	
		して、鹿児島県歴史資料センター黎明館より、この広	
			田琅跡から田工しに貝製品を信用 9
	ることができた。本特集陳列は、この機	幾会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神	
	ることができた。本特集陳列は、この機 しようとするものであった。		
	しようとするものであった。	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介
	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日)	
	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0)
	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心に	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」
	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラエ
4室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 直蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 戦性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、パラエ みいただく展示とした。
4室 4室 4室 4	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 直蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 戦性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ
4室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、ま	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 战性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日)	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0)
4室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示し	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服
本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道 香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、ま 「アイヌの文様」をテーマとして展示し エ具や木工品などに施された多彩な飾り	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばわり りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつ
本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 <主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示して異示して異などに施された多彩な飾りくりだした文様についても紹介した。	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつ
4室 本館1階 15室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細違香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 <主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示して異示して異などに施された多彩な飾りくりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばわり りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつ
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊慮ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示して異ったといた文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 直蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 戦性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラエ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつ
本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示してアイヌの文様」をテーマとして展示していた文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日)	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこ の使用された場面がより具体的にイ
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示してアイヌの文様」をテーマとして展示して見や木工品などに施された多彩な飾りくりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支 〈主な作品〉浮世絵版画 明治四十四年	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、パラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこ の使用された場面がより具体的にイ 34(0.0)
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示してアイヌの文様」をテーマとして展示していた文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 〈主な作品〉浮世絵版画 明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列である	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 5。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、パラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがっ の使用された場面がより具体的にっ 34(0.0) るが、時を支配することはすなわち
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品〉山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品〉盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示してアイヌの文様」をテーマとして展示していた文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支 〈主な作品〉浮世絵版画 明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列であるとして、名	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、パラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがて の使用された場面がより具体的にマー 34(0.0) るが、時を支配することはすなわれ められてきた。日本は伝統的に中国
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 く主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示して、とって、といても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支 く主な作品>浮世絵版画 明治四十四年には、1011年正月展と関連した特集陳列であると同義であるとして、名の暦を採用し、宣明暦の輸入以後、江戸の場所をは、1011年に見た。111年に対象には、111年に対象には、111年に対象には、111年に対象には、111年に対象には、111年に対象には、111年に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽し。 23年1月2日(日)~4月3日(日) 社会、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 3。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ 各時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」にも自由に趣向が凝らされ、パラコみいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服権太ニブヒやウィルタの人びとがつの使用された場面がより具体的にも34(0.0) るが、時を支配することはすなわためられてきた。日本は伝統的に中国を作成するまで長く用いられた。履
4室 本館1階 15室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細道香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊園ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、ま「アイヌの文様」をテーマとして展示して具や木工品などに施された多彩な飾りくりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支 〈主な作品>浮世絵版画 明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列であると同義であるとして、名の暦を採用し、宣明暦の輸入以後、江戸は干支や陰陽道などと密接に絡みながら	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 社盆、飾矢筒 た。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 る。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ 各時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定 5時代前期に渋川春海がわが国発の自国暦「貞享暦」	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」にも自由に趣向が凝らされ、バラコみいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服構太ニブヒやウィルタの人びとがつの使用された場面がより具体的にも34(0.0) るが、時を支配することはすなわた。佐成するまで長く用いられた。履生活を規定した。本特集陳列では、
4室 本館1階 5室 本館1階 本6室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られ アイヌの文様 〈主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示して具や木工品などに施された多彩な飾りくりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。 シリーズ「歴史を伝える」 暦と干支 〈主な作品>浮世絵版画 明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列であると日義であるとして、名の暦を採用し、宣明暦の輸入以後、江戸は干支や陰陽道などと密接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼や代表的な暦を紹介するとともに、祭礼や	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 る。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ 各時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定 5時代前期に渋川春海がわが国発の自国暦「貞享暦」で 5、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の 5時業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらした「	移に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつの使用された場面がより具体的につる 34(0.0) るが、時を支配することはすなわれ められてきた。日本は伝統的に中国 を作成するまで長く用いられた。 履 生活を規定した。本特集陳列では、 替などを陳列した。
本館1階 5室 本館1階 6室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細違香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示して異いた大文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画 明治四十四年によりにできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画 明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列であるとまな作品と関連した特集陳列であるの暦を採用し、宣などと密接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼代伝統工芸一技の世界を探る一	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1.盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 3。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ ち時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定 時代前期に渋川を海がわが国発の自国暦「貞享暦」で 5、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の りき農業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらしたが 23年1月2日(日)~3月6日(日)	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつの使用された場面がより具体的にっ 34(0.0) るが、時を支配することはすなわれ められてきた。日本は伝統的に中国 を作成するまで長く用いられた。 履 生活を規定した。本特集陳列では、
本 館 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示して異いて、とりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画明治四十四年に、会の暦を採用し、資本と関連した特集陳列であると同様であるとして、名の暦を採用し、道などと密接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭れて伝統工芸一技の世界を探る一く主な作品>色鍋島技術記録、存星技術	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばわりや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦3。暦は時間の単位として体系化されてきたものである時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定時代前期に渋川を海がわが国発の自国暦「貞享暦」である。暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々のおき農業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらしたが23年1月2日(日)~3月6日(日)	移に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがつの使用された場面がより具体的につるが、時を支配することはすなわちのられてきた。日本は伝統的に中間を作成するまで長く用いられた。履生活を規定した。本特集陳列では、種などを陳列した。 5(0.0)
本館1階 15室 本館1階 16室 本館1階	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 〈主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 〈主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示して異いて、とりだした文様についても紹介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 〈主な作品>浮世絵版画 明治四十四年記とは下支や陰陽道のを対し、近の野を採用し、近などとをおみ以後なながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼が伝統工芸一技の世界を探る一 〈主な作品>色鍋島技術記録、存星技術当館は文化庁からの管理換品をはじめ、	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1.盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 3。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ ち時代・各国家によって様々な暦が為政暦「貞享暦」で 5、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の ら、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の ら、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の ら、農業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらした「 23年1月2日(日)~3月6日(日) 6記録、布目象嵌技術工程、九谷焼技術記録 重要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラエ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこの使用された場面がより具体的にイ 34(0.0) るが、時を支配することはすなわちと作成するまで長く用いられた。 暦などを陳列した。 本特集陳列では、暦などを陳列した。 5(0.0)
本館1階 15室 本館1階 16室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細違香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示しているなどに施された多介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>深世絵版画明治四十四年に、メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列のよるの音を採用し、道などと密接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼が伝統工芸一技の世界を探る一 く主な作品>色鍋島技術記録、存星技術当館は文化庁からの管理換品をはじめ、芸の伝統的な技法を基本として作られた。	選会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 に溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる23年1月2日(日)~4月3日(日) れ盆、飾矢筒した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばわりや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦3。暦は時間の単位として体系化されてきたものである時代・各国家によって様々な暦が為政者によって定時代前期に渋川を海がわが国発の自国暦「貞享暦」である。暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々のおき農業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらしたが23年1月2日(日)~3月6日(日)	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラエ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服・ 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこの使用された場面がより具体的にイ 34(0.0) るが、時を支配することはすなわちとでに、なりませばられた。日本は伝統的に中匿と作成するまで長く用いられた。 を作成するまで長く用いられた。 を作成するまで表で表に、本特集陳列では、 をなどを陳列した。 5(0.0) 作品を多数所蔵している。日本のエ
4室 本館1階 15室 本館1階 16室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細遠香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示しているなどに施された多介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画明治四十四年のであるとは下支や陰陽道などとを独身しして、第2の暦を採用していると同様の輸接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼が伝統工芸一技の世界を探る一 く主な作品>色鍋島技術記録、存星技術芸の伝統的な技法を基本として作られたを紹介した。	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1.盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 3。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ 5時代前期に渋川春海がわが国発の自国暦「貞享暦」で 5、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の 5歳業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらした「 23年1月2日(日)~3月6日(日) が記録、布目象嵌技術工程、九谷焼技術記録 重要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の でこれらの作品の中から、陶磁、漆工、金工の技術記 ここれらの作品の中から、陶磁、漆工、金工の技術記	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラエ みいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこの使用された場面がより具体的にイ 34(0.0) るが、時を支配することはすなわちと作成するまで長く用いられた。 暦などを陳列した。 本特集陳列では、暦などを陳列した。 5(0.0)
4室 本館1階 5室 本館1階 本6室	しようとするものであった。 香りをたのしむ一香道具一 <主な作品>山水蒔絵十種香箱、蔦細違香道具には形式にとらわれず、遊び心にで用いられる道具類は、造形的にも遊戯ティに富んでいる。蒔絵で精緻に飾られアイヌの文様 く主な作品>盆、アットゥシ、頭巾、メ「アイヌの文様」をテーマとして展示しているなどに施された多介した。メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>深世絵版画明治四十四年に、メージできるよう工夫した。シリーズ「歴史を伝える」暦と干支 く主な作品>浮世絵版画明治四十四年に2011年正月展と関連した特集陳列のよるの音を採用し、道などと密接に絡みながら代表的な暦を紹介するとともに、祭礼が伝統工芸一技の世界を探る一 く主な作品>色鍋島技術記録、存星技術当館は文化庁からの管理換品をはじめ、芸の伝統的な技法を基本として作られた。	機会を利用し、普段あまり目にすることない南島の神 23年1月2日(日)~2月20日(日) 道蒔絵沈箱 ご溢れた作品が多い。特に種々の香木を焚いて、香の 践性が高い。また沈箱や香合など香木片を収める容器 れた作品を中心に、繊細優美な香道具の世界をお楽しる 23年1月2日(日)~4月3日(日) 1.盆、飾矢筒 した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれ りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、 『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品 23年1月2日(日)~1月30日(日) 絵暦、具注暦、日本長暦 3。暦は時間の単位として体系化されてきたものであ 5時代前期に渋川春海がわが国発の自国暦「貞享暦」で 5、暦道・暦学といった固有の学問を発達させ人々の 5歳業・漁業に特化された暦、さらに意匠をこらした「 23年1月2日(日)~3月6日(日) が記録、布目象嵌技術工程、九谷焼技術記録 重要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の でこれらの作品の中から、陶磁、漆工、金工の技術記 ここれらの作品の中から、陶磁、漆工、金工の技術記	秘に満ちた貝製品の魅力を広く紹介 43(0.0) 名前を言い当てるゲーム、「組香」 にも自由に趣向が凝らされ、バラコみいただく展示とした。 42(0.0) れる渦巻き文を中心に、祭具や衣服 樺太ニブヒやウィルタの人びとがこの使用された場面がより具体的に 34(0.0) るが、時を支配することはすなわちのよれてきた。日本は伝統的に中国と作成するまで長く用いられた。暦などを陳列した。 5(0.0) 作品を多数所蔵している。日本のコ

女神 平和の女神 商業の女神 インディアンの女神、濃萌黄地花兎文金地金襴裂 干支(辛卯)にちなみ「うさぎ」、あるいは祝儀・長寿など慶事に関するものを陳列するほか、金工列品に属している明治31年逓 信省寄贈の万国切手の整理が終了したことを受け、各国の記念切手よりクリスマスから新年に関するものや、慶祝を記念したも のを陳列した。 本館1階 シリーズ「歴史を伝える」 23年2月1日(火)~3月13日(日) 16室 医学館の漢籍 35 (0.0) <主な作品>黄帝内経素問、太平聖恵方、経籍訪古志 医学館は江戸幕府の医師養成機関である。平安時代の医師であった丹波氏の流れを汲むと称した幕府奥医師多紀元孝が私塾とし て創設し、後に公的な組織となって、幕末まで漢方医学の拠点として勢力を保った。特に清朝の考証学の影響を受けた中国古医 書の研究と編纂出版事業は大きな業績として特筆される。この特集では、医学館から当館へ引き継がれた医学関係の漢籍を概観 するとともに、幕末期に医学館に属した医学者渋江抽斎や森立之の事跡も紹介した。 本館1階 18室 黒田清輝と京都 23年2月1日(火)~3月11日(金) 31 (0.1) <主な作品>舞妓、昔語り下絵(舞妓)、昔語り下絵(構図Ⅱ) 黒田清輝は1893年夏に9年間におよぶフランス留学を終えて帰国し、同年秋、初めて京都を訪れた。留学中、絵画の師であったラ ファエル・コランほか多くのジャポニザン(日本趣味を持つ人々)と交遊した黒田であったが、帰国直後のこの京都旅行で、初め て日本の伝統的風俗に触れることになった。本特集陳列は、≪舞妓≫や大作≪昔語り≫のための下絵、画稿など、京都を題材に 描いた作品を通じて、黒田と、彼にとって重要な制作の場となった京都との関わりを紹介した。 本館2階 特別2室 東京国立博物館コレクションの保存と修理 23年2月15日(火)~3月11日(金) 21(0 0) <主な作品>両界曼荼羅図 胎蔵界曼荼羅、塑造悪鬼首、楼閣人物螺鈿料紙硯箱、千手観音菩薩坐像、白磁刻花文鉢 東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成21年度に修理が完了した作品を中心に展 示した。絵画、書跡、工芸、歴史資料、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程 で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待する展示とした。 本館1階 14室 23年2月22日(火)~4月24日(日) 65 (0.0) おひなさまと日本の人形 <主な作品>箪笥 紫檀象牙細工蒔絵雛道具、立雛 次郎左衛門頭、雛道具 三ツ葉葵紋付 三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は古今雛や、大名家に伝わった雛道具のほか、京都の伝 統工芸である御所人形や衣装人形、各地の特色豊かな郷土雛を特集して展示した。 本館1階 12室 漆芸にみる桜 23年3月29日(火)~6月5日(日) 18 (0.2) <主な作品>◎初瀬山蒔絵硯箱、◎比良山蒔絵硯箱、桜西行蒔絵硯箱、吉野山蒔絵見台 古来、わが国の人々にもっとも親しまれてきた花の一つである、桜を主題にした漆芸品を集めて展示した。様々な用途・形式の 作品に、様々な技法によって表わされた桜の意匠を通して、日本人がいかに桜を愛でてきたかをご覧いただいた。 本館1階 シリーズ「歴史を伝える」 16室 キリシタンの祈り-ミサとオラショ 23年3月29日(火)~4月24日(日) 55 (0.39) <主な作品>◎天正遣欧使節記、◎聖母像(親指のマリア)、祈祷書 16世紀後半、日本はキリスト教を受容し、南蛮寺と呼ばれた教会などが各地に造られ、祈りが捧げられた。そこではヨーロッパ からもたらされた楽器により教会の音楽が奏でられていたことが、当時の楽譜である『サカラメンタ提要』、ヨーロッパで喝采 を浴びた日本の少年たちの演奏を記録した『天正遣欧使節記』から知られる。キリスト教禁制の後、潜伏して隠れキリシタンと なった人々の間に伝わった『祈祷書』は、ラテン語の祈りの言葉を平仮名で記したものであるが、研究によりその旋律がわかっ ている。今回の展示は、これら祈りの場に流れた音楽を取り上げ、受容期の南蛮寺の祭壇に置かれたキリスト像、聖母子図、そ して禁制下のキリシタンたちの祈りの対象であるマリア観音像など礼拝と信仰に焦点をあてて展示した。 本館2階 特別2室 南太平洋の暮らしと祈り 23年3月29日(火)~4月24日(日) 44 (0.0) <主な作品>仮面、ワニ、クジラの歯のペンダント、ココナッツジュース容器 東京国立博物館には、おもに19世紀後半から20世紀初頭にかけて、南太平洋の島々から将来された約500件の民族資料が所蔵され ている。当時の南太平洋では、伝統的な暮らしと信仰が近代文明の影響を受けて急激に変わりつつあった。そのため、収蔵品の なかには、すでに現地では見られなくなったものもある。本特集陳列では、当館所蔵の貴重な南太平洋民族資料のなかから、伝 統的な暮らしや宗教儀礼にかかわる代表的なものを展示することで、日本に隣接していながらあまり知られていない南太平洋の 文化の魅力を紹介した。 平成館 企画展示室 拓本とその流転 23年3月29日(火)~5月15日(日) 41 (0.0) <主な作品>孔子廟堂碑、孟法師碑、善才寺碑、定武蘭亭序(独孤本)、西嶽華山廟碑(順徳本)、夏承碑、天発神讖碑 毎年開催している台東区立書道博物館との連携企画として、平成22年度は中国の拓本を取り上げた。現存する最古の拓本は、敦 煌の蔵経洞で発見された唐時代の温泉銘であるが、拓本の起源はそれ以前に遡ると考えられる。しかし唐時代の拓本は、ごく僅 かの遺例しかない。宋時代には、上質の紙や墨の製造にともない拓本の技法も多様化し、精緻な拓本は収蔵家の垂涎の的となっ た。本展は名柘の数々とともに、柘本のたどった流転にも目をむけ、さまざまなエピソードを交えながら、唐柘や宋柘をはじめ とする拓本の魅力を紹介した。 平成館 古墳時代の人々―人物埴輪の表情と所作― 考古展示室 23年3月29日(火)~7月31日(日) 28 (0.0) <主な作品>埴輪 あごひげの男子頭部、埴輪 笠を被る男子頭部、埴輪 琴を弾く男子、埴輪 頭部に箱を載せる女子 東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。 ただし、一部が欠落してい るものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、 古墳時代の人々の姿にせまった。

7) 広報

親と子のギャラリー

「日本美術のつくり方」「博物館の音楽会」

会 期:2010年6月15日~7月25日、8月3日~9月5日

広 報

ターゲット:親子および初心者やはじめて博物館に来る人を含む一般の美術愛好家

重点項目:広く一般に向けての情報周知、親子向け媒体へのプロモート

特記事項:リリースの配信2回(約280件)、新聞広告、ウエブ「レッツエンジョイ東京」夏休み企画への広告

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	_
交通広告	_
新聞・雑誌広告	毎日新聞2回、朝日新聞4回、読売新聞 1回
テレビ広告	
インターネット広告	「レッツエンジョイ東京」広告(バナー、特集記事)
新聞掲載	
テレビ・ラジオなど	FINE(テレビ東京)、Tokyo Morning Radio(J-WAVE)
雑誌掲載	
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

特別企画

「留学生の日」

会 期:2010年10月3日

広 報: ターゲット: 留学生 重点項目: 学校を通じた広報

特記事項: リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのDM、大学所在駅の交通広告

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約510件(大学、語学専門学校等)
交通広告	京王線 大学所在7駅駅貼り、東京メトロ大学所在19駅 ちらしBOX付駅貼り
新聞·雑誌広告	_
テレビ広告	
新聞掲載	毎日新聞
テレビ・ラジオなど	
雑誌掲載	
博物館ニュース	告知1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

•特別企画

「博物館に初もうで」、本館リニューアルオープン

会 期:2011年1月2日~1月30日

広報:

ターゲット:一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客

重点項目:タレントを起用したイメージポスターによるキャンペーンを展開

特記事項:館の愛称[トーハク]をフックに、館の認知度をあげるキャンペーンを展開、ポスタープレゼントキャンペーンの実施

まだ博物館に来たことのない人、特別展にしか来たことのない人の総合文化展への来場を促進した

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	「初もうで」:約1,950(博物館・美術館・学校・大使館・ギャラリー・カルチャーセンター等) 「リニューアル」:約2,200件(首都圏博物館・美術館・学校・大使館・ギャラリー・ホテル・ 旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等)
交通広告	「初もうで」: 駅貼り (JR山手シングルBセット、東京メトロ、都営地下鉄、東急、京王、京成計約80駅210枚)
	「リニューアル」: 駅貼り(JR上野駅集中貼、JR首都圏リーチセット、東京メトロ、東急、京王、京成 計約60駅 350枚)
	車内吊(京王・京王井の頭 98枚) JR・私鉄駅デジタルサイネージ(20駅27箇所)
街頭広告	新宿アルタビジョン12月31日12:00-18:00独占、銀座4丁目ホットビジョン 1ヶ月間
新聞・雑誌広告	「初もうで」:朝日新聞1回、読売新聞1回、ジャパンタイムズ2回、デイリー読売1回 「リニューアル」:朝日新聞15段カラー1回、毎日新聞15段モノクロ1回、J-nude全面カラー1回
テレビ広告	_
インターネット広告	「初もうで」: レッツエンジョイ東京 正月特集バナー
新聞掲載	朝日新聞、毎日新聞、東京新聞、公明新聞

テレビ・ラジオなど	ぶらぶら美術館(日本テレビ) LOHAS SUNDAY (J-WAVE) 、TIME FOR BRUNCH (J-WAVE) ほか
雑誌掲載	GLOW(宝島社)、一個人(KKベストセラーズ)、びあ(ぴあ) ほか
博物館ニュース	リニューアル特集2回、初もうで特集1回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

・特集陳列「拓本とその流転」 台東区立書道博物館との連携企画

会 期:2011年3月15日~5月15日

広報:

ターゲット:書道愛好家

重点項目:新聞および書・美術専門雑誌に向けてのプロモート 特記事項:台東区立書道博物館と連携してリリースを配信 報道内見会の実施 (3月14日、12人出席)

和超F3光系的关心。(0万1年日,12八日/h/		
種類	設置場所・件数等	
ポスター・チラシ・DM送付	台東区書道博物館から送付	
交通広告	3月初旬~3月中旬 駅貼り広告(JR上野駅、鶯谷駅)	
新聞·雜誌広告	_	
テレビ広告	_	
新聞掲載		
テレビなど	_	
雑誌掲載	「月刊書道界」など	
博物館ニュース	注目の特集蘭掲載 1回	
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信	

・特別企画

「博物館でお花見を」

会 期:2011年3月23日~4月17日 *東日本大震災の影響により会期を3月29日~4月17日に変更 開館時間を10:00-16:00に短縮

広報:

ターゲット:一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客

重点項目:広く一般のマスコミを通じた情報提供。

特記事項:イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

付記事項: イベンド仏報を通じて、よに特物館に木たことのない人の木路を促進。 家族 24007年四人観光各向けの媒体へのプロモードを夫他		
種類	設置場所・件数等	
ポスター・チラシ・DM送付	約1256件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インター	
	ナショナルスクール・カルチャーセンター等)	
交通広告	駅貼り(JR、東京メトロ、京王電鉄)、駅貼りちらしボックス付(東京メトロ)	
	* 東日本大震災の影響によりすべてキャンセル	
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、英字新聞 *東日本大震災の影響によりすべてキャンセル	
テレビ広告	_	
新聞掲載		
テレビなど	_	
雑誌掲載	東京ウォーカー など	
博物館ニュース	特集2回	
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信	

・長期的な広報

成田空港 広告ボードの設置 第2ターミナルビル本館サテライト 特設ボードの設置 (2箇所) 2010年8月1日~2011年3月31日

羽田空港 京成新国際ターミナル駅 上下線ホームピラー、可動柵広告 2010年12月1日~2011年5月31日

都営バス ラッピング広告 (3台) 2010年3月25日~2011年3月24日

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名:特別展「細川家の至宝-珠玉の永青文庫コレクションー」

開会期間:4月20日~6月6日(43日間)

会 場:平成館2階 特別展示室第1室~第4室

主 催:東京国立博物館、永青文庫、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

後 援:文化庁

協 賛:トヨタ自動車、日本写真印刷

陳列品総件数:284件(うち国宝:8件 重要文化財:27件 重要美術品:18件)

入館者数: 182,470人(目標入場者数 160,000人·達成率 114.0%)

入場料金:一般 1500円(1300円/1200円)、大学生 1200円(1000円/900円)、高校生 900円(700円/600円)中学生以下無料 ()内は前売り

/20 名以上の団体料金

担当研究員数:6人

展覧会の内容:

永青文庫の収蔵品を中心に細川家に伝来する美術品や歴史資料を展示し、細川家の歴史と日本の伝統文化を紹介し、あわせて近代日本を代表する 美術コレクターである細川護立の審美眼と人物像に迫った。

講演会等:「細川家 美と戦いの700年」 講師:永青文庫理事長、細川家18代当主 細川護熙 氏 平成館大講堂 4月24日 5月28日 「細川護立と日本の近代美術」講師:東京文化財研究所企画情報部文化形成研究室長 塩谷純 氏 平成館大講堂 5月29日

広報:

ターゲット:広く一般の歴史および美術ファン

重点項目:マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。細川護煕氏をたてた広報展開

特記事項: 細川護熙永青文庫理事長のインタビューアレンジ等による広報促進、5月5日子ども向けワークショップを開催、糸井重里氏との対談

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6,200件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等)
ジュニア用ワークシートDM送付	ジュニア用ワークシート:東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからダウンロード、および会場内
	にて配布
交通広告	駅ボード(JR25駅27面の大型ボード、JR・メトロ72駅SWボード77面、メトロUボード17駅20面)
	ポスター駅貼り等(JR上野駅、東急、京王、西武、小田急 計34枚)
新聞·雑誌広告	朝日新聞 5回
テレビ広告	NHKスポット多数回
新聞掲載	朝日新聞(細川氏インタビュー、人物特集、美の履歴書、10万人達成記事)ほか
テレビ放映	ニュース[信長文書]、ラジオビタミン[細川理事出演]、スタジオパークからこんにちは[細川理事出演]、歌うコンシェルジュ(竹内館長出演)、日曜美術館(細川理事出演)、ラジオ深夜便(今井出演)
	「PON」(日本テレビ)、「ぶらぶら美術館」(BS日テレ)ほか
雑誌掲載	「AERA」(朝日新聞)「ぴあ」(ぴあ)
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
	公式ウェブサイト、共催者(NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介
	「ほぼ日刊イトイ新聞」とのタイアップ 糸井氏×細川氏対談連載
	公式サイトで学芸員による「至宝コラム」
	ブログ貼り付け用画像の提供

②パブリシティー情報掲載・放映

新聞 377件、雑誌 123件、テレビ/ラジオ 11件、インターネット 20件

- ③記者発表会 2009年11月19日 外国人記者クラブにて (64人出席)
- ④報道内見会 4月19日(175人出席)
- ⑤教員鑑賞会 4月23日(61人出席)
- ⑥雑誌「ぴあ」読者内覧会 4月23日(158人出席)

展覧会名:特別展「誕生!中国文明」

開会期間:7月6日~9月5日(55日間)

会 場:平成館特別展示室第1~4室

主催:東京国立博物館、読売新聞社、大広、中国河南省文物局

後 援:中国大使館

協 賛:清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、三城ホールディングス

協 力:日本航空、日本貨物航空、TBSラジオ

陳列品総件数:147件

入館者数: 105,538人(目標入場者数 220,000人·達成率 48.0%)

入場料金:一般 1500円(1300円/1200円)、大学生 1200円(1000円/900円)、高校生 900円(700円/600円)中学生以下無料 *()内は前売り

/20 名以上の団体料金

担当研究員数:4人

展覧会の内容:

中国歴代に渡って数多くの都が置かれ、常に中原の中心地として中国文化の中で重要な位置を占める河南省の全土から、最近の発掘品を含め、各時代の代表的な名品を選定し、中国文化の真髄に迫った。

講演会等:「文字の発生と歩み」講師:書家 新井光風 氏 平成館大講堂 7月10日

「美の競演-中国河南省の文物」講師: 学芸企画部長 松本伸之平成館大講堂 8月7日

広報:

ターゲット:広く一般の歴史および美術ファン、中国ファン、在日中国人

重点項目:マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供

特記事項: 著名人7名(宮城谷昌光、田原総一郎、鳳蘭、チェン・ミン、木下秀翠、姜尚中、坂東玉三郎)による展覧会応援団を結成。応援コメントの新聞掲載や応援団出演のイベントの開催など。

① 広報媒体

© 1200111	
種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等DM送付	約10336件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(JRステーションボード20面、JR・メトロ*駅SWボード30面、メトロUボード電飾
	ポスター駅貼り等(メトロ、京成)、 ポスター車内(京成)、駅デジタルサイネージ27台
新聞・雑誌広告	朝日新聞 1回 読売新聞 6回、日経新聞 1回

ラジオ広告	TBSラジオスポット
新聞掲載	読売新聞(特集、連載コラム、行幸啓報道)ほか
テレビ放映	ニュース[信長文書]、ラジオビタミン[細川理事出演]、スタジオパークからこんにちは[細川理事出演]、歌うコンシェルジュ(竹内館長出演)、日曜美術館(細川理事出演)、ラジオ深夜便(今井出演)「PON」(日本テレビ)、「ぶらぶら美術館」(BS日テレ)ほか
雑誌掲載	「キュリオマガジン」(フジインターナショナルミント)、「週刊新潮」(新潮社)、一個人(KKベストセラーズ)、「女性自身」(光文社)、「ソトコト」(木楽舎)ほか
博物館ニュース	告知1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(読売新聞)ウェブサイトでの紹介 公式サイトで学芸員による「至宝コラム」 「ほぼ日刊イトイ新聞」とのタイアップ 糸井氏×細川氏対談連載 ブログ貼り付け用画像の提供

②パブリシティー情報掲載・放映

新聞 310件、雑誌 202件、テレビ/ラジオ 14件、インターネット 38件

- ③記者発表会 3月18日平成館大講堂にて (113人出席)
- ④報道内見会 7月5日(100人出席)
- ⑤教員鑑賞会 7月9日(98人出席)

展覧会名: 光明皇后1250年御遠忌記念 特別展「東大寺大仏―天平の至宝―」

開会期間:10月8日~12月12日(59日間)会場:平成館特別展示室第1~4室

主 催:東京国立博物館、華厳宗大本山東大寺、読売新聞社

後 援:文化庁、平城遷都1300年記念事業協会

協 賛:しみず建設、大和証券、トヨタ自動車、ニッセイ同和損害保険、藤田観光、文化服装学院、みずほ銀行、光村印刷

特別協力:ソニー、ソニービジネスソリューション

協力:日本ヒューレット・パッカード、エヌビディア、エルザジャパン

映像協力: 凸版印刷

陳列品総件数: 67件 (うち国宝11件、重文18件、正倉院宝物12件) 入館者数: 232, 791人(目標入場者数 420,000人・達成率 55.4%)

入場料金:一般1500円 (1300円/1200円) 、大学生1200円 (1000円/900円) 、高校生900円 (700円/600円) 中学生以下無料 *()内は前売り

/20名以上の団体料金

担当研究員数:5人

展覧会の内容:

東大寺の大仏建立をめぐる作品を通してその精神世界に迫るとともに、天平文化の精華を展観し、肖像彫刻の傑作などを通じて、今日まで脈々として続く東大寺文化の重要性も紹介した。

講演会等:「東大寺大仏と天平彫刻」 講師:特任研究員 金子啓明 平成館大講堂 10月30日

「地面の下の東大寺東塔院を探る」講師: 奈良国立文化財研究所埋蔵文化センター主任研究員 金田 明大氏 平成館大講堂 11月7日

広報:

ターゲット:広く一般の歴史および美術ファン

重点項目:マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供

特記事項: プレスツアーの実施(7月26日—27日)、大仏の右手レプリカを丸の内マルキューブにて会期前に展示、平城遷都1300年キャラクターせんとくんの招致

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,122件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等)
交通広告	駅ボード(JR21駅22面のNTボード、JR・私鉄100駅100面SSアクセスボード、JR34駅38面SWボード)
	ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急 多数)
	車内吊等(京王、京王井の頭、西武 多数)
新聞·雑誌広告	朝日新聞 *回
テレビ広告	_
新聞掲載	読売新聞(特集、連載コラム、10万人報道、行幸啓報道)ほか
テレビ/ラジオ	スッキリ!(日本テレビ)、日曜美術館アートシーン(NHK)、LOHAS SUNDAY(J-WAVE)ほか
雑誌掲載	「ぴあ」(ぴあ)、「カーサブルータス」(マガジンハウス)、いきいき(いきいき)、家庭画法(世
	界文化社)、BAILA(集英社)ほか
博物館ニュース	告知2回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
	公式ウェブサイト、共催者(読売新聞)ウェブサイトでの紹介
	公式サイトでのブログによる情報発信
	ブログ貼り付け用画像の提供

②パブリシティー情報掲載・放映

新聞 214件、雑誌 221件、テレビ/ラジオ 22件、インターネット 43件

③記者発表会 8月9日平成館大講堂にて (83人出席)

④報道内見会 10月7日(223人出席)⑤教員鑑賞会 10月15日(297人出席)

展覧会名:文化財保護法制定60周年記念 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

開会期間:平成23年1月18日~3月6日(42日間)

会 場:平成館特別展示室第1~4室

E 催:東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

特別協力:平山郁夫シルクロード美術館、法相宗大本山薬師寺

協 賛:大日本印刷

協 力:文化遺産国際協力コンソーシアム、東京美術倶楽部、朝日生命保険、あいおいニッセイ同和損害保険

後 援:外務省、文化庁

陳列総件数:101件(うち重要文化財5件)

入館者数: 188, 402人(目標入場者数 180,000人·達成率104.7%)

入場料金:一般 1500円(1300円/1200円)、大学生 1200円(1000円/900円)、高校生 900円(700円/600円)中学生以下無料 *()内は前売り

/20 名以上の団体料金

担当研究員数:2人

展覧会の内容:

平山郁夫氏の文化財保護活動に関わる偉大な活動を顕彰し、その業績を通して文化財保護の重要性と課題、今後のあり方を考えるために、各地から集めた遺物や、平山氏ゆかりの美術工芸品を展観した。

講演会等 「薬師寺と大唐西域壁画」講師:法相宗大本山薬師寺管主 山田法胤氏 平成館大講堂 1月29日 「仏教伝来の道をたどる」講師:学芸企画部長 松本伸之平成館大講堂 2月19日

広報:

ターゲット:広く一般の美術ファン

重点項目:マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供

特記事項: 開会式列席の谷村新二氏への取材誘致

① 広報媒体

① 瓜栽妹体							
種類	設置場所・件数等						
ポスター・チラシ・DM送付	約7630件(博物館・美術館・学校(小・中・高・大)、ギャラリー、図書館等)						
交通広告	駅ボード(JR21駅22面のNTボード、JR35駅40面SWボード)						
	ポスター駅貼り等(東京メトロ、京王、西武、京成、東急 ほか)						
	車内吊等(東急、西武、京王、京王井の頭、京成、小田急、東武、東京メトロ ほか)						
新聞·雑誌広告	全10段=2回 半2段=19回 2段4/1=6回						
テレビ広告	スポット 多数 ミニ番組 多数						
新聞掲載	朝日新聞 ほか						
テレビ/ラジオ	NHK日曜美術館 本編 ほか						
雑誌掲載	Grazia (講談社)、ミセス(文化出版局)、ぴあ(ぴあ)、芸術新潮(新潮社)ほか						
博物館ニュース	告知1回、特集1回						
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信						
	公式ウェブサイト、共催者(朝日新聞)ウェブサイトでの紹介						

②パブリシティー情報掲載・放映

新聞 459件、雑誌 108件、テレビ/ラジオ 7件、インターネット 15件

③記者発表会 9月29日平成館大講堂にて (99人出席)

④報道内見会 1月17日(124人出席)

展覧会名:文化庁海外日本古美術展「日本の美 5000年(5000 Years of Japanese Art)」

開会期間:5月5日~6月28日(49日間)

会 場:トプカプ宮殿博物館(トルコ共和国・イスタンブール) 主 催:東京国立博物館、文化庁、トルコ共和国文化観光省

後 援: -協 賛: -

陳列総件数:47件(うち国宝:2件 重要文化財:3件) 入館者数:607,734人(目標入場者数 一人・達成率 -%)

入場料金:無料 担当研究員数:5人

展覧会の内容:

「トルコにおける日本年」の記念事業の一環としてトプカプ宮殿博物館において、縄文時代から江戸時代までの5000年にわたる日本美術の精華を、 当館の収蔵品を中心に紹介した。 広報:2010東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース

展覧会名: The World of Khubilai Khan: Chinese Art in the Yuan Dynasty (クビライ・カーンの世界:元王朝の中国美術)

開会期間:9月20日~平成23年1月2日(105日間)

会 場:メトロポリタン美術館(アメリカ合衆国・ニューヨーク)

主 催:メトロポリタン美術館

特別協力:東京国立博物館、奈良国立博物館、中華文物交流協会

後 援: -協 賛: -

陳列総件数:220件(うち重要文化財:3件)

入館者数:166,476人(目標入場者数 一人·達成率 一%)

入場料金: -担当研究員数:1人

展覧会の内容:

中国元時代の絵画、工芸美術の優品を一堂に会して紹介した。

広報:2010東京国立博物館展示と催しのご案内

展覧会名:創立80周年記念特別展「よみがえるヤマトの王墓-東大寺山古墳と謎の鉄刀-」

開会期間:9月22日~11月23日(56日間)

会 場:天理大学附属天理参考館(奈良県天理市) 主 催:天理大学附属天理参考館、東京国立博物館

後 援:天理市、奈良県教育委員会、天理市教育委員会、読売新聞大阪本社、読売テレビ放送、奈良テレビ放送

協 賛:-

陳列総件数:52件(うち重要文化財:20件) 入館者数:11,139人(目標入場者数一人・達成率一%)

入場料金:一般400円・小中学生200円・20名以上の団体300円

担当研究員数:3人

展覧会の内容:

東京国立博物館と天理参考館が共同で東大寺山古墳出土遺物全点を調査した研究成果を一般に公開するため、出土品のうち、展示可能なものすべてと関連遺物を展示した。

広報:特になし

展覧会名:海外展 万国博覧会開催記念「千年丹青—日本中国珍蔵宋元画精品展」

開会期間:9月28日~11月23日(56日間)

会 場:上海博物館(中華人民共和国・上海)

主 催:東京国立博物館、上海博物館

後 援:一 協 替:一

陳列総件数:64件(うち国宝6件、重要文化財22件、重要美術品2件)

入館者数:331,275人(目標入場者数一人・達成率 一%)

入場料金: -担当研究員数: 2人

展覧会の内容:

当館所蔵品を中心に日本で収蔵される中国・宋元絵画の名品を、上海博物館が所蔵する宋元絵画とともに展示し、その意義や価値に迫った。

広報:2010東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース

展覧会名:海外展 万国博覧会開催記念「鑑真と空海-日中文化交流の顕彰」

開会期間:9月28日~11月23日(56日間)

会場:上海博物館(中華人民共和国·上海) 主催:東京国立博物館、文化庁、上海博物館

後 援: -協 賛: -

陳列品総件数:3件(うち国宝:1件 重要文化財:2件) 入館者数:331,275人(目標入場者数一人・達成率 -%)

入場料金: -担当研究員数:2人

展覧会の内容:

万国博覧会の開催を記念し、日中の文化交流に多大な功績のあった鑑真と空海に焦点を当てることによって、その業績を顕彰した。

広報:2010東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース

展覧会名:海外展「高麗仏画大展」

会館期間:10月12日~11月21日(42日間)

会 場:国立中央博物館・企画展示室(大韓民国・ソウル)

主 催:国立中央博物館特別協力:東京国立博物館

後 援:一 協 賛:一

陳列総件数:108件(うち重要文化財11件)

入館者数:88,659人(目標入場者数 一人・達成率 一%)

入場料金: 一 担当研究員数 1名

展覧会の内容:

東アジア美術の最高峰の一つである高麗仏画を日本、韓国、アメリカ、ヨーロッパから一堂に集め、その優れた特色を究明した。

広報:2010東京国立博物館展示と催しのご案内、東京国立博物館ニュース

【京都国立博物館】

(1) 平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名:特別展覧会「没後400年 長谷川等伯」

会 期:4月10日~5月9日(27日間)

入場者数: 244, 347人(目標入場者数 130,000人・達成率187.96%) 陳列件数(うち指定品数): 78件(34件)(国宝3、重文30、重美1)

主 催 者:京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿

講 演 会:3回 参加者数合計 465人

• 関連土曜講座

4月10日 長谷川等伯の生涯

山本英男 (美術室長)

155人参加

4月24日 狩野永徳にとっての長谷川等伯像

狩野博幸(同志社大学教授)

165人参加

5月1日 等伯画の魅力あれこれ

脇坂淳(京都教育大学名誉教授)

145人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名:特別展観「没後200年記念 上田秋成」

会 期:7月17日~8月29日(39日間)

入場者数: 21,705人(目標入場者数 20,000人·達成率 108.53%)

陳列件数(うち指定品数):82件(7件)(重文5、重美2)

主 催 者:京都国立博物館、日本近世文学会講演会:10回参加者数合計 609人

• 関連土曜講座

7月24日 上田秋成をめぐる京の画家たち

狩野博幸(同志社大学教授)

165人参加

7月31日 秋成のつづら箱-知られざる名作の数々-

稲田篤信(首都大学東京教授)

109人参加

8月21日 秋成と『胆大小心録』の画家たち

水谷亜希 (研究員)

130人参加

関連夏期講座

7月27日 「美しいキリスト、醜いキリスト―宗教文学と図像の中のキリスト像―」

岡田温司 (京都大学教授)

7月27日 「文学と絵画の交響 ―住吉物語絵の変容―」

若杉準治 (列品管理室長)

7月27日 「古典に遊ぶ蒔絵の世界」

永島明子 (主任研究員)

7月28日 「漢鏡の図像と銘文―鏡に鋳こまれた人びとのこころ―」

岡村秀典 (京都大学教授)

7月28日 「平安時代の考古遺物にみられる装飾文様―王朝文学と文様の和様化―」

宮川禎一 (考古室長)

7月28日 「詩画軸の世界」

山本英男 (美術室長)

7月29日 「上田秋成の画賛」

長島弘明 (東京大学教授)

ハートピア京都大会議室 205人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名:特集陳列「新収品展」

会期:7月17日~8月29日(39日間) 入場者数:一人(上田秋成展と同時開催) 陳列件数(うち指定品数):99件(4件)(重美4)

主 催 者:京都国立博物館

講演会:1回 参加者数合計 62人

• 関連土曜講座

8月28日 新収品展にちなんで

呉孟晋 (研究員)

62人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名:特別展覧会「文化財保護法60年記念事業 高僧と袈裟―ころもを伝え こころを繋ぐ―」

会 期:10月9日~11月23日(40日間)

入場者数:19,297人(目標入場者数 20,000人・達成率96.49%) 陳列件数(うち指定品数):121件(56件) (国宝15、重文41)

主 催 者:京都国立博物館

講演会:4回 参加者数合計 521人

• 関連土曜講座

10月9日 糞掃衣と金襴袈裟にみる袈裟の変遷

松村薫子(大和ミュージアム学芸員)

112人参加

10月16日 袈裟からたどる東アジアの染織史

山川曉 (主任研究員)

106人参加

11月6日 袈裟の紡ぐ物語―智泉聖通尼の生涯と袈裟―

モニカ・ベーテ(大谷大学教授)

90人参加

国際シンポジウム

11月13日 染織品にみる東アジア交流 —宋・元・明時代の中国とその周辺— 国立京都国際会館アネックスホール 213人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名:特別展覧会「上野コレクション寄贈50周年記念 筆墨精神-中国書画の世界-」

会 期:1月8日~2月20日(39日間)

入場者数:37,535人(目標入場者数 30,000人・達成率125.12%) 陳列件数(うち指定品数):113件(35件) (国宝10、重文23、重美2)

主 催 者:京都国立博物館

講 演 会:3回 参加者数合計 526人

・関連土曜講座

1月8日 写本と法帖—文字を観賞する文化—

赤尾栄慶 (上席研究員)

175人参加

1月22日 上野コレクションと内藤湖南

礪波護 (京都大学名誉教授)

166人参加

2月5日 明清の文人書画

西上実 (学芸部長)

185人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名:特集陳列「生誕 125 年記念 篆刻家 園田湖城」

会期:1月8日~2月20日(39日間) 入場者数:一人(上田秋成展と同時開催) 陳列件数(うち指定品数):169件(0件)

主 催 者:京都国立博物館

講 演 会:1回

関連土曜講座

2月12日 わが師 湖城を語る

水野恵(篆刻家)

185人参加

広報媒体:ポスター、ちらし、ホームページ等

展覧会名:研究成果特別公開「古代の輝きを求めて~デジタル計測でよみがえった古代青銅鏡の世界~」

会期:7月17日~8月29日(39日間) 入場者数:一人(上田秋成展と同時開催) 陳列件数(うち指定品数):8件(6件)(重文6)

主 催 者:京都国立博物館

講演会:0回

広報媒体:ポスター、ちらし、ホームページ等

展覧会名:「京都国立博物館所蔵 能装束展」

会期:4月17日~5月30日(38日間) 入場者数:4,761人(目標入場者数なし) 陳列件数(うち指定品数):18件(0件)

主 催 者:金沢能楽美術館 (共催:京都国立博物館)

講演会:0回

広報媒体:ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品(平常)展

①開館日数:285日(名品展のみの開館日数:136日)陳列件数: 340件

②陳列替回数:101回(なら仏像館 19回、西新館 82回)

珠玉の仏像(なら仏像館) 19回 珠玉の仏教美術(西新館) 80回 国宝を味わう(西新館) 2回

(2)特別展·共催展等

展覧会名:特別展「大遣唐使展」 会期:4月3日~6月20日(69日間)

入場者数: 202, 166人(目標入場者数 120,000人・達成率168.5%)

陳列件数(うち指定品数):261件(129件) 講演会:4回 参加者数合計 641人 トークイベント:2回 参加者数合計 360人

特別講演会:1回 参加者数 316人

国際学術シンポジウム:1回 参加者数 148人

公開講座

期日 講座名 講師(所属) 参加者数 4月10日 「仏教美術の東伝と遣唐使」 稲本 泰生(学芸部企画室長) 101人

5月 8日 「吉備大臣入唐絵巻

-奇観無双の絵巻-」 佐野 みどり(学習院大学教授) 180人

5月29日 「平城京と遣唐使」 野尻 忠(学芸部主任研究員) 180人

6月19日 「空海の舎利信仰 内藤 栄(学芸部部長補佐) 180人

ー法門寺から東寺へー」

トークイベント

期日 内容 出 演 参加者数 4月17日 「大遣唐使展の楽しみ方」 はな(モデル)、内藤 栄(学芸部部長補佐) 180人

6月6日 「大遣唐使展で仏像に会おう!」 仏像ガール(仏像ナビゲーター)、西山 厚(学芸部長)180人

特別講演会

期日 テーマ 講師 (所属) 参加者数 5月15日 「遣唐使の時代ー倭から日本へ」 東野治之 (奈良大学教授) 316人

国際学術シンポジウム

期日

6月5日 「東アジアの造形芸術と遣唐使の時代」 ナンシー・S・スタインハルト(ペンシルバニア大学教授) 148人

板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所准教授)

鈴木喜博 (上席研究員) 吉澤 悟 (教育室長)

広報媒体:ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名:特別展「仏像修理100年」・「至宝の仏像」

会 期:7月21日~9月26日(60日間)

入場者数: 81,342人(目標入場者数 10,000人・達成率813.4%)

陳列件数(うち指定品数): 208件(77件) 講演会: 2回 参加者数合計 272人

公開講座

期日講座名講師(所属)参加者数7月31日 「仏像修理 1 O O 年よもやま話」小野寺 久幸 (財団法人美術院常務理事)125人

9月11日 「展示概説 仏像修理100年」 鈴木 喜博(学芸部上席研究員) 147人

広報媒体:ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名:特別展「第62回正倉院展」

会 期:10月23日~11月11日(20日間)

入場者数: 294,804人(目標入場者数 180,000人·達成率163.8%)

陳列件数:71件

講演会:3回 参加者数合計 345人

公開講座

期日 講座名 講師(所属) 参加者数 10月23日 「師子面の模造をめぐって」 山片 唯華子(宮内庁正倉院事務所保存課調査室員) 55人

10月30日 「正倉院の紙」 湯山 賢一(館長) 139人

11月 6日 「五絃琵琶と紫檀工芸」 関根 俊一(帝塚山大学教授) 151人

広報媒体:ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1) 平常展

①開館日数: 312 日(うち平常展のみ開館日数 98 日) ②陳列件数: 1668 件(うち国宝 81 件 重要文化財 165 件)

③陳列替え回数:334回

④入場料金: 一般 420 円、大学生 130 円

⑤トピック展示:全12件

トピック展示 名称	「白磁を飾る青-朝鮮時代の青花―」					
開催期間	平成 22 年 4 月 13 日 (火) ~ 平成 23 年 3 月 21 日 (月)	開催場所	文化交流展示室 関連展示 10 室	陳列件数(うち指定品 件数)	39件(うち国宝0件、重文0件)	
内容	大阪東洋陶磁美術館所蔵の青花の展示。					

トピック展示 名称	「国宝琉球国王尚家関係資料修理完成記念展示」					
開催期間	平成 22 年 4 月 13 日 (火) ~ 開催場所 文化交流展示室 陳列件数 (うち指定品 26 件 (うち国宝 16 件、重文 0 件 基本展示室 V 件数)					
内容	九博で修理寄託中であった国宝「琉球国王尚家関係資料」の修理完成を記念して展示。					

トピック展示 名称	「南蛮 津久見市所蔵の屏風と漆器」							
開催期間	平成 22 年 4 月 28 日(水)~ 6 月 6 日(日)							
内容	津久見市が所蔵する南蛮漆器を紹介すると同時に、当館が継続的に収集している南蛮美術の優品を展示。							
講演会等	ミュージアムトーク 5月18日 「南蛮漆器につい							

		A					
トピック展示	「九州国立博物館開館5周年・滋賀県立琵琶湖文化館開館50) 周年記念					
名称	—最澄がつないだ近江と太宰府— 湖の国の名宝展 <u>」</u>						
開催期間	平成22年6月11日(金)~ 開催場所 文化交流展示	🛂 📗 陳列件数(うち指定品 📗 57 件(うち国宝 3 件、重文 35 件					
刑惟郑间	9月5日(日)	11 室 件数)					
内容	滋賀県・滋賀県立琵琶湖文化館との共同主催によって、琵琶流	朋をかかえる滋賀県に古くから伝えられた仏教美術の優品を展示。					
T) T							
	講演会 3回 参加者合計 170人						
	期日 講演会名	講師(所属) 参加:					
	7月 4日 講演会【最澄がつないだ近江と太宰府】						
	「最澄と比叡山」	誉田玄光(比叡山延暦寺副執行管理部長) 50人					
	「太宰府と近江の仏教美術―彫刻を中心に一」	八尋和泉(元別府大学文学部教授)					
	「比叡山をめぐる仏教美術ー近江路の彫像を中心」	[一] 宮本忠雄(元滋賀県立琵琶湖文化館長)					
	7月10日 講演会「近江の仏教美術」	土井通弘(就実大学教授) 30 人					
講演会等		上野良信(滋賀県立琵琶湖文化館)					
		井上ひろ美(滋賀県立琵琶湖文化館)					
		藤田励夫(博物館科学課保存修復室長)					
	8月21日 トピック展示「湖の国の名宝展」	三輪嘉六(九州国立博物館館長) 90人					
	ミュージアムトーク&ギャラリートーク	嘉田由紀子(滋賀県知事)					
イベント等							
	6月20日~7月3日 写真展「水と仏の近江」						
	6月20日~7月4日 滋賀県観光パネル展「浅井三姉妹『ジ	[』のふるさと」					

ミュージアム	ムトーク
7月27日	「湖の国の名宝」藤田励夫(博物館科学課保存修復室長)
8月24日	「蕭白の『叡山図』について」金井裕子(企画課研究員)

トピック展示 名称	「館蔵 仏教美術 名品展」				
開催期間	平成 22 年 9 月 5 日 (水) ~ 10 月 24 日 (日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数(うち指定品 件数)	8件(うち国宝0件、重文4件)
内容	九州国立博物館の所蔵品のうち、仏教美術の名品を紹介する。				

トピック展示 名称	「名品でたどる室町から桃山の茶 茶の湯を楽しむⅢ 」						
開催期間	平成 22 年 9 月 14 日 (火) ~ 11 月 7 日 (日)	催場所	文化交流展示室 関連展示室 9 室	陳列件数(うち指定品 件数)	26件(うち国宝0件、重文4件)		
内容	九博の茶室の完成を記念し、君台観左右帳記を手本とした時代以降、茶の湯の世界の展開を総覧する展示。						
講演会等	ミュージアムトーク 10 月 5 日 「名品でたどる室町か	ら桃山の茶	」伊藤嘉章(学芸部長)				

トピック展示 名称	「九州国立博物館開館5周年	2005~2010 文化交流展示室の 5 年間」				
開催期間	平成 22 年 9 月 22 日~ 12 月 23 日	開催場所	文化交流展示室 基本展示室 V	陳列件数(うち指定品 件数)	8件(うち国宝0件、重文0件)	
内容	九博の開館5周年のあゆみをふり返る、ミニ企画。開館前の構想段階から、開館後のさまざまな取り組みと歩みを紹介する。					

トピック展示 名称	「能面と能装束」				
開催期間	平成 22 年 10 月 27 日 (水) ~ 12 月 5 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数(うち指定品 件数)	34件(うち国宝0件、重文0件)
内容	当館への寄託資料のうち、中世	せ末~江戸時代の	の能面および能装束を「	中心として、日本独特の語	芸能として能の世界を紹介する。

トピック 名称	'展示	「螺鈿 美しき貝と漆の芸術」				
開催期間		平成 22 年 11 月 10 日 (水) ~ 平成 23 年 1 月 16 日 (日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 9 室	陳列件数(うち指定品 件数)	31件(うち国宝0件、重文6件)
内容		東博、九博が所蔵する螺鈿器の	の優品を展示。			

トピック展示 名称	「邪馬台国 九州と近畿」				
開催期間	平成 23 年 1 月 1 日 (土) ~ 2 月 20 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室3室	陳列件数(うち指定品 件数)	108 件(うち国宝 3 件、重文 11 件)
内容	大阪府立弥生文化博物館との共催。近畿の遺物の紹介。				

トピック展示 名称	「田中丸コレクションの肥前磁器」			
開催期間	平成 23 年 1 月 19 日 (水) ~ 開催場所 文化交流展示室 陳列件数(うち指定品 42 件 (うち国宝 0 件、重文 0 件) 3 月 21 日 (月) 関連展示室 9 室 件数)			
内容	九博寄託の田中丸コレクションを集中的に紹介			

トピック展示 名称	「日本の建築をめぐって」				
開催期間	平成 23 年 1 月 21 日 (金) ~ 4 月 3 日(日)	開催場所	文化交流展示室 関連展示室 11 室	陳列件数(うち指定品 件数)	22件(うち国宝0件、重文0件)
内容	日本の城郭建築、寺院建築など	ごを建築模型を	通じて紹介する		

⑥広報

広報媒体:ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

広報テレビ番組「九博のたからもの」(RKB テレビ)の作成・放送(5 月~9 月)

九州国立博物館が所蔵または借用している作品 $1\cdot 2$ 点を学芸員が紹介する短編番組(1 回 2 分 30 秒)を 22 回分制作し、RKB 放送にて 5/3 から 9/25 まで、毎週月曜 19:55 より放送した。(平均視聴率 8.6%)

広報テレビ番組「九博のたからもの」

	放映日	タイトル	解 説 者
第1回	5月3日	遣唐使は太宰府に何を運んだ?	展示課長 赤司善彦
第2回	5月10日	南蛮屏風~大きな世界への小さな"窓"	企画課研究員 金井裕子
第3回	5月17日	南蛮漆器〜海を渡った日本の美	企画課研究員 川畑憲子
第4回	5月24日	中世の億万長者の忘れ物とは?	学芸部長 伊藤嘉章
第5回	5月31日	九博で一番大きなたからもの	文化財課長 臺信祐爾
第6回	6月7日	将軍さまのたからもの	企画課主任研究員 畑靖紀
第7回	6月14日	女帝が仏像にこめた祈りとは?	企画課長 小泉惠英
第8回	6月21日	琵琶湖からお宝がやって来た!	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫
第9回	6月28日	2000年前のセレブなブランド食器	企画課研究員 市元塁
第10回	7月5日	蒙古襲来〜海から来た最新兵器	博物館科学課環境保全室長 今津節生
第11回	7月12日	1500年前のファッションリーダー	企画課文化交流展室長 河野一隆
第12回	7月19日	弥生の王は赤色がお好き?	博物館学課主任研究員 志賀智史
第13回	7月26日	九博でお宝の健康チェック!	博物館科学課主任研究員 鳥越俊行
第14回	8月2日	弥生時代のおしゃれな王様	展示課研究員 坂元雄紀
第15回	8月9日	平安からのタイムカプセル	展示課長 赤司善彦
第16回	8月16日	アイヌと琉球~交流が生んだ文化	文化財課主任研究員 原田あゆみ
第17回	8月23日	新技術が生んだスグレモノ	展示課研究員 進村真之
第18回	8月30日	平安時代のイケメンさま	展示課主任研究員 楠井隆志
第19回	9月6日	シャーマン衣装の秘密	文化財課資料管理室長 小林公治
第20回	9月13日	700年ぶりの里帰り	文化財課主任研究員 丸山猶計
第21回	9月20日	極楽浄土をイメージトレーニング	企画課研究員 森實久美子
第22回	9月25日	平安貴族のノンフィクション	展示課研究員 酒井芳司

(2)特別展·共催展等

展覧会名:特別展「パリに咲いた古伊万里の華」

開期: 4月6日(火)~6月13日(日)(61日間)

会場: 九州国立博物館 特別展示室

主催: 九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、TVQ九州放送

陳列品総件数: 165 件

入場者数: 84,738 人(目標入場者数 50,000 人·達成率 169%) 入場料金: 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円

アンケート結果:満足度 95% 講演会: 2回 参加者合計 500人

記念講演会等

期日 講演会名 講師(所属) 参加者 5月 8日 講演会「パリに咲いた古伊万里の華」 14代 酒井田 柿右衛門 300人

5月22日 講演会「海を渡った古伊万里」 大橋 康二 (前佐賀県立九州陶磁文化館館長) 200人

イベント等

4月13日~25日 有田焼4 O O 年祭プレイベント「匠の蔵」特別展 (展示販売会) 4月17日・18日 きゅーはくミュージアムコンサート ~ヴェルサイユのしらべ~ +α

4月24日・25日 福岡女子短期大学音楽科演奏 ~ヨーロッパ宮廷の香り~

4月24日・25日 映画「マリー・アントワネット」の上映会

5月 1日 親子で楽しむワークショップ [1] 「えをかこう、いろをぬろう」— 挑戦・古伊万里の技! — 5月 2日 親子で楽しむワークショップ [2] 「金ピカにかざっちゃえ」— 大変身!古伊万里ビフォーアフター —

5月 9日 ヨーロッパの宮廷音楽 ~「パリに咲いた古伊万里の華」開催記念演奏会~

5月22日~23日 現代に受け継がれる伊万里焼(伊万里焼の実演・絵付け体験のほか、伊万里焼の展示販売)

5月30日 松嶋啓介 太宰府凱旋記念トークショー 広報媒体:ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

テレビ番組「パリに咲いた古伊万里の華 ヨーロッパを魅了したNIPPONの美」を制作、期間中に放映した。

展覧会名:特別展「馬 アジアを駆けた二千年」

開期: 7月13日(火)~9月5日(日)(48日間)

会場: 九州国立博物館 特別展示室

主催: 九州国立博物館・福岡県、(財)全国競馬・畜産振興会、西日本新聞社、TVQ九州放送

陳列品総件数: 133件(国宝 23件、重文 24件、中国国家一級文物 4件)

入場者数: 42,022 人(目標入場者数 50,000 人·達成率 84%)

入場料金:一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円

アンケート結果:満足度 80% 講演会: 1回 参加者合計 120人

記念講演会等

期日 講演会名 講師(所属) 参加者 7月31日 講演会「日本の馬文化 - 人と馬の歴史から - 」 末崎真澄(馬の博物館理事) 120人

「九州の在来馬」 川嶋 舟 (東京農業大学農学部講師)

シンポジウム等

7月18日 シンポジウム 「藤ノ木古墳の馬具」

「藤ノ木古墳の金銅製馬具」 千賀 久 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館主幹)

「藤ノ木古墳出土馬具にみる古代の金工技術」 鈴木 勉(工芸文化研究所理事長) 「藤ノ木古墳にみるデザインの系譜」 鈴木 恵(工芸文化研究所理事長) 赤司善彦(九州国立博物館展示課長)

イベント等

7月13日~9月 5日 常設展示 けいばの広場

7月17日、18日、19日、24日、25日、29日、31日、8月毎週木・土・日曜日、9月4日、5日 九博で本物の馬と仲良しになろう 「ポニーとのふれあいイベント」

7月19日 ミュージアムトーク 『AKB48 篠田麻里子が 九州国立博物館にやってくる!』

篠田麻里子 (AKB48)

7月17日、18日、24日、25日、31日、8月1日、7日、8日

ワークショップ 馬を観察して描いて見よう「馬のスケッチ大会」

7月17日、18日、24日、25日、31日、8月毎週土・日曜日

レース映像を見ながらみんなで楽しむ 「1着当てゲームにチャレンジ」

7月29日及び8月の毎週木曜日

ワークショップ 「馬のくつ(蹄鉄)でコースターを作ってみよう」

7月25日 ミュージアム「馬」セミナー

「日本人と馬」 楠瀬 良(JRA競走馬総合研究所 次長)

8月 1日 「馬の進化と日本在来馬のルーツ」 石田 信繁 (JRA競走馬総合研究所 上席調査役)

広報媒体:ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名:特別展「誕生!中国文明」

開期: 平成22年10月5日(火)~11月28日(日)(48日間)

会場: 九州国立博物館 特別展示室

主催: 九州国立博物館・福岡県、読売新聞社、FBS福岡放送、中国河南省文物局

陳列品総件数:147件(中国国家一級文物63件) 入場者数: 53,409人(目標 90,000人・達成率 59%) 観覧料:一般 1,300円、高大生 1,000円、小中生 600円

アンケート結果:満足度 89% 講演会: 4回 参加者合計 590人

記念講演会等

期日 講演会名 講師(所属) 参加者 10月 5日 記念講演会「三国志をめぐる謎」 三好徹(小説家) 150人

10月24日 記念講演会「王朝、技、美の誕生-中国河南省が生み出した芸術と文化-」

小泉惠英(九州国立博物館企画課長) 60人

市元塁(九州国立博物館企画課特別展室)

 11月 7日 講演会「中国古代王朝の興亡」
 塚本靑史(小説家)
 150人

 11月14日 記念講演会「文字の発生と歩み」
 新井光風(書家)
 230人

イベント等

10月 9日 特別公演 胡弓演奏家・趙国良 「中国王朝への旅ー胡弓の調べにのせてー」

10月30日 中国雑技ミニ公演「ドリームサーカス」

11月 6日 ミュージアムコンサート 「中国伝統音楽からクラシックまで」 九州交響楽団弦楽四重奏

11月21日 聖福寺「栄西禅師八百年遠諱大法要」に向けて

(写経・禅画の体験教室、聖福寺・献茶口切りの儀、八女茶煎茶会/立礼)

広報媒体:ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名:特別展「没後120年 ゴッホ展」

開期: 平成23年1月1日(土)~2月13日(日)(42日間)

会場: 九州国立博物館 特別展示室

主催: 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送

陳列品総件数: 122 件

入場者数: 354,311 人(目標入場者数 110,000 人・達成率 322%) 入場料金: 一般 1,500 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円

アンケート結果:満足度 85% 講演会:1回 参加者合計 120人

記念講演会等

期日 講演会名 講師(所属) 参加者

23年1月15日 講演会「<アルルの寝室>形見として描かれたレプリカ

―ファン・ゴッホと家族 遺族とファン・ゴッホ―」 圀府寺司(大阪大学文学研究科教授) 120人

イベント等

23年1月 1日~ 7日 福岡在住の日展作家による作品展「情熱」

23年1月 1日~16日 自画像コンクール「見てみて!〇〇しているぼく・わたし」入選作品展示 23年1月 1日~2月13日 ヒマワリの種でゴッホの自画像モザイクアート「美の種ひまわりプロジェクト」

23年1月10日 映画上映会 「There is no blue without yellow and orange ゴッホの足跡をたどるヨーロッパの旅と日本の印象」23年1月16日 解説会 「ゴッホとゴーギャン」 深谷克典(名古屋市美術館学芸課長)

広報媒体:ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名:特別展 アジア友好日本古美術海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」

開期:平成23年1月15日(土)~3月13日(日)月・火休館(41日間)

会場: タイ王国バンコク国立博物館

主催: 文化庁、九州国立博物館・福岡県、タイ王国文化省芸術局

陳列品総件数:日本側:56件(うち国宝2件、重要文化財7件、重要美術品2件)、タイ側:51件

入場者数: 21,525人

入場料金: 一般50バーツ、学生無料

アンケート結果:満足度 —% 講演会: 1回 参加者合計80人

記念講演会等

期日 講演会名 講師(所属) 参加者 23年1月29日 記念講演会「久留米絣」 松枝哲哉(絣制作作家) 80人

イベント等

23年1月15日 ワークショップ

23年1月15日 ボランティア交流会 (プレゼンテーション、交流会)

23年1月29日~30日 日本伝統工芸ワークショップ (久留米絣製織実演及び講演)

(参考)

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

①平城宮跡資料館 開館日数:268日 陳列件数:633件 陳列替回数:1回

ガイダンスコーナー 開館日数:243日

②特集陳列等 2件

	**		
	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特別企画展	「平城宮跡 今・昔-岡田庄三写真展-」	7月10日~8月31日	37件 (0件)
特別企画展	平城宮跡発掘調査50周年記念『天平びとの声をきく-地下の正倉院・ 平城宮木簡のすべて』	9月25日~11月7日	322件(65件)
特別企画展	「測る、知る、伝える-平城京と文化財-」	11月26日~1月17日	94件(12件)
発掘調査速報	発掘速報展 平城2009·2010」	2月19日~5月8日	104件 (0件)

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

①開館日数:242日 陳列件数:91件 陳列替回数:4回

②特集陳列等 8件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
発掘調査	甘樫丘東麓遺跡の土器、檜隈寺の土器(第157次・159次調査)	2009年12月18日~ 2010年6月28日	土器56件(0件)
の速報展	大極殿院回廊出土瓦(第160次調査)	2009年12月 8日~ 2010年7月1日	瓦11件(0件)
	大極殿院南門の土層はぎ取り(第148次調査)	2009年12月8日~	はぎ取り2件 (0件)
	藤原宮朝堂院朝庭(163次調査)	2010年7月 5日~2010年11月5日	瓦6件、土器3件(0件)
	甘樫丘東麓遺跡、古宮遺跡(山田道の変遷)(161・152-8次)	2010年7月 5日~2011年1月14日	土器10件(0件)
	水落遺跡(165次)	2010年12月8日	瓦1件、銅管1件(0件)
	檜隈寺周辺の調査(164次)	2011年1月18日~	瓦8件 (0件)
	フォトマップハイビジョン動画「キトラ古墳壁画2004」の上映	2011年3月10日~	ブルーレイディスク (0件)

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

①開館日数:308日 陳列件数:347件 陳列替回数:1回

②特集陳列等 0件

(2)特別展等·共催展等

展覧会名:春期特別展「キトラ古墳壁画四神」

会 期:4月16日~6月13日 入場者数:100,307人

陳列件数 (うち指定品数) : 27件 (10件) 主催者:文化庁・奈良文化財研究所

共催 : 奈良県・奈良県教育委員会・明日香村・明日香村教育委員会

後援 : 朝日新聞・(社) 平城遷都1300年記念事業協会 文化庁主催講演・討論会:1回 参加者数合計150人

協力:シャープ・近畿日本鉄道・奈良交通

期日 講演会名 講師(所属)

5月30日 「キトラ古墳壁画を考える」 加藤真二(独)国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 学芸室長

「キトラ古墳のこの一年」 川野辺渉氏(東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長)

パネリスト 討論会名

「キトラ古墳~四神ってなに?~」加藤真二 (独) 国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 学芸室長

川野邊渉 (独)国立文化財機構 東京文化財研究所 保存修復科学センター 副センター長

長岡龍作 東北大学大学院文学研究科教授 早川和子 考古イラストレーター

コーディネーター

田辺征夫 (独) 国立文化財機構理事 奈良文化財研究所長

展覧会名:「小さな石器の大きな物語」

会 期: 7月16日~9月5日

入場者数: 5,435人

陳列件数 (うち指定品数):206件 (0件)

主催者: 奈良文化財研究所 後援 : 日本旧石器学会

講演会:0回

展覧会名:「木簡黎明-飛鳥に集う いにしえの文字たち」

会 期: 10月16日~ 11月28日

入場者数:10,140人

陳列件数(うち指定品数):173件(30件) 主催者: 奈良文化財研究所飛鳥資料館

後援 : 木簡学会

講演会:1回 参加者数合計47 人

期日 講演会名 講師(所属)

10月17日 「7世紀の木簡のおもしろさ」 寺崎 保広 (奈良大学文学部教授)

展覧会名:「飛鳥の考古学2010」

会 期: 22年1月28日~ 2月27日

入場者数:1,781人

陳列件数(うち指定品数):102件(0件)

主催者: 奈良文化財研究所 明日香村教育委員会 奈良県立橿原考古学研究所

講演会: 0回

b ボランティア受入れ実績

1 受入人数

平成23年3月31日現在

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
759人	159人	40人	85人	288人	187人

【東京国立博物館】 計 159人	
種別 (登録人数)	概要
生涯学習ボランティア (152人)	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助
(102)	・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう!」補助(通年) ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「東博ウサギめぐり&掛軸ふうカレンダー」補助
	(平成22年1月2·3日) ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「北斎の冨士を作ろう」補助 (平成22年1月5日~16日)
	・ハンズオン・アクティビティ「楽器に挑戦!」補助(平成22年8月8·15·21·22日) ・学校向けワークショップ補助(通年)
	・ファミリー向けワークショップ補助 (9回) ・一般向けワークショップ補助 (7回)
	・制作工程模型展示鑑賞補助 (通年) ・列品解説、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年)
	・教育普及事業の告知補助(「本日の博物館」シール貼替え・通年) 【館内案内】
	・本館(1階エントランス、2階、17室、20室みどりのライオン紹介コーナー 通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導
	【資料印刷・作成】 ・パンフレット「日本美術の流れ」日本語版の印刷(通年)
	・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷(通年) ・たんけんマップの作成・印刷(通年) 「全職学化を合体に表すない」
	【就業体験実施活動補助】 受入数:33校 生徒数:131人 「原体はいきなける」
	【障がい者対応】 ・バリアフリー班の発足(22名) ・平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備事業により、視覚障がい児童・生徒の受け入れのため
	・ 十成22年及入16月 天帆路・延太月将70話店到季盛金漫開争業により、祝見牌がい元重・主張の支げ入れのためのボランティア研修の実施(全12回) ・視覚鐘がい者対応用ハンズオンツールの点訳作成
	・東京国立博物館ホームページ上のパリアフレーマップ作成のための調査 ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版 配布
	・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー (毎月1回実施) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用
	【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月3日)内プログラム ボランティアによる応挙館茶会, 浮世絵ガイド、英語ガイドの実
	施,館内案内 ・「博物館でお花見を」関連プログラム、ボランティアによる茶会「花見で一服」、ガイドツアー「東博桜め
	ぐり」の実施 【ボランティアデー開催】 ・ボランティアによる活動紹介、ワークショップ、ガイドツアーの実施(12月5日)
	2) 来館者参加型ガイドツア一等の実施 自主企画プログラム(予約ガイド、各種連携事業、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場
	合は、延べ回数) 合計 522回 13373人 ・樹木ツアー 35回 894人参加
	・浮世絵展示解説 53回 1,282人・本館ハイライトツアー 100回 2,933人
	・法隆寺宝物館ガイドツアー 50回 1,173人・考古展示室ガイド 35回 580人
	・陶磁室エリアガイド 22回 381人 ・庭園茶室ツアー 24回 577人
	・お茶会 30回 1,179人 ・彫刻ガイド 43回 957人 ************************************
	・英語ガイド 30回 437人(留学生の日は定点ガイドのため、人数に含まず) ・こどもたちのアートスタジオ 8回 145人 ・たてもの散歩ツアー 49回 925人
	・たんけんマップツアー 1回 50人 ・庭園茶室・お茶会 3回 112人
	MEM
	14回 1271人 ・表慶館アジアギャラリーガイド
東方芸術士学学生ギニンニュフ	(平成22年10月1~12月24日、各日1回実施) 25回 477人 - 米鈴豆突呂と東京泰佐士学士学院生が連携し進度。東孝を行った。学生の書画が経験が研究の一切となり、かつ
東京芸術大学学生ボランティア (7人)	当館研究員と東京藝術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、 来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク班】6名
	総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計36回、989人】 康円作「四天王眷属立像」―俗なる姿に宿る表現の妙― 6回 230人
	今村紫紅筆「熱国之巻」―点描の風景画― 6回 138人 仏教における梵音具―祈りの音― 6回 192人
	法隆寺献納宝物 金銅透彫灌頂幡―天人の舞う荘厳具― 6回 145人 浅井忠のフランス風景―芸術家たちを魅了した「夕暮れの村」― 6回 134人 自今等 (加音絵料音図) - 水黒で掛めれた射音の世界 6回 150 k
	良全筆「如意輪観音図」―-水墨で描かれた観音の世界― 6回 150人 【制作工程模型班】1名 古典的制作技法に着目し、当館所蔵品の制作工程模型を制作。模型展示期間にギャラリートークを実施。
	日英印刷作及流に着日と、当時所成品の制作工程検呈を制作。模字展示列間にイヤッケードークを美心。 制作工程模型制作「悉替金色―阿弥陀如来像ができるまで」 ギャラリートーク「悉皆金色」 4回 92名

- 【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】
 ・新規ボランティア研修 4回 (22年度分2回、23年度分2回)
 ・車椅子研修 1回
 ・ガイドツアー「東博桜めぐり」3回、「表慶館アジアギャラリーガイド」3回
 ・バリアフリー班研修 12回
 ・イベント班研修 1回
 ・ワークショップ班研修 9回
 ・「と一はくナビ」使用方法研修 2回
 ・各種自主企画グループ研修11回 (年間14回)
 【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施)
 ・ミュージアムシアター「興福寺 阿修羅像 奇跡の仏像」1回
 ・特別展「細川家の至宝一珠玉の永青文庫コレクション―」1回
 ・特別展「誕生!中国文明」1回
 ・特別展「誕生!中国文明」1回
 ・特別展「誕生!中国文明」1回
 ・特別展「平山郁夫と文化財保護」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回
 ・特別展「東大寺大仏」1回

【京都国立博物館】 計40人

- ・京都橋大学学生によるアンケートボランティア(10月19日から29日、11月9日から12日までの毎火・水・金曜日)(18人) ・調査・研究支援ボランティア(15人) ・文化財ソムリエ(7人)

種 別 (登録人数)	概 要
京都橘大学学生によるアンケートボランティア (18人)	京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10月19日から29日、11月9日から12日までの毎火・水・金曜日の10時00分から16時00分まで、特別展示館出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。終了後に結果の集計・分析を行った。
調査・研究支援ボランティア (15人)	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援
文化財ソムリエ(7人)	京都市内の小中学校訪問授業(6月29日の京都市立金閣小学校、10月5日の京都市立嵯峨小学校、1月28日の京都市立石田小学校)において講師をつとめた。また、建仁寺で11月から12月、3月から4月にかけて行われた「綴プロジェクト作品展」(NPO法人京都文化協会主催)にて、キッズプログラム(11月20日、23日、27日、12月4日、3月28日)の講師をつとめた。

【奈良国立博物館】 計85人

種 別 (登録人数)	概 要
解説ボランティア(76人)	 ・展示会場での作品解説 延べ284日 ・学校団体グループ案内(事前予約受付分 平常展、特別陳列のみ) 8件、503人 ・その他団体グループ案内(事前予約受付分 平常展、特別陳列のみ) 22件、662人 ・講堂での作品解説(正倉院展のみ) 110回(1日4~7回) ・公開講座、サンデートーク等の支援 24回
	・世界遺産学習の対応 30校、2,221人
イベントボランティア(9人)	

【九州国立博物館】 計288人

	H 2007 (
種 別 (登録人数)		概 要
展示解説ボランティア (63人)		文化交流展示室での案内、及び?ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
(03人)		
教育普及ボランティア (53人)		「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。
(55人)		来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア		館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。
(32人)		バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語通訳ボランティア		英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び
(53人)		文化交流展示室での展示物解説を行う。
環境ボランティア (28人)		I PM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (10人)		お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (18人)		郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの企画展示。
サポートボランティア		<u>ポランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。</u>
(19人)		ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア		他部会のボランティアの活動のサポート。
(12人)		各種イベントの企画・立案・実施。

(12人) | | 各種イベントの企画・立条・実施。 ・この他、地域の手話ボランティアグループ32名が障がい者対応として活動。 (研修)全体研修3回、部会別研修193回、グループ研修44回 (対応来館者数)展示解説(6,518人)、館内案内(4,896人)、バックヤードツアー(3,027人) ※ただし、予約団体のみで、当日受付対応は含まず。

【李良文化財研究所】 計187 人

	H11077X
種別(登録人数)	概 要
解説ボランティア	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説
(187人)	

・各種ボランティアに対する学習会等 第5期生基礎研修

3日間

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績(延べ人数)

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
328人	15人	7人	9人	9人	103人	185人

【東京国立博物館】15人

	大水田工 诗物品】	107	10%					
	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間			
1	曹 恵珍	韓国	国立中央博物館 教育文化交流団子供博 物館チーム学芸研究員	東京国立博物館・国立中央博物館間の学術交流および研究推進のため	9月6日~19日			
2	李 政根	韓国	国立中央博物館学芸研究室 考古部学 芸研究員	同上	9月27日~10月10日			
3	イルヘ゛ル ・ オルタイル	トルコ	トプカプ宮殿博物館総館長	日土交流に関する意見交換および講演会講師お よび日本博物館事情視察のため	11月11日~17日			
4	オミュル・ トゥファン	トルコ	トプカプ宮殿博物館主任学芸員	日本博物館·美術館視察および意見交換、オルタ イル氏通訳	11月8日~17日			
5	王 軍	中国	中国文物交流中心主任	大中国展関係招聘のため	11月19日~23日			
6	許 嫈	中国	中国文物交流中心助手	同上	11月19日~23日			
7	田凱	中国	河南博物院副院長	海外展打合わせならびに日本・中国間の学術交流 および研究推進のため	23年1月24日~30日			
8	銭 衛	中国	中国文物交流中心業務部副主任	中国展打合わせならびに視察のため	23年1月25日~30日			
9	白 寧	中国	南京市博物館館長	同上	23年1月24日~30日			
10	劉忠進	中国	山東省淄博市文物事業管理局局長	同上	同上			
11	白 進学	中国	陝西省文物局財務処副処級調研員	同上	同上			
12	趙 漢涛	中国	浙江省文物局主任科員	同上	同上			
13	陳 麗華	中国	北京故宮博物院副院長	特別展「北京故宮博物院精華展」(仮称) 打合せならびに展示施設視察のため	23年3月10日~13日			
14	丁 孟	中国	北京故宮博物院古器物部副主任	同上	同上			
15	董 丹	中国	北京故宮博物院外事処館員	同上	同上			

【京都国立博物館】7人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	蔡 涛	中国	広東美術館研究部副研究員	日本学術振興会外国人招へい者	9月9日~3月8日
2	Zhang Shunping	中国	中国シルク博物館 スタッフ	特別展覧会「高僧と袈裟」への出品作品の随伴・ 展示立会のため	10月4日~10日
3	Yao Dan	中国	中国シルク博物館 スタッフ	同上	同上
4	沈蓮玉	韓国	韓国伝統文化大学 教授	国際シンポジウム打合せ、研究発表	11月10日~14日
5	周 暘	中国			11月10日~18日
6	Lou Ting	中国	中国シルク博物館 リサーチャー	特別展覧会「高僧と袈裟」への出品作品返却の際 の作品随伴のため	11月24日~29日
7	Yu Tingting	中国	中国シルク博物館 スタッフ	同上	同上

【奈良国立博物館】 延べ 9人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	金 承熙	韓国	国立慶州博物館	当館との学術交流	7月23日~8月20日
2	張 鍇生	中国	河南博物院	同上	8月16日~9月15日
3	単 暁明	中国	河南博物院	同上	同上
4	金 鍾佑	韓国	国立慶州博物館	同上	11月26日~12月25日

・その他招へい

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間			
5	ナンシー・ スタインハルト	アメリカ	ペンシルバニア大学	国際学術シンポジウム出席	6月3日~6月8日			
6	李 栄勲	韓国	国立慶州博物館	第62回正倉院展視察及び意見交換	10月26日~10月28日			
7	陳 政煥	韓国	国立慶州博物館	第62回正倉院展視察及び意見交換	10月26日~10月28日			
8	王 維坤	中国	西北大学教授	正倉院学術シンポジウム2010出席	10月23日~10月24日			
9	ハ゛レンティナ・モルト゛ウ゛ィンツェンハ゛ -	ウクライナ	ウクライナ国立アカデミー附属考古学 研究所	修復完成記念特別講演会講演及び文化財搬出立 会	23年2月13日~2月14日			

【九州国立博物館】延べ 9人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	崔光植	韓国	国立中央博物館・館長	九博及び国内施設の視察・意見交換	8月19日~8月21日	運営費交付金
2	陳永志	中国	内蒙古自治区文物考古研 究所・所長	国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と 文化」講師	12月13日~12月19日	他機関負担
3	孫建華	中国	内蒙古自治区文物考古研 究所・主任	同上	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
4	蓋志勇	中国	内蒙古自治区文物考古研 究所・主任	国際シンポジウム「契丹帝国(遼王朝)の美術と 文化」講師	12月13日~12月19日	他機関負担
5	劉冰	中国	赤峰博物館・館長	同上	12月13日~12月20日	他機関負担
6	姜大一	韓国	国立韓国伝統文化学校·教 授	九博及び国内施設の視察・意見交換・講演	23年2月7日~2月15日	運営費交付金
7	コートニー・シモタ゛	アメリカ	フリーア美術館/アーサー・M・サックラー 美術館・アソシエイトフェロー	文化庁・在外日本古美術に係る博物館・美術館研 究協力事業による招聘	23年3月3日~3月26日	他機関負担
8	デンダオ	タイ	バンコク国立博物館・館長 代理	文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と 美」に係る作品の点検	23年3月25日~3月31日	他機関負担
9	シリチャイ	タイ	タイ王国文化省芸術局・保 存修復部長	同上	同上	同上

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問(滞在)したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。 ※上記には、日本国内の機関(大学、研究所等)に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ 103人

5月20日~26日 5月24日~27日 同上 同上 6月14日~7月4日 6月14日~7月4日 同上
同上 同上 6月14日~7月4日 6月14日~7月4日 同上
同上 6月14日~7月4日 6月14日~7月4日 同上
6月14日~7月4日 6月14日~7月4日 同上
6月14日~7月4日
同上
同上
7月4日~10日
7月5日~9日
同上
7月28日~8月4日
8月2日~12月17日
8月2日~12月17日
8月27日~9月2日
8月29日~9月18日
同上
同上
同上 9月4日~10日

Name	期間	用務	所属機関・職名	国名	氏名	
29 SALPTAY	9月5日~12日	覆屋効果に関する共同研究		インドネシア		28
30	9月6日~11日		マカッサル考古遺跡保存事務所		Haeruddin	29
1	月21日~12月10日	イラク人保存修復家人材育成のための研修	イラク国立博物館 保存修復専	イラク	Ali Ghanim Hafedh	30
192	同上	同上		イラク	ハテ゛ィール・アフ゛ト゛ゥルハーテ゛ィ・ハッ	31
10mmas J K Strang	同上	同上		イラク		32
35 Susan Catcher	月27日~10月15日	考古学研究に関連する実習と専門知識の研修		アフカ゛ニスタン		33
35	11月1日~16日	文化財の生物劣化対策に関する共同研究		カナダ		34
37	11月2日~8日	屏風」修復事業の中間視察・協議および在外修理	館 修復部門 主任紙修復技術	イギリス		35
33	11月4日~7日			韓国		36
39 Bruno Bruguier フランス フランス フランス種東学院 研究員 第7回研究会「文化遺産関際協力における情報資 1 38 38 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 40 38 38 38 38 38 38 38 3	同上	同上		韓国		37
39	11月13日~18日	在外日本古美術品保存修復協力事業中間視察	ブルックリン美術館学芸員	アメリカ		38
40	11月15日~23日		フランス極東学院 研究員	フランス		39
41	12月12日~25日			モンゴル	サムタ゛ン・ チンソ゛リク゛	40
42	12月12日~25日			モンゴル		41
43	3年1月10日~16日		産業技術大学 助教授	ドイツ		42
44 ヴェン・ティ・アィン・ダオ ペトナム 所 研究員 産群の保存」にかかる出土木材遺物の保存手法に関する研修 23 45 Nguyen Thi Huong Giang プレ・ディ・フォン・ザン ペトナム ベトナム社会科学院考古学研究所研究員 同上 同上 46 Rudolf Siegfried Morgenstern Line With アン・デルン・デルン・デルン・デルン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3年1月10日~17日		歴史・文化遺産研究所 考古・民	キルギス共和国		43
Rudolf Siegfried Morgenstern ト・レスデンエ科大学 名誉教授 「第34回文化財の保存及び修復に関する国際 で現れました。	3年1月10日~29日	産群の保存」にかかる出土木材遺物の保存手法に			グエン・ティ・アィン・ダ オ	44
46 Morgenstern ht ルンジークフリート・モルケンシュ デルン ドイツ ドレスデン工科大学 名誉教授 研究集会」への参加および講演 23 47 Luciano Marchetti hf7-ノ・マルケッティ イタリア スタリア市民保護局 文化財副 総監 同上 23 48 アカティンマルケッティ アルバニア 国境なき文化遺産(NGO) 地域調 配上 同上 23 49 Lejla Hadzic ライラ・ハジッチ アルバニア 国境なき文化遺産(NGO) 地域調 配上 同上 23 50 Amra Hadzimuhamedovic アムテ・ハジッチ イッチ ネスニア・ヘルツェゴビナ国家記念物保護委員会長官 同上 23 51 Natalia Dushkina ナウリア・デュシュキ ロシア モスクワ建築大学教授 同上 ロシア モスクワ建築大学教授 同上 12 52 Ang Choulean アン・チェリアン カンボジア 王立芸術大学寿古学部教授 同上 12 53 Nicholas Stanley-Price コラス・スタソリープライス イタリア 文化遺産保存アドバイザー 同上 23 54 Dorji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館館長 同上	同上	同上		ベトナム	Nguyen Thi Huong Giang グエン・ティ・フォン・ザン	45
### ### #############################	3年1月15日~22日		ドレスデン工科大学 名誉教授	18 / 34	Morgenstern ルト゛ルフ・シ゛ークフリート゛・モルケ゛ンシュ	46
49 Lejla Hadzic	3年1月17日~22日	同上		イタリア		47
49 ライラ・ハジッチ アルバーア 整員 同上 23 50 Amra Hadz imuhamedovi c 7ムラ・ハジ・ムハメト・ヴィッチ ボスニア・ヘルツェゴビナ国家記念物保護委員会長官 同上 23 51 Natalia Dushkina t/ŋリア・デュシュナナ ロシア モスクワ建築大学教授 同上 23 52 Ang Choulean アン・チュリアン カンボジア 王立芸術大学考古学部教授 同上 53 Nicholas Stanley-Price コラス・スタンリーブ・ライス イタリア 文化遺産保存アドバイザー 同上 54 Dorji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館館長 同上	同上	同上		アフカ゛ニスタン		48
50 7ムラ・ハジ・ムハメト・ヴ・ィッチ ボース・ア・ヘルヴェコ ヒ ナ 念物保護委員会 長官 同上 23 51 Natalia Dushkina ተタリア・デ・ュシュキナ ロシア モスクワ建築大学 教授 同上 23 52 Ang Choulean アン・チュリアン カンボジア 王立芸術大学 考古学部 教授 同上 53 Nicholas Stanley-Price コラス・スタンリーフ・ライス イタリア 文化遺産保存アドバイザー 同上 23 54 Dorji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館 館長 同上	3年1月18日~22日	同上		アルバニア		49
51 対列ア・デュシュキナ ロシア モスクワ建築大学 教授 同上 52 Ang Choulean アン・チュリアン カンボジア 王立芸術大学 考古学部 教授 同上 53 Nicholas Stanley-Price コラス・スタンリープライス イタリア 文化遺産保存アドバイザー 同上 54 Dorji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館 館長 同上	3年1月18日~23日	同上	ボスニア・ヘルツェゴビナ国家記	ホ゛スニア・ヘルツェコ゛ヒ゛ナ	Amra Hadzimuhamedovic	50
52 アン・チュリアン カンボンド 土立芸術大学 有古学部 教授 同上 53 Nicholas Stanley-Price コラス・スタンリープ ライス 文化遺産保存アドバイザー 同上 23 54 Dorji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館 館長 同上	3年1月18日~24日	同上	モスクワ建築大学 教授	ロシア	Natalia Dushkina	51
53 ニュラス・スタンリープ・ライス イタリア 又化遺産保存アトハイサー 同上 54 Dor ji Wangchuk ドルジ・ワンチュク ブータン 民族遺産博物館 館長 同上	同上	同上	王立芸術大学 考古学部 教授	カンボジア	O .	52
54 ドルジ・ワンチュク 民族遺産博物館 館長 同上	3年1月18日~25日	同上	文化遺産保存アドバイザー	イタリア		53
	同上	同上	民族遺産博物館 館長	ブータン		54
候 衛東 55 ホウ・ウェイドン Hou 中国 中国文化遺産研究院 副院長 同上 23 23 23 23 24 25 25 25 25 25 25 25	3年1月18日~28日	同上	中国文化遺産研究院 副院長	中国	ホウ・ウェイドン Hou	55
56	3年1月23日~28日	文化遺産の防災・減災対策に関する調査		中国		56
永 昕群中国文化遺産研究院建築保護研究同上57 Xinqun中国文化遺産研究院建築保護研究所 副所長	同上	同上		中国	ヨン・シンチュン YONG,	57
58 崔 明	同上	同上		中国		58
59 王 晶 ワン・ジン WANG, Jing 中国 中国文化遺産研究院発展研究所 助理館員 同上	同上	同上		中国		59

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
60	Jeadsada Chevavichavankul ジュサダ・チュヴァヴィチャヴァンクル	タイ	タイ芸術局 技官	覆屋効果に関する共同研究	23年1月24日~30日
61	Siripan Tabphet シリパン・タッペット	タイ	タイ芸術局 技官	同上	同上
62	Iskandar Mulia Siregar イスカンタ゛ル・ムリア・シレカ゛ル	インドネシア	ボロブドゥール遺産保存研究所 保存部長	同上	同上
63	Wicaksono Dwi Nugroho ታላカソノ・ド ታዕィ・ヌケ゛ロホ	インドネシア	モジョケルト遺産保存事務所 保存担当技官	同上	同上
64	Yoesoef Boedi Aryanto ヨソフ・ボディ・アリャント	インドネシア	文化観光省 保存部長	同上	同上
65	Paul van Duin ポール・ヴァン・ダイン	オランダ	アムステルダム国立博物館 家 具修復責任者	在外修復「螺鈿鶴形合子」中間検査	23年1月24日~31日
66	Pramono プラモノ	インドネシア	アンダラス大学 文学部 教授	「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴 史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」 における専門家交流	23年1月25日~2月2日
67	Adriyetti Amir アドリアティ・アミール	インドネシア	アンダラス大学 文学部 教授	同上	同上
68	Surya Esra スルヤ・エスラ	インドネシア	西スマトラ州立図書館 職員	同上	同上
69	Margit Reuss マルギット・ロイス	オランダ	ライデン民俗学博物館 修復技 術者	在外修復「花鳥螺鈿枕」中間検査	23年1月29日~2月3日
70	Katriina Simila カトリーナ・シミラ	イタリア	文化財保存修復研究国際センタ ー(ICCROM) プロジェクトマ ネージャー	「海外の文化財保存修復専門家養成を目的とする国際研修等の実施に関する研究会」講演	23年2月1日~4日
71	Patcharawee Tunprawat パッチャラウィー・トゥンフ。ラワット	タイ	東南アジア文部大臣機構考古 学・芸術地域センター 文化遺産 管理専門家	同上	同上
72	朴 鐘瑞 パク・ジョン・ソ Park Jong Seo	韓国	韓国国立文化財研究所保存科学 センター 学芸研究官	同上	同上
73	張 可 ジャン・ケァ Zhang Ke	中国	中国文化遺産研究院教育トレー ニングセンター 助理研究員・副 主任	同上	23年2月1日~5日
74	Hervan Bahar ヘルヴァン・バハール	インドネシア	パダン市 地域開発計画局 局 長	「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴 史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」 における専門家交流	23年2月7日~13日
75	Prita Wardhani Dumasari プ゚リタ・ワルダニ・ドゥマサリ	インドネシア	西スマトラ州 文化観光局 局 長	同上	同上
76	Edi Hasymi エディ・ハシミ	インドネシア	パダン市 文化観光局 局長	同上	同上
77	Edi Dharma エディ・ダルマ	インドネシア	パダン市 文化観光局 職員	同上	同上
78	Yusuf ユスフ	インドネシア	文化観光省バトゥサンカル遺跡 保存事務所 職員	同上	同上
79	Yusfa Hendra Bahar 1377 · ^> h To n - n - n - n - n - n - n - n - n - n	インドネシア	文化観光省バトゥサンカル遺跡 保存事務所職員	同上	同上
80	張 正模 ジャン・ジェンモ Zhang Zhengmo	中国	敦煌研究院 保護研究所助理館員	敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メ カニズムの解明によるアプローチ	23年2月16日~28日
81	John Grunewald ジョン・グルネワルド	ドイツ	ドレスデンエ科大学 教授	保存修復科学センター研究会「文化財施設の環境解析と博物館の省エネ化」での講演	23年2月21日~26日
82	Rudolf Plagge ルドルフ・プラーゲ	ドイツ	ドレスデンエ科大学 研究員	同上	23年2月21日~26日
83	Volker Koesling フォルカー・キースリンク゛	ドイツ	ドイツ技術博物館 修復部門責 任者	近代文化遺産(合成樹脂等) に関する共同研究打合せおよび日本国内における現地調査	23年2月22日~3月3日
84	洪 善杓 ホン・スン・ピョ HONG SUN-PYO	韓国	韓国美術研究所 所長	シンポジウム「人とモノの「力学」―美術史にお ける「評価」」での研究発表および討議参加	23年2月26日~28日
85	文 貞姫 ムン・ジュン・ヒ MOON JUNG-HEE	韓国	韓国美術研究所 学術主任	同上	同上
86	張 辰城 チャン・チン・スン CHANG CHIN-SUNG	韓国	ソウル大学校 考古美術史学科 教授	同上	同上
87	Khaled Mohamed Ebrahim al-Sendi ハーリット・・ムハンマト・・イフ・ラヒム・ア ル・シンティ		バーレーン国立博物館 研究員	「アジア文化遺産国際会議」への出席および講演	23年2月28日~3月7日
88	Loutus Omar Mahawi Abu Karki ロータス・オマル・マハウィ・アフ゛・カラキ	ヨルダン	ヨルダン遺跡観光省 観光部門 発展プロジェクト責任者	同上	同上
89	Marwan Said Rabah al Zubidi マルワン・サイート゛・ラハ゛ー・アル・ス゛ヒ゛ ディ	ヨルダン	ヨルダン考古局 コンサルタン ト	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
90	Ziad Mohmmad Kayed al Saad ジアード・ムハンマド・カイ―ド・ア ル・サード	ヨルダン	ヨルダン考古局 長官	「アジア文化遺産国際会議」への出席および講演	23年2月28日~3月7日
91	Assaad Seif アサド・サイフ	レバノン	レバノン文化省考古総局 職員	同上	同上
92	Nader Siklaoui ナーテ゛ル・シクラオイ	レバノン	レバノン文化省考古総局ティー ル支局 研究員	同上	同上
93	Jamal Haydar Hassan Salimeh ジャマル・ハイダール・ハッサン・サリメー	シリア	シリア考古局 ラタキア支局長	同上	同上
94	Ammar Abdulrahman アマル・アフ゛ト゛ゥルラハマーン	シリア	シリア考古局 職員	同上	同上
95	Abbas Khudhair Abbas al-Mahdi アッパ・ース・フタ・イール・アッパ・ース・ア ル・マフーティ	イラク	イラク国立博物館 文化復興部 局主任	同上	23年3月1日~7日
96	Hussein Ali Habeeb フセイン・アリ・ハヒ゛ーフ゛	イラク	イラク考古局 文化協力主任	同上	同上
97	Bui Duy Tri ブイ・ドイ・チー	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院 副院長	タンロン皇城遺跡保存にかかわる研究協議およ び京都大学保管木材見学	23年3月5日~12日
98	Do Thi Ngoc Bich ドー・チー・ゴック・ビック	ベトナム	ベトナム林業大学 上級講師	同上	同上
99	Duong Thi Thuy ズオン・ティ・トゥイ	ベトナム	ベトナム女性博物館 研究員	同上	同上
	Nguyen Van Anh グエン・ヴァン・アイン	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院研 究員	同上	同上
101	Wongchat Chatrakul na Ayuddhaya ウォンチャット・チャラクル・ナ・アユタヤ	タイ	タイ芸術局 技官	煉瓦造文化財の保存に関する共同研究	23年3月7日~12日
102	Nguyen Van Anh グエン・ヴァン・アイン	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院 研究員	タンロン皇城遺跡保存にかかわる研究協議およ び京都大学保管木材見学	23年3月8日~12日
103	John Sell ジョン・セル	オランダ	ヨーロッパ・ノストラ 副会長	コンソーシアム講演会「ヨーロッパにおける遺 産: 非政府的視点から」における講演	23年3月9日~13日

【奈良文化財研究所】延べ185人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	李 偉樹 他4名	韓国	韓国国立文化財研究所自然文 化財研究室	視察	4月6日
2	彌 燈 他4名	韓国	韓国仏教文化研究所	視察	5月12日
3	ジャック・ジエス	フランス	国立ギメ東洋美術館・館長	視察	5月21日~5月21日
4	アレクサンドル・ソコロ フ	ロシア	ロシア国立歴史文書館・館長	日本の史料・文化財の多様な有様や保存状況の 視察	5月26日
5	セルケ゛イ・チェルニャフスキー	ロシア	ロシア国立海軍文書館館長	同上	同上
6	ワジム・クリモフ	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋古籍文 献研究所・上級研究員	同上	同上
7	アレクサンドル・シニー ツィン	ロシア	ロシア科学アカデミー人類学・民族 博物館・上級研究員	同上	同上
8	田鳳熙	韓国	ソウル大学校建築学科・教授	歴史的建造物の保存に関する意見交換及び歴 史的建造物の視察	6月3日~6月6日
9	金 王稙	韓国	ミョンジ大学校建築学科・教授	同上	同上
10	李 演魯	韓国	ソウル市文化財委員	同上	同上
11	金 周慶	韓国	オウジェ建築事務所・所長	同上	同上
12	都 妍延	韓国	ソウル大学校建築学科・博士課 程	同上	同上
13	邱 敏 有	中華民国	台湾中央研究院歴史言語研究 所考古学部門助理研究員	遺跡出土の魚骨と現生標本との比較のため	5月31日~6月13日
14	崔 ジャンミ	韓国	国立慶州文化財研究所・学芸研 究士	慶州四天王寺址の発掘調査成果の発表と検討 のため	6月18日
15	秦曙光	中国	河南省古代建築保護研究所・所 長	同上	同上
16	呂軍輝	田田	河南省古代建築保護研究所·総 工程師	同上	同上
17	李 暁 剛	田	河南省古代建築保護研究所·一 級建造師	同上	同上
18	余 暁 川	中国	河南省古代建築保護研究所・副 研究員	同上	同上
19	楊東昱	中国	河南省古代建築保護研究所·副 研究員	同上	同上
20	趙彤梅	中国	河南省古代建築保護研究所·副 研究員	同上	同上
21	段 建 華	中国	河南省古代建築保護研究所·設 計士	同上	同上
22	陳 磊	中国	河南省古代建築保護研究所·設 計士	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
00	張勇		河南省古代建築保護研究所・設	77.737 慶州四天王寺址の発掘調査成果の発表と検討	6月18日
23			計士	のため	
24	趙明星	中国	河南省古代建築保護研究所・研 究室主任	同上	同上
25	秦 小 麗	カナダ	カナダロイヤルオンタリオ博 物館	八木遺跡出土土器の型式学的、編年学的位置を 明らかにするための文献調査	7月1日~H. 23. 6. 30
26	許 一権	韓国	国立春川博物館	金属遺物の科学的な保存処理及び分析法研究	7月5日~7月23日
27	Dr.Nagin Nanda	インド	ヒマーチャルプラディッシュ州政府環境科 学技局・部長	ODAにける環境影響評価(持続可能な開発のための環境アセスメント研修)	7月9日
28	Mr.Bimo Adi Nursanthyasto	インドネシア	公共事業省企画・国際協力局年間企画・分野横断セクター課課長	同上	同上
29	Mr.Nugroho Indra Windardi	インドネシア	環境省環境影響評価部·部長補 佐官	同上	同上
30	Ms.AL-DARRAJI Taghreed Ahmed	イラク	環境省環境影響評価部·部長補 佐	同上	同上
31	Mr. WINYI Alex Kiiza	ウガンダ	国家環境管理局・環境影響評価 担当技官	同上	同上
32	Mr.RIZK Yasser Mahmoud Salahedin Ibrahim	エジプト	水資源灌漑省総合灌漑改善管 理プロジェクト、ガルビーヤ県 地域調整部・部長	同上	同上
33	MR. KONG Sokvan	カンボジア	シェリムアップ水道公社浄水 配水部・部長	同上	同上
34	Ms.GITAU Naomi Njeri	ケニヤ	国家環境管理局 コンプ・ライアンス・執行部 上級技官	同上	同上
35	Mr.GUDA John Ojwang	ケニヤ	ケニア電力電灯会社安全衛生 環境部・次長	同上	同上
36	Mr.MAKENYA Brigita Sylvester	タンザニア	タンザニア電力供給会社調査 環境部・環境担当技官	同上	同上
37	Ms. ODIMAYO Ebunyemi Modupeoluwa	ナイジェリア	環境省環境影響評価部・環境技 官	同上	同上
38	Ms.DIBIGBO Margaret Ngozi	ナイジェリア	国家計画委員会 環境・地域開 発部 上級企画官	同上	同上
39	Mr. THANJU Rajendra Prasad	ネパール	ネパール電力公社環境社会調 査課・課長補佐	同上	同上
40	Mr.SHRESTHA Chatur Bahadur	ネパール	電力開発局プロジェクト調査・環境調査部 地質技官	同上	同上
41	Mr. IVARAMI Dennis	パプアニュー ギニア	環境保護局許認可部環境課·上 級科学技官	同上	同上
42	Mr. TARI Reedly	バヌアツ	国土天然資源環境保護局・環境 影響評価担当技官	同上	同上
43	Ms. NGUYEN Mai Hieu	ベトナム	天然資源環境省環境影響評価 審査部・技官	同上	同上
44	Mr.CHAVEZ TUPPIA Jorge Marco	ペルー	環境省環境管理政策・法制局環 境影響評価制度専門官	同上	同上
45	Ms. ORBEGOSO REYES Leonor Marilez	ペルー	リマ市上下水道公社環境管理 部・環境影響評価制度専門官	同上	同上
46	ハルナラヤン・ シン・ チョウタ゛リ	インド	インド考古局	視察	7月29日
47	韓釗	中国	西安碑林博物館・副館長	「日中墓誌の比較研究」のため	8月1日~9月28日
48	Tshering Namgyal	ブータン	ブータン政府自治文化省文化局・副技官	同上	同上
49	Phoeung Dara	カンボジア	アンコールシェムリアップ地域文化財保護 管理機構・技官	同上	同上
50	Ma Chaolong	中国	龍門石窟研究院・副院長	同上	同上
51	Ulaiasi Motonikumi	フィジー	伝統文化省イタウケイ言語・文化研 究所・現地調査官	同上	同上
52	Bhuvan Vikrama	インド	インド考古調査局・考古専門職員	同上	同上
53	Fahmi Prihantoro	インドネシア	ガジャ・マダ大学人文学部・講師	同上	同上
54	Janna Proskurina	カザフスタン	歴史・文化遺産調査制作センタ 一・遺物修復課長	同上	同上
55	Aidai Sulaimanova	キルギス共和 国	キルギス政府国立科学アカデミー歴 史・文化研究所・考古専門職員	同上	同上
56	Soukphachanh Khamphasouk	ラオス	情報文化省遺産局·学術職員	同上	同上
57	Kazutoyo Wase	マーシャル諸 島	総務省歴史保存事務所・考古専 門職員	同上	同上
58	Aung Aung Kyaw	ミャンマー連 邦	ミャンマー政府文化省·考古·国立博 物館·図書館局・副局長	同上	同上
59	Kathryn Hurren	ニュージーラ ンド	ニュージーランド史跡トラス ト・地域考古学職員	同上	同上
60	Asadullah Khan	パキスタン	パキスタン政府考古博物館 局・考古専門職員	同上	同上
61	Mary G. L. D. Barretto-Tesoro	フィリピン	フィリピン大学・准教授	同上	同上
62	K.K.D.Kamal Bowatta	スリランカ	スリランカ政府考古局・地域管 理職員	同上	同上
63	Nguyen Chi Cong	ベトナム	コ・ロア史跡及びハノイ皇城保存センター・事業管理職員	同上	同上
				1	1

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
64		アフガニスタン		考古学研修	10月4日~10月14日
65		アフガニスタ		同上	10月4日~11月28日
		アフガニスタ		**	
66	_ // \$ 1.	<u>ン</u>		同上	同上
67	マイケル・バートン	アメリカ	アリゾナ州立大学・教授 	生物多様性条約C0P10パートナーシップ事業「古代社 会の生物多様性に学ぶ」エクスカーション	10月10日
86	マーカ・レット・ハ・ートン	アメリカ		同上	同上
69 70	エメリ・マックラング オラシオ・タピア	メキシコ	メキシコ国立自治大学教授 メキシコ・メトロホ リタン自治大学	同上 同上	同上 同上
71	ロドリゴ・タピア	メキシコ	メキシコ国立自治大学・地理学 研究センター准教授	同上	同上
12	トーベン・リック	アメリカ	スミソニアン国立自然史博物	同上	同上
73	デイビッド・フレイデル	アメリカ	館・考古部長 ワシントン大学・教授	同上	同上
4	リチャード・メドー	アメリカ	ハーバード大学・教授	同上	同上
5	除天進	中国	北京大学・教授	同上	同上
6	ジョシュア・トーニー	アメリカ	フロリダ大学大学院・教授	同上	同上
7	Robin Cleland	アメリカ	アリゾナ州立大学大学院・学生	同上	同上
8	Colleen Strawhacker	アメリカ	アリゾナ州立大学大学院・学生	同上	同上
'9	Scott Ingram	アメリカ	アリゾナ州立大学大学院・学生	同上	同上
0	キム・ソンボム 他2名	韓国	国立中原文化財研究所長	海外先進事例調査および関連機関の施設見学	10月13日
1	パク・ジョンフン	韓国	国立中原文化財研究所・企画運 営課長	同上	同上
2	ド・イチョル	韓国	国立中原文化財研究所・学芸研 究員	同上	同上
3	アリ・ガニム・ハファド・カイキ 他 2名	イラク	イラク国立博物館	視察	11月8日
4	MUNKHUU Bayarsaikhan	モンゴル	Eフゴル科学アカデミー考古学研究 所・古人類学・古動物学室	ACCU個人研修2010受講	11月16日~12月16日
15	RINCHINKHOROL Munkhtulga	モンゴル	モンゴル科学アカデミー考古 学研究所・中世研究室	同上	同上
36	DAVAAKHUU Odsuren	モンゴル	せいたが、中国の元皇 モンコ゛ル科学アカデミー考古学研究 所・石器時代研究室	同上	同上
37	Samdan Chinzoring	モンゴル	カーロ番号で別え至 モンゴル文化遺産センター・保 存修復室長	モンゴル人専門家研修	12月13日~12月24日
88	Badam Altansukh	モンゴル	モンゴル文化遺産センター・コンピュー タプログラマー	同上	同上
39	Angelo Pellegrino	イタリア	オスティア考古学遺産監督事 務所所長	国際シンポジウム「古代ローマの海港都市オス ティア」エクスカーション	11月19日
90	Marco Sangiorgio	イタリア	オスティア考古学遺産監督事 務所技術部長	同上	同上
)1	Michele Raddi	イタリア	ローマ考古学遺産特別監督局 嘱託考古調査員	同上	同上
)2	Ray Laurence	イギリス	ケント大学教授	同上	同上
)3	Janet Delain	イギリス	オックスフォード大学講師	同上	同上
4	Kyung Hwan KANG	韓国	韓国文化財庁 史跡課長	大極殿等視察	11月24日
5	Chul Ju KIM	韓国	韓国文化財庁史跡課専門員	同上	同上
6	Pan Yong PARK	韓国	韓国文化財庁 史跡課員	同上	同上
)7	Young Boom KIM	韓国	韓国文化財庁 史跡課員	同上	同上
98	朱 甫 暾 他13名	韓国	韓国木簡学会 会長	施設見学および平城宮見学	12月6日
9	フランソワ・シゴー	フランス	Ccentre de Recherches Historiques	視察	12月15日~12月16日
00	Nguyen Chi Ben 他5名	ベトナム	ベトナム文化芸術研究所	視察	12月18日~12月20日
01	劉欣寧	台湾	台湾中央研究院歴史言語研究 所	視察	12月22日
02	ヴァレリー・コルチェン コ	キルギス共和 国	キルギス共和国科学アカデミ 一歴史・文化遺産研究室	視察	1月11日
03	丁 垚	中国	天津大学	視察	1月24日
)4	Yoesoef Boedi Aryanto	インドネシア	歴史考古総局	視察	1月28日
)5	Iskandar Mulia Siregar	インドネシア	ボロブドール研究所	視察	1月28日
)6	Wicaksono Dwi Nugroho	インドネシア	モジョケルト遺跡保存事務所	視察	1月28日
)7	Adriyetti Amir	インドネシア	アンダラス大学	視察	1月28日
8	Pramomo	インドネシア	アンダラス大学	視察	1月28日
)9	Siripan Tabphet	タイ	タイ芸術局	視察	1月28日
10	Jeadsada Chevavichavankul	タイ	タイ芸術局	視察	1月28日
11 12	サイモン・ケイナー 他4名 刘 曙 光	イギリス 他 中国	中国文化遺産研究院・院長	視察 第一次大極殿完成記念式典等に出席、並びに共 同研究に関する打ち合わせ	3月25日 4月21日~4月24日
13	査 群	中国	 中国文化遺産研究院・高級工程 師	同上	同上
			r er		

115 丛 徳 新 中国 中国社会科学院考古研究所・科研处長 第一次大極殿完成記念式典等に出席同研究に関する打ち合わせ 116 金 奉 建 韓国 国立文化財研究所・所長 同上 117 李 鐘 勲 韓国 国立文化財研究所・学芸研究官 同上 118 蘇 在 龜 韓国 国立慶州文化財研究所・学芸研究上 同上 119 池 成 眞 韓国 東国立慶州文化財研究所・学芸研究上 同上 120 李 熙 濬 韓国 韓国国立文化財研究所 発掘調査交流 121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の廣治の大きな物語」展での展示に関すのため、資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため、方・部員の大きな物語」展での展示に関するためためのため、方・部員の大きな物語」展での展示に関するため、 122 李 占楊 中国 沖国文化遺産研究所・第一研究主任 日上 123 高 宇平 中国 沖国本の物局・副局長 日上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・発展研究所・企業会、所・前所の完善、企業保護、同上 日上 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・発展研究・発展研究・発展研究・企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、企業会、	同上 同上 同上 同上 同上 同上 7月17日~7月2日 7月18日~7月26日 関「小さな石」 で報稿力 同上 同上
117 李鐘 勲 韓国 国立文化財研究所・学芸研究官 同上 118 蘇 在 龜 韓国 国立慶州文化財研究所所長 同上 119 池 成 眞 韓国 国立慶州文化財研究所・学芸研究士 同上 120 李 熙 濬 韓国 韓国国立文化財研究所 発掘調査交流 121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため 122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研究室主任 同上 123 高 宇平 中国 沖昌市文物局・副局長 日上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究所・通知研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究所・建築文 同上	同上 同上 同上 5月17日~7月2日 7月18日~7月26日 「小さな石」 「お指導協力 同上 同上 9月2日~9月5日
118 蘇 在 龜 韓国 国立慶州文化財研究所所長 同上 119 池 成 眞 韓国 国立慶州文化財研究所・学芸研究士 同上 120 李 熙 濬 韓国 韓国国立文化財研究所 発掘調査交流 121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため 122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研究室主任 同上 123 高 宇平 中国 許昌市文物局・副局長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所、所、所、所、所、所、副研究員 日上 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上 同上 5月17日~7月2日 7月18日~7月26日 7月18日~7月26日 「小さな石」 「お指導協力 同上 同上 9月2日~9月5日
119 池 成 眞 韓国 国立慶州文化財研究所・学芸研究土 同上 120 李 熙 濬 韓国 韓国国立文化財研究所 発掘調査交流 121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため 122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研究室主任 同上 123 高 宇平 中国 許昌市文物局・副局長 同上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所承 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・通業交別の上 同上 127 金 徳文 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上 5月17日~7月2日 7月18日~7月26日 「小さな石」 「お指導協力 「同上 「同上 「同上 「同上 「同上 「同上 「同上 「同上
72 京士 同上 120 李 熙 濬 韓国 韓国国立文化財研究所 発掘調査交流 121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため 122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研究室主任 同上 123 高 宇平 中国 許昌市文物局・副局長 同上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	5月17日~7月2日 0一環で飛鳥 残「小さな石」 トる指導協力 7月18日~7月26日 同上 同上 遺産保存国際 9月2日~9月5日 同上 同上
121 王 瑞琴 中国 河南省文物局文物資源処・副処長 共同研究の推進および共同研究の資料館にて共同開催する夏期企画展器の大きな物語」展での展示に関すのため 122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研究主任 同上 123 高 宇平 中国 許昌市文物局・副局長 同上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所表 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	フー環で飛鳥 民「小さな石」 する指導協力 7月18日~7月26日 同上 同上 遺産保存国際 9月2日~9月5日 同上 同上
122 李 占楊 中国 河南省文物考古研究所・第一研のため 123 高 宇平 中国 河南省文物考古研究所・第一研究室主任 124 沈 陽 中国 許昌市文物局・副局長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺所・所長 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究院・建築保護研究所・副研究員 日上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	展「小さな石」 「る指導協力
123 高 宇平 中国 許昌市文物局・副局長 同上 124 沈 陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・所長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上 遺産保存国際 9月2日~9月5日 同上
124 沈陽 中国 中国文化遺産研究院・発展研究 所・所長 日中韓3国間共同研究「建築文化遺学術会議」出席 125 劉江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・発展研究所・副研究員 同上 127 金徳文 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室	貴産保存国際 9月2日~9月5日 同上
所・所長 学術会議」出席 125 劉 江 中国 中国文化遺産研究院・建築保護研究所・副研究員 同上 126 温 玉清 中国 中国文化遺産研究院・発展研究所・副研究員 同上 127 金 徳文 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上
研究所・副研究員	
所・副研究員	同上
化財研究室 同上	
100 羊 豚 株団 株団団立立ルサロウボ、海第立	同上
128 姜 賢 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上
129 韓 旭 韓国 韓国国立文化財研究所・建築文化財研究所・建築文化財研究室 同上	同上
130 司 治平 中国 河南省文物局・文物処処長 共同研究実施のため	10月25日~11月2日
131 趙 新平 中国 河南省文物考古研究所・副所長 共同研究実施のため	10月25日~10月31日
132 李 輝 中国 河南省文物考古研究所館員 同上	10月25日~11月2日
133 王 建民 中国 河南省文物考古研究所技師 同上	10月25日~10月31日
134 王 勝利 中国 河南省文物考古研究所技師 同上	10月25日~11月2日
135 華 玉冰 中国 遼寧省文物考古研究所·副所長 同上	12月9日~12月16日
136 趙 代盈 中国 遼寧省文物考古研究所館員 同上	12月9日~12月16日
137 樊 聖英 中国 遼寧省文物考古研究所館員 同上	12月9日~12月16日
138 金 奎虎 韓国 国立公州大學校・教授 保存科学研究集会『古代の玉-最新的研究の動向』講演	fの保存科学 2月4日~2月8日
139 丁 輝 中国 遼寧省文化庁・副庁長 共同研究実施のため	3月15日~3月22日
140 李 向東 中国 遼寧省文物考古研究所所長 同上	同上
141 Z 学明 中国 遼寧省文物考古研究所·副所長 同上	同上
142 銭 国 祥 中国 中国社会科学院考古研究所・洛 同上	3月21日~3月25日
143 肖 淮 雁 中国 中国社会科学院考古研究所·副 同上 研究員	同上
144 Ouk Socheat カンボジア 文化芸術省官房長 文化庁による拠点交流事業であるア・ポスト・アンコール期の王都と跡の研究」に係る研究会出席	
145Proeung Chhi engカンボジア文化芸術省技術補佐官長同上	同上
146 Yun Khean カンボジア 文化芸術省技術補佐官 同上	同上
147LamSopheakカンボジア奈文研 現地補佐員同上	同上
148Loeung Ravatteyカンボジア奈文研 現地補佐員同上	同上
149Sok Keo Sovannaraカンボジア奈文財 現地補佐員同上	同上
150Heng Sophadyカンボジア文化芸術省副所長同上	同上
151HengSokpheapカンボジア王立芸術大学卒業生同上	同上
152Nong Dararaksmeyカンボジア王立芸術大学卒業生同上	同上
153 Nep Chanlacsmy カンボジア 王立芸術大学卒業生 同上	同上

2) 他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画(延べ人数)

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
58人	17人	6人	4人	5人	12人	14人

【東京国立博物館】延べ17人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名				
1	大正大学	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究	教授 加島勝	学芸企画部長 松本伸之				
2	東京藝術大学	彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教 育への応用	副学長 北郷悟	企画課長 井上洋一				
3	東京藝術大学	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化 財復元の研究(科学研究費補助金・挑戦的萌芽/分担)	東京藝術大学大学院 佐藤雅彦	列品管理課登録室アソシエイト フェロー 河内晋平				
4	東京藝術大学	東京美術学校西洋画科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存 修復に関する基礎的研究VII	大学院絵画科油画技法材料研 究室大学院美術研究科兼任教 授 佐藤一郎	保存修復課保存修復室主任研究 員 土屋裕子				
5	財団法人科学博物館 後援会	科学系博物館における学校利用促進方策調査研究委員会	公益事業課長 高安礼士	博物館教育課ボランティア室長 鈴木みどり				
6	九州国立博物館	アジアの木地螺鈿ーその源流、正倉院宝物への道をたどるー (科学研究費補助金C/分担)	文化財資料登録室長 小林公治	列品管理課貸与特別観覧室主任 研究員 猪熊兼樹				
7	明治大学研究 · 知財戦 略機構	新領域創成型研究費「ヒト—資源環境系に占める黒曜石の採掘 活動と古環境解析—」	明治大学研究·知財戦略機構特 任教授 小野昭	列品管理課登録室アソシエイト フェロー 及川穣				
8	明治大学	環境変遷史と人類活動に関する学際的研究(学術フロンティア 推進事業)	明治大学文学部教授 杉原重夫	調査研究課工芸・考古室研究員 品川欣也				
9	文化女子大学文化フ ァッション研究機構	近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究― 小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用―	共立女子大学教授 長崎巌	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀				
10	東京大学史料編纂所	目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金・学術創成)	田島公	調査研究課書跡・歴史室長 田良島哲				
11	人間文化研究機構	人間文化研究情報資源共有化研究会	理事 石上英一	調査研究課書跡・歴史室長 田良島哲				
12	人間文化研究機構国 立歴史民俗博物館	中近世における武士と武家の資料論的研究	国立歴史民俗博物館研究部准 教授 高橋一樹	博物館情報課長 高橋裕次				
13	人間文化研究機構国 立歴史民俗博物館	デジタル化された歴史研究情報の高度利用に関する研究	准教授 鈴木卓治	博物館情報課情報管理室長 村田良二				
14	人間文化研究機構国 立歴史民俗博物館	洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究	教授 小島道裕	保存修復課長 神庭信幸				
15	人間文化研究機構国 立民族学博物館	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	教授 園田直子	保存修復課長 神庭信幸				
16	同上	同上	同上	保存修復課環境保存室主任研究 員 荒木臣紀				
17	同上	同上	同上	保存修復課環境保存室主任研究 員 和田浩				

【京都国立博物館】延べ6人

	31 H - 13 100 M 2			
	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大谷大学	智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究	教授 宇都宮啓吾	学芸部上席研究員 赤尾栄慶 学芸部企画室研究員 羽田聡
2	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	学芸研究部長 島谷弘幸	学芸部上席研究員 赤尾栄慶 学芸部企画室研究員 羽田聡
3	日本女子大学	蝋管を中心とした初期録音資料の音源保存・音声復元・内容分 析に関する横断的研究	教授 清水康行	学芸部保存修理指導室長 村上隆
4	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰と その造形に関する基礎的研究	名誉教授 肥塚隆	学芸部連携協力室主任研究員 淺湫毅

【奈良国立博物館】延べ4人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	1 筑波大学 東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙 に関する基礎的研究		教授 山本 隆志	館長 湯山 賢一
2	奈良教育大学	ユネスコの提起する世界遺産教育の教育内容と教育方法の創 造	教授 田渕 五十生	学芸部長 西山 厚
3	東京国立博物館 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究 一「正倉院裂」を中心に一		上席研究員 澤田 むつ代	学芸部長 西山 厚
4	種智院大学	インド文化圏における仏塔の総合的研究	学長 頼富 本宏	学芸部工芸考古室長 内藤 榮

【九州国立博物館】延べ5人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名				
1	独立行政法人国立文 化財機構東京国立博 物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	学芸研究部長 島谷 弘幸	文化財課資料登録室主任研究員 丸山 猶計				
2	岡山大学	副葬品の構造・材質・色彩からみた古墳葬送空間の再現的研究	大学院社会文化科学研究科教 授 松木 武彦	博物館科学課環境保全室長 今津 節生 博物館科学課環境保全室研究員 鳥越 俊行				
3	関西大学	飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究-出土品から見た川原寺の 特質-	文学部教授 米田 文孝	企画課研究員 市元 塁				
4	龍谷大学	ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究	文学部教授 宮治 昭	企画課長 小泉 惠英				

【東京文化財研究所】延べ12人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大谷大学	世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究-過去の復元か ら未来への保存へ-	大谷大学文学部教授 松川 節	文化遺産国際協力センター 主任研究員 二神 葉子
2	東京大学	「地図史料学の構築」の新展開-科学的調査・復元研究・データ ベース-	東京大学史料編纂所 准教授 杉本 史子	保存修復科学センター 分析科学研究室長 早川泰弘
3	弘前大学	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	弘前大学人文学部 教授 関根 達人	保存修復科学センター 伝統技術研究室長 北野信彦
4	東京大学 観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル·アーカイブを活用した新 しい能楽史の構築 東京大学大学院総合文化研究科 教授 松岡 心平			無形文化遺産部 無形文化財研究室長 高桑 いづみ
5	広島市立大学	ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象 芸術に関する研究	服部 等作	副所長 中野 照男
6	立教大学	アジアの無形文化における仮頭の研究ー仮面との比較からー	立教大学異文化コミュニケーション学部教授 細井 尚子	副所長 中野 照男
7	東京大学	文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究	東京大学大学院総合文化研究科 教授 岩本 通弥	無形文化遺産部 主任研究員 俵木 悟
8	千葉大学	絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観 に関する研究	千葉大学文学部 教授 池田 忍	企画情報部 研究員 土屋 貴裕
9	早稲田大学	未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けて の基礎的研究	早稲田大学演劇博物館 名誉教授 鳥越 文蔵	無形文化遺産部 音声·映像記録研究室長 飯島満
10	京都大学	ミリ波イメージング技術による木質文化財の生物劣化の非破壊 診断装置の開発	京都大学農学研究科 准教授 藤井 義久	保存修復科学センター 生物科学研究室長 木川りか
11	東京藝術大学	文化財科学、美術史学、制作技法研究の情報統合による「薬師寺 吉祥天画像」の復元模写研究	東京藝術大学大学院美術研究科 教授 宮廻 正明	保存修復科学センター 分析科学研究室長 早川泰弘
12	筑波大学	中近東·北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録、保存、公開に関する研究	筑波大学大学院人間総合科学研 究科 教授 日高 健一郎	保存修復科学センター長 石崎 武志

【奈良文化財研究所】延べ14人

		_ : _ : _ : : : : : : : : : : : : : : :	ルキネタ	八七字々
	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と 伝統的知識体系の解明-	教授 田島 公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
2	同志社大学	東北アジアにおける古環境変動と旧石器編年に関する基礎的 研究	教授 松藤 和人	企画調整部主任研究員 加藤 真二
3	奈良大学	東アジア木簡学の確立	教授 角谷 常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
4	独立行政法人国立科 学博物館	徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析- 大奥の実態に迫る-	部長 馬場 悠男	埋蔵文化財センター長 松井 章
5	立命館大学	『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社 会像の再構築	教授 本郷 真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本 崇
6	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨の形質人類学的研究	准教授 藤田 尚	埋蔵文化財センター客員研究員 橋本 裕子
7	鹿児島大学	考古学と地下探査の協同による近世薩摩焼研究再構築のため の基礎的研究	教授 渡辺 芳郎	埋蔵文化財センター主任研究員 金田 明大
8	島根大学	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的 研究	准教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター環境考古学 研究室研究員 山崎 健
9	島根大学	考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的 研究	准教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
10	山形県立博物館	日韓内陸地域における雑穀農耕の起源に関する科学的研究	学芸課長 中山 誠二	都城発掘調査部考古第三研究室 研究員 庄田 慎矢
11	北陸学院大学	形・作りとスス・コゲからみた縄文・弥生土器、土師器による 調理方法	教授 小林 正史	都城発掘調査部考古第三研究室 研究員 庄田 慎矢
12	東北大学	長期標準年輪曲線の広域ネットワーク拡充とそれに基づく木 材産地推定法の検討	助教 大山 幹成	埋蔵文化財センター客員研究員 藤井 裕之
13	立命館大学	都市社会構造と観光活動-観光都市京都の通事的分析と他類似 都市との比較-	淳教授 三枝 暁子	都城発掘調査部研究員 浅野 啓介
14	奈良産業大学	正倉院文書による日本語表記成立過程の解明	准教授 桑原 祐子	都城発掘調査部歴史研究室長 渡邉 晃宏

3) 研究者海外派遣実績(延べ人数)

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
483人	54人	27人	17人	77人	146人	162人

【東京国立博物館】 延べ54人 (先方負担を除く)

〇海外交流展経費・国際交流費:延べ10人

<u> </u>	个人儿皮性身				
	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭 智美	オランダ フランス	4月13日~22日	国際展覧会オーガナイザー会議出席およびパリ市内文化施設視察のため(エルミタージュ美術館アムステルダム分館(オランダ)、バリ日本文化会館、国立ギメ東洋美術館、オルセー美術館、ルーブル美術館(フランス))	職員旅費(国際交流 費)、出張
2	井上 洋一	フランス	5月4日~11日	パリ市内展示施設での所蔵品調査および打合わせのため(ギメ東洋美術館、ルーブル美術館、パリ日本文化会館)	同上
3	藤田 千織	韓国	8月25日~9月6日	現代美術館、国立果川科学館、幼児教育振興院、戦争記念館、西大門自然史博物館)	職員旅費(国際交流 費)・先方負担(国立 中央博物館)、出張
4	高橋 裕次	韓国	8月25日~9月7日	日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため (国立中央博物館、韓紙工房、忠北大学韓紙研究所、国立清州博物館、 Leeum Museum、国家記録院、ナラ記録館、韓国学中央研究所、奎章閣 韓国学研究院、仏教中央博物館、靖齋文化財保存研究所、大韓民国国 史編纂委員会)	同上
5	松本 伸之	中国	9月16日~21日	日中国交回復40周年記念「甦る中国大文明展」(仮称)におけるご挨拶、 出品のお願いおよび特別展「誕生!中国文明」の御礼(中国国家文物局、中国文物交流中心、上海万博、上海博物館)	職員旅費(海外展経 費)、出張
6	松本 伸之	中国	11月4日~9日	日中韓国立博物館館長会議および国際博物館会議上海大会(ICOM)出席のため (中国国家博物館、上海博物館、上海国際博覧会)	同上
7	楊鋭	中国	同上	同上	同上
8	小山 弓弦葉	ドイツ	11月4日~11日	フランケフルト、ゲ ラスバ ウハーン工場及びベルリン、ミュンヘンの美術博物館の現状視察のため (博物館島、シャルロッテ城、アルテ・ピ ナコテーウ、レジ デンス博物館、ミュンヘン・レジ デンス宮殿宝物庫、ニュンヘン・ハルウ城、グ ラスバ ウハーン社)	職員旅費(国際交流費)、出張
9	矢野 賀一	ドイツ	同上	フランケフルト、グ・ラスバ・ウハーン工場及び、ドルリン、ミュンヘンの美術博物館の現状視察のため (博物館島、ペ・ルリン国立東洋美術館、エジ・プ・ト美術収集館、民俗学博物館、 が、リブ・トテーク、州立古代美術館、グ・ラスバ・ウハーン社)	同上
10	和田浩	ドイツ	11月8日~13日	東洋館リニューアルにかかる展示等調査 (フランウフルト、グラスバウハーン工場及びベル リン、ミュンヘンの美術博物館の現状視察)および展示ケース作成状況確認の ため (博物館島、エジプト美術収集館、グラスバウハーン社)	同上

〇職員旅費(その他): 延べ17人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	井上 洋一	トルコ	4月23日~5月4日	文化庁海外展「日本の美5000年」にかかる展示作業のため(トプカプ宮殿博物館)	職員旅費(トルコ展経費)、出張
2	池田 宏	トルコ	4月23日~5月8日	同上	同上
3	小林 達朗	トルコ	4月23日~6月4日	文化庁海外展「日本の美5000年」にかかる展示作業および作品点検の ため (トプカプ宮殿博物館)	同上
4	白井 克也	ドイツ	5月25日~29日	東洋館改修工事にかかる壁面展示ケースのモックアップ検査及び関 係施設視察のため(グラスバウハーン社)	職員旅費(施設整備 費)、出張
5	矢野 賀一	ドイツ	同上	同上	同上
6	丸山 士郎	トルコ	5月30日~6月18日	文化庁海外展「日本の美5000年」にかかる作品点検のため(トプカプ 宮殿博物館)	職員旅費(トルコ展経 費)、出張
7	品川 欣也	トルコ	6月16日~7月4日	文化庁海外展「日本の美5000年」にかかる作品点検および撤収作業の ため (トプカプ宮殿博物館)	同上
8	島谷 弘幸	トルコ	6月27日~7月4日	文化庁海外展「日本の美5000年」にかかる撤収作業のため(トプカプ 宮殿博物館)	同上
9	木下 史青	ドイツ	9月6日~10日	東京国立博物館東洋館改修その他工事壁面展示ケース工場検査のため (グラスバウハーン社)	職員旅費(施設整備 費)、出張
10	白井 克也	ドイツ	9月6日~10日	東京国立博物館東洋館改修その他工事壁面展示ケース工場検査のため (グラスバウハーン社)	職員旅費(施設整備 費)、出張
11	塚本 麿充	台湾	10月1日~10日	「文芸紹興—南宋芸術及び文化展」に伴う作品輸送・陳列のため(国 立故宮博物院)	職員旅費(調査研究課 運営費)、先方負担(国 立故宮博物院)出張
12	瀬谷 愛	韓国	10月4日~13日	海外展「高麗仏画大展」の作品添乗・陳列作業および韓国における調 査研究のため(国立中央博物館)	職員旅費(特別調査研 究等)·先方負担(国立 中央博物館)、出張
13	白井 克也	韓国	10月29日~31日	「皇南大塚」「鶏林路14号墓」展示調査研究のため (国立中央博物館)	職員旅費(特別調査研 究等)、出張
14	谷 豊信	韓国	11月18日~20日	同上	職員旅費(調査研究課 運営費)出張
15	富田 淳	中国	12月15日~19日	台東区立書道博物館と東京国立博物館との共同企画・拓本の流転にか かる作品調査のため(北京故宮博物院)	職員旅費(特別調査研 究等)、出張
16	富田 淳	中国	23年2月16日~18日	特集陳列「拓本とその流転」作品集荷・輸送のため (香港中文大学文物館)	職員旅費(調査研究 費)、出張
17	浅見 龍介	カンボジア	23年3月18日~21日	アンコール・ワット等調査のため(アンコール・ワットほか)	同上

○平成22年度科学研究費補助金:延べ27人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	島谷 弘幸	フランス	5月27日~6月2日	「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」(基盤研究A)にかかる書跡調査および展示施設視察のため (国立ギメ東洋美術館、パリ国立図書館、ルーブル美術館、オルセー美術館、オラン ジュリー美術館ほか)	科学研究費補助金(島 谷科研)、出張

	氏名	用務先	期間	用務	備考
		,		「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」(基盤	110
2	高橋 裕次	フランス	5月27日~6月2日	研究A)にかかる書跡調査および展示施設視察のため (国立ギメ東洋美術館、パリ国立図書館、ループル美術館、オルセー美術館、オテン ジュリー美術館ほか)	科学研究費補助金(島谷科研)、出張
3	富田淳	フランス	同上	同上	同上
4	土屋裕子	フランス	同上	同上	同上
5	神庭 信幸	中国	6月21日~25日	「資料保存と四大元素」に関する国際シンポジウム参加のため(中国 国家図書館)	科学研究費補助金(神庭科研)、出張
6	和田 浩	中国	8月7日~16日	「隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究」(基盤研究 B) の現地調査 (牟州巨神山寺、勝福寺、開元寺ほか)	科研分担金(代表者:大 正大学 加島勝)、出張
7	富田 淳	中国	8月24日~28日	「中国書画の表装に関する基礎的研究」(基盤研究C)のため(北京故宮博物院、中国国家図書館ほか)	科学研究費補助金(富 田科研)、出張
8	島谷 弘幸	アメリカ	9月13日~20日	「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」(基盤研究A)にかかる書跡調査および展示施設視察のため(フォッグ美術館、個人所蔵者宅、クリープランド美術館、アート・インスティテュート・オブ・シカゴ)	科学研究費補助金(島 谷科研)、出張
9	神庭 信幸	トルコ エジプト	9月19日~10月2日	国際文化財保存修復学会イスタンブール大会参加および大エジプト 博物館保存修復センターにおける調査のため (サキプ・サバンジュ美術館(トルコ)、大エジプト博物館保存修復 センター(エジブト))	科学研究費補助金(神 庭科研)、出張
10	猪熊 兼樹	インド	9月22日~29日	「アジアの木地螺鈿ーその源流、正倉院宝物への道をたどる一」(基盤研究C) の調査研究のため (ムンバイ市内、ウダイプール市内)	科研分担金(代表者:九 州国立博物館 小林公 治)出張
11	関 紀子	中国	10月9日~15日	「清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究」(基盤研究の)に伴う出張のため (泰山、普照寺、岱廟、泰安市博物館、蒿里山冥福寺、興隆寺塔、済寧市博物館、京杭大運河、鉄塔寺、嘉祥武氏祠、孝堂山石室、駝山石窟、雲門山石窟、青州市博物館)	科学研究費補助金(関科研)、出張
12	島谷 弘幸	韓国	10月13日~16日	「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」(基盤研究A)にかかる書跡調査および展示施設視察のため(国立中央博物館、国立慶州博物館)	科学研究費補助金(島 谷科研)、出張
13	富田 淳	韓国	同上	同上	同上
14	関 紀子	中国	10月28日~11月1日	「清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究」(基盤研究C)に伴う出張のため (三孔、三孟、王羲之故居、銀雀山竹簡漢墓博物館)	科学研究費補助金(関 科研)、出張
15	富田淳	中国	10月28日~11月1日	「清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究」(基盤研究C)に伴う出張のため (三孔、三孟、王羲之故居、銀雀山竹簡漢墓博物館)	科学研究費補助金(関 科研)、出張
16	瀬谷 愛	中国	11月14日~17日	「文化財保護の歴史に関する基礎的研究」(基盤研究B)における調査研究のため(上海博物館)	科学研究費補助金(高 橋科研)、出張
17	高橋 裕次	中国	12月5日~7日	「古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究」(基盤研究C)における東アジア紙文化財保存修理シンポジウム参加のため(甘粛省博物館)	科研分担金(代表者:東 文研 加藤雅人)出張
18	高橋 裕次	中国	12月8日~9日	「文化財保護の歴史に関する基礎的研究」(基盤研究B)における調査、視察のため(甘粛省博物館)	科学研究費補助金(高 橋科研)、出張
19	高橋 裕次	英国	23年1月8日~16日	「文化財保護の歴史に関する基礎的研究」(基盤研究B)における調査研究のため (グラスゴー ケルビングローブ博物館(スコットランド)、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、大英博物館(イングランド))	科学研究費補助金(高 橋科研)、出張
20	田良島 哲	英国	同上	同上	同上
21	白井 克也	英国	同上	同上	同上
22	遠藤 楽子	英国	同上	同上	同上
23	横山梓	英国	同上	同上	同上
24	神庭信幸	フランス	23年1月10日~15日	「博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究」(基盤研究8)にかかる調査等のため (ループル美術館、ギノ美術館、セルニュスキ美術館、日仏大学会館)	科学研究費補助金(神 庭科研)、出張
25	鈴木 晴彦	フランス	同上	同上	同上
26	島谷 弘幸	中国	23年2月16日~18日	「中国書画の表装に関する基礎的研究」(基盤研究のにかかる調査のため(香港中文大学文物館)	科学研究費補助金(富 田科研)、出張
27	島谷 弘幸	アメリカ	23年3月19日~27日	「東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究」(基盤研究(A))にかかる作品調査のため (クリープランド美術館、フーリア美術館、フィラデルフィア美術館ほか)	科学研究費補助金(島谷科研)、出張

〇先方負担:延べ42人

0,0,		·76/\			
	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	富田淳	中国	4月16日~22日	上海万博展にかかる作品輸送立会いおよび陳列作業のため(万博博物館、都市足跡館)	先方負担(上海博物 館)、出張
2	松本 伸之	中国	5月19日~22日	「甦る中国大文明展」(仮)出品作品交渉のため (中国文物交流中心、陝西省文物局、陝西省博物館、兵馬俑博物館)	共催展主催者旅費 (NHK)、出張
3	川村 佳男	中国	6月6日~16日	特別展「誕生!中国文明」出品作品の検品、梱包、借用のため(河南 博物院、鄭州市内)	共催展主催者旅費(読 売新聞)、出張
4	谷 豊信	中国	6月8日~16日	特別展「誕生!中国文明」出品作品の検品、梱包、借用のため(洛陽 博物館、洛陽古墓博物館、河南博物院ほか)	同上
5	島谷 弘幸	中国	6月20日~24日	上海博物館における「杉雨の書と眼」展開催にかかる協議のため(上 海博物館)	先方負担 (謙慎書道 会)、出張
6	富田 淳	中国	同上	同上	同上
7	浅見 龍介	モナコ	7月1日~10日	グリマルディ・フォーラム・モナコへの作品貸与にかかる作品輸送および展示作業のため(グリマルディ・フォーラム)	先方負担(グリマルディ・ フォーラム)、出張
8	島谷 弘幸	中国	7月8日~11日	2013年開催予定の「王羲之の書とその系譜展(仮称)」における作品調査のため(遼寧省博物館)	共催展主催者旅費(毎 日新聞)、出張
9	富田 淳	中国	同上	同上	同上
10	田沢 裕賀	アメリカ	7月26日~8月2日	「ボストン美術館 日本美術の至宝」展(仮称)にかかる作品調査および撮影のため(ボストン美術館)	共催展主催者旅費 (NHK)、出張
11	酒井 元樹	アメリカ	同上	同上	同上
12	鈴木 晴彦	アメリカ	9月1日~30日	スミソニアン学術協会 東洋絵画部における招聘のため (フーリア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリーほか)	先方負担(スミソニアン学術 協会)招聘出張
13	丸山 士郎	モナコ	9月11日~19日	グリマルディ・フォーラム・モナコへの作品貸与にかかる撤収作業および作品輸送 のため (グリマルディ・フォーラム・モナコ)	先方負担(グリマルディ・フォ ーラム・モナコ)出張

	氏名	用務先	期間	用務	備考
14	富田淳	中国	9月20日~30日	上海博物館での共催展にかかる作品輸送立会いおよび陳列作業のため(上海博物館)	共催展主催者旅費(上 海博物館)出張
15	松本 伸之	カンボジア	9月21日~25日	特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」にかかる作品調査・ 出品交渉のため(プノンペン国立博物館、日本大使館、カンポジア王国文化 芸術省)	共催展主催者旅費 (NHK)、出張
16	島谷 弘幸	中国	9月27日~10月1日	上海博物館での共催展における開幕式参加ため (上海博物館)	共催展主催者旅費(上 海博物館)出張
17	沖松 健次郎	韓国	10月6日~8日	国立全州博物館開館20周年記念国際学術シンボジウム "朝鮮王室と全州" にかかる発表のため(国立全州博物館)	先方負担(国立全州博 物館)招聘出張
18	富田淳	台湾	10月7日~9日	「文芸紹興—南宋芸術及び文化展」開幕式参加のため (国立故宮博物院)	先方負担(国立故宮博 物院)、出張
19	澤田 むつ代	韓国	10月21日~24日	国際学術シンポジウム『忠南文化財の保存科学―陵山里寺址出土遺物を中心に―』出席のため(國立扶余博物館)	先方負担、出張
20	救仁郷 秀明	中国	10月25日~11月3日	「千年丹青一日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤収のため(上海博物館)	共催展主催者旅費(上 海博物館)出張
21	大橋 美織	韓国	10月31日~11月3日	海外展「高麗仏画大展」の展示替え作業のため (国立中央博物館)	共催展主催者旅費(国 立中央博物館)、出張
22	神庭 信幸	フランス	11月2日~7日	「日仏科学ワークショップ」出席のため (ストラスブール研究連絡センターほか)	先方負担(日本学術振 興会)、出張
23	土屋 裕子	フランス	同上	同上	同上
24	塚本 麿充	中国	11月8日~17日	「千年丹青-日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤収のため(上海博物館)	共催展主催者旅費(上海博物館)出張
25	島谷 弘幸	中国	11月14日~18日	上海博物館での共催展にかかるシンポジウム出席のため (上海博物館)	同上
26	富田淳	中国	11月14日~29日	上海博物館での共催展にかかる撤収作業および作品輸送立会いのため(上海博物館)	同上
27	松本 伸之	中国	11月15日~18日	展覧会事前協議のため (北京故宮博物院、中国国家文物局ほか)	先方負担(朝日新聞)、 出張
28	瀬谷 愛	韓国	11月21日~26日	海外展「高麗仏画大展」の撤収作業および作品随伴のため(国立中央 博物館)	共催展主催者旅費(国 立中央博物館)、出張
29	塚本 麿充	韓国	11月21日~25日	海外展「高麗仏画大展」の撤収作業のため (国立中央博物館)	同上
30	島谷 弘幸	中国	12月9日~11日	2013年開催予定の「王羲之の書とその系譜展(仮称)」における作品調査のため(遼寧省博物館)	共催展主催者旅費(毎 日新聞)出張
31	富田 淳	中国	同上	同上	同上
32	塚本 麿充	中国	12月22日~24日	「千年丹青一日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」作品輸送のため(上海博物館)	共催展主催者旅費 (上海博物館)出張
33	浅見 龍介	カンボジア	23年1月5日~9日	特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」作品集荷のため(プノンペン国立博物館)	共催展主催者旅費 (NHK)、出張
34	富田 淳	台湾	23年1月10日~12日	「文芸紹興—南宋芸術及び文化展」作品撤収・返却作業のため(国立 故宮博物院)	共催展主催者旅費(国 立故宮博物院)、出張
35	松本 伸之	中国	23年1月20日~22日	特別展「北京故宮博物院精華展」(仮称)事前協議および作品調査の ため(北京故宮博物院)	共催展主催者旅費(朝 日新聞)出張
36	富田淳	中国	同上	同上	同上
37	塚本 麿充	中国	23年1月23日~26日	同上	同上
38	浅見 龍介	カンボジア	23年3月15日~18日	特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」作品返却のため(プノンペン国立博物館)	共催展主催者旅費 (NHK)、出張
39	猪熊 兼樹	中国	23年3月20日~23日	特別展「北京故宮博物院精華展」(仮称)事前協議および作品調査の ため(北京故宮博物院)	共催展主催者旅費(朝日新聞)出張
40	富田淳	中国	23年3月20日~27日	同上	同上
41	川村佳男	中国	同上	同上	同上
42	塚本 麿充	中国	同上	同上	同上

【京都国立博物館】延べ27人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	赤尾 栄慶	フランス	6月6日~6月13日	フランス国立図書館における敦煌写本調査	
2	赤尾 栄慶	韓国	6月25日~6月28日	松広寺版本調査・海印寺古写本調査	
3	永島 明子	フランス	6月26日~7月2日	ブル王立修道院美術館の古漆器展の見学	
4	淺湫 毅	ドイツ、フラン ス、モナコ	6月29日~7月11日	グリマルディ・フォーラム「京都―東京 侍からマンガまで」展に 貸与する作品の搬送、展示作業	
5	久保 智康	モナコ	7月3日~7月8日	グリマルディ・フォーラム「京都―東京 侍からマンガまで」展の 展示作業	
6	大原 嘉豊	モナコ	8月8日~8月12日	グリマルディ・フォーラム「京都―東京 侍からマンガまで」展の 展示替作業	
7	赤尾 栄慶	ロシア	9月2日~9月8日	シンポジウムの参加及びロシア所蔵敦煌写本の調査	
8	淺湫 毅	スリランカ	9月6日~19日	コロンボ 国立博物館及び遺跡等における仏教彫刻の調査	
9	久保 智康	モナコ	9月11日~16日	グリマルディ・フォーラム「京都―東京 侍からマンガまで」展の撤収作業	
10	羽田 聡	モナコ	9月11日~16日	同上	
11	呉 孟晋	中国	9月21日~29日	「千年丹青 - 日本・中国珍蔵唐宋元絵画精品展」展示、撤収	
12	呉 孟晋	台湾	10月2日~7日	台北・国立故宮博物院への作品搬入	
13	山下 善也	アメリカ	10月11日~16日	シンポジウム「Utsushi:The Art of Copying」において研究発表の ため	
14	西上 実	中国	10月14日~27日	シンポジウム発表及び展覧会展示替等作業、講演	
15	永島 明子	アメリカ	10月29日~11月5日	Jacqueline Avant蒔絵コレクションの調査	
16	西上 実	中国(マカオ)	11月9日~11月14日	澳門芸術博物館での明末清初金陵画派書画学術研討会に参加発表 のため	
17	西上 実	中国	11月23日~29日	上海博物館特別展「千年丹青」日本より貸与作品の撤収・返送	
18	呉 孟晋	台湾	11月26日~28日	国際シンポジウム参加	
19	村上 隆	アメリカ	12月17日~21日	環太平洋国際化学会議に出席・研究発表	
20	淺湫 毅	カンボジア	23年1月4日~1月10日	彫刻作品・遺跡等の調査	
21	尾野 善裕	ベトナム	23年1月11日~15日	ベトナム国立歴史博物館へ収蔵品に関しての調査・分類等	
22	呉 孟晋	台湾	23年1月11日~13日	台北・国立故宮博物院への作品返却	
23	永島 明子	スペイン	23年1月22日~2月5日	NHK「シリーズ知られざる在外秘宝~スペイン・修道院を飾る桃 山の蒔絵」の収録	
24	尾野 善裕	英国	23年3月1日~6日	特別展覧会「清朝陶磁」に向けての出品交渉	
25	尾野 善裕	中国	22年3月28日~4月1日	中国旅順博物館所蔵日本陶磁の調査	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
26	西上 実	中国・香港	23年3月11日~14日	香港芸術院での展覧会観覧講座講演のため	
27	呉 孟晋	アメリカ	23年3月30日~4月6日	アメリカ・アジア学会大会での発表	

【奈良国立博物館】延べ17人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	斎木 涼子	韓国	12月6日~12月28日	国立慶州博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	国立慶州博物館

・その他の調査等のための海外渡航実績

		ノニリンシンガギノトが文形			
	氏名	用務先	期間	用務	備考
2	大西 征爾	ドイツ	5月11日~5月15日	展示ケース検収	グラスバウハーン社
3	内藤 栄	ドイツ	同上	同上	同上
4	永井 洋之	中国	6月24日~7月4日	「大遣唐使展」出陳品返却	職員旅費
5	内藤 栄	スリランカ	7月30日~8月9日	科研調査	科研費
6	岩戸 晶子	韓国	7月28日~8月23日	同上	同上
7	北澤 菜月	アメリカ	9月7日~9月13日	メトロポリタン美術館モンゴル展出陳品随行	メトロポリタン美術館
8	湯山 賢一	韓国	9月16日~9月18日	国立慶州博物館特別展開幕式出席のため	国立慶州博物館
9	野尻 忠	韓国	同上	同上	同上
10	西山 厚	韓国	9月28日~9月30日	特別講演及び調査のため	国立慶州博物館
11	湯山 賢一	中国	12月5日~12月9日	第4回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム参加	職員旅費
12	稲本 泰生	韓国	10月30日~11月3日	科研調査	科研費
13	内藤 栄	韓国	12月15日~12月17日	国立慶州博物館特別展視察	国立慶州博物館
14	岩戸 晶子	韓国	同上	同上	同上
15	北澤 菜月	アメリカ	12月29日~23年1月7日	メトロポリタン美術館モンゴル展出陳品返却	メトロポリタン美術館
16	湯山 賢一	中国	23年2月21日~2月26日	トヨタ財団助成による文化財調査	トヨタ財団
17	宮崎 幹子	アメリカ	23年3月4日~3月14日	文化庁委託研究調査	文化庁

【九州国立博物館】延べ77人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	市元塁	中国	4月7日~4月9日	夏期特別展開催に係る打ち合わせ、および資料調査	職員旅費
2	臺信祐爾	台湾	4月29日~5月2日	情報収集、黄金旺族遼代文化展調査	科研費
3	市元塁	台湾	4月29日~4月30日	同上	同上
4	小林公治	韓国	5月30日~6月4日	韓国の螺鈿に関する調査	助成金
5	市元塁	中国	5月31日~6月4日	五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究に係る現地調 査	科研費
6	臺信祐爾	中国	6月6日~6月13日	チベット展作品搬入作業立ち会い、チベット展作品返却作業立ち会 い	職員旅費
7	川畑憲子	ベルギー	6月14日~6月26日	文化庁海外展「アジアへの道」会場における展示作業等	他機関負担
8	小林公治	タイ	6月19日~6月25日	「マハ・チャクリ・シリントーン王女主催によるタイの知恵再活性 化のための東洋漆研究国際会議」における研究発表、タイ国内螺鈿 工房調査	助成金
9	市元塁	中国	6月28日~7月3日	特別展「馬アジアを駆けた二千年」作品点検、集荷輸送業務	職員旅費
10	志賀智史	韓国	7月4日~7月6日	特別展「馬アジアを駆けた二千年」に係る文化財の借用	職員旅費
11	池内一誠	モンゴル	7月21日~7月26日	あじっぱ体験資料収集にともなう調査	他機関負担
12	今津節生	中国	8月4日~8月12日	「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技 術」調査研究	科研費
13	三輪嘉六	中国	8月12日~8月15日	学術文化交流協定締結	職員旅費
14	小泉惠英	中国	8月12日~8月19日	学術文化交流協定締結、特別展「草原の正倉院(仮)」に関する作 品調査	同上
15	臺信祐爾	中国	8月12日~8月19日	「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技 術」調査研究	科研費
16	市元塁	中国	同上	同上	同上
17	末兼俊彦	中国	同上	同上	同上
18	藤田励夫	ベトナム	8月22日~8月28日	ベトナム・ホイアン市における「茶屋新六交趾国貿易渡海図」関連 遺跡の調査	他機関負担
19	小泉惠英	タイ	8月26日~8月31日	文化庁海外展「日本とタイーふたつの国と巧と美」にかかる協議	海外展経費
20	原田あゆみ	タイ	同上	同上	同上
21	小林公治	韓国	9月9日~9月11日	特別展「馬アジアを駆けた二千年」に係る文化財の返却	職員旅費
22	市元塁	中国	9月11日~9月15日	同上	同上
23	赤司善彦	韓国	9月15日~9月18日	公州博主催特別展「百済の冠」に係る展示作業	他機関負担
24	三輪嘉六	韓国	9月16日~9月18日	同上	同上
25	池内一誠	ウス゛ヘ゛キスタン	9月29日~10月5日	あじっぱ体験資料収集にともなう調査	他機関負担
26	小林公治	ベトナム、イン ド、タイ	9月20日~9月30日	ベトナム・インドの螺鈿に関する調査、バンコクでの在留邦人への 講演	科研費
27	畑靖紀	韓国	10月4日~10月8日	高麗仏画大展の輸送と展示	他機関負担
28	三輪嘉六	韓国	10月5日~10月8日	世界大百済典関連行事「世界歴史都市、文化遺産と保存に関する国際会議」での講演	同上
29	小林公治	モンゴル	10月9日~10月24日	国際交流基金「カラコルム博物館運営支援」事業による展示物管理 等に関する指導助言	同上
30	畑靖紀	アメリカ	10月11日~10月17日	シンポジウム"Utsushi:The Art of Copying "における研究発表、Center for Japanese Studiesによる調査研究	同上
31	赤司善彦	韓国	10月18日~10月19日	公州博主催特別展「百済の冠」に係る展示作品の撤収作業	同上
32	本田光子	タイ	10月28日~11月1日	文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る展示環境 調査、イベント会場調査および協議	海外展経費
33	原田あゆみ	タイ	同上	同上	同上
34	秋山純子	タイ	同上	同上	同上
35	臺信祐爾	中国	10月31日~11月4日	「X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析」に係る調査	科研費
	今津節生	中国	10月31日~11月5日	同上	同上

お見 中国		氏名	用務先	期間	用務	備考
7 ラック 11月1日 11月10日 1 1月2日 11月10日 1 1月10日 1 1日10日 1 1日10	37	市元塁	中国	10月31日~11月5日	II .	科研費
39 19 19 19 11月2日 - 11月9日 3 11月1日 - 11月9日 3 11月1日 - 11月9日 11月1日 - 11月9日 11月1日 - 11月1日	38	赤司善彦	イタリア	11月1日~11月10日	エトルリア壁画古墳の現地調査、ポンペイ遺跡壁画の現地調査	他機関負担
	39	河野一隆		11月2日~11月8日		科研費
11月14日~11月22日 服命文化夫同研究 同上 日本	40	畑靖紀	韓国	11月8日~11月9日	高麗仏画大展の展示撤収	他機関負担
11月18日~11月25日 中国	41	森實久美子	韓国	同上	同上	同上
44	42	市元塁	中国	11月14日~11月22日	服飾文化共同研究	同上
18日 18	43	川畑憲子	中国	11月18日~11月25日	中国古代漆器検討会	同上
1月26日~12月1日 11月26日~12月1日 11月26日~12月26日~12月26	44	金井裕子	韓国	11月21日~11月26日		
15 日本	45	藤田励夫	ドイツ	11月26日~12月2日		助成金
福田分子 中国	46	三輪嘉六	中国	12月4日~12月9日		職員旅費
12月6日~12月9日 日2月6日~12月1日 日月6日~12月1日 日月6日~12月1日 日月6日~12月1日 村別原 [馬王堆展] (応称) 開催に名が、開催に名が、開作に対して、関 12月4日~1月17日 村別府 村別府 日本とタイーふたつの国の万と美」に係る保証金、	47	森田稔	中国	同上	同上	同上
12月6日~12月9日 日2月6日~12月1日 日月6日~12月1日 日月6日~12月1日 日月6日~12月1日 村別原 [馬王堆展] (応称) 開催に名が、開催に名が、開作に対して、関 12月4日~1月17日 村別府 村別府 日本とタイーふたつの国の万と美」に係る保証金、	48	本田光子	中国			
12月6日~12月12日 特別展「馬工堆展」 (仮称) 開催に係る資料調査 別上 12月14日~12月18日 校入版の科学的調査に関する対議、2010種物数文物保存環境国際学 他機関負担 校議会に参加 (清減、文化財保存建境に関する対議						
51 馬越俊行 中国		191911111111111111111111111111111111111				
15月 14日~12月 16日 12月 16日~12月 16日 12月 16日~12月 16日 12月 16日~12月 16日 12月 16日~1月 17日 12月 16日~1月 17日 12月 16日~1月 18日 23年1月 16日~1月 18日 同上 0上 0上 0上 0上 0上 0上 0上	50	巾兀堊	甲国	12月0日~12月12日		
75-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-7-	51	鳥越俊行	中国	12月14日~12月18日	術検討会に参加・講演、文化財保存環境に関する討議	他機関負担
33 京田の1945 94 23年1月5日~1月18日 1月18日	52	小泉惠英	タイ	23年1月4日~1月17日		海外展経費
特別 日本	53	原田あゆみ	タイ	23年1月5日~1月18日		同上
55	54	秋山純子	タイ	23年1日5日~1日18日		同上
56 藤田助夫 タイ 23年1月18日~1月17日		10				
57 三輪嘉六 タイ 23年1月13日~1月17日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管理理へいた。 満外展経費 58 森貴久美子 タイ 23年1月15日~1月28日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管理理へがたった。 海外展経費 59 池内一誠 タイ 23年1月26日~2月1日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連伝統工芸ワークショップの実施を開催準備及び展示替え作業 他機関負担 60 原田あゆみ タイ 23年2月5日~2月12日 同上 同上 61 藤田励夫 タイ 23年2月5日~2月12日 同上 同上 62 川畑霊子 タイ 23年2月10日~2月17日 東外居経費 同上 同上 63 鳥越俊行 タイ 23年2月16日~2月24日 同上 同上 同上 64 秋山純子 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 同上 高上 65 進村真之 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 他機関負担 海外展経費 64 秋山純寺 タイ 23年3月30日~3月10日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 海外展で再本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展を費 海外展を費 67 小泉恵英 韓国 23年3月10日~3月13日 東位・特別・会議議議 大化庁海外展 「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 市会・会社会社会					· ·	
57 二輪無八 ライ 23年1月15日~1月28日 ショッブ出席 ショッブ出席 海外展経費 59 池内一臓 タイ 23年1月26日~2月1日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 60 原田あゆみ タイ 23年1月26日~2月9日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係るイベント開催準備及び展示替え作業 海外展経費 61 藤田励夫 タイ 23年2月5日~2月12日 理 同上 同上 62 川畑憲子 タイ 23年2月10日~2月17日 可止 同上 同上 63 鳥越俊行 タイ 23年2月16日~2月17日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管理 海外展経費 64 秋山純子 タイ 23年2月16日~2月17日 同上 高上 日本 本外展経費 第分展経費 日本 10上 日本	56	滕出励天	タイ	23年1月8日~1月17日		
58 株養人美子 91 23年1月18日~1月28日 理 セル庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」関連伝統工芸? 他機関負担 59 池内一誠 タイ 23年1月26日~2月9日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係るイベント 開催準備及び展示者之作業 大化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管	57	三輪嘉六	タイ	23年1月13日~1月17日	ショップ出席	
59 池川一畝 タイ 23年1月26日~2月1日 一クショップの実施 一クショップの実施 海外展経費 60 原田あゆみ タイ 23年1月26日~2月12日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 同上 両上 61 藤田励夫 タイ 23年2月5日~2月12日 同上 同上 62 川畑憲子 タイ 23年2月10日~2月17日 同上 同上 63 鳥越俊行 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 同上 64 秋山純子 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 一旦上 65 進村真之 タイ 23年2月25日~3月7日 同上 他機関負担 66 原田あゆみ タイ 23年3月5日~3月20日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 職員旅費 67 小泉惠英 韓国 23年3月10日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 23年3月10日~3月13日 平成 2 4 年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 信力セ 職員旅費 70 川畑憲子 中国 23年3月12日~3月19日 平成 2 4 年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 信力・協議・打ち 信力・ 両上 同上 同上 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 同上 同上 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同	58	森實久美子	タイ	23年1月15日~1月28日	理	
原田のゆか タイ 23年1月20日~2月3日 開催準備及び展示替え作業 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 日上 日	59	池内一誠	タイ	23年1月26日~2月1日		他機関負担
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	60	原田あゆみ	タイ	23年1月26日~2月9日		海外展経費
63 鳥越俊行 タイ 23年2月10日~2月17日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 理 64 秋山純子 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 同上 65 雄村真之 タイ 23年2月2日~3月7日 同上 他機関負担 66 原田あゆみ タイ 23年3月8日~3月10日 大化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 理・撤収 海外展経費 67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 限員旅費 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 同上 同上 他機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 平成2 4年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 職員旅費 職員旅費 70 川畑憲子 中国 同上 同上 同上 71 志賀智史 中国 フ3年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 職員旅費 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する地機関連 一機関連 一機関連	61	藤田励夫	タイ	23年2月5日~2月12日		同上
63 鳥越俊行 タイ 23年2月10日~2月17日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 理 64 秋山純子 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 同上 65 雄村真之 タイ 23年2月2日~3月7日 同上 他機関負担 66 原田あゆみ タイ 23年3月8日~3月10日 大化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 理・撤収 海外展経費 67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 限員旅費 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 同上 同上 他機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 平成2 4年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 職員旅費 職員旅費 70 川畑憲子 中国 同上 同上 同上 71 志賀智史 中国 フ3年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 職員旅費 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する地機関連 一機関連 一機関連	62	川畑憲子	タイ	23年2月5日~2月12日		同上
64 秋山純子 タイ 23年2月15日~2月24日 同上 同上 65 進村真之 タイ 23年2月22日~3月7日 同上 他機関負担 66 原田あゆみ タイ 23年3月5日~3月20日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 に関する協議 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 同上 一位機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 中成 2 4 年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 協力・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・財産・	63				文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管	
65 進村真之 タイ 23年2月22日~3月7日 同上 他機関負担 66 原田あゆみ タイ 23年3月5日~3月20日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 に関する協議 68 赤司善彦 韓国 同上 同上 他機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 平成24年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 協力 協議・打ち 協力 をわせ 職員旅費 70 川畑憲子 中国 同上 同上 同上 71 志賀智史 中国 フェス・第月12日~3月19日 東外展経費 東外展経費 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 東・撤収 国上 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月30日 総画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する協議 他機関負担 76 赤司善彦 中国 23年3月28日~3月30日 定更新等に関する協議 定更新等に関する協議 正統画を中心とする美術工芸資料に及ります。 で流する大学術文化交流協議・学術文化交流協議・学術文化交	64	利山姉子	タイ	23年2日15日~2日24日		□ ⊦
66 原田あゆみ タイ 23年3月5日~3月20日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新 院関する協議 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 同上 一世機関負担 一世人機関負担 一世人機関負担 一世人機関負担 一世人人人会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社会社					· ·	
67 小泉惠英 韓国 23年3月8日~3月10日 長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新に関する協議 職員旅費 68 赤司善彦 韓国 同上 他機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 平成24年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち局力せ 職員旅費 70 川畑憲子 中国 同上 同上 同上 同上 71 志賀智史 中国 同上 同上 同上 同上 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管海外展経費 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 総画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する協議・打ち場内で、江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協定更新等に関する協議・打ち場合わせ、 1日上					文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管	
68 赤司善彦 韓国 同上 一世機関負担 69 三輪嘉六 中国 23年3月10日~3月13日 平成24年度特別展馬王堆展(仮称)開催に係る調査・協議・打ち 職員旅費 70 川畑憲子 中国 同上 同上 同上 71 志賀智史 中国 同上 同上 同上 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 理・撤収 海外展経費 理・撤収 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のためる基礎の表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表	67	小泉惠英	韓国	23年3月8日~3月10日	長期借用の見直し、百済展、文化庁海外展、学術文化交流協定更新	職員旅費
70 川畑憲子 中国 月上 同上 同上 71 志賀智史 中国 同上 同上 同上 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	68	赤司善彦	韓国	同上	同上	
71 志賀智史 中国 同上 同上 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 理・撤収 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 会基礎的研究のため る基礎的研究のため る基礎的研究のため る基礎的研究のため を要素・学術文化交流協 定更新等に関する協議 個個県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協 定更新等に関する協議 同上						
71 志賀智史 中国 同上 同上 72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 理・撤収 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 会基礎的研究のため る基礎的研究のため る基礎的研究のため る基礎的研究のため を要素・学術文化交流協 定更新等に関する協議 個個県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協 定更新等に関する協議 同上	70	川畑憲子	中国	同上	同上	同上
72 坂元雄紀 タイ 23年3月12日~3月19日 文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管 海外展経費 73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉恵英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためを更新等に関する協議 他機関負担 76 赤司善彦 中国 23年3月28日~3月30日 福岡県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協定更新等に関する協議 同上	71	志賀智中	中国	同上		
73 末兼俊彦 タイ 23年3月12日~3月20日 同上 同上 74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のため、 福岡県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協定事業・学術文化交流協定の表現を表現を表現を表現している。					文化庁海外展「日本とタイーふたつの国の巧と美」に係る文化財管	
74 小泉惠英 タイ 23年3月12日~3月21日 同上 75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎的研究のためる基礎の対象が表現である。 他機関負担 76 赤司善彦 中国 23年3月28日~3月30日 福岡県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協定判断等に関する協議 同上	73	末兼俊彦	タイ	23年3日12日~3日20日		同上
75 藤田励夫 中国 23年3月18日~3月23日 絵画を中心とする美術工芸資料にみる琉球王国の港湾と船舶に関する基礎的研究のため 他機関負担る基礎的研究のため 76 赤司善彦 中国 23年3月28日~3月30日 福岡県・江蘇省友好提携締結20周年事業・交流事業・学術文化交流協定更新等に関する協議 同上						
76 株田	/4	小永思央	メイ	23年3月12日~3月21日		
	75	藤田励夫	中国	23年3月18日~3月23日	る基礎的研究のため	他機関負担
// 畑靖紀 中国 同上 一				, ,, ,, ,,	定更新等に関する協議	
	17	畑靖紀	中国	同上	同上	海外展経質

【東京文化財研究所】延べ146人

	ネホス [127] 20 1 10 1 10 1 1 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
	氏名	用務先	期間	用務	備考		
1	友田正彦	スリランカ	4月4日~13日	ユネスコ信託基金事業新規案件検討のための調査			
2	有村 誠	イギリス	4月12日~23日	第7回国際西アジア考古学会(7th ICAANE)参加			
3	山内和也	カザフスタン	5月7日~15日	カザフスタンにおける地下探査ワークショップの打合せおよび実施 予定の遺跡の下見			
4	影山悦子	タジキスタン	5月16日~6月22日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復			
5	友田正彦	ベトナム	5月17日~22日	ユネスコ信託基金タンロン皇城遺跡の保存に関わる現地調査および 打合せ			
6	石﨑武志	ベトナム	同上	同上			
7	島津美子	タジキスタン	5月23日~6月15日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復			
8	森井順之	韓国	5月27日~30日	石造文化財着生生物除去方法に関する指導助言			
9	山内和也	ドイツ、 タジキスタン	5月29日~6月11日	ドイツ: 2010年度のバーミヤン調査の打合せ タジキスタン: タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修 復			
10	岡田 健	中国	5月30日~6月8日	シルクロード人材育成プログラム準備作業			

	氏名	用務先	期間	用務	備考	
	2011	7119376	791H1	「東アジアを形づくる: 比較文化の視覚から近代東アジア美術の成立	C. mu	
11	山梨絵美子	台湾	6月6日~9日	への再考」2010国際学者シリーズ講座での講演と国立台湾美術館での台湾近代絵画調査		
12	二神葉子	カンボジア、 タイ	6月7日~13日	アンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席、アンコー ル遺跡での現地調査および文化省芸術局との研究打合せ		
13	中山俊介	ドイツ	6月14日~21日	在外日本古美術品(絵画)保存修復協力事業のための海外修復		
14	宮田繁幸	フランス、 タイ	6月20日~30日	フランス:無形文化遺産条約第3回締約国総会出席 タイ:文科省受託事業の今年度タイ国関係者打合せ		
15	七海由美子	フランス	6月20日~26日	無形文化遺産保護条約関連会合		
16	松山直子	フランス	同上	同上		
17	山内和也	トルコ	6月20日~29日	カッパドキア遺跡の保存修復事業のための予備ミッション。遺跡の視察と現地関係者との打ち合わせ。		
18	鈴木 環	トルコ	同上	同上		
19	北野信彦	カンボジア	6月28日~7月2日	出光文化福祉財団調査・研究事業助成費で申請している東南アジア地域の海外現地調査		
20	友田正彦	モンゴル	6月28日~7月3日	建造物の保存修復計画に関する研修ワークショップ		
21	秋枝ユミイザベル	モンゴル	同上	同上		
22	俵木 悟	韓国	6月28日~7月8日	「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書に基づく研修		
23	中山俊介	ドイツ	7月7日~13日	平成22年度在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画の海外修復 工房に於ける第1回目修復作業の監督および2回目のワークショップ打合せ		
24	田代亜紀子	インドネシア	7月9日~13日	第6回文化遺産東アジア会議および文化に関するアセアン会議参加		
25	原本知実	インドネシア	7月9日~13日	第7回文化遺産東アジア会議および文化に関するアセアン会議参加		
26	山内和也	アフカ゛ニスタン	7月9日~30日	「バーミヤン遺跡の保護」事業のミッション参加		
27	有村 誠	アフカ゛ニスタン	同上	同上		
28	安倍雅史	アフカ゛ニスタン	同上	同上		
29	松山直子	モンゴル	7月12日~23日	無形文化遺産保護活動の調査		
30	宮田繁幸	タイ	7月18日~22日	ユネスコバンコク事務所主催「a regional consultation meeting on "Intangible heritage beyond borders"出席		
31	二神葉子	アメリカ、 ブラジル	7月21日~8月6日	アメリカ: 文化財保護制度関連資料収集 ブラジル: 第34回世界遺産委員会出席		
32	松山直子	中国	8月6日~10日	生態博物館会議出席		
33	友田正彦	ベトナム	8月8日~14日	コネスコ信託基金タンロン皇城遺跡の保存に関わる現地調査および 打合せ		
34	中野照男	中国	8月8日~19日	チベット族雪頓節における仮頭調査		
35	岡田 健	中国	8月12日~9月11日	シルクロード人材育成プログラム、敦煌芸術の科学的復原研究ー壁画 材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチー		
36	清水真一	中国	8月15日~17日	シルクロード人材育成プログラム		
37	原田 怜	アメリカ	8月17日~26日	被災文化遺産復旧に係る調査		
38	島津美子	中国	8月17日~29日	ギジル千仏洞、敦煌莫高窟の壁画調査のため		
39	二神葉子	モンゴル	8月18日~28日	モンゴル国立文化遺産センターの専門家を対象とした石質文化財の 保存に関する現地ワークショップの開催		
40	北野信彦	モンゴル	同上	同上		
41	秋枝エミイザベル	モンゴル	8月18日~28日	建造物の保存管理計画ワークショップおよび保存修復調査研修		
42	清水真一	モンゴル	同上	同上		
43	友田正彦	モンゴル	同上	同上		
44	高桑いづみ	韓国	8月23日~28日	大韓民国国立文化財研究所での研修		
45 46	松山直子 有村 誠	韓国 アルメニア	8月25日~28日 9月5日~24日	無形义化財保護活動の調査 アルメニアに於ける考古学調査実施		
47	鈴木 環	インド	9月8日~10月2日	「インド・アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業 - 第4 次ミッション」へ参加し、壁画の保存修復に向けたドキュメンテーションの実施		
48	山内和也	インド	9月9日~16日	「インド・アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業」に関する打合せ		
49	島津美子	インド	同上	同上		
50	二神葉子	モンゴル	9月14日~21日	エルデニ・ゾー寺院の保存に関する現地調査		
51	岡田 健	中国	9月18日~22日	シルクロード人材育成プログラム運営		
52	石﨑武志	トルコ	9月19日~10月1日	国際文化財保存学会(IIC) 大会参加およびイスタンブールのハギア・ ソフィアの環境調査		
53	安倍雅史	ウズベキスタン	9月21日~10月4日	ウズベキスタンに於ける文化遺産保存修復技術実技講習講師		
54	松山直子	マレーシア	9月22日~10月1日	無形文化遺産保護活動関連国際会議の出席および現地調査		
55	中山俊介	ドイツ	9月28日~10月6日	平成22年度在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画の海外修復 工房に於ける第2回目修復作業およびワークショップの監督		
56	原田 怜	オランダ、フランス	9月28日~10月6日	被災文化遺産復旧に係る調査		
57	早川典子	ドイツ	10月3日~8日	在外日本古美術品(絵画)の海外修復工房における修復およびワークショ ップ		
58	加藤雅人	ドイツ	10月3日~19日	同上		
59	影山悦子	タジキスタン	10月3日~11月2日	タジ・キスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復およびワークショップ 開催		
60	友田正彦	ベトナム	10月5日~11日	タンロン一ハノイ1000年記念国際学術シンポジウムへの参加		

	氏名	用務先	期間	用務	備考
61	石﨑武志	韓国	10月7日~9日	韓国文化財保存科学会第32回大会にて研究発表	
62	森井順之	韓国	10月7日~9日	韓国文化財保存科学会における発表	
63	俵木 悟	韓国	10月9日~12日	韓国民族芸術祝祭現地調査	
64	島津美子	タジキスタン	10月10日~11月2日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復およびワー クショップ開催	
65	川野邊 渉	ドイツ	10月11日~21日	平成22年度在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画の海外修復 工房に於ける第2回修復作業およびワークショップの監督、ケルンに おける工芸の海外修復工房における修復作業の監督	
66	亀井伸雄	ドイツ	10月11日~21日	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ及び修復作業視察、ならびにドイツ技術博物館及びケルン東洋美術館との合意書締結 等	
67	山内和也	ウス゛ヘ゛キスタン、カサ゛フ スタン、 キルキ゛スタン、 タシ゛キスタン	10月11日~30日	ウズベキスタン:遺跡保存に関する会議出席 カザフスタン:カザフスタン考古学研究所において打ち合わせおよび遺跡調査 キルキ゚スタン:キルギス考古学研究所において打ち合わせおよび遺跡調査 タジキスタン:タジキスタン国立古代博物館においてワークショップ開催	
68	中山俊介	ドイツ	10月12日~22日	平成22年度在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画の海外修復 工房に於ける第3回修復作業およびワークショップの監督、ケルンに おける工芸の海外修復工房における修復作業の監督	
69	井手真二	ドイツ	10月13日~21日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係るドイツ技術博物館及びケ ルン東洋美術館との合意書締結等	
70	秋枝ユミイザベル	インドネシア	10月15日~22日	「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」における現地の状況調査およびワークショップ・専門家招へい準備の打ち合わせ	
71	山梨絵美子	台湾	10月17日~21日	共同調査報告書刊行のための調査成果および報告書内容についての 協議と追加調査	
72	城野誠治	台湾	10月17日~21日	李唐「万嶽松風図」の調査成果および報告書内容についての協議、追 加調査	
73	鳥光美佳子	台湾	同上	同上	
74	清水真一	インドネシア	10月17日~22日	「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復 興支援(専門家交流)事業」における現地の状況調査およびワークショップ・専門家招へい準備の打ち合わせ	
75	田代亜紀子	インドネシア	同上	同上	
76	岡田 健	中国	10月17日~30日	シルクロード人材育成プログラム、敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
77	石﨑武志	中国	10月24日~27日	シルクロード人材育成プログラム	
78	七海由美子	中国	10月25日~27日	芸術教育と無形文化遺産保護に係る中国主催ASEAN会議出席	
79	二神葉子	イタリア、オーストリア	10月25日~11月4日	イタリア:被災文化遺産復旧に係る調査および文化財保護制度 オーストリア:文化財データベースに関する資料収集	
80	吉田直人	中国	10月27日~29日	シルクロード人材育成プログラム	
81	岡田 健	中国	11月7日~13日	シルクロード人材育成プログラム、敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	
82	七海由美子	中国	11月11日~14日	文化観光に係る国際会議	
83	松山直子	ケニア共和国	11月12日~21日	第5回無形文化遺産保護条約政府間委員会会議出席	
84	中山俊介	ドイツ	11月12日~12月1日	ト・イツ:平成22年度在外 工芸の海外修復工房におけるワークショップ・監督	
85	宮田繁幸	ケニア共和国	11月13日~21日	第5回無形文化遺産保護条約政府間委員会会議出席	
			** ** **		
86	城野誠治	台湾	11月14日~17日	「文化財専門デジタル撮影ワークショップ」の実施	
87	鳥光美佳子	台湾	同上	同上	
88 89	友田正彦 鈴木 環	インド	11月14日~17日	JICA依頼による耐震建築人材育成プロジェクト参加 「インド・アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業一第6次ミッション」へ参加し、インド考古局と共同で、壁画の保存修復にむけた調査を行う	
90	島津美子	インド	同上	同上	
91	山内和也	カザフスタン	11月16日~20日	国際シオジウム「Ancient and Medieval Uebanization of Euraasia and Development of Almaty city」への参加	
92	飯島 満	韓国	11月22日~28日	「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書に基づく研修	
93	二神葉子	カンボジア、タイ	11月22日~12月4日	カンボジア:アンコール遺跡での現地調査およびアンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席 タイ:チャンタナプリー、アユタヤ、スコータイでの現地調査および文化省芸術局との打ち合わせ	
94	岡田 健	中国	11月23日~27日	日中韓国共同シルクロード沿線文化財保護人員育成プログラム	
95	北野信彦	タイ	11月28日~12月2日	タイ国内における17世紀代の漆文化財に関する調査	
96	山内和也	インド	11月28日~12月4日	「インド・アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業一第8次ミッション」へ参加し、インド考古局と共同で、壁画の保存修復にむけた調査を行う	
97	朽津信明	タイ	11月29日~12月2日	共同研究打ち合わせおよびいが造遺跡の劣化状況調査	
98	友田正彦	ベトナム	11月29日~12月4日	14以1信託基金タンロン皇城遺跡の保存に関わる現地調査	
99	石﨑武志	ベトナム	同上	同上	
100	清水真一	ベトナム	11月29日~12月4日	タンロン皇城遺跡に関する保存管理計画調査および協議	
101	宮田繁幸	タイ	12月1日~9日	International Drum Festival in Celebration of H.M. the King's Birthday Anniversary参加およびタイ国ランパン県無形文化遺産調査	
		.	10.000 0.0	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究および第4回東アジア	
102	岡田 健	中国	12月3日~8日	紙文化財保存修理シンポジウム参加	

	氏名	用務先	期間	用務	備考	
104	加藤雅人	中国	12月5日~9日	第4回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム「古代紙文化財の修理」 への参加、成果発表		
105	森井順之	韓国	12月6日~8日	日韓共同研究発表会への参加、講演および日韓共同研究打ち合わせ		
106	北野信彦	カンボジア	12月6日~10日	カンボジア国内における17世紀代の漆文化財に関する調査		
107	秋枝ユミイザベル	インドネシア	12月11日~17日	「インドネシア西スマトラ州バダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」における現地ワークショップ参加、打合せ		
108	亀井伸雄	中国	12月14日~18日	日中韓国共同シルクロード沿線文化財保護人員育成プログラム終了 記念シンポジウム出席、発表および修了式出席		
109	清水真一	中国	同上	同上		
110	岡田 健	中国	同上	同上		
111	清水真一	インドネシア	23年1月4日~10日	「インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」における現地ワークショップ講義		
112	亀井伸雄	インドネシア	23年1月5日~10日	同上		
113	松山直子	フィリピン	23年1月10日~14日	無形文化財保護活動の調査		
114	土屋貴裕	アメリカ	23年2月1日~11日	在北米日本中世絵画調査		
115	中山俊介	ドイツ	23年2月2日~9日	平成22年度在外日本古美術品保存修復協力事業 絵画の海外修復工 房に於ける第3回目修復作業および納品		
116	山内和也	アルメニア	23年2月7日~13日	協力相手国調査		
117	有村 誠	アルメニア	同上	同上		
118	邊牟木尚美	アルメニア	同上	同上		
119	原本知実	アルメニア	同上	同上		
120	石﨑武志	ドイツ、 トルコ	23年2月7日~17日	ドイツ:文化財の保存環境に関するワークショップ参加 トルコ:イスタンブールのハギア・ソフィアの環境調査		
	松山直子	タイ、ラオス	23年2月7日~24日	無形文化遺産関連国際会議出席および無形文化遺産保護活動の現地 調査		
122	岡田 健	中国	23年2月11日~16日	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究		
123	島津美子	アメリカ	23年2月13日~20日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の有機成分分析		
124	清水真一	ベトナム	23年2月13日~20日	タンロン皇城遺跡に関する建築学的研究のための、出土遺物等の調査		
125	中野照男	中国	23年2月13日~21日	ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術 に関する研究		
126	原本知実	ミクロネシア連邦	23年2月17日~25日	協力相手国調査		
127	邊牟木尚美	ドイツ	23年2月19日~26日	ドイツにおける文化遺産保護の人材育成実施機関調査		
128	友田正彦	ベトナム	23年2月19日~26日	タンロン皇城遺跡に関する現地調査、専門家協議参加及び関係打合せ 等		
129	影山悦子	タジキスタン	23年2月19日~3月8日	タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画の保存修復		
130	山内和也	タジキスタン、 カザフスタン、 フランス、イギ リス	23年2月19日~3月9日	タジキスタン:タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復 カザフスタン:カザフスタン考古研究所と次年度の事業打合せ フランス:ユネスコ日本信託基金事業に関する打合せ、バーミャン遺跡の保存に関する会議出席および共同研究打合せ イギリス:「アフガニスタン古代世界の十字路」展視察		
131	宮田繁幸	タイ、 マレーシア	23年3月2日~8日	タイ:タイ国関係者協議 マレーシア:NEACH セミナ"documentetion and safeguarding of Intangible Cultural Heritage"出席		
132	亀井伸雄	フランス、スイス	23年3月8日~15日	近代文化遺産の保存と修復に関するフランスとスイスに於ける現地調査		
133	川野邊 渉	フランス、スイス、ト゚イツ	23年3月8日~18日	近代文化遺産の保存と修復に関するフランスとスイスに於ける現地調査およびクカルン東洋美術館に於ける作品調査		
134	中山俊介	フランス、スイス、ト゛イツ	同上	同上		
135	加藤雅人	1917、 F* 17	23年3月10日~18日	国際研修「紙の保存と修復」の運営に関する会議および修復現場視察		
136	田中 淳	韓国	23年3月11日~13日	「美術研究」400号、「美術史論壇」30号記念 日韓共同シンポジウム		
137	勝木言一郎	韓国	同上	同上		
138	津田徹英	韓国	同上	同上		
139	塩谷 純	韓国	同上	同上		
140	皿井 舞	韓国	同上	同上		
141	土屋貴裕	韓国	同上	同上		
142	綿田 稔	韓国、ドイツ	23年3月11日~20日	韓国:「美術研究」400号、「美術史論壇」30号記念 日韓共同 シンポジウム ドイツ:在外古美術品保存修復協力事業(絵画)		
143	江村知子	韓国、ドイツ、 アイルランド	23年3月11日~24日	韓国:「美術研究」400号、「美術史論壇」30号記念 日韓共同 シンポジウム ドイツ:在外古美術品保存修復協力事業(絵画) アイルランド:日本絵画および資料の調査		
144	島津美子	ドイツ	23年3月13日~24日	アジア美術館所蔵のキジル壁画石窟資料の調査		
145	中野照男	ト゛イツ、イギ リス、フラン ス	23年3月14日~24日	在外日本古美術品保存修復協力事業予備調査・研究交流の打合せ		
146	田中 淳	ト゛イツ、イキ゛リス、フラン ス	同上	同上		

【奈良文化財研究所】延べ162人

	氏名 用務先 期間 用務					
1	加藤 真二	中国	4月23日~5月5日	夏期企画展のための資料調査および科研費の研究分担者として海外 調査	運営費交付金:展示科研費:基盤A松藤和人	
2	森川 実	中国	4月23日~5月2日	夏期企画展のための資料調査	運営費交付金:展示	
3	森本 晋	スペイン	4月4日~4月13日	国際学会「考古学におけるコンピュータの応用と数量的方法」 CAA2010) 出席と発表	運営費交付金: 32190	
4	城倉 正祥	中国	4月19日~6月10日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城の共同研究	運営費交付金:32820 国際研究協力事業費	
5	井上 和人	アメリカ	4月28日~5月3日	れゴン大学アジア太平洋学センター主催「東アジア都市としての奈良」 講演	先方負担:オレゴン大学	
6	中村 一郎	中国	5月7日~5月14日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城の共同研究	運営費交付金:32820 国際研究協力事業費	
7	鈴木 智大	中国	5月1日~5月10日	中華人民共和国山西省の古代建築調査	科研費:若手B鈴木	
8	森本晋	カザフスタン	5月7日~5月15日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録関連ドキュメンテーション事業 の予備調査	運営費交付金:33580 国際研究協力事業費	
9	国武 貞克	カザフスタン	同上	同上	同上	
10	金田 明大	カザフスタン	同上	同上	同上	
11	小野 健吉	台湾	5月15日~5月19日	台湾における庭園調査	京都大学大学院研究経 費	
12	鈴木 智大	カンボジア	5月28日~6月5日	西トップ寺院の調査研究	運営費交付金:32800 国際協力研究費	
13	大林 潤	カンボジア	同上	同上	同上	
14	島田 敏男	カンボジア	同上	同上	同上	
15	石村 智	カンボジア	5月28日~6月10日	西トップ寺院の調査研究と国際調整委員会参加	運営費交付金:32800 国際協力研究費	
16	脇谷 草一郎	ベトナム	5月17日~5月22日	タンロン皇城遺跡保存に係る現地調査参加	先方負担:東京文化財 研究所	
17	高妻 洋成	ベトナム	同上	同上	同上	
18	清水 重敦	民国	5月26日~5月29日	韓国国立文化財研究所主催『弥勒寺シンポジウム』への参加	先方負担:韓国国立文 化財研究所	
19	森本晋	ドイツ・タジキ スタン	5月29日~6月11日	バーミヤン遺跡保護ユネスコ専門家会議出席・シルクロード世界遺産 登録支援事業関連現地踏査	運営費交付金:33580 国際研究協力費	
20	杉山 洋	カンボジア	6月22日~7月6日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800	
21	小池 伸彦	中国	6月21日~6月23日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研 究」に関する協議	運営費交付金:33600 国際共同研究	
22	加藤 真二	中国	同上	同上	同上	
23	小野 健吉	フランス	7月7日~7月18日	フランスにおける庭園等の調査	京都大学大学院研究経 費	
24	庄田 慎矢	韓国	6月20日~6月24日	科学研究費補助金による調査	科学研究費:藤田尚	
25	田辺 征夫	中国	7月26日~8月2日	社会科学院考古研究所創立60周年記念シンポジウム出席	運営費交付金: 32820	
26	平澤 毅	ブラジル	7月23日~8月7日	第34回世界遺産委員会出席	運営費交付金: 32030	
27	丹羽 崇史	中国	7月26日~8月2日	社会科学院考古研究所創立60周年記念シンポジウム出席	運営費交付金: 32820	
28	森本 晋	アフガニスタン	7月9日~7月30日	バーミヤン遺跡保護に係る現地調査	運営費交付金:335 80	
29	高妻 洋成	台湾	7月25日~7月29日	台湾伝統建築壁画及び絵画の保存状況現地調査ならびに保存科学研 究と技術の交流及び講演	先方負担:台湾行政院 文化建設委員会	
30	森先 一貴	ロシア	8月1日~8月16日	ロシア・アムール川下流域における遺跡の発掘調査	他機関科研費:東大 大貫	
31	庄田 慎矢	韓国	7月25日~7月31日	科学研究費補助金による調査	科学研究費:基盤 B	
32	島田 敏男	ベトナム	9月19日~9月23日	ベトナム社会主義共和国ドゥオンラム村国家文化財指定5周年祭参加・講演	他機関負担:学術研究 振興資金(昭和女子大 友田博通)	
33	庄田 慎矢	カンボ・ジ・ア・タイ	8月12日~8月19日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800	
34	石村 智	ブラジル	7月23日~8月8日	第34回世界遺産委員会出席・情報収集	運営費交付金: 33620	
35	石村 智	フィジー	7月15日~7月21日	平成22年度文部科学省「国際協力イニシアティブ」への協力	他機関負担:同志社女子大学	
36	番光	カンホ゛シ゛ア・タイ	8月12日~8月19日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800	
37	加藤 真二	中国	8月21日~8月28日	河北省泥河湾での調査	他機関科研費:同志社 大学松藤和人	
	杉山 洋	カンボジア	8月11日~9月6日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800	
38		カンボ・ジ・ア・タイ	8月12日~8月19日	同上	同上	
38 39	大林 潤		8月19日~8月26日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金: 32820	
	大林 潤 城倉 正祥	中国	0,1101 0,1201		国際研究協力事業費	
39		中国中国	同上	同上	国際研究協力事業費同上	
39 40	城倉 正祥			同上 河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査		
39 40 41	城倉 正祥 芝 康次郎	中国	同上		同上 運営費交付金: 32810	

	ŀ	5名	用務先	期間	用務	備考
45	箱崎	和久	ベトナム	9月12日~9月22日	ベトナム社会主義共和国ドンナイ省フーホイ村・フェ省フクテック村 の集落調査および類例調査	他機関負担:学術研究 振興資金(昭和女子大 友田博通)
46	海野	聡	ベトナム	9月12日~9月23日	同上	同上
47	深澤	芳樹	中国	9月10日~9月17日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
48	小田	裕樹	中国	9月10日~9月18日	同上	同上
49	高妻	洋成	モンゴル	8月17日~8月28日	7ラシャーン・ハダ、セルベンハールガー両遺跡における石造文化財の保存のための 現地調査	東京文化財研究所
50	田村	朋美	モンゴル	同上	同上	同上
51	加藤	真二	ロシア	9月16日~9月27日	科学研究費補助金による国際シンポジウム出席と研究発表	科学研究費:加藤真二
52	玉田	芳英	中国	9月10日~9月18日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
53	松本	将一郎	ベトナム	9月12日~9月23日	ベトナム社会主義共和国ドンナイ省フーホイ村・フェ省フクテック村 の集落調査および類例調査	他機関負担:学術研究 振興資金(昭和女子大 友田博通)
54	田村	朋美	韓国	9月1日~9月3日	大韓民国出土ガラス製遺物の調査および情報収集	科学研究費:田村朋美
55	石村	智	フィジー	8月31日~9月6日	フィジーにおける考古学的遺跡の踏査	科学研究費:若手B
56	降幡	順子	中国	9月10日~9月18日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
57	森先	一貴	ロシア	9月18日~9月25日	国際シンポジウム「北東アジアの大陸および島嶼地域における人類の 初期居住について」への参加、および研究発表	科学研究費:森先一貴
58	丹羽	崇史	中国	9月22日~9月26日	The Tongling Symposium on the Bronze Civilization 2010 に参加	科学研究費: 丹羽崇史
59	中村	亜希子	中国	9月10日~9月18日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
60	松井	章	韓国	9月7日~9月10日	貝塚の発掘調査方法の指導と出土動物遺存体についての研究指導	先方負担:ウリ文化財 研究院
61	平澤	毅	マレーシア	9月12日~9月19日	マラッカ及びジョージタウンの保存管理に関する現地調査等	他機関科研費:鳥取環 境大学 張漢賢
62	森本	晋	フランス	9月20日~9月27日	国際学会「考古文化遺産に関するヴァーチャルリアリティー」に出席	運営費交付金:32190 国際研究協力事業費
63	高妻	洋成	中国	9月8日~9月10日	日中韓共同シルクロード沿線文化財保護人材プログラム講師	東京文化財研究所
64	加藤	真二	カザフスタン・ タジキスタン	10月12日~10月30日	シルクロード地域の旧石器時代遺物の調査	文化財保護・芸術研究 助成財団助成金: 32120
65	小野	健吉	韓国	10月20日~10月22日	忠南大学校百済研究所主催学術会議「東アジア古代宮城の後苑」への 出席と発表	先方負担:韓国忠南大 学校百済研究所
66		洋成	台湾	9月17日~9月20日	台湾伝統建築壁画及び絵画の保存状況現地調査ならびに保存科学研 究と技術の交流及び講演	先方負担:台湾行政院 文化建設委員会
67	芝原	東次郎	中国	10月21日~11月2日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金:32820 国際研究協力事業費
68	城倉	正祥	中国	10月21日~12月24日	同上	同上
69	国武		カザフスタン・ タジキスタン	10月12日~10月30日	旧石器時代遺物を中心とする博物館収蔵考古資料の調査	運営費交付金: 33580 国際研究協力事業費
70	森本		カザフスタン・タジキスタン	同上	同上	文化財保護・芸術研究 助成財団助成金:39120
71	加藤		中国	12月11日~12月23日	科学研究費による中国細石刃石器群の調査	科学研究費: 加藤真二
72	森先		ロシア	10月21日~10月31日	ロシア連邦沿海州ハサン地区におけるグヴォズデヴォ 5 遺跡の発掘 調査	科学研究費: 森先一貴
73	杉山		カンボジア	11月11日~12月23日	文化庁委託業務「カンポジア・ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業」	委託業務経費:350612
74		東次郎	中国	12月11日~12月23日	科学研究費による中国細石刃石器群の調査	科学研究費: 加藤真二
75	松井		ラオス	11月2日~11月11日	ラオスにおける家畜、家禽の調査	科学研究費: 松井章
76	金田	明大	カンボジア	11月26日~12月3日	文化庁委託業務「カンポジア・ウドン遺跡およびロンヴェック遺跡等の保存に関する拠点交流事業」	委託業務経費:350612
77	次山		韓国	11月19日~11月21日	韓国三国時代における出土貨幣および関連資料の調査	科学研究費:20320126
78	石田	由紀子	韓国	同上	同上	同上
79	青木	敬	韓国	11月19日~11月21日	韓国・扶余地域の都城関連遺跡の現地踏査および資料見学	科学研究費: 21720294
80	小田 井上	裕樹 幸	中国	同上 10月29日~10月31日	同上 東アジア日本語教育日本文化研究学会で発表	同上 渡航費:科学研究費
82	井上	和人	韓国	12月8日~12月10日	国際学術会議「益山歴史遺跡地区の世界遺産的価値の糾明」に出席・	滞在費:私費 先方負担
92	古事	学品	カンボジア	11月14日~11月19日	講演 アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800
83 84		洋成 草一郎	カンボジア	同上	アンコール又化遺産保護に関する研究協力 同上	理宮賀父付金: 32800 同上
85	肠 田村	界一郎 朋美	カンボジア	同上	同上	同上
86		洋成	韓国	11月1日~11月5日	International conference on Conservation Ethics for Rational Decision—making: Dialogue between the East and	
					the Westにて招待講演	
87	清水	重敦	韓国	11月2日~11月4日	日中韓国際シンポジウム「ソウル、北京、東京」への参加	先方負担

	E	氏名	用務先	期間	用務	備考
88	降幡	順子	カンボジア	11月14日~11月19日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800
89	渡邉	晃宏	韓国	10月26日~10月30日	国立羅州文化財研究所開所5周年記念国際学術大会への参加・報告	先方負担
90	田代	亜紀子	インドネシア	11月20日~11月28日	西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業への協力	東京文化財研究所
91	深澤	芳樹	韓国	11月9日~11月13日	国立慶州文化財研究所が主催する国際学術シンボジウム「韓国の都城」への出席	先方負担
92	諫早	直人	韓国	同上	同上	同上
93	森本	晋	カンボジア	11月24日~11月27日	アンコール歴史遺跡保存開発国際調整委員会出席	運営費交付金: 32800
94	森本	晋	香港	11月29日~12月5日	太平洋近隣友好協会年次大会「デジタルコンテンツから知識資産へ」に出席発表	科学研究費:基盤研究 (C)
95	井上	直夫	カンボジア	12月6日~12月13日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800
96	岡田	愛	カンボジア	同上	同上	同上
97	紅林	孝彰	カンボジア	12月7日~12月12日	同上	同上
98	今井	晃樹	中国	12月13日~12月24日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城における共同調査への参加	運営費交付金:32820 国際研究協力事業費
99	松井	章	中国	12月12日~12月16日	田螺山遺跡出土の動物遺存体の調査	科学研究費: 松井章
100	高妻	洋成	ベトナム	11月29日~12月3日	タンロン皇城遺跡保存にかかる現地調査に参加	東京文化財研究所
101	脇谷	草一郎	ベトナム	同上	同上	同上
102	高妻	洋成	台湾	12月5日~12月8日	2010文化資産国際検討会にて招待講演	先方負担
103	若杉	智宏	韓国	11月29日~12月28日	国立慶州文化財研究所との発掘調査交流への参加	渡航費:運営費交付金:33600 国際研究協力 滞在費:先方負担
						慶州文化財研究所
104	栗山	雅夫	中国	12月13日~12月24日	中国社会科学院考古研究所との漢魏洛陽城における共同調査への参加	運営費交付金:32820 国際研究協力事業費
105	難波	洋三	中国	12月13日~12月17日	同上	同上
106	箱崎	和久	中国	12月10日~12月19日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査、および中国における八角塔に関する調査・研究	運営費交付金:35510 科学研究費: 箱崎和久
107	鈴木	智大	中国	12月10日~12月13日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	運営費交付金: 35510
108	箱崎	和久	ベトナム	12月23日~12月31日	ベトナム社会主義共和国ドンナイ省フーホイ村・フェ省フクテック村 の集落調査および類例調査	運営費交付金: 35510
109	北山	夏希	中国	12月10日~12月13日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	他機関負担:学術研究 振興資金(昭和女子大 友田博通)
110	井上	麻香	中国	12月10日~12月13日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	運営費交付金: 35510
111	黒坂	貴裕	ベトナム	12月23日~12月31日	ベトナム社会主義共和国ドンナイ省フーホイ村・フェ省フクテック村 の集落調査および類例調査	他機関負担:学術研究 振興資金(昭和女子大 友田博通)
112		亜紀子	ベトナム	11月29日~12月3日	タンロン皇城遺跡保存にかかる現地調査に参加	東京文化財研究所
113	芝质	東次郎	韓国	1月26日~1月30日	韓国旧石器時代遺跡出土資料の調査	科学研究費: 芝康次郎
114	加藤	真二	韓国	1月26日~1月30日	旧石器時代遺跡出土資料の調査	科学研究費: 加藤真二
115	加藤	真二	中国	3月8日~3月15日	南京博物院所蔵細石器、関連資料の調査	科学研究費: 加藤真二
116	中村	亜希子	中国	1月9日~1月16日	韓代中国東北地域での出土瓦に関する調査	笹川研究助成金
117	庄田	慎矢	中国	1月9日~1月16日	「古代東アジアと日本の蒸し調理」にかかわる調査	三島海雲記念財団
118	森先	一貴	韓国	1月26日~1月30日	旧石器時代遺跡出土資料の調査	科学研究費: 加藤真二
119	清水	重敦	フランス・イタ リア	12月22日~1月2日	フランス・イタリアにおける都市景観と歴史的建造物の変容に関する 調査研究	京都大学大学院研究経 費
120	田代	亜紀子	インドネシア	1月1日~1月8日	インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興 支援(専門家交流)事業への協力	東京文化財研究所
121	田代	亜紀子	ベトナム	1月16日~1月22日	タンロン皇城遺跡保存への協力	東京文化財研究所
122	井上	幸	中国	12月28日~12月31日	資料収集	科学研究費
123	井上	和人	ベトナム	1月16日~1月20日	ハノイ、タンロン皇城発掘調査支援	東京文化財研究所
124	石村	智	アメリカ	1月8日~1月16日	ビショップ博物館にてカヌー資料の調査	他機関負担: 神奈川大学日本常民文 化研究所
125	石村	智	ベトナム	1月23日~1月29日	タンロン皇城遺跡保存支援国際協力	東京文化財研究所
	石村	智	フィジー	1月30日~2月4日	平成22年度文部科学省「国際イニシアティブ」への協力	他機関負担: 同支社女子大学
126		順子	イタリア	1月17日~1月22日	日伊文化財協力事業に係わる壁画修復と活用に関するワーウショップへの 参加	文化庁
126 127	降幡	70C 3				
	降幡 小野	健吉	アメリカ	3月8日~3月16日	コロンピ、ア大学との研究交流協議、セントラルバークおよびインデ、4ペ、ンデ・ンス国立公園の調査	運営費交付金: 32050
127 128			アメリカカンボジア	3月8日~3月16日 2月9日~2月14日		運営費交付金: 32050 運営費交付金: 32800
127	小野	健吉			園の調査	

	Е	氏名	用務先	期間	用務	備考
132	松井	章	韓国	2月24日~2月27日	貝塚の発掘調査方法の指導と出土動物遺存体についての研究指導	先方負担
133	玉田	芳英	カンボジア	2月9日~2月14日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32800
134	菊池	大樹	中国	2月26日~3月4日	王家地遺跡発掘調査資料整理	科研費:宮本一夫
135	深澤	芳樹	カンボジア	2月9日~2月14日	共同研究「環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究」のため の調査	他機関負担:神奈川大 学日本常民文化研究所
136	田辺	征夫	カザフスタン・ ウズベキスタン	2月25日~3月2日	カザフ国立大学と奈良文化財研究所の間における研究協力合意書調 印式並びに関連する行事への参加	運営費交付金: 33580
137	若杉	智宏	韓国	2月14日~2月18日	日中韓共同研究に係る資料調査および研究交流協約書の協議のため	運営費交付金:33600 国際共同研究費
138	廣瀬	覚	韓国	同上	同上	同上
139	青木	敬	韓国	同上	同上	同上
140	石橋	茂登	韓国	2月14日~2月16日	同上	同上
141	杉山	洋	ベトナム	1月16日~1月29日	タンロン皇城遺跡保存支援国際協力	東京文化財研究所
142	深澤	芳樹	韓国	3月15日~3月19日	(財)中部考古学研究所主催による「海外著名学者招聘講演会」に講師として出席	先方負担:財団法人 中部考古学研究所
143	庄田	慎矢	韓国	同上	同上	同上
144	永井	あつ子	カンボジア	2月9日~2月14日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金: 32600
145	森本	串	カザフスタン・ ウズベキスタン	2月25日~3月9日	カザフ国立大学と奈良文化財研究所の間における研究協力合意書調印式並びに関連する行事への参加,および「バーミヤン専門家会議」出席ならびにアフガニスタン考古資料の調査	運営費交付金: 33580
146	青木	達司	中国	2月13日~2月21日	中華人民共和国の史跡・名勝・古典庭園調査	運営費交付金: 32050
147	田代	亜紀子	フランス・イギ リス	2月28日~3月9日	「バーミヤン専門家会議」出席、バーミヤン関連資料調査およびアフガニスタン考古資料の調査	運営費交付金: 33580
148	松井	章	アメリカ	3月14日~3月23日	カリフォルニア大学バークレー校、ネブラスカ大学リンカーン校にて研究討議、資料収集	科学研究費
149	森川	実	カサ゛フスタン・ウス゛へ゛キ スタン	2月25日~3月2日	カザフ国立大学と奈良文化財研究所の間における研究協力合意書調 印式並びに関連する行事への参加	運営費交付金: 33580
150	国武	貞克	カサ゛フスタン・ウス゛へ゛キ スタン	同上	同上	同上
151	田代	亜紀子	ベトナム	2月23日~2月26日	タンロン皇城遺跡保存事業への協力	東京文化財研究所
152	北山	夏希	韓国	2月27日~3月2日	第一次大極殿院復元にかかる類例の調査	運営費交付金: 35510
153	井上	麻香	韓国	同上	同上	同上
154	海野	聡	韓国	同上	同上	同上
155	箱崎	和久	韓国	同上	同上	同上
156	丹羽	崇史	中国	3月14日~3月20日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
157	小野	健吉	韓国	3月26日~3月30日	韓国における庭園等の現地調査	京都大学大学院研究経 費
158	石村	智	ミクロネシア	2月17日~2月24日	ナンマドール遺跡保護の国際協力	文化遺産国際協力コン ソーシアム
159	石田	由紀子	中国	3月14日~3月20日	河南省・陝西省における唐三彩ならびに関連資料の調査	運営費交付金:32810 国際研究協力事業費
160	若杉	智宏	中国	同上	同上	同上
161	馬場	基	中国	3月13日~3月18日	長沙市出土木簡の調査	科学研究費:角谷常子 (奈良大学)
162	石村	智	中華民国・パラ オ	2月26日~3月7日	台湾・バラオにおける先史オーストロネンア集団関連の調査・バラオにおける戦争 遺跡の調査	科学研究費・高梨学術 奨励基金

c-② 調査研究テーマ一覧

	国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
ĺ		86件	39件	19件	9件	19件
	137件	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究(東京・茶	(食文化財研究所)
		51件	21件	29件	14	件

【東京国立博物館】 計39件

〇有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

1 収蔵品・客括品及び関連品に関する調査研究 2 特別課金工業的 第2回 学芸研究部 第2回		別が大に対い収集・保官・公衆・の既見にかかる調査・明九	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
2 特別調査法隆寺縣納宝物(第22次)「聖徳太子絵伝」第6回 学芸研究部 結画・影別室長 田沢裕實 学芸研究部 岩南川野路 「雲山 学芸研究部 長名弘幸 14 特別調査「宝山 学芸研究部 岩面 学芸研究部 調査研究理工業・考古室長 竹内奈美 15 特別調査「江戸幕府御用絵師長名家関係資料」 学芸研究部 緑画 形別室長 田沢裕質 学芸研究部 2 芸研究部	1			
特別調査 「重加」 第3回				
4 特別調査「工業」第2回 6 特別調査「工業」第2回 6 特別調査「江戸幕府御用絵節板合家開係資料」 7 配慮の漢籍・洋書に関する基礎的研究 7 和慮の漢籍・洋書に関する基礎的研究 7 和慮の漢籍・洋書に関する基礎的研究 7 和慮の漢籍・洋書に関する基礎的研究 9 東洋民族資料に関する研究 9 東洋民族資料に関する経験的研究 13 目録学の構築とて海外の構造とは関する経動の研究 14 原三渓旧蔵近代絵画・影剣に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 14 原三渓旧蔵近代絵画・影剣に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 15 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目相した包括的保存システムの研究(科学研究教 神経保護 16 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究 「「主意院製」を中心に一(科学研究費補助金) 9 芸研究部 17 文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 19 対野時川院操復業「法隆寺什物図」の研究(科学研究費補助金) 19 対野時川院操復業「法隆寺什物図」の研究(科学研究費補助金) 20 東アジアの書道史に対ける基礎の研究 (科学研究費補助金) 21 市国市の兼食に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 22 清時代末郷の防中調査における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 22 清時代末郷の防中調査における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 23 古領別の教育政策における国立教館の研究・報告の場合の研究(科学研究費補助金) 24 高延工法院関する物質文化的研究 ―生活感のある工業史の構築をめざして ―科学研究費補助金) 25 近現代における古日本緑地の経験の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 26 東京国立博物館所蔵日本経験 神経の経験の経験に関する副産研究 (科学研究費補助金) 26 東京国立博物館所蔵日本経典の研究・工芸の場合の研究・科学研究費補助金) 27 東京田立博物館所蔵日本経典 神経の経験の保護・研究・科学研究費補助金) 28 研究部 28 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制金 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制度 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 20 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 21 清明の保護・対域の研究・大学研究教育制助会 22 清明の経験所属日大学研究教育制助会 23 古規の保護・技術の研究・大学研究教育制造 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 29 東京田立神物館所蔵日本技術の研究・大学研究教育制助会 29 東京研究部 神物館教育日本・オールー・オールー・オールー・オールー・オールー・オールー・オールー・オール				
5 特別調査金地再組の金箔地についての調査研究・尾形光琳風神雷神屏風を中心に 学芸研究部 絵画・彫刻室長 田沢裕賀 7 知識の漢籍・洋書に関する基礎的研究				
6 特別調査「江戸幕府的用絵師松容潔関係資料」				
7 節蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究				
8 博物館の環境保存に関する研究 9 東洋民族資料に関する調査研究 10 油彩画の材料・技法に関する共同調査 27 安芸研究部 37 安芸研究部 37 安芸研究部 37 安芸研究部 38 神経の構造と古典学の再生(科学研究養植助金) 48 藤原守衛「女」の石膏原型とプロンズ鋳造に関する共同研究 47 安芸研究部 48 神経 信奉 47 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究(科学研究養植助金) 48 高度な電元作来のための制作空間の情報と「科学研究養植助金) 48 高度な電元作来のための制作空間の情報と「科学研究養植助金) 47 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院製」を中心に―(科学研究養補助金) 48 高度な電元作来のための制作空間の情報と「科学研究養植助金) 49 大田・東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院製」を中心に―(科学研究養補助金) 47 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院製」を中心に―(科学研究養補助金) 47 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院製」を中心に―(科学研究養補助金) 47 東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・大田・東京田・西・東京田・西・大田・東京田・西・東京田・東京田・西・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田・東京田				
9 東洋民族資料に関する調査研究 10 油彩画の材料・技法に関する共同調査 11 萩原中衛「女」の石膏原型とプロンズ鋳造に関する共同研究 12 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究 13 日韓学の構築と古典学の再生(科学研究養補助金) 14 原三渓日蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究養補助金) 15 補物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費 補助金) 16 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究・「正倉院製」を中心に一(科学研究費補助金) 学芸研究部 特任研究員 澤田むつ代 17 文化保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 19 狩野崎川院養信章「法陸寺代物図」の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 20 東アジアの書造史における料紙と書風に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 ア原香機 22 清時代末期の訪中調査における写真質料に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 調査研究課長 富田淳 22 清時代末期の訪中調査における写真質料に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 調査研究課長 富田淳 23 占領験の教育政策における国主体験館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 調査研究課長 富田淳 24 宮廷工芸に関する物質文化的研究—生活感のある工芸史の構築をめざして— (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館衛育課 神込知加 25 近現代における古日本絵機の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 神込知加 26 東京国立博物館所蔵印館データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 神込知加 26 東京国立博物館所蔵印館データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 神込配介課 第五研究課 「華研館情報課 関紀子 27 東京国立博物館所蔵印館データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 和田浩 28 原治時代の仏舎利信仰と荘厳に関する制造の研究、特別の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 29 前が登口関係は他議を眺めの研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 29 前が登口関係は一部での経験と装成の研究・経費の研究 保存修復課 和田浩 31 医剤に対している調査研究 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 32 京グアの木地螺暦・その源の土に直院・大田の原と「科学研究費補助金) 学芸研究部 明査管理課 落集兼成 学芸研究部 明本の部代課表 第五研究 保存修復課 和語復 学芸研究部 明本の部代課表 第五研究 保存修復課 和語復 学芸研究部 博物館情報課 和語復 学芸研究部 明本の部代課表 第五研究 学芸研究部 明本の部代課表 第五研究 学芸研究部 博物館情報課 和語復 学芸研究部 博物館情報課 和語復 学芸研究部 博物館情報課 本語の書 東本 作本 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 和語 学芸研究部 博物館情報課 本語 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 和語復 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館所護 (科学のアの本学研究費補助金) 学芸研究部 博物館所護 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館所護 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館所護 (科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館所護 (科学のアの本学研究費補助金) 学芸研究 原本研究 原本研究 (科学研究費補助金) 学研究の書館 (科学研究費補助金) 学芸研究 (科学研究費補助金) 学芸研究の第二体の研究 (科学研究費補助金) 学芸研究の第二体の研究 (科学研究費補助金) 学芸研究の第二体の研究 (科学研究費補助金) 学芸研究 (科学研究費補助金) 学芸研究の第二体の研究 (科学の究育権の研究 (
10 誠影画の材料・技法に関する共同調査				
11				
日本における木彫像の樹種と用林観に関する調査研究 学芸研究部 特任研究員 金子啓明 日録学の構築と古典学の再生 (科学研究費補助金) 学芸研究部 書跡・歴史室長 田良島 哲相 原東に関連な体に適・彫刻に関する基礎的研究 科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課長 神庭 信奉 神助館 神助館 神郎館 古書 神郎館 神郎 神郎				
13 目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金)				
14 原三渓旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金)				
博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費 学芸研究部 保存修復課長 神飯 信奉 補助金) 学芸研究部 保存修復課長 神飯 信奉				
16 補助金				
7 文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金)	15	補助金)		
18 高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金)	16			
20 東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金)				
東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究(科学研究費補助金)				
21 中国書画の表装に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 調査研究課長 富田淳 22 清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 23 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 神辺知加 24 金) 学芸研究部 学芸研究部 伊芸研究部 伊芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 25 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 伊芸研究部 調査研究課 高梨真行 26 東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 27 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 28 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装領形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 32 アジアの木地螺鈿一その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 介品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 34 日本近世実景図研究 学芸企画部 学芸研究部 列品管理課 大橋美織 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 36 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 28 位版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究				
22 清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究(科学研究費補助金)				
23 占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館教育課 神辺知加 宮廷工芸に関する物質文化的研究―生活感のある工芸史の構築をめざして―(科学研究費補助 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 対品管理課 猪熊兼樹 25 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 「特物館情報課 関紀子 28 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 和田浩 29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究: 常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 学芸の表部 保存修復課 日高慎 学芸の表部 中物館情報課長 高橋裕次 京本書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 7ジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 海に管理課 猪熊兼樹 羽に管理課 河内晋平 学芸研究部 学芸の書 「対路管理課 本近世実景図研究 学芸企画部 企画課 木下史青 本近世実景図研究 学芸企画部 「学芸企画部 「学芸企画部 「神物館教育に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 今井敦 「神物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 今井敦 「神物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 十上 洋― 世神の館の資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 井上 洋― 世別の資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 井上 洋― 世別の資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長 井上 洋― 世別の資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 「神物館教育課長・生きののスタールプログライ・ハンズオントロークを				
24 宮廷工芸に関する物質文化的研究―生活感のある工芸史の構築をめざして―(科学研究費補助 学芸研究部 別品管理課 猪熊兼樹 金) 近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 企画課 小山弓弦葉 26 東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 27 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 和田浩 29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 27 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 オト洋ー 32 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 34 日本近世実景図研究 学芸企画部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸の場所の第(科学研究費補助金)学芸の第(財育研究課 大橋美織 25 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 企画課 木下史青 36 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 オ田良二 企画課長 井上 洋一 地郷館名利 なのよのに会場管理を開発・体持会のアクターにプログラ (アン・グエン・レア・クロ・ア・ブログラ (ア・ア・フィ・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	22			
24 金)	23		学芸研究部	博物館教育課 神辺知加
26 東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 調査研究課 高梨真行 27 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 28 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 和田浩 29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 32 アジアの木地螺鈿一その源流、正倉院宝物への道をたどる一(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 34 日本近世実景図研究 学芸研究部 学芸研究部 河島管理課 河内晋平 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 中物館教育課長 今井敦 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 博物館教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアム・カースクールプログライ・アンズオントロークを	24		学芸研究部	列品管理課 猪熊兼樹
27 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課 関紀子 28 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 和田浩 29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 31 彫刻におけるデジタル立体通形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 32 アジアの木地螺鈿一その源流、正倉院宝物への道をたどる一(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 34 日本近世実景図研究 学芸の研究 学芸の研究 学芸の研究部 学芸研究部 学芸研究部 学芸ので部 別品管理課 「内晋平 第1 「特物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 学芸企画部 「博物館教育に関する調査研究 学芸企画部 「博物館教育課長 今井敦 学芸企画部 「博物館教育に関する調査研究 学芸企画部 「博物館教育課長 十田良二 企画課長 井上 洋一	25	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	企画課 小山弓弦葉
28 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 和田浩 29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 企画課長 井上洋一 32 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 労芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 34 日本近世実景図研究 学芸研究部 学芸研究部 学芸研究部 河島管理課 大橋美織 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 学芸企画部 博物館教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究	26	東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課 高梨真行
29 前方後円墳体制東縁地域における国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究費補助金) 学芸研究部 保存修復課 日高慎 30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 企画課長 井上洋一 32 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 33 高精細デジタル別定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 学芸ので説 「調査研究課 大橋美織 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 企画課 木下史青 36 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 学芸企画部 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 世級節名科と表の作家 第12 「本学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学	27	東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金)	学芸研究部	博物館情報課 関紀子
30 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 博物館情報課長 高橋裕次 31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 企画課長 井上洋一 32 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 対土が出て、	28	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課 和田浩
31 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 学芸研究部 企画課長 井上洋一 7ジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 7 日本近世実景図研究 学芸研究部 学芸研究部 河島管理課 河内晋平 7 日本近世実景図研究 学芸企画部 学芸企画部 企画課 木下史青 7 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 7 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 2 位画課長 井上 洋一 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	29		学芸研究部	
32 アジアの木地螺鈿―その源流、正倉院宝物への道をたどる―(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 猪熊兼樹 33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 34 日本近世実景図研究 学芸研究部 調査研究課 大橋美織 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部 学芸企画部		古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金)		博物館情報課長 高橋裕次
33 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金) 学芸研究部 列品管理課 河内晋平 34 日本近世実景図研究 学芸研究部 調査研究課 大橋美織 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 企画課 木下史青 36 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究 学芸企画部 企画課長 井上 洋一	31			
34 日本近世実景図研究 学芸研究部 調査研究課 大橋美織 35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 企画課 木下史青 36 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアム・シアム・サースを対象を含まった。ロスタールプログライーのグライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライーのグライン・アイライン・アイライン・アイライン・アイライン・アイライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライーのグライン・アイフル・プログライーのグライーのグライン・アイフル・プログライーのグライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライーのグライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・プログライン・アイフル・アイフル・アイフル・アイフル・アイフル・アイフル・アイフル・アイフル				
35 博物館環境デザインに関する調査研究 学芸企画部 企画課 木下史青 36 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・ジアム・	33	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究(科学研究費補助金)		列品管理課 河内晋平
36 博物館美術教育に関する調査研究 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦 37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二 28 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究 学芸企画部 企画課長 井上 洋一 全部 全部 全部 全部 全部 全部 全部 全		日本近世実景図研究		
37 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 学芸企画部 博物館情報課 村田良二				
38 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究 学芸企画部 企画課長 井上 洋一 排物館をみんなのものに会習学院実用者・生活へのスカールプログライ・ハンブナンとロークシ	36		学芸企画部	博物館教育課長 今井敦
博物館をみたたのものに、祖常陪宝田竜・生往へのスカールプログラナー ハンブナントローカシ	37	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究		
博物館をみんなのものに~視覚障害児童・生徒へのスクールプログラム- ハンズオンとワークシ	38		学芸企画部	企画課長 井上 洋一
39 ヨップを中心に 学芸企画部 博物館教育課長 今井敦	39	博物館をみんなのものに〜視覚障害児童・生徒へのスクールプログラム- ハンズオンとワークショップを中心に	学芸企画部	博物館教育課長 今井敦

【京都国立博物館】 計19件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

•	加入自然的依然 体音 五水 的就免已2000 的 自 例记		
	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究	学芸部	考古室長 宮川禎一
2	鎌倉仏教とその造形に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
3	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金)	学芸部	館長 佐々木 丞平
4	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 (科学研究費補助金)	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
5	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長 村上 隆
6	文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究)	学芸部	保存修理指導室長 村上 隆
7	近世絵画に関する調査研究	学芸部	連携協力室長 山下 善也
8	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
9	彫刻に関する調査研究	学芸部	主任研究員 淺湫 毅
10	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室長 尾野善裕
11	近代建築に関する調査研究	学芸部	文化財管理監 中村 康
12	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長 久保智康
13	特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けて、寺院所蔵品の調査研究を行う。	学芸部	主任研究員 山川 曉
14	特別展覧会「中国の書画」に向けて、旧上野コレクションと関連作品の調査研究を行う。	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
15	特別展観「上田秋成」の開催に向けて、日本近世文学会と共同で調査研究を行う。	学芸部	アソシエイトフェロー 水谷 亜希
16	特集陳列「園田湖城」の開催に向けて、篆刻資料の調査研究を行う。	学芸部	上席研究員 赤尾栄慶
17	特別展覧会「法然」の開催に向けて、浄土宗寺院所蔵文化財の調査研究を行う。	学芸部	列品管理室長 若杉準治
18	特別展覧会「細川家の至宝」(平成23年度)の開催に向けて永青文庫と共同で関連作品の調査研究を行う	学芸部	主任研究員 淺湫 毅
19	特別展覧会「中国近代絵画(仮)」(平成23年度)の開催に向けて、旧須磨コレクションと 関連作品の調査研究を行う。	学芸部	学芸部長 西上 実

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

【奈良国立博物館】 計9件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	南部諸諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	学芸部	学芸部長 西山 厚
2	仏教美術の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究)	学芸部	学芸部長 西山 厚
3	仏教美実写真収集及びその調査研究	学芸部	資料室長 宮崎幹子
4	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	学芸部	学芸部長 西山 厚
5	当館所蔵品についての調査研究(客員研究員)	学芸部	学芸部長 西山 厚
6	奈良時代の仏教美術と東アジア世界	学芸部	館長湯山賢一
7	統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金)	学芸部	工芸考古室員 岩戸晶子
8	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「大遣唐使展」、「仏像修理100 年」、「至宝の仏像」及び特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」、「お水取り」に反映させる	学芸部	学芸部長 西山 厚
9	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部 で名品展の充実を図る	学芸部	学芸部長 西山 厚

【九州国立博物館】 計19件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

<u> </u>	形文化財の収集・保官・公衆への観見にかかる調査・研究		
	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長 小泉 惠英
2	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	環境保全室長 今津 節生
3	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	保存修復室主任研究員 志賀 智史
4	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課	博物館科学課長 本田 光子
5	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCOとの共同)	博物館科学課	保存修復室長 藤田 励夫
6	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築(科学研究費補助金)	企画課	文化交流展室長 河野 一隆
7	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術(科学研究費補助金)	文化財課	文化財課長 臺信 祐爾
8	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究	企画課	主任研究員 畑 靖紀
9	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金)	博物館科学課	保存修復室主任研究員 志賀 智史
10	X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析(科学研究費補助金)	博物館科学課	環境保全室長 今津 節生
11	アジアの木地螺鈿-その源流、正倉院宝物への道をたどる-(科学研究費補助金)	文化財課	資料管理室長 小林 公治
12	五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究(科学研究費補助金)	企画課	研究員 市元 塁
13	海の東アジアが醸成した貝と漆の文化'螺鈿'の再発見ーその共通性と多様性を探るー(トヨタ 財団研究助成)	文化財課	資料管理室長 小林 公治
14	平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を 受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう	学芸部	学芸部長 伊藤 嘉章
15	京都、九州における黄檗宗寺院に関する調査を進め、成果を特別展に反映する	展示課	主任研究員 楠井 隆志
16	日本、韓国、中国における馬文化に関する考古遺品、美術作品に関する調査を進め、成果を特別 展に反映する	企画課	文化交流展室長 河野 一隆
17	中国内蒙古自治区出土の遼時代に属する考古遺物に関する調査研究を進め、成果を特別展に反映する	企画課	研究員 市元 塁
18	細川家伝来資料に関する調査を行なう	文化財課	主任研究員 丸山 猶計
19	九博に関連する絵本の次シリーズの企画について検討する	企画課	研究員 市元 塁

【東京文化財研究所】計21件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(5件)

	OVERNIT-INIT OFFICE OFFICE COLLY				
	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)		
1	民俗技術に関する調査・資料収集・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(I4(1)④と一体で実施)	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 宮田繁幸		
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長 塩谷 純		
3	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部	近現代視覚芸術研究室長 山梨絵美子		
4	美術の技法・材料に関する広領域的研究	企画情報部	広領域研究室長 綿田 稔		
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 宮田繁幸		

〇文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(2件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長 津田徹英
2	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進(9件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	文化財の生物劣化対策の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志
3	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
4	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
5	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
6	国際研修「紙の保存と修復」	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
7	在外日本古美術品保存修復協力事業	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長 中山俊介
9	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技 術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究(4件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)		
1	文化財保存施策の国際的研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長 岡田 健		
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	主任研究員 朽津信明		
3	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長 岡田 健		
4	敦煌壁画の保護に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長 岡田 健		

〇諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発(1件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	諸外国の文化財保存修復専門家養成	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長 清水真一

【奈良文化財研究所】計29件

〇文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(21件)

	O文に対に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(21件)				
	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)		
1	文化的景観に関する調査研究	文化遺産部	文化遺産部長 小野健吉		
2	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長 吉川聡		
3	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長 島田敏男		
4	平城宮跡東院地区(第469次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
5	西大寺旧境内(第473次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
6	薬師寺(第474次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
7	薬師寺(第475次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
8	薬師寺(第476次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
9	春日東塔跡 (第477次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
10	平城宮跡東方官衙地区(第466次)の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
11	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長 深澤芳樹		
12	飛鳥地域の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長 深澤芳樹		
13	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
14	飛鳥・藤原京・平城京などの古代都城の解明に資するために、古代官衙、集 落遺跡に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
15	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長 深澤芳樹		
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓 国との共同研究	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		
17	庭園に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長 平澤毅		
18	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究	飛鳥資料館	学芸室長 加藤真二		
19	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長 平澤毅		
20	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並 びに監視技術の開発的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 高妻洋成		
21	文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活 用に関する専門的・技術的な援助・助言	都城発掘調査部 平城地区	副所長 井上和人		

〇文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(4件)

-	OF THE MAN OF THE CAME OF THE CAME				
	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)		
1	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅		
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅		
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長 大河内隆之		
4	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長 松井章		

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進(1件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 高妻洋成

〇国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施(2件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)	
1	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及 び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長 深澤芳樹	
2	国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線 の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長 深澤芳樹	

〇文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究(1件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、 保存科学的調査	企画調整部	国際遺跡研究室長 杉山 洋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計1件

〇文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究(1件)

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 (役職・名前)
1	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長 山内和也

(参考) 受託研究一覧

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
50件	18件	32件	

【東京文化財研究所】計18件

<u> </u>	ペパン にかいたい コード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	担当部課
1	回車が元 / 一×石 日本/ユネスコパートナーシップ事業 アジア太平洋地域無形文化遺産保護活動の調査研究(受託)	無形文化遺産部
1	ロース・コート・アーフラン事業 アンケス十十七項票が入れ。固定体設力到の調査研究(支託) 初期洋風画の光学調査(受託)	
	11 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	企画情報部
3	GEMによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー(受託)	保存修復科学センター
4	国指定史跡高瀬石仏保存修理設計監理業務(受託)	保存修復科学センター
5	霧島神宮における彩色剥落薄止めの手法開発及び施工監理(受託)	保存修復科学センター
6	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務(受託)	保存修復科学センター
7	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務(受託)	保存修復科学センター
8	ユネスコ/日本信託基金 バーミヤーン遺跡の保護プロジェクト(受託)	文化遺産国際協力センター
9	インドネシア西スマトラ州パダンにおける歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業(受託)	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産国際協力コンソーシアム事業(受託)	文化遺産国際協力センター
11	文化遺産国際協力拠点交流事業 インド(受託)	文化遺産国際協力センター
12	文化遺産国際協力拠点交流事業 モンゴル(受託)	文化遺産国際協力センター
13	文化遺産国際協力拠点交流事業 中央アジア(受託)	文化遺産国際協力センター
14	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズ1)にかかる国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター
15	日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術要員の育成プログラム(受託)	文化遺産国際協力センター
16	ユネスコ/日本信託基金 バクダードにあるイラク博物館の保存修復室の復興プロジェクト (受託)	文化遺産国際協力センター
17	ユネスコ/日本信託基金 タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業(受託)	文化遺産国際協力センター
18	関西大学博物館所蔵重要文化財附縄文土器破片および壷形土器破片の復元修理(受託)	保存修復科学センター

【奈良文化財研究所】計32件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存・整備に関する調査研究(受託)	文化遺産部
2	京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査(受託)	文化遺産部
3	相川地区文化的景観 景観変遷・景観構造調査(受託)	文化遺産部
4	「宇治の文化的景観」整備に伴う宇治橋通りの調査研究(受託)	文化遺産部
5	萬翠荘に係る学術調査(受託)	文化遺産部
6	倉見屋荻野家住宅調査(受託)	文化遺産部
7	平城京薬師寺旧境内の調査(資材置場北側搬入路)(受託)	都城発掘調査部(平城)
8	平城京薬師寺旧境内の調査(金堂周辺)(受託)	都城発掘調査部(平城)
9	薬師寺旧境内の発掘調査(休ヶ岡八幡神社境内地)(受託)	都城発掘調査部(平城)
10	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託(受託)	都城発掘調査部(平城)
11	天良七堂遺跡の総合的探査(受託)	埋蔵文化財センター
12	三軒屋遺跡総合的探査(受託)	埋蔵文化財センター
13	「発掘調査のてびき」作成に係る業務(受託)	埋蔵文化財センター
14	平成22年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務(受託)	埋蔵文化財センター
15	永保寺開山堂の年輪年代調査(受託)	埋蔵文化財センター
16	東名遺跡出土動物遺存体調査(受託)	埋蔵文化財センター
17	長割遺跡の動物遺存体調査(受託)	埋蔵文化財センター
18	六反田南遺跡IVにおける動物遺存体の同定(受託)	埋蔵文化財センター
19	田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存修理及び保存台作製(受託)	埋蔵文化財センター
20	宇治橋擬宝珠成分分析(受託)	埋蔵文化財センター
21	埋蔵文化財発掘調査に係る青銅器科学分析業務委託 (受託)	埋蔵文化財センター
22	土壌水分の蒸発による史跡ガランドヤ古墳石室内環境の変化に関する調査(受託)	埋蔵文化財センター
23	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(受託)	都城発掘調査部(藤原)
24	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務(受託)	都城発掘調査部(藤原)
25	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査(受託)	都城発掘調査部(藤原)
26	文化遺産国際協力拠点交流事業(受託)	企画調整部
27	(社) 奈良県看護協会第2センター(仮称)新築工事のための発掘調査 (受託)	都城発掘調査部(藤原)
28	大和紀伊平野農業水利事業(二期)に係る埋蔵文化財発掘調査(受託)	都城発掘調査部(藤原)
29	興福寺旧境内(奈良第1地方合同庁舎)の発掘調査(受託)	都城発掘調査部(平城)
30	小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究(受託)	都城発掘調査部(平城)
31	平城京跡 右京三条一坊十坪 西一坊坊間西小路の発掘調査(受託)	都城発掘調査部(平城)
32	朱雀大路緑地遺跡発掘調査(受託)	都城発掘調査部(平城)

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	111件	65件	9件	15件	22件
206件	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究(東京・	奈良文化財研究所)
	95件	43件	52件	0	件

【東京国立博物館】65件 ○右形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

〇有		・保管・公衆への観覧にかかる調		D#1	<u> </u>
	研究テーマ 収蔵品・寄託品及び	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	収慮品・奇託品及び 関連品に関する調査 研究	「辻が花」を考える ―「ことば」と技法を めぐる五○○年の歴史―	企画課特別展室主任研究員 小山弓弦葉	5月22日	服飾文化学会講演会
2	同上	太祖御真と日本の天皇像の比較	企画課特別展室主任研究員 沖松健次郎	10月7日	国立全州博物館 開館20 周年記念国際学術シンポ ジウム「朝鮮王室と全州 一朝鮮王朝の発祥地とし ての全州一」(韓国・国 立全州博物館)
3	同上	曾被認定為修内司窯作品的青瓷瓶	博物館教育課長 今井敦	9月28日	宋代官窯与官窯制度国際 学術研討会
4	同上	元青花の成立に関する試論	同上	12月4日	東洋陶磁学会平成22年度 第3回研究会
5	同上	日本・中国・朝鮮半島の料紙について	博物館情報課長 高橋裕次	12月18日	墨跡研究会
6	同上	徳川家康の甲冑	上席研究員 池田宏	6月5日	三井記念美術博物館
7	同上	有機質遺物の材質と保存―繊維―	特任研究員 澤田むつ代	10月20日	奈良文化財研究所・埋蔵文化財担当者専門研究
8	同上	藤ノ木古墳出土の織物から法隆寺の織物	同上	10月22日	国際シンポジウム「陵山 里出土遺物」(韓国・国立 扶餘博物館)
9	同上	松代藩真田家における婚礼用衣裳の実態	列品管理課登録室アソシエイトフェ ロー 佐々木佳美	5月23日	服飾文化学会 第11回大 会
10	同上	文化財の学校教育への活用にみる考古学的 課題	列品管理課登録室アソシエイトフェ ロー 及川穣	5月22~23日	日本考古学協会第76回総 会・研究発表
11	同上	茨城県ひたちなか市後野遺跡の研究(2)—B 地区出土細石器石器群の形成過程—	同上	同上	同上
12	同上	長野県鷹山遺跡群星糞峠黒耀石採掘址の研 究―地下採掘活動の起源を探るために―	同上	6月26~27日	日本旧石器学会第8回講 演・研究発表・シンポジウム
13	同上	諏訪湖底曽根遺跡と黒耀石原産地をめぐる 地域文化の形成過程	同上	10月2~3日	信州黒曜石フォーラム 2010・第20回長野県旧石 器文化研究交流会「中部 高地石材原産地と消費地 をめぐる諸問題」
14	同上	坂下報告「遺跡形成過程からみたナイフ形石 器文化」へのコメント―石器群形成過程研究 からのアプローチ―	同上	23年1月22~23 日	石器文化研究会設立25周 年記念シンポジウム「ナイフ形石器・ナイフ形石 器文化とは何か―概念と 実態を問い直す―」
15	同上	当麻曼荼羅縁起をめぐって	列品管理課平常展調整室研究員 瀬谷愛	6月12日	科研A大画面説話画の総合研究 第一回研究会 (学習院大学)
16	同上	住吉慶恩から住吉派へ	同上	12月28日	国際シンポジウム「近世 やまと絵再考」(国際文 化会館)
17	同上	古墳時代中期における甲冑出土古墳の意義	列品管理課列品情報整備室長 古谷毅	10月9日	東松山市埋蔵文化財セン ター 特別展示会「鉄製短 甲を探る」文化財講演会
18	同上	日本に現存する清朝宮蔵の拓本について~ 蘭亭図帖巻を例に~	調査研究課長富田淳	12月17日	故宮博物院「清宮蔵善本 碑帖特展」専題座談会
19	同上	室町・戦国期の関東争乱と下河辺庄-戸張 氏・匝瑳氏の動向	調査研究課書跡・歴史室主任研究員 高梨真行	6月5日	吉川市地域研究報告会 (第16回)
20	同上	兩個"趙令穰"—《秋塘圖》與《湖庄清夏圖》 接受的中日比較研究	調査研究課東洋室研究員 塚本麿充	11月16日	上海博物館千年丹青展學 術研討會
21	同上	皇帝の文物と北宋の社会―日本文物の交流 からの視点	同上	23年2月16日	東京大学東洋文化研究所 「21世紀アジアの研究」: アジアが見た日本 美術シンポジウム
22	同上	文化財としての古写真について	保存修復課保存修復室長冨坂賢	23年1月21日	江戸東京博物館
23	同上	Development of Oil Paintings in Japan and their Conservation.	保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子	11月5日	French-Japanese Workshop on Science for Conservation of Cultural Heritage (パ リ)
24	同上	茨城の古墳時代終末期と吉田古墳	保存修復課保存修復室主任研究員 日高慎	23年2月26日	水戸市教育委員会
25	同上	呉州手再考—中国漳州窯の発掘および近年 の研究成果に基づいて	保存修復課保存修復室研究員 三笠景子	9月25日	第 31 回貿易陶磁研究集 会
26	収蔵品・寄託品及び 関連品に関する調査 研究	油彩画の技法および材料に関する共同調査 一東京藝術大学と東京国立博物館の学術共 同調査—	保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子、保存修復課長 神庭信幸、 東京藝術大学 木島隆康、東京藝術大 学 鈴鴨富士子	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
	71707		保存修復課アソシェイトフェロー 鈴木晴彦、保存修復課アソシェイトフ	XIII	7
27	収蔵品・寄託品及び 関連品に関する調査 研究	紙資料の保全を目的とした機能的な展示用装丁の開発 - 多様な形態の紙資料に対応した展示に於いて-	京小晴彦、味仔修復謀アソシエイトフェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエイトフェロー 沖本明子、保存修復課課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会
28	同上	書見台の新案と活用例 -安全に展示するための工夫-	同上	同上	同上
29	同上	≪事例報告≫両界曼荼羅図(東京国立博物館 蔵)の解体修理について	同上	同上	同上
30	館蔵の漢籍・洋書に 関する基礎的研究	明治前期博物館における洋書の収集	調査研究課書跡・歴史室長 田良島哲	11月14日	アート・ドキュメンテー ション学会
31	博物館の環境保存に 関する研究	収蔵庫内の空気汚染物質に対する濃度指針 の検討	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課 環境保存室主任研究員 和田浩、保存 修復課環境保存室主任研究員 荒木 臣紀	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会
32	同上	阿修羅立像梱包箱の防振効果	保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩、保存修復課長 神庭信幸、特 任研究員 金子啓明、博物館情報課情 報管理室長 丸山士郎	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会
33	同上	阿修羅立像の梱包技術	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課 環境保存室主任研究員 和田浩、特任 研究員 金子啓明、博物館情報課情報 管理室長 丸山士郎	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会
34	博物館の環境保存に 関する研究	文化財安全輸送のための取組事例	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課 環境保存室主任研究員 和田浩	7月9日	第19回日本包装学会年次 大会
35	同上	文化財の輸送と包装・東京国立博物館における取り組み	保存修復課長 神庭信幸	11月18日	日本包装専士会様第20回 包装技術セミナー(東京)
36	同上	CAEシミュレーション解析による緩衝機材の 特性評価事例	│ │ 保存修復課長 神庭信幸、保存修復課 │ 環境保存室主任研究員 和田浩	12月7日	第48回全日本包装技術研究大会
37	博物館における文化 遺産の保全と持続的 公開を目指した包括 的保存システムの研 究(科学研究費補助 金S)	博物館における包括的保存システムの構築 に関する研究(II)	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩、保存修復課環境保存室主任研究員 荒木臣紀、保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子	6月12日~13日	文化財保存修復学会第32 回大会
38	同上	Toward the Establishment of a Guideline for the Concentration of Indoor Atmospheric Contaminants in Storages and Exhibition Rooms of Museums	保存修復課長 神庭信幸	6月23日	「資料保存と四大元素」 に関する国際会議 International Conference on "Preservation and the Four Elements" (北京)
39	同上	PRACTICE OF CONSERVATION OF THE TOKYO NATIONAL MUSEUM	保存修復課長 神庭信幸	9月29日	大エジプト博物館保存修 復センター講演(カイロ)
40	同上	PRIMARY CARE AND PRACTICE OF CONSERVATION	保存修復課長 神庭信幸	11月4日	French-Japanese Workshop on Science for Conservation of Cultural Heritage
41	同上	The new guideline for the concentration of indoor atmospheric contaminants in exhibition and storage rooms	保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩、保存修復課環境保存室主任研 究員 荒木臣紀、保存修復課保存修復 室主任研究員 土屋裕子、保存修復課 長 神庭信幸	同上	同上
42	同上	The effect of the dolly in global transport environment	保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩、保存修復課長 神庭信幸、保 存修復課環境保存室主任研究員 荒 木臣紀、保存修復課保存修復室主任研 究員 土屋裕子	同上	同上
43	同上	Measurement, assessment and improvement of RH with human cooperation at TNM	保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩、保存修復課環境保存室主任研 究員 荒木臣紀、保存修復課保存修復 室主任研究員 土屋裕子、保存修復課 長 神庭信幸	同上	同上
44	同上	What is remedial treatment? An approach to preventive conservation at the Tokyo National Museum.	同上	同上	同上
45	同上	Digital Radiography in the Field of Cultural Property Research: Present Situation and Issues	同上	同上	同上
46	博物館における文化 遺産の保全と持続的 公開を目指した包括 的保存システムの研 究(科学研究費補助 金S)	博物館における包括的保存システムの構築 に関する研究	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課環境保存室主任研究員 荒木臣紀、、保存修復課環境保存室主任研究員 刑田浩、保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子、保存修復課アンシエートフェロー 米倉乙世、保存修復課アソシエートフェロー 米倉次保存修復課アソシエートフェロー ホー 本明子、保存修復課環境保存室研究支援者 大場詩野子	11月24日~26 日	図書館総合展(横浜)
47	同上	PRACTICE OF CONSERVATION OF THE TOKYO NATIONAL MUSEUM	保存修復課長 神庭信幸	23年1月11日	Workshop of Louvre Museum on Practice of Conservation (パリ)
48	同上	An application of a new roller clamp for scrolls Toward an approach to Symptomatic treatment in conservation	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課 アソシエートフェロー 鈴木晴彦	同上	同上
49	同上	PRACTICE OF CONSERVATION OF THE TOKYO NATIONAL MUSEUM	保存修復課長 神庭信幸	23年1月13日	JSPS Seminar (ストラス ブー ル)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
50	東アジアの書道史に おける料紙と書風に 関する総合的研究 (科学研究費補助金 A)	古筆における伝統と創意	学芸研究部長 島谷弘幸	4月20日	日本書芸院展 記念講演会
51	同上	法華経信仰と高僧の書	学芸研究部長 島谷弘幸	8月7日	常楽寺
52	同上	書の伝統と将来	学芸研究部長 島谷弘幸	8月28日	白扇書道会50周年記念 講演会
53	同上	書の見方	学芸研究部長 島谷弘幸	9月5日	岡山県立博物館
54	同上	和様の成立と古筆の展開	学芸研究部長 島谷弘幸	9月11日	ふくやま美術館
55	同上	書の鑑賞と創造	学芸研究部長 島谷弘幸	10月31日	岡山国民文化祭(岡山文 化連盟)
56	同上	平家納経 一法華信仰と装飾経一	学芸研究部長 島谷弘幸	11月6日	広島市立大学
57	同上	家煕の「眼」と書	学芸研究部長 島谷弘幸	23年2月13日	「目録学の構築と古典学 の再生ー天皇家・公家文 庫の実態復明と伝統的知 識体系の解・一」(結学研 究費制成・学術創成研 究費)主催、陽明文庫講座
58	同上	伝統と創造	学芸研究部長 島谷弘幸	23年2月19日	現日書道会
59	博物館環境デザインに関する調査研究	ミュージアムと日本の美術 ―日本の美 術の魅力を引き出す展示	企画課デザイン室長 木下史青	11月20日	江東区森下文化センター・平成22年度前期講座〈 今に生きるアート2 うつくしい技の伝統〉
60	同上	展示デザインと[筋肉](仮)	同上	23年1月22日	日本美術解剖学会
61	博物館美術教育に関 する調査研究	東京国立博物館のスクールプログラムとワ ークショップ	博物館教育課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	11月9日	東京都中学校美術教育研 究会
62	同上	博物館教育勉強会(レズリー・ベッドフォー ド博士)企画・通訳	博物館教育課ボランティア室研究員 藤田千織	10月25日	文化庁文化財部美術学芸 課
63	博物館資料・業務の 情報処理に関する調 査研究	新しい「e国宝」について	博物館情報課情報管理室主任研究員 村田良二	6月13日	アート・ドキュメンテー ション学会2010年度年次 大会
64	同上	ミュージアム資料情報構造化モデル	同上	7月24日	南山大学 人類学博物館 情報部会シンポジウム 「博物館資料の文化資源 化」
65	同上	人文科学とコンピュータ研究を支える資料 を考える—MLAの立場から—	同上	23年1月22日	第89回人文科学とコンピ ュータ研究会

【京都国立博物館】9件 〇有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

〇有	〕 有形文化財の収集・保管・公 衆への観覧にかか る調査・研究						
	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名		
1	日本における木の造形的表現 とその文化的背景に関する総 合的考察	神像の出現 ―神像とは何か―	淺湫 毅(主任研究員)	10月31日	島根県神有月古代文化シ ンポジウム 神々の姿の 変遷		
2	文化財の保存・修復に関する 調査研究(奈良文化財研究所 との共同研究)	「京都国立博物館所蔵 初代飯塚桃葉 作 印籠の材質と製作技法」	保存修理指導室長· 村上 隆	6月14日	文化財保存修復学会		
3	同上	「熊本県下扇原遺跡出土ベンガラの キャラクタリゼーション ・・・ベン ガラ研究の新たな試みとして・・・」	同上	6月28日	日本文化財科学会		
4	同上	「中世の金精錬技術に関する科学調 査について ―長野県川上村梓久保 金山遺跡を中心に―」	同上	同上	同上		
5	文化財の保存・修復に関する 調査研究(奈良文化財研究所 との共同研究)	「地域と歴史文化遺産 一石見銀山 遺跡から考える一」	同上	9月4日	佐賀大学地域学歴史文化 研究センター主催:シン ポジウム「地域学と歴史 文化遺産」		
6	同上	「堂ヶ谷経塚のなぞに迫る」	同上	10月3日	財静岡県埋蔵文化財調査 研究所シンポジウム「平 安時代の祈りと願い」		
7	同上	「兵庫県入佐山古墳出土砂鉄のキャ ラクタリゼーション」	同上	11月9日	粉体粉末冶金協会		
8	同上	"Reevaluation of ancient red iron oxides excavated from archaeological sites"	同上	12月18日	Pacifichem2010		
9	出土・伝世古陶磁に関する調 査研究	東山61号窯(H-61号窯)・上向イ田 窯出土須恵器をめぐる諸問題	工芸室長・尾野善裕	7月31日	名古屋大学考古学研究室·歷史土器研究会·勢 濃尾研究会·東海土器研究会合同研究会		

【奈良国立博物館】 15件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

O 1							
	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名		
1	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	仏像の道としての鯖街道	稲本泰生(企画室長)	6月10日	第5回小浜市・若狭町文化 財ふれあいフォーラム 「鯖街道の多様な文化遺 産」		
2	奈良時代の仏教美術と東アジ アの文化交流	七〜八世紀の日本における『優塡王 像』の受容	稲本泰生(企画室長)	8月28日	日本宗教史懇話会サマー セミナー		
3	南都諸社寺等に関する計画的 な調査研究等	天平彫刻の魅力	岩田茂樹(美術室長)	8月21日	姫路市民教養講座		
4	奈良時代の仏教美術と東アジ アの文化交流	檀像の請来と日本的展開	鈴木喜博(上席研究員)	6月5日	国際シンポジウム「東ア ジアの造形芸術と遣唐使 の時代」		

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
5	奈良時代の仏教美術と東アジ アの文化交流	工芸技法からみた国産宝物の特徴	内藤 栄(工芸考古室長)	10月24日	正倉院学術シンポジウム 20 09 10
6	同上	遣唐使の時代	野尻 忠(主任研究員)	11月14日	奈良学セミナー
7	同上	遣唐使のもたらした技術―三彩を中 心として―	吉澤 悟(教育室長)	6月5日	国際シンポジウム「東ア ジアの造形芸術と遣唐使 の時代」
8	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	日本仏画入門	北澤菜月	23年1月26日	韓国国立慶州博物館公開 講座
9	同上	高麗と同時期の日本仏画について― 高麗仏画と共通する図像をもつ作品 を中心に	同上	10月28日	国際シンポジウム「東アジア 仏教絵画と高麗仏画」 (韓国国立中央博物館)
10	奈良時代の仏教美術と東アジ アの文化交流	延喜式にみる製紙工程	湯山賢一	5月	平成22年第2回文化財保 存交流セミナー
11	同上	写経と料紙	同上	7月	常楽寺美術館会館40周年 記念特別展記念講演会
12	南都諸社寺等に関する計画的 な調査研究等	古代の製紙	同上	7月	第60会法隆寺夏季大学
13	同上	和紙の歴史	同上	8月	國學院大學院友会大阪支 部夏季講座
14	奈良時代の仏教美術と東アジ アの文化交流	奈良の文化と正倉院宝物	吉澤 悟	10月25日	奈良市立一条高校
15	南都諸社寺等に関する計画的 な調査研究等	あの世の考古学―火葬墓を中心とし て―	同上	11月13日	帝塚山大学市民講座

【九州国立博物館】 22件 〇有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

〇月	形又化財の収集・保官	・公衆への観覧にかかる調査	∶●研究		
	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財の材質・構造等に関す る共同研究	国宝 初音の調度のX線CT調査(ポスター発表)	博物館科学課環境保全室長 今津節生、博物館科学課環境保全室主任研究員 鳥越俊行、企画課研究員 川畑憲子、徳川美術館 小池富雄氏、	6月12日・13日	文化財保存修復学会第32 回大会
2	同上	初音の調度のCT・レントゲン撮影およ び科学的分析	企画課研究員 川畑憲子	11月13日	徳川美術館特別展「国宝 初音の調度」特別企画 科研による公開シンポジ ウム「初音の調度の秘密」
3	同上	国宝辛亥銘(稲荷山)鉄剣のX線CT調 査	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月26日・27日	日本文化財科学会第二十 七回大会研究発表要旨集
4	文化財の材質・構造等に関す る共同研究	神秘に満ちた眼差し、興福寺・阿修羅 像をもっと身近に知る CTスキャナー による1270 年目の健康診断	博物館科学課環境保全室長 今津節生	11月5日	一般財団法人 デジタル 文化財創出機構
5	博物館における文化財保存修 復に関する研究	糖アルコール含浸法からの新たな展開 ―トレハロースを主剤とする出土木材保存法へ	同上	6月26日・27日	日本文化財科学会第二十 七回大会研究発表要旨集
6	博物館における文化財保存修 復に関する研究	博物館展示におけるデジタルデータ の活用	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月26日・27日	日本文化財科学会第二十 七回大会研究発表要旨集
7	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNES COとの共同)	韓日古経典の形態と料紙	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	11月20日	韓国仏教美術史学会
8	トルキ山遼墓出土品の保存修 復	内蒙古自治区吐爾基山 (トルキサン) 遼墓 出土彩色木棺の保存 3 一彩色のあ る棺台の保存修復一	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月12日・13日	文化財保存修復学会第32 回大会
9	トルキ山遼墓出土品から見た 唐滅亡後の東アジアにおける 工芸技術	トルキ山遼墓木製彩棺の保存修復	同上	12月18日	九州国立博物館国際シン ポジウム「契丹帝国(遼 王朝)の美術と文化」
10	同上	トルキ山古墓の鳳凰木棺と契丹文化	企画課研究員 市元塁	同上	同上
11	室町時代の仏教絵画を中心と する東アジアの宗教美術に関 する調査研究	室町水墨画における「写し」— 図様 と表現の観点から—	企画課主任研究員 畑靖紀	10月12日	"Utsushi: The Art of Copying," University of Hawaii at Manoa
12	同上	山水長巻と観音図―大作に込めた願 い	企画課主任研究員 畑靖紀	11月27日	雪舟研究会講演会(山口 県立美術館)
13	X線CTスキャナによる中国 古代青銅器の構造技法解析	殷周青銅器のCTスキャナ調査	博物館科学課環境保全室長 今津節生	6月26日・27日	日本文化財科学会第二十 七回大会研究発表要旨集
14	同上	X線CTスキャナを利用した殷時代 青銅斝の構造解析	同上	7月28日	アジア鋳造技術史学会、 島根県歴史博物館 International
15	海の東アジアが醸成した貝と 漆の文化'螺鈿'の再発見一 その共通性と多様性を探る一 (トヨタ財団研究助成)	Mother of Pearl Inlay of Thai and Eastern Asia - from a view point of mutual relationship-	文化財課資料管理室長 小林公治	6月20日	Ricernational Confefrence"Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom"における基調講演
16	日本、韓国、中国における馬 文化に関する考古遺品、美術 作品に関する調査を進め、成 果を特別展に反映する	古墳時代の九州	企画課文化交流展室長 河野一隆	10月20日	九州東芝会
17	東アジアの書道史における料 紙と書風に関する総合的研究	講演「道風の三体白氏詩巻」	文化財課主任研究員 丸山猶計	4月17日	(財)正木美術館
18	同上	講演「小野道風の筆跡の特色と能書 像」	文化財課主任研究員 丸山猶計	11月27日	佛教大学国語国文学会大 会
19	飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合 的研究-出土品から見た川原 寺の特質-	X線CTスキャンによる塼仏の調査	博物館科学課環境保全室長 今津 節生、博物館科学課環境保全室主任 研究員 鳥越俊行、企画課研究員 市元塁、米田文孝、西光慎治	6月26日	日本文化財科学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
20	ガンダーラ仏教美術	仏陀と転輪聖王 一仏伝を中心に一	企画課長 小泉惠英	10月17日	ガンダーラ美術の資料集 成とその統合的研究
21	文化財の計測と構造調査	ハンディ3Dデジタイザによる現場で の活用	博物館科学課環境保全室長 今津 節生	6月26日・27日	日本文化財科学会第二十 七回大会研究発表要旨集
22	文化財の保存方法に関する研 究	│ 糖アルコール含浸法からの新たな展 │ 開 ―トレハロースを主剤とする出 │ 土木材保存法へ	同上	同上	同上

【東京文化財研究所】計43件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(13件)

	、心別に因りる空候的	仲木的な神直 明九の推進			
	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	東アジアの美術に関する資料 学的研究	中世における真宗祖師先徳彫像の制 作をめぐって	企画情報部文化財アーカイブズ研 究室長 津田徹英	10月15日	第44回企画情報部オープ ンレクチャー
2	同上	秋元洒汀と明治の日本画	企画情報部文化形成研究室長 塩 谷純	同上	同上
3	同上	山水長巻考―雪舟の再評価にむけて	企画情報部広領域研究室長 綿田 稔	23年2月27日	日韓共同シンポジウム 「人とモノの「カ学」―美 術史における「評価」
4	同上	江戸時代初期風俗画の表現世界	企画情報部研究員 江村知子	日	同上
5	同上	創作と評価―萬鉄五郎《風船を持つ 女》を中心に	企画情報部長 田中淳	同上	同上
6	近現代美術に関する総合的研 究	黒田清輝と西洋文学補遺―ド・ラマル ティヌ「湖」と「湖畔」をめぐって	企画情報部近・現代視覚芸術研究室 長 山梨絵美子	5月19日	企画情報部研究会
7	同上	東アジア近代洋画史再考のための二、 三の視点	企画情報部近・現代視覚芸術研究室 長 山梨絵美子	6月7日	国立台湾師範大学
8	同上	日本近代美術におけるデューラー受 容	企画情報部長 田中淳	11月13日	シンポジウム「デューラ 一受容史 500年」
9	美術の技法・材料に関する広 領域的研究	作品紹介 京都神光院・地蔵菩薩立像	企画情報部研究員 皿井舞	11月14日	企画情報部研究会
10	同上	平安初期神仏習合彫刻史試論 京 都・神光院薬師如来立像をめぐって	同上	12月17日	同上
11	無形文化財の保存・活用に関 する調査研究	独吟一管「海道下り」の伝承再考	無形文化財研究室長、高桑いづみ	7月18日	楽劇学会第18回大会
12	同上	和泉流:狂言小舞のの音楽	無形文化財研究室長、高桑いづみ	12月12日	第5回無形文化遺産部公 開学術講座
13	無形民俗文化財の伝承状況に 関する調査研究	文化財としての民俗芸能、昭和30~40 年代の再検証	主任研究員、俵木悟	10月3日	第62回日本民俗学会年会

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(3件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	1 高精細デジタル画像の応用に 関する調査研究 歌舞伎図巻の描写について		企画情報部研究員 江村知子	23年1月29日	近世風俗画共同研究調査 報告会
2	? 文化財の非破壊調査法の研究 近赤外LED を光源とした資料撮影で得られる情報		主任研究員、吉田直人 他	6月12日-13日	文化財保存修復学会第32 回大会
3	同上	国宝伴大納言絵巻の彩色材料調査	分析科学研究室長、早川泰弘 他	6月26日-27日	日本文化財科学会第27回 大会

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進(20件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化対策の研究	X線CTスキャナによる虫損部材の調査 (2)	生物科学研究室長 木川りか 他	6月12日-13日	文化財保存修復学会第32 回大会
2	同上	文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について	同上	同上	同上
3	文化財の保存環境の研究	書物から発生するガスの空気環境へ の影響	保存科学研究室長 佐野千絵 他	同上	同上
4	同上	文化財を収納する保存箱の環境の評 価方法について	同上	同上	同上
5	同上	凝灰角礫岩の乾燥過程のシミュレー ション解析	保存修復科学センター長 石崎武 志	同上	同上
6	周辺環境が文化財に及ぼす影 Nondestructive Deterioration		CHO, JiHyun, KIM, Jiyoung, MORII, Masayuki, LEE, MyeongSeong, KIM, SaDug and LEE ChanHee	10月8日	2010韓国文化遺産保存科 学会第32回大会
7	同上	臼杵石仏の次期保存修理計画策定に 向けた調査	保存修復科学センター副センター 長 川野邊 渉	11月6日	臼杵磨崖仏保存環境調査 報告会
8	同上	日杵石仏の現在の劣化状態とその水 環境について	主任研究員 朽津信明	同上	同上
9	同上	臼杵石仏の凍結とその周辺環境について	研究員 森井順之	同上	同上
10	同上	臼杵石仏の凍結防止策~覆屋につい て	同上	同上	同上
11	同上	臼杵石仏の植物繁茂防止策~紫外線 照射および応急修理について	保存修復科学センター副センター 長 川野邊 渉、研究員 森井順之	同上	同上
12	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	国宝及び特別史跡・臼杵磨崖仏の次期 保存修理計画	研究員 森井順之	12月7日	日韓共同研究発表会
13	文化財の防災計画に関する調 査研究	ステレオカメラを用いた密集仏像群 の形状計測手法に関する研究	運天弘樹、巽英之、増田智仁、猪瀬 健二、安藤真、研究員 森井順之、 研究補佐員 久世めぐみ	6月26日	日本文化財科学会第27回 大会
14	同上	鎌倉大仏およびその周辺地盤の常時 微動調査	中村豊、斎田淳、立花三裕、研究員 森井順之、井上修作、大町達夫	10月17日	第13回日本地震工学シン ポジウム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
15	伝統的修復材料及び合成樹脂 顔料剥落止めとして利用されたポリ ビニルアルコールの白化原因とその 再現 異現		岡田祐輔・平井利博・藤松仁・滝沢 辰洋・保存修復科学センター副セン ター長 川野邊 渉・研究員 早川 典子・客員研究員 坪倉早智子・客 員研究員 中條利一郎	6月13日	第32回文化財保存修復学 会大会
16	同上	桃山文化期にこえる輸入漆の調達と 使用に関する調査	伝統技術研究室長 北野信彦・竜子 正彦・川口洋平・川村紀子・客員研 究員 本多貴之・宮腰哲雄	6月27日	日本文化財科学会 第27 回大会
17	同上	修復材料としての膠の物性	研究員早川典子	6月21日	膠(I)- 第4回伝統的修 復材料と合成樹脂に関す る研究会
18	同上	同上 紫外線照射によるポリビニルアルコ ール薄膜の白化		5月26日	第59回高分子学会年次大 会
19	近代の文化遺産の保存修復に 関する研究	劣化したシアノタイプの修復(2) - アルカリによるシアノタイプの劣 化・再発色実験ー	客員研究員 坪倉早智子、主任研究 員 加藤雅人、近代文化遺産研究室 長 中山俊介	6月12日	第32回文化財保存修復学 会大会
20	同上	音声・映像記録メディアの保存と修復	近代文化遺産研究室長 中山俊介	23年1月14日	第24回近代の文化遺産の 保存修復に関する研究会 「音声・映像記録メディ アの保存と修復」

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究(7件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	アジア諸国における文化遺産 を形作る素材の劣化と保存に 関する調査研究	板碑に見られる彩色について	主任研究員 朽津信明	6月26日	日本文化財科学会
2	アジア諸国における文化遺産 を形作る素材の劣化と保存に 関する調査研究	遺跡の覆屋保存を考える	跡の覆屋保存を考える 主任研究員 朽津信明 7.		国際文化財保存修復研究 会
3	同上	石造五輪塔で見る岩種による風化速 度の違い	同上	10月21日- 22日	日本応用地質学会
4	敦煌壁画の保護に関する共同 研究	敦煌莫高窟第285窟南壁に描かれた龕 楣の図案と色彩表現	客員研究員 高林弘実 他	6月13日	文化財保存修復学会
5	同上	敦煌莫高窟第285窟北壁に描かれた如 来および菩薩に用いられた彩色材料 と技法一衣と頭光の表現一	客員研究員 佐藤香子 他	6月13日	文化財保存修復学会
6	同上	敦煌莫高窟285窟に関する3D-GIS技 術を基準としたデータベース構築	客員研究員 津村宏臣 他	6月27日	文化財科学会
7	同上	敦煌莫高窟内の壁画の劣化に及ぼす 塩の影響	特別研究員 宇野朋子、長谷隆秀 他	9月9日	日本建築学会

【奈良文化財研究所】計52件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(16件)

	研究テーマ	発表テーマ	マ 発表者(職名・名前)		学会等名	
1	東アジア史における飛鳥の研 究及び飛鳥時代工芸技術の研 究		加藤真二 (展示企画室長)	9月22日	The Initial Human Habitation of the Continental and the Insular Parts of the Northeast Asia	
2	同上	霊井遺跡の細石刃技術	加藤真二(展示企画室長)	23年3月6日	第12回 北アジア調査研 究報告会	
3	文化的景観に関する研究	四万十川流域の文化的景観 景観から 読み解く四万十川	惠谷浩子(研究員)	5月30日	四万十・流域圏学会 第10 回大会「四万十川流域の活 性化」特別記念講演	
4	同上	中宇治地区における碾茶生産・製造の 有機的関係	同上	12月4日	平成22年度 日本造園学 会関西支部大会	
5	同上	文化的景観における都市建築	清水重敦(景観研究室長)	12月16日	文化的景観研究集会(第3回)報告	
6	同上	白川に息づく茶業風景	恵谷浩子(研究員)	23年1月16日	宇治市白川区伝統的家屋 調査中間報告会	
7	同上	白川の民家が面白い	松本将一郎(アソシエイトフェロー)	同上	同上	
8	8 同上 相川の景観構造の特質一二極構造を持 つ都市とその周辺環境		清水重敦(景観研究室長)	23年3月6日	佐渡氏相川地区文化的景 観調査中間報告会	
9	庭園に関する調査研究	文化遺産としての池田氏庭園の保護と その意義	平澤毅(遺跡整備研究室長)	10月29日	秋田県史跡整備市町村協 議会研修会他合同講演会	
10	同上	古代日本の宮苑	小野健吉(文化遺産部長)	10月21日	韓国忠南大学校百済研究 所	
11	同上	『桂垣』の補修に関する研究	青木達司(研究員)	12月4日	平成22年度日本造園学会 関西支部大会	
12	同上	The Garden of Fujiwara no Toshumori's Estate Depicted in Kasuga gongen genki e	小野健吉(文化遺産部長)	23年3月9日	米国コロンビア大学	
13	遺跡の保存・整備・活用に関 する調査研究	Protection of the Cultural Properties in Japan	平澤毅(遺跡整備研究室長)	9月15日	George Town, MALAYSIA	
14	同上	地域における遺跡の総合的マネジメン ト	同上	23年1月	遺跡整備・活用研究会(第 5回)	
15	同上	名称及び天然記念物浦富海岸の価値と その保護	同上	12月4日	平成22年度日本造園学会 関西支部大会	
16	遺構の安定した公開・展示を 遺跡保存を目的とした水の		脇谷草一郎(研究員)	6月26日~27 日	日本文化財科学会	

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(23件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	遺跡の測量・探査における新 たな技術の有効利用法の研 究	建物の歴史を電磁波でみる—水戸市台 渡里遺跡長者山地区VII地点の探査—	金田明大(主任研究員)・西村 康(客 員研究員)・西口和彦(客員研究員)	6月26日	日本文化財科学会
2	同上	SVGによる遺構・遺物の記録と活用への 基礎的検討	金田明大(主任研究員)	6月26日	日本文化財科学会
3	同上	低コスト三次元レーザースキャナーの 利用と実践	同上	同上	同上
4	同上	平城宮跡東方官衙地区におけるGPR探 査	金田明大(主任研究員)·西村 康(客員研究員)·西口和彦(客員研究員)	6月26日	日本文化財科学会
5	同上	地面の下の東大寺東塔院を探る	金田明大(主任研究員)	11月7日	東大寺大仏展特別講演会
6	6 同上 古代の測量をめぐって		小澤毅(遺跡・調査技術研究室長)	12月19日	平城宮跡資料館冬季企画 展講演会
7	同上	歴史を測る―新しい技術で掘り下げる 考古学―	金田明大(主任研究員)	12月19日	平城宮跡資料館冬季企画 展講演会
8	年輪年代学研究	日本年輪年代学研究史話一アリゾナ大 学年輪研究所に保管されている故渡辺 直経氏収集の木曽ヒノキ資料をめぐっ て一	大河内隆之(年代学研究室長)	6月27日	日本文化財科学会第27回
9	年輪年代学研究	日本産ツガ属の年輪年代測定(その3) ー現生材による基準パターンの作成と 既存データの再検討ー	藤井裕之(客員研究員)·光谷拓美(客 員研究員)	6月26日	日本文化財科学会第27回
10	同上	正倉院宝物・金剛智の袈裟について	児島大輔(アソシエイトフェロー)	7月17日	第66回彫刻史研究会
11			伊東隆夫(客員研究員)・Mechtild MERTZ	23年3月18日	第61回日本木材学会大会
12	2 同上 On methods of research for wooden Buddhist statues in Japan		児島大輔(アソシエイトフェロー)	23年3月21日	Wood Culture and Science Kyoto2011 (WCSK2011)
13	Dendrochronological analysis of		光谷拓美(客員研究員)	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
14	年輪年代学研究	Dendrochronological Potential of Japanese Hemlocks:the Third Species Available for Dating of Modern Wooden Architectures in Western Japan	藤井裕之(客員研究員)	23年3月21日	Wood Culture and Science Kyoto2011 (WCSK2011)
15	遺跡出土の動物依存体や古 土壌の考古科学的分析によ る環境考古学研究 考古学から探る日本の環境と食文化の 多様性		松井章(埋蔵文化財センター長)	7月16日	人間文化研究機構第13回 公開講演会・シンポジウム 『生物多様性と文化多様 性の接点』
16	同上	橿原遺跡における動物資源利用—骨角 器素材利用を中心として—	山崎健(研究員)	9月18日	第203回近江貝塚研究会 (滋賀県埋蔵文化財セン ター)
17	同上 動物遺存体からみた完新世の生物地理 一日本における考古動物学の可能性—		同上	9月19日	第16回野生生物保護学会·日本哺乳類学会2010年度合同大会(岐阜大学)
18	同上	古代人の肉食の忌避という虚構	松井章(埋蔵文化財センター長)	9月25日	奈良文化財研究所特別講 演
19	同上	Bio-diversity and Concentration of Particular Resources during the Jomon Period, Japan	同上	10月7日	学術ワークショップ『古代 社会の生物多様性:自然開 発・共生の世界観と人類進 化
20	同上	興福寺南大門出土の鎮壇具容器内に納 入された魚類遺存体	山崎健(研究員)・森川実(研究員)・ 芝康次郎(研究員)	11月20日	第13回動物考古学研究集 会(名古屋大学博物館)
21	同上	「低湿地」という景観と資源環境	山崎健(研究員)	11月27日~28日	伊勢湾岸弥生社会シンポジウム・中期篇「大規模集落と弥生社会」(南山大学)
22	22 同上 動物考古学からみた日本の農耕と牧畜 の起源		松井章(埋蔵文化財センター長)	23年3月26日	農耕の起源 Origins of Agriculture
23	同上	野生スンクスの国内記録	山崎健(研究員)	23年3月27日	第6回スンクス研究会

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進(9件)

		点として元姉的調査切入寺			
	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	考古資料の材料・構造の調査 法及び保存・修復に関する実 践的研究	テラヘルツ波イメージングの文化財 建造物調査への応用	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	6月12日~13日	保存修復学会
2	同上	ミリ波およびテラヘルツ波の文化財 への応用 I ―層構造調査へのテラヘ ルツ波イメージング技術の基礎研究 ―	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	6月26日~27日	日本文化財科学会
3	同上	観察手法による高松塚古墳壁画表面 の調査結果報告	同上	同上	同上
4	考古資料の材料・構造の調査 法及び保存・修復に関する実 践的研究	高松塚古墳壁画の材料調査—蛍光X線 分析による下地漆喰に関する調査 (2)—	降幡順子(主任研究員)	6月26日~27日	日本文化財科学会
5	同上	地漆嗄およびト地漆嗄—	同上	同上	
6	同上	木造文化財における彩色の劣化機構 に対する電磁波の応用	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	同上	同上
7	同上	紫色ガラスの分析科学的研究	田村朋美(研究員)	同上	同上
8	同上	Conservation principles of archaeological heritages in Japan	高妻洋成 (保存修復科学研究室長)	11月2日	International Symposium -Coservation Ethics for Rational Decision Making: the Dialogue between East and West
9	同上	Non-Destructive Tests for Cultural Heritages in Japan	高妻洋成(保存修復科学研究室長)	12月6日~7日	2010 International Symposium on Cultural Heritage Conservation

〇文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究(2件)

-						
		研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
	1 カンボジア・アンコール遺跡 群の西トップ寺院遺跡の建築 史的、考古学的、保存科学的 調査		西トップ遺跡の調査	石村智(研究員)	6月21日	第17回国際調整委員会
ĺ	2	同上	西トップ遺跡の調査と今後	森本晋(文化財情報研究室長)	11月25日	第18回国際調整委員会

〇情報発信機能の強化 (2件)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財情報電子化の研究に基 づくデータベースの充実	大規模で構造的な遺構への遺構情報 モデルの適用	森本晋(文化財情報研究室長)	10月23日	地理情報システム学会
2	同上	遺物実測図の構造	同上	11月19日	第15回遺跡GIS研究会

c-④ 論文等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	156件	90件	13件	33件	20件
345件	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究(東京・奈	(良文化財研究所)
	189件	41件	147件	1∱	4

【東京国立博物館】 90件

O ₁	形文化財の収集・	呆管・公衆への観覧に	かかる調査・研究				
	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品 に関する調査研究		中国古代の工芸品に表わされた花と鳥	『平城遷都1300年祭特別展 花 鳥画-中国・韓国と日本-』	奈良県立美術館	22年9月	無
2	同上	井上洋一(企画課長)	「町田久成」	『博物館学人物史』上	雄山閣	22年7月30日	無
3	同上	長)	狩野一信	日本の美術 534号	ぎょうせい	22年10月	無無
4	同上	小山弓弦葉(企画課特別展 室主任研究員)	「守られた伝統 ――小千谷縮・越後上布―」	「ユネスコ無形文化財遺産登録 記念 重要無形文化財「小千谷 縮・越後上布」展図録		22年0月12日	***
5	同上	同上	「近代染織史研究における『辻が花』の定義について」	『MUSEUM』第627号	東京国立博物館	22年8月15日	有
6	同上	同上	「装束の華」	別冊太陽 日本のこころ—173 「世阿弥」	株式会社平凡社	22年10月22日	無
7	同上	沖松健次郎(企画課特別展 室主任研究員)	「太祖御真と日本の天皇像の比較」	『国立全州博物館 開館20周年 記念国際学術シンポジウム 朝 鮮王室と全州―朝鮮王朝の発祥 地としての全州―』 資料集		22年10月7日	無
8	同上	鬼頭智美(企画課国際交流 室長)	海外日本古美術展に見る「日本」―国家ブランディングと の関わりと展覧会実施における諸問題	東京国立博物館紀要第46号	東京国立博物館	23年3月31日	無
9	同上	今井敦(博物館教育課長)	白地黒掻落牡丹文瓶	『國華』1381号	國華社	22年11月20日	
10	同上	同上	江戸時代後期の伊万里染付大皿にみられる〈中国趣味〉に ついて		東京国立博物館	23年2月15日	有
11	同上	伊藤信二(博物館教育課教育普及室長)	「国宝八角燈籠の歴史と評価」	特別展『東大寺大仏―天平の至 宝―』展覧会図録	読売新聞東京本社	22年10月	無
12	同上	高橋裕次(博物館情報課 長)	「光明皇后」	同上	同上	同上	無
13	同上	関紀子(博物館情報課情報 管理室アソシエイトフェ ロー)	「清朝末期の光景―小川一眞・早崎稉吉・関野貞が撮影した中国写真―」	特集陳列図録『清朝末期の光景 ―小川一眞・早崎稉吉・関野貞 が撮影した中国写真―』	東京国立博物館	22年5月25日	無
14	同上	同上	「小川一眞の北京城撮影と帝室技芸員任命について」	『MUSEUM』第626号	東京国立博物館	22年6月15日	有
15	同上	原田明夫(博物館情報課情 報管理室アソシエイトフェ ロー)	「東京国立博物館の映像活用について」	『映像博物学の挑戦』事前レポート集 22頁	東京大学総合研究 博物館	22年11月1日	無
16	同上	池田宏(上席研究員)	「徳川家康の甲冑―歯朶具足と南蛮胴具足を中心に―」	特別展「徳川家康の遺愛品」	三井記念美術館	22年4月14日	無
17	同上	同上	「厳島神社 紺糸威鎧」ほか	『国宝の美45 工芸4 神宝・ 甲冑』	朝日新聞出版	22年7月11日	無
18	同上	同上	「櫛引八幡宮の甲冑」	『青森県史 文化財編 美術工 芸』	青森県	22年9月30日	無
19	同上	同上	「文化庁海外日本古美術展「日本の美 5000年」開催報 告」	月刊文化財568号	第一法規株式会社	23年1月1日	無
20	同上	後藤健 (上席研究員)	「パシェリエンプタハのミイラ」について	『美術の窓』8月号	生活の友社	22年8月20日	無
21	同上	澤田むつ代(特任研究員)	「経僧塚古墳出土の織物等について」	『武射経僧塚古墳 石棺篇 報	早稲田大学 経僧	22年12月	無
22	同上	望月幹夫(特任研究員)	40年ぶりの里帰り	告』 『よみがえるヤマトの王墓-東 大寺山古墳と謎の鉄刀-』(創立	塚古墳発掘調査団 天理大学出版部	22年9月22日	無
		谷豊信 (列品管理課長)	「中国文明と河南省」	80周年記念特別展図録) 特別展『誕生!中国文明』展覧	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	22年7月6日	無
23	同上	安藤香織(列品管理課登録	来迎図の尊像構成と迎講に関する一考察―法華寺本菩薩・	会図録 『MUSEUM』第625号		22年4月15日	有
24	同上	室アソシエイトフェロー) 及川穣(列品管理課登録室	童子幅を中心に― 「2009年の研究動向 旧石器時代」	『東京考古』第28号 110頁		22年5月	無
25	同上	アソシエイトフェロー)	「学界動向<各地における調査と研究> 4. 東京都」	『石器文化研究』第16号 26-		23年1月24日	無
26	同上	同上	「縄文時代早期撚糸文土器研究における稲荷台式提唱資料	28頁		,	無
27	同上	同上	の意義—都指定文化財と南山大学人類学博物館所蔵資料に 着目して—」		米小即 投目女员女	20407010	246
28	同上	特別観覧室主任研究員)	資料紹介 東京国立博物館蔵『旧儀式図画帖』		東京国立博物館		
29	同上	古谷毅(列品管理課列品情報 整備室長)	倭の世界・古墳時代中期の特質-王権と威信財-・稲荷山古 墳と江田船山古墳-王陵と地方首長墓-	間文化研究機構連携展示図録)	館	22年7月13日	無
30	同上	同上	奈良県三輪馬場山ノ神遺跡の祭祀考古学的検討	『日本基層文化論叢』(椙山林 継先生古希記念論文集刊行会 編)	雄山閣	22年8月31日	無
31	同上	古谷毅(列品管理課列品情報整備室長)	古墳時代の有銘刀剣・上應星宿 下辟不祥	『よみがえるヤマトの王墓-東 大寺山古墳と謎の鉄刀-』(創立 80周年記念特別展図録)	天理大学出版部	22年9月22日	無
32	同上	同上	家形のコスモロジー	『よみがえるヤマトの王墓-東 大寺山古墳と謎の鉄刀-』(創立 80周年記念特別展図録)	天理大学出版部	22年9月22日	無
33	同上	富田淳(調査研究課長)	李宗瀚コレクションについて	書学書道史論叢 2011	書学書道史学会	23年3月	無
34	同上	同上	華夏と安国	拓本とその流転	財団法人台東区芸 術文化財団	23年3月	無
35	同上	同上	游丞相蔵玉泉本蘭亭序について~游似の蘭亭序コレクション~	同上	同上	同上	無
36	同上	田沢裕賀 (調査研究課絵画・彫刻室長)		『青森県史 文化財編 美術工 芸』	青森県	22年9月30日	無
	同上	同上	舟木家本「洛中洛外図屏風」の近世初期風俗画における位 置付け	東京国立博物館紀要第46号	東京国立博物館	23年3月31日	無
37		1 12 46 646					
37	同上	大橋美織 (調査研究課絵 画・彫刻室任期付研究員) 竹内奈美子(調査研究課工	近世紀州における実景図の研究—十代藩主・徳川治宝をめ ぐる絵画制作状況 葦穂蒔絵鞍鐙	『鹿島美術財団年報』27号(別冊) 『國華』1378号	鹿島美術財団 國華社	22年11月15日 22年8月20日	有無無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー ち無
40	同上	浅見龍介 (調査研究課東洋 室長)	興福寺作品解説	古寺巡礼 興福寺	淡交社	22年9月1日	有無 無
41	同上		地蔵十輪院と六波羅蜜寺	別冊太陽 運慶 時空を超える	平凡社	22年12月12日	無
42	同上	浅見龍介(調査研究課東洋	調査報告 永平寺の中世彫刻	形 『MUSEUM』第629号	東京国立博物館	22年12月15日	有
43	同上	室長) 川村佳男(調査研究課東洋	古代中国青銅器の流れ一形態・技術・時代背景の視点から	特別展『誕生!中国文明』展覧	読売新聞社、大広	22年7月6日	無
44	収蔵品・寄託品及び関連品		作品解説	会図録 『大和文華館名品図録』	大和文華館	22年10月1日	無
44	に関する調査研究	室研究員)	翻訳(鶴田武良共訳)顔娟英「南国美術の殿堂建造―台湾	五十殿利治編『「帝国」と美術	国書刊行会	22年11月25日	無
45	同上	同上	展物語—」	一九三〇年代日本の対外美術 戦略』			
46	同上	塚本麿充(調査研究課東洋 室研究員)	「崇高なる山水展」:李郭派山水と東アジア世界	『明日の東洋学』NO. 24	東京大学東洋文化 研究所	22年11月30日	無
47	同上	同上	解説 絵画	『新編森克己著作集 4 増補日 宋文化交流の諸問題』	勉誠出版	23年1月	無
48	同上	同上		曽布川寛監修、関西中国書画コレクション研究会編『中国書画探訪―関西の収蔵家とその名品』(共同編集・執筆)	二玄社	23年1月	無
49	同上	同上		『名品鑑賞シリーズ4 宋画の世 界』	大和文華館	23年2月	無
50	同上	同上	「皇帝の文物と北宋の社会―日本文物の交流からの視点」	『BI』vol.5	東京大学東洋文化 研究所	23年3月	無
51	同上	富坂賢(保存修復課保存修復 室長)	古今伝授と細川幽斎―歌道にみる戦国のネットワーク―	特別展『細川家の至宝—珠玉の 永青文庫コレクション—』展覧	NHK、NHKプロモー	22年4月	無
Ĺ	100		油彩画の技法および材料に関する共同調査―東京藝術大学	会図録		22年6月12日	有
52	同上	修復室主任研究員)、神庭 信幸(保存修復課長)、木 島隆康、鈴鴨富士子(東京 藝術大学)	と東京国立博物館の学術共同調査—	研究発表要旨集	会	~13日	
53	同上	修復室主任研究員)	54. 薄拙太郎(明治38年7月卒業)自画像 東京藝術大学 大学美術館 学生制作品―1215 (「東京美術学校西洋画 科卒業制作作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基 礎的研究VII」)		東京藝術大学美術学部	22年12月	有
54	同上	三笠景子(保存修復課保存 修復室研究員)	青磁琮形瓶	『國華』1376号	國華社	22年6月	無
55	同上		唐宋時代の越窯と金銀器―線刻装飾を施した呉越国「秘色 窯」の青磁	アジア遊学134 東アジアをめぐる金属工芸	勉誠出版	22年7月	無
56	同上	三笠景子(保存修復課保存 修復室研究員)	白い器を求めて	特別展『誕生!中国文明』展覧 会図録	読売新聞社、大広	22年7月6日	無
57	同上	シエイトフェロー)、米倉	紙資料の保全を目的とした機能的な展示用装丁の開発 -多様な形態の紙資料に対応した展示に於いて- 紙資料の保全を目的とした機能的な展示用装丁の開発 -多様な形態の紙資料に対応した展示に於いて-	文化財保存修復学会第32回大会 研究発表要旨集	文化財保 存修復学 会	22年6月12日	有
58	同上	米倉乙世(保存修復課保存 修復室アソシエ特を(保存修 位課保存修復室アソシエ 後課保存修名室アリシ ・一次のでは、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一	書見台の新案と活用例-安全に展示するための工夫-	同上	同上	同上	有
59	収蔵品・寄託品及び関連品 に関する調査研究	沖本明子(保存修復課アソ	《事例報告》両界曼荼羅図(東京国立博物館蔵)の解体修理について	文化財保存修復学会第32回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学 会	22年6月12日	有
60	博物館の環境保存に関する 研究	神庭信幸(保存修復課 長)、和田浩(保存修復課 環境保存室主任研究員)、 荒木臣紀(保存修復課環境 保存室主任研究員)	収蔵庫内の空気汚染物質に対する濃度指針の検討	同上	同上	同上	有
61	同上	和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、神庭信 幸(保存修復課長)、会了 密明(特任研究員)、丸山 土郎(博物館情報課情報管 理室長)	阿修羅立像梱包箱の防振効果	同上	同上	同上	有
62	同上	神庭信幸(保存修復課 長)、和田浩(保存修復課 環境保存室主任研究員)、 金子啓明(特任研究員)、 丸山士郎(博物館情報課情 報管理室長)	阿修羅立像の梱包技術	同上	同上	同上	有
63	同上		Toward the Establishment of a Guideline for the Concentration of Indoor Atmospheric Contaminants in Storages and Exhibition rooms of Museums	「資料保存と四大元素」に関する国際会議	中国国家図書館(北京)	22年6月21日 ~24日	有
64	同上	神庭信幸(保存修復課 長)、和田浩(保存修復課 環境保存室主任研究員)	文化財安全輸送のための取組事例	第19回日本包装学会年次大会要 旨集	日本包装学会	22年7月9日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
65	同上	神庭信幸(保存修復課 長)、和田浩(保存修復課 環境保存室主任研究員)	CAEシミュレーション解析による緩衝機材の特性評価事例	第48回全日本包装技術研究大会 要旨集	日本包装技術協会	22年12月7日	有
66	保全と持続的公開を目指し	神庭信幸(保存修復課 長)、和田浩(保存修復課 環境保存室主任研究員)、 荒木臣紀(保存修復課環境 保存室主任研究員)、土屋 裕子(保存修復課保存修復 室主任研究員)	博物館における包括的保存システムの構築に関する研究 (II)	文化財保存修復学会第32回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学 会	22年6月12日 ~13日	有
67	東京国立博物館所蔵正倉院 関係資料の研究—「正倉院 裂」を中心に(科学研究費 補助金B)	澤田むつ代(特任研究員)	「天平の染織」	特別展『東大寺大仏―天平の至 宝―』展覧会図録	読売新聞東京本社	22年10月	無
68	同上	同上	「天平古裂は正倉院から配布された〈正倉院頒布裂〉」	同上	同上	同上	無
69	東京国立博物館所蔵正倉院 関係資料の研究—「正倉院 裂」を中心に(科学研究費 補助金B)	同上	「東京国立博物館所蔵 正倉院の染物」、「絞りの伝統を受け継ぐ」	特集陳列『東京国立博物館所蔵 正倉院の染物』展覧会図録(単 著)		22年11月1日	無
70	同上	同上	「東京国立博物館所蔵 正倉院の染織品と裂帖、模織品、 模写」	科学研究費補助金の研究成果報告書『東京国立博物館所蔵・正 倉院関係資料の研究―「正倉院 裂」を中心に―』		23年3月	無
71	東アジアの書道史における 料紙と書風に関する総合的 研究(科学研究費補助金	島谷弘幸(学芸研究部長)	書の美	毎日新聞(毎週日曜日連載)	毎日新聞社	22年4月4日~ 23年3月27日	無
72	同上	同上	5000 years of Japanese Art	5000 Years of Japanese Art	Republic of Turkey Ministry of Cultural Assets and Museums Topkap Palace Museum, 文化庁、東京国立 博物館	22年5月4日	無
73	同上	同上	古筆における伝統と創意	公益社団法人 日本書芸院会報 150号	本書芸院	22年8月5日	無
74	同上	同上	三跡の書と和様の展開	ふくやま書道美術館特別展 王朝の名筆一三蹟を中心として一		22年9月11日	無
75	同上	同上	21世紀の古筆手鑑	墨 208号(2011年1・2月号)	芸術新聞社	23年2月1日	無
76	料紙と書風に関する総合的 研究(科学研究費補助金 A)	島谷弘幸(学芸研究部長)	書の鑑賞と創造	第25回国民文化祭・おかやま 2010美術展記録集	社団法人 岡山県 文化連盟		無
77	前方後円墳体制東縁地域に おける国家形成過程の研究:常陸の場合(科学研究 費補助金B/分担)	日高慎(保存修復課保存修 復室主任研究員)	茨城 県	前方後円墳の終焉	雄山閣	22年10月20日	無
78	同上	同上	茨城県玉里古墳群にみる古墳時代後期首長墓系列	同志社大学考古学シリーズX 考古学は何を語れるか	同志社大学考古学 シリーズ刊行会		有
79	と装幀形態に関する用語の 研究(科学研究費補助金C/ 分担)	高橋裕次(博物館情報課 長)	「漢籍善本紹介-東京国立博物館(2)-」	『新しい漢字漢文教育』第50号			無
80	同上 博物館環境デザインに関す る調査研究	同上 木下史青(企画課デザイン 室長)	「漢籍善本紹介-東京国立博物館(3)-」 東京帝室博物館・復興本館の建築設計図面 および関連資料の紹介	『新しい漢字漢文教育』第51号 近・現代建築のアーカイヴスと ドキュメンテーション	同上 社団法人 日本建 築学会	22年11月30日 22年9月	無無
82	同上	同上	「眼力」のスイッチの入れ方	茶道誌淡交2010年 10月号増刊 〈茶の湯の展覧会〉		22年9月10日	無
83	博物館美術教育に関する調 査研究	神辺知加(博物館教育課教 育講座室主任研究員)	「博物館で行うイベントについて—「博物館でお花見を」 を例に」		財団法人 日本博 物館協会	22年11月1日	無
84	同上	鈴木みどり(博物館教育課 教育普及室主任研究員)	世にも恐ろしい博物館?イースタン州立刑務所博物館	国際博物館の日新聞	アム研究会	22年5月18日	無
85	同上	同上	博物館で伝える日本の伝統文化	教育研究	社団法人初等教育 研究会		無
86	同上	同上	教員の「ミュージアムリテラシー」の展開一歴史系(古美 術)博物館の活用	策調査研究報告書一教員の ミュージアムリテラシー向上プ ログラム開発ー	物館振興財団	22年10月18日	無
87	博物館資料・業務の情報処 理に関する調査研究	村田良二(博物館情報課情 報管理室主任研究員)	新しい「e国宝」について	アート・ドキュメンテーション 学会2010年度年次大会 予稿集	ンテーション学会		無
88	同上	同上	ミュージアム資料情報構造化モデル	南山大学 人類学博物館 情報部 会シンポジウム「博物館資料の 文化資源化」発表要旨	博物館	22年7月24日	無
89	同上	村田良二(博物館情報課情 報管理室長)	人文科学とコンピュータ研究を支える資料を考える—MLA の立場から—	人文科学とコンピュータ研究会 報告89		23年1月22日	無
90	同上	田良島哲(列品管理課登録 室長)	「博物館の情報環境とMLA連携」	『MLA連携の現状・課題・将 来』 p. 77-85.	勉誠出版	22年6月	無

【京都国立博物館】 13件 ○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

$\overline{}$		クスに対め、大学、大学、公式党におおる副士、明元							
	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無		
1	日本における木の造形的表 現とその文化的背景に関す る総合的考察	連携協力室主任研究員 淺 湫 毅	山形・熊野神社の伝十王坐像について	科学研究費補助金報告書 日本 における木の造形的表現とその 文化的背景に関する総合的考察 〈報告編〉	京都国立博物館	1月	無		
2	同上	同上	静岡・建穂寺の千手観音立像 仏師長勤作	学叢32	京都国立博物館	5月	無		
3	文化財の保存・修復に関す る調査研究(奈良文化財研 究所との共同研究)	保存修理指導室長 村上 隆	「中平遺跡出土の鈴の材質と構造」		青森県教育委員会		無		
4	同上	同上	「下扇原遺跡出土「銅釦」の材質について」	『小野原遺跡群』(熊本県文化 財調査報告第257)	熊本県教育委員会	3月	無		

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
5	同上	同上	「三角縁神獣鏡の材料科学的研究 ―静岡市午王堂山3号墳 出土鏡を巡って―」	学叢32	京都国立博物館	5月	無
6	同上	同上	「産業遺産研究で結ぶ地域間ネットワーク …シンポジウム「生産遺跡から探る「モノづくり」の歴史」から「金・銀・銅サミット」へ	『国際文化政策』第1号	国際文化政策研究 教育学会	7月	有
7	彫刻に関する調査研究	連携協力室主任研究員 淺 湫 毅	定朝様の継承 — 六波羅蜜寺地蔵菩薩立像と地蔵院観音菩薩坐像のあいだ—	鳳翔学叢	平等院	3月	無
8	特別展覧会「高僧と袈裟」 の開催に向けて、寺院所蔵 品の調査研究を行う。	列品管理室主任研究員 山 川 暁	ころもが秘めるふたつの歴史	『高僧と袈裟ーころもを伝えこころ を繋ぐー』図録	京都国立博物館	10月	無
9	特別展覧会「中国の書画」 に向けて、旧上野コレク ションと関連作品の調査研 究を行う。	学芸部長 西上 実	筆墨精神ー中国の書と画をつなぐもの	『筆墨精神-中国書画の世界-』 図録	京都国立博物館・ 朝日新聞社	1月	無
10	同上	上席研究員 赤尾 栄慶	写本と法帖	同上	同上	同上	無
11	特別展覧会「法然」の開催 に向けて、浄土宗寺院所蔵 文化財の調査研究を行う。	列品管理室長 若杉 準治	法然信仰の美術-法然上人絵伝-	『法然-生涯と美術-」図録	京都国立博物館・ 京都新聞社	3月	無
12	同上	企画室研究員 大原嘉豊	浄土宗美術論	同上	同上	同上	無
13	特別展覧会「細川家の至 宝」(平成23年度)の開催 に向けて永青文庫と共同で 関連作品の調査研究を行う	連携協力室主任研究員 淺 湫 毅	宝慶寺から請来された石仏群 ―細川護立と中国彫刻―	『細川家の至宝 ―珠玉の永青 文庫コレクション―』図録	N H K・東京国立 博物館・京都国立 博物館	4月	無

【奈良国立博物館】 33件 ヘキ取立ルHの間集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフ: リー 有無
1	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	稲本泰生(企画室長)	遣唐使 その光と影ー奈良時代を中心に	平城遷都1300年記念 大遣唐使 展	奈良国立博物館ほ か	22年4月3日	無
2	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	同上	作品解説	吉祥天女のすべて	薬師寺	22年10月5日	無
3	仏教美術等の光学的調査研 究	同上	東大寺前身寺院における塑造神将像の造立 - 光学調査の概要紹介と報告書の解題を兼ねて	奈良時代の塑造神将像	中央公論美術出版	22年12月16日	無
4	同上	同上	扉解説	同上	同上	同上	無
5	我が国における仏教美術の 展開と中国・韓国の仏教文 化が及ぼした影響の調査研	同上	二月堂本尊光背図像と観音の神変	論集 東大寺二月堂一修二会の 伝統とその思想ー	東大寺発行・法蔵 館発売	22年12月18日	無
6	- 南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	岩田茂樹(美術室長)	作品解説	塔に誘われて	京都府立山城郷土 資料館	22年7月10日	無
7	同上	同上	奈良国立博物館の仏像展示	なら仏像館 名品図録	奈良国立博物館	22年7月21日	無
8	同上	同上	東大寺法華堂金剛力士立像	同上	同上	同上	無
9	同上	同上	大仏をめぐる運慶の造像	別冊太陽 運慶 時空を超える かたち	平凡社	22年12月12日	無
10	同上	北澤菜月(研究員)	作品解説	吉祥天女のすべて	薬師寺	22年10月5日	無
11	同上	斎木涼子(研究員)	作品解説	同上	同上	同上	無
12	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	同上	奈良時代の仁王会	第62回 正倉院展	奈良国立博物館	22年10月23日	無
13	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	清水健(研究員)	おん祭と春日信仰の美術 総論	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	22年12月6日	無
14	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	鈴木喜博(上席研究員)	檀像の請来と木彫の成立—初公開の安祥寺十一面観音像に 関連して—	平城遷都1300年記念 大遣唐使 展	奈良国立博物館ほ か	22年4月3日	無
15	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	同上	仏像修理100年―美術院の歴史とともに―	仏像修理100年	奈良国立博物館	22年7月21日	無
16	同上	同上	春日地蔵の信仰と図像	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	22年12月6日	無
17	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	谷口耕生(保存修理指導室 長)	吉備大臣入唐絵巻―後白河院政期の遣唐使神話―	平城遷都1300年記念 大遣唐使 展	奈良国立博物館ほ か	22年4月3日	無
18	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	同上	作品解説	吉祥天女のすべて	薬師寺	22年10月5日	無
19	仏教美術等の光学的調査研 究	同上	法華堂執金剛神立像・戒壇院四天王立像の彩色文様	奈良時代の塑造神将像	中央公論美術出版	22年12月16日	無
20	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	内藤栄(工芸考古室長)	空海の舎利信仰―法門寺から東寺へ―	平城遷都1300年記念 大遣唐使 展	奈良国立博物館ほ か	22年4月3日	無
21	同上	永井洋之(アソシエイトフェロー)	五絃琵琶について	第62回 正倉院展	奈良国立博物館	22年10月23日	無
22	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	西山厚(学芸部長)	作品解説	吉祥天女のすべて	薬師寺	22年10月5日	無
23	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	同上	光明皇后の『楽毅論』について	第62回 正倉院展	奈良国立博物館	22年10月23日	無
24	南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	野尻忠(主任研究員)	作品解説	吉祥天女のすべて	薬師寺	22年10月5日	無
25	同上	原瑛莉子(アソシエイトフェロー)	作品解説	同上	同上	同上	無
26	奈良時代の仏教美術と東ア ジアの文化交流	吉澤悟(教育室長)	二つの「海獣葡萄鏡」	第62回 正倉院展	奈良国立博物館	22年10月23日	無
27	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	北澤菜月(研究員)	画面に登場する絵「画中画」の役割	週刊国宝の美 34号	朝日新聞出版	22年4月	無
28	同上	同上	祖師の事跡をかたちにする―高僧伝絵巻の時代―	同上	同上	同上	無
29	我が国における仏教美術の 展開と中国・韓国の仏教文 化が及ぼした影響の調査研 究	同上	作品解説	千年丹青—日本・唐宋元絵画珍 品(中文)	上海博物館	22年9月	無
	同上	同上	林庭珪と周季常、二人の画家とその傾向について	大徳寺伝来五百羅漢図 銘文調 査報告書	奈良国立博物館・ 東京文化財研究所	23年3月25日	無
30	1-1-1						
30 31	同上	谷口耕生(保存修理指導室 長)	木村徳応五百羅漢図―失われた大徳寺本六幅をめぐって―	同上	同上	同上	無

研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
南都諸社寺等に関する計画 的な調査研究	湯山賢一(館長)	古代料紙論ノート―『延喜式』にみる製紙工程をめぐって	正倉院紀要 32号	宮内庁正倉院事務 所	22年4月	無

【九州国立博物館】 20件 ○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	日本とアジア諸国との文化 交流に関する調査研究	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	「九州国立博物館所蔵 朱印船交趾渡航図巻」について	『ベトナム・ホイアン国際シン ポジウムーホイアンと江戸一』 予稿集		12月4日	無
2	文化財の材質・構造等に関 する共同研究	企画課研究員 川畑憲子	桂春院所蔵「菊唐草文玳瑁螺鈿合子」の木地構造について	『漆工史』第33号	漆工史学会	11月13日	有
3	修復に関する研究	今津節生	九州国立博物館における新しい文化財展示の試み	映像情報メデチィア学会誌	映像情報メデチィア 学会誌	7月2日	有
4	VR画像を活用した日本装飾 古墳デジタルアーカイブの 構築	企画課文化交流展室長 河 野一隆	「装飾古墳研究の新展開」	『史跡で読む日本の歴史』第2 巻	吉川弘文館	6月21日	無
5	同上	同上	古墳時代の神と他界観	同上	同上	同上	無
6	トルキ山遼墓出土品から見 た唐滅亡後の東アジアにお ける工芸技術	企画課研究員 市元 塁	トルキ山古墓の鳳凰木棺と契丹文化	「契丹帝国(遼王朝)の美術と 文化」(九州国立博物館国際シ ンポジウム資料)	九州国立博物館	12月18日	無
7	室町時代の仏教絵画を中心 とする東アジアの宗教美術 に関する調査研究	企画課主任研究員 畑靖紀	江戸時代の水墨画	日本の美術Ⅴ水墨画Ⅱ	美術年鑑社	10月8日	無
8	X線CTスキャナによる中 国古代青銅器の構造技法解 析		X線CTスキャナを利用した殷時代青銅斝の構造解析	アジア鋳造史学会誌	アジア鋳造技術史 学会	8月28日	無
9	五胡十六国から北魏時代の 出土陶俑に関する基礎研究	企画課研究員 市元 塁	五胡十六国から北魏時代の装飾馬	馬 アジアを駆けた二千年(展 覧会図録)	九州国立博物館	7月10日	無
	海の東アジアが醸成した貝 と添の文化 '螺鈿' の再発 見一その共通性と多様性を 探るー (トヨタ財団研究助 成)		Mother of Pearl Inlay of Thai and Eastern Asia - from a view point of mutual relationship- abstract	International Confefrence Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization fo Thai and Wisdom	Department, The	6月20日	無
11		企画課文化交流展室長 河野一隆	古墳時代における境界の意義	『史跡で読む日本の歴史』第2 巻	吉川弘文館	6月21日	無
12	中国文明に関する調査研究	企画課研究員 市元 塁	漢時代から唐時代にいたる墓と副葬品	誕生! 中国文明(展覧会図 録)	読売新聞社、大広	7月6日	無
13	文化財の保存技術に関する 研究	博物館科学課環境保全室長 今津節生	「考古遺物の最新保存技術」	『水下考古技術興案例介紹』 Underwater Archaeological Technology and Case Studies	行政文化建設委 員會文化資産總管 理處籌備處、台湾	12月1日	無
14	同上	博物館科学課環境保全室長 今津節生	糖アルコールを用いた保存処理の方法	同上	同上	同上	無
15	同上	博物館科学課環境保全室長 今津節生	水浸出土木材保存の歴史	同上	同上	同上	無
16	X線CTスキャナによる中 国古代青銅器の構造技法解 析		X線CTを利用した殷周青銅器の構造解析(I)	泉屋博古館紀要、第26号	泉屋博古館	12月1日	無
17	同上	博物館科学課環境保全室長 今津節生	X線CTを利用した殷代青銅[ジ][コウ]の内部構造解析	中国考古学 第10号	中国考古学会	11月27日	有
18	ベトナムの螺鈿に関する基 礎的かつ多面的な調査研究	林公治	ベトナムの螺鈿―生産・製品・消費に関する調査研究報告 一		九州国立博物館	3月31日	無
19	文化財の材質・構造等に関 する共同研究		九州国立博物館トピック展「湖の国の名宝」出陳漆工品の 木地構造について		琵琶湖文化館	3月31日	無
20	東アジアにおける華厳経美 術の展開	企画課研究員 森實久美子	東大寺における善財童子歴参図の歴史	別冊太陽 東大寺	平凡社	10月10日	無

【東京文化財研究所】 41件 ○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(19件)

$\underline{\smile}$	(11月15) 日本院内・体系的な調査・研究の推進(19件)								
	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無		
1	東アジアの美術に関する資 料学的研究	企画情報部長 田中淳		水谷長志編著『MLA連携の現状・ 課題・将来』	勉誠出版	6月25日	無		
2	同上	企画情報部研究員 土屋貴 裕	「天狗草紙」の作画工房	『美術研究』403	東京文化財研究所	23年3月29日	有		
3	同上	神護寺薬師如来の史的考察	企画情報部研究員 皿井舞	同上	同上	同上	有		
4		企画情報部文化形成研究室 長 塩谷純	川端玉章の研究(三)	『美術研究』401	東京文化財研究所	8月30日	有		
5		企画情報部近・現代視覚芸 術研究室長 山梨絵美子	渡辺幽香 幼児図	『国華』1382	国華社	12月1日	無		
6	同上	企画情報部長 田中 淳	『後期印象派・考-1912年前後を中心に』連載をめぐって	『美術史論壇』31	韓国美術研究所	23年1月1日	無		
7	近現代美術に関する総合的 研究	企画情報部近・現代視覚芸 術研究室長 山梨絵美子	平成二十一年度に寄贈された黒田清輝作品について— 《舟》、《芍薬》、《日清役二龍山砲台突撃図》、《林政 文肖像》二点	『美術研究』402	東京文化財研究所	23年2月28日	有		
8	同上	企画情報部長 田中 淳	画家中川一政 ひねもす走りおおせたる者	『没後20年 中川一政展』カタ ログ	日本橋高島屋	23年3月3日	無		
9	美術の技法・材料に関する 広領域的研究	企画情報部文化財アーカイ ブズ研究室長 津田徹英	「研究資料 奈良国立博物館蔵 木造南無仏太子立像」	『美術研究』401	東京文化財研究所	8月30日	有		
10	同上	同上	脱活乾漆技法覚書	『研究資料 脱活乾漆像の技 法』	同上	23年3月30日	無		
11	無形文化財の保存・活用に 関する調査研究	研究員 菊池理予	我が国における工芸技術保護の歴史と現状-染織技術を中 心として一	『無形文化遺産研究報告』5	同上	23年3月31日	無		
12		音声・映像記録研究室長 飯島 満	フィルモン音帯に関する調査報告	同上	同上	同上	無		

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
13	無形文化財の保存・活用に 関する調査研究	同上	資料紹介 二代目鶴沢清八「義太夫節の種類と解説」	『無形文化財の伝承に関する資 料集』		23年 3月31日	無
14	同上	無形文化財研究室長 高桑 いづみ	翻刻と解題「横笛細工試律便覧」	同上	同上	同上	無
15	同上	同上	独吟一管「海道下り」の伝承再考	『楽劇学』18	楽劇学会	23年3月31日	有
16	同上	研究員 菊池理予	工芸技術に関する研究-「江戸小紋工芸技術記録」を通じ て一	『無形文化財の伝承に関する資 料集』	東京文化財研究所	23年3月31日	無
	無形民俗文化財の伝承状況 に関する調査研究	主任研究員 俵木 悟	無形民俗文化財の映像記録-「使える記録」-の実現に向けて	『日本民俗学』264	日本民俗学会	11月30日	有
18	同上		無形民俗文化財の公開と国際交流-「国際民俗芸能フェスティバル」の15年-	『無形民俗文化財の保存・活用 に関する調査研究報告書』	東京文化財研究所	23年3月31日	無
19	同上		民俗芸能の伝承組織についての一試論-「保存会」という 組織のあり方についてー	同上	同上	同上	無

〇文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(2件)

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
	文化財の非破壊調査法の研 究		ポータブル蛍光X線分析装置による沖縄県所在ガラス製品 の現地調査	保存科学 50	東京文化財研究所	23年3月	有
2	同上		可視反射スペクトルと二次微分スペクトルによる青色色材 の判別に関する検討	同上	同上	同上	有

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進(18件)

	研究テーマ	発表者(職名・名前)	S的な文援拠点として先端的調査研究等の別 論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	文化財の生物劣化対策の研 究	生物科学研究室長 木川り か 他	日光の歴史的建造物において粘着トラップ (ハエトリリボン) に捕獲された甲虫の集計方法と調査結果	保存科学 50	東京文化財研究所	23年3月	有
2	同上	同上	日光の歴史的建造物を加害するシバンムシ類の殺虫処理方 法の検討	同上	同上	同上	有
3	文化財の保存環境の研究	主任研究員 犬塚将英 他	収蔵庫内の温湿度環境とスチール棚の表面温度	同上	同上	同上	有
4	同上	保存科学研究室長 佐野千 絵	内装材の異なる収蔵庫の空気環境の比較	同上	同上	同上	無
5	同上	保存修復科学センター長 石﨑武志 他	亜寒帯湿潤大陸性気候における資料保存環境調査-付着 菌・空中浮遊菌のサンプリングを中心として	同上	同上	同上	有
6	周辺環境が文化財に及ぼす 影響評価とその対策に関す る研究	イ・チャンヒ、チョ・ジ ヒョン、キム・ジョン、研 究員 森井順之、イ・ミョ ンソン、キム・サドク	日本・大分県臼杵磨崖仏の損傷度評価と微気候環境分析	日韓共同研究報告書2010	国立文化財研究所 /東京文化財研究 所	23年 2月1日	無
7	同上	イ・ミョンソン、イ・ジェ マン、研究員 森井順之	臼杵磨崖仏に対する保存処理剤の適用研究	同上	同上	同上	無
8	同上	研究員 森井順之	臼杵磨崖仏に対する保存処理剤の適用研究	同上	同上	同上	無
9	同上	客員研究員 藤井 義の 研究員 藤井 義の 研究員 を 一年 教科学 日本 明 りか ・ 原島 誠 ・ 喜 友 研究員 ・ 中 の ・ 原 に 東 の で の で り で り か ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・ ア ・	厳島神社大鳥居の生物劣化調査	保存科学50号	東京文化財研究所	23年3月	有
10	文化財の防災計画に関する 調査研究	HANAZATO Tohsikazu, MINOWA Chikahiro, NIITSU Yasushi, NITTO Kazuhiko, KAWAI Naohito, MAEKAWA Hideyuki and MORII Masayuki	Seismic and Wind Performance of Five-Storied Pagoda of Timber Heritage Structure	Advanced Materials Research		10月1日	有
11	同上	中村豊、斎田淳、立花三 裕、研究員 森井順之、井 上修作、大町達夫	鎌倉大仏およびその周辺地盤の常時微動調査	第13回日本地震工学シンポジウ ム論文集(PDF版)	日本地震工学会	11月1日	有
12	伝統的修復材料及び合成樹 脂に関する調査研究	NAKAURA Yoshiko, NISHIMOTO Tomoyuki, SADAMORI Tatsuya, OKURA Takanori, SAKAMOTO Kurara, CHAEN Hiroto, FUKUDA Shigeharu, HAYAKAWA Noriko, OKA Yasuhiro, andINOUCHI Naora	Preparation of a Furunori-like Polysaccharide and the Similarity with Structures and Physical Properties of Furunori Samples	STARCH -Recent Advances In Biopolymer Science And Technology-	Polish Society of Food Technologist' Malopolska Branch	23年 3月1日	有
13	同上	主任研究員 加藤雅人、君 嶋隆幸、酒井良次、保存修 復科学センター副センター 長 川野邊 渉	三軸織物・紙貼合シートの特性—紙本絹本文化財の裏打を 想定して—	保存科学 50	東京文化財研究所	23年3月	有
14	同上	伝統技術研究室長 北野信 彦・客員研究員 本多貴 之・松尾昭子・高妻洋成	鷹島海底遺跡出土の元寇関連漆製品に関する調査	同上	同上	同上	有
15	近代の文化遺産に関する調 査研究	近代文化遺産研究室長 中 山俊介	コンクリート構造物の保存と修復	未来につなぐ人類の技10「コンクリート構造物の保存と修 復」	東京文化財研究所	23年3月	無
16	近代の文化遺産に関する調 査研究	同上	Conservation and Utilization of Steel Structures	Preservation and Utilization of Steel Structures	東京文化財研究所	23年3月	無

		研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
1	17		近代文化遺産研究室長 中 山俊介	鉄構造物の保存と修復	防錆管理 54号	(社)日本防錆技術 協会	23年3月	無
1	18	同上	音声・映像記録研究室長 飯島 満、客員研究員 永 井美和子、近代文化遺産研 究室長 中山俊介	フィルモン音帯に関する調査報告	無形文化遺産研究報告書	東京文化財研究所	23年3月	無

○文化財の保護制度や施策の国際的動向及び国際協力及び国際共同研究(2件)

	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究		越前式石廟に施された彩色装飾について	考古学と自然科学	日本文化財科学会	6月	有
Г	2 同上	同上	日本における覆屋の歴史について	保存科学 50	東京文化財研究所	23年3月	有

【奈良文化財研究所】 147件 ○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進(77件)

O:	乂化財に関する基礎□ □	的・体系的な調査・研 Ⅰ	†笂の推進(//仵)				レフュ
	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	リー有無
1	文化的景観に関する調査研 究	清水重敦(景観研究室長)	変化を前提とするものとしての文化的景観	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	6月	無
2	同上	松本将一郎(アソシエイト フェロー)・惠谷浩子(研 究員)	伝統的家屋からみた宇治の文化的景観	同上	同上	同上	無
3	同上	惠谷浩子(研究員)	宇治の文化的景観	奈文研ニュースNo.38	奈良文化財研究所	9月	無
4	同上	同上	広域の文化的景観をどう捉えるか 四万十川流域を事例と して	文化的景観研究集会(第2回) 報告書	奈良文化財研究所	12月	無
5	同上	松本将一郎(アソシエイト フェロー)	都市・集落を文化財とすること一伝統的建造物群と文化的 景観一	遺跡学研究 第7号	日本遺跡学会	11月	無
6	古都所在寺社の歴史資料等 に関する調査研究	吉川聡(歴史研究室長)	整備以前の平城宮跡	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	6月	無
7	同上	同上	石山寺一切経「大智度論」の基礎的研究	石山寺資料叢書 史料篇第三	法蔵館	23年3月	無
8	歴史的建造物の保存・修 復・活用の実践的研究	成田聖也(任期付研究員)· 他1名	西トップ示威の建築調査―2009年度の成果―	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
9	同上	箱崎和久(遺構研究室長)	ベトナム中部民家の特質一フエ省フクティック村の調査か ら一	同上	同上	同上	無
10	同上	海野聡(研究員)	法隆寺所蔵古材調査 1	同上	同上	同上	無
11	同上	黒坂貴裕(研究員)	奈良県近代和風建築とその設計者	同上	同上	同上	無
12	歴史的建造物の保存・修 復・活用の実践的研究	鈴木智大(研究員)	山木遺跡出土建築部材の調査	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
13	同上	島田敏男(建造物研究室 長)	日本の遺跡における建築復元の考え方	第2回韓・中・日建築文化遺産 保存学術会議予稿集	第2回韓・中・日 建築文化遺産保存 学術会議	9月	無
14	同上	大林潤(研究員)	日本における発掘遺構と復元研究	同上	同上	同上	無
15	同上	清水重敦 (景観研究室長)	平城宮第一次大極殿の復元と古代建築遺構研究の現在	同上	同上	同上	無
16	同上	島田敏男(建造物研究室 長)	魚梁瀬森林鉄道を歩く①~⑥	高知新聞	高知新聞社	5月19日~24 日	無
17	同上	同上	大極殿の復原と研究	毎日新聞	毎日新聞社	5月12日	無
18	平城宮跡東院地区(第469 次)の発掘調査	芝康次郎(研究員)·桑田訓 也(研究員)	平城宮東院地区西北部の調査 (平城第469次)	奈文研ニュースNo.38	奈良文化財研究所	9月	無
19	同上	芝康次郎(研究員)·桑田訓 也(研究員)	平城宮東院地区の発掘調査-第469次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
20	薬師寺(第474次)の発掘 調査	海野聡(研究員)	薬師寺の調査	奈文研ニュースNo. 39	同上	12月	無
21	同上	同上	薬師寺境内の発掘調査-第474次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
22	薬師寺(第475次)の発掘 調査	森川実(研究員)	薬師寺休ヶ丘八幡宮の調査	奈文研ニュースNo. 39	同上	12月	無
23	同上	同上	薬師寺休ヶ丘八幡宮の発掘調査-第475次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
24	薬師寺(第476次)の発掘 調査	今井昇輝(研究員)	薬師寺の調査	奈文研ニュースNo. 40	同上	23年3月	無
25	春日東塔跡(第477次)の発 掘調査	海野聡(研究員)	春日東塔跡の発掘調査-第477次	同上	同上	同上	無
26	同上	同上	春日東塔跡の調査	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
27	平城宮跡東方官衙地区 (466次)の発掘調査	国武貞克(研究員)ほか	平城宮東方官衙地区(平城第466次)の調査	奈文研ニュースNo. 37	同上	22年6月	無
28	同上	国武貞克(研究員)・金田 明大(主任研究員)	東方官衙地区の調査―第466次	奈良文化財研究所紀要2010	同上	22年6月	無
29	同上	国武貞克(研究員)ほか	東方官衙地区の調査—第466次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
30	同上	金田明大(主任研究員)	土の中には何かがある?? 平城宮東方官衙地区の調査	奈文研ニュースNo.39	同上	12月	無
31	藤原宮跡朝堂院地区の発掘 調査	若杉智宏(研究員)・森先 一貴(研究員)・山本崇 (主任研究員)	朝堂院の調査-第163次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
32	藤原宮跡朝堂院地区の発掘 調査	森先一貴(研究員)	藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第163次)	奈文研ニュースNo. 38	奈良文化財研究所	9月	無
33	同上	若杉智宏(研究員)・深澤 芳樹(都城発掘調査部長)	藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第163次)	奈文研ニュースNo. 39	同上	12月	無
34	飛鳥地域の発掘調査	庄田慎矢(研究員)・玉田芳 英(考古第二研究室長)・廣 瀬覚(研究員)・黒坂貴裕(研 究員)	水落遺跡の調査 第165次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
35	同上	庄田慎矢(研究員)	水落遺跡の調査(飛鳥藤原第165次調査)	奈文研ニュースNo. 40	同上	23年3月	無
36	飛鳥・藤原京跡出土遺物・ 遺構に関する調査研究等	山本崇(主任研究員)	解説	木簡黎明-飛鳥に集ういにしえ の文字たち	同上	10月	無
27	同上	同上	7世紀の紀年木簡	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無
37							

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
39	同上	石田由紀子(アソシエイト フェロー)	高台・峰寺瓦窯採集の瓦	同上	同上	同上	無
40	同上	豊島直博(主任研究員)	飛鳥池遺跡出土の銅製刀装具	同上	同上	同上	無
41	同上	降幡順子(主任研究員)	キトラ古墳出土遺物の保存処理	同上	同上	同上	無
42	同上	石田由紀子(アソシエイト フェロー)	瓦補遺	同上	同上	同上	無
43	同上	木村理恵(特別研究員)	藤原京右京七条二坊の井戸について	同上	同上	同上	無
44	同上	降幡順子(主任研究員)・木 村理恵(特別研究員)	坂田寺出土の地鎮具	同上	同上	同上	無
45	同上	番光(研究員)	甘樫丘東麓遺跡の調査-第161次	同上	同上	同上	無
46	同上	同上	甘樫丘東麓遺跡の調査(飛鳥藤原第161次)	奈文研ニュースNo.37	同上	6月	無
47	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	城倉正祥(研究員)	漢魏洛陽城 北魏宮城西南隅の発掘調査	奈良文化財研究所紀要 2011	同上	22年6月	無
48	同上	小池伸彦(考古第一研究室 長)	遼寧省朝陽地区隋唐墓副葬品の調査	奈文研ニュースNo. 37	同上	6月	無
49	同上	玉田芳英(考古第二研究室 長)	中国河南省文物考古局との共同研究	奈良文化財研究所紀要2011	同上	12月	無
50	同上	若杉智宏(研究員)	日韓発掘調査交流に参加して	奈文研ニュースNo. 40	同上	23年3月	無
51	同上	李熙濬	韓日発掘調査に参加して	奈文研ニュースNo. 40	同上	同上	無
52	庭園に関する調査研究	小野健吉(文化遺産部長)	平安時代庭園史の概観と研究の現状	平安時代庭園の研究(古代庭園 研究 II)	同上	同上	無
53	同上	同上	平安時代初期における離宮の庭園 一神泉苑と嵯峨院をめ ぐって一	同上	同上	同上	無
54	同上	同上	臨池伽藍の系譜と浄土庭園	同上	同上	同上	無
55	同上	高橋知奈津(研究員)	屏風歌にみる平安時代の『山里』	同上	同上	同上	無
56	同上	平澤毅(遺跡整備研究室 長)	奈良時代の庭園 一平安時代庭園検討の前提として一	同上	同上	同上	無
57	同上	小野健吉(文化遺産部長)	発掘庭園に見る日本庭園の成立	考古ジャーナルNo.599	ニューサイエンス 社	5月	無
58	同上	平澤毅(遺跡整備研究室 長)・粟野隆	東アジアにおける理想郷と庭園	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
59	同上	小野健吉(文化遺産部長)	(都市の文化)庭園	史跡で読む日本の歴史9・江戸 の都市と文化	吉川弘文館	6月	無
60	同上	平澤毅(遺跡整備研究室 長)	古代庭園の世界	古代の都2『平城京の時代』	同上	7月	無
61	同上	小野健吉(文化遺産部長)	(平城京の造営)庭園の姿	季刊考古学第112号・特集平城 京研究の現在	雄山閣	8月	無
62	同上	青木敬(研究員)	桂離宮と『桂垣』	遺跡学研究 第7号	日本遺跡学会	11月	無
63	同上	平澤毅(遺跡整備研究室 長)	名勝庭園の指定名称	同上	同上	同上	無
64	庭園に関する調査研究	青木敬(研究員)	『桂垣』の補修に関する研究	平成22年度日本造園学会関西支 部大会	日本造園学会	12月	無
65	同上	小野健吉(文化遺産部長)	古代日本の宮苑	百済研究第53輯	韓国忠南大学校百 済研究所	23年2月	無
66	同上	青木敬(研究員)	『桂垣』と『桂垣』裏ハチク林に関する研究	ランドスケープ研究第74巻第5 号	日本造園学会	23年3月	有
67	遺跡の保存・整備・活用に 関する調査研究	平澤毅(遺跡整備研究室 長)	遺跡整備と地域づくり	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
68	同上	小野健吉(文化遺産部長)	大極殿復元	古代の都2『平城京の時代』	吉川弘文館	7月	1
69	同上	平澤毅(遺跡整備研究室長)	名勝及び天然記念物浦富海岸の価値とその保護	平成22年度日本造園学会関西支 部大会	日本造園学会	12月	無
70	同上	同上	自然と文化の多様性をめぐる最近の国際的な動向と視点	がローバルランドスケープ通信 (Web公開)	同上	23年1月	無
71	同上	同上	造園学が取り組むべき『遺産』について	ランドスケープ研究第74巻第4 号	同上	23年2月	無
72	同上	同上	浦富海岸の名勝地としての価値とその保護	名勝及び天延記念物浦富海岸保 存管理計画方報告書	岩美町教育委員会	23年3月	無
73	同上	同上	名勝の保存管理計画策定に関する考察	ランドスケープ研究 第74巻第 5号	日本造園学会	23年3月	有
74	遺構の安定した公開・展示 き行うことを目的とした事 前調査法、保存技術並びに 監視技術の開発的研究	脇谷草一郎(研究員)	Application of Resitivity Image Profiling Method for Hydrological Analysis in Soil Structural Remains	22nd CIPA Symposium	CIPA	10月11日	有
75	遺構の安定した公開・展示 を行うことを目的とした事 前調査法、保存技術並びに 監視技術の開発的研究	研究員 脇谷草一郎	史跡ガランドヤ古墳における水の挙動に関する調査研究	奈良文化財研究所研究紀要2010	奈良文化財研究所	6月15日	無
76	同上	同上	遺跡保存を目的とした水の挙動に関する解析―日田市ガランドヤ古墳における調査事例―	日本文化財科学会第27回大会研 究発表要旨集	日本文化財科学会	6月26日	有
77	同上	同上	環境調査	史跡ガランドヤ古墳-史跡ガラ ンドヤ古墳の保存整備に伴う調 査報告書-	日田市教育委員会	3月31日	有

〇文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進(45件)

$\underline{\sim}$	大元別に関する制たり		170 07 1EXE (1011)				
	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
1	遺跡の測量・探査における 新たな技術の有効利用法の 研究	主任研究員 金田明大	文化財のための三次元計測入門	(書籍)	岩田書院	5月20日	無
2	同上	同上	いよいよ柱穴が見えてきた	文化財の壺	文化財方法論研究 会	5月22日	無
3	同上	主任研究員 金田明大・客 員研究員 西村 康・客員研 究員 西口和彦	建物の歴史を電磁波でみる—水戸市台渡里遺跡長者山地区 VII地点の探査—	日本文化財科学会第27回大会研 究発表要旨集	日本文化財科学会	6月26日	無
4	同上	主任研究員 金田明大	SVGによる遺構・遺物の記録と活用への基礎的検討	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	低コスト三次元レーザースキャナーの利用と実践	同上	同上	同上	無
6	同上	主任研究員 金田明大・客 員研究員 西村 康・客員研 究員 西口和彦	平城宮跡東方官衙地区におけるGPR探査	同上	同上	同上	無
7	同上	主任研究員 金田明大	東大寺境内における遺跡探査	東大寺大仏 天平の至宝	東京国立博物館	10月8日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
8	同上	同上	人類の来し方を空間情報から考える	月刊測量	日本測量協会	11月1日	無
9	年輪年代学研究	国武貞克(研究員)・藤井 博之(客員研究員)・吉岡直 人・浅野啓介(研究員)	檜扇の製作に関わる新知見	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	23年6月	無
10		山本崇(主任研究員)・藤井 博之(客員研究員)	平城宮木簡の樹種	同上	同上	同上	無
11	同上	大河内隆之(年代学研究室 長)・光谷拓実(客員研究 員)	年輪年代法による補訂	「中世禅宗様建築の研究」 関 口欣也著作集	中央公論美術出版	9月	無
12	同上	大河内隆之(年代学研究室 長)	年代をはかる	図説 平城京辞典	奈良文化財研究所	12月	無
13	同上	Mechtild Mertz,Takao ITOH	analysis of Wood Spcies in the Collection	In, ed. D.P. Leidy and D. Strahan	Wisdom Embodied:Chinese Buddhist and Daoist Sculpture in The Metropolitan Museum of Art	23年1月	無
14	同上	光谷拓実(客員研究員)	府中石田遺跡出土木材の年輪年代	福井県埋蔵文化財調査報告 第 121集 府中石田遺跡一舞鶴若 狭自動車道建設に伴う調査一	福井県教育庁埋蔵 文化財調査セン ター	23年3月	無
15	同上	同上	木崎遺跡出土木材の年輪年代	同上	同上	同上	有
16	同上	同上	曲物底板の年輪年代測定	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXIV 古渡路遺跡		23年3月	有
17	遺跡出土の動物遺存体や古 土壌の考古科学的分析によ る環境考古学研究	Tsuneo NAKAJIMA • Michiyo NAKAJIMA • Takeshi YAMAZAKI	Evidence for Fish Cultivation during the Yayoi Period in Western Japan.	International Journal of Osteoarchaeology 20-2	John Wiley & Sons, Ltd.	4月	有
18	同上	埋蔵文化財センター長 松 井章	粟津湖底遺跡の動物	よくわかる考古学	ミネルヴァ書房	5月	無
19	同上	同上		同上	同上	同上	無
20	同上	同上	渡来した習俗・技術	同上	同上	同上	無
21	同上	研究員 山崎健	近現代の奈良における貝釦製作残滓	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	6月	無
22	同上	同上	動物・植物遺存体(甘樫丘東麓遺跡の調査―第157・161	同上	同上	同上	無
23	同上	同上	次) その他(古宮遺跡の調査―第152-8次)	同上	同上	同上	無
24	同上	同上	動物遺存体(檜隅寺周辺の調査―第152次)	同上	同上	同上	無
-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	·	- 期初週仔体(僧隅寺周辺の調査―第159次) SX9361出土鎮壇具容器の内容物(興福寺南大門の調査―第	·			1
25	同上	同上	458次)	同上	同上	同上	無
26	同上	埋蔵文化財センター長 松 井章	サケ・マス類	人と動物の関わりあい -縄文 時代の考古学4-	同成社	10月	無
27	同上	同上	韓半島の動物考古学	季刊考古学113 日韓考古学の 新潮流	雄山閣	11月	無
28	遺跡出土の動物遺存体や古 土壌の考古科学的分析によ る環境考古学研究	同上	考古学から探る日本の環境と食文化の多様性	人間文化12	学共同利用機関法 人人間文化研究機 構	11月	無
29	同上	同上	豊後府内遺跡出土のオモゲーとその問題点	『坪井清足先生卒寿記念論文集 ―埋文行政と研究のはざまで ―』	坪井清足先生の卒 寿をお祝いする会	11月	無
30	同上	研究員 山崎健	「低湿地」という景観と資源環境—内水面漁撈を端緒として—	伊勢湾岸弥生社会シンポジウム・中期篇「大規模集落と弥生 社会」	伊勢湾岸弥生社会 シンポジウムプロ ジェクト	11月	無
31	同上	Bleed, P., A. Matsui	Why Didn't Agriculture Develop in Japan?A Consideration of Jomon Ecological Style, Niche Construction, and the Origins of Domestication.	Journal of Archaeological Method and Theory	Springer	2010年7月	有
32	同上	研究員 山崎健	「縄文時代」の使われ方—古環境復元と自然再生事業の接 点—	遺跡学研究 7	日本遺跡学会	11月	無
33	同上	埋蔵文化財センター長 松 井章・研究員 山崎健	環境	平城京事典	柊風舎	12月	無
34	同上	万字·明光頁 田桐庭 同上	環境考古学	同上	同上	同上	無
35	同上	同上	動物遺存体分析	同上	同上	同上	無
36	同上	同上	樹種同定	同上	同上	同上	無
37	同上	同上	古環境復原	同上	同上	同上	無
38	同上	研究員 山崎健	池島・福万寺遺跡出土の埋葬犬	池島・福万寺遺跡	大阪府文化財センター	23年1月	無
39	同上	同上	日本におけるジャコウネズミの渡来と分布に関する古記録	『スンクスの生物学』	学会出版センター	23年2月	無
40	同上	京都大学大学院人間・環境 学研究科 納屋内高史・埋 蔵文化財センター長 松井 章	カラカミ遺跡出土の動物遺存体(まとめ)	カラカミ遺跡	九州大学大学院人 文科学研究院考古 学研究室	23年3月	無
41	同上	埋蔵文化財センター長 松 井章	古代人の肉食の忌避という虚構	古代はいま 奈文研最前線	クバプロ	23年3月	無
一	同上	世 埋蔵文化財センター長 松 井 東 東 東 東 東 東 東 東 ま で に は で の に は で の に で の に で の に の に の の の の の の の の の の の の の	遺構土壌の水洗選別法による屋代遺跡群の縄文中期集落に おける生業活動の再検討	長野県立歴史館研究紀要17	長野県立歴史館	23年3月	無
42		生 金原裕美子					
42			旧練兵場遺跡から出土した動物遺存体と古人骨	旧練兵場遺跡	香川県埋蔵文化財 センター	23年3月	無
		生 金原裕美子 研究員 山崎健・客員研究	旧練兵場遺跡から出土した動物遺存体と古人骨 長割遺跡から出土した動物遺存体と古人骨	旧練兵場遺跡長割遺跡		23年3月 23年3月	無無

〇文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進 (17件)

	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
1	考古資料の材質・構造の調 査法及び保存・修復に関す る実践的研究	保存修復科学研究室長 高 妻洋成	テラヘルツ波イメージングの文化財建造物調査への応用	文化財保存修復学会第32回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学 会	6月12日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェ リー 有無
2	同上	同上	ミリ波およびテラヘルツ波の文化財への応用 I ―層構造調査へのテラヘルツ波イメージング技術の基礎研究―	日本文化財科学会第27回大会研 究発表要旨集	文化財保存修復学 会	6月26日	無
3	同上	同上	観察手法による高松塚古墳壁画表面の調査結果報告	同上	同上	同上	無
4	同上	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	高松塚古墳壁画の材料調査—蛍光X線分析による下地漆喰に関する調査 (2) —	同上	同上	同上	無
5	同上	客員研究員 肥塚隆保	国宝高松塚古墳壁画の材料調査—目地漆喰および下地漆喰 —	同上	同上	同上	無
6	同上	保存修復科学研究室長 高 妻洋成	木造文化財における彩色の劣化機構に対する電磁波の応用	同上	同上	同上	無
7	同上	研究員 田村朋美	紫色ガラスの分析科学的研究	同上	同上	同上	無
8	同上	保存修復科学研究室長 高 妻洋成	Conservation principles of archaeological heritages in Japan	International Symposium - Coservation Ethics for Rational Decision Making: the Dialogue between East and West	日本文化財科学会	11月2日	無
9	同上	同上	Non-Destructive Tests for Cultural Heritages in Japan	2010 International Symposium on Cultural Heritage Conservation	日本文化財科学会	12月6日	無
10	同上	客員研究員 肥塚隆保	古代ガラスの科学	月刊文化財	文化庁	11月1日	無
11	同上	研究員 田村朋美	材質とその歴史的変遷	同上	同上	同上	無
12	同上	客員研究員 肥塚隆保	韓国出土の古代ガラスの概要	同上	同上	同上	無
13	同上	都城発掘調査部主任研究員 降幡順子	キトラ古墳出土琥珀玉の保存処理	奈良文化財研究所研究紀要2010	奈良文化財研究所	6月15日	無
14	同上	保存修復科学研究室長 高 妻洋成	黒塚古墳出土鉄製遺物の保存修理	同上	同上	同上	無
15	同上	客員研究員 肥塚隆保	高松塚古墳壁画の材料調査	同上	同上	同上	無
16	同上	研究員 田村朋美	弥生時代のソーダ石灰ガラス	同上	同上	同上	無
17	同上	保存修復科学研究室長 高 妻洋成	木製遺物を包含する埋蔵環境の調査—青谷上寺地遺跡の土 壌と地下水—	考古学と自然科学	日本文化財科学会	6月5日	有

〇国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施(3件)

<u> </u>			まずのために必要な失敗的な明直的九の夫 別	E (9117			
	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
1	国土交通省が行う国営飛鳥 歴史公園キトラ古墳周辺地 区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	フェロー)・石橋茂登(主任 研究員)・高橋透(アソシエ	檜隈寺周辺の調査-飛鳥藤原第164次	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	23年6月	無
2	同上	石田由紀子(アソシエイト フェロー)	檜隈寺周辺の調査(飛鳥藤原164次)	奈文研ニュースNo.39	奈良文化財研究所	12月	無
3	国土交通省が行う大和紀伊 平野土地改良事業大和平野 県営飛鳥工区2号幹線の調 査及び保存活用に関する技 術的協力	廣瀬覚(研究員)・小田裕樹	藤原京左京七条一坊・八条一坊の調査一第166次	奈良文化財研究所紀要2011	同上	23年6月	無

〇情報発信機能の強化 (2件)

	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
1	文化財情報電子化の研究に 基づくデータベースの充実		大規模で構造的な遺構への遺構情報モデルの適用	地理情報システム学会講演論文 集	地理情報システム 学会	10月	無
2	同上	同上	遺構情報モデルに基づく地理空間データ作成のための製品 仕様書	埋蔵文化財ニュース144	奈良文化財研究所 埋蔵文化財セン ター	23年3月	無

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 (3件)

	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
1	地方公共団体が行う平城京 域発掘調査への援助・助言	中村亜希子(任期付研究員)	平城京左京一条二坊の調査一第472次	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	23年6月	無
2	同上		2010年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の 概要	同上	同上	同上	無
3	同上	青木敬	東方官衙南地区の調査一第162-1次	同上	同上	同上	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計1件 〇国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施(1件)

<u> </u>			2007年201日20日 6000日 600日 600日 600日 600日 600日 600日				
	研究テーマ	発表者(職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェ リー 有無
	文化庁が行う高松塚古墳・ キトラ古墳の壁画の調査及 び保存・活用に関する技術 的協力		発掘調査からみた壁画の保存環境	月刊文化財第563号	第一法規	8月	無

c-⑤ 調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

〇調査研究刊行物

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
「MUSEUM」625~630号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,742件(各457件)
「東京国立博物館紀要」46号	700	美術館・博物館・大学等 334件
「東京国立博物館文化財修理報告」XI	800	美術館・博物館・大学等 91件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXXI 聖徳太子絵伝4	600	美術館・博物館・大学等 193件
「東京国立博物館図版目録 古写経篇」	600	美術館・博物館・大学等 161件
「ザールデリー―パキスタン古代仏教遺跡の発掘調査―」	500	_
「根付 高円宮コレクション」	2,000	_

〇展覧会目録

	刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
特別展	「細川家の至宝―珠玉の永青文庫コレクション―」	_	美術館・博物館・大学等 112件
	「誕生!中国文明」		美術館・博物館・大学等 112件
	「東大寺大仏―天平の至宝―」	_	美術館・博物館・大学等 112件
	「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」	_	美術館・博物館・大学等 112件
特集陳列	「清朝末期の光景―小川一眞・早崎稉吉・関野貞―」	2000	美術館・博物館・大学等 16件
	「ワヤン―インドネシアの人形芝居―」	2000	美術館・博物館・大学等 16件
	「東京国立博物館所蔵正倉院の染物」	2000	美術館・博物館・大学等 16件

【京都国立博物館】

〇調査研究刊行物

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
文化財保存修理所 修理報告書6	450	大学・図書館・研究機関等
文化財保存修理所 修理報告書7	450	大学・図書館・研究機関等
研究紀要「学叢」第32号	790	美術館・博物館・大学等

〇展覧会目録

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
特別展覧会「長谷川等伯」	_	美術館・博物館・大学等
特別展観「上田秋成」	_	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「高僧と袈裟ーころもを伝え、こころを繋ぐー」	_	美術館・博物館・大学等
特熱展覧会「筆墨精神ー中国書画の世界ー」	_	美術館・博物館・大学等
特集陳列「篆刻家 園田湖城」	_	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

〇調査研究刊行物

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
奈良時代の塑造神将像	250部	美術館・博物館・大学・研究所等
大徳寺伝来五百羅漢図銘文調査報告書(東京文化財研究所と共編)	-	美術館・博物館・大学・研究所等

〇名品図録

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
なら仏像館名品図録	8,500部	美術館・博物館・大学・研究機関等

〇展覧会目録

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
平城遷都1300年記念 大遣唐使展	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
仏像修理100年	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
第62回正倉院展	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
The 62 th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
おん祭と春日信仰の美術	-	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

〇調査研究刊行物

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
九州国立博物館紀要「東風西声」第6号	950部	美術館・博物館・大学・研究機関等
神々の青銅器リーフレットNo.5	5000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
国際セミナー アジアの螺鈿 予稿集	550部	美術館・博物館・大学・研究機関等
九州国立博物館 博物館科学部門の取り組み皿 (2009-2010)	5000部	美術館・博物館・大学・研究機関等

〇展覧会目録

	刊 行 物 名	発行部数	配布先
特別展	「パリに咲いた古伊万里の華」	1	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「馬 アジアを駆けた二千年」	5,500部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「誕生!中国文明」	-	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「没後120年 ゴッホ展」		美術館・博物館・大学・研究機関等
	「Artisanship and Aesthetic of Japan and Thailand」		美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示	「湖の国の名宝展」	3000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「茶の湯を楽しむⅢ 名品でたどる室町から桃山の茶」	2500部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「館蔵 仏教美術 名品展」	3000部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「邪馬台国 九州と近畿」	1700部	美術館・博物館・大学・研究機関等
	新春特別公開「徳川美術館所蔵 姫君の金銀香道具」リーフレット	5000部	館内、美術館等
	国宝 琉球国王尚家関係資料修理完成記念展 リーフレット	3000部	那覇市・一般観覧者

【東京文化財研究所】

〇調査研究刊行物

〇調査研究刊行物		
刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
東京文化財研究所年報	1, 000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	5, 000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第41~44号	各5, 000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュースダイジェスト(東文研ニュース英語版)第8~9号	各5, 000	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成21年版 日本美術年鑑		博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 401~403号		博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究 第5号		博物館・美術館・大学・研究機関等
第5回無形民俗文化財研究協議会報告書		博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 50号		博物館・美術館・大学・研究機関等
第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書		参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
研究資料 脱活乾漆像の技法		博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
平等院鳳凰堂仏後壁調査資料目録—蛍光線画像編—		博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
日本絵画史年紀資料集成 十五世紀		博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
大徳寺五百羅漢図報告書	250	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
東京文化財研究所蔵書目録8 漢籍	600	博物館・美術館・大学・研究機関・図書館等
子ども向けパンフレット	10000	施設見学に来所した小中高生等
『無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
無形文化財の伝承に関する資料集	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
第34回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「「復興」と文化遺産」(予稿集)	300	研究集会参加者、関係各所
在外日本古美術品保存修復協力事業平成21年度修復報告書(平成22年度)	1, 000	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2010年度	300	研究集会参加者、関係各所
日韓共同研究報告書2010 (大韓民国・国立文化財研究所との共同刊行)		研究集会参加者、関係各所
臼杵磨崖仏保存環境調査報告書		研究集会参加者、関係各所
文化財の防災計画に関する研究報告書		研究集会参加者、関係各所
International Course on Conservation of Japanese Paper 2010		研修参加者、関係各所
Restoration of Japanese Paintings - Advanced Technology and Traditional Techniques /	400	· 听修参加名、 舆保各别
日本絵画の修復 - 先端と伝統-	800	研究集会参加者、関係各所
未来につなぐ人類の技10「コンクリート構造物の保存と修復」	1, 000	研究集会参加者、関係各所
Preservation and Utilization of Steel Structures	1, 000	研究集会参加者、関係各所
アジア文化遺産国際会議報告書 『東アジア地域の文化遺産-文化遺産保護国際協力活動を 通じて我々は何を発見し共有しうるか』	300	会議出席者・関係機関等
国際文化財保存修復研究会報告書 『覆屋保存を考える』	500	研究会出席者・関係機関等
アジア文化遺産国際会議報告書 『西アジアの文化遺産ーその保護の現状と課題』業務報告書	20	関係機関等
ー アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成22年度成 果報告書	65	関係機関等
關於陝西省墓葬壁画記録保存方法的研究2010	300	関係機関等
敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2010		関係機関等
アジナ・テパ仏教寺院考古学調査報告		関係機関等
バーミヤーン遺跡保存事業概報-2009・2010年度(第9・10次ミッション)-		関係機関等
バーミヤーン仮教 石窟の建築構造およびその意匠と技法		関係機関等
	230	
タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復 2009年度(第5次~第7次ミッション)	450	関係機関等
タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所アーカイヴ、カフカハ遺跡群出 土壁画		関係機関等
カライ・カフカハⅠ、Ⅱ遺跡出土壁画資料集 写真編 2		関係機関等
アジャンター第2窟、第9窟壁画 ドキュメンテーションと状態調査	500	関係機関等
Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings, 2008	500	関係機関等
出土金属の保存処理	200	関係機関等
Conservation treatment for Archaeological Metal Objects	400	関係機関等
海外の文化財保存修復専門家要請を目的とする国際研修等の実施に関する研究会報告書	100	関係機関等
バーミヤーン遺跡保存事業概報-2009・2010年度(第9・10次ミッション)-	500	関係機関等
平成22年度協力相手国調査 ブータン	500	関係機関等
平成22年度協力相手国調査 ブータン 英語	130	関係機関等
被災文化遺産復旧に係る報告書―支援実施国編		関係機関等
被災文化遺産復旧に係る報告書―支援実施国編 英語		関係機関等
第6回研究会遺跡の情報発信と地域への還元		関係機関等
文化遺産保護は平和の礎をつくる予稿集		関係機関等
文化遺産保護は平和の礎をつくる報告書		関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット		関係機関等
文化遺産国際協力コンソーシアムパンフレット 英語		関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介		
		関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介 英語	275	関係機関等

刊 行 物 名	発行部数		配	布	先	
「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」2010年度業務報告書	50	関係機関等				
「東京文化財研究所とモンゴル教育・文化・科学省および文化芸術局との拠点交流事業」2010 年度業務報告書 建造物	100	関係機関等				
「東京文化財研究所とモンゴル教育・文化・科学省および文化芸術局との拠点交流事業」2010 年度業務報告書 碑文・岩画	200	関係機関等				
中央アジア出土壁画の保存修復2010	50	関係機関等				
「東京文化財研究所と中央アジア諸国における文化財保護に関する拠点交流事業」タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画片の修復(第8次、9次、10次ミッション)2010年度業務報告書	50	関係機関等				
『西スマトラ州パダンにおける歴史的建造物および町並み復興支援』	100	関係機関等				
『西スマトラ州パダンにおける文字文化財復興支援』	100	関係機関等				
国際資料室蔵書目録	100	関係機関等				
文化財保護関連法令シリーズ タジキスタン	300	関係機関等				
文化財保護関連法令シリーズ ブータン	300	関係機関等				
フランス文化財法典(四~七巻)	300	関係機関等		•	•	

【奈良文化財研究所】 〇調査研究刊行物

刊行物名	発行部数	配 布 先
奈良文化財研究所紀要2010	3000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要2010	3500	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.37~40	各3000	大学、研究機関、図書館等
埋蔵文化財ニュースNo.142~145	142 : 3,500 143 : 2,500 144 : 3,000 145 : 2,500	教育委員会、図書館、博物館等
西トップ遺跡調査報告書	600	大学、研究機関、図書館等
カンボジア王国アンコール遺跡群西トップ寺院遺跡保全事業 ニュースレター2号、3号	各1000	来訪者等
キトラ古墳壁画四神	8000	館内観覧者
飛鳥の冶金関連遺跡	600	館内観覧者
小さな石器の大きな物語(図録)	2000	館内観覧者
飛鳥資料館 案内リーフレット	30000	館内観覧者
キトラ古墳壁画フォトマップ資料	800	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
平城宮跡発掘調査50周年記念 天平びとの声をきく一地下の正倉院・平城宮木簡のすべて	600(日) 500(中) 1000(英) 500(韓)	館内観覧者
測る、知る、伝える一平城京と文化財ー	10000	館内観覧者
文化財を測る、知る、伝える の最前線-空間情報科学と測量・計測技術を用いた文化財 研究-	8000	館内観覧者
発掘速報展 平城2009·2010	10000	館内観覧者
木簡黎明-飛鳥に集う いにしえの文字たち(図録)	2500	館内観覧者
木簡黎明-飛鳥に集う いにしえの文字たち(カタログ)	2000	館内観覧者
飛鳥の考古学(カタログ)	2000	館内観覧者
文化的景観研究集会(第2回)報告書	1000	大学、研究機関等
四万十川流域の文化的景観調査報告書	600	大学、研究機関等
文化的景観研究集会(第3回)講演・報告資料集	1000	大学、研究機関等
明治時代平城宮跡保存運動史料集	600	大学・研究機関・博物館・図書館等
重要文化財建造物現状変更説明 1956~1958(本文編)	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明 1956~1959(図版編)	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
平城京第一次大極殿の復元に関する研究 2 木部	700	大学、研究機関
ベトナム社会主義共和国 フクティック村 村落調査報告書	700	大学、研究機関
平安時代庭園の研究(古代庭園研究Ⅱ)	700	大学、研究機関等
遺跡内外の環境と景観〜遺跡整備と地域づくり〜 平成21年度遺跡整備・活用研究集会(第4回)報告書	1000	大学、研究機関等
大極殿彩色パンフレット	10000	館内観覧者
平城宮跡資料館リーフレット	10000	館内観覧者
奈良文化財研究所紹介パンフレット(子供向け)	10000	来訪者等
古代東アジアの造瓦技術	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
奈良文化財研究所研究報告4 官衙と門(報告編、記録資料編)	各600	大学、研究機関、図書館等
漢長安城桂宮	700	大学、研究機関、図書館等
日韓文化財論集Ⅱ	600	大学、研究機関、図書館等
平城宮発掘調査出土木簡概報(40)	1000	大学、研究機関
平城宮発掘調査報告XVII(第一次大極殿院)	600	大学、研究機関
山木遺跡出土建築部材調査報告書	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
平城京辞典	200	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
藤原宮跡資料室案内	20000	来訪者等、館内観覧者
特別史跡藤原宮跡	20000	来訪者等、館内観覧者
飛鳥藤原第165次 発掘調査現地見学会資料(水落遺跡)	2200	現地説明会見学者等
大極殿パンフレット(英語)	1300	館内観覧者
731±WY 17 7 7 7 1 \\\ \AHI/	1000	NHI INVICE EI

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

c-⑥ 科学研究費補助金による調査研究

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
81件	15件	2件	1件	6件	21件	36件

【東京国立博物館】15件

	未水田工序初始】 ¹⁰ 厅							
	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)			
1	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的 保存システムの研究	神庭 信幸	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(S)	31, 330			
2	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究	島谷 弘幸	学芸研究部長	基盤研究(A)	8, 190			
3	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	金子 啓明	特任研究員	基盤研究(B)	2, 600			
4	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究ー「正倉院裂」を中心に一	澤田 むつ代	特任研究員	基盤研究(B)	2, 340			
5	文化財保護の歴史に関する基礎的研究	高橋 裕次	学芸企画部博物館情報課長	基盤研究(B)	4, 030			
6	中国書画の表装に関する基礎的研究	富田 淳	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	1, 820			
7	清時代末期の訪中調査における写真資料に関する調査研究	関 紀子	学芸企画部博物館情報課情報管 理室アソシエイトフェロー	基盤研究(C)	1, 300			
8	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究	神辺 知加	学芸企画部博物館教育課教育講 座室主任研究員	基盤研究(C)	1, 820			
9	宮廷工芸に関する物質文化的研究—生活感のある工芸史の構築 をめざして—	猪熊 兼樹	学芸研究部列品管理課貸与特別 観覧室主任研究員	基盤研究(C)	2, 080			
10	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する 基礎的研究	小山 弓弦葉	学芸企画部企画課特別展室主任 研究員	若手研究(A)	2, 860			
11	原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究 (H22.7.31担当研究員の異動により補助事業廃止)	植田 彩芳子	学芸研究部企画課特別展室任期 付研究員	若手研究(B)	780			
12	高度な復元作業のための制作空間の情報化	河内 晋平	学芸研究部調査研究課貸与特別 観覧室アソシエイトフェロー	研究活動スター ト支援	988			
13	狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究	安藤 香織	学芸研究部列品管理課登録室ア ソシエイトフェロー	研究活動スター ト支援	325			
14	東京国立博物館所蔵古文書データベース	高梨 真行	学芸研究部調査研究課書跡・歴 史室主任研究員	研究成果公開促 進費(研究成果デ ータベース)	2, 500			
15	東京国立博物館所蔵印譜データベース	関紀子	学芸企画部博物館情報課情報管 理室アソシエイトフェロー	研究成果公開促 進費(研究成果デ ータベース)	2, 700			

【京都国立博物館】 2件

		研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
	1	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的 考察	佐々木 丞平	館長	基盤研究(A)	5, 200
ı	2	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究	赤尾 栄慶	学芸部上席研究員	基盤研究(B)	4 550

【奈良国立博物館】 1件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流	湯山 賢一	館長	基盤研究(A)	10, 790

【九州国立博物館】 6件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築	河野 一隆	学芸部企画課 文化交流展室長	基盤研究(A)	8450
2	X線CTスキャナーによる中国古代青銅器の構造技法解析	今津 節生	学芸部博物館科学課 環境保全室長	基盤研究(B)	3900
3	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸 技術	臺信 祐爾	学芸部文化財課長	基盤研究(B) 海外	4030
4	アジアの木地螺鈿-その源流、正倉院宝物への道をたどる-	小林 公治	学芸部文化財課 資料管理室長	基盤研究(C)	1560
5	五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究	市元 塁	学芸部企画課研究員	若手研究(B)	1040
6	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究	志賀 智史	学芸部博物館科学課 主任研究員	若手研究(B)	1560

【東京文化財研究所】 21件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	高松塚古墳壁画劣化要因微生物の遺伝・表現形質等基礎データの 総合的構築	佐野 千絵	保存修復科学センター 保存科学研究室長	基盤研究(A)	8, 190
2	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	清水 真一	文化遺産国際協力センター長	基盤研究(A) (海外)	11, 050
3	歴史的建造物を構成する部材の劣化と対策	石﨑 武志	保存修復科学センター長	基盤研究(B)	3, 510
4	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発 一美術史家の眼を引継ぐ	田中淳	企画情報部長	基盤研究(B)	4, 290
5	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川 典子	保存修復科学センター研究員	基盤研究(B)	13, 000
6	敦煌芸術の科学的復原研究―壁画材料の劣化メカニズムの解明 によるアプローチ	岡田 健	文化遺産国際協力センター 国際情報研究室長	基盤研究(B)	8, 580
7	│ 文化財の被災履歴データベースによる脆弱性評価と保存計画策 │ 定への活用に関する研究	二神 葉子	文化遺産国際協力センター 主任研究員	基盤研究(C)	1, 300
8	戦災を受けた歴史的建造物の復旧過程が文化財保護制度に与え た影響に関する研究	秋枝 ユミイザ ベル	文化遺産国際協力センター特 別研究員	基盤研究(C)	2, 080
9	日本絵画材料の時代的変遷に関する調査研究	早川 泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究(C)	1, 300

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
10	建築文化財における外観塗装材料の変遷と新塗料開発に関する 研究	北野 信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究(C)	390
11	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究	加藤 雅人	保存修復科学センター研究員	基盤研究(C)	780
12	古楽器の形態変化及びジャンル間の交流に関する総合研究	高桑いづみ	無形文化遺産部 無形文化財研究室長	基盤研究(C)	1, 040
13	大村西崖の研究	塩谷 純	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究(C)	1, 040
14	移動が困難な文化財のためのエックス線を用いた非破壊調査手 法の構築	犬塚 将英	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究(A)	5, 850
15	染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究ー技法書・絵画資 料・実作品の分析を通して	菊池 理予	無形文化遺産部研究員	若手研究(B)	1, 690
16	無形の民俗文化財の保護事業の実態と効果に関する民族誌的研 究	俵木 悟	無形文化遺産部 主任研究員	若手研究(B)	650
17	デジタルカメラを用いた文化財資料表面付着物の簡便な判別方 法の研究	吉田 直人	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究(B)	1, 170
18	「エフタル期」の図像資料の特定と考察:バーミヤン、ソグド、 クチャを中心に	影山 悦子	文化遺産国際協力センター 特別研究員	若手研究(B)	1, 040
19	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井 舞	企画情報部研究員	若手研究(B)	1, 040
20	アルメニアの完新世初頭における先史文化の考古学研究	有村 誠	文化遺産国際協力センター特 別研究員	若手研究(B)	1, 820
21	インド洋西海域の歴史的港市におけるインド人の居住空間形成 に関する研究	岡村 知明	文化遺産国際協力センター 客員研究員	研究活動スター ト支援	1, 937

【奈良文化財研究所】36件

	示及文化射研先別』30件 研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
	木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と綜合的研究拠点				
1	データベースの構築	渡邉 晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究(S)	23, 660
2	ミリ波およびテラヘルツ波を用いた文化財の新たな非破壊診断技術 の開発研究	高妻 洋成	埋蔵文化財センター保存修復科 学研究室長	基盤研究(A)	8, 970
3	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井 章	埋蔵文化財センター長	基盤研究(A)	12, 870
4	日本初期貨幣史の再構築	次山 淳	都城発掘調査部考古第三研究室 長	基盤研究(B)	5, 590
5	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究(前年度申請)	吉川 聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究(B)	3, 770
6	中国細石刃文化の基礎的研究-河南省霊井遺跡石器群の分析を中心 として-	加藤 真二	企画調整部展示企画室長	基盤研究(B) 海外	5, 070
7	青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究	難波 洋三	企画調整部長	基盤研究(C)	780
8	古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究	小池 伸彦	都城発掘調査部考古第一研究室 長	基盤研究(C)	780
9	中国産木材の顕微鏡的特徴に関するデータベースの構築	伊東 隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究(C)	910
10	古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究	小澤 毅	文化遺産部遺跡·調査技術研究室 長	基盤研究(C)	650
11	発掘調査成果の総合的な機械可読化に関する研究	森本 晋	企画調整部文化財情報研究室長	基盤研究(C)	1, 300
12	古代ガラス・釉薬の物性から探る製作技術に関する科学的研究	降幡 順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究(C)	1, 560
13	銅鏡にみる古代東アジアの文化交流 (育児休暇 H22年3月まで)	中川 あや	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 040
14	木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究	馬場 基	都城発掘調査部主任研究員	若手研究(B)	650
15	古代工房の復原的比較研究ー埴輪・須恵器・瓦の工房を中心に一	城倉 正祥	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 040
16	古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究	箱崎 和久	都城発掘調査部遺構研究室長	若手研究(B)	1, 040
17	南都諸大寺の中世寺院への転成過程に関する建築史学的研究	大林 潤	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 170
18	人骨に認められる刑罰痕の研究-打ち首・さらし首を例として-	橋本 裕子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究(B)	1, 300
19	造瓦からみた6~8世紀の日朝交渉	高田 貫太	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	65
20	オセアニア島嶼環境へのラピタ人の適応戦略を探る先史学的研究	石村 智	企画調整部研究員	若手研究(B)	1, 820
21	古代日韓における土木技術の系譜にかんする考古学的研究	青木 敬	都城発掘調査部研究員	若手研究 (B)	780
22	東アジアにおける失蝋法の出現と展開に関する考古学的研究	丹羽 崇史	企画調整部研究員	若手研究(B)	1, 040
23	古代東アジアにおける都城と葬送地に関する考古学的研究	小田 裕樹	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	650
24	校倉造りの歴史的変遷と地域特性に関する研究	黒坂 貴裕	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	910
25	復原設計を方法とする東アジア古代建築の空間及び造形原理の解明	清水 重敦	文化遺産部景観研究室長	若手研究(B)	780
26	中世日本と中国における木造建築の架構システムに関する比較研究	鈴木 智大	都城発掘調査部研究員	若手研究 (B)	910
27	土質遺構保存のための基礎的研究-動水勾配を利用した塩類析出抑制法の開発-	脇谷 草一郎	埋蔵文化財センター研究員	若手研究(B)	780
28	東アジアにおけるインド・パシフィックビーズの材質と流通に関す る科学的研究	田村 朋美	埋蔵文化財センター研究員	若手研究(B)	780
29	令前木簡と古代文書の機能論的検討による日本における古代文書行 政成立史の研究	山本 崇	都城発掘調査部主任研究員	若手研究(B)	1, 040
30	日本列島における更新世終末期から完新世初頭における資源獲得行動と社会変化の研究	国武 貞克	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 170
31	九州における更新世末の移動・居住システムの変遷過程に関する研 究	芝 康次郎	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 170
32	奈良時代の中央と地方における建築技術の研究	海野 聡	都城発掘調査部研究員	若手研究(B)	1, 170
33	近世建造物の年代測定を目指したツガ年輪パターンの拡充と産地推 定	藤井 裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究(B)	780
34	木簡の字形分析による日本古代の異体字の基礎的研究	井上 幸	都城発掘調査部特別研究員	研究活動スタート 支援	1, 261
35	東アジアにおける古本州島後期旧石器文化の特殊性とその形成過程 の研究	森先 一貴	都城発掘調査部研究員	研究活動スタート 支援	936
36	ラピタ人の考古学	石村 智	企画調整部研究員	研究成果公開促進 費(学術図書)	800

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

c-⑦ 客員研究員一覧

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
100人	16人	5人	5人	0人	49人	25人

【東京国立博物館】 16人

	Maria III Maria II a M						
	氏 名(所属)	研 究 課 題					
1	田辺 龍太(財団法人切手の博物館学芸員)	当館所蔵の切手に関する調査研究					
2	水上嘉代子(財団法人遠山記念館学芸員)	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究					
3	大脇 潔(近畿大学 文芸学部教授)	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に 関する研究					
4	金子 浩昌 (日本考古学協会会員)	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究					
5	東野 治之(奈良大学文学部教授)	法隆寺献納宝物「古今目録抄」に関する研究					
6	小笠原小枝 (日本女子大学 家政学部教授)	当館所蔵のインド更紗に関する研究					
7	宮下 佐江子(古代オリエント博物館学芸課長)	西アジア古代ガラスの研究					
8	澤田 正昭(国士舘大学21世紀アジア学部教授)	金銅製考古遺物の保存と修理の研究					
9	小野 博 (美術刀剣研磨技師)	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策					
10	松田 清(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)	当館所蔵の洋書及び関連資料の調査研究					
11	丸山 清志(城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手)	東洋民族オセアニア採集品の調査研究					
12	松原 茂(財団法人根津美術館学芸部長)	当館所蔵の絵画に関する研究					
13	湊 信幸(前東京国立博物館副館長)	当館所蔵の絵画に関する研究					
14	鍋島 稲子(台東区立書道博物館主任研究員)	中国書跡の調査研究					
15	岩崎 均史(たばこと塩の博物館主席学芸員)	当館所蔵の大小絵暦に関する研究					
16	宮永 美知代 (東京藝術大学美術学部助教)	解剖学・美術解剖学および医学関係資料の館史資料に関する調査研究					

【京都国立博物館】 5人

	氏 名(所属)	研究課題
1	奥平 俊六 (大阪大学大学院文学研究科教授)	京狩野に関する調査研究
2	山田 奨治(国際日本文化研究センター研究部准教授)	文化財情報に関する調査研究
3	宇都宮 啓吾 (大阪大谷大学文学部教授)	訓点資料としての典籍に関する調査研究
4	狩野 博幸(同志社大学文化情報学部教授)	近世絵画に関する調査研究
5	井上 一稔(同志社大学文学部教授)	彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】 5人

	氏 名 (所 属)	研究課題
1	井出誠之輔(九州大学大学院人文科学研究院教授)	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光(元宮内庁正倉院事務所保存課長)	漆工品の調査及び研究
3	森 郁夫(帝塚山大学人文学部教授)	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介(京都大学大学院文学研究科教授)	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所准教授)	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【東京文化財研究所】 49人

	京文化財研究所』 49人	研 究 課 題
1	氏 名 (所 属) 吉田千鶴子 (東京藝術大学非常勤講師)	
1	古田十鶴士(果只藝術天字非常 <u></u> 丁二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	近代美術資料群の調査・研究
2	相澤正彦 (成城大学文芸学部芸術学科教授)	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究 助言
3	│森下正昭(立命館アジア太平洋大学学長室IR AACSBプロジェク │トコーディネーター)	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究 助言
4	三上 豊 (和光大学表現学部教授)	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
5	中村佳史(国立情報学研究所研究員)	研究所アーカイブにおける情報の横断検索の構築のための調査研究と研究所言
6	丸川雄三(国立情報学研究所特任准教授)	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
7	福岡(深津)裕子(女子美術大学美術館学芸員)	工芸技術(主として染織関係)の伝承実態の調査
8	森下愛子(泉屋博古館職員)	工芸技術(主として陶芸)の伝承実態の調査
9	服部比呂美(国立国会図書館国際子ども図書館非常勤調査員)	無形民俗文化財における風俗・慣習及び民俗技術分野の調査
0	大島暁雄	「民族技術」及び民俗芸能以外の「風俗・慣習」に関する調査研究
11	星野 紘(成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻非常勤 講師)	「アジア太平洋地域無形文化遺産保護活動の調査研究」における研究交流
12	永井美和子(早稲田大学非常勤嘱託(演劇博物館))	無形文化財の記録作成
3	今岡謙太郎 (武蔵野美術大学造形学部教授)	無形文化財の記録作成
4	三浦定俊 ((財)文化財虫害研究所理事長)	光学的方法による文化財の技法材料に関する研究
5	藤井義久(京都大学農学部准教授)	文化財の生物劣化対策の研究
6	呂 俊民	文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究
7	三村 衛 (京都大学防災研究所准教授)	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
8	白石靖幸(北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学 科准教授)	環境のシミュレーション手法の研究
9	小椋大輔(京都大学大学院工学研究科助教)	環境のシミュレーション手法の研究
0	間渕 創	保存環境調査や科学的手法による材料同定、薬剤等の材料影響に関する科学的分析・研究
1	小峰幸夫 ((財)文化財虫害研究所研究員)	文化財の生物劣化対策の研究
2	板垣義郎 ((株)ACM)	修復材料に関する調査・研究
3	舘川 修	伝統材料に関する調査研究
4	横山晋太郎	近代の文化遺産の保存修復に関する調査・研究
5	長島宏行((財)日本航空協会)	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
26	小堀信幸 ((財)船の科学館)	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
27	中右恵理子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
28	安部倫子(SDラボラトリー)	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
29	本田貴之	文化財の伝統的修復に関する調査研究
10	大林賢太郎(京都造形芸術大学歴史遺産学科準教授、京都造形芸術大学日本庭園・歴史研究センター歴史遺産研究部門長)	修復材料に関する調査研究
31	中條利一郎(帝京科学大学名誉教授)	修復材料に関する調査研究
32	坪倉早智子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究

	氏 名 (所 属)	研 究 課 題
33	松島朝秀(東京農工大学科学博物館特任助教)	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
34	大河原典子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
35	今井健一郎	国内外の文化財保護法を中心とした文化財保護法についての調査研究
36	鋒井修一 (京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授)	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しに くくさせる環境条件に関する研究
37	柏谷博之 (国立科学博物館植物研究部菌類・藻類グループ長)	石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究
38	津村(高林)弘実	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研 究
39	前田耕作	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研 究協力
40	谷口陽子 (筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類 助教)	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研 究協力
41	松岡秋子	文化遺産拠点交流事業の推進に関する業務についての研究協力
42	津村宏臣 (同志社大学文化情報学部文化情報学科 准教授)	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
43	佐藤 桂(早稲田大学理工学部研究所客員研究員、サイバー大 学メンター)	「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産情報資源共有化に関連す る研究
44	佐藤香子	壁画の調査、分析研究、データの集積管理および、発掘現場における調査記録 方法の構築についての研究
45	岡村知明	「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産国際協力に関する研究
46	松田泰典 (国際協力機構大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト・専門家、東京藝術大学・東洋美術学校非常勤講師)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材 育成と技術移転事業における研究協力
47	伏屋智美 (Getty Conservation Instituteコンサルタント)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」国内 支援業務における研究協力
48	末森 薫 (国際協力機構 専門家)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」国内 支援業務における研究協力
49	藤澤 明	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」国内 支援業務における研究協力

【奈良文化財研究所】 25人

	氏 名 (所 属)	研究課題			
1	小林 謙一(元奈良文化財研究所企画調整部長)	遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究			
2	加藤 優 (徳島文理大学文学部教授)	寺院史、古文献学の研究			
3	吉川 真司(京都大学大学院文学研究科教授)	日本古代史の研究			
4	宮城 俊作(奈良女子大学生活環境学部教授)	ランドスケープデザイン及び都史デザインに関する調査研究			
5	黒崎 直(富山大学人文学部教授)	古代における宮殿・官衙・都城などに関する調査研究及び遺跡の保存・整備・ 活用の政策及び施策に関する調査研究			
6	小浦 久子(大阪大学大学院工学研究科准教授)	都市計画、観光デザインの研究			
7	EDWARDS Walter Drew(元天理大学国際文化学部教授)	考古学、文化人類学の研究			
8	巽 淳一郎(京都橘大学文学部文化財学科教授)	唐三彩・施釉陶器の研究			
9	西口 壽生(元奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第二研究 室長)	歴史時代土器及び古代都城遺跡、寺院の研究			
10	市 大樹 (大阪大学大学院文学研究科准教授)	木簡及び都城の研究ならびに日本古代地方支配の研究			
11	山中 敏史 (元奈良文化財研究所文化遺産部長)	遺跡及びその調査技術の研究			
12	西村 康((財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長)	遺跡探査及び測量の調査研究			
13	光谷 拓実(元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター年代学研 究室長)	年輪年代学及び木材解剖学についての調査研究			
14	百橋 明穂 (神戸大学大学院人文学研究科教授)	日本美術史についての調査研究			
15	千田 剛道(元奈良文化財研究所企画調整部上席研究員)	遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究			
16	增井 正哉 (奈良女子大学生活環境学部教授)	建築史、保存修復計画、地域計画に関する調査研究			
17	田中 大介 (大阪市立大学都市文化研究センターCOE研究員)	古代都城制及び古代貨幣・市場経済の研究			
18	佐藤 昌憲 (元京都工芸繊維大学繊維学部教授)	有機質遺物の材質分析に関する研究			
19	芹原 信生(元京都大学霊長類研究所教授)	自然人類学、動物考古学の研究			
20	松下 まり子	花粉分析(人と植物のかかわり)についての研究			
21	橋本 裕子	骨考古学(古人骨)・墓制・埴輪に関する調査研究			
22	伊東 隆夫 (元京都大学生存圏研究所教授)	木材組織学の研究			
23	藤井 裕之	年輪年代学の研究			
24	西口 和彦(元兵庫県立考古博物館調査専門委員)	遺跡探査の研究			
25	安田 龍太郎 (元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長)	遺跡・遺物とその調査技術			
20	女田 龍太郎 (九宗及入旧朔明九川/生蔵入旧朔センア 及)	退別・ 退物と(ひ詞直)以前			

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

d ウェブサイトアクセス件数

平成23年3月末現在

	H18	H19	H20	H21	H22
国立博物館計	12, 805, 988	13, 584, 803	13, 551, 529	16, 625, 712	13, 606, 613
東京国立博物館	3, 680, 028	5, 504, 468	5, 211, 261	5, 687, 673	4, 971, 306
京都国立博物館	757, 812	·	, ,	848, 486	(2, 077, 562)
奈良国立博物館	1, 249, 608	1, 402, 834	1, 230, 774	2, 630, 035 (639, 030)	3, 121, 270 (769, 293)
九州国立博物館	7, 118, 540	5, 943, 616	' '	7, 459, 518	4, 708, 102
	(1, 004, 766)	(1, 164, 425)	(1, 480, 341)	(1, 956, 287)	(1, 384, 701)
文化財研究所計	2, 388, 763	2, 449, 875	2, 106, 989	2, 448, 108	6, 466, 167
東京文化財研究所	1, 355, 306	1, 526, 409	1, 405, 278	1, 417, 203	1, 489, 091
奈良文化財研究所	1, 033, 457	923, 466	701, 711	1, 030, 905 (571, 283)	(641, 695)
機構本部		190, 624	228, 029	293, 317	270, 913
e国宝	288, 752	473, 006	383, 864	630, 399	659, 056

[※]アクセス件数の単位は、東京国立博物館・東京文化財研究所はユーザーセッション数、 奈良国立博物館・九州国立博物館・奈良文化財研究所はページビュー数、 京都国立博物館はトップページビュー数を使用している。 (括弧内の数値はユーザーセッション数)。

平成 22 年度特別展アンケート結果

東京国立博物館

- 1. 特別展「細川家の至宝」
- 2. 特別展「誕生!中国文明」
- 3. 特別展「東大寺大仏-天平の至宝-」
- 4. 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

京都国立博物館

- 5. 特別展覧会「長谷川等伯」
- 6. 特別展観 没後200年記念「上田秋成」
- 7. 特別展覧会「高僧と袈裟―ころもを伝え こころを繋ぐ―」
- 8. 特別展覧会「筆墨精神―中国書画の世界―」

奈良国立博物館

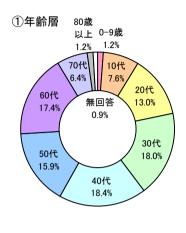
- 9. 特別展「大遣唐使展」
- 10. 特別展「仏像修理 100 年/至宝の仏像」
- 11. 特別展「第62回正倉院展」

九州国立博物館

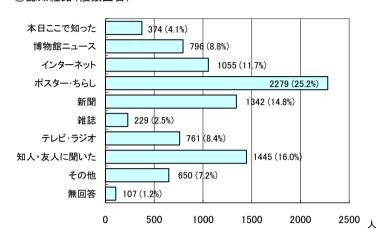
- 12.特別展「パリに咲いた古伊万里の華」
- 13. 特別展「馬 アジアを駆けた二千年」
- 14. 特別展「誕生!中国文明」
- 15. 特別展「没後 120年 ゴッホ展」

特別展「 細川家の至宝展 」 アンケート集計結果

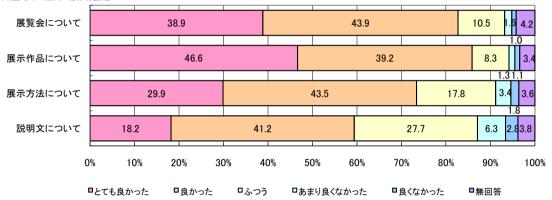
開催期間:平成22年4月20日(火)~平成22年6月6日(日)(43日間) 回答者数:7,336人(総入館者数:182,470人 アンケート回収率:4.02%)



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



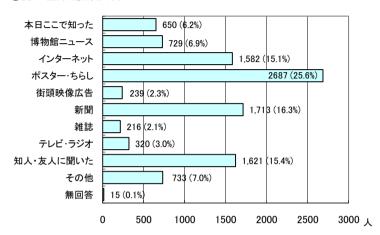
- ・良かった。楽しかった。感動した。素晴らしかった。満足した。
- ・細川家が貴重な美術品を後世まで守り続けてきたことに感銘を受けた。
- ・細川家や永青文庫のことが良く分かった。勉強になった。
- ・幅広いコレクションで興味深かった。色々な作品があり楽しかった。
- ・説明文文字が小さくて読みにくい。もっと大きな文字にしてほしい。
- もっと詳しい説明がほしかった。
- ・書状などの古文書類には現代語訳もつけてほしい。書き下し文だけでは意味が分からない。

特別展「 誕生!中国文明展 」 アンケート集計結果

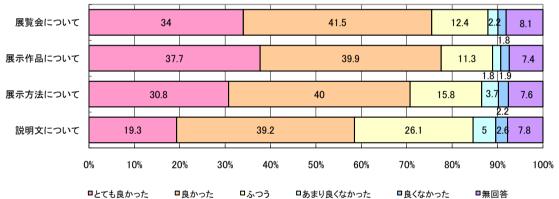
開催期間:平成22年7月6日(火)~平成22年9月5日(日)(55日間) 回答者数:9,346人(総入館者数:105,538人 アンケート回収率:8.86%)

①年齢層 80歳 以上 0-9歳 1.3% 0.8% 70代 10代 60代 14.6% 5.3% 20代 50代 13.9% 13.7% 30代 40代 16.2% 18 1%

②認知経路(複数回答)



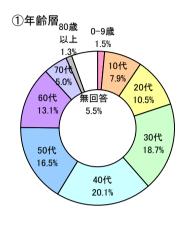
③展示に関する満足度



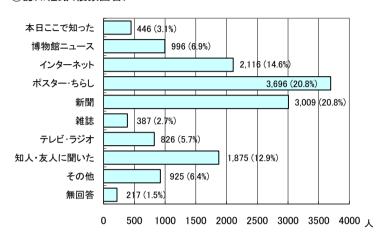
- ・良かった。素晴らしかった。感動した。満足した。興味深かった。など好評意見。
- ・展示方法に工夫があり見やすかった。
- ・中国文明についてよく分かった。勉強になった。
- 会場が空いていたのでゆっくり鑑賞することができた。
- もっと詳しい説明がほしかった。
- ・内側が見えない作品には鏡を、小さくて見にくい作品には拡大鏡をつけてほしい。
- ・作品の時代がバラバラでテーマも絞られていないので、まとまりがなく混乱した。

特別展「東大寺大仏展」 アンケート集計結果

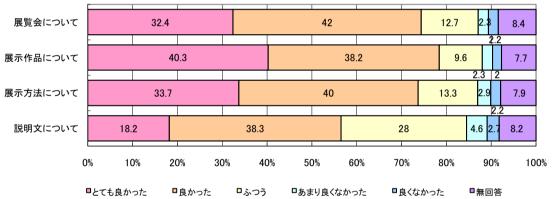
開催期間:平成22年10月8日(金)~平成22年12月12日(日)(59日間) 回答者数:12,161人(総入館者数:232,791人 アンケート回収率:5.22%)



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



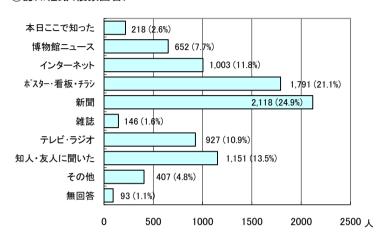
- ・良かった。素晴らしかった。感動した。楽しかった。見応えがあった。
- ・バーチャル映像が分かりやすくとても良かった。映像が美しかった。
- ・展示方法が良かったので見やすかった。
- ・東大寺の歴史や天平時代についてとても勉強になった。
- ・説明文をもっと詳しくしてほしい。
- ・作品を見た後に解説モニターがあるため、人が溜まり鑑賞しづらかった。配置場所を考えてほしい。
- ・専門用語が多く難しかった。もっと分かりやすい説明にしてほしい。

特別展「 平山郁夫展 」 アンケート集計結果

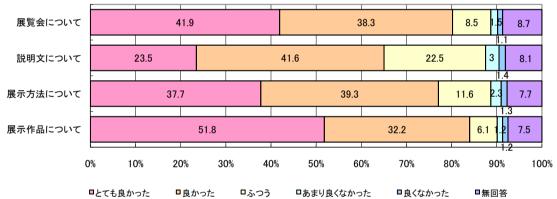
開催期間:平成23年1月18日(火)~平成23年3月7日(日)(42日間) 回答者数:71,00人(総入館者数:188,402人 アンケート回収率:3.77%)

①年齢層 0-9歳 以上 0.8% 1.8% 4.1%20代 70代 30代 11.7% 無回答 12.3% 5.1% 60代 40代 23.3% 15.6% 50代 19.2%

②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



- ・良かった。素晴らしかった。感動した。
- ・平山先生の文化財保護の活動がよく分かった。
- 文字が大きく見やすかった。
- ・大唐西域壁画が薬師寺で見るのと違った雰囲気で見ることができて良かった。
- ・平山先生の絵がもう少し多いと良かった。
- もっと詳しい説明がほしかった。

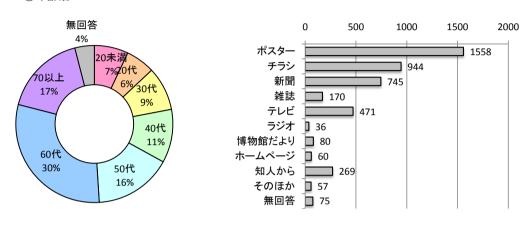
京都国立博物館

特別展覧会「長谷川等伯」アンケート集計結果

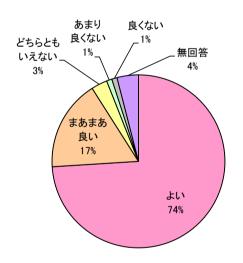
開催期間:4月10日(土)~5月9日(日)(27日間) 回答者数:2,435人(総入館者数 244,347人 アンケート回収率1.0%)

①年齢層

②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



- ・とてもよかった、すばらしかった。(同様242件)
- ・人が多すぎる。(同様111件)
- ・作品が多くて見ごたえがあった。(同様78件)
- ・待ち時間が長くて大変だった。(同様42件)
- ・次回以降も期待している。(同様33件)
- ・展覧会期間が短い。(同様31件)
- ・照明が暗い(同様31件)

京都国立博物館

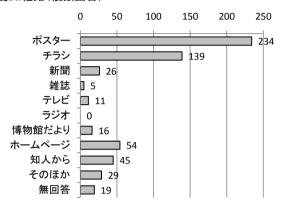
特別展観「上田秋成」アンケート集計結果

開催期間:7月17日(火)~8月29日(日) (39日間) 回答者数:365人(総入館者数 21,705人 アンケート回収率 1.7%)

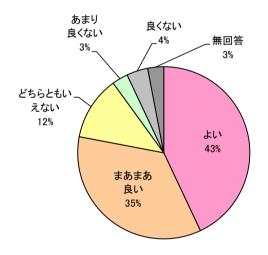
①年齢層

無回答 3% 70以上 9% 19% 60代 13% 20代 19% 40代 13% 40代 13%

②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



- ・秋成のことがよく分かった。(同様27件)
- ・色々な作品が見られてよかった。(同様13件)
- ・作品数や内容などに満足した。(同様12件)
- ・作品数が少ない。(同様11件)

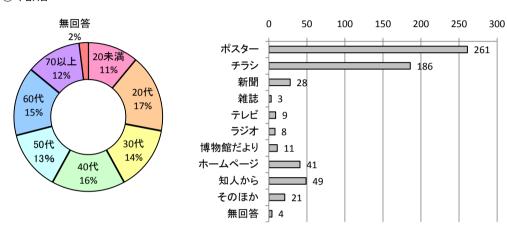
京都国立博物館

特別展覧会「高僧と袈裟」アンケート集計結果

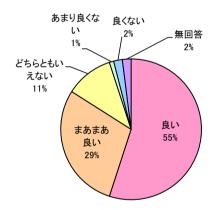
開催期間:10月9日(土)~11月23日(火・祝)(40日間) 回答者数:371人(総入館者数 19,297人 アンケート回収率 1.9%)

①年齢層

②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



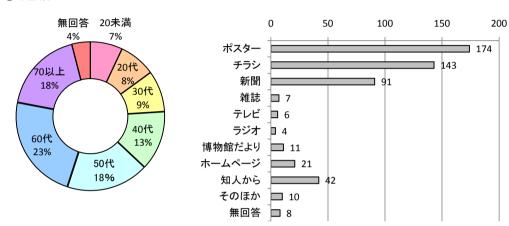
- ・とてもよかった、すばらしかった。(同様53件)
- ・企画がすばらしかった。(同様19件)
- ・貴重な作品を見ることができた。(同様15件)
- ・とても勉強になった。(同様12件)
- ・解説がよかった、理解の助けになった。(同様12件)
- 解説が専門的過ぎる、難しい。(同様10件)

特別展覧会「筆墨精神」アンケート集計結果

開催期間:1月8日(土)~2月20日(日)(39日間) 回答者数:297人(総入館者数 37,535人 アンケート回収率 0.8%)

①年齢層

②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



- ・感動した、すばらしかった。(同様32件)
- ・貴重な作品を見ることができた。(同様10件)
- ・平常展を早く見たい。(同様8件)
- ・地味だった。(同様8件)
- ・漢文、漢詩の内容をもっと解説してほしい。(同様5件)
- ・用語が難解だった。(同様5件)

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

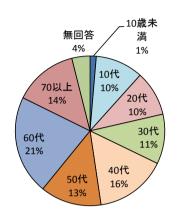
奈良国立博物館

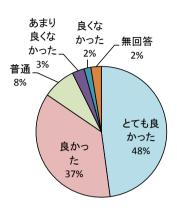
特別展「大遣唐使展」

開催期間:4月3日~6月20日(69日間) 回答者数:892人 入場者数202,166人 回収率 0.44%

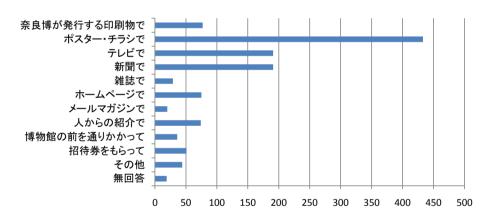
①年齢層

②展示に関する満足度





③認知経路(複数回答)



- 非常に丁寧で行き届いた解説があり、素晴らしかった。
- ・質、量ともすばらしい。仏像の種類も多く、とても楽しめた。
- ・海外のものと比較展示されている点がおもしろかった。
- ・四方から見られる品が多く、多方面から楽しめたのがうれしかった。
- ・吉備大臣入唐絵巻のデジタル映像でストーリーを説明してくれて、より理解が深まった。
- ・もっと難しいかと思ったが、音声ガイドのおかげでわかりやすく、楽しめた。
- ・1300年の記念にふさわしい催事で、例年以上に関心が高く持てた。

奈良国立博物館

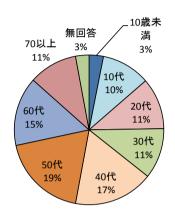
特別展「仏像修理100年/至宝の仏像」

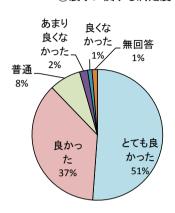
アンケート集計結果

開催期間:7月21日~9月26日(60日間) 回答者数:551人 入場者数81,342人 回収率 0.68%

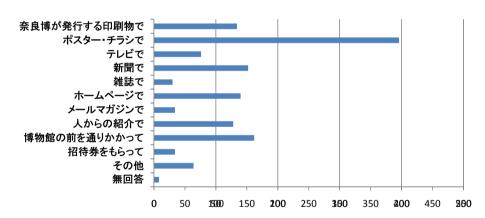
①年齢層

②展示に関する満足度





③認知経路(複数回答)



④主な意見・感想

【仏像修理100年】

- ・仏像をこういう切り口で展示するというテーマが新鮮で珍しく、とても良かった。
- ・仏像の元の彩色などが見られるのが良く、美しい。
- ・触れて匂いも嗅げる触感の展示が斬新。木片を持ち帰れるのもうれしい。

【至宝の仏像】

- ・照明が良く、仏像が美しく見える。
- ・展示数が多く、一堂に会したさまざまな仏像を心ゆくまで楽しめた。
- ・配置方法が見やすく、至近距離でオープンで四方から見られる展示方法もありがたい。

附属資料 : 22年度自己点検評価報告書 統計表

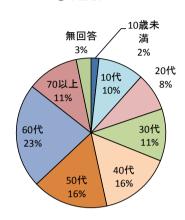
奈良国立博物館

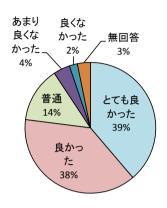
特別展「第62回正倉院展」 アンケート集計結果

開催期間:10月23日~11月11日(20日間) 回答者数:1,008人 入場者数294,804人 回収率 0,34%

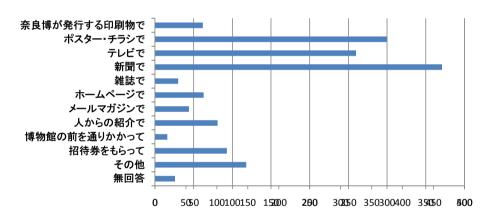
①年齢層

②展示に関する満足度





③認知経路(複数回答)



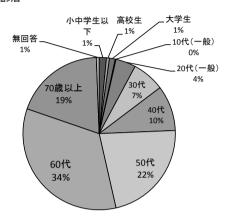
- ・入館までの待ち時間の途中、ビデオや案内の新聞があり退屈しなかった。期待が盛り上がった。
- ・人気展示物について、今回のように二通りの鑑賞方法を作り、人が流れるようにしたのが良い。
- ・最初にボランティアによる解説会を聞いてから観覧したので、ポイントをつかみながら観覧することができた。
- ・音声ガイドの説明が分かりやすく丁寧で、子ども用があるのもありがたい。
- 託児サービスがありがたかった。
- ・開館時間延長が助かる。入館者が多い割に、流れはスムーズだった。
- ・展示物の量の多さ、質の高さは感動もの。

特別展「パリに咲いた古伊万里の華」アンケート集計結果

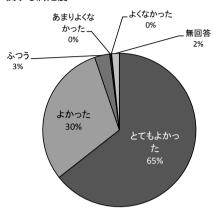
開催期間:22年4月6日~6月13日 (61日間)

総回答者数: 6,815人(総入館者数:84,738人 アンケート回収率:8.0%)

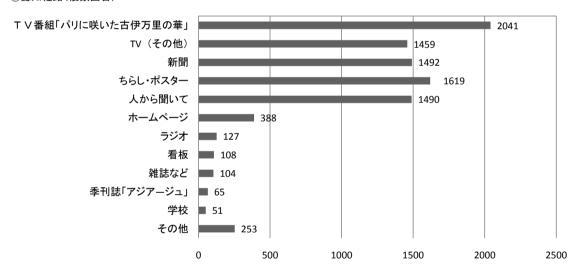
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



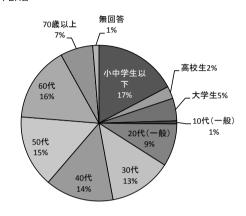
- ・素晴らしい作品を見せていただきありがとうございます。
- ・皿等の中や裏面も見れると良い。鏡を利用して裏面等も見えると良い。順路がいまひとつ解からなかった。
- ・ピンクの説明文は読み難かった。作品の解説を上方に付けてもらえばもっとよかった。
- ・古伊万里の魅力を再認識できました。 ポスターが良かった。
- ・休むための椅子を何箇所も増やして欲しい。床は、足に負担が無いようにして欲しい。

特別展「馬 アジアを駆けた二千年」 アンケート集計結果

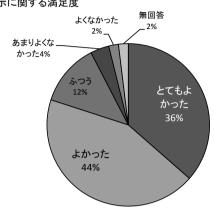
開催期間:22年7月13日~9月5日 (48日間)

総回答者数:620人(総入館者数:42,022人 アンケート回収率:1.5%)

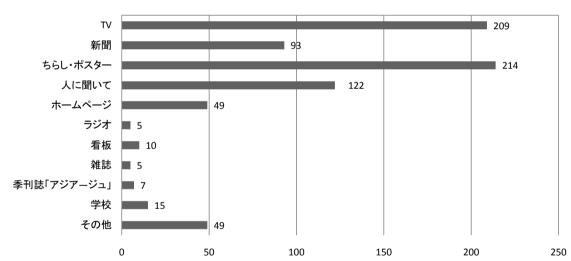
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



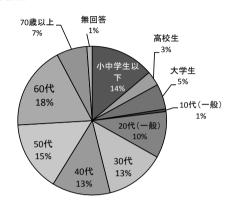
- ・馬のことがとても解ってもっと好きになりました。馬の歴史が解ってよかったです。
- ・展示内容が考古資料が多すぎてあきてしまった。鎌倉時代とかの武将の馬具がみたかった。
- ・もっと解かり易く。全体として良かったが、もっと詳しい説明が欲しいと思った。
- ・国宝や重要文化財が数多くあり、すごかったです。
- ・ウェブ上にのってる出陳一覧、陳列替がわかりにくい。子供のために、フリガナがあったほうが良かった。

特別展「誕生!中国文明」 アンケート集計結果

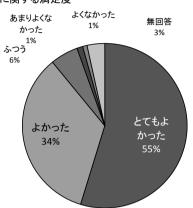
開催期間:22年10月5日~11月28日 (48日間)

総回答者数:347人(総入館者数:53,409人 アンケート回収率:0.6%)

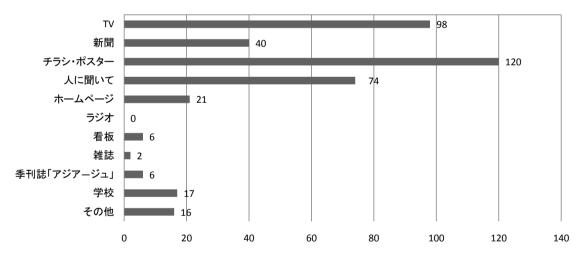
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



- ・中国の文化をさらに知ることができて良かった。いろんな展示物があり、体験コーナー(玉の硬さの体験)もあったので楽しめた。
- ・前面しか見えない物があり、鏡等で裏や中が見えるようにして欲しかった。テレビ映像や音楽が無いのがさみしかった。
- ・もっと詳しい解説が欲しい。日本語以外(英語等)の説明がない。説明文の位置が悪く、人の流れが良くなかった。
- ・休む椅子をもっと増やして欲しい。座り心地の良い椅子があると良い。
- ・会場内の照明が暗く順路が分りにくかった。照明の当て方を工夫して欲しい、馬車の傘の金・金銅の管は文様が見えなかった。

特別展「没後120年 ゴッホ展」 アンケート集計結果

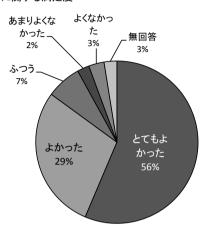
開催期間:23年1月1日~2月13日 (42日間)

総回答者数:3,387人(総入館者数:354,311人 アンケート回収率:1%)

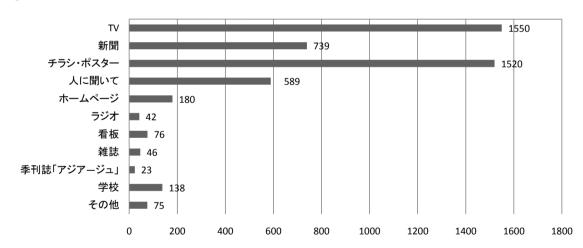
①年齢層

無回答 70歳以上 2% 8% 高校生 2% 小中学生以 大学生 60代 17% 3% 16% 10代(一般) 1% 50代 20代(一 30代 17% 般) 13% 8% 40代 13%

②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答)



- ・ゴッホの生涯が分ってよかった。ゴッホだけでなく、他の作家の作品も観れて楽しめた。雰囲気等も含めて素敵でした。
- ・音声ガイドが良かった。待ち時間のお知らせは、とても役にたちました。説明が多くあり、特にゴッホと他の人物年表との比較がよ
- ・人が多すぎてゆっくり見れなかった。もっと入場制限をしてほしい。
- ・展示室内がせまく、順路が悪い。他の画家の作品とゴッホの作品が解かり難い。
- ・ゴッホの他の作品も見たかった。照明がよくなかった。